TOSHIBA

32 ビット RISC マイクロコントローラ
TX03 シリーズ

TMPM37AFSQG

株式会社 東芝
ストレージ&デバイスソリューション社

©TOSHIBA CORPORATION 2016-2023

****
ARM, ARM Powered, AMBA, ADK, ARM9TDMI, TDMI, PrimeCell, RealView, Thumb, Cortex, Coresight, ARM9, ARM926EJ-S, Embedded Trace Macrocell, ETM, AHB, APB, and KEIL はARM LimitedのEUおよびその他の国における登録商標または商標です。
****

はじめに(本仕様書での SFR 表記に関する注意点)

各周辺機能回路(IP)には、SFR(Special Function Register)と呼ばれる制御レジスタが準備されています。

メモリマップの章に各 IP の SFR アドレス一覧を記載しており、各 IP の章では SFR の詳細を説明しています。

本仕様書では、SFR に関して以下のルールに従って表現しています。

a. IP 別 SFR の一覧表(一例)

- 各 IP の章における SFR の一覧表では、レジスタ名称、アドレス、簡単な説明が表現されています。
- すべてのレジスタには、32bit で表現されるユニークなアドレスが割り振られており、各レジスタのアドレスは「Base Address + (固有)アドレス」で表現されています。(一部例外有)

Base Address = 0x0000_0000

レジスタ名		Address(Base+)
コントロールレジスタ	SAMCR	0x0004
		0x000C

注) SAMCR レジスタのアドレスは 0x0000_0004 番地「Base Address(0x00000000 番地)+固有アドレス(0x0004 番地)」から 32 ビット分となります。

注) 本レジスタは記述説明用のサンプルです。本マイコンには存在しません。

b. 各 SFR(レジスタ)の説明

- 各レジスタは、基本的にすべて 32bit のレジスタで構成されています(一部例外有)。
- 各レジスタの説明では、対象ビット、ビットシンボル、タイプ、リセット後の初期値、機能説明が表現されています。

1.2.2 SAMCR(コントロールレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	MODE	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	MODE	TDATA						
リセット後	0	0	0	1	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-10	−	R	リードすると"0"が読めます。
9-7	MODE[2:0]	R/W	動作モード設定 000 : サンプルモード 0 に設定 001 : サンプルモード 1 に設定 010 :サンプルモード 2 に設定 011 :サンプルモード 3 に設定 上記以外 : Reserved
6-0	TDATA[6:0]	W	送信データ

注) **Type は基本的に下記 3 種類となります。**

R / W :	READ WRITE	読み出し/書き込み可能
R :	READ	読み出しのみ可能
W :	WRITE	書き込みのみ可能

c. データ表記について

SFR の説明において使用しているシンボルには以下のようなものがあります。

- x:チャネル番号/ポート
- n,m:ビット番号

d. レジスタの表現

説明文においてレジスタを以下のように表現しています。

- レジスタ名<Bit Symbol>

  例: SAMCR<MODE>="000"または SAMCR<MODE[2:0]>="000"

  <MODE[2:0]>はビットシンボル MODE(3 ビット幅)の 2～0 ビット目を意味します。
- レジスタ名[Bit]

  例: SAMCR[9:7]="000"

  レジスタ SAMCR(32 ビット幅)の 9～7 ビット目を意味します。

改訂履歴

日付	版	改訂理由
2016/05/27	Tentative 1	First Release
2016/05/27	Tentative 2	First Release
2016/05/31	1	First Release
2021/10/15	2	Contents Revised
2022/03/31	3	Contents Revised
2022/06/01	4	Contents Revised
2023/07/21	5	Contents Revised
2023/07/31	6	Contents Revised

目　次

はじめに(本仕様書での SFR 表記に関する注意点)

TMPM37AFSQG

1.1 機能概要....1
1.1.1 MCU 部....1
1.1.2 MCD 部....3
1.1.3 共通....3
1.2 ブロック図....4
1.3 ピン配置図(Top view)....5
1.4 ピン名称と機能....6
1.4.1 機能端子名称と機能....6
1.4.1.1 周辺機能端子名称
1.4.1.2 モータ制御端子名称
1.4.1.3 デバッグ端子名称
1.4.1.4 制御端子名称
1.4.1.5 クロック端子名称
1.4.1.6 電源端子名称
1.4.2 ピン名称と機能....9
1.4.2.1 表の見方
1.4.2.2 PORT / デバッグ端子
1.4.3 制御端子....11
1.4.4 モータ制御端子....11
1.5 電源の種類と供給端子....12

第 2 章　製品情報

2.1 各周辺機能の情報....14
2.1.1 16 ビットタイマ/イベントカウンタ(TMRB)....14
2.1.2 シリアルチャネル(SIO/UART)....14
2.1.3 シリアルバスインタフェース(I2C/SIO)....15
2.1.4 ベクトルエンジン (VE+)....15
2.1.5 モータ制御回路 (PMD)....15
2.1.6 アナログ/デジタルコンバータ(ADC)....16
2.1.7 ウォッチドッグタイマ(WDT)....16
2.1.8 デバッグインタフェース....16

第 3 章　プロセッサコア

3.1 コアに関する情報....17
3.2 構成可能なオプション....17
3.3 例外/割り込み....18
3.3.1 割り込み本数....18
3.3.2 割り込み優先度ビット数....18
3.3.3 SysTick....18
3.3.4 SYSRESETREQ....18
3.3.5 LOCKUP....18
3.3.6 補助フォールトステータスレジスタ....18

3.4 イベント.....19
3.5 電力管理.....19
3.6 排他アクセス.....19

第 4 章 メモリマップ

4.1 メモリマップ.....21
4.1.1 TMPM37AFSQG メモリマップ.....21
4.2 SFR 領域詳細.....22

第 5 章 リセット動作

5.1 コールドリセット時.....26
5.1.1 パワーオンリセット回路によるリセット(RESET 端子を使用しない場合).....26
5.1.2 RESET 端子によるリセット.....27
5.2 ウォームリセット時.....28
5.2.1 リセット期間.....28
5.3 リセット解除後.....28

第 6 章 クロック/モード制御

6.1 特長.....29
6.2 レジスタ説明.....30
6.2.1 レジスタ一覧.....30
6.2.2 CGSYSCR(システムコントロールレジスタ).....31
6.2.3 CGOSCCR(発振コントロールレジスタ).....32
6.2.4 CGSTBYCR(スタンバイコントロールレジスタ).....34
6.2.5 CGPLLSEL(PLL セレクトレジスタ).....35
6.3 クロック制御.....36
6.3.1 クロックの種類.....36
6.3.2 リセット動作による初期値.....36
6.3.3 クロック系統図.....37
6.3.4 クロック逓倍回路(PLL).....38
6.3.4.1 安定時間
6.3.4.2 PLL 設定シーケンス
6.3.5 ウォーミングアップ機能.....40
6.3.6 システムクロック.....42
6.3.7 プリスケーラクロック.....43
6.4 モードとモード遷移.....44
6.4.1 モード状態遷移.....44
6.5 動作モード.....44
6.5.1 NORMAL モード.....44
6.6 低消費電力モード.....45
6.6.1 IDLE モード.....45
6.6.2 STOP モード.....46
6.6.3 低消費電力モードの選択.....47
6.6.4 各モードにおける動作状態.....47
6.6.5 低消費電力モードの解除.....48
6.6.6 ウォーミングアップ.....50
6.6.7 モード遷移によるクロック動作.....51
6.6.7.1 NORMAL → STOP → NORMAL 動作モード遷移

第 7 章　内蔵高速発振調整機能

7.1　構成.....53
7.2　レジスタ説明.....54
7.2.1　レジスタ一覧.....54
7.2.2　TRMOSCPRO (プロテクトレジスタ).....54
7.2.3　TRMOSCEN (イネーブルレジスタ).....55
7.2.4　TRMOSCINIT (初期トリミング値モニタレジスタ).....56
7.2.5　TRMOSCSET (トリミング値設定レジスタ).....57
7.3　動作説明.....58
7.3.1　概要.....58
7.3.2　調整範囲.....58
7.3.3　TMRB を使用した内蔵発振周波数測定.....58

第 8 章　例外

8.1　概要.....59
8.1.1　種類.....59
8.1.2　処理の流れ.....60
8.1.2.1　例外要求と検出
8.1.2.2　例外の処理と割り込み処理ルーチンへの分岐(横取り)
8.1.2.3　割り込み処理ルーチンの発行
8.1.2.4　例外からの復帰
8.2　リセット例外.....66
8.3　マスク不能割り込み(NMI).....66
8.4　SysTick.....66
8.5　割り込み.....67
8.5.1　割り込み要求.....67
8.5.1.1　経路
8.5.1.2　割り込み要求の発生
8.5.1.3　低消費電力モード解除の設定
8.5.2　要因一覧.....69
8.5.3　処理詳細.....70
8.5.3.1　処理の流れ
8.5.3.2　準備
8.5.3.3　検出(クロックジェネレータ)
8.5.3.4　検出(CPU)
8.5.3.5　CPU の処理
8.5.3.6　割り込み処理ルーチンでの処理(要因の取り下げ)
8.6　例外/割り込み関連レジスタ.....76
8.6.1　レジスタ一覧.....76
8.6.2　NVIC レジスタ.....77
8.6.2.1　SysTick 制御およびステータスレジスタ
8.6.2.2　SysTick リロード値レジスタ
8.6.2.3　SysTick 現在値レジスタ
8.6.2.4　SysTick 較正値レジスタ
8.6.2.5　割り込み制御用レジスタ
8.6.2.6　割り込み優先度レジスタ
8.6.2.7　ベクタテーブルオフセットレジスタ
8.6.2.8　アプリケーション割り込みおよびリセット制御レジスタ
8.6.2.9　システムハンドラ優先度レジスタ
8.6.2.10　システムハンドラ制御および状態レジスタ
8.6.3　クロックジェネレータレジスタ.....91
8.6.3.1　CG 割り込みモードコントロールレジスタ
8.6.3.2　CGICRCG(CG 割り込み要求クリアレジスタ)
8.6.3.3　CGNMIFLG(NMI フラグレジスタ)
8.6.3.4　CGRSTFLG(リセットフラグレジスタ)

第 9 章　デジタルノイズフィルタ回路(DNF)

9.1　構成.....97
9.2　レジスタ説明.....98
9.2.1　レジスター一覧.....98
9.2.1.1　NFCKCR(ノイズフィルタ制御レジスタ)
9.2.1.2　NFENCR(ノイズフィルタ許可レジスタ)
9.3　動作説明.....101
9.3.1　構成.....101
9.3.2　動作.....101
9.3.3　使用可能な動作モード.....101
9.3.4　STOP モードを使用する場合の注意点.....101
9.3.5　最小ノイズ除去時間.....101

第 10 章　入出力ポート

10.1　レジスタ説明.....103
10.1.1　レジスター一覧.....104
10.1.2　ポート機能と設定一覧.....105
10.1.2.1　PORT B
10.1.2.2　PORT E
10.1.2.3　PORT F
10.1.2.4　PORT J
10.1.2.5　PORT K
10.1.2.6　PORT M
10.2　ポート回路図.....110
10.2.1　タイプ FT1.....110
10.2.2　タイプ FT2.....111
10.2.3　タイプ FT3.....112
10.2.4　タイプ FT4.....113
10.2.5　タイプ FT5.....114
10.2.6　タイプ FT6.....115
10.2.7　タイプ FT7.....116
10.2.8　タイプ FT8.....117

第 11 章　16 ビットタイマ/イベントカウンタ(TMRB)

11.1　概要.....119
11.2　構成.....120
11.3　レジスタ説明.....121
11.3.1　レジスター一覧.....121
11.3.2　TBxEN(イネーブルレジスタ).....122
11.3.3　TBxRUN(RUN レジスタ).....123
11.3.4　TBxCR(コントロールレジスタ).....124
11.3.5　TBxMOD(モードレジスタ).....125
11.3.6　TBxFFCR(フリップフロップコントロールレジスタ).....126
11.3.7　TBxST(ステータスレジスタ).....127
11.3.8　TBxIM(割り込みマスクレジスタ).....128
11.3.9　TBxUC(アップカウンタキャプチャレジスタ).....129
11.3.10　TBxRG0(タイマレジスタ 0).....130
11.3.11　TBxRG1(タイマレジスタ 1).....130
11.3.12　TBxCP0(キャプチャレジスタ 0).....131
11.3.13　TBxCP1(キャプチャレジスタ 1).....131
11.4　回路別の動作説明.....132
11.4.1　プリスケーラ.....132
11.4.2　アップカウンタ(UC).....132
11.4.2.1　ソースクロック

11.4.2.2 動作の開始と停止
11.4.2.3 カウンタクリアのタイミング
11.4.2.4 カウンタのオーバフロー
11.4.3 タイマレジスタ(TBxRG0, TBxRG1)....133
11.4.4 キャプチャ制御....133
11.4.5 キャプチャレジスタ(TBxCP0, TBxCP1)....134
11.4.6 アップカウンタキャプチャレジスタ(TBxUC)....134
11.4.7 コンパレータ(CP0, CP1)....134
11.4.8 タイマフリップフロップ(TBxFF0)....134
11.4.9 キャプチャ割り込み(INTCAPx0, INTCAPx1)....134
11.5 モード別動作説明....135
11.5.1 16 ビットインタバルタイマモード....135
11.5.2 16 ビットイベントカウンタモード....135
11.5.3 16 ビット PPG (プログラマブル矩形波)出力モード....136
11.5.4 外部トリガ PPG(プログラマブル矩形波)出力モード....138
11.6 キャプチャ機能を利用した応用例....139
11.6.1 外部トリガパルスからのワンショットパルス出力....139
11.6.2 パルス幅測定....141

第 12 章 4 バイト FIFO 付きシリアルチャネル(SIO/UART)

12.1 概要....143
12.2 構成....144
12.3 レジスタ説明....145
12.3.1 レジスター覧....145
12.3.2 SCxEN (イネーブルレジスタ)....146
12.3.3 SCxBUF (バッファレジスタ)....147
12.3.4 SCxCR (コントロールレジスタ)....148
12.3.5 SCxMOD0 (モードコントロールレジスタ 0)....150
12.3.6 SCxMOD1 (モードコントロールレジスタ 1)....151
12.3.7 SCxMOD2 (モードコントロールレジスタ 2)....152
12.3.8 SCxBRCR (ボーレートジェネレータコントロールレジスタ)....154
12.3.9 SCxBRADD (ボーレートジェネレータコントロールレジスタ 2)....155
12.3.10 SCxFCNF (FIFO コンフィグレジスタ)....156
12.3.11 SCxRFC (受信 FIFO コンフィグレジスタ)....158
12.3.12 SCxTFC (送信 FIFO コンフィグレジスタ)....159
12.3.13 SCxRST (受信 FIFO ステータスレジスタ)....160
12.3.14 SCxTST (送信 FIFO ステータスレジスタ)....161
12.4 動作モード....162
12.5 データフォーマット....163
12.5.1 データフォーマット一覧....163
12.5.2 パリティ制御....164
12.5.2.1 送信
12.5.2.2 受信
12.5.3 STOP ビット長....164
12.6 クロック制御....165
12.6.1 プリスケーラ....165
12.6.2 シリアルクロック生成回路....165
12.6.2.1 ボーレートジェネレータ
12.6.2.2 クロック選択回路
12.7 送信/受信バッファと FIFO....169
12.7.1 構成....169
12.7.2 送信/受信バッファ....169
12.7.3 送信バッファの初期化....170
12.7.4 FIFO....170
12.8 ステータスフラグ....171
12.9 エラーフラグ....171
12.9.1 OERR フラグ....171
12.9.2 PERR フラグ....172
12.9.3 FERR フラグ....172

12.10 受信.....173
12.10.1 受信カウンタ.....173
12.10.2 受信制御部.....173
12.10.2.1 I/O インタフェースモードの場合
12.10.2.2 UART モードの場合
12.10.3 受信動作.....173
12.10.3.1 受信バッファの動作
12.10.3.2 受信 FIFO の動作
12.10.3.3 I/O インタフェースモード、クロック出力モードでの受信
12.10.3.4 受信データの読み出し
12.10.3.5 ウエイクアップ機能
12.10.3.6 オーバランエラー
12.11 送信.....177
12.11.1 送信カウンタ.....177
12.11.2 送信制御部.....177
12.11.2.1 I/O インタフェースモードの場合
12.11.2.2 UART モードの場合
12.11.3 送信動作.....178
12.11.3.1 送信バッファの動作
12.11.3.2 送信 FIFO の動作
12.11.3.3 I/O インタフェースモード、クロック出力モードでの送信
12.11.3.4 I/O インタフェースモード時の最終ビット出力後の SCxTXD 端子の状態
12.11.3.5 アンダーランエラー
12.11.3.6 I/O インタフェースモード、クロック入力モードでのデータのホールド時間
12.12 ハンドシェイク機能.....182
12.13 割り込み/エラー発生タイミング.....183
12.13.1 受信割り込み.....183
12.13.1.1 シングルバッファ/ダブルバッファ構成の場合
12.13.1.2 FIFO 使用の場合
12.13.2 送信割り込み.....184
12.13.2.1 シングルバッファ/ダブルバッファ構成の場合
12.13.2.2 FIFO 使用の場合
12.13.3 エラー発生.....185
12.13.3.1 UART モード
12.13.3.2 I/O インタフェースモード
12.15 ソフトウエアリセット.....187
12.16 モード別動作説明.....188
12.16.1 モード 0 (I/O インタフェースモード).....188
12.16.1.1 送信
12.16.1.2 受信
12.16.1.3 送受信(全二重)
12.16.2 モード 1 (7 ビット UART モード).....199
12.16.3 モード 2 (8 ビット UART モード).....199
12.16.4 モード 3 (9 ビット UART モード).....200
12.16.4.1 ウェイクアップ機能
12.16.4.2 プロトコル

第 13 章 シリアルバスインタフェース(I2C/SIO)

13.1 構成.....203
13.2 レジスタ説明.....204
13.2.1 レジスター一覧.....204
13.3 I2C バスモード.....205
13.3.1 I2C バスモード時のコントロールレジスタ.....205
13.3.1.1 SBIxCR0(コントロールレジスタ 0)
13.3.1.2 SBIxCR1(コントロールレジスタ 1)
13.3.1.3 SBIxCR2(コントロールレジスタ 2)
13.3.1.4 SBIxSR(ステータスレジスタ)
13.3.1.5 SBIxBR0(ボーレートレジスタ 0)
13.3.1.6 SBIxDBR(データバッファレジスタ)
13.3.1.7 SBIxI2CAR(I2C バスアドレスレジスタ)
13.3.2 制御.....213
13.3.2.1 動作モードの設定
13.3.2.2 シリアルクロック
13.3.2.3 アクノリッジメントモードの指定

13.3.2.4 転送ビット数の選択
13.3.2.5 スレーブアドレスとアドレス認識モードの設定
13.3.2.6 マスタ/スレーブの選択
13.3.2.7 トランスミッタ/レシーバの選択
13.3.2.8 バスビジーモニタ
13.3.2.9 割り込みサービス要求と解除
13.3.2.10 アービトレーションロスト検出モニタ
13.3.2.11 スレーブアドレス一致検出モニタ
13.3.2.12 ゼネラルコール検出モニタ
13.3.2.13 最終受信ビットモニタ
13.3.2.14 データバッファレジスタ(SBIxDBR)
13.3.2.15 ボーレートレジスタ(SBIxBR0)
13.3.2.16 ソフトウエアリセット
13.3.3 データ転送手順....219
13.3.3.1 デバイスの初期化
13.3.3.2 スタートコンディション, スレーブアドレスの発生
13.3.3.3 1 ワードのデータ転送
13.3.3.4 ストップコンディションの発生
13.3.3.5 再スタートの手順
13.3.4 データフォーマット....227
13.3.5 マルチマスタで使用する際の注意点....227
13.4 SIO モード....228
13.4.1 SIO モード時のコントロールレジスタ....228
13.4.1.1 SBIxCR0(コントロールレジスタ 0)
13.4.1.2 SBIxCR1(コントロールレジスタ 1)
13.4.1.3 SBIxDBR(データバッファレジスタ)
13.4.1.4 SBIxCR2(コントロールレジスタ 2)
13.4.1.5 SBIxSR(ステータスレジスタ)
13.4.1.6 SBIxBR0(ボーレートレジスタ 0)
13.4.2 制御....234
13.4.2.1 シリアルクロック
13.4.2.2 転送モード

第 14 章 12 ビットアナログ/デジタルコンバータ

14.1 機能と特徴....243
14.2 ブロック図....243
14.3 レジスター覧....244
14.4 レジスタ詳細....246
14.4.1 ADBCLK (変換クロック設定レジスタ)....246
14.4.2 ADBMOD0 (モード設定レジスタ 0) 247
14.4.3 ADBMOD1 (モード設定レジスタ 1) 248
14.4.4 ADBMOD2 (モード設定レジスタ 2) 249
14.4.5 ADBMOD3 (モード設定レジスタ 3) 250
14.4.6 ADBCMPCR0(監視割り込み設定レジスタ 0)....251
14.4.7 ADBCMPCR1(監視割り込み設定レジスタ 1)....252
14.4.8 ADBCMP0(変換結果比較レジスタ 0)....253
14.4.9 ADBCMP1(変換結果比較レジスタ 1)....253
14.4.10 ADBREG0(変換結果格納レジスタ 0)....254
14.4.11 ADBREG1(変換結果格納レジスタ 1)....255
14.4.12 ADBREG2(変換結果格納レジスタ 2)....256
14.4.13 ADBREG3(変換結果格納レジスタ 3)....257
14.4.14 ADBREG4(変換結果格納レジスタ 4)....258
14.4.15 ADBREG5(変換結果格納レジスタ 5)....259
14.4.16 ADBREG6(変換結果格納レジスタ 6)....260
14.4.17 ADBREG7(変換結果格納レジスタ 7)....261
14.4.18 ADBREG8(変換結果格納レジスタ 8)....262
14.4.19 ADBREG9(変換結果格納レジスタ 9)....263
14.4.20 ADBREG10(変換結果格納レジスタ 10)....264
14.4.21 ADBREG11(変換結果格納レジスタ 11)....265
14.4.22 PMD トリガ用プログラムレジスタ....266
14.4.22.1 ADBPSEL6 ~ ADBPSEL11(PMD トリガ用プログラム番号選択レジスタ 6 ~ 11)
14.4.22.2 ADBPINTS0 ~ 5(PMD トリガ用割り込み選択レジスタ 0 ~ 5)
14.4.22.3 ADBPSET0 ~ 5(PMD トリガ用プログラム選択レジスタ 0 ~ 5)
14.4.23 ADBTSET03 / ADBTSET47 / ADBTSET811(タイマトリガ用プログラムレジスタ) 282
14.4.24 ADBSSET03 / ADBSSET47 / ADBSSET811(ソフトウエアトリガ用プログラムレジスタ)....286

14.4.25 ADBASET03 / ADBASET47 / ADBASET811(常時変換用プログラムレジスタ)....290
14.5 動作説明....294
14.5.1 アナログ基準電圧....294
14.5.2 AD 変換開始....294
14.5.3 AD 監視機能....295
14.6 AD 変換タイミングチャート....296
14.6.1 ソフトウエア AD 変換....296
14.6.2 常時 AD 変換....297
14.6.3 トリガによる AD 変換開始....298
14.7 AD コンバータ使用時の注意....299

第 15 章 モータ制御回路(PMD : Programmable Motor Driver)

15.1 PMD 回路構成....303
15.2 PMD レジスター一覧....304
15.2.1 PMDxMDEN(PMD イネーブルレジスタ)....305
15.2.2 PMDxPORTMD(ポート出力モードレジスタ)....306
15.2.3 PMDxMODESEL (モード選択レジスタ)....307
15.2.4 パルス幅変調回路....308
15.2.4.1 PMDxMDCR (PMD コントロールレジスタ)
15.2.4.2 PMDxCNTSTA (PWM カウンタステータスレジスタ)
15.2.4.3 PMDxMDCNT(PWM カウンタレジスタ)
15.2.4.4 PMDxMDPRD(PWM 周期レジスタ)
15.2.4.5 PMDxCMPU (U 相用 PWM コンペアレジスタ)
15.2.4.6 PMDxCMPV (V 相用 PWM コンペアレジスタ)
15.2.4.7 PMDxCMPW (W 相用 PWM コンペアレジスタ)
15.2.5 通電制御回路....320
15.2.5.1 PMDxMDPOT (PMD 出力設定レジスタ)
15.2.5.2 PMDxMDOUT(PMD 通電制御レジスタ)
15.2.6 保護制御回路....325
15.2.6.1 保護制御回路(EMG 入力部)
15.2.6.2 PMDxEMGREL (EMG 解除レジスタ)
15.2.6.3 PMDxEMGCR (EMG コントロールレジスタ)
15.2.6.4 PMDxEMGSTA (EMG ステータスレジスタ)
15.2.6.5 保護制御回路(OVV 入力部)
15.2.6.6 PMDxOVVCR (OVV コントロールレジスタ)
15.2.6.7 PMDxOVVSTA (OVV ステータスレジスタ)
15.2.7 デッドタイム制御回路....334
15.2.7.1 PMDxDTR (デッドタイムレジスタ)
15.2.8 同期トリガ生成回路....337
15.2.8.1 PMDxTRGCMP0 (トリガコンペアレジスタ 0)
15.2.8.2 PMDxTRGCMP1 (トリガコンペアレジスタ 1)
15.2.8.3 PMDxTRGCMP2 (トリガコンペアレジスタ 2)
15.2.8.4 PMDxTRGCMP3 (トリガコンペアレジスタ 3)
15.2.8.5 PMDxTRGCR (トリガコントロールレジスタ)
15.2.8.6 PMDxTRGSYNCR (トリガ更新タイミング設定レジスタ)
15.2.8.7 PMDxTRGMD (トリガ出力モード設定レジスタ)
15.2.8.8 PMDxTRGSEL (トリガ出力選択レジスタ)

第 16 章 ベクトルエンジン(VE+)

16.1 概要....349
16.1.1 特徴....349
16.1.2 主な機能....350
16.2 構成....350
16.2.1 ベクトルエンジンとモータ制御回路および AD 変換器の関連....351
16.3 レジスタ説明....352
16.3.1 レジスター一覧....352
16.3.2 VE 制御レジスタ....354
16.3.2.1 VEEN(ベクトルエンジン動作許可／禁止レジスタ)
16.3.2.2 VECPURUNTRG(CPU 起動トリガ選択レジスタ)
16.3.2.3 VETASKAPP(タスク指定レジスタ)
16.3.2.4 VEACTSCH(動作スケジュール選択レジスタ)

16.3.2.5 VEREPTIME(動作スケジュール繰り返し回数指定レジスタ)
16.3.2.6 VETRGMODE(起動トリガモード設定レジスタ)
16.3.2.7 VEERRINTEN(エラー割り込み許可／禁止設定レジスタ)
16.3.2.8 VECOMPEND(VE 強制終了レジスタ)
16.3.2.9 VEERRDET(エラー検出レジスタ)
16.3.2.10 VESCHTASKRUN(スケジュール動作状態／実行中タスク番号レジスタ)
16.3.2.11 VETMPREG0(テンポラリレジスタ 0)
16.3.2.12 VETMPREG1(テンポラリレジスタ 1)
16.3.2.13 VETMPREG2(テンポラリレジスタ 2)
16.3.2.14 VETMPREG3(テンポラリレジスタ 3)
16.3.2.15 VETMPREG4(テンポラリレジスタ 4)
16.3.2.16 VETMPREG5(テンポラリレジスタ 5)
16.3.3 共通レジスタ 367
16.3.3.1 VETADC(ADC 変換開始ウェイト設定レジスタ)
16.3.4 専用レジスタ 368
16.3.4.1 VEMODE1(タスク制御モードレジスタ)
16.3.4.2 VEFMODE1(フロー制御レジスタ)
16.3.4.3 VETPWM1(PWM 周期レート設定レジスタ)
16.3.4.4 VEOMEGA1(回転速度設定レジスタ)
16.3.4.5 VETHETA1(モータ位相設定レジスタ)
16.3.4.6 VECOS1/VESIN1/VECOSM1/VESINM1(SIN/COS レジスタ)
16.3.4.7 VEIDREF1/VEIQREF1(d 軸/q 軸基準電流値設定レジスタ)
16.3.4.8 VEVD1/VEVQ1(d 軸/q 軸電圧設定レジスタ)
16.3.4.9 VECIDKI1/VECIDKP1/VEVCIQKI1/VECIQKP1(PI 制御係数レジスタ)
16.3.4.10 VEVDIH1/VEVDILH1/VEVQIH1/VEVQILH1(PI 制御積分項保持レジスタ)
16.3.4.11 VEMCTLF1(異常/判定結果保持レジスタ)
16.3.4.12 VEFPWMCHG1(PWM 切り替え速度設定レジスタ)
16.3.4.13 VEMDPRD1(PWM 周期設定レジスタ)
16.3.4.14 VEMINPLS1(最小パルス幅差設定レジスタ)
16.3.4.15 VESECTOR1/VESECTORM1(セクタ情報レジスタ)
16.3.4.16 VEIAO1/VEIBO1/VEICO1(ゼロ電流レジスタ)
16.3.4.17 VEIAADC1/VEIBADC1/VEICADC1(電流 ADC 結果レジスタ)
16.3.4.18 VEVDC1/VEVDCL1(電源電圧レジスタ)
16.3.4.19 VEID1/VEIQ1(d 軸/q 軸電流レジスタ)
16.3.4.20 VECMPU1/ VECMPV1/ VECMPW1(PWM DUTY レジスタ)
16.3.4.21 VEOUTCR1(6 相出力制御レジスタ)
16.3.4.22 VETRGCRC1(同期トリガ補正量設定レジスタ)
16.3.4.23 VETRGCMP01/VETRGCMP11(トリガタイミング設定レジスタ)
16.3.4.24 VETRGSEL1(同期トリガ指定レジスタ)
16.3.4.25 VEEMGRS1(EMG 復帰設定レジスタ)
16.4 動作説明 414
16.4.1 スケジュール管理 414
16.4.1.1 スケジュール制御
16.4.1.2 起動制御
16.4.2 タスク概要 417
16.4.2.1 電流制御(タスク 5)
16.4.2.2 SIN/COS 演算(タスク 6)
16.4.2.3 出力電圧変換(座標軸変換/相変換)
16.4.2.4 出力制御
16.4.2.5 トリガ生成(タスク 1)
16.4.2.6 入力処理
16.4.2.7 入力電流変換(相変換/座標軸変換)
16.4.2.8 その他タスク
16.5 VE チャネルと PMD および ADC の組み合わせ 432

第 17 章 オペアンプ(AMP)

17.1 Configuration 433
17.2 レジスター覧 434
17.2.1 オペアンプ 434
17.2.1.1 AMPCTLD(アンプ D コントロールレジスタ)
17.3 動作 435
17.3.1 Basic Operation 435

第 18 章 プリドライバ(MCD)

18.1 端子説明.....437
18.2 機能説明.....438
18.2.1 プリドライバ.....438
18.2.2 低電圧誤動作防止機能(UVLO).....438
18.2.3 5V レギュレータ(5V REG).....438
18.2.4 電流リミット検出回路().....438

第 19 章 パワーオンリセット回路(POR)

19.1 構成.....439
19.2 機能.....440

第 20 章 電圧検出回路(VLTD)

20.1 構成.....441
20.2 レジスタ説明.....442
20.2.1 レジスター一覧.....442
20.2.2 VDCR (電圧検出制御レジスタ).....442
20.3 動作説明.....443
20.3.1 制御.....443
20.3.2 機能.....443
20.3.2.1 電圧検出動作の許可／禁止
20.3.2.2 検出電圧レベル選択

第 21 章 周波数検知回路(OFD)

21.1 構成.....446
21.2 レジスタ説明.....447
21.2.1 レジスター一覧.....447
21.2.1.1 OFDCR1(周波数検知回路制御レジスタ 1)
21.2.1.2 OFDCR2(周波数検知回路制御レジスタ 2)
21.2.1.3 OFDMNPLLOFF (検知周波数下限値設定レジスタ(PLL OFF 時))
21.2.1.4 OFDMNPLLON (検知周波数下限値設定レジスタ(PLL ON 時))
21.2.1.5 OFDMXPLLOFF (検知周波数上限値設定レジスタ(PLL OFF 時))
21.2.1.6 OFDMXPLLON (検知周波数上限値設定レジスタ(PLL ON 時))
21.3 動作説明.....453
21.3.1 設定.....453
21.3.2 動作.....454
21.3.3 検知周波数.....455
21.3.4 使用可能な動作モード.....456
21.3.5 動作手順例.....456

第 22 章 ウォッチドッグタイマ(WDT)

22.1 構成.....457
22.2 レジスター一覧.....458
22.2.1 WDMOD(ウォッチドッグタイマモードレジスタ) 458
22.2.2 WDCR(ウォッチドッグタイマコントロールレジスタ).....459
22.3 動作説明.....460
22.3.1 基本動作.....460
22.3.2 動作モードと動作状態.....460
22.4 暴走検出時の動作.....461
22.4.1 INTWDT 割り込み発生の場合.....461
22.4.2 内部リセット発生の場合.....462

22.5 コントロールレジスタ.....463
22.5.1 ウォッチドッグタイマモードレジスタ(WDMOD).....463
22.5.2 ウォッチドッグタイマコントロールレジスタ(WDCR).....463
22.5.3 設定例.....464
22.5.3.1 ディセーブル制御
22.5.3.2 イネーブル制御
22.5.3.3 ウォッチドッグタイマのクリア制御
22.5.3.4 ウォッチドッグタイマ検出時間の設定

第 23 章 フラッシュメモリ動作説明

23.1 フラッシュメモリの特長.....465
23.1.1 メモリ容量と構成.....465
23.1.2 機能.....466
23.1.3 動作モード.....466
23.1.3.1 モードの説明
23.1.3.2 モードの決定
23.1.4 メモリマップ.....467
23.1.5 プロテクト/セキュリティ機能.....468
23.1.5.1 プロテクト機能
23.1.5.2 セキュリティ機能
23.1.6 レジスタ.....470
23.1.6.1 レジスタ一覧
23.1.6.2 FCCR(フラッシュ IF コントロールレジスタ)
23.1.6.3 FCSR(フラッシュスタータスレジスタ)
23.1.6.4 FCSECBIT(セキュリティビットレジスタ)
23.1.6.5 FCPSRA(フラッシュプロテクトスタータスレジスタ)
23.2 フラッシュメモリ詳細.....473
23.2.1 機能.....473
23.2.2 フラッシュメモリの動作モード.....473
23.2.3 ハードウエアリセット.....473
23.2.4 コマンド実行方法.....474
23.2.5 コマンド説明.....474
23.2.5.1 自動ページプログラム
23.2.5.2 自動チップ消去
23.2.5.3 自動ブロック消去
23.2.5.4 自動プロテクトビットプログラム
23.2.5.5 自動プロテクトビット消去
23.2.5.6 ID-Read
23.2.5.7 Read コマンド、Read/リセットコマンド (ソフトウエアリセット)
23.2.6 コマンドシーケンス.....478
23.2.6.1 コマンドシーケンス一覧
23.2.6.2 バスライトサイクル時のアドレスビット構成
23.2.6.3 ブロックアドレス(BA)
23.2.6.4 プロテクトビットの指定(PBA)
23.2.6.5 ID-Read のコード(IA, ID)
23.2.6.6 コマンドシーケンス例
23.2.7 フローチャート.....482
23.2.7.1 自動プログラム
23.2.7.2 自動消去
23.3 シングルブートモードによる書き替え方法.....484
23.3.1 モード設定.....484
23.3.2 インタフェース仕様.....484
23.3.3 メモリの制約について.....485
23.3.4 動作コマンド.....485
23.3.4.1 RAM 転送
23.3.4.2 フラッシュメモリチップ消去および プロテクトビット消去
23.3.5 コマンドによらず共通の動作.....486
23.3.5.1 シリアル動作モード判定
23.3.5.2 ACK 応答データ
23.3.5.3 パスワード判定
23.3.5.4 CHECK SUM の計算方法
23.3.6 RAM 転送の転送フォーマット.....492
23.3.7 フラッシュメモリチップ消去およびプロテクトビット消去の転送フォーマット.....494
23.3.8 ブートプログラム全体フローチャート.....496
23.3.9 内蔵 BOOT ROM の書き替えアルゴリズムを利用した書き替え手順.....497
23.3.9.1 Step-1

23.3.9.2 Step-2
23.3.9.3 Step-3
23.3.9.4 Step-4
23.3.9.5 Step-5
23.3.9.6 Step-6
23.4 ユーザブートモードによる書き替え方法.....500
23.4.1 (1-A)書き替えルーチンをフラッシュメモリに内蔵する場合の手順例.....500
23.4.1.1 Step-1
23.4.1.2 Step-2
23.4.1.3 Step-3
23.4.1.4 Step-4
23.4.1.5 Step-5
23.4.1.6 Step-6
23.4.2 (1-B)書き替えルーチンを外部から転送する手順例.....504
23.4.2.1 Step-1
23.4.2.2 Step-2
23.4.2.3 Step-3
23.4.2.4 Step-4
23.4.2.5 Step-5
23.4.2.6 Step-6

第 24 章 デバッグインタフェース

24.1 仕様概要.....509
24.2 SWJ-DP の特長.....509
24.3 端子情報.....510
24.4 デバッグツールとの接続.....511
24.4.1 接続方法.....511
24.4.2 デバッグインタフェース端子を汎用ポートとして使用する場合.....511
24.5 ホールトモード中の周辺機能（プログラム実行の一時停止時）.....511

第 25 章 ポート部等価回路図

25.1 PB3~4, PE0~2.....513
25.2 PJ5~7, PK0~1.....513
25.3 PF0.....514
25.4 PM0~1.....514
25.5 X1, X2.....515
25.6 RESET.....515
25.7 MODE.....515
25.8 VREFH, VREFL.....515
25.9 VOUT15, VOUT3.....516
25.10 UL, VL, WL.....516
25.11 UH, VH, WH.....516
25.12 IDC.....517
25.13 VREG.....517

第 26 章 電気的特性

26.1 絶対最大定格.....519
26.2 DC 電気的特性 (1/2).....520
26.3 DC 電気的特性 (2/2).....520
26.4 12 ビット AD コンバータ変換特性.....521
26.5 オペアンプ特性.....521

26.6 プリドライバ特性.....522
26.7 AC 電気的特性.....523
26.7.1 AC 測定条件.....523
26.7.2 シリアルチャネル (SIO/UART).....523
26.7.2.1 I/O インタフェースモード
26.7.3 シリアルバスインタフェース (I2C/SIO).....524
26.7.3.1 I2C モード
26.7.4 イベントカウンタ.....526
26.7.5 キャプチャ.....526
26.7.6 外部割り込み.....526
26.7.7 デバッグ通信.....527
26.7.7.1 AC 測定条件
26.7.7.2 SWD インタフェース
26.7.8 Flash 特性.....528
26.7.9 内蔵発振回路特性.....528
26.7.10 外部発振子.....528
26.8 発振回路.....529
26.8.1 セラミック発振子.....529

第 27 章 パッケージ寸法図

CMOS 32 ビット マイクロコントローラ

TMPM37AFSQG

TMPM37AFSQG は、ARM® Cortex®-M3 コアを内蔵した 32 ビット RISC マイクロコントローラ(MCU)と、3 相プリドライバ(MCD)を 1 つのパッケージにした製品です。

機能概要と特長は次のとおりです。

1.1 機能概要

1.1.1 MCU 部

MCU チップは ARM Cortex-M3 コアを内蔵したマイクロコントローラです。

1. ARM 社製 Cortex-M3 コアを使用
   a. Thumb®-2 命令で、コード効率の向上を実現
      ・プログラムフロー改善のための新しい 16 ビット命令
      ・性能とコードサイズ向上のための新しい 32 ビット命令
      ・32 ビット/16 ビット混在の命令セットでコード効率を向上
   b. 高性能化と低消費電力化を同時に実現
      【高性能化】
      ・32 ビット乗算(32 × 32 = 32 ビット)を 1 クロックで実行
      ・除算を 2~12 クロックで実行
      【低消費電力化】
      ・低消費電力ライブラリを使用した最適化設計
      ・プロセッサコアの動作を停止させるスタンバイ機能
   c. リアルタイム制御に向いた高速割り込み応答
      ・実行時間の長い命令は割り込みで中断可能
      ・スタックへの PUSH をハードウエアで自動的に実行

2. 内蔵プログラムメモリ/データメモリ
   ・ 内蔵 RAM : 4Kbyte
   ・ 内蔵 FlashROM : 64Kbyte

3. 16 ビットタイマ/イベントカウンタ(TMRB) : 4 チャネル
   ・ 16 ビットインタバルタイマモード
   ・ 16 ビットイベントカウンタモード
   ・ インプットキャプチャ機能
   ・ 16 ビット PPG 出力
   ・ 外部トリガ PPG 出力

4. ウォッチドッグタイマ(WDT) : 1 チャネル
   リセット発生

5. パワーオンリセット回路(POR)

6. 電圧検出回路(VLTD)

7. 周波数検知回路(OFD)

8. ベクトルエンジン(VE+) : 1 チャネル
   - モータ制御用演算機能
   - 1 モータ対応

9. モータ制御回路(PMD) : 1 チャネル
   - 3 相相補 PWM 出力
   - AD コンバータを連動させる同期トリガ生成
   - 緊急停止保護機能

10. 汎用シリアルインタフェース(SIO/UART) : 1 チャネル

    UART/クロック同期式モード選択可能(4byte FIFO 内蔵)

11. シリアルバスインタフェース(I2C/SIO) : 1 チャネル

    I2C バスモード

12. 12 ビット AD コンバータ(ADC) : 1 ユニット(5 チャネル)
    - トリガスタート機能 : TMRB 割り込み/ PMD トリガによるスタート可能
    - 常時変換可能
    - AD 監視機能 2ch
    - 変換時間 2.0 μs (ADC 変換クロック 40 MHz 時)

13. オペアンプ(AMP) : 1 チャネル

    8 ゲイン選択可能

14. 入出力ポート(PORT) : 13 端子

    入出力端子 : 13 本

15. 割り込み機能
    - 内部 26 本 : 7 レベルの優先順位設定可能(ウォッチドッグタイマ割り込みを除く)
    - 外部 3 本 : 7 レベルの優先順位設定可能

16. スタンバイ機能

    スタンバイモード : IDLE, STOP

17. クロックジェネレータ(CG)
    - PLL 内蔵(4 逓倍)
    - クロックギア機能 : 高速クロックを 1/1, 1/2, 1/4, 1/8,1/16 に分周可能

18. エンディアン
    リトルエンディアン

19. 内蔵高速発振回路:10MHz

20. 最大動作周波数 : 40 MHz

1.1.2 MCD 部

MCD チップは 3 相ブラシレス DC モータの正弦波駆動に対応したプリドライバです。

1. 3 相全波駆動方式

2. モータ電源電圧
   12V 電源と 24V 電源に対応

3. レギュレータ回路内蔵

4. 過電流検出回路内蔵

1.1.3 共通

1. 動作電圧範囲
   - VM = 6 V~32 V
   - DVDD5 = 4.5 V~5.5 V @ fsys = 40 MHz
     全機能動作
   - DVDD5 = 3.9 V~4.5 V @ fsys = 40 MHz
     除く、12 ビット AD コンバータ特性, 電気的特性, Flash 書き込み特性

2. 温度範囲
   - −40°C ~ 85°C (Flash W/E およびデバッグ時以外)
   - 0°C ~ 70°C (Flash W/E 時およびデバッグ時)

3. パッケージ
   VQFN32 (5.0 mm × 5.0 mm, 0.5 mm ピッチ)

1.2 ブロック図

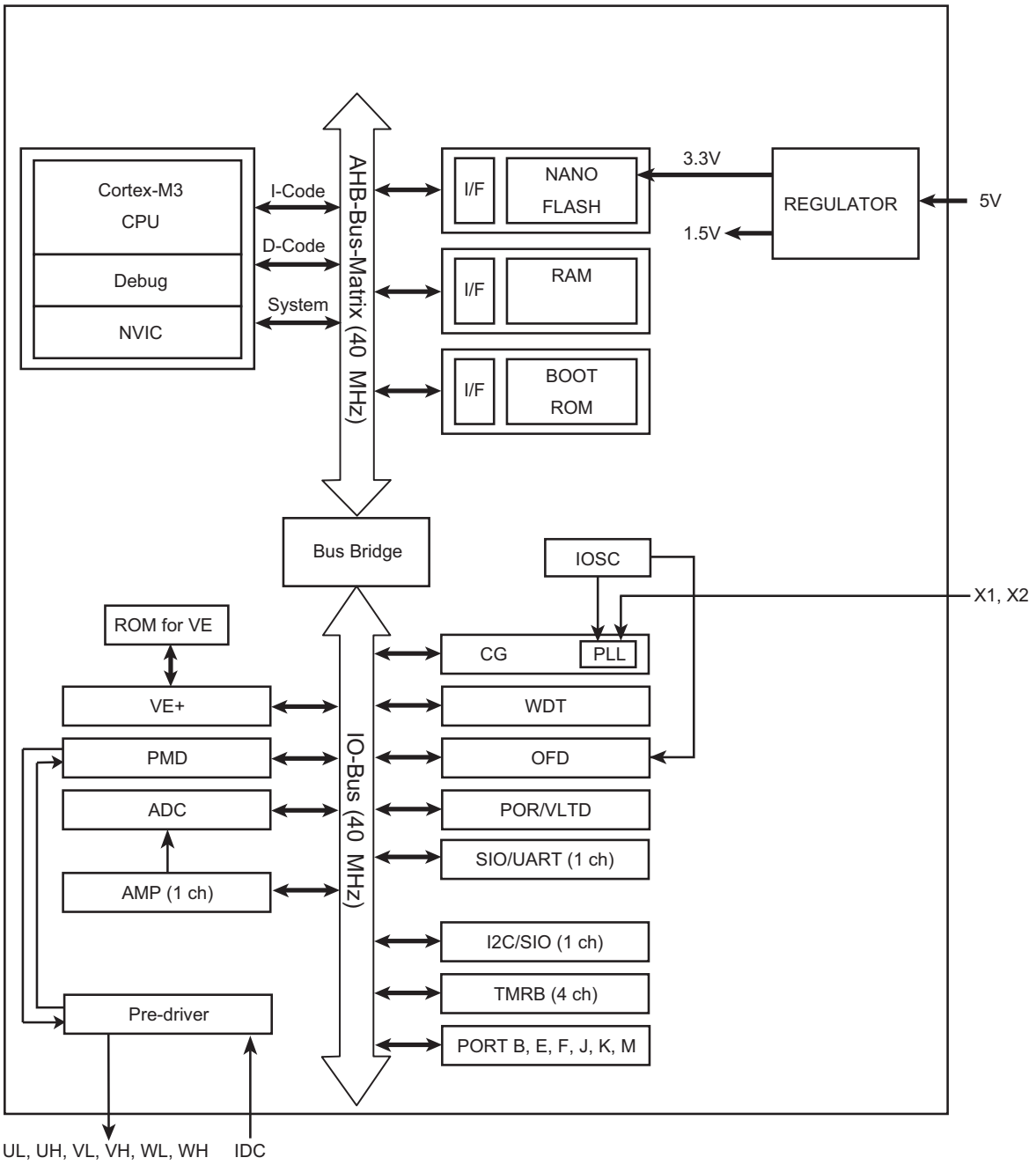


図 1-1 TMPM37AFSQG ブロック図(MCU)

1.3 ピン配置図(Top view)

TMPM37AFSQG のピン配置図は、下図のとおりです。

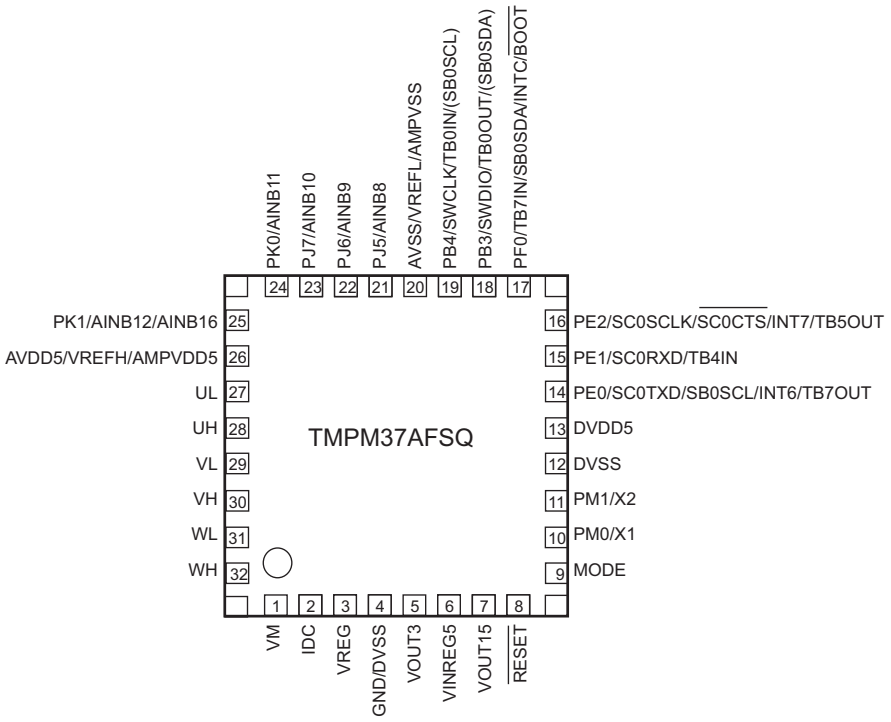


図 1-2 ピン配置図

1.4 ピン名称と機能

1.4.1 機能端子名称と機能

1.4.1.1 周辺機能端子名称

表 1-1 各周辺機能と端子名称と機能

周辺機能	端子名称	Input or Output	機能
外部割り込み	INTx	Input	外部割り込み入力端子 x 外部割り込み入力端子 x はノイズフィルタ(フィルタ幅 typ. 30ns)付きです。
16 ビットタイマ/イベントカウンタ	TBxIN	Input	インプットキャプチャ入力端子
	TBxOUT	Output	出力端子
SIO/UART	SCxTXD	Output	データ出力端子
	SCxRXD	Input	データ入力端子
	SCxSCLK	I/O	クロック入出力端子
	$\overline{\text{SCxCTS}}$	Input	ハンドシェィク入力端子
I2C/SIO	SBxSDA	I/O	データ入出力端子
	SBxSCL	I/O	クロック入出力端子
アナログデジタルコンバータ	AINBx	Input	アナログ入力端子

1.4.1.2 モータ制御端子名称

表 1-2 モータ制御端子名称と機能

モータ制御端子名称	Input or Output	機能
IDC	Input	過電流検出入力端子
UL	Output	U 相ローサイド出力端子
UH	Output	U 相ハイサイド出力端子
VL	Output	V 相ローサイド出力端子
VH	Output	V 相ハイサイド出力端子
WL	Output	W 相ローサイド出力端子
WH	Output	W 相ハイサイド出力端子

1.4.1.3 デバッグ端子名称

表 1-3 デバッグ端子名称と機能

デバッグ端子名称	Input or Output	機能
SWDIO	I/O	シリアルワイヤデータ入出力端子
SWCLK	Input	シリアルワイヤクロック入力端子

1.4.1.4 制御端子名称

表 1-4 制御端子名称と機能

制御 端子名称	Input or Output	機能
MODE	Input	モード端子 必ず"Low"レベルに固定してください。
$\overline{\text{RESET}}$	Input	リセット信号入力端子 プルアップおよびノイズフィルタ(フィルタ幅 typ. 30ns)付き

1.4.1.5 クロック端子名称

表 1-5 クロック端子名称と機能

クロック 端子名称	Input or Output	機能
X1	Input	高速発振子接続端子
X2	Output	高速発振子接続端子

1.4.1.6 電源端子名称

表 1-6 電源端子名称と機能

電源 端子名称	機能	電源供給端子
VM	MCD 用電源端子	UH,UL,VH,VL,WH,WL
GND	MCD 用 GND 端子	-
VREG	MCD 用 5V 端子	IDC,MODE
VOUT3	レギュレータ用コンデンサ (3.3 μF ~ 4.7 μF)接続端子	-
VOUT15	レギュレータ用コンデンサ (3.3 μF ~ 4.7 μF)接続端子	-
VINREG5	レギュレータ用電源端子	-
DVDD5	デジタル用電源端子	PB,PE,PF,PM,$\overline{\text{RESET}}$,MODE
DVSS	デジタル用 GND 端子	-
AVDD5	ADC ユニット用電源端子(注 1)	PJ, PK
AVSS	ADC ユニット用 GND 端子(注 2)	-
VREFH	ADC ユニット用基準電圧端子(注 1)	PJ, PK
VREFL	ADC ユニット用基準電圧端子(注 2)	-
AMPVDD5	アンプ回路用電源端子(注 1)	PJ, PK
AMPVSS	アンプ回路用 GND 端子(注 2)	-

注 1) AD コンバータとアンプを使用しない場合でも電源に接続してください。

注 2) AD コンバータとアンプを使用しない場合でも GND に接続してください。

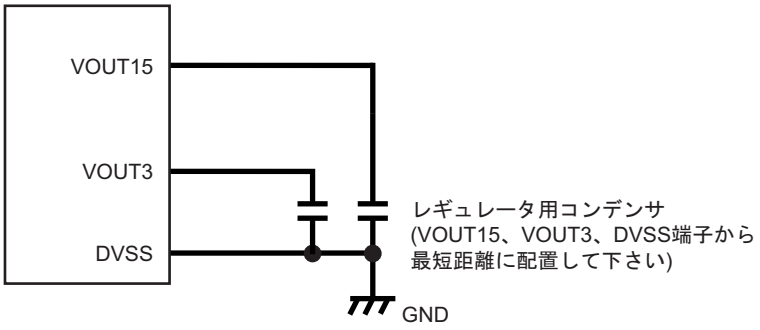


図 1-3 レギュレータ用コンデンサ接続図

1.4.2 ピン名称と機能

1.4.2.1 表の見方

表中の記号の意味は下記の通りです。

1. 機能 A

   ファンクションレジスタ設定なしにポートに割り当てられる兼用機能が記載されています。

2. 機能 B

   ファンクションレジスタ設定によりポートに割り当てられる兼用機能が記載されています。機能 B の番号はファンクションレジスタの番号と対応しています。

3. 端子仕様

   記号の意味は下記のとおりです。

- SMT/CMOS : 入力ゲート

  SMT : Schmitt 入力

  CMOS : CMOS 入力

- 5V_T : 5V トレラント対応

  Yes : 対応

  N/A : 非対応

  - : この製品は動作電圧が 5V のため、トレラント端子はありません。5V 入出力端子となります。

- OD : プログラマブル Open Drain 出力対応

  Yes : 対応

  N/A : 非対応

- PU/PD:プログラマブル Pull-Up/Pull-Down 対応

  PU : プログラマブル Pull-Up 選択可能

  PD : プログラマブル Pull-Down 選択可能

1.4.2.2 PORT / デバッグ端子

表 1-7 ピン番号と端子名称<PORT 順>

Pin No.	PORT	機能 A	機能 B						ポート仕様			
			1	2	3	4	5	6	PU/PD	OD	5V_T	SMT/ CMOS
PORT B												
18	PB3		SWDIO	TB0OUT		(SB0SDA) (注 1)			PU/PD	Yes	-	SMT
19	PB4		SWCLK	TB0IN		(SB0SCL) (注 2)			PU/PD	Yes	-	SMT
PORT E												
14	PE0		SC0TXD	SB0SCL (注 2)		INT6	TB7OUT		PU/PD	Yes	-	SMT
15	PE1		SC0RXD	TB4IN					PU/PD	Yes	-	SMT
16	PE2		SC0SCLK	$\overline{\text{SC0CTS}}$		INT7		TB5OUT	PU/PD	Yes	-	SMT
PORT F												
17	PF0	$\overline{\text{BOOT}}$	TB7IN	SB0SDA (注 1)		INTC			PU/PD	Yes	-	SMT
PORT J												
21	PJ5	AINB8							PU/PD	Yes	-	SMT
22	PJ6	AINB9							PU/PD	Yes	-	SMT
23	PJ7	AINB10							PU/PD	Yes	-	SMT
PORT K												
24	PK0	AINB11							PU/PD	Yes	-	SMT
25	PK1	AINB12/ AINB16 (注 3)							PU/PD	Yes	-	SMT
PORT M												
10	PM0	X1							PU/PD	Yes	-	SMT
11	PM1	X2							PU/PD	Yes	-	SMT

注 1) SB0SDA は PB3 と PF0 を切り替え可能(PF0 設定優先)

注 2) SB0SCL は PB4 と PE0 を切り替え可能(PE0 設定優先)

注 3) AINB16 は内蔵オペアンプ経由で接続

1.4.3 制御端子

表 1-8 ピン番号と端子名称

Pin No.	制御 端子名称
8	$\overline{\text{RESET}}$
9	MODE

1.4.4 モータ制御端子

表 1-9 ピン番号と端子名称

Pin No.	制御 端子名称
2	IDC
27	UL
28	UH
29	VL
30	VH
31	WL
32	WH

1.5 電源の種類と供給端子

表 1-10 電源の種類と供給端子

Pin No.	電源の種類	電圧範囲
1	VM	6 ~ 32V
13	DVDD5	4.5 ~ 5.5V
26	AVDD5/ VREFH/ AMPVDD5	
6	VINREG5	

表 1-11 出力専用端子

Pin No.	出力専用端子	端子処置
3	VREG	GND との間にコンデンサ 4.7μF を接続してください。
7	VOUT15	DVSS との間にコンデンサ 3.3μF ~ 4.7μF を接続してください。
5	VOUT3	DVSS との間にコンデンサ 3.3μF ~ 4.7μF を接続してください。

注) VOUT15,VOUT3 は内蔵レギュレータ出力の安定化のためのコンデンサ接続端子です。外部回路への電源供給はできません。

第 2 章　製品情報

本章では、周辺機能に関し、チャネルまたはユニット数、端子情報、その他の製品固有機能の情報についてまとめます。周辺機能の章と合わせてご使用ください。

- 「2.1.1 16 ビットタイマ/イベントカウンタ(TMRB)」
- 「2.1.2 シリアルチャネル(SIO/UART)」
- 「2.1.3 シリアルバスインタフェース(I2C/SIO)」
- 「2.1.4 ベクトルエンジン (VE+)」
- 「2.1.5 モータ制御回路 (PMD)」
- 「2.1.6 アナログ/デジタルコンバータ(ADC)」
- 「2.1.7 ウォッチドッグタイマ(WDT)」
- 「2.1.8 デバッグインタフェース」

2.1　各周辺機能の情報

2.1.1　16 ビットタイマ/イベントカウンタ(TMRB)

TMPM37AFSQG では 4 チャネルの TMRB を内蔵しています。

表 2-1 端子仕様

チャネル	TBxOUT	TBxIN
TMRB0	PB3	PB4
TMRB4	-	PE1
TMRB5	PE2	-
TMRB7	PE0	PF0

注)　いずれか 1 つの組み合わせを選択して使用してください。

表 2-2 割り込み

チャネル	TBxOUT	キャプチャ割り込み	TMRB 割り込み
TMRB0	PB3	INTCAP00, INTCAP01	INTTB00, INTTB01
TMRB4	-	INTCAP40, INTCAP41	INTTB40, INTTB41
TMRB5	PE2	-	INTTB50, INTTB51
TMRB7	PE0	INTCAP70, INTCAP71	INTTB70, INTTB71

2.1.2　シリアルチャネル(SIO/UART)

TMPM37AFSQG では 1 チャネルの SIO を内蔵しています。

表 2-3 端子仕様

チャネル	SCxTXD	SCxRXD	SCxSCLK	$\overline{\text{SCxCTS}}$
SC0	PE0	PE1	PE2	PE2

表 2-4 割り込み

チャネル	受信割り込み	送信割り込み
SC0	INTRX0	INTTX0

表 2-5 内部接続

チャネル	転送クロック入力
SC0	TMRB4

2.1.3 シリアルバスインタフェース(I2C/SIO)

TMPM37AFSQG では 1 チャネルの I2C を内蔵し、SIO をサポートしていません。

表 2-6 端子仕様

チャネル	SBxSDA	SBxSCL
I2C0	PF0(PB3)	PE0(PB4)

表 2-7 割り込み

チャネル	割り込み
I2C0	INTSBI0

2.1.4 ベクトルエンジン (VE+)

TMPM37AFSQG では 1 チャネルの VE を内蔵しています。

表 2-8 割り込み

チャネル	割り込み
VE	INTVCNB

表 2-9 内部接続仕様

チャネル	PWM 割り込み信号入力	ADC 変換終了信号入力	ADC 変換結果入力
VE	INTPMD1	INTADBPDB	ADBREG0 to 3

2.1.5 モータ制御回路 (PMD)

TMPM37AFSQG では 1 チャネルの PMD を内蔵しています。

表 2-10 端子仕様

チャネル	$\overline{\text{OVVx}}$ 状態信号	$\overline{\text{EMGx}}$ 状態信号	ZOx Z 相出力	WOx W 相出力	YOx Y 相出力	VOx V 相出力	XOx X 相出力	UOx U 相出力
PMD1	IDC	IDC	WL	WH	VL	VH	UL	UH

表 2-11 割り込み

チャネル	OVV 割り込み	EMG 割り込み	PWM 割り込み
PMD1	INTOVV1	INTEMG1	INTPMD1

表 2-12 内部接続仕様 (1/2)

チャネル	EMG 復帰入力 (VE)	PWM コンペア入力 (VE)	出力制御入力 (VE)	トリガコンペア入力 (VE)	トリガ選択入力 (VE)	OVV 入力 (ADC)
PMD1	VEEMGRS1	VECMPU1, V1, W1	VEOUTCR1	VETRGCMP10, 11	VETRGSEL1	ADCB 監視機能比較 0, 1 出力

表 2-13 内部接続仕様 (2/2)

チャネル	MDOUT 転送タイミング信号入力
PMD1	INTTB00

2.1.6　アナログ/デジタルコンバータ(ADC)

TMPM37AFSQG では 1 ユニットの 12 ビット逐次変換方式アナログ／デジタルコンバータ(ADC)を内蔵しています。モータ制御用ベクトルエンジン、および PMD 回路と連携してモータのベクトル制御を支援します。

表 2-14 端子仕様

ユニット	AINB8~10	AINB11~12	AINB16
ADCB	PJ5~7	PK0 ~ 1	PK1

表 2-15 割り込み

ユニット	PMD トリガ同期変換終了割り込み	タイマ同期変換終了割り込み	ソフトスタート変換終了割り込み	監視機能割り込み
ADCB	INTADBPDB	INTADBTMR	INTADBSFT	INTADBCPA INTADBCPB

表 2-16 内部接続仕様

ユニット	PMD1 トリガ入力	TMRTRG
ADCB	PMD1TRG0 to 5	INTTB51

2.1.7　ウォッチドッグタイマ(WDT)

TMPM37AFSQG では WDMOD レジスタの I2WDT ビットをサポートしていませんので、必ず、" 0 " をライトしてください。

2.1.8　デバッグインタフェース

TMPM37AFSQG はシリアルワイヤデバッグポートをサポートしています。

表 2-17 端子仕様

	SWDIO	SWCLK
シリアルワイヤ	PB3	PB4

第 3 章　プロセッサコア

TX03 シリーズには、高性能 32 ビットプロセッサコア(ARM 社 Cortex-M3 コア)が内蔵されています。プロセッサコアの動作については、ARM 社からリリースされる"Cortex-M3 テクニカルリファレンスマニュアル"を参照してください。ここでは、製品固有の情報について説明します。

3.1　コアに関する情報

TMPM37AFSQG で使用している Cortex-M3 コアのリビジョンは以下のとおりです。

CPU コア部、アーキテクチャなどの詳細は、ARM 社の下記 URL より"Cortex-M series processors"のマニュアルを参照してください。

http://infocenter.arm.com/help/index.jsp

製品名	コアリビジョン
TMPM37AFSQG	r2p1

3.2　構成可能なオプション

Cortex-M3 コアは、一部のブロックについて実装するかどうかを選択することができます。TMPM37AFSQG での構成は以下のとおりです。

構成可能なオプション	実装
FPB	リテラルコンパレータ：2 本 命令コンパレータ：6 本
DWT	コンパレータ：4 本
ITM	あり
MPU	なし
ETM	あり
AHB-AP	あり
AHB トレースマクロセル インタフェース	なし
TPIU	あり
WIC	なし
デバッグポート	シリアルワイヤ
ビットバンド	あり
AHB の継続的な制御	なし

3.3　例外/割り込み

例外/割り込みに関連する製品固有の情報をまとめます。

3.3.1　割り込み本数

Cortex-M3 コアは割り込み本数を 1～240 本の間で任意に構成することができます。

TMPM37AFSQG の割り込み本数は 32 本です。割り込み本数は NVIC レジスタの割り込みコントローラタイプレジスタの<INTLINESNUM[4:0]>ビットに反映され、本製品では"0x00"が読み出されます。

3.3.2　割り込み優先度ビット数

Cortex-M3 コアは割り込み優先度ビット数を 3～8 ビットの間で任意に構成することができます。

TMPM37AFSQG の割り込み優先度は 3 ビットです。このビット数は割り込み優先度レジスタとシステムハンドラ優先度レジスタのビット構成に反映されます。

3.3.3　SysTick

Cortex-M3 コアには SysTick と呼ばれるシステムタイマがあり、SysTick 例外を発生させることができます。

SysTick 例外の詳細については、例外の「SysTick」の章および、「NVIC レジスタ」の SysTick 関連レジスタの章を参照してください。

3.3.4　SYSRESETREQ

Cortex-M3 コアは、アプリケーション割り込みおよびリセット制御レジスタの<SYSRESETREQ>ビットがセットされると SYSRESETREQ 信号を出力します。

TMPM37AFSQG では SYSRESETREQ 信号が出力されるとウォームリセットと同様の動作になります。

3.3.5　LOCKUP

回復不能な例外が発生すると Cortex-M3 コアは LOCKUP 信号を出力し、ソフトウエアに重大な誤りのあることを示します。

TMPM37AFSQG ではこの信号は未使用です。LOCKUP 状態から復帰する際にはマスク不能割り込み(NMI)またはリセットを使用する必要があります。

3.3.6　補助フォールトステータスレジスタ

Cortex-M3 コアにはソフトウエアに対して追加のシステムフォールト情報を提供するための補助フォールトステータスレジスタが準備されています。

TMPM37AFSQG ではこのレジスタに対して機能を定義していません。リードすると常に"0x0000_0000"が読み出されます。

3.4 イベント

Cortex-M3 コアにはイベント出力信号とイベント入力信号があります。イベント出力信号は、SEV 命令実行により出力されます。また、イベントが入力されると WFE 命令による低電力状態から復帰します。

TMPM37AFSQG では、イベント出力信号、イベント入力信号とも未使用です。SEV 命令、WFE 命令は使用しないでください。

3.5 電力管理

Cortex-M3 コアには電力管理のための信号として SLEEPING および SLEEPDEEP があります。SLEEPDEEP は、システム制御レジスタの<SLEEPDEEP>ビットがセットされている場合に出力されます。

これらの信号は、割り込み待ち(WFI)命令の実行、イベント待ち(WFE)命令の実行または、システム制御レジスタの<SLEEPONEXIT>ビットがセットされている場合の割り込みサービスルーチン(ISR)からの退出時に出力されます。

TMPM37AFSQG では、SLEEPDEEP 信号は使用していません。<SLEEPDEEP>ビットはセットしないでください。また、イベント信号も未使用のため、WFE 命令は使用しないでください。

電力管理については、「クロック／モード制御」の章を参照してください。

3.6 排他アクセス

Cortex-M3 コアの DCode バスおよびシステムバスは排他アクセスをサポートしていますが、TMPM37AFSQG ではこの機能を使用していません。

第 4 章　メモリマップ

4.1　メモリマップ

TMPM37AFSQG のメモリマップは、ARM Cortex-M3 コアのメモリマップに沿って作られており、内蔵 ROM 領域は Cortex-M3 コアメモリマップの Code 領域、内蔵 RAM 領域は SRAM 領域、特殊機能レジスタ(SFR)領域は Peripheral 領域に割り付けられています。特殊機能レジスタ(SFR：Special function register)とは、入出力ポートおよび周辺機能のコントロールレジスタを示します。SRAM 領域、SFR 領域はすべてビットバンド領域に含まれています。

CPU 内レジスタ領域はコア内部のレジスタ領域です。

各領域の詳細については、"Cortex-M3 テクニカルリファレンスマニュアル"を参照してください。

"Fault"と記載された領域では、アクセスするとメモリフォールトが有効な場合にはメモリフォールト、無効な場合にはハードフォールトが発生します。また、ベンダ固有領域にはアクセスしないでください。

4.1.1　TMPM37AFSQG メモリマップ

TMPM37AFSQG のメモリマップを図 4-1 に示します。

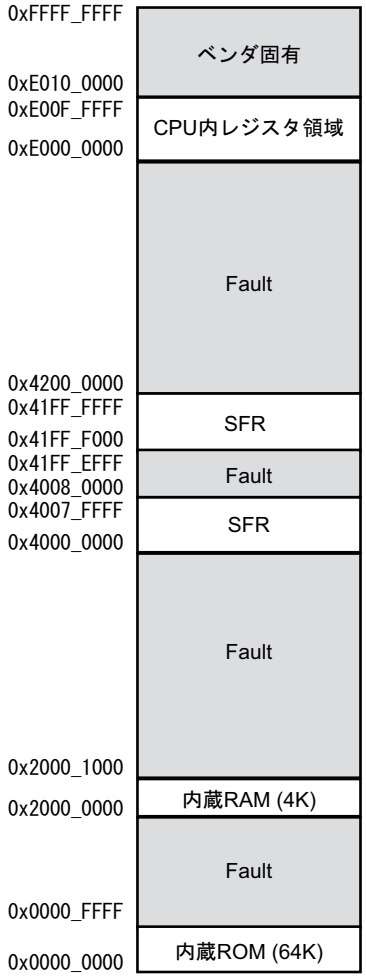


図 4-1 メモリマップ

4.2　SFR 領域詳細

SFR 領域の詳細を表 4-1 に示します。

表 4-1 の Reserved (予約領域)にはアクセスしないでください。また、周辺機能によってはアクセスを制限するアドレスを有する場合があります。詳細は各周辺機能の章を参照してください。

表 4-1 SFR 詳細

Start Address	End Address	Peripheral
0x4000 _ 0000	0x4000 _033F	PORT
0x4000 _ 0340	0x4000_FFFF	Reserved
0x4001_0000	0x4001_01FF	TMRB
0x4001_0200	0x4001_03FF	Reserved
0x4001_0400	0x4001_043F	Reserved
0x4001_0440	0x4001_FFFF	Reserved
0x4002_0000	0x4002_007F	I2C/SIO
0x4002_0080	0x4002_00FF	SIO/UART
0x4002_0100	0x4003_01FF	Reserved
0x4003_0200	0x4003_02FF	ADC
0x4003_0300	0x4003_0417	Reserved
0x4003_0418	0x4003_041F	AMP
0x4003_0420	0x4003_FFFF	Reserved
0x4004_0000	0x4004_003F	WDT
0x4004_0040	0x4004_01FF	Reserved
0x4004_0200	0x4004_022F	CG
0x4004_0230	0x4004_02FF	Reserved
0x4004_0300	0x4004_030F	TRM
0x4004_0310	0x4004_07FF	Reserved
0x4004_0800	0x4004_083F	OFD
0x4004_0840	0x4004_08FF	Reserved
0x4004_0900	0x4004_093F	VLTD
0x4004_0940	0x4004_FFFF	Reserved
0x4005_0000	0x4005_01FF	VE
0x4005_0200	0x4005_047F	Reserved
0x4005_0480	0x4005_04FF	PMD
0x4005_0500	0x4005_FFFF	Reserved
0x4006_0000	0x4006_0007	DNF
0x4006_0008	0x4007_FFFF	Reserved
0x4008_0000	0x41FF_EFFF	Hard fault
0x41FF_F000	0x41FF_F03F	FLASH
0x41FF_F040	0x41FF_FFFF	Reserved

表 4-2 周辺機能ベースアドレス一覧

Peripheral Name	Base Address	SFR
Port B	0x4000 _0040	PORT
Port E	0x4000_0100	PORT

表 4-2 周辺機能ベースアドレス一覧

Port F	0x4000_0140	PORT
Port G	0x4000_0180	PORT
Port J	0x4000_0240	PORT
Port K	0x4000_0280	PORT
Port M	0x4000_0300	PORT
TMRB 0	0x4001_0000	TMRB
TMRB 4	0x4001_0100	TMRB
TMRB 5	0x4001_0140	TMRB
TMRB 7	0x4001_01C0	TMRB
I2C/SIO 0	0x4002_0000	I2C/SIO
SIO/UART 0	0x4002_0080	SIO/UART
ADC	0x4003_0200	ADC
AMP D	0x4003_0418	AMP
WDT	0x4004_0000	WDT
CG	0x4004_0200	CG
OSCTRIM	0x4004_0300	TRM
OFD	0x4004_0800	OFD
VLTD	0x4004_0900	VLTD
VE	0x4005_0000	VE
PMD 1	0x4005_0480	PMD
DNF	0x4006_0000	DNF

第 5 章　リセット動作

リセットの種類として以下のものがあります。

- パワーオンリセット回路(POR)
- 電圧検出回路(VLTD)
- リセット端子($\overline{\text{RESET}}$)
- ウォッチドッグタイマ(WDT)
- 周波数検知回路(OFD)
- CPU のアプリケーション割り込みおよびリセットレジスタ<SYSRESETREQ>ビット

リセットの要因を確認するためには、クロックジェネレータレジスタの CGRSTFLG を参照してください。CGRSTFLG については、例外の章を参照してください。

パワーオンリセット回路、電圧検出回路、ウォッチドッグタイマ、周波数検知回路についてはそれぞれの章を参照してください。

<SYSRESETREQ>によるリセットについては、"Cortex-M3 テクニカルリファレンスマニュアル"を参照してください。

注)　リセット動作を行うと内蔵 RAM のデータは保証されません。

5.1　コールドリセット時

電源投入の際には、内蔵レギュレータ、内蔵フラッシュメモリおよび内蔵高速発振の安定時間を考慮する必要があります。TMPM37AFSQG では、これらの機能の安定のための時間を内部回路が自動的に挿入します。

5.1.1　パワーオンリセット回路によるリセット(RESET 端子を使用しない場合)

電源電圧がパワーオンリセットの解除電圧を超えるとパワーオンカウンタが動作を開始し、約 3.2ms 後に内部リセット信号が解除されます。

パワーオンリセット回路の動作については、「パワーオンリセット回路(POR)」の章を参照してください。

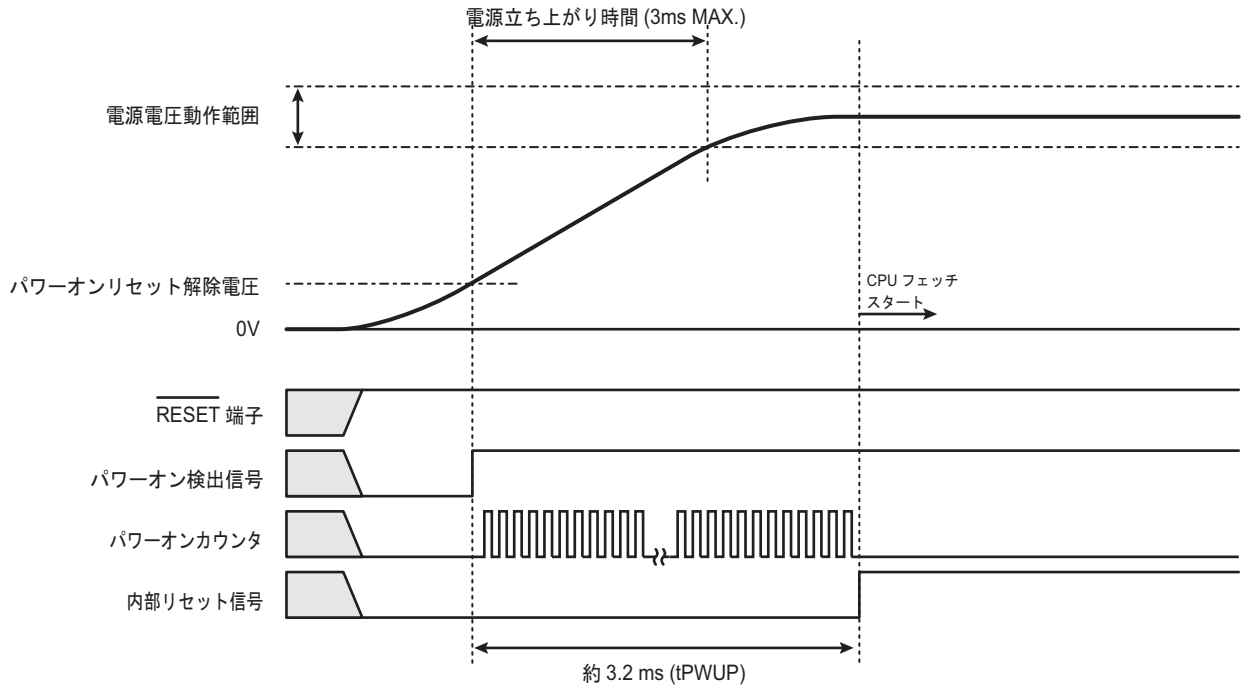


図 5-1 パワーオン回路によるリセット動作

5.1.2 $\overline{\text{RESET}}$ 端子によるリセット

$\overline{\text{RESET}}$ 端子によるリセットは、パワーオンカウンタ動作終了後より有効となります。よって、パワーオンリセット検出信号が"High"になってから 3.2ms 以内に $\overline{\text{RESET}}$ 端子を"High"にした場合、5.1.1 のパワーオンリセットによるリセット動作と同じ動作になります。

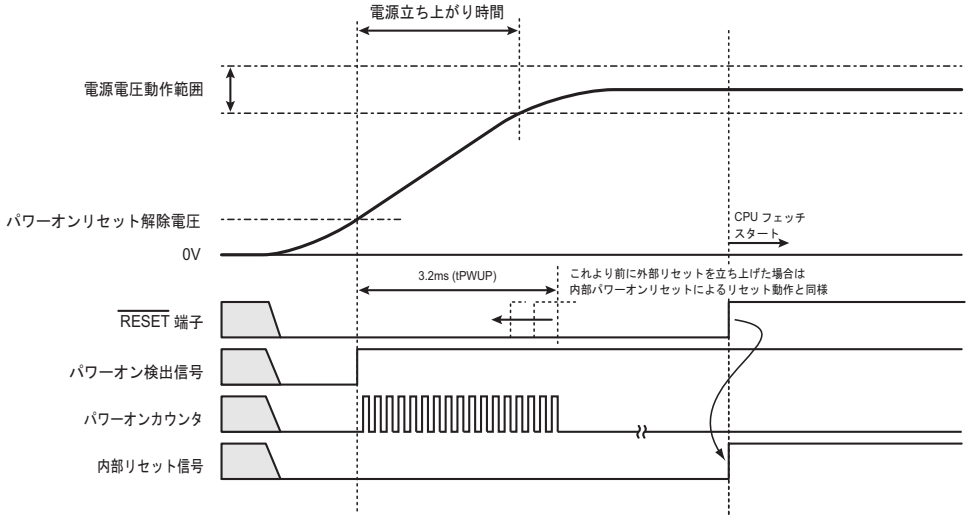


図 5-2 $\overline{\text{RESET}}$ 端子によるリセット動作

5.2　ウォームリセット時

5.2.1　リセット期間

TMPM37AFSQG にリセットをかけるには、電源電圧が動作範囲内であり、$\overline{\text{RESET}}$ 端子を少なくとも内部高周波発振 12 システムクロック間"Low"にしてください。$\overline{\text{RESET}}$ 端子が"High"になってから内部リセットが解除されます。

5.3　リセット解除後

リセット解除後は、Cortex-M3 コアの制御レジスタや周辺機能の制御レジスタ(SFR)は初期化されます。コア内部のシステムデバッグコンポーネント(FPB、DWT、ITM)レジスタ、クロックジェネレータレジスタの CGRSTFLG および FLASH 関連レジスタの FCSECBIT はコールドリセットでのみ初期化されます。

リセット解除後、内蔵高速発振器のクロックで動作を開始します。必要に応じて外部クロック、PLL 逓倍回路の設定を行ってください。

第 6 章　クロック/モード制御

6.1　特長

クロック/モード制御ブロックでは、クロックギアやプリスケーラクロックの選択、PLL(逓倍回路)や発振器のウォーミングアップ等を設定することが可能です。

また、低消費電力モードがあり、モード遷移を行うことで電力の消費を抑えることが可能です。

本章では、クロックの制御および動作モードとモード遷移について説明します。

クロックに関連する機能としては以下のようなものがあります。

- システムクロックの制御
- プリスケーラクロックの制御
- クロック逓倍回路（PLL）の制御
- ウォーミングアップタイマの制御

また、動作モードとして NORMAL モードと各種低消費電力モードがあり、使用方法に応じて消費電力を抑えることができます。

6.2　レジスタ説明

6.2.1　レジスター覧

CG 関連のレジスタとアドレスを以下に示します。

Base Address = 0x4004_0200

レジスタ名		Address(Base+)
システムコントロールレジスタ	CGSYSCR	0x0000
発振コントロールレジスタ	CGOSCCR	0x0004
スタンバイコントロールレジスタ	CGSTBYCR	0x0008
PLL セレクトレジスタ	CGPLLSEL	0x000C

6.2.2 CGSYSCR(システムコントロールレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	1
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	FPSEL	-	PRCK		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	GEAR		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-18	−	R	リードすると"0"が読めます。
17-16	−	R/W	"01"をライトしてください。
15-13	−	R	リードすると"0"が読めます。
12	FPSEL	R/W	fperiph 選択 0: fgear 1: fc fperiph のソースクロックを選択します。
11	−	R	リードすると"0"が読めます。
10-8	PRCK[2:0]	R/W	プリスケーラクロック選択 000: fperiph 001: fperiph/2 010: fperiph/4 011: fperiph/8 100: fperiph/16 101: fperiph/32 110: Reserved 111: Reserved 周辺 I/O に供給するプリスケーラクロックを選択します。
7-3	−	R	リードすると"0"が読めます。
2-0	GEAR[2:0]	R/W	高速クロック(fc)のギア選択 000: fc 001: Reserved 010: Reserved 011: Reserved 100: fc/2 101: fc/4 110: fc/8 111: fc/16

6.2.3　CGOSCCR(発振コントロールレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	WUODR							
リセット後	1	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	WUODR				WUPSEL2	HOSCON	OSCSEL	XEN2
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	1
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	XEN1
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	WUPSEL1	PLLON	WUEF	WUEON
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-20	WUODR[11:0]	R/W	発振器用ウォーミングアップタイマの時間を設定
19	WUPSEL2	R/W	ウォーミングアップタイマ(WUP)のクロック 0: 内部(OSC2) 1:外部(OSC1) ウォーミングアップタイマのクロックソースを選択します。
18	HOSCON	R/W	ポート M/外部高速発振器選択(注 1) 0: ポート M 1:発振器(X1 / X2) 外部高速発振器(X1 / X2)とポート M のどちらを使用するか選択します。 外部発振器として選択する場合は、ポート M について、PMCR/PMPUP/PMPDN/PMIE=disable に設定してください(リセット後は、全て disable)。
17	OSCSEL	R/W	高速発振器の切り替え 0: 内部(OSC2) 1:外部(OSC1) 高速発振を外部(OSC1)へ切り替えます。切り替え後は高速発振器が外部(OSC1)へ切り替わった事(<OSCSEL> = "1")を確認し、内蔵発振器は速やかに停止してください。また、外部発振器に切り替え後は本ビットの書き替えによる内蔵発振器に切り替えを行わないでください。
16	XEN2	R/W	高速発振器 2 (内部: OSC2) 0: 停止 1:発振 高速発振器 2(OSC2)の動作を選択します。
15-12	−	R/W	"0"をライトしてください。
11-10	−	R	リードすると"0"が読めます。
9	−	R/W	"0"をライトしてください。
8	XEN1	R/W	高速発振器 1 (外部: OSC1) 0: 停止 1:発振 高速発振器 1(OSC1)の動作を選択します。
7-4	−	R	リードすると"0"が読めます。
3	WUPSEL1	R/W	ウォーミングアップタイマ(WUP)のクロック "0"を設定してください。
2	PLLON	R/W	PLL 動作 0:停止 1:発振 PLL(逓倍回路)の動作を選択します。 リセット解除後は停止状態です。PLL を使用する場合はこのビットをセットします。

Bit	Bit Symbol	Type	機能
1	WUEF	R	ウォーミングアップタイマ(WUP)ステータス 0: ウォーミングアップ終了 1: ウォーミングアップ中 このビットを読むことでウォーミングアップタイマの動作状態を確認できます。
0	WUEON	W	ウォーミングアップタイマ(WUP)制御 0: don't care 1: ウォーミングアップスタート このビットをセットすることでウォーミングアップタイマがスタートします。 (注)自動ウォーミングアップする低消費電力モード(表 6-6) からの復帰では、本レジスタの設定をする必要はありません。ソフトにて WUP スタートした場合にはウォーミングアップが終了していること(<WUEF> = "0") を確認してから、モード遷移するようにしてください。

注 1) <HOSCON>="1"設定時、ポート M のすべてのレジスタにアクセスできなくなります。(読み出すと常に"0"が読まれます)また、PMDATA,PMOD を除くポート M のレジスタのいずれかが"0"でない場合、<HOSCON>を"1"に設定することはできません。

6.2.4　CGSTBYCR(スタンバイコントロールレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	DRVE
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	RXEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	1
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	STBY		
リセット後	0	0	0	0	0	0	1	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-18	−	R	リードすると"0"が読めます。
17	−	R/W	"0"をライトしてください。
16	DRVE	R/W	STOP モード中の端子状態制御 0: STOP モード中端子をドライブしません 1: STOP モード中も端子をドライブします
15-10	−	R	リードすると"0"が読めます。
9	−	R/W	"0"をライトしてください。
8	RXEN	R/W	STOP モード解除後の高速発振器の動作選択 "1"を設定してください。
7-3	−	R	リードすると"0"が読めます。
2-0	STBY[2:0]	R/W	低消費電力モード選択 000: Reserved 001: STOP 010: Reserved 011: IDLE 100: Reserved 101: Reserved 110: Reserved 111: Reserved STOP モード起動時には内蔵発振器(OSC2)または外部発振器(OSC1)のうち、システムクロックとして使用していない側の発振器は必ず停止させておいてください。

6.2.5 CGPLLSEL(PLL セレクトレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	PLLSET1				-	PLLSET0		
リセット後	1	1	0	1	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PLLSET0							PLLSEL
リセット後	0	0	0	1	1	1	1	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます。
15-12	PLLSET1[3:0]	R/W	"1101"をライトしてください。
11	−	R	リードすると"0"が読めます。
10-1	PLLSET0[9:0]	R/W	PLL 逓倍数設定 外部周波数 8MHz 使用時は以下の設定をしてください。 5 逓倍: "01_0001_0011" 外部周波数 10MHz 使用時は以下の設定をしてください。 4 逓倍: "01_0000_1111" (注)上記以外の設定は禁止です。
0	PLLSEL	R/W	PLL 選択 0: fosc 1: PLL 使用 PLL で逓倍されたクロック(f_{PLL})をシステムクロック：fc へのクロックソースとするか選択します。 リセット解除後は "fosc"が 選択されているので、PLL を使用する場合は設定が必要です

6.3　クロック制御

6.3.1　クロックの種類

クロックの一覧を以下に示します。

fosc1　　: X1, X2 端子より入力されるクロック
fosc2　　: 内蔵発振器より入力されるクロック
fosc　　: fosc1 または fosc2 どちらか選択されたシステムクロック
f_{PLL}　　: PLL により逓倍(5 or 4 逓倍)されたクロック
fc　　: CGPLLSEL<PLLSEL>で選択されたクロック(高速クロック)
fgear　　: CGSYSCR<GEAR[2:0]>で選択されたクロック
fsys　　: fgear と同一クロック(システムクロック)
fperiph　　: CGSYSCR<FPSEL>で選択されたクロック
φT0　　: CGSYSCR<PRCK[2:0]>で選択されたクロック (プリスケーラクロック)

高速クロック fc と、プリスケーラクロック φT0 は以下のように分周することが可能です。

高速クロック　　: fc, fc/2, fc/4, fc/8, fc/16
プリスケーラクロック　　: fperiph, fperiph/2, fperiph/4, fperiph/8, fperiph/16, fperiph/32

6.3.2　リセット動作による初期値

リセット動作により、クロックの設定は下記のような状態に初期化されます。

外部高速発振器(OSC1)　　: 停止(X1,X2)
内部高速発振器(OSC2)　　: 発振
PLL (逓倍回路)　　: 停止
高速クロックギア　　: fc (分周なし)

リセット動作により、すべてのクロックの設定が f_{OSC2} と同じになります。

$f_C = f_{OSC2}$
$f_{SYS} = f_C (= f_{OSC2})$
$f_{periph} = f_C (= f_{OSC2})$
$\phi T0 = f_{periph} (= f_{OSC2})$

6.3.3 クロック系統図

クロック系統図を図 6-1 に示します。

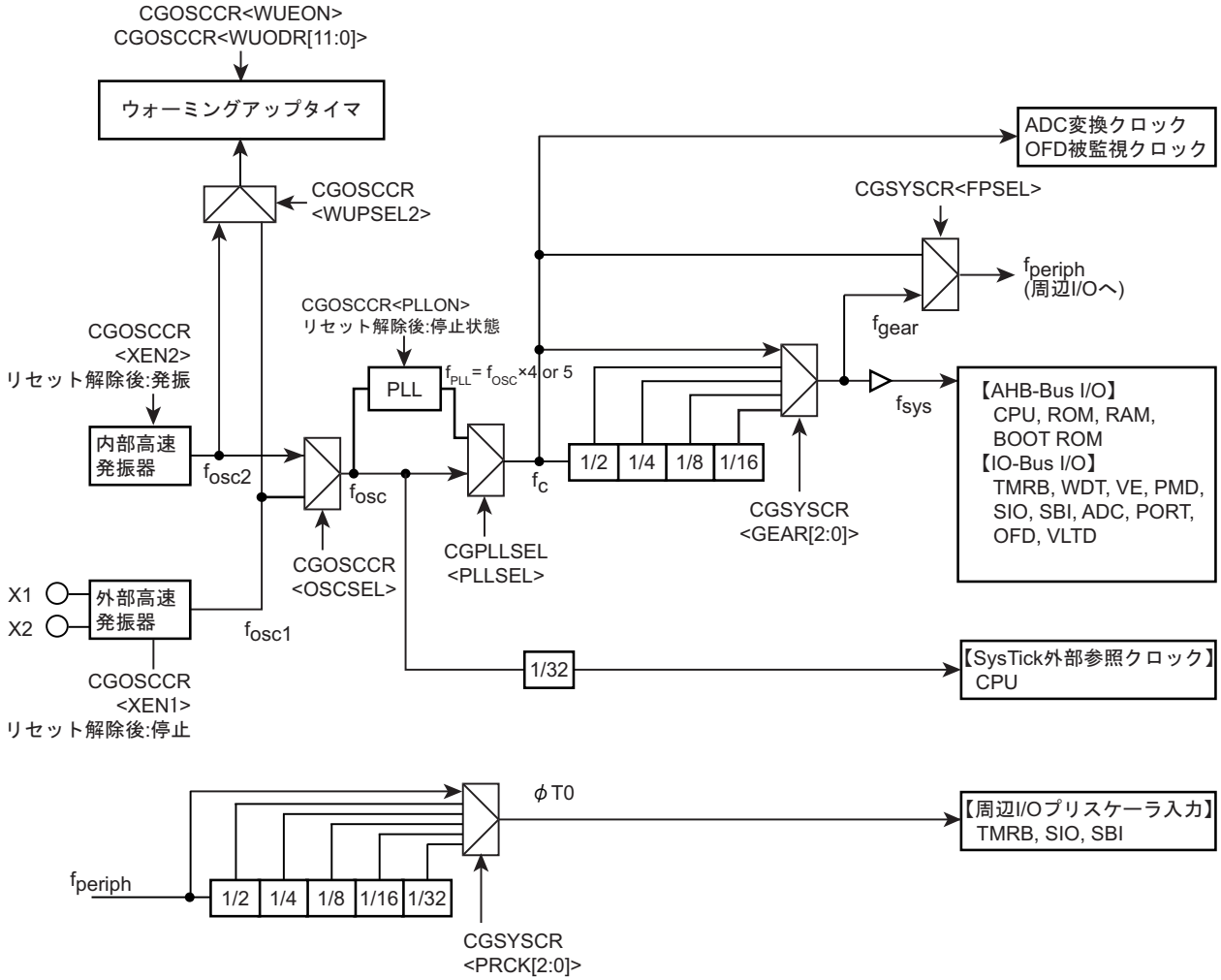


図 6-1 クロック系統図

セレクタに入力されるクロックのうち、矢印つきのものがリセット後の初期状態として選択されます。

6.3.4　クロック逓倍回路(PLL)

高速発振器の出力クロック fosc を 4 または 5 逓倍した f_{PLL} クロックを出力する回路です。これにより、発振器への入力周波数は低く内部クロックは高速にすることが可能です。

PLL はリセット解除後、ディセーブル状態です。PLL を有効にするためには、CGOSCCR<PLLON>を"1"に設定し、CGPLLSEL<PLLSEL>を"1"に設定することで fosc を 4 または 5 逓倍した f_{PLL} クロックを出力することができます。なお、PLL の動作が安定するまでの時間をウォーミングアップ機能等を用いて確保する必要があります。

6.3.4.1　安定時間

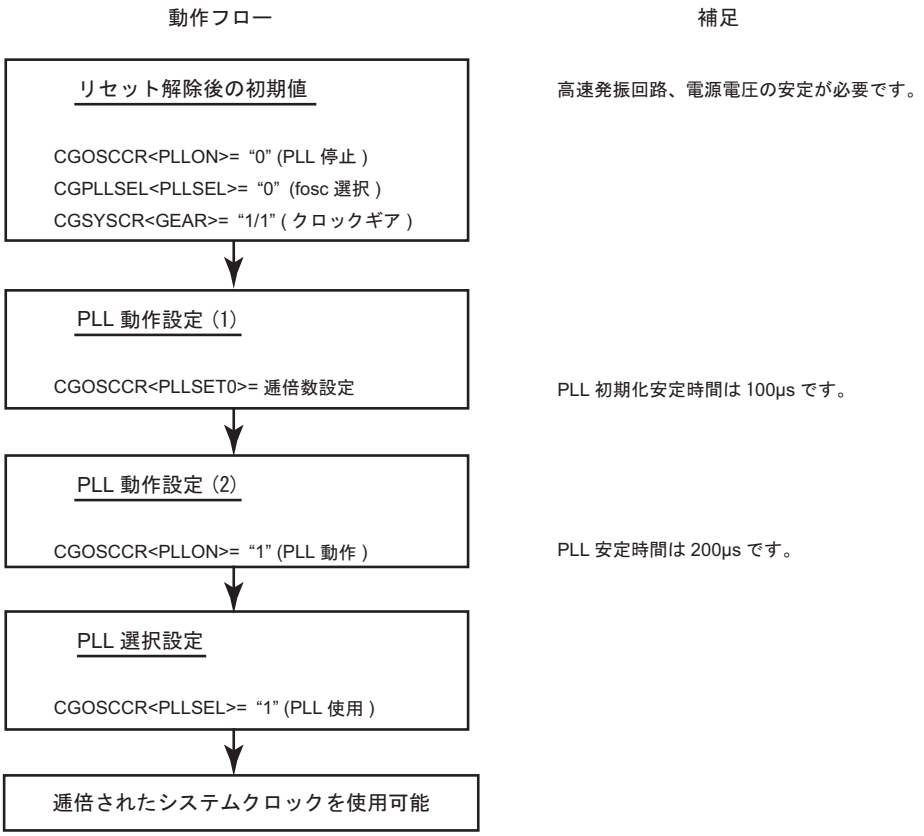
PLL 動作開始および、逓倍値の変更の際にはウォーミングアップ機能等を用いて安定時間を確保する必要があります。

動作を開始するときはロックアップ時間として約 200μs 必要です。

逓倍数の変更を行う場合、まず CGPLLSEL<PLLSEL> = "0"として逓倍クロックを使用しない設定に切り替えた上で<PLLON> を"0"として PLL を停止します。<PLLSET0>の逓倍値を変更し、PLL の初期化時間として約 100μs 経過後に<PLLON>を"1"として PLL の動作を開始します。その後、ロックアップ時間(PLL 安定時間)を確保してください。

6.3.4.2 PLL 設定シーケンス

以下にリセット解除後の PLL 設定シーケンスを示します。



注) PLL を停止する場合は、CGPLLSEL<PLLSEL>="0"を設定後、GPLLSEL<PLLSEL>をリードして"0"となっている事を確認した後に CGOSCCR<PLLON>="0”（PLL 停止）を設定してください。

注) PLL 逓倍数を変更した場合、PLL 初期化安定時間として 100μs 以上、CGOSCCR<PLLON>= "0"(PLL 停止)を保持する必要があります。

6.3.5　ウォーミングアップ機能

ウォーミングアップ機能は、STOP モード解除時に、ウォーミングアップタイマを用いて発振子の発振安定時間や、PLL の安定時間を確保するための機能です。詳細機能については「6.6.6 ウォーミングアップ」にて説明します。

注)　ウォーミングアップタイマ動作中に、低消費電力モードへ遷移しないでください。

ウォーミングアップ機能は、STOP モードからの復帰の際にも使用されます。この場合には、低消費電力モードからの復帰割り込みが発生すると自動的にタイマがカウントを開始し、設定された時間のカウント終了後、システムクロックが出力され CPU が動作を開始します。

STOP モードでは PLL がディセーブルになるため、復帰の際には内部発振器の安定のほかに、PLL の安定時間も考慮してウォーミングアップ時間を設定してください。

ウォーミングアップ機能の設定方法を説明します。

1. クロックの選択

   ウォーミングアップカウンタのカウントアップクロックを CGOSCCR<WUPSEL1>および<WUPSEL2>で選択します。(<WUPSEL1>は"0"を、<WUPSEL2>は"0"または"1"を設定してください。)

2. ウォーミングアップカウンタ設定値の算出

   ウォーミングアップ時間は CGOSCCR<WUODR[11:0]>により任意の値が設定可能です。

   以下にウォーミングアップ時間の計算式と設定例を示します。

$$\text{ウォーミングアップサイクル数} = \frac{\text{ウォーミングアップ時間}}{\text{ウォームアップクロック周期}}$$

<例>高速発振子 8MHz 使用時、ウォーミングアップ時間 5ms を設定する場合

$$\frac{\text{ウォーミングアップ時間}}{\text{ウォームアップクロック周期}} = \frac{5\text{ms}}{1/8\text{MHz}} = 40{,}000\text{サイクル} = 0\text{x}9\text{C}40$$

   下位 4 ビットを切り捨て、0x9C4 を CGOSCCR<WUODR[11:0]>に設定

3. ウォーミングアップの開始および終了確認

   ウォーミングアップタイマのスタートおよび終了確認は、CGOSCCR<WUEON><WUEF>を使用してソフトウエア (命令) により行います。

注)　ウォーミングアップタイマは発振クロックで動作しているため、発振周波数にゆらぎがある場合は誤差を含みます。従って概略時間としてとらえる必要があります。

以下に、ウォーミングアップ機能の設定例を示します。

ウォーミングアップ機能設定例 (外部発振の場合)

CGOSCCR<WUPSEL1> = "0"	:ウォーミングアップタイマクロック設定
CGOSCCR<WUPSEL2> = "1"	:ウォーミングアップタイマクロック設定(1:外部(OSC1))
CGOSCCR<WUODR[11:0]> = "0x9C4"	:ウォーミングアップ時間設定
内部発振器から外部発振器への切り替えは 6.3.6 を参照してください	
CGOSCCR<WUEON>="1"	: ウォーミングアップタイマ(WUP)スタート
CGOSCCR<WUEF>リード	: "0"(WUP 終了)になるまでウエイト

6.3.6　システムクロック

システムクロックは高速クロックのみですが、内部発振器と外部発振器のどちらかを選択して使用します。リセット解除時は内部発振器が有効（発振）となっており、外部発振器は停止しています。高速クロックは分周することができます。

- X1, X2 入力周波数: 8 MHz ~ 10MHz
- 内部発振入力周波数:10MHz
- クロックギア: 1/1, 1/2, 1/4, 1/8, 1/16 (リセット後は 1/1 分周)

表 6-1 高速クロック範囲(単位は MHz)

入力周波数		最低動作周波数	最大動作周波数	リセット後 (PLL = OFF, CG = 1/1)	クロックギア(CG) PLL = ON 時					クロックギア(CG) PLL = OFF 時				
					1/1	1/2	1/4	1/8	1/16	1/1	1/2	1/4	1/8	1/16
OSC1	8	1	40	8	40	20	10	5	2.5	8	4	2	1	-
	10			10	40	20	10	5	2.5	10	5	2.5	1.25	-
OSC2	10			10	40	20	10	5	2.5	10	5	2.5	1.25	-

注 1)　PLL=ON / OFF は CGOSCCR<PLLON>で設定します。
注 2)　高速クロックの分周の切り替えは、CGSYSCR<GEAR[2:0]>へ値を書き込むことにより実行されます。書き込み後、実際に切り替わるまでに若干の時間を要します。
注 3)　PLL=OFF 時、クロックギアの 1/16 は設定しないでください。
注 4)　SysTick 使用時、クロックギアの 1/16 は設定しないでください。

内部発振器から外部発振器への切り替え手順を以下に示します。

1. PMCR / PMPUP / PMPDN / PMIE の該当ビット = "0"　:PM0, PM1 について禁止(リセット後は、全て禁止)
2. CGOSCCR<WUODR[11:0]> = "ウォーミングアップ時間"　:ウォーミングアップ時間設定
3. CGOSCCR<HOSCON> = "1"　:外部発振使用：PM0, PM1 → X1, X2
4. CGOSCCR<XEN1> = "1"　: 外部高速発振器(OSC1)の発振
5. CGOSCCR<WUPSEL2> = "1"　:ウォーミングアップタイマクロック設定(1:外部(OSC1))
6. CGOSCCR<WUEON>="1"　: ウォーミングアップタイマ(WUP)スタート
   CGOSCCR<WUEF>リード　: "0" (WUP 終了)になるまでウエイト
7. CGOSCCR<OSCSEL> = "1"　:高速発振器を外部発振器(OSC1)に切り替え
8. CGOSCCR<OSCSEL>リード　: 外部発振選択を確認(<OSCSEL> = "1")
9. CGOSCCR<XEN2> = "0"　: 内部発振停止

なお、CGOSCCR<HOSCON> = "1" と設定したあとはポート M の全てのレジスタのアクセスが禁止されるため、ポート M の設定値を変更する事はできません。

6.3.7 プリスケーラクロック

周辺機能 には、それぞれにクロックを分周するプリスケーラがあります。これらのプリスケーラへ入力するクロック φT0 は、CGSYSCR<FPSEL>から選択されたクロック fperiph をさらに CGSYSCR<PRCK[2:0]>にて分周することが可能です。リセット後の φT0 は fperiph/1 が選択されます。

注) クロックギアを使用する場合、周辺 I/O の各ブロックのプリスケーラ出力 φTn は、φTn < fsys を満足するように時間設定(φTn が fsys よりも遅くなるように)してください。また、タイマカウンタなどの周辺 I/O 動作中にクロックギアを切り替えないようにしてください。

6.4　モードとモード遷移

6.4.1　モード状態遷移

動作モードとしてシステムクロックに高速クロックを使用する NORMAL モードがあります。

プロセッサコアの動作を停止して電力の消費を抑える低消費電力モードとして、IDLE モード、STOP モードがあります。

図 6-2 にモード状態遷移図を示します。

WFI 命令、Sleep-on-exit については、"Cortex-M3 テクニカルリファレンスマニュアル"を参照してください。

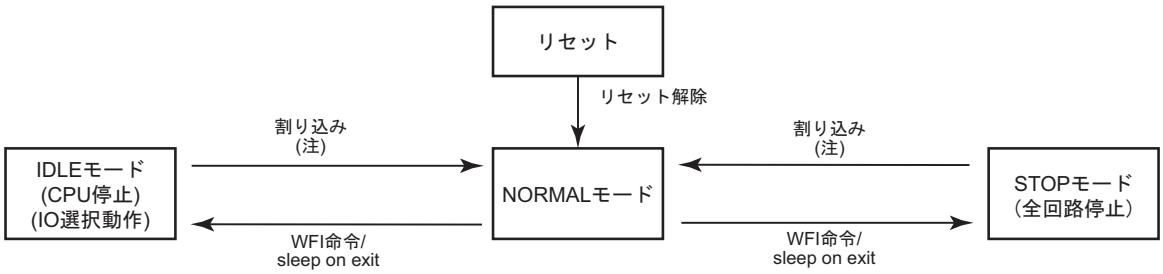


図 6-2 モード状態遷移図

注)　復帰時にウォーミングアップが必要となります。ウォーミングアップ時間の設定は STOP モードに入る前のモード(NORMAL)にて設定する必要があります。ウォーミングアップ時間に関しては、「6.6.6 ウォーミングアップ」を参照してください。

6.5　動作モード

動作モードには NORMAL モードがあります。NORMAL モードの特長は次のとおりです。

6.5.1　NORMAL モード

CPU コアおよび周辺ハードウエアを高速クロックで動作させるモードです。リセット解除後は、NORMAL モードになります。

6.6 低消費電力モード

低消費電力モードには、IDLE, STOP モードがあります。低消費電力モードに移行するには、システムコントロールレジスタ CGSTBYCR<STBY[2:0]>にてモードを選択し、WFI(Wait For Interrupt)命令を実行します。WFI 命令によって低消費電力モードへ移行した場合、低消費電力モードからの復帰はリセットまたは割り込み発生により行われます。割り込みで復帰する場合には、設定を行っておく必要があります。詳細は「例外」の章の「割り込み」を参照してください。

注 1) 本製品ではイベントによる復帰はサポートしていないため、WFE (Wait For Event)による低消費電力モードへの移行は行わないでください。

注 2) 本製品は、Cortex-M3 コアの SLEEPDEEP による低消費電力モードはサポートしていません。システム制御レジスタの<SLEEPDEEP>ビットは設定しないでください。

IDLE, STOP モードの特長は次のとおりです。

6.6.1 IDLE モード

CPU のみが停止するモードです。周辺機能は、各モジュールの中のレジスタに IDLE モード時の動作/停止設定レジスタを 1 ビット持ち、IDLE モードでの動作設定が可能です。IDLE モード時に動作停止に設定された周辺機能は、IDLE モードへ遷移した時の状態で停止します。

以下に IDLE モードでの動作を設定できる周辺機能の一覧を示します。設定方法は、各機能の章を参照してください。

- 16 ビットタイマ/イベントカウンタ(TMRB)
- シリアルチャネル(SIO/UART)
- シリアルバスインタフェース(I2C/SIO)
- ウォッチドッグタイマ(WDT)
- ベクトルエンジン(VE+)

注) ウォッチドッグタイマは IDLE モードへ遷移する前に停止してください。

6.6.2　STOP モード

STOP モードでは、内部発振器も含めてすべての内部回路が停止します。

STOP モードが解除されると、STOP モードへ移行する直前の動作モードへ復帰し、動作を開始します。

STOP モードでは、CGSTBYCR<DRVE>の設定により端子の状態を設定することができます。STOP モード時の端子状態を表 6-2 に示します。

表 6-2 STOP モード時の端子状態

	機能	入出力	<DRVE> = 0	<DRVE> = 1
ポート以外	$\overline{\text{RESET}}$, MODE	入力専用	o	
	VOUT15, VOUT3	出力専用	o	
ポート	X1	入力専用	×	
	X2	出力専用	"High"レベル出力	
	SWCLK	入力	o	
	SWDIO	入力	o	
		出力	データ有効時はイネーブル データ無効時はディセーブル	
	U0, V0, W0, X0, Y0,Z0	出力	データ有効時はイネーブル データ無効時はディセーブル	
	INT6, INT7, INTC	入力	o	
	上記以外の機能端子または汎用入出力として使用	入力	×	o
		出力	×	o

o :入力または出力がイネーブルであることを示します。
× :入力または出力がディセーブルであることを示します。

6.6.3 低消費電力モードの選択

低消費電力モード選択は、CGSTBYCR<STBY[2:0]>の設定で選択されます。

表 6-3 に<STBY[2:0]>の設定より選択されるモードを示します。

表 6-3 低消費電力モードと設定

モード	CGSTBYCR <STBY[2:0]>
STOP	001
IDLE	011

注) **上記以外の設定は行わないでください。**

6.6.4 各モードにおける動作状態

各モードにおける動作状態を表 6-4 に示します。

IO ポートについては「o」は入出力の有効、「×」は無効を、その他の機能については「o」はクロックが供給されていることを、「×」は供給されていないことを示します。

表 6-4 各動作モードにおける動作状態

ブロック	NORMAL	IDLE	STOP
プロセッサコア	o	×	×
I/O ポート	o	o	* (注 1)
PMD	o	o	×
OFD	o	o	×
ADC	o	o	×
VE	o	モジュールごとに動作/停止選択可能	×
SIO	o		×
SBI	o		×
TMRB	o		×
WDT	o		×
AMP	o	o	o (注 2)
VLTD	o	o	o (注 2)
POR	o	o	o (注 2)
DNF	o	o	×
CG	o	o	×
PLL	o	o	×
高速発振器(fc)	o	o	×

o : 対象のモード中に動作が可能

× : 対象のモードに移行すると自動的にモジュールへのクロックが停止

注 1) CGSTBYCR<DRVE>の設定によります。

注 2) クロックは供給されていませんが、動作停止しません。

6.6.5　低消費電力モードの解除

低消費電力モードからの解除は、割り込み, リセットによって行うことができます。使用できるスタンバイ解除ソースは、低消費電力モードにより決まります。詳細を表 6-5 に示します。

表 6-5 解除ソースと解除可能なモード

低消費電力モード			IDLE (プログラマブル)	STOP
解除ソース	割り込み	INT6, 7, C (注 1)	o	o
		INTRX0, 1, INTTX0, 1	o	×
		INTVCNB	o	×
		INTEMG1	o	×
		INTOVV1	o	×
		INTADBPDB	o	×
		INTTB00, 40, 50, 70 INTTB01, 41, 51, 71	o	×
		INTPMD1	o	×
		INTCAP00, 50, 70 INTCAP01, 51, 71	o	×
		INTADBCPA, INTADBCPB	o	×
		INTADBSFT	o	×
		INTADBTMR	o	×
		INTSBI0	o	×
	SysTick 割り込み		o	×
	マスク不能割り込み (INTWDT)		o	×
	RESET ($\overline{\text{RESET}}$ 端子)		o	o

o : 解除後、割り込み処理を開始します(RESET は本製品を初期化します)。
× : 解除に使用できません。

注 1)　レベルモードの割り込みによる解除を行う場合、割り込み処理が開始されるまでレベルを保持してください。それ以前でレベルを変化させた場合は、正しい割り込み処理を開始できません。
注 2)　低消費電力モードへ移行する場合は、CPU で復帰要因以外の割り込みを禁止してください。禁止していないと復帰要因以外の割り込みで解除が行われる場合があります。
注 3)　各モードからの復帰に必要なウォーミングアップについては「6.6.6 ウォーミングアップ」を参照してください。

・ 割り込み要求による解除

割り込みによって低消費電力モードを解除する場合、CPU で割り込みが検出されるよう準備しておく必要があります。STOP モードの解除に使用する割り込みは、CPU の設定のほかにクロックジェネレータで割り込み検出の設定を行う必要があり、またデジタルノイズフィルタ回路を禁止にする必要があります。

・ マスク不能割り込み(NMI)による解除

マスク不能割り込みの要因には、WDT 割り込み(INTWDT)があります。INTWDT は IDLE モードでのみ使用可能です。

注) IDLE モード中は CPU によるウォッチドッグタイマのクリアができませんので注意してください。

・ リセットによる解除

$\overline{\text{RESET}}$ 端子によるリセットですべての低消費電力モードからの解除を行うことができます。リセットで解除した場合には通常のリセット動作と同様になり、解除後は NORMAL モードですべてのレジスタが初期化された状態になります。

・ SysTick 割り込みによる解除

SysTick 割り込みは IDLE モードでのみ使用可能です。

割り込みの詳細に関しては、「例外」の章の「割り込み」をご参照ください。

6.6.6　ウォーミングアップ

モード遷移の際には内部発振器(OSC2)の安定のためウォーミングアップが必要な場合があります。

STOP モードから NORMAL モードへの遷移では、自動的にウォーミングアップ用カウンタが起動され、設定されているウォーミングアップ時間経過後にシステムクロックの出力が開始されます。このため、STOP モードに移行する命令を実行する前に CGOSCCR<WUPSEL1><WUPSEL2>でウォーミングアップする発振器の選択(注 1)および、<WUODR>でウォーミングアップ時間の設定を行ってください。

注 1)　TMPM37AFSQG では、常に CGOSCCR<WUPSEL1>=0 を設定してください。

注 2)　STOP モードでは PLL がディセーブルになるため、STOP モード解除の際には内部発振器の安定のほかに、PLL の安定時間も考慮してウォーミングアップ時間を設定してください。PLL の安定時間は、約 200 μs です。

注 3)　自動ウォーミングアップする低消費電力モードからの復帰では、CGOSCCR<WUEON>の設定をする必要はありません。

各動作モード遷移時におけるウォーミングアップ有無を表 6-6 に示します。

表 6-6 各動作モード遷移時のウォーミングアップ設定

動作モード遷移	ウォーミングアップ設定
NORMAL → IDLE	不要
NORMAL → STOP	不要
IDLE → NORMAL	不要
STOP → NORMAL	自動ウォーミングアップ

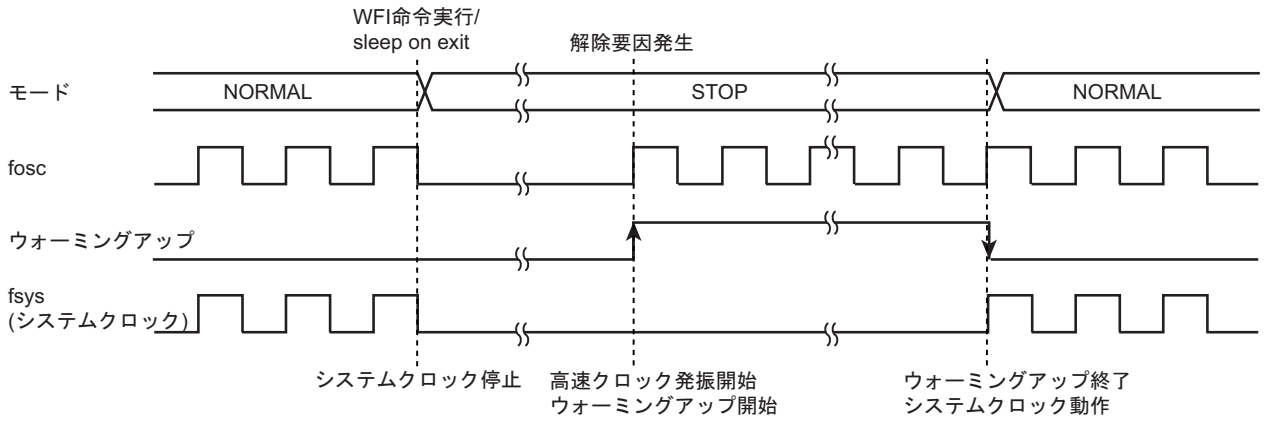
6.6.7 モード遷移によるクロック動作

モード遷移の際の、クロック動作について示します。

6.6.7.1 NORMAL → STOP → NORMAL 動作モード遷移

STOP モードから NORMAL モードへ復帰する場合、ウォーミングアップは自動的に起動します。STOP モードへ遷移する前にウォーミングアップ時間の設定を行ってください。

リセットで NORMAL モードへ復帰する場合にはウォーミングアップは行われませんので、発振動作が安定するまでリセット信号を有効に保ってください。



第 7 章　内蔵高速発振調整機能

TMPM37AFSQG には、内蔵高速発振の周波数を調整する機能があります。

注)　この調整機能は、OFD 用基準クロックには適用されません。

7.1　構成

内蔵高速発振調整機能は、16 ビットタイマ/ イベントカウンタ(TMRB) のパルス幅測定機能を使用して周波数の調整を行います。

図 7-1 に機能ブロック図を示します。

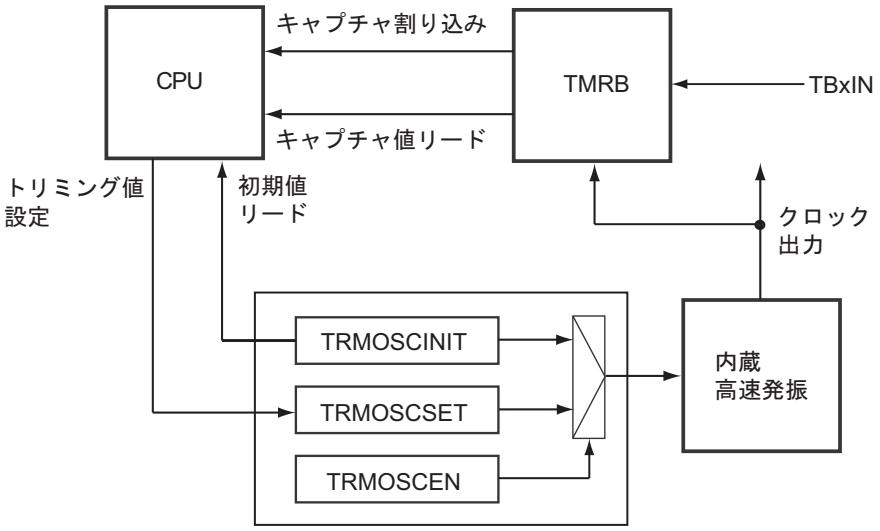


図 7-1 機能ブロック図

7.2　レジスタ説明

7.2.1　レジスター覧

制御レジスタとアドレスを以下に示します。

Base Address = 0x4004 _ 0300

レジスタ名(x=0~7)		Address(Base+)
プロテクトレジスタ	TRMOSCPRO	0x0000
イネーブルレジスタ	TRMOSCEN	0x0004
初期トリミング値モニタレジスタ	TRMOSCINIT	0x0008
トリミング値設定レジスタ	TRMOSCSET	0x000C

7.2.2　TRMOSCPRO (プロテクトレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PROTECT							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7-0	PROTECT[7:0]	R/W	レジスタ書き込み制御 0xC1 : 許可 0xC1 以外 : 禁止 "0xC1" を設定すると、TRMOSCEN, TRMOSCINIT, TRMOSCSET に書き込みができるようになります。

7.2.3 TRMOSCEN (イネーブルレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	TRIMEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-1	−	R	リードすると"0"が読めます。
0	TRIMEN	R/W	トリミング制御 0 : 禁止 1 : 許可 "1" を設定すると、内蔵発振器のトリミング値が、TRIMOSCINIT で読み出される値から TRMOSCSET に設定した値に切り替わります。

7.2.4　TRMOSCINIT (初期トリミング値モニタ レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	TRIMINITC					
リセット後	0	0	不定					
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	TRIMINITF			
リセット後	0	0	0	0	不定			

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-14	−	R	リードすると"0"が読めます。
13-8	TRIMINITC [5:0]	R	初期粗トリミング値 出荷時の粗トリミング値が読めます。
7-4	−	R	リードすると"0"が読めます。
3-0	TRIMINITF[3:0]	R	初期微トリミング値 出荷時の微トリミング値が読めます。

粗トリミング、微トリミングの具体的な設定と調整値については、「7.3.2 調整範囲」を参照してください。

7.2.5 TRMOSCSET (トリミング値設定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	TRIMSETC					
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	TRIMSETF			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-14	−	R	リードすると"0"が読めます。
13-8	TRIMSETC [5:0]	R/W	粗トリミング値設定 粗トリミング値を設定します。
7-4	−	R	リードすると"0" が読めます。
3-0	TRIMSETF[3:0]	R/W	微トリミング値設定 微トリミング値を設定します。

粗トリミング、微トリミングの具体的な設定と調整値については、「7.3.2 調整範囲」を参照してください。

7.3　動作説明

7.3.1　概要

周波数の調整は、粗トリミング値と微トリミング値で行います。

出荷時の設定値は、TRMOSCINIT<TRIMINITC> および<TRIMINITF> で確認できます。変更する設定値は、TRMOSCSET<TRIMSETC> および<TRIMSETF> に設定します。TRMOSCEN<TRIMEN> に"1" を設定することで内蔵高速発振器の設定値が切り替わります。

注)　リセット後、TRMOSCSET、TRMOSCEN への書き込みは禁止されています。書き込みを行うためには、TRMOSCPRO<PROTECT> に"0xC1" を設定する必要があります。

7.3.2　調整範囲

粗トリミングは 1.8% ステップで−57.6% ~ +55.8% の調整が可能です。微トリミングは 0.3% ステップで-2.4% ~ +2.1% の調整が可能です。表 7-1 に調整範囲を示します。

注)　1 ステップの値は typ. 条件のものであり、粗トリミングでは±0.2%、微トリミングでは±0.1% 程度の誤差があります。

表 7-1 調整範囲

粗トリミング	
<TRIMSETC>	周波数変化 (typ.)
011111	+55.8%
・	・
000001	+1.8%
000000	±0%
111111	−1.8%
111110	−3.6%
・	・
100000	−57.6%

微トリミング	
<TRIMSETF>	周波数変化 (typ.)
0111	+2.1%
・	・
0001	+0.3%
0000	±0%
1111	−0.3%
1110	−0.6%
・	・
1000	−2.4%

7.3.3　TMRB を使用した内蔵発振周波数測定

内蔵高速発振の周波数を測定するために、TMRB のパルス幅測定機能を使用することができます。TMRB のプリスケーラ用クロック ΦT0 として、内蔵高速発振を選択します。TBxIN から基準となるパルスを入力し、キャプチャ機能を用いてパルスの立ち上がりエッジでアップカウンタ値をキャプチャします。キャプチャ値から算出した TBxIN の周波数と実際の周波数の差から調整値を決定します。

第 8 章　例外

この章では、例外の特長, 種類, 処理について概略を説明します。

例外は CPU のアーキテクチャと深くかかわる部分ですので、必要に応じて"Cortex-M3 テクニカルリファレンスマニュアル"もご覧ください。

8.1　概要

例外は CPU に対し現在実行中の処理を中断して別の処理に移ることを要求するものです。

例外には、何らかの異常な状態が起こったときや例外を発生する命令を実行したときに発生するものと、外部端子や周辺機能からの割り込み要求信号といった、ハードウエアによる要因で発生する割り込みがあります。

すべての例外は優先度にしたがって CPU 内にあるネスト型ベクタ割り込みコントローラ(NVIC)によって処理されます。例外が発生すると、CPU はそのときの状態をスタックに退避し、割り込み処理ルーチンへ分岐します。割り込み処理ルーチンの実行後、スタックに退避した情報は自動的に復帰されます。

8.1.1　種類

例外には以下のようなものがあります。

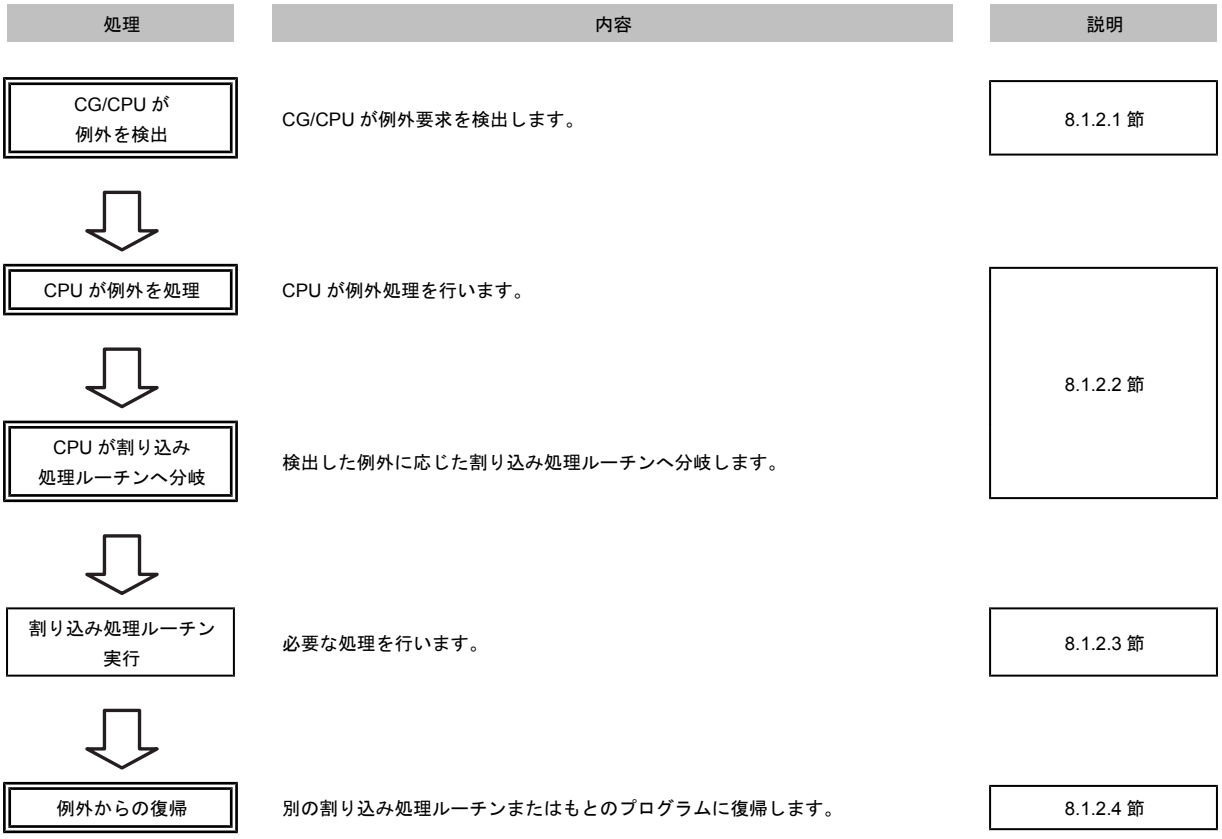
それぞれの例外の詳細な内容は、"Cortex-M3 テクニカルリファレンスマニュアル"をご覧ください。

- リセット
- マスク不能割り込み(NMI)
- ハードフォールト
- メモリ管理
- バスフォールト
- 用法フォールト
- SVCall (スーパバイザコール)
- デバッグモニタ
- PendSV
- SysTick
- 外部割り込み

8.1.2　処理の流れ

例外／割り込みの処理の流れの概略を以下に示します。以下の説明で、 はハードウエアによる処理を、 はソフトウエアによる処理を示しています。

それぞれの処理の内容について、後続の節で説明します。



8.1.2.1 例外要求と検出

(1) 例外要求の発生

例外は、CPU の命令実行, メモリアクセス, 外部割り込み端子や周辺機能からの割り込み要求などにより発生します。

CPU の命令実行による例外の要求は、例外を発生する命令の実行や、命令実行中の異常が要因で発生します。

メモリアクセスによる例外の要求は、実行不可領域からの命令フェッチや、フォールト領域へのアクセスにより発生します。

割り込みの要求は、外部割り込み端子からの信号入力や周辺機能から発生します。低消費電力モード解除に使用する割り込みの場合、クロックジェネレータの設定も必要になります。詳細は「8.5 割り込み」の節で説明します。

(2) 例外の検出

複数の例外が同時に検出された場合には、CPU は優先度にしたがって最も優先度の高い例外を選択します。

各例外の優先度は以下のとおりです。"構成可能"と記載された例外は、優先度を設定することができます。また、メモリ管理、 バスフォールト、 用法フォールトは許可/禁止を選択することができます。

禁止された例外が発生した場合にはハードフォールトとして扱われます。

表 8-1 例外の種類と優先度

番号	例外	優先度	要因
1	リセット	−3 (最高)	リセット端子, WDT, POR, VLTD, OFD, SYSRESETREQ
2	マスク不能割り込み	−2	WDT
3	ハードフォールト	−1	より優先度の高いフォールトの処理中、または禁止されているために発生できないフォールト
4	メモリ管理	構成可能	MPU (メモリ保護ユニット)からの例外(注 1) 実行不可(XN) (Execute Never)領域からの命令フェッチ
5	バスフォールト	構成可能	メモリマップのハードフォールト領域に対するアクセス
6	用法フォールト	構成可能	未定義命令の実行や、命令実行によって発生するその他のエラー
7~10	予約	−	
11	SVCall	構成可能	SVC 命令によるシステムサービスの呼び出し
12	デバッグモニタ	構成可能	CPU がフォールト中でないときのデバッグモニタ
13	予約	−	
14	PendSV	構成可能	保留可能なシステムサービスへの要求
15	SysTick	構成可能	システムタイマからの通知
16~	外部割り込み	構成可能	外部割り込み端子や周辺機能(注 2)

注 1) 本製品は MPU を搭載していません。

注 2) 外部割り込みは、製品により要因と番号が異なります。具体的な要因と番号については、「8.5.2 要因一覧」を参照してください。

(3)　優先度の設定

・　優先度レベル

外部割り込みの優先度は、割り込み優先度レジスタで、それ以外の例外はシステムハンドラ優先度レジスタで該当する<PRI_n>に設定します。

<PRI_n>は、構成を変更することが可能になっており、優先度設定のためのビット数は製品により 3 ビット~ 8 ビットのいずれかになります。このため、設定できる優先度の範囲も製品により異なります。

TMPM37AFSQG では、<PRI_n>は 3 ビット構成になっています。

8 ビットの構成の場合、優先度は 0 ~ 255 のレベルを設定できます。最も高い優先度は"0"です。複数の要因を同じ優先度に設定した場合、番号の小さい例外の優先度が高くなります。

・　優先度のグループ化

優先度をグループ化することもできます。アプリケーション割り込みおよびリセット制御レジスタの<PRIGROUP>を設定することで、<PRI_n>を横取り優先度とサブ優先度に分割することができます。

優先度はまず横取り優先度で判定され、横取り優先度が同じ場合サブ優先度で判定されます。サブ優先度も同じ場合は例外番号の小さいほうが優先度が高くなります。

表 8-2 に優先度のグループ化の設定についてまとめます。表中の横取り優先度数、サブ優先度数は、<PRI_n>が 8 ビット構成の場合の数です。

表 8-2 優先度のグループ化設定

<PRIGROUP[2:0]> の設定	<PRI_n[7:0]>		横取り優先度数	サブ優先度数
	横取り フィールド	サブ優先度 フィールド		
000	[7:1]	[0]	128	2
001	[7:2]	[1:0]	64	4
010	[7:3]	[2:0]	32	8
011	[7:4]	[3:0]	16	16
100	[7:5]	[4:0]	8	32
101	[7:6]	[5:0]	4	64
110	[7]	[6:0]	2	128
111	なし	[7:0]	1	256

注)　<PRI_n>の構成が 8 ビットより小さい場合、下位ビットは"0"となります。
たとえば、3 ビット構成の場合、<PRI_n[7:5]>で優先度が設定され、<PRI_n[4:0]>は"00000"になります。

8.1.2.2 例外の処理と割り込み処理ルーチンへの分岐(横取り)

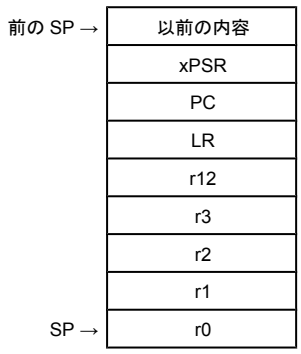
例外により、実行中の処理を中断して割り込み処理ルーチンへ分岐する動作を"横取り"と呼びます。

(1) レジスタの退避

例外を検出すると、CPU は 8 つのレジスタの内容を退避します。退避するレジスタと退避の順序は以下のとおりです。

1. プログラムカウンタ(PC)
2. プログラムステータスレジスタ(xPSR)
3. r3 ~ r0
4. r12
5. リンクレジスタ(LR)

レジスタの退避が終了すると、SP は 8 ワード分減らされます。レジスタ退避終了後のスタックの状態は以下のようになっています。



(2) 割り込み処理ルーチンのフェッチ

レジスタの退避と同時に CPU は割り込み処理ルーチンの命令フェッチを行います。

各例外の割り込み処理ルーチンの先頭番地をベクタテーブルに準備しておきます。ベクタテーブルはリセット後、コード領域の 0x0000_0000 番地に置かれます。ベクタテーブルは、ベクタテーブルオフセットレジスタを設定することでコード空間または SRAM 空間の任意のアドレスに置くことができます。

また、ベクタテーブルにはメインスタックの初期値を設定します。

(3) 後着

割り込み処理ルーチンの実行前に、検出した例外よりも優先度の高い例外を検出した場合、CPU は優先度の高い例外の処理に移行します。これを後着と呼びます。

後着の場合、CPU は新たに検出された例外の割り込み処理ルーチンのフェッチを改めて行い、分岐しますが、再度レジスタの内容を退避することはありません。

(4)　ベクタテーブルの構成

ベクタテーブルの構成は以下のとおりです。

最初の 4 ワード(スタックの初期値、リセット、マスク不能割り込み、ハードフォールトの割り込み処理ルーチンアドレス)は必ず設定する必要があります。

その他の例外については、割り込み処理ルーチンのアドレスを必要に応じて準備します。

オフセット	例外	内容	備考
0x00	リセット	メインスタックの初期値	必須
0x04	リセット	割り込み処理ルーチンアドレス	必須
0x08	マスク不能割り込み	割り込み処理ルーチンアドレス	必須
0x0C	ハードフォールト	割り込み処理ルーチンアドレス	必須
0x10	メモリ管理	割り込み処理ルーチンアドレス	任意
0x14	バスフォールト	割り込み処理ルーチンアドレス	任意
0x18	用法フォールト	割り込み処理ルーチンアドレス	任意
0x1C ~ 0x28	予約		
0x2C	SVCall	割り込み処理ルーチンアドレス	任意
0x30	デバッグモニタ	割り込み処理ルーチンアドレス	任意
0x34	予約		
0x38	PendSV	割り込み処理ルーチンアドレス	任意
0x3C	SysTick	割り込み処理ルーチンアドレス	任意
0x40	外部割り込み	割り込み処理ルーチンアドレス	任意

8.1.2.3　割り込み処理ルーチンの発行

割り込み処理ルーチンでは、発生した例外に応じて必要な処理を行います。割り込み処理ルーチンはユーザが準備します。

割り込み処理ルーチンでは、通常の処理プログラムに戻ったときに再度同じ割り込みが発生しないよう、割り込み要求の取り下げなどの処理が必要になる場合があります。

割り込みについての詳細は「8.5 割り込み」の節で説明します。

割り込み処理ルーチンの実行中に現在処理中の例外よりも優先度の高い例外を検出した場合、CPU は現在実行中の割り込み処理ルーチンを中断し新たに検出された例外の処理を行います。

8.1.2.4 例外からの復帰

(1) 割り込み処理ルーチンからの復帰先

割り込み処理ルーチン終了時の状態により復帰先が決まります。

- テールチェイン

  保留中の例外が存在し、中断されている例外処理がないかまたは中断されているどの例外よりも優先度が高い場合、保留中の例外の割り込み処理ルーチンへ復帰します。

  このとき、スタックの退避と復帰は省略されます。この動作をテールチェインと呼びます。

- 処理が中断されている割り込み処理ルーチンへ復帰

  保留中の例外がない場合、または存在しても処理が中断されている例外の優先度が高い場合、中断されている例外の割り込み処理ルーチンへ復帰します。

- 元のプログラムへ復帰

  保留中の例外も処理が中断されている例外もない場合、元のプログラムへ復帰します。

(2) 復帰処理

CPU は、割り込み処理ルーチンから復帰する際に以下の処理を行います。

- レジスタの復帰

  退避していた 8 つのレジスタ(xPSR, PC, LR, r12, r3～r0)を復帰し SP を調整します。

- 割り込み番号のロード

  退避していた xPSR から現在有効な割り込み番号をロードします。この割り込み番号によって CPU はどの割り込みに復帰するかを制御します。

- SP の選択

  例外(ハンドラモード)へ復帰する場合、SP は SP_main です。スレッドモードへ復帰する場合、SP は SP_main または SP_process です。

8.2　リセット例外

リセット例外には、以下の 6 種類の要因があります。

リセットの要因を確認するためには、クロックジェネレータレジスタの CGRSTFLG を参照してください。

- 外部リセット端子

  外部リセット端子を"Low"にしたのち、"High"にすることによりリセット例外が発生します。

- POR によるリセット例外

  POR にリセットを発生する機能があります。詳細は「パワーオンリセット回路(POR)」の章をご覧ください。

- VLTD によるリセット例外

  VLTD にリセットを発生する機能があります。詳細は「電圧検出回路(VLTD)」の章をご覧ください。

- OFD によるリセット例外

  OFD にリセットを発生する機能があります。詳細は「周波数検知回路(OFD)」の章をご覧ください。

- WDT によるリセット例外

  WDT にリセットを発生する機能があります。詳細は「ウォッチドッグタイマ(WDT)」の章をご覧ください。

- SYSRESETREQ によるリセット例外

  NVIC レジスタの、アプリケーション割り込みおよびリセット制御レジスタの SYSRESETREQ ビットをセットすることで、リセットを発生させることができます。

8.3　マスク不能割り込み(NMI)

WDT にマスク不能割り込みを発生する機能があります。詳細は「ウォッチドッグタイマ」の章をご覧ください。

マスク不能割り込みの要因を確認するためには、クロックジェネレータレジスタの CGNMIFLG を参照してください。

8.4　SysTick

SysTick は、CPU の持つシステムタイマを使用した割り込み機能です。

SysTick リロード値レジスタに値を設定し、SysTick 制御およびステータスレジスタで機能をイネーブルにすると、リロード値レジスタに設定された値がカウンタへリロードされカウントダウンを開始します。カウンタが"0"になると SysTick 例外を発生します。また、例外を保留しフラグでタイマが"0"になったことを確認することもできます。

注)　本製品では、外部参照クロックとして fosc(CGOSCCR<OSCSEL><EOSCON>で選択されるクロック)を 32 分周したクロックが使用されます。

8.5 割り込み

この節では、割り込み要求の伝わる経路、要因、 必要な設定について説明します。

割り込みは、割り込み要因ごとに割り込み要求信号により CPU へ通知されます。CPU は、優先順位付けを行い、最も優先度の高い割り込みを発生します。

低消費電力モード解除に使用する割り込み要求は、クロックジェネレータに入力され低消費電力モード解除ロジックを経由して CPU に要因が伝わります。低消費電力モード解除に使用する要因ごとに、低消費電力モード解除ロジックの設定が必要です。

8.5.1 割り込み要求

8.5.1.1 経路

割り込み要求の経路を図 8-1 に示します。

周辺機能からの割り込み要求のうち、低消費電力モード解除に使用されないものは直接 CPU に入力されます。(経路 ①)

周辺機能からの割り込み要求(経路 ②)のうち、低消費電力モード解除に使用されるものはクロックジェネレータの低消費電力モード解除のロジックに入力されます。それぞれの要因ごとに、低消費電力モード解除のアクティブレベルが検出されると、低消費電力解除ロジックにより、あらたな割り込み要求信号に変換され、CPU に入力されます(経路 ⑥⑦⑧)。

外部割り込み端子からの割り込み要求(経路③)は<INTxEN>により、低消費電力モード解除に使用する、しないを選択できます。

低消費電力モード解除に使用されるものは、クロックジェネレータの低消費電力モード解除のロジックに入力されます。あらかじめ設定されたアクティブレベルが検出されると、、低消費電力解除ロジックにより、あらたな割り込み要求信号に変換され、CPU に入力されます(経路 ②④⑤)。

低消費電力モード解除に使用されないものは、直接 CPU に入力されます(経路 ②③⑤)。

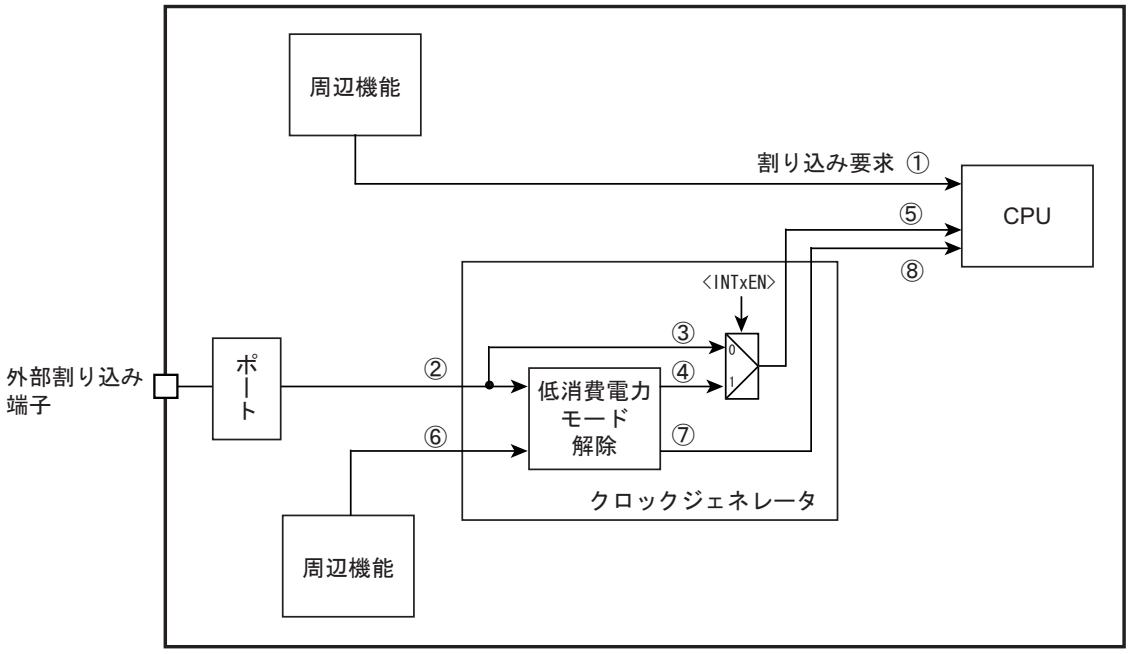


図 8-1 割り込み要求の経路

8.5.1.2　割り込み要求の発生

割り込み要求は、割り込み要因に割り当てられた外部割り込み端子、周辺機能、NVIC レジスタの割り込み保留セットレジスタの設定により発生します。

- 外部割り込み端子からの割り込み

  外部割り込み端子を使用する場合、ポートの制御レジスタで端子を割り込み機能に設定します。
- 周辺機能の割り込み

  周辺機能の割り込みを使用する場合、使用する周辺機能で割り込み要求が発生されるよう設定する必要があります。

  設定の詳細については各章を参照ください。
- 割り込み要求の強制的な発生

  NVIC の割り込み保留セットレジスタの該当するビットをセットすることで、割り込み要求を強制的に発生させることができます。

CPU は、割り込み要求の"High"レベルを割り込みとして認識します。

8.5.1.3　低消費電力モード解除の設定

割り込み要求のうち、いくつかは低消費電力モード解除に使用することができます。

割り込み要求を低消費電力モード解除に使用するには、クロックジェネレータの<INTxEN>を"1"に設定し、<EMCGx[2:0]>で解除のためのアクティブレベルを設定します。

外部割り込み端子に<EMCGx[2:0]>で設定したアクティブレベルが入力されると、低消費電力モード状態は解除され、"High"レベルの割り込み要求が発生します。

<EMCGx[2:0]>が"100"のときには、低消費電力モードが解除されるまでに検出されたアクティブレベルを EMSTx[1:0]から読み出すことができます。

割り込み要求の取り下げは、CGICRCG<ICRCG>で行います。CGICRCG<ICRCG>で割り込み要求が取り下げられると、EMSTx[1:0]は"00"に初期化されます。

8.5.2 要因一覧

割り込みの要因一覧を表 8-3 に示します。

表 8-3 割り込み要因一覧

番号	要因		低消費電力モード解除と割り込みのアクティブレベル					CG 割り込みモードコントロールレジスタ
			"Low" レベル	"High" レベル	立ち上がりエッジ	立ち下がりエッジ	両エッジ	
0	INTRX0	シリアル受信(channel0)						
1	INTTX0	シリアル送信(channel0)						
2	Reserved	-						
3	Reserved	-						
4	INTVCNB	ベクトルエンジン割り込み B						
5	INTEMG1	PMD1 EMG 割り込み						
6	INTOVV1	PMD1 OVV 割り込み						
7	INTADBPDB	ADCB PMD1 トリガ同期変換終了						
8	INTTB00	16-bitTMRB0 コンペアー致 0/オーバフロー						
9	INTTB01	16-bitTMRB0 コンペアー致 1						
10	INTTB40	16-bitTMRB4 コンペアー致 0/オーバフロー						
11	INTTB41	16-bitTMRB4 コンペアー致 1						
12	INTTB50	16-bitTMRB5 コンペアー致 0/オーバフロー						
13	INTTB51	16-bitTMRB5 コンペアー致 1						
14	INTPMD1	PMD1 PWM 割り込み						
15	INTCAP00	16-bit TMRB0 インプットキャプチャ 0						
16	INTCAP01	16-bit TMRB0 インプットキャプチャ 1						
17	INTCAP40	16-bit TMRB4 インプットキャプチャ 0						
18	INTCAP41	16-bit TMRB4 インプットキャプチャ 1						
19	INT6	外部割り込み端子 6	o	o	o	o	o	CGIMCGA
20	INT7	外部割り込み端子 7	o	o	o	o	o	
21	INTADBCPA	ADCB 監視割り込み A						
22	INTADBCPB	ADCB 監視割り込み B						
23	INTADBSFT	ADCB ソフトスタート変換終了						
24	INTADBTMR	ADCB タイマ同期変換終了						
25	Reserved	-						
26	INTTB70	16-bitTMRB7 コンペアー致 0/オーバフロー						
27	INTTB71	16-bitTMRB7 コンペアー致 1						
28	INTCAP70	16-bit TMRB7 インプットキャプチャ 0						
29	INTCAP71	16-bit TMRB7 インプットキャプチャ 1						
30	INTC	外部割り込み端子 C	o	o	o	o	o	CGIMCGA
31	INTSBI0	シリアルバスインタフェース						

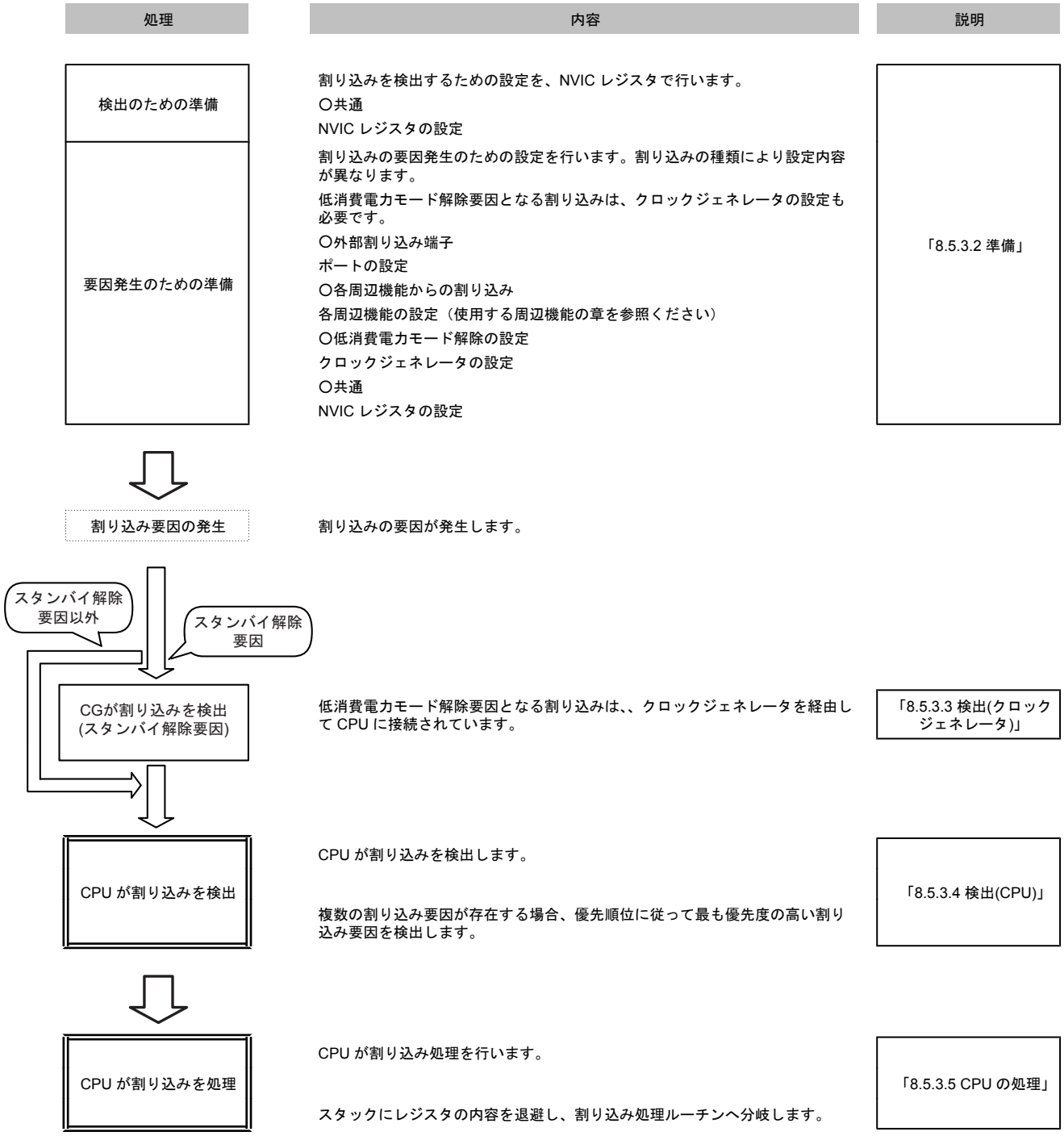
注) 低消費電力モード解除のアクティブレベルは"o"のついたものが選択できます。

8.5.3　処理詳細

8.5.3.1　処理の流れ

割り込みの処理の流れを以下に示します。

以下の説明で、 はハードウエアによる処理を、 はソフトウエアによる処理を示しています。



処理	内容	説明
割り込み サービスルーチン実行	必要な処理をプログラミングしてください。 必要に応じて割り込み要因の取り下げを行ってください。	「8.5.3.6 割り込み処理ルーチンでの処理(要因の取り下げ)」
元のプログラムへ復帰	割り込み処理ルーチンから通常の処理プログラムに復帰します。	

8.5.3.2　準備

割り込みの準備を行うときには、設定途中で不要な割り込みの発生を防ぐために設定の順番に注意が必要です。

割り込みの使用開始、または設定変更のときの基本的な順序は、まず、CPU で割り込みを禁止し、次に割り込み経路で CPU から遠いところから設定を行い、最後に CPU で割り込みを許可します。

クロックジェネレータの設定を行うときには、条件の設定を行った後、不要な割り込みが発生しないよう、クロックジェネレータ内部の割り込み情報をクリアしてから割り込み許可の設定を行います。

以下に設定の手順と、手順ごとの具体的な設定方法を示します。

1. CPU 割り込み禁止
2. CPU 割り込み設定
3. 要因の準備(1) (外部割り込み端子)
4. 要因の準備(2) (周辺機能からの割り込み)
5. 要因の準備(3) (割り込み保留セットレジスタ)
6. クロックジェネレータの設定
7. CPU 割り込み許可

(1)　CPU 割り込み禁止

CPU を割り込み禁止状態にするには、PRIMASK レジスタに"1"をセットします。これにより、マスク不能割り込みとハードフォールト例外以外のすべての割り込みと例外がマスクされます。

このレジスタをセットするためには"MSR"命令を使用します。

割り込みマスクレジスタ		
PRIMASK	←	"1"(割り込み禁止)

注 1)　PRIMASK レジスタは、ユーザ・アクセス・レベルではセットできません。
注 2)　PRIMASK レジスタに"1"がセットされているとき、フォールトが発生するとハードフォールトとして扱われます。

(2)　CPU 割り込み設定

NVIC レジスタの割り込み優先度 レジスタで<PRI_n>に優先度の設定を行います。

このレジスタは、8 ビットごとに各割り込み要因に割り当てられていますが、製品ごとに構成するビット数が異なります。8 ビットの構成の場合「0」から「255」までの優先度を設定することができます。最も高い優先度は「0」です。複数の要因を同じ優先度に設定した場合、番号の小さい割り込みの優先度が高くなります。

グループ優先度を設定する場合にはアプリケーション割り込みおよびリセット制御レジスタの<PRIGROUP>も設定します。

NVIC レジスタ		
<PRI_n>	←	「優先度」
<PRIGROUP>	←	「グループ優先度」(必要に応じて設定してください)

注) 「n」は該当する例外/割り込みの番号を示します。
本製品では割り込み優先度レジスタの優先度設定領域は 3 ビットの構成になっています。

(3) 要因の準備(1) (外部割り込み端子)

外部割り込み端子を使用する場合、該当する端子のポートの設定を行います。ポートを入力として使用するために PxIE[m]を"1"に設定します。

ポートレジスタ		
PxIE<PxmIE>	←	"1"

注) 「x」は該当ポート番号、「m」は該当ビットを示します。
PxIE で入力イネーブル設定であれば割り込みの入力が有効になります。割り込みの設定を行う際に、未使用の割り込みをイネーブルにしないようご注意ください。

(4) 要因の準備(2) (周辺機能からの割り込み)

周辺機能からの割り込みを使用する場合、設定方法は周辺機能によって異なります。各周辺機能の章をご覧ください。

(5) 要因の準備(3) (割り込み保留セットレジスタ)

割り込み保留セットレジスタで割り込みを発生する場合、該当するビットに"1"をセットします。

NVIC レジスタ		
<SETPEND[m]>	←	"1"

注) 「m」は該当ビットを示します。

(6) クロックジェネレータの設定

低消費電力モード解除要因となる割り込みは、クロックジェネレータの CGIMCG レジスタでアクティブレベルと割り込み許可の設定を行います。CGIMCG レジスタは要因ごとの設定レジスタです。要因ごとのアクティブレベルの設定については、「表 8-3 割り込み要因一覧」を参照してください。

割り込み許可の前に、不要な割り込み発生を防止するため割り込み要求のクリアを CGICRCG レジスタで行います。CGICRCG レジスタは、要因に対応した値を書き込むことで保持されていた割り込み要求をクリアすることができます。具体的な値は、「8.6.3.2 CGICRCG(CG 割り込み要求クリアレジスタ)」を参照してください。

外部割り込み端子からの割り込み要求を低消費電力モード解除要因として使用しない場合、クロックジェネレータの設定を行わずに使用することもできます。ただし、CPU が割り込み要因として検出するためには、"High"パルスまたは"High"レベルの信号を入力する必要があります。

クロックジェネレータレジスタ		
CGIMCGn<EMCGm>	←	アクティブレベル
CGICRCG<ICRCG>	←	使用する要因に対応する値
CGIMCGn<INTmEN>	←	"1"(割り込み許可)

注) 「n」はレジスタ番号、「m」は割り込み要因固有の番号を示します。

(7)　CPU 割り込み許可

CPU の割り込み許可の設定をします。

割り込み保留クリアレジスタで保留状態の割り込みをクリアし、割り込みイネーブルセットレジスタで割り込みを許可します。これらのレジスタは 1 ビットずつ各割り込み要因に割り当てられています。

割り込み保留クリアレジスタの該当する割り込みのビットに"1"を書くことで保留されている要因をクリアすることができ、割り込みイネーブルセットレジスタの該当する割り込みのビットに"1"を書くことで割り込みを許可することができます。

ただし、割り込み保留セットレジスタの設定で割り込みを発生する場合、割り込み保留クリアを行うと割り込み要因そのものが失われるため、この操作は不要です。

最後に、PRIMASK レジスタを"0"にクリアします。

NVIC レジスタ		
<CLRPEND[m]>	←	"1"
<SETENA[m]>	←	"1"
割り込みマスクレジスタ		
PRIMASK	←	"0"

注 1) 「m」は該当ビットを示します。
注 2) PRIMASK レジスタは、ユーザ・アクセス・レベルではセットできません。

8.5.3.3　検出(クロックジェネレータ)

低消費電力モード解除要因となる割り込みは、クロックジェネレータに設定されたアクティブレベルにしたがって検出され CPU に伝えられます。

アクティブレベルが立ち上がりまたは立ち下がりエッジの割り込み要因は、検出された後、クロックジェネレータで要因が保持されますが、"High"レベルまたは"Low"レベル設定の割り込み要因は、アクティブレベルから変化すると割り込み要因がなくなったとみなされるため、割り込み検出までレベルを保つ必要があります。

クロックジェネレータは割り込みを検出すると CG 割り込み要求クリアレジスタ(CGICRCG)で解除されるまで"High"レベルの割り込み信号を CPU に出力します。解除を行わずに復帰すると再度同じ割り込みが検出されますので、割り込み処理ルーチン内で割り込みの解除を行ってください。

8.5.3.4　検出(CPU)

CPU は優先順位に従って最も優先度の高い割り込み要因を検出します。

8.5.3.5 CPU の処理

割り込みが検出されると、CPU はスタックへ xPSR、PC、LR、R12、r3～r0 を退避し、検出した割り込みの割り込み処理ルーチンへ分岐します。

8.5.3.6 割り込み処理ルーチンでの処理(要因の取り下げ)

割り込み処理ルーチンではアプリケーションにより必要な内容をプログラミングしますが、ここでは推奨する処理と要因の取り下げについて説明します。

(1) 割り込み処理ルーチンでの処理

通常、割り込み処理ルーチンでは必要なレジスタの退避と割り込み処理を行います。Cortex-M4F コアは自動的に xPSR、PC、LR、R12、r3～r0 をスタックへ退避するため、これらのレジスタをユーザプログラムで退避する必要はありません。

その他のレジスタについては必要に応じて退避します。

割り込み処理ルーチン実行中でも、より高い優先度の割り込みや NMI などの例外は受け付けられます。そのため書き換わる可能性のある、汎用レジスタを退避することを推奨します。

(2) 割り込み要因の取り下げ

低消費電力モード解除要因となる割り込みについては、CGICRCG レジスタで割り込み要求を解除する必要があります。

アクティブレベルがレベル検出の割り込みの場合、要因そのものを取り下げない限り割り込み要求は存在し続けるため、まず要因を取り下げる必要があります。レベル検出の場合は、要因が取り下げられるとクロックジェネレータからの割り込み要求信号は自動的に取り下げられます。

エッジ検出の場合は CGICRCG レジスタに該当する割り込みの値を設定することで要因は取り下げられ、再度有効なエッジが発生したときに改めて要因として認識されます。

8.6　例外/割り込み関連レジスタ

8.6.1　レジスター覧

制御レジスタとアドレスは以下の通りです。

ベースアドレスは、「メモリマップ」章の「周辺機能ベースアドレス一覧」のクロック/モード制御(CG)を参照ください。

NVIC レジスタ　　Base Address = 0xE000_E000

レジスタ名	Address
SysTick 制御およびステータスレジスタ	0x0010
SysTick リロード値レジスタ	0x0014
SysTick 現在値レジスタ	0x0018
SysTick 較正値レジスタ	0x001C
割り込みイネーブルセットレジスタ	0x0100
Reserved	0x0104
Reserved	0x0108
割り込みイネーブルクリアレジスタ	0x0180
Reserved	0x0184
Reserved	0x0188
割り込み保留セットレジスタ	0x0200
Reserved	0x0204
Reserved	0x0208
割り込み保留クリアレジスタ 1	0x0280
Reserved	0x0284
Reserved	0x0288
割り込み優先度レジスタ	0x0400 ~ 0x0460
ベクタテーブルオフセットレジスタ	0x0D08
アプリケーション割り込みおよびリセット制御レジスタ	0x0D0C
システムハンドラ優先度レジスタ	0x0D18, 0x0D1C, 0x0D20
システムハンドラ制御および状態レジスタ	0x0D24

周辺機能名：CG

レジスタ名		Address
CG 割り込み要求クリアレジスタ	CGICRCG	0x0014
NMI フラグレジスタ	CGNMIFLG	0x0018
リセットフラグレジスタ	CGRSTFLG	0x001C
CG 割り込みモードコントロールレジスタ A	CGIMCGA	0x0020

8.6.2 NVIC レジスタ

8.6.2.1 SysTick 制御およびステータスレジスタ

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	COUNTFLAG
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	CLKSOURCE	TICKINT	ENABLE
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-17	−	R	リードすると"0"が読めます。
16	COUNTFLAG	R/W	0: タイマは 0 になっていない 1: タイマが 0 になった "1"の場合、最後の読み出しの後にタイマが"0"になったことを示します。 このレジスタのいずれかの部分を読み出すとこのビットはクリアされます。
15-3	−	R	リードすると"0"が読めます。
2	CLKSOURCE	R/W	0: 外部参照クロック(fosc/32) (注) 1: CPU クロック(fsys)
1	TICKINT	R/W	0: SysTick を保留しない 1: SysTick を保留する
0	ENABLE	R/W	0: ディセーブル 1: イネーブル "1"をセットするとリロード値レジスタの値をカウンタにロードし、動作を開始します。

注) 本製品では外部参照クロックとして fosc(CGOSCCR<OSCSEL><HOSCON>で選択されるクロック)を 32 分周したクロックが使用されます。

8.6.2.2　SysTick リロード値レジスタ

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	RELOAD							
リセット後	不定							
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	RELOAD							
リセット後	不定							
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	RELOAD							
リセット後	不定							

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-24	−	R	リードすると"0"が読めます。
23-0	RELOAD	R/W	リロード値 タイマが"0"になったときに SysTick 現在値レジスタにロードする値を設定します。

8.6.2.3　SysTick 現在値レジスタ

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	CURRENT							
リセット後	不定							
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	CURRENT							
リセット後	不定							
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	CURRENT							
リセット後	不定							

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-24	−	R	リードすると"0"が読めます。
23-0	CURRENT	R/W	[リード] SysTick タイマ現在値 [ライト] クリア 任意の値を書き込むとタイマカウントがクリアされます。 このレジスタをクリアすることで、SysTick 制御およびステータスレジスタの<COUNTFLAG>もクリアされます。

8.6.2.4 SysTick 較正値レジスタ

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	NOREF	SKEW	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	1	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	TENMS							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TENMS							
リセット後	0	0	0	0	1	1	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TENMS							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	NOREF	R	0: 参照クロックあり 1: 参照クロックなし
30	SKEW	R	0: 較正値は 10 ms 1: 較正値は 10 ms でない
29-24	–	R	リードすると"0"が読めます。
23-0	TENMS	R	較正値 外部参照クロックで 10 ms をカウントするために使用するリロード値(0xC35)です。(注)

注) マルチショットで使用する場合、この値を-1 して使用してください。

8.6.2.5　割り込み制御用レジスタ

それぞれの割り込み要因について、割り込みイネーブルセットレジスタ、割り込みイネーブルクリアレジスタ、割り込み保留セットレジスタ、割り込みクリアレジスタがあります。

各ビットが指定された割り込みに対応しています。

(1)　割り込みイネーブルセットレジスタ

割り込みを許可したり、割り込みの許可/禁止状態が確認できます。

"1"をライトすることで該当する割り込みを許可します。

"0"の書き込みは意味を持ちません。

リードすると該当する割り込みの許可/禁止状態が確認できます。

このレジスタのビットをクリアするには、割り込みイネーブルクリアレジスタの対応するビットに"1"をセットします。

Bit symbol	Type	機能
SETENA	R/W	割り込み番号[31:0] [ライト] 1: 割り込みを許可状態にする [リード] 0: 割り込みが禁止状態 1: 割り込みが許可状態

注)　注：割り込みの内容と割り込み番号については、「8.5.2 要因一覧」を参照してください。

(a)　割り込みイネーブルセットレジスタ

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	SETENA (割り込み 31)	SETENA (割り込み 30)	SETENA (割り込み 29)	SETENA (割り込み 28)	SETENA (割り込み 27)	SETENA (割り込み 26)	-	SETENA (割り込み 24)
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	SETENA (割り込み 23)	SETENA (割り込み 22)	SETENA (割り込み 21)	SETENA (割り込み 20)	SETENA (割り込み 19)	SETENA (割り込み 18)	SETENA (割り込み 17)	SETENA (割り込み 16)
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	SETENA (割り込み 15)	SETENA (割り込み 14)	SETENA (割り込み 13)	SETENA (割り込み 12)	SETENA (割り込み 11)	SETENA (割り込み 10)	SETENA (割り込み 9)	SETENA (割り込み 8)
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	SETENA (割り込み 7)	SETENA (割り込 6)	SETENA (割り込み 5)	SETENA (割り込み 4)	-	-	SETENA (割り込み 1)	SETENA (割り込み 0)
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) 割り込みイネーブルクリアレジスタ

割り込みを禁止したり、割り込みの許可/禁止状態が確認できます。

"1"をライトすることで該当する割り込みを禁止します。

"0"の書き込みは意味を持ちません。

リードすると該当する割り込みの許可/禁止状態が確認できます。

Bit symbol	Type	機能
CLRENA	R/W	割り込み番号[31:0] [ライト] 1: 割り込みを禁止状態にする [リード] 0: 割り込みが禁止状態 1: 割り込みが許可状態

注) 注：割り込みの内容と割り込み番号については、「8.5.2 要因一覧」を参照してください。

(a) 割り込みイネーブルクリアレジスタ

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	CLRENA (割り込み 31)	CLRENA (割り込み 30)	CLRENA (割り込み 29)	CLRENA (割り込み 28)	CLRENA (割り込み 27)	CLRENA (割り込み 26)	-	CLRENA (割り込み 24)
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	CLRENA (割り込み 23)	CLRENA (割り込み 22)	CLRENA (割り込み 21)	CLRENA (割り込み 20)	CLRENA (割り込み 19)	CLRENA (割り込み 18)	CLRENA (割り込み 17)	CLRENA (割り込み 16)
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	CLRENA (割り込み 15)	CLRENA (割り込み 14)	CLRENA (割り込み 13)	CLRENA (割り込み 12)	CLRENA (割り込み 11)	CLRENA (割り込み 10)	CLRENA (割り込み 9)	CLRENA (割り込み 8)
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	CLRENA (割り込み 7)	CLRENA (割り込 6)	CLRENA (割り込み 5)	CLRENA (割り込み 4)	-	-	CLRENA (割り込み 1)	CLRENA (割り込み 0)
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

(3)　割り込み保留セットレジスタ

割り込みを強制的に保留したり、保留されているかどうかを確認できます。

"1"をライトすることで該当する割り込みを保留します。ただし、すでに保留されている割り込みおよび禁止されている割り込みに対しては無効です。

"0"の書き込みは意味を持ちません。

リードの場合、該当する割り込みが保留されているかどうかを示します。

このレジスタのビットをクリアするには、割り込み保留クリアレジスタの対応するビットに"1"をセットします。

Bit symbol	Type	機能
SETPEND	R/W	割り込み番号[31:0] [ライト] 1: 保留する [リード] 0: 保留なし 1: 保留あり

注)　注：割り込みの内容と割り込み番号については、「8.5.2 要因一覧」を参照してください。

(a)　割り込み保留セットレジスタ

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	SETPEND (割り込み 31)	SETPEND (割り込み 30)	SETPEND (割り込み 29)	SETPEND (割り込み 28)	SETPEND (割り込み 27)	SETPEND (割り込み 26)	-	SETPEND (割り込み 24)
リセット後	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	SETPEND (割り込み 23)	SETPEND (割り込み 22)	SETPEND (割り込み 21)	SETPEND (割り込み 20)	SETPEND (割り込み 19)	SETPEND (割り込み 18)	SETPEND (割り込み 17)	SETPEND (割り込み 16)
リセット後	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	SETPEND (割り込み 15)	SETPEND (割り込み 14)	SETPEND (割り込み 13)	SETPEND (割り込み 12)	SETPEND (割り込み 11)	SETPEND (割り込み 10)	SETPEND (割り込み 9)	SETPEND (割り込み 8)
リセット後	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	SETPEND (割り込み 7)	SETPEND (割り込 6)	SETPEND (割り込み 5)	SETPEND (割り込み 4)	-	-	SETPEND (割り込み 1)	SETPEND (割り込み 0)
リセット後	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定

(4) 割り込み保留クリアレジスタ

保留された割り込みをクリアしたり、保留されているかどうかを確認できます。

"1"をライトすることで該当する保留された割り込みをクリアします。ただし、すでに処理が開始されている割り込みに対しては無効です。

"0"の書き込みは意味を持ちません。

リードの場合、該当する割り込みが保留されているかどうかを示します。

Bit symbol	Type	機能
CLRPEND	R/W	割り込み番号[31:0] [ライト] 1: 保留をクリアする [リード] 0: 保留なし 1: 保留あり

注) 注：割り込みの内容と割り込み番号については、「8.5.2 要因一覧」を参照してください。

(a) 割り込み保留クリアレジスタ

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	CLRPEND (割り込み 31)	CLRPEND (割り込み 30)	CLRPEND (割り込み 29)	CLRPEND (割り込み 28)	CLRPEND (割り込み 27)	CLRPEND (割り込み 26)	-	CLRPEND (割り込み 24)
リセット後	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	CLRPEND (割り込み 23)	CLRPEND (割り込み 22)	CLRPEND (割り込み 21)	CLRPEND (割り込み 20)	CLRPEND (割り込み 19)	CLRPEND (割り込み 18)	CLRPEND (割り込み 17)	CLRPEND (割り込み 16)
リセット後	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	CLRPEND (割り込み 15)	CLRPEND (割り込み 14)	CLRPEND (割り込み 13)	CLRPEND (割り込み 12)	CLRPEND (割り込み 11)	CLRPEND (割り込み 10)	CLRPEND (割り込み 9)	CLRPEND (割り込み 8)
リセット後	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	CLRPEND (割り込み 7)	CLRPEND (割り込 6)	CLRPEND (割り込み 5)	CLRPEND (割り込み 4)	-	-	CLRPEND (割り込み 1)	CLRPEND (割り込み 0)
リセット後	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定

8.6.2.6　割り込み優先度レジスタ

割り込み優先度レジスタは、各割り込みに対し 8 ビットごとの構成になっています。

割り込み番号と対応する割り込み優先度レジスタのアドレスは以下のとおりです。

	31 24	23 16	15 8	7 0
0xE000_E400	-	-	PRI_1	PRI_0
0xE000_E404	PRI_7	PRI_6	PRI_5	PRI_4
0xE000_E408	PRI_11	PRI_10	PRI_9	PRI_8
0xE000_E40C	PRI_15	PRI_14	PRI_13	PRI_12
0xE000_E410	PRI_19	PRI_18	PRI_17	PRI_16
0xE000_E414	PRI_23	PRI_22	PRI_21	PRI_20
0xE000_E418	PRI_27	PRI_26	-	PRI_24
0xE000_E41C	PRI_31	PRI_30	PRI_29	PRI_28

各割り込みに割り当てられている 8 ビットのうち何ビットを優先度の設定に使用できるかは製品により異なります。本製品では、3 ビットで優先度を設定することができます。

以下に、代表として割り込み番号 0~3 の割り込み優先度レジスタの構成を示します。未使用のビットはリードすると"0"が読め、ライトは無視されます。

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	PRI_3			–	–	–	–	–
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	PRI_2			–	–	–	–	–
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	PRI_1			–	–	–	–	–
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PRI_0			–	–	–	–	–
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-29	PRI_3	R/W	割り込み番号 3 優先度
28-24	–	R	リードすると"0"が読めます。
23-21	PRI_2	R/W	割り込み番号 2 優先度
20-16	–	R	リードすると"0"が読めます。
15-13	PRI_1	R/W	割り込み番号 1 優先度
12-8	–	R	リードすると"0"が読めます。
7-5	PRI_0	R/W	割り込み番号 0 優先度
4-0	–	R	リードすると"0"が読めます。

8.6.2.7　ベクタテーブルオフセットレジスタ

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	TBLOFF							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	TBLOFF							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TBLOFF							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TBLOFF	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-7	TBLOFF	R/W	オフセット値 アドレス 0x0000_0000 からのオフセット値を設定します。 オフセットはテーブルにある例外の数に基づいてアラインされる必要があります。16 個までの割り込みが使える、最小のアライメントは 32 ワードになります。割り込みの数がより多い場合は、次の 2 のべき乗まで切り上げて、アライメントを調整する必要があります。
6-0	−	R	リードすると"0"が読めます。

8.6.2.8 アプリケーション割り込みおよびリセット制御レジスタ

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	VECTKEY/VECTKEYSTAT							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	VECTKEY/VECTKEYSTAT							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENDIANESS	-	-	-	-	PRIGROUP		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	SYSRESET REQ	VECTCLR ACTIVE	VECTRESET
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	VECTKEY (ライト)/ VECTKEYSTAT (リード)	R/W	レジスタキー [ライト]このレジスタへ書き込みを行うには、<VECTKEY>に"0x05FA"を書き込む必要があります。 [リード]リードすると"0xFA05"が読めます。
15	ENDIANESS	R/W	エンディアン形式ビット(注 1) 1: ビッグエンディアン 0: リトルエンディアン
14-11	−	R	リードすると"0"が読めます。
10-8	PRIGROUP	R/W	割り込み優先度グループ分け 000: 横取り優先度 7bit、サブ優先度 1bit 001: 横取り優先度 6bit、サブ優先度 2bit 010: 横取り優先度 5bit、サブ優先度 3bit 011: 横取り優先度 4bit、サブ優先度 4bit 100: 横取り優先度 3bit、サブ優先度 5bit 101: 横取り優先度 2bit、サブ優先度 6bit 110: 横取り優先度 1bit、サブ優先度 7bit 111: 横取り優先度 0bit、サブ優先度 8bit 割り込み優先度レジスタ<PRI_n>を、横取り優先度とサブ優先度分けする際のビット構成を設定します。
7-3	−	R	リードすると"0"が読めます。
2	SYSRESET REQ	R/W	システムリセットリクエスト "1"をセットすると CPU が SYSRESETREQ 信号を出力します。(注 2)
1	VECTCLR ACTIVE	R/W	アクティブなベクタのクリア 1: アクティブな NMI、フォールト、割り込みのすべての状態の情報をクリアします。 0: クリアしません。 このビットは自身の動作によりクリアされます。 スタックの再初期化はアプリケーションで行う必要があります。
0	VECTRESET	R/W	システムリセット 1: システムをリセットします。 0: システムをリセットしません。 "1"をセットするとデバッグコンポーネント(FPB,DWT,ITM)以外の CPU 内部をリセットし、本ビットもクリアされます。

注 1) 本製品はリトルエンディアンがデフォルトで選択されます。

注 2) 本製品では、SYSRESETREQ が出力されるとウォームリセットが発生します。ウォームリセットにより<SYSRESETREQ>はクリアされます。

8.6.2.9　システムハンドラ優先度レジスタ

システムハンドラ優先度レジスタは、各例外に対し 8 ビットごとの構成になっています。

例外と対応する割り込み優先度レジスタのアドレスは以下のとおりです。

	31 24	23 16	15 8	7 0
0xE000_ED18	PRI_7	PRI_6 (用法フォールト)	PRI_5 (バスフォールト)	PRI_4 (メモリ管理)
0xE000_ED1C	PRI_11 (SVCall)	PRI_10	PRI_9	PRI_8
0xE000_ED20	PRI_15 (SysTick)	PRI_14 (PendSV)	PRI_13	PRI_12 (デバッグモニタ)

各割り込みに割り当てられている 8 ビットのうち何ビットを優先度の設定に使用できるかは製品により異なります。本製品では、3 ビットで優先度を設定することができます。

以下に、代表として割り込み番号 4~7 の割り込み優先度レジスタの構成を示します。未使用のビットはリードすると"0"が読め、ライトは無視されます。

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	PRI_7			-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	PRI_6			-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	PRI_5			-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PRI_4			-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-29	PRI_7	R/W	予約
28-24	−	R	リードすると"0"が読めます。
23-21	PRI_6	R/W	用法フォールト 優先度
20-16	−	R	リードすると"0"が読めます。
15-13	PRI_5	R/W	バスフォールト 優先度
12-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7-5	PRI_4	R/W	メモリ管理 優先度
4-0	−	R	リードすると"0"が読めます。

8.6.2.10 システムハンドラ制御および状態レジスタ

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	USGFAULT ENA	BUSFAULT ENA	MEMFAULT ENA
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	SVCALL PENDED	BUSFAULT PENDED	MEMFAULT PENDED	USGFAULT PENDED	SYSTICKACT	PENDSVACT	-	MONITOR ACT
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	SVCALLACT	-	-	-	USGFAULT ACT	-	BUSFAULT ACT	MEMFAULT ACT
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-19	−	R	リードすると"0"が読めます。
18	USGFAULT ENA	R/W	用法フォールト 0: 禁止 1: 許可
17	BUSFAUL TENA	R/W	バスフォールト 0: 禁止 1: 許可
16	MEMFAULT ENA	R/W	メモリ管理 0: 禁止 1: 許可
15	SVCALL PENDED	R/W	SVCall 0: 保留されていない 1: 保留されている
14	BUSFAULT PENDED	R/W	バスフォールト 0: 保留されていない 1: 保留されている
13	MEMFAULT PENDED	R/W	メモリ管理 0: 保留されていない 1: 保留されている
12	USGFAULT PENDED	R/W	用法フォールト 0: 保留されていない 1: 保留されている
11	SYSTICKACT	R/W	SysTick 0: アクティブでない 1: アクティブ
10	PENDSVACT	R/W	PendSV 0: アクティブでない 1: アクティブ
9	−	R	リードすると"0"が読めます。
8	MONITORACT	R/W	デバッグモニタ 0: アクティブでない 1: アクティブ

Bit	Bit Symbol	Type	機能
7	SVCALLACT	R/W	SVCall 0: アクティブでない 1: アクティブ
6-4	−	R	リードすると"0"が読めます。
3	USGFAULT ACT	R/W	用法フォールト 0: アクティブでない 1: アクティブ
2	−	R	リードすると"0"が読めます。
1	BUSFAULT ACT	R/W	バスフォールト 0: アクティブでない 1: アクティブ
0	MEMFAULT ACT	R/W	メモリ管理 0: アクティブでない 1: アクティブ

注)　アクティブビットの書き換えは、スタックの内容の更新等行いませんので注意して行ってください。

8.6.3 クロックジェネレータレジスタ

8.6.3.1 CG 割り込みモードコントロールレジスタ

CG 割り込みモードコントロールレジスタは低消費電力モード解除に使用する割り込み要因のアクティブレベル設定、検出されたアクティブレベル、低消費電力モード解除の許可/禁止をおこないます。

Bit symbol	Type	機能
EMCGx[2:0]	R/W	低消費電力モード解除のアクティブレベルを設定 (下記のアクティブレベルのうち表 8-4 のアクティブレベルに記載されている解除要因から選択する) 000: "Low"レベル 001: "High"レベル 010: 立ち下がりエッジ 011: 立ち上がりエッジ 100: 両エッジ 上記以外:設定禁止
EMSTx[1:0]	R	検出されたアクティブレベル(EMCGx[2:0]="100"の場合のみ有効) 00: − 01: 立ち上がりエッジ 10: 立ち下がりエッジ 11: 両エッジ
INTxEN	R/W	低消費電力モード解除 0:禁止 1: 許可

表 8-4 低消費電力モード解除のアクティブレベル設定

要因		アクティブレベル設定レジスタ	低消費電力モード解除のアクティブレベル				
			"Low" レベル	"HIGH" レベル	立ち上がりエッジ	立ち下がりエッジ	両エッジ
INT6	外部割り込み端子 6	CGIMCGA <EMCG0[2:0]>	o	o	o	o	o
INT7	外部割り込み子端子7	CGIMCGA <EMCG1[2:0]>	o	o	o	o	o
INTC	外部割り込み端子 C	CGIMCGA <EMCG2[2:0]>	o	o	o	o	o

注)　低消費電力モード解除のアクティブレベルは"o"のついたものが選択できます。"×"のついたものは選択できません。

(1) CGIMCGA(CG 割り込みモードコントロールレジスタ A)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	EMCG2			EMST2		-	INT2EN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	EMCG1			EMST1		-	INT1EN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	EMCG0			EMST0		-	INT0EN
リセット後	0	0	1	0	0	0	不定	0

注 1) <EMCGx[2:0]>に設定できるアクティブレベルは要因ごとに異なります。表 8-4 を参照の上、設定してください。

注 2) <EMSTx>は、<EMCGx[2:0]>が"100"の両エッジ設定のときのみ有効です。それ以外のときは、不定となります。<EMSTx>を参照することにより、低消費電力モード解除を解除したアクティブレベルを確認することができます。CGICRCG レジスタで割り込みをクリアすると<EMSTx>もクリアされます。

注 3) エッジ設定と同時に<INTxEN>を設定しないでください。エッジ設定を行ってから<INTxEN>を設定してください。

注 4) ビット 31 ~ 23、15、7 は"0"が読み出されます。

注 5) ビット 17、9、1 は不定が読み出されます。

8.6.3.2　CGICRCG(CG 割り込み要求クリアレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	ICRCG				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-5	–	R	リードすると"0"が読めます。
4-0	ICRCG[4:0]	W	割り込み要求をクリア 0_0000: INT6 0_0001: INT7 0_0010: INTC 0_0011 ~ 1_1111: 設定禁止 リードすると"0"が読めます

8.6.3.3 CGNMIFLG(NMI フラグレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	NMIFLG0
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-1	−	R	リードすると"0"が読めます。
0	NMIFLG0	R	NMI 起動要因フラグ 0: 要因なし 1 : WDT による NMI 発生

注） <NMIFLG>は読み出すと "0" にクリアされます。

8.6.3.4　CGRSTFLG(リセットフラグレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
パワーオンリセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
パワーオンリセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
パワーオンリセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	OFDRSTF	DBGRSTF	VLTDRSTF	WDTRSTF	PINRSTF	PONRSTF
パワーオンリセット後	0	0	0	0	0	0	0	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-6	−	R	リードすると"0"が読めます。
5	OFDRSTF	R/W	OFD リセットフラグ 0: 0 ライト 1: OFD によるリセットによるリセットフラグ
4	DBGRSTF	R/W	デバッグリセットフラグ(注 1) 0: 0 ライト 1: SYSRESETREQ によるリセットによるリセットフラグ
3	VLTDRSTF	R/W	VLTD リセットフラグ 0: 0 ライト 1: VLTD によるリセットフラグ
2	WDTRSTF	R/W	WDT リセットフラグ 0: 0 ライト 1: WDT によるリセットフラグ
1	PINRSTF	R/W	RESET 端子フラグ 0: 0 ライト 1: $\overline{\text{RESET}}$ 端子によるリセットフラグ
0	PONRSTF	R/W	パワーオンフラグ 0: 0 ライト 1: 電源投入時のリセットによるリセットフラグ

注 1)　CPU の NVIC 内にある、アプリケーション割り込みおよびリセット制御レジスタの<SYSRESETREQ>ビットのセットにより発生したリセットであることを示します。

注 2)　本製品はパワーオンリセット回路を内蔵しており、本レジスタはパワーオンリセットでのみ初期化されます。したがって、電源投入時の初期リセット後は<PONRSTF>がセットされますが、2 度目以降のリセットでは<PONRSTF>はセットされません。また、本レジスタは自動的にはクリアされませんので、"0"を書いてクリアしてください。

第 9 章　デジタルノイズフィルタ回路(DNF)

デジタル式のノイズキャンセラ回路により、外部割り込み端子に入力される信号を所定の幅でノイズを除去することができます。

9.1　構成

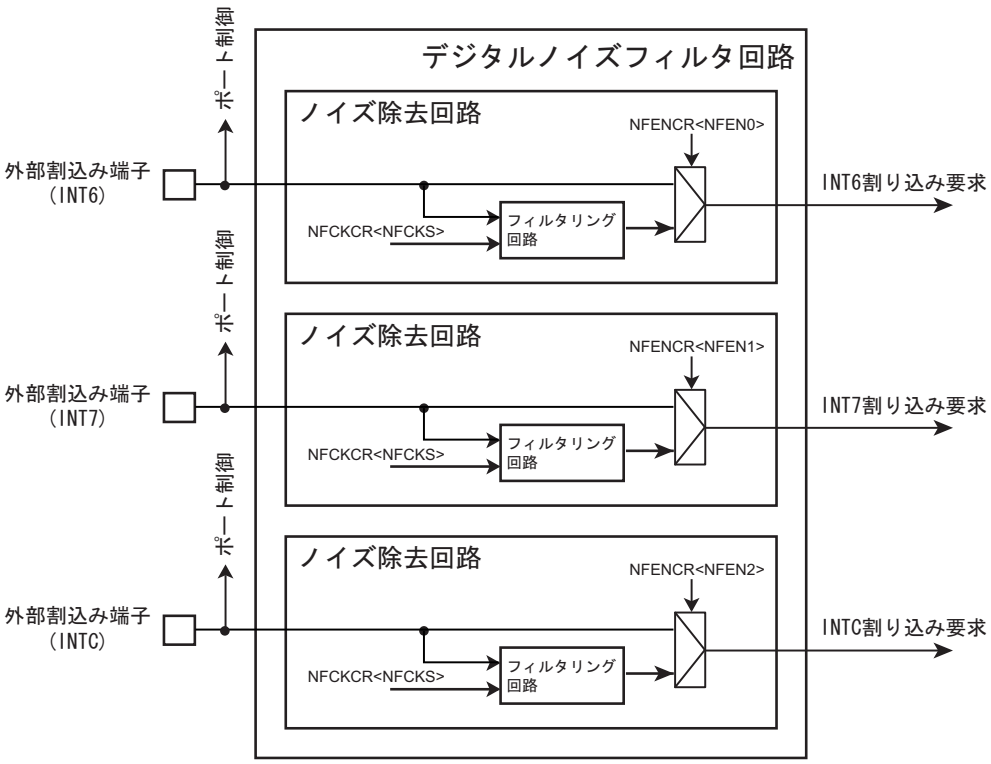


図 9-1 デジタルノイズフィルタ回路図

9.2　レジスタ説明

9.2.1　レジスター覧

Base Address = 0x4006_0000

レジスタ名		Address(Base+)
ノイズフィルタ制御レジスタ	NFCKCR	0x0000
ノイズフィルタ許可レジスタ	NFENCR	0x0004

9.2.1.1 NFCKCR(ノイズフィルタ制御レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	NFCKS		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-3	−	R	リードすると"0"が読めます。
2-0	NFCKS[2:0]	R/W	ノイズフィルタクロック選択 000: クロック制御回路停止 001: fsys/2 クロック出力 010: fsys/4 クロック出力 011: fsys/8 クロック出力 100: fsys/16 クロック出力 101: fsys/32 クロック出力 110: fsys/64 クロック出力 111: fsys/128 クロック出力

注) NFCKCR<NFCKS>の設定は、NFENCR<NFEN[2:0]>="000"で行なってください。

注) STOP モード解除に外部割り込み端子を使用する場合、ノイズフィルタ回路は使用できません。必ず NFENCR レジスタのノイズフィルタ許可ビットを禁止設定にし、NFCKCR レジスタでクロックを停止してください。

9.2.1.2　NFENCR(ノイズフィルタ許可レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	NFEN2	NFEN1	NFEN0
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-3	−	R	リードすると"0"が読めます。
2	NFENC	R/W	INTC ノイズフィルタ許可 0: 禁止（ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時） 1: 許可（ノイズ除去後信号出力）
1	NFEN7	R/W	INT7 ノイズフィルタ許可 0: 禁止（ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時） 1: 許可（ノイズ除去後信号出力）
0	NFEN6	R/W	INT6 ノイズフィルタ許可 0: 禁止（ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時） 1: 許可（ノイズ除去後信号出力）

注)　fsys より短いパルスに対してノイズ除去動作ができない場合があります。特に fsys の周波数が低い場合にノイズ除去動作が有効とならない場合があります。

注)　外部割り込みを許可に設定する前に割り込み要因をクリアし、NFENCR レジスタの対象ビットを許可設定にしてください。

注)　STOP モード解除に外部割り込み端子を使用する場合、ノイズフィルタ回路は使用できません。必ず NFENCR レジスタのノイズフィルタ許可ビットを禁止設定にし、NFCKCR レジスタでクロックを停止してください。

9.3 動作説明

9.3.1 構成

ノイズフィルタ回路は、ノイズ除去回路、割り込み要求信号発生回路から構成されています。

外部から入力された信号はノイズ除去回路によって High レベルまたは Low レベルのノイズを除去した後、各外部割り込みごとに CG で立ち上がり/立ち下がり/レベル検出を行ないます。

9.3.2 動作

外部割り込み信号 INTx の High レベル/Low レベル入力ともにノイズを除去します。

ノイズ除去時間は、レベル入力継続時間が NFCKCR<NFCKS>で設定したクロック周期の 7 クロック以下をノイズと判定し、継続時間がクロック周期の 8 クロック以上で有効な信号と判定します。

ただし、7、8 クロックの間の入力信号はエッジタイミングによって判定が異なる場合があります。

9.3.3 使用可能な動作モード

ノイズフィルタ回路は NORMAL モード、IDLE モードのときのみ使用可能です。

9.3.4 STOP モードを使用する場合の注意点

STOP モードを使用する場合、fsys クロックが停止するためノイズフィルタ回路は使用できません。STOPモード解除に外部割り込みを使用する場合は割り込み許可ビットを禁止した後に NFENCRレジスタのノイズフィルタ許可/禁止ビットを禁止に設定し、NFCKCR レジスタのノイズフィルタクロックを停止させてください。

9.3.5 最小ノイズ除去時間

ノイズ除去回路は NFCKCR レジスタで設定したクロック周期の 8 クロック以上の期間、High レベル入力または Low レベル入力が入力されていた場合、レベル入力を判定し外部割り込み信号を発生します。

表 9-1 最小ノイズ除去時間

NFCKCR<NFCKS>	fsys [MHz]			Unit
	20	32	40	
001	0.7	0.44	0.35	μs
010	1.4	0.88	0.7	
011	2.8	1.75	1.4	
100	5.6	3.5	2.8	
101	11.2	7.0	5.6	
110	22.4	14.0	11.2	
111	44.8	28.0	22.4	

第 10 章　入出力ポート

本章では、ポート関連のレジスタとその設定および回路について説明します。

10.1　レジスタ説明

ポートを使用する際には以下のレジスタを設定する必要があります。

レジスタは全て 32 ビットですが、ポートのビット数、機能の割り当てにより構成が異なります。

以下の説明では"x"はポート名、"n"はファンクション番号を示します。

レジスタ名		設定値	
PxDATA	データレジスタ	0 または 1	ポートのデータ読み込み、データ書き込みを行います。
PxCR	出力コントロールレジスタ	0 : 出力禁止 1 : 出力許可	出力の制御を行います。
PxFRn	ファンクションレジスタ n	0 : PORT 1 : 機能	機能設定を行ないます。 "1" をセットすることにより割り当てられている機能を使用できるようになります。ファンクションレジスタはポートに割り当てられている機能ごとに存在します。複数の機能が割り当てられている場合、1 つの機能のみ有効になるように設定してください。
PxOD	オープンドレインコントロールレジスタ	0 : CMOS 1 : オープンドレイン	プログラマブルオープンドレインの制御を行います。 プログラマブルオープンドレインは、PxOD の設定により、出力データが"1" の場合に出力バッファをディセーブルにし、擬似的にオープンドレインを実現する機能です。
PxPUP	プルアップコントロールレジスタ	0 : プルアップ禁止 1 : プルアップ許可	プログラマブルプルアップを制御します。
PxPDN	プルダウンコントロールレジスタ	0 : プルダウン禁止 1 : プルダウン許可	プログラマブルプルダウンを制御します。
PxIE	入力コントロールレジスタ	0 : 入力禁止 1 : 入力許可	入力の制御を行ないます。 PxIE をイネーブルにしてから外部データが PxDATA に反映されるまで若干の時間が必要です。

10.1.1　レジスター覧

ベースアドレスは、「メモリマップ」章の「周辺機能ベースアドレス一覧」を参照ください。

機能の存在しないビットをリードすると"0"が読めます。ライトは意味を持ちません。

レジスタ名	Address (Base+)	ポート B	ポート E	ポート F	ポート J	ポート K
データ レジスタ	0x0000	PBDATA	PEDATA	PFDATA	PJDATA	PKDATA
出力コントロールレジスタ	0x0004	PBCR	PECR	PFCR	PJCR	PKCR
ファンクションレジスタ 1	0x0008	PBFR1	PEFR1	PFFR1	−	−
ファンクションレジスタ 2	0x000C	PBFR2	PEFR2	PFFR2	−	−
ファンクションレジスタ 3	0x0010	−	−	−	−	−
ファンクションレジスタ 4	0x0014	PBFR4	PEFR4	PFFR4	−	−
ファンクションレジスタ 5	0x0018	−	PEFR5	−	−	−
ファンクションレジスタ 6	0x001C	−	PEFR6	−	−	−
オープンドレインコントロールレジスタ	0x0028	PBOD	PEOD	PFOD	PJOD	PKOD
プルアップコントロールレジスタ	0x002C	PBPUP	PEPUP	PFPUP	PJPUP	PKPUP
プルダウンコントロールレジスタ	0x0030	PBPDN	PEPDN	PFPDN	PJPDN	PKPDN
入力コントロールレジスタ	0x0038	PBIE	PEIE	PFIE	PJIE	PKIE

レジスタ名	Address (Base+)	ポート M
データ レジスタ	0x0000	PMDATA
出力コントロールレジスタ	0x0004	PMCR
ファンクションレジスタ 1	0x0008	−
ファンクションレジスタ 2	0x000C	−
ファンクションレジスタ 3	0x0010	−
ファンクションレジスタ 4	0x0014	−
ファンクションレジスタ 5	0x0018	−
ファンクションレジスタ 6	0x001C	−
オープンドレインコントロールレジスタ	0x0028	PMOD
プルアップコントロールレジスタ	0x002C	PMPUP
プルダウンコントロールレジスタ	0x0030	PMPDN
入力コントロールレジスタ	0x0038	PMIE

注)　"−"表記のアドレスにはアクセスしないでください。

10.1.2 ポート機能と設定一覧

以下に各ポートの機能とレジスタ設定についての一覧を示します。

- 「表 10-1 ポート B レジスタ設定」
- 「表 10-2 ポート E レジスタ設定」
- 「表 10-3 ポート F レジスタ設定」
- 「表 10-4 ポート J レジスタ設定」
- 「表 10-5 ポート K レジスタ設定」
- 「表 10-6 ポート M レジスタ設定」

PxFRn の欄は、設定の必要なファンクションレジスタを示します。このレジスタを"1"に設定するとその機能が有効となります。(x はポート名、n はファンクション番号)

表中の網掛けのビットはリードすると"0" が読め、ライトは意味を持ちません。

表中の"0"、"1"は設定値を示し、"0/1"は任意に設定可能であることを示します。

TMPM37AFSQG では異なるポートに同一機能が割り振られている機能端子があります。同一機能の兼用機能端子はそれぞれのポートのファンクションレジスタの設定により、いずれか 1 つの端子で使用するよう排他的に切り替えを行って下さい。

Pxm は、ポート名"x"、そのレジスタのビット"m"を表します。例えば、PA0 とは、ポート名が A、ポート A のレジスタのビットが 0 を示します。

10.1.2.1　PORT B

表 10-1 ポート B レジスタ設定

PORT	リセット状態	Input/ Output	PORT Type	制御レジスタ						
				PBDATA	PBCR	PBFRn	PBOD	PBPUP	PBPDN	PBIE
PB3	リセット後 (SWDIO)			0	1	PBFR1	0	1	0	1
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	SWDIO	I/O	FT2	0/1	1	PBFR1	0/1	0/1	0/1	1
	TB0OUT	Output	FT1	0/1	1	PBFR2	0/1	0/1	0/1	0
	(SB0SDA)	I/O	FT1	0/1	1	PBFR4	1	0/1	0/1	1
PB4	リセット後 (SWCLK)			0	0	PBFR1	0	0	1	1
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	SWCLK	Input	FT2	0/1	0	PBFR1	0/1	0/1	0/1	1
	TB0IN	Input	FT1	0/1	0	PBFR2	0/1	0/1	0/1	1
	(SB0SCL)	I/O	FT1	0/1	1	PBFR4	1	0/1	0/1	1

10.1.2.2 PORT E

表 10-2 ポート E レジスタ設定

PORT	リセット状態	Input/Output	PORT Type	制御レジスタ						
				PEDATA	PECR	PEFRn	PEOD	PEPUP	PEPDN	PEIE
PE0	リセット後			0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	SC0TXD	Output	FT1	0/1	1	PEFR1	0/1	0/1	0/1	0
	SB0SCL	I/O	FT1	0/1	1	PEFR2	1	0/1	0/1	1
	INT6	Input	FT4	0/1	0	PEFR4 (注)	0/1	0/1	0/1	1
	TB7OUT	Output	FT1	0/1	1	PEFR5	0/1	0/1	0/1	0
PE1	リセット後			0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	SC0RXD	Input	FT1	0/1	0	PEFR1	0/1	0/1	0/1	1
	TB4IN	Input	FT1	0/1	0	PEFR2	0/1	0/1	0/1	1
PE2	リセット後			0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	SC0SCLK	Input	FT1	0/1	0	PEFR1	0/1	0/1	0/1	1
		Output		0/1	1	PEFR1	0/1	0/1	0/1	0
	$\overline{\text{SC0CTS}}$	Input	FT1	0/1	0	PEFR2	0/1	0/1	0/1	1
	INT7	Input	FT4	0/1	0	PEFR4 (注)	0/1	0/1	0/1	1
	TB5OUT	Output	FT1	0/1	1	PEFR6	0/1	0/1	0/1	0

注) 外部割り込みを STOP モード解除に使用する場合は PEFR4 の該当ビットを '1' に設定し、STOP モード解除に使用しない場合は '0'を設定してください。

10.1.2.3　PORT F

表 10-3 ポート F レジスタ設定

PORT	リセット状態	Input/Output	PORT Type	制御レジスタ						
				PFDATA	PFCR	PFFRn	PFOD	PFPUP	PFPDN	PFIE
PF0	リセット後			0	0	0	0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0	0	0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0
	TB7IN	Input	FT1	0/1	0	PFFR1	0/1	0/1	0/1	1
	SB0SDA	I/O	FT1	0/1	1	PFFR2	1	0/1	0/1	1
	INTC	Input	FT4	0/1	0	PFFR4 (注 2)	0/1	0/1	0/1	1

注 1)　PF0 はリセット端子 が"Low" の間 Pull-up と入力が許可になっており、$\overline{\text{BOOT}}$ 端子として機能します。 リセット端子の立ち上がりで PF0 が"1"の場合はシングルチップモード(内蔵フラッシュメモリから起動)、"0"の場合はシングルブートモード（内蔵 BOOT ROM から起動)となります。

注 2)　外部割り込みを STOP モード解除に使用する場合は PEFR4 の該当ビットを '1' に設定し、STOP モード解除に使用しない場合は '0'を設定してください。

10.1.2.4　PORT J

表 10-4 ポート J レジスタ設定

PORT	リセット状態	Input/Output	PORT Type	制御レジスタ						
				PJDATA	PJCR	PJFRn	PJOD	PJPUP	PJPDN	PJIE
PJ5	リセット後			0	0		0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0		0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1		0/1	0/1	0/1	0
	AINB8	Input	FT5	0/1	0		0/1	0	0	0
PJ6	リセット後			0	0		0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0		0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1		0/1	0/1	0/1	0
	AINB9	Input	FT5	0/1	0		0/1	0	0	0
PJ7	リセット後			0	0		0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0		0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1		0/1	0/1	0/1	0
	AINB10	Input	FT5	0/1	0		0/1	0	0	0

10.1.2.5 PORT K

表 10-5 ポート K レジスタ設定

PORT	リセット状態	Input/Output	PORT Type	制御レジスタ						
				PKDATA	PKCR	PKFRn	PKOD	PKPUP	PKPDN	PKIE
PK0	リセット後			0	0		0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0		0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1		0/1	0/1	0/1	0
	AINB11	Input	FT5	0/1	0		0/1	0	0	0
PK1	リセット後			0	0		0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0		0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1		0/1	0/1	0/1	0
	AINB12/AINB16	Input	FT5	0/1	0		0/1	0	0	0

10.1.2.6 PORT M

表 10-6 ポート M レジスタ設定

PORT	リセット状態	Input/Output	PORT Type	制御レジスタ						
				PMDATA	PMCR	PMFRn	PMOD	PMPUP	PMPDN	PMIE
PM0	リセット後			0	0		0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0		0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1		0/1	0/1	0/1	0
	X1	Input		0/1	0		0	0	0	0
PM1	リセット後			0	0		0	0	0	0
	Input Port	Input		0/1	0		0/1	0/1	0/1	1
	Output Port	Output		0/1	1		0/1	0/1	0/1	0
	X2	Output		0/1	0		0	0	0	0

10.2　ポート回路図

ポートには、以下のタイプがあります。それぞれの回路図を次ページから示します。図中の点線は「ポート部等価回路図」で記されている等価回路の範囲を示します。

回路図内の"ダイレクトリセット"は、コールドリセット時に有効になります。

10.2.1　タイプ FT1

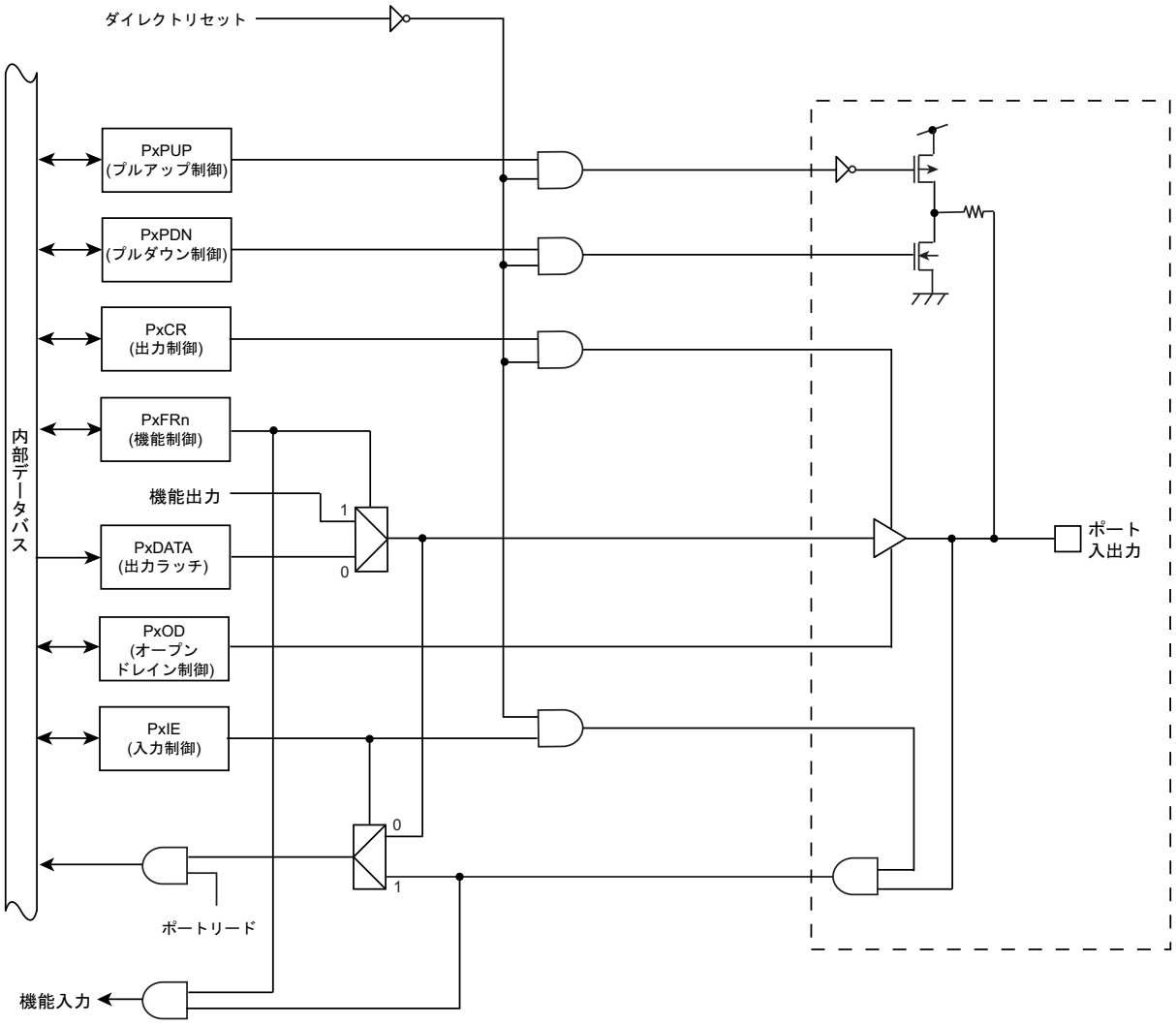


図 10-1 Port Type FT1

10.2.2 タイプ FT2

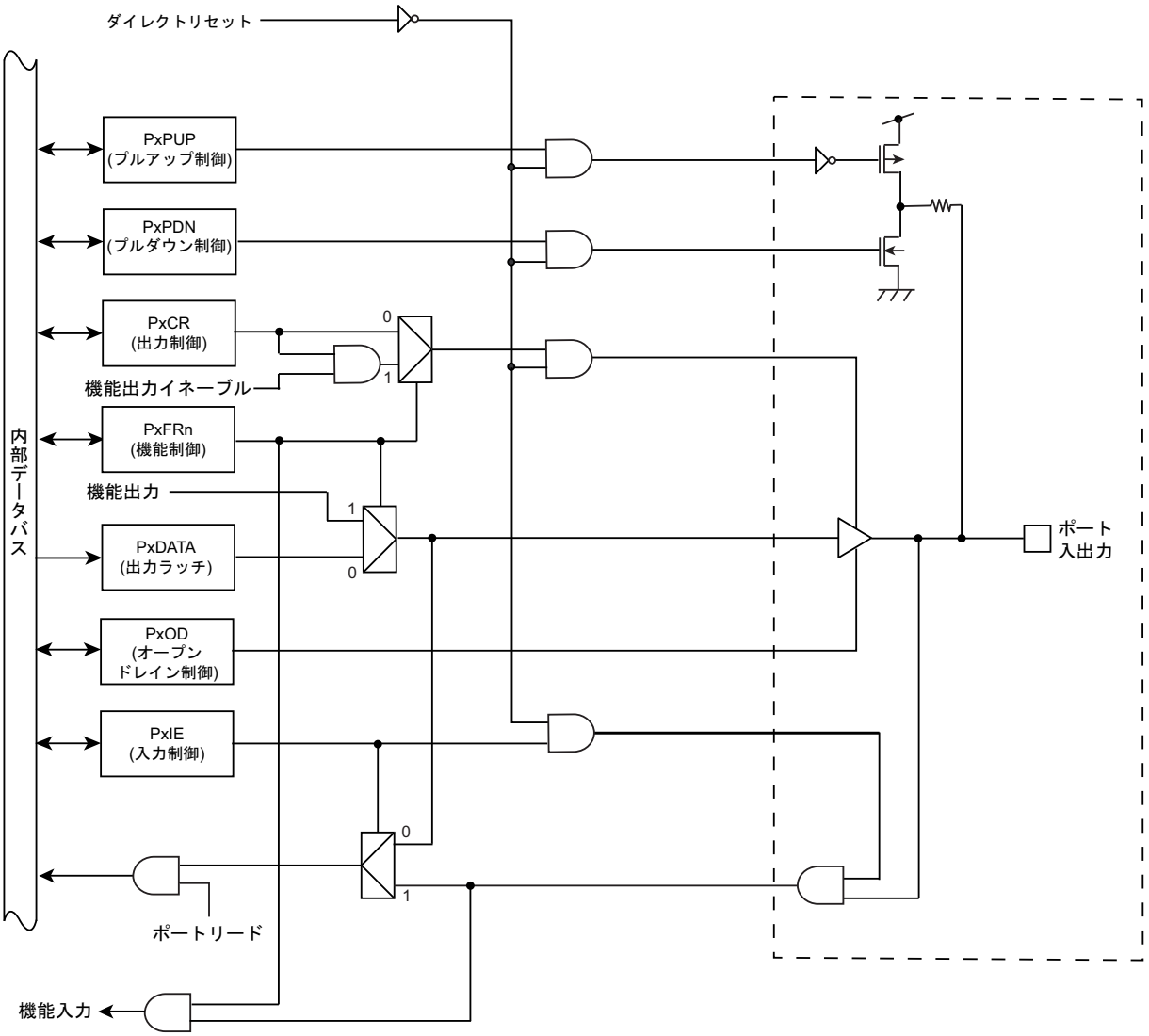


図 10-2 Port Type FT2

10.2.3　タイプ FT3

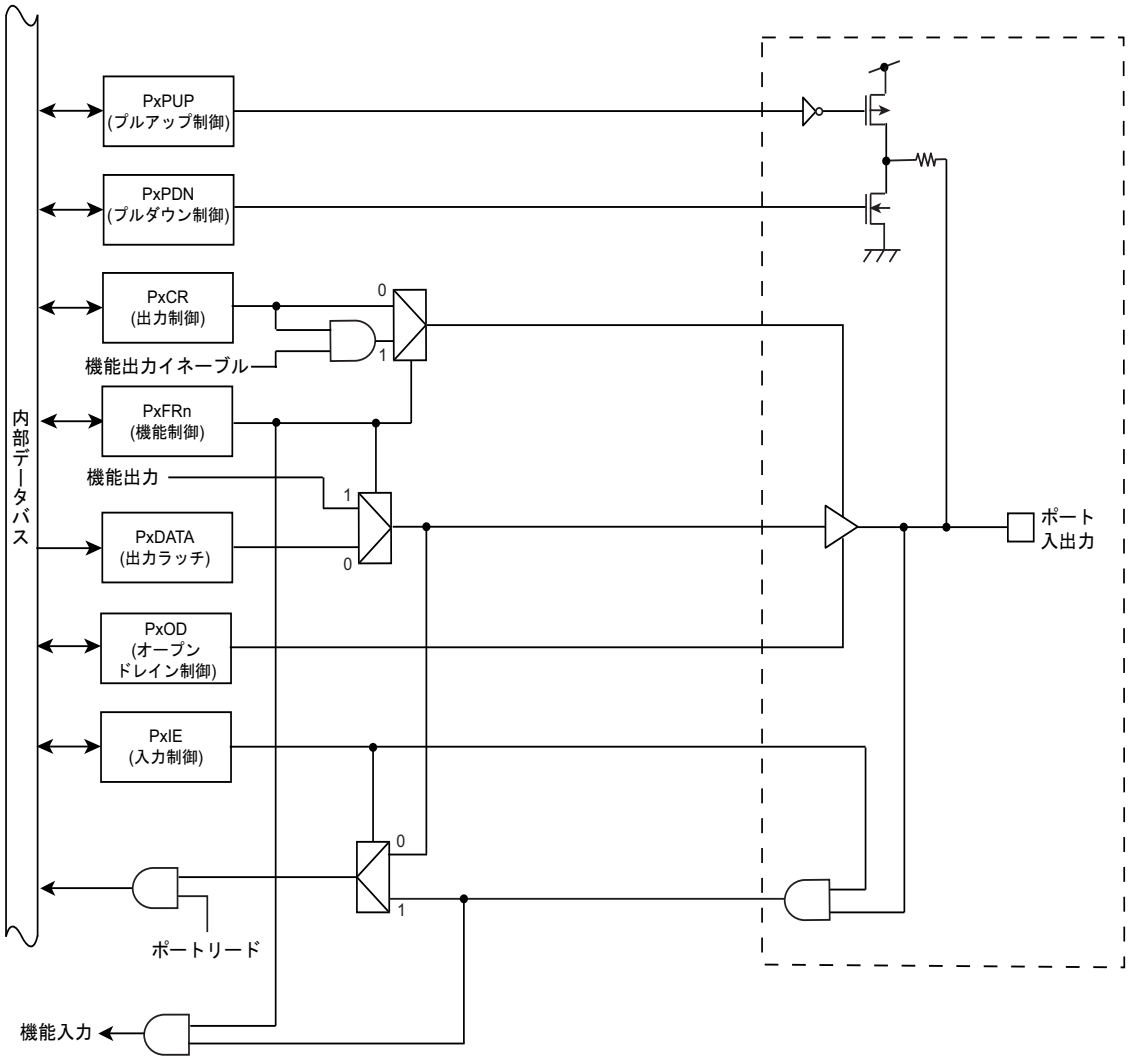


図 10-3 Port Type FT3

10.2.4 タイプ FT4

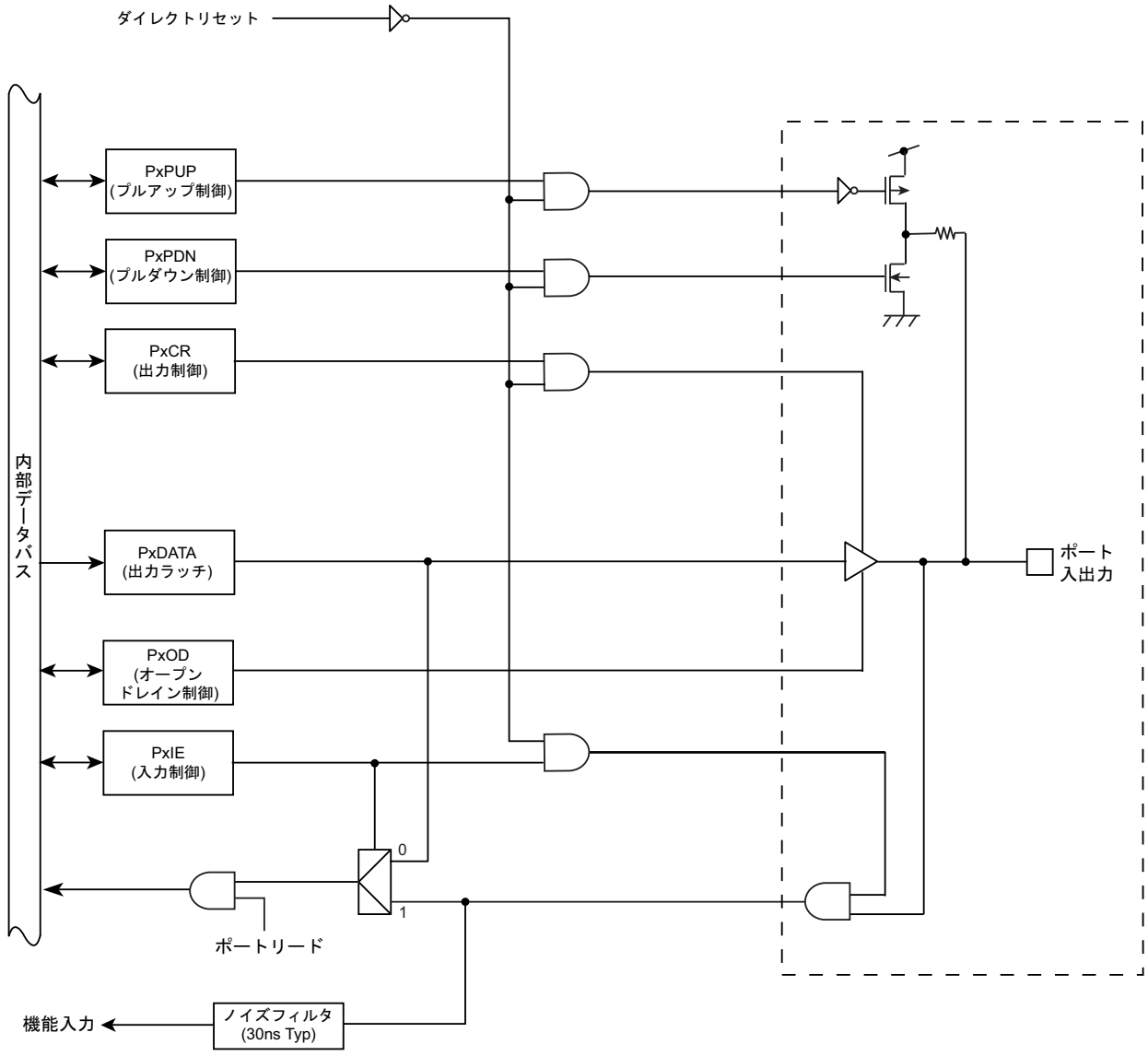


図 10-4 Port Type FT4

10.2.5　タイプ FT5

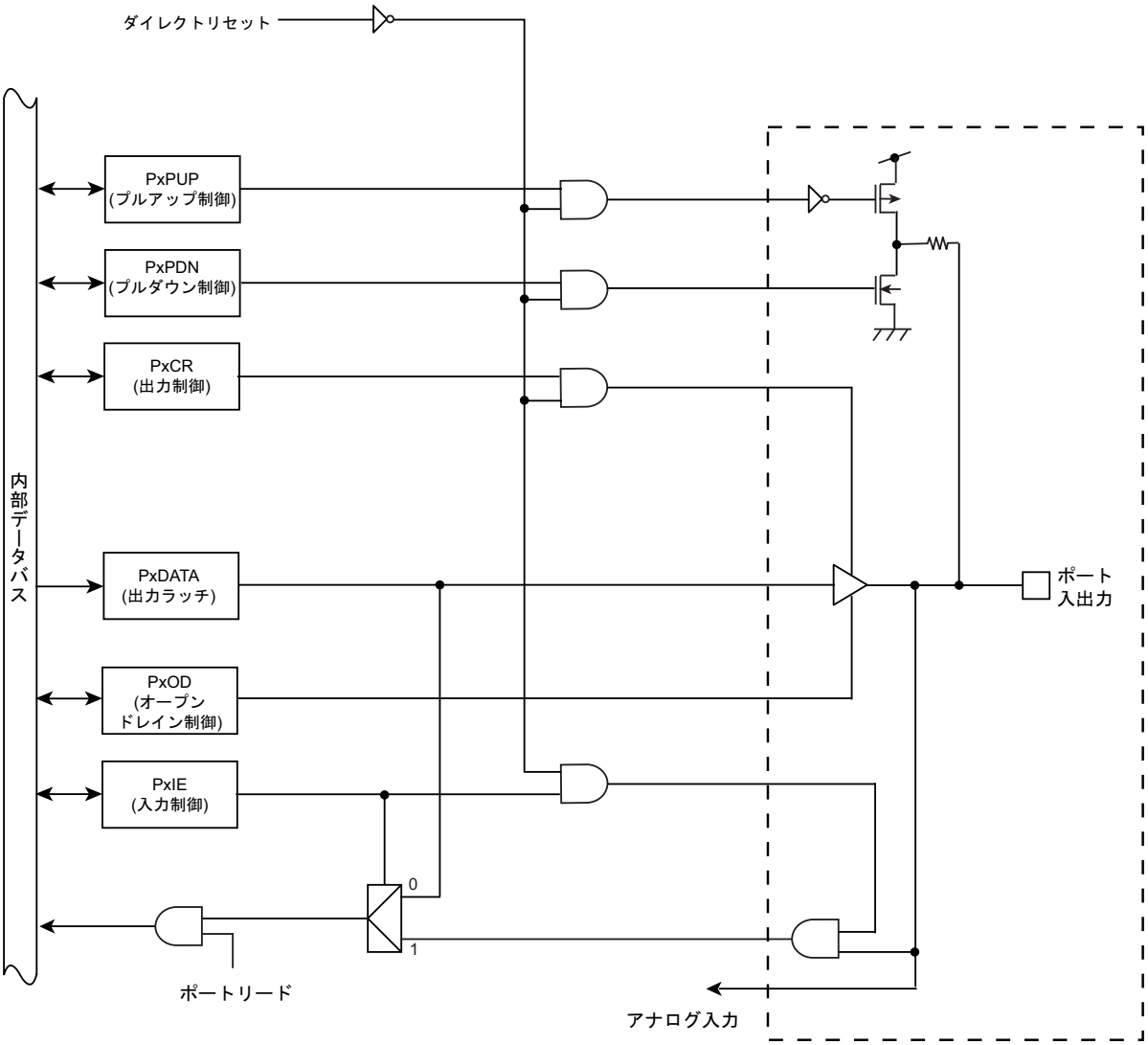


図 10-5 Port Type FT5

10.2.6 タイプ FT6

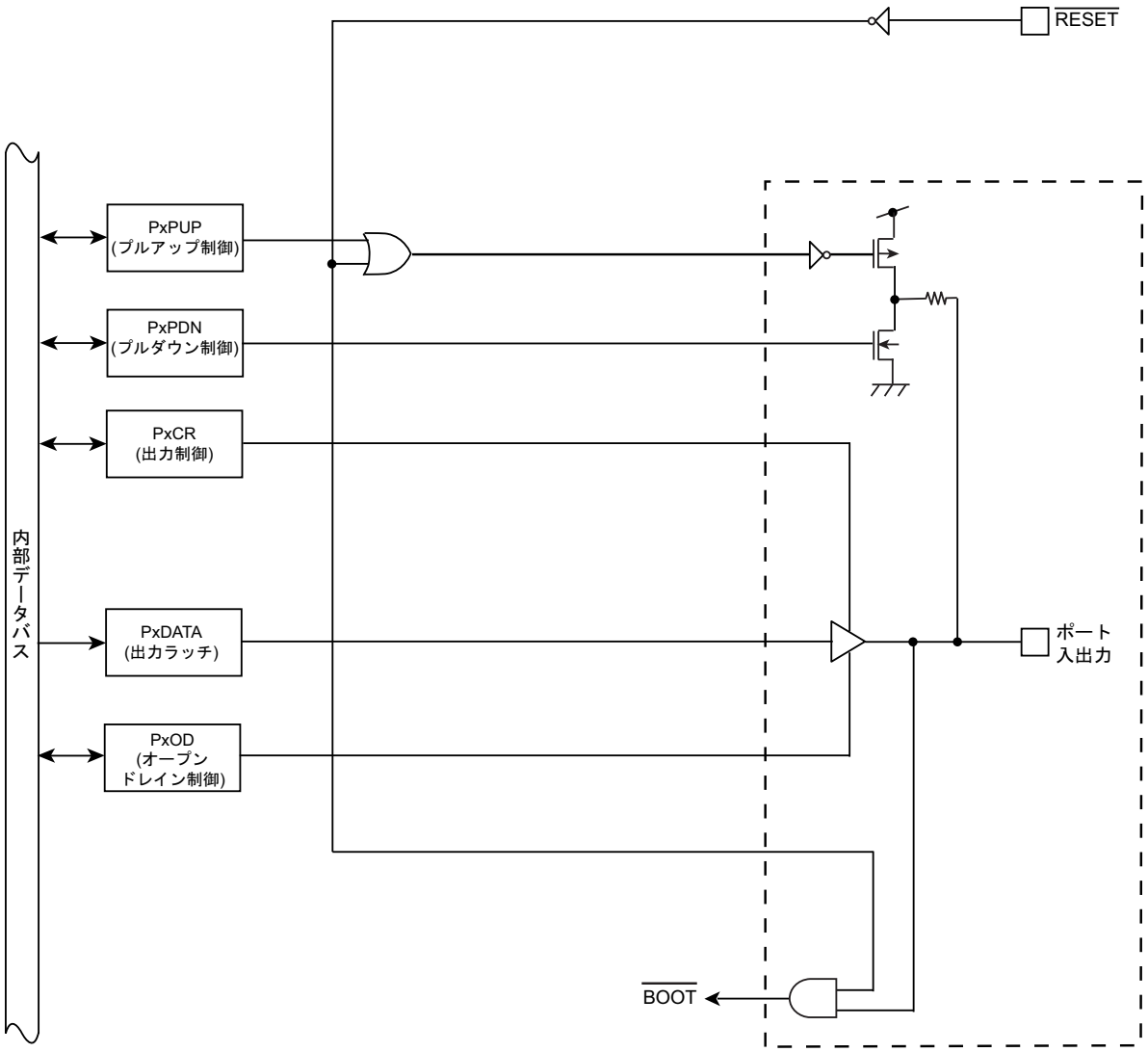


図 10-6 Port Type FT6

10.2.7　タイプ FT7

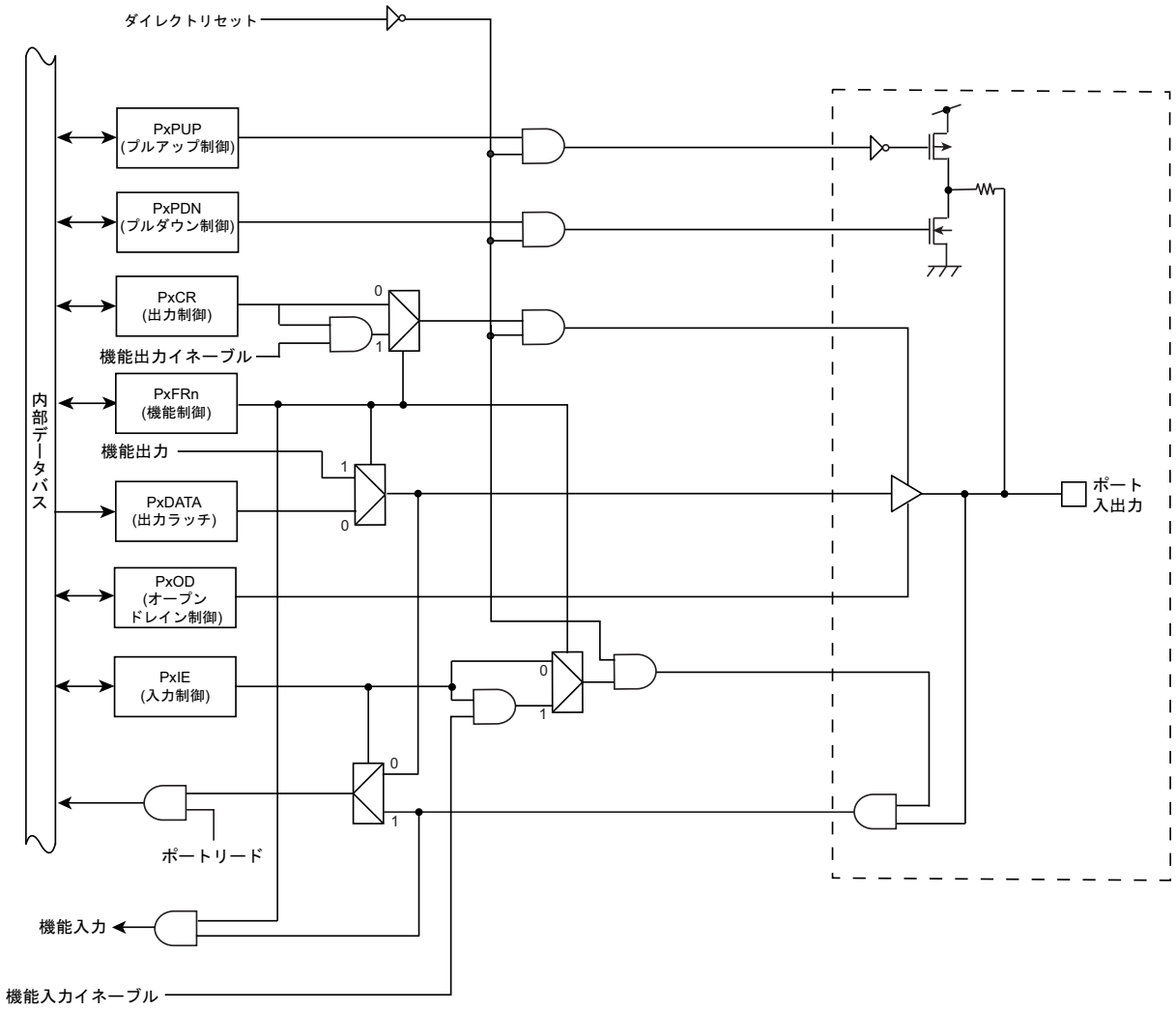


図 10-7 Port Type FT7

10.2.8 タイプ FT8

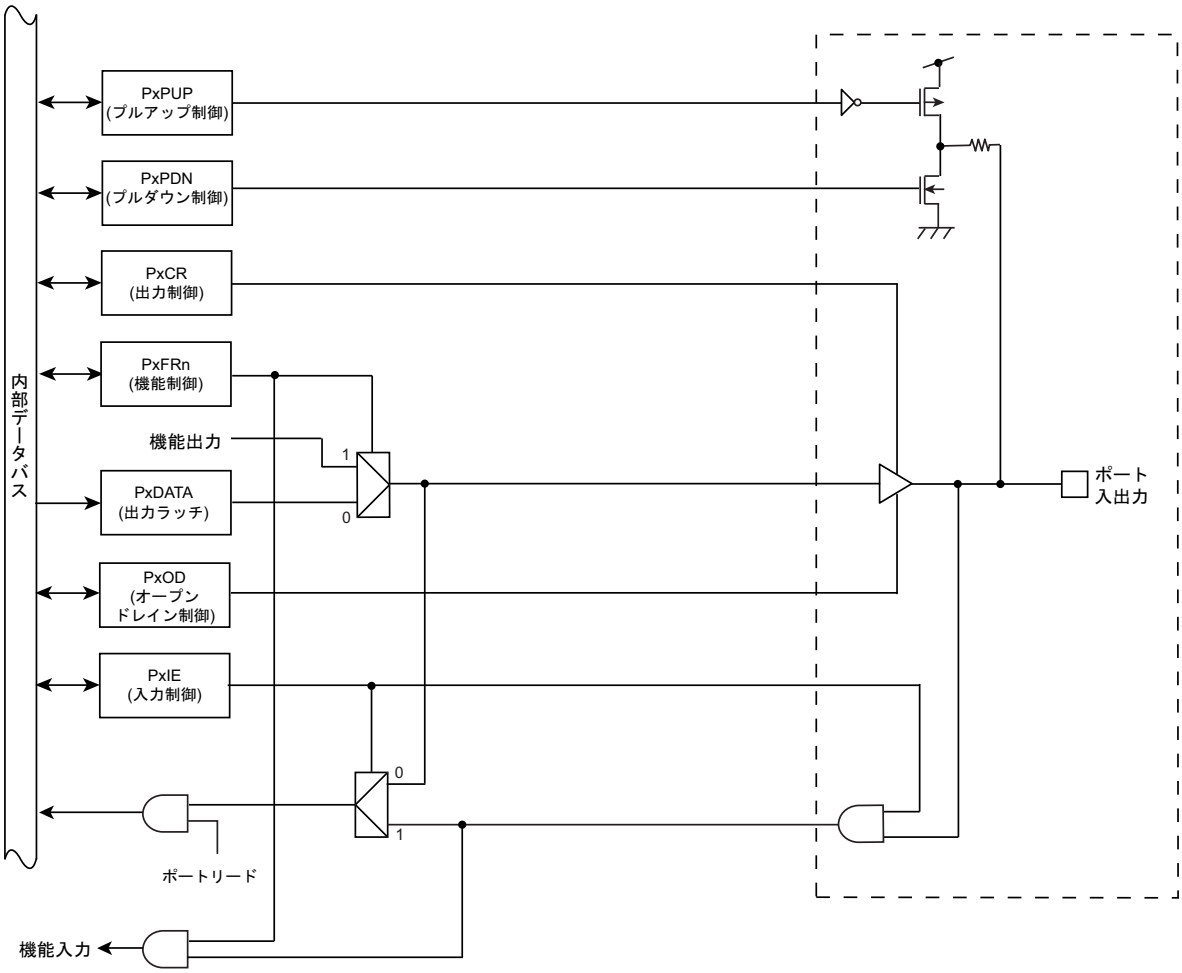


図 10-8 Port Type FT8

第 11 章　16 ビットタイマ/イベントカウンタ(TMRB)

11.1　概要

TMRB は、次の機能をもっています。

- 16 ビットインタバルタイマモード
- 16 ビットイベントカウンタモード
- 16 ビットプログラマブル矩形波出力 (PPG) モード
- 外部トリガプログラマブル矩形波出力 (PPG) モード

また、キャプチャ機能を利用することで、次のような用途に使用することができます。

- 外部トリガからのワンショットパルス出力
- パルス幅測定

以下の説明中、"x"はチャネル番号を表します。

11.2　構成

各チャネルは、主に 16 ビットアップカウンタ、16 ビットタイマレジスタ 2 本 (ダブルバッファ構造)、16 ビットのキャプチャレジスタ 2 本、コンパレータ 2 個、および、キャプチャ入力制御、タイマフリップフロップとその制御回路で構成されています。タイマの動作モードやタイマフリップフロップはレジスタで制御されます。

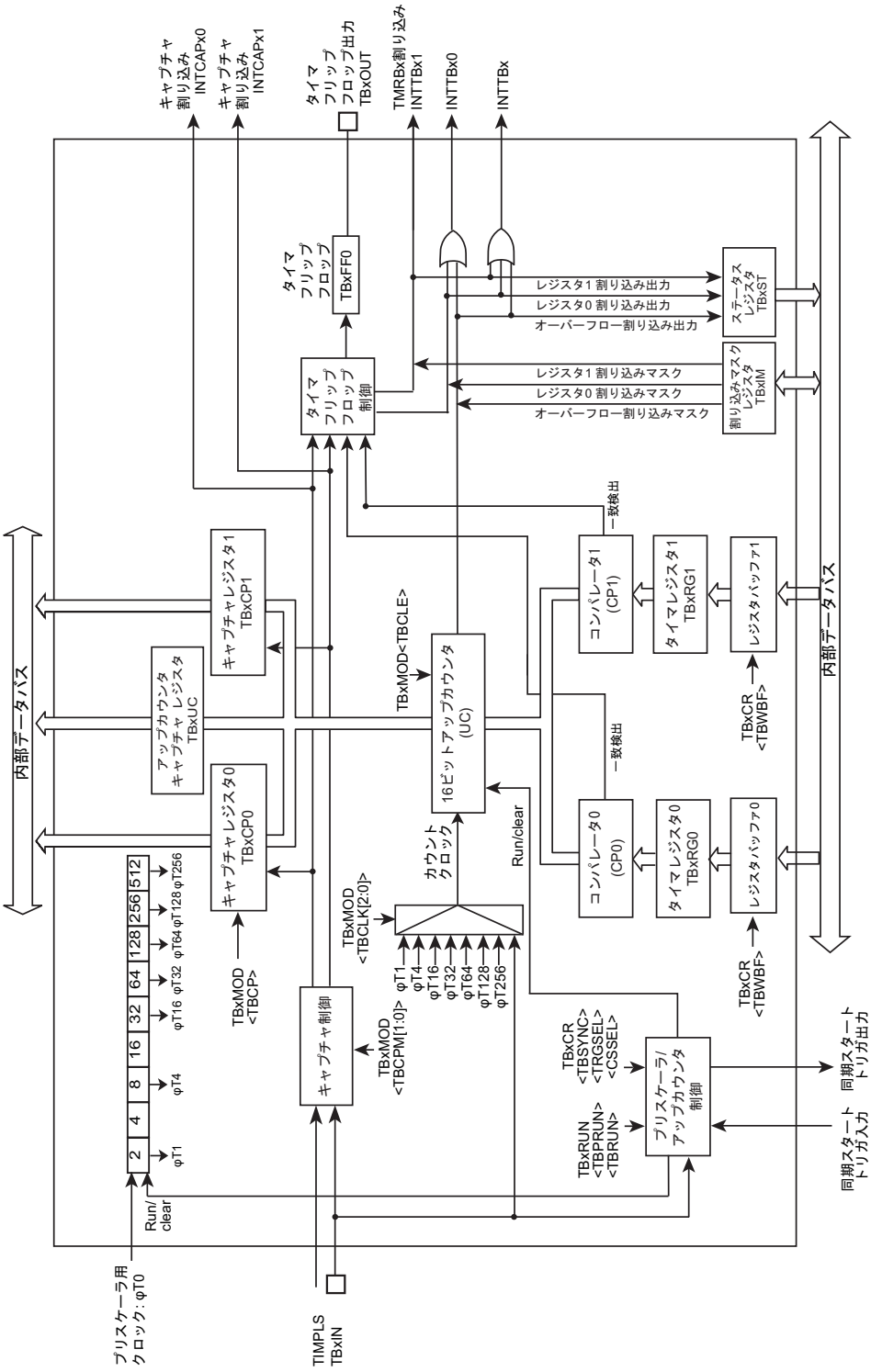


図 11-1 TMRBx ブロック図

11.3 レジスタ説明

11.3.1 レジスター一覧

制御レジスタとアドレスは以下の通りです。

ベースアドレスは、「メモリマップ」章の「周辺機能ベースアドレス一覧」を参照ください。

レジスタ名		Address(Base+)
イネーブルレジスタ	TBxEN	0x0000
RUN レジスタ	TBxRUN	0x0004
コントロールレジスタ	TBxCR	0x0008
モードレジスタ	TBxMOD	0x000C
フリップフロップコントロールレジスタ	TBxFFCR	0x0010
ステータスレジスタ	TBxST	0x0014
割り込みマスクレジスタ	TBxIM	0x0018
アップカウンタキャプチャレジスタ	TBxUC	0x001C
タイマレジスタ 0	TBxRG0	0x0020
タイマレジスタ 1	TBxRG1	0x0024
キャプチャレジスタ 0	TBxCP0	0x0028
キャプチャレジスタ 1	TBxCP1	0x002C

11.3.2　TBxEN(イネーブルレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TBEN	TBHALT	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7	TBEN	R/W	TMRBx 動作 0: 禁止 1: 許可 TMRBx の動作を指定します。動作禁止の状態では TMRBx モジュールの他のレジスタへクロックが供給されませんので消費電力の低減が可能です(この状態では、TBxEN レジスタ以外のレジスタへのリード、ライトはできません)。 TMRBx を使用する場合は、TMRBx モジュールの各レジスタを設定する前に TMRBx 動作許可("1")にしてください。TMRBx をいったん動作させた後に、動作禁止した場合は各レジスタの設定は保持されます。
6	TBHALT	R/W	ホールトモード時の制御 0: 動作 1: 停止 デバッグホールト中の動作を指定します。"0”を設定するとデバッグホールト中も動作を継続します。
5-0	−	R	リードすると"0"が読めます。

11.3.3 TBxRUN(RUN レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	TBPRUN	-	TBRUN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-3	−	R	リードすると"0"が読めます。
2	TBPRUN	R/W	プリスケーラ動作 0: 停止&クリア 1: カウント
1	−	R	リードすると"0"が読めます。
0	TBRUN	R/W	カウンタ動作 0: 停止&クリア 1: カウント

注 1) 外部トリガでカウントをスタートさせる場合は、必ず<TBRUN>=1 に設定してください。

注 2) カウンタ停止状態(<TBRUN>="0")でアップカウンタキャプチャレジスタの<TBUC[15:0]>をリードすると、カウンタ動作時に最後にキャプチャした値がリードされます。

11.3.4　TBxCR(コントロールレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TBWBF	-	TBSYNC	-	I2TB	-	TRGSEL	CSSEL
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7	TBWBF	R/W	ダブルバッファ 0: 禁止 1: 許可
6	−	R/W	"0"を書いて下さい。
5	TBSYNC	R/W	同期モード切替 0: 個別動作(チャネルごと) 1: 同期動作
4	−	R	リードすると"0"が読めます。
3	I2TB	R/W	IDLE 時の動作 0: 停止 1:動作
2	−	R/W	"0"を書いて下さい。
1	TRGSEL	R/W	外部トリガ選択 0: 立ち上がりエッジ 1:立ち下がりエッジ 外部トリガ選択時（TBxIN 端子への信号）のエッジを選択します。
0	CSSEL	R/W	カウンタスタートの方法選択 0: ソフトスタート 1:外部トリガ

注 1)　TBxCR レジスタはタイマ動作中に変更しないでください。

注 2)　外部トリガによるカウントスタート機能を使用する場合は、<CSSEL>と<TRGSEL>を設定した後、<TBRUN>=<TBPRUN>=1 としてください。

11.3.5 TBxMOD(モードレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	TBCP	TBCPM		TBCLE	TBCLK		
リセット後	0	1	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7	TBRSWR	R/W	ダブルバッファ使用時のタイマレジスタ 0,1 への書き込みタイミング制御 0: タイマレジスタ 0、タイマレジスタ 1 への書き込み準備が片側のみしか出来ていない場合でも、 片方ずつタイマレジスタに書き込みを行うことができます。 1: タイマレジスタ 0、タイマレジスタ 1 への書き込み準備が両方とも出来ていない場合は、 タイマレジスタに書き込みを行うことができません。
6	TBCP	W	ソフトウエアキャプチャ制御 0: ソフトキャプチャ 1: Don't care “0”を書き込むとキャプチャレジスタ 0 (TBxCP0)にカウント値を取り込みます。 リードすると"1"が読めます。
5-4	TBCPM[1:0]	R/W	キャプチャタイミング 00: ディセーブル 01: TBxIN↑ TBxIN 端子入力の立ち上がりでキャプチャレジスタ 0 (TBxCP0)にカウント値を取り込む 10: TBxIN↑ TBxIN↓ TBxIN 端子入力の立ち上がりでキャプチャレジスタ 0 (TBxCP0)にカウント値を取り込み、 TBxIN 端子入力の立ち下がりでキャプチャレジスタ 1 (TBxCP1)にカウント値を取り込む 11: TIMPLS↑ TIMPLS↓ TIMPLS の立ち上がりでキャプチャレジスタ 0(TBxCP0)にカウント値を取り込み、 TIMPLS の立ち下がりでキャプチャレジスタ 1(TBxCP1)にカウント値を取り込む
3	TBCLE	R/W	アップカウンタ制御 0: クリアディセーブル 1: クリアイネーブル アップカウンタのクリア制御を行います。 "0"でクリア禁止、"1"でタイマレジスタ 1 (TBxRG1)との一致時にクリアします。
2-0	TBCLK[2:0]	R/W	TMRBx のソースクロック選択 000: TBxIN 端子入力 001: φT1 010: φT4 011: φT16 100: φT32 101: φT64 110: φT128 111: φT256

注) TBxMOD レジスタはタイマ動作中に変更しないでください。

11.3.6　TBxFFCR(フリップフロップコントロールレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	TBC1T1	TBC0T1	TBE1T1	TBE0T1	TBFF0C	
リセット後	1	1	0	0	0	0	1	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7-6	−	R	リードすると"1"が読めます。
5	TBC1T1	R/W	TBxCP1 へのアップカウンタ値取り込み時の TBxFF0 反転トリガ 0: トリガディセーブル 1: トリガイネーブル "1"をセットすると、アップカウンタの値がキャプチャレジスタ 1 (TBxCP1)に取り込まれた時にタイマフリップフロップを反転します。
4	TBC0T1	R/W	TBxCP0 へのアップカウンタ値取り込み時の TBxFF0 反転トリガ 0: トリガディセーブル 1: トリガイネーブル "1"をセットすると、アップカウンタの値がキャプチャレジスタ 0 (TBxCP0)に取り込まれた時にタイマフリップフロップを反転します。
3	TBE1T1	R/W	アップカウンタと TBxRG1 との一致時の TBxFF0 反転トリガ 0: トリガディセーブル 1: トリガイネーブル "1"をセットすると、アップカウンタとタイマレジスタ 1 (TBxRG1)との一致時にタイマフリップフロップを反転します。
2	TBE0T1	R/W	アップカウンタと TBxRG0 との一致時の TBxFF0 反転トリガ 0: トリガディセーブル 1: トリガイネーブル "1"をセットすると、アップカウンタとタイマレジスタ 0 (TBxRG0)との一致時にタイマフリップフロップを反転します。
1-0	TBFF0C[1:0]	R/W	TBxFF0 の制御 00: Invert TBxFF0 の値を反転(ソフト反転)します。 01: Set TBxFF0 を"1"にセットします。 10: Clear TBxFF0 を"0"にクリアします。 11: Don't care *リードすると"11" が読めます。

注)　TBxFFCR レジスタはタイマ動作中に変更しないでください。

11.3.7 TBxST(ステータスレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	INTTBOF	INTTB1	INTTB0
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-3	−	R	リードすると"0"が読めます。
2	INTTBOF	R	オーバフローフラグ 0: オーバフローは発生していない 1: オーバフローが発生 アップカウンタのオーバフローが発生すると“1”がセットされます。
1	INTTB1	R	一致フラグ(TBxRG1) 0: 一致検出していない 1: TBxRG1 との一致を検出した タイマレジスタ 1 (TBxRG1)との一致を検出すると“1”がセットされます。
0	INTTB0	R	一致フラグ(TBxRG0) 0: 一致検出していない 1: TBxRG0 との一致を検出した タイマレジスタ 0 (TBxRG0)との一致を検出すると“1”がセットされます。

注 1) TBxIM でマスク設定されていない要因のみ、CPU に対し割り込み要求が出力されます。 マスク設定されていても、フラグはセットされます。

注 2) フラグは自動的にはクリアされません。クリアするためには本レジスタをリードしてしてください。

11.3.8　TBxIM(割り込みマスクレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	TBIMOF	TBIM1	TBIM0
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-3	–	R	リードすると"0"が読めます。
2	TBIMOF	R/W	オーバフロー割り込みマスク 0:割り込みをマスクしない 1:割り込みをマスクする 　アップカウンタのオーバフロー割り込みをマスクする／しないを設定します。
1	TBIM1	R/W	一致割り込みマスク(TBxRG1) 0:割り込みをマスクしない 1:割り込みをマスクする 　タイマレジスタ 1 (TBxRG1)との一致割り込みをマスクする／しないを設定します。
0	TBIM0	R/W	一致割り込みマスク(TBxRG0) 0:割り込みをマスクしない 1:割り込みをマスクする 　タイマレジスタ 0 (TBxRG0)との一致割り込みをマスクする／しないを設定します。

注)　TBxIM を設定して割り込みをマスクしても TBxST はセットされます。

11.3.9 TBxUC(アップカウンタキャプチャレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TBUC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TBUC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	TBUC[15:0]	R	アップカウンタ読み出しによりキャプチャした値 TBxUC をリードすると、現在のアップカウンタの値をキャプチャすることができます。

注) カウンタ動作時に TBxUC をリードすると、前回リードした時にキャプチャされた値がリードされます。
また、現在のアップカウンタ値がキャプチャされます。

11.3.10　TBxRG0(タイマレジスタ 0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TBRG0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TBRG0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	TBRG0[15:0]	R/W	アップカウンタと比較する値を設定します。

11.3.11　TBxRG1(タイマレジスタ 1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TBRG1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TBRG1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	TBRG1[15:0]	R/W	アップカウンタと比較する値を設定します。

11.3.12 TBxCP0(キャプチャレジスタ 0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TBCP0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TBCP0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	TBCP0[15:0]	R	アップカウンタをキャプチャした値が読めます。

11.3.13 TBxCP1(キャプチャレジスタ 1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TBCP1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TBCP1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	TBCP1[15:0]	R	アップカウンタをキャプチャした値が読めます。

11.4　回路別の動作説明

11.4.1　プリスケーラ

アップカウンタ UC のソースクロックを生成する 4 ビットのプリスケーラです。

プリスケーラへの入力クロック φT0 は CG 部の CGSYSCR<PRCK[2:0]>で選択された fperiph/1, fperiph/2, fperiph/4, fperiph/8, fperiph/16, fperiph/32 のいずれかのクロックです。このペリフェラルクロック fperiph は CG 部の CGSYSCR<FPSEL>で選択したクロック fgear またはクロックギア分周前のクロック fc のいずれかのクロックです。

プリスケーラは TBxRUN<TBPRUN> により動作/停止の設定をします。"1" をライトするとカウント開始し "0" をライトするとクリアされ停止します。

11.4.2　アップカウンタ(UC)

16 ビットのバイナリカウンタです。

11.4.2.1　ソースクロック

ソースクロックは TBxMOD<TBCLK[2:0]>で設定することができます。

プリスケーラ出力クロック φT1, φT4, φT16, φT32, φT64, φT128, φT256、または、TBxIN 入力のいずれかを選択できます。

11.4.2.2　動作の開始と停止

カウンタのスタート方法には、ソフトスタート、外部トリガスタート、同期スタートがあります。

1. ソフトスタート

   TBxRUN<TBRUN> に "1" を設定することでカウントを開始します。"0" でカウント停止と同時にアップカウンタのクリアを行います。

2. 外部トリガスタート

   外部トリガカウントスタートモードでは、外部信号でタイマのカウントスタートが可能となります。

   TBxCR<CSSEL> に"1" を設定することで外部トリガスタートモードとなります。この状態で、<TBRUN> に"1" を設定するとトリガ待ち状態となり、TBxIN0TBxIN の立ちあがりまたは立ち下がりでカウントを開始します。

   TBxCR<TRGSEL> ビットの設定により、外部トリガのエッジ切り替えを行います。

   - <TRGSEL> = "0"：TBxIN の立ち上がりエッジが選択されます。。
   - <TRGSEL> = "1"：TBxIN の立ち下がりエッジが選択されます。。

   TBxRUN<TBRUN> に "0" を設定することでカウント停止と同時にアップカウンタのクリアを行います。

3. 同期スタート

   タイマ同期モードでは、タイマ間のスタートの同期を取ることが可能となります。PPG 出力モードにてタイマ同期モードを使用することによりモータ等の駆動に応用が可能です。

製品によってマスタとなるチャネルとスレーブとなるチャネルの組み合わせは決まっています。本製品でのマスタとスレーブの組み合わせは「製品情報」の章を参照ください。

TBxCR<TBSYNC> ビットの設定により、同期モードの切り替えを行います。スレーブチャネルの<TBSYNC>ビットに "1"を設定するとマスタチャネルのソフトウエアまたは外部トリガによるスタートに同期してカウント開始および停止します。スレーブチャネルの TBxRUN <TBPRUN, TBRUN> ビットの設定は不要です。マスタチャネルの <TBSYNC> ビットは"0" を設定してください。

なお、外部トリガカウントモードとタイマ同期モードが同時に設定されている場合は、タイマ同期モードが優先されます。

11.4.2.3 カウンタクリアのタイミング

1. コンペア一致時

   TBxMOD<TBCLE> = "1"に設定することで、TBxRG1 とのコンペア一致とともにカウンタのクリアをすることができます。TBxMOD<TBCLE> = "0"に設定するとカウンタはフリーランニングカウンタとして動作します。

2. カウンタ停止時

   TBxRUN<TBRUN> = "0"に設定すると、カウンタが停止するとともにクリアされます。

11.4.2.4 カウンタのオーバフロー

アップカウンタ UC がオーバフローすると、オーバフロー割り込み INTTBx0 が発生します。

11.4.3 タイマレジスタ(TBxRG0, TBxRG1)

アップカウンタ UC と比較する値を設定するレジスタで、2 本内蔵されています。タイマレジスタに設定された値とアップカウンタの値をコンパレータで比較し、一致するとコンパレータが一致検出信号を出力します。

TBxRG0/1 はダブルバッファ構成になっており、レジスタバッファとペアになっています。初期状態では、ダブルバッファはディセーブルです。

ダブルバッファのイネーブル/ディセーブル制御は TBxCR<TBWBF> によって行います。<TBWBF> = "0" のときディセーブル、 <TBWBF> = "1" のときイネーブルとなります。ダブルバッファイネーブル時、UC と TBxRG1 との一致時にレジスタバッファ 0/1 からタイマレジスタ TBxRG0/1 へデータ転送が行われます。また、 ダブルバッファがイネーブルでもカウンタが停止しているときはシングルバッファ動作となり、TBxRG0/1 に直接値を書き込むことができます。

11.4.4 キャプチャ制御

アップカウンタ UC の値をキャプチャレジスタ TBxCP0, TBxCP1 にラッチするタイミングを制御する回路です。キャプチャレジスタのラッチタイミングは、TBxMOD<TBCPM[1:0]>で設定します。

また、ソフトウエアによってもアップカウンタ UC の値をキャプチャレジスタへ取り込むことができ、TBxMOD<TBCP> に "0" を書き込むたびに、その時点の UC の値をキャプチャレジスタ TBxCP0 へキャプチャします。

11.4.5　キャプチャレジスタ(TBxCP0, TBxCP1)

アップカウンタ UC の値をキャプチャするレジスタです。

11.4.6　アップカウンタキャプチャレジスタ(TBxUC)

キャプチャ制御回路によるキャプチャ機能のほかに、TBxUC レジスタを読み出すことにより、アップカウンタの現在のカウント値をキャプチャすることができます。

11.4.7　コンパレータ(CP0, CP1)

アップカウンタ UC と、タイマレジスタ TBxRG0, TBxRG1 への設定値とを比較し、一致を検出します。一致すると、INTTBx0 と INTTBx1 を発生します。

11.4.8　タイマフリップフロップ(TBxFF0)

タイマフリップフロップ (TBxFF0) は、コンパレータからの一致信号、キャプチャレジスタへのラッチ信号によって反転するフリップフロップです。反転のディセーブル/イネーブルは、TBxFFCR<TBC1T1, TBC0T1, TBE1T1, TBE0T1> によって設定できます。

リセット後、TBxFF0 の値は不定となります。TBxFFCR<TBFF0C[1:0]>に "00" を書き込むことで反転、"01" を書き込むことで "1" にセット、"10" を書き込むことで "0" にクリアすることが可能です。

TBxFF0 の値は、タイマ出力端子 TBxOUT 端子へ出力することができます。タイマ出力を行う場合、あらかじめ該当するポートの設定を行う必要があります。

11.4.9　キャプチャ割り込み(INTCAPx0, INTCAPx1)

キャプチャレジスタ TBxCP0, TBxCP1 にラッチするタイミングで割り込み INTCAPx0, INTCAPx1 をそれぞれ発生します。割り込みの設定は CPU で行います。

11.5 モード別動作説明

11.5.1 16 ビットインタバルタイマモード

一定周期の割り込みを発生させる場合、タイマレジスタ TBxRG1 にインタバル時間を設定し、INTTBx1 割り込みを発生します。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
TBxEN	←	1	X	X	X	X	X	X	X	TMRBx モジュールを起動します。
TBxRUN	←	X	X	X	X	X	0	X	0	TMRBx を停止します
割り込みイネーブルセットレジスタ	←	*	*	*	*	*	*	*	*	INTTBx1 割り込みに対応するビットを"1"にし、割り込みを許可します。
TBxFFCR	←	X	X	0	0	0	0	1	1	TBxFF0 反転トリガをディセーブルします。
TBxMOD	←	0	1	0	0	1	*	*	*	入力クロックをプリスケーラ出力クロックにし、キャプチャ機能ディセーブルにします。
		(*** = 001, 010, 011,100,101,110,111)								
TBxRG1	←	*	*	*	*	*	*	*	*	インタバル時間を設定します。(16 ビット)
	←	*	*	*	*	*	*	*	*	
TBxRUN	←	*	*	*	*	*	1	X	1	TMRBx を起動します。

注) X; Don't care −; No change

11.5.2 16 ビットイベントカウンタモード

入力クロックを外部クロック(TBxIN 端子入力)にすることでイベントカウンタにすることができます。

アップカウンタは TBxIN 端子入力の立ち上がりエッジでカウントアップします。ソフトウエアキャプチャを行い、キャプチャ値をリードすることでカウント値を読むことができます。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
TBxEN	←	1	X	X	X	X	X	X	X	TMRBx モジュールを起動します。
TBxRUN	←	X	X	X	X	X	0	X	0	TMRBx を停止します
PORT 関連レジスタ設定										該当ポートを TBxIN になるように設定します。
TBxFFCR	←	X	X	0	0	0	0	1	1	TBxFF0 反転トリガをディセーブルします。
TBxMOD	←	0	1	0	0	0	0	0	0	入力クロックを TBxIN にします。
TBxRUN	←	*	*	*	*	*	1	X	1	TMRBx を起動します。
TBxMOD	←	0	0	0	0	0	0	0	0	ソフトウエアキャプチャを行います。

注) X; Don't care −; No change

11.5.3　16 ビット PPG (プログラマブル矩形波)出力モード

任意周波数, 任意デューティの矩形波 (プログラマブル矩形波)を出力することができます。出力パルスは、ローアクティブ, ハイアクティブどちらでも可能です。

アップカウンタ (UC) とタイマレジスタ (TBxRG0, TBxRG1) への設定値との一致によりタイマフリップフロップ (TBxFF0) の反転トリガをかけることで、プログラマブル矩形波を TBxOUT 端子より出力することができます。ただし、TBxRG0 と TBxRG1 の設定値は次の条件を満たす必要があります。

TBxRG0 設定値 < TBxRG1 設定値

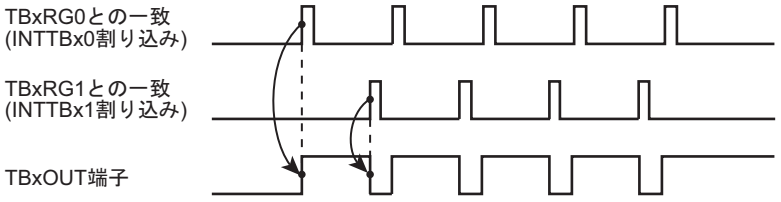


図 11-2 プログラマブル矩形波(PPG)出力波形例

このモードでは、TBxRG0 のダブルバッファをイネーブルにすることにより、TBxRG1 との一致で、レジスタバッファ 0 の値が TBxRG0 へシフトインされます。これにより、小さいデューティへの対応が容易に行えます。

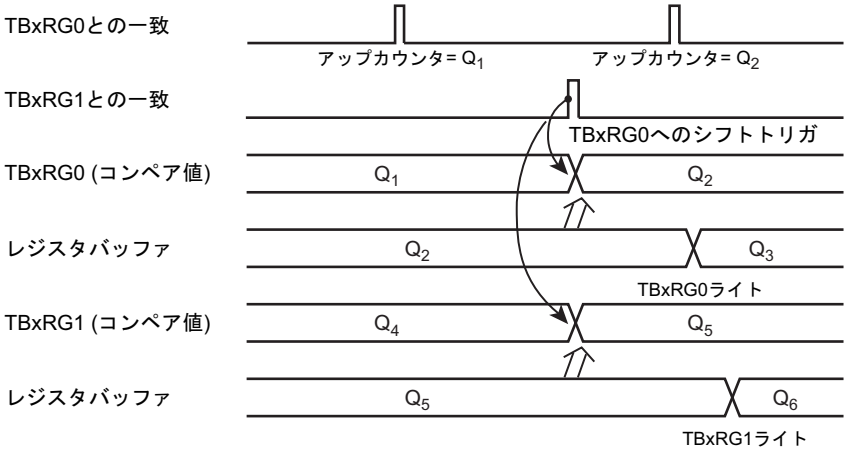


図 11-3 レジスタバッファの動作

このモードのブロック図を示します。

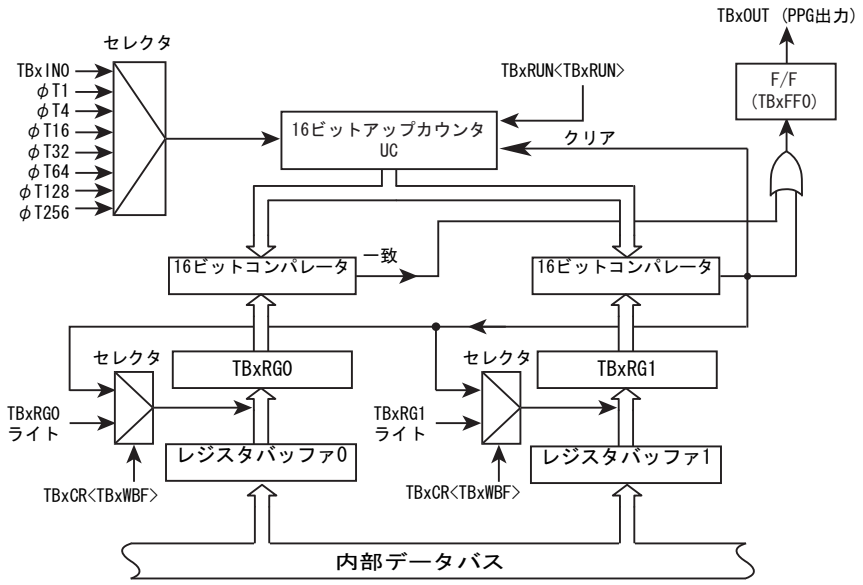


図 11-4 16 ビット PPG モードのブロック図

16 ビット PPG 出力モード時の各レジスタは、次のように設定します。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
TBxEN	←	1	X	X	X	X	X	X	X	TMRBx モジュールを起動します。
TBxRUN	←	X	X	X	X	X	0	X	0	TMRBx を停止します
TBxCR	←	0	0	0	X	−	0	0	0	ダブルバッファをディセーブルします。
TBxRG0	←	*	*	*	*	*	*	*	*	デューティを設定します。(16 ビット)
	←	*	*	*	*	*	*	*	*	
TBxRG1	←	*	*	*	*	*	*	*	*	周期を設定します。(16 ビット)
	←	*	*	*	*	*	*	*	*	
TBxCR	←	1	0	0	X	−	0	0	0	TBxRG0 のダブルバッファイネーブル
										(INTTBx0 割り込みでデューティ/周期の変更)
TBxFFCR	←	X	X	0	0	1	1	1	0	TBxFF0 を TBxRG0, TBxRG1 との一致検出で反転するように設定します。また、TBxFF0 の初期値を "0" にします。
TBxMOD	←	0	1	0	0	1	*	*	*	入力クロックをプリスケーラ出力クロックにし、キャプチャ機能ディセーブルにします。
					(*** = 001, 010, 011,100,101,110,111)					UC は TBxRG1 との一致でクリアされます。
PORT 関連レジスタ設定										該当ポートを TBxOUT になるように設定します。
TBxRUN	←	*	*	*	*	*	1	X	1	TMRBx を起動します。

注) X; Don't care
−; No change

11.5.4　外部トリガ PPG(プログラマブル矩形波)出力モード

外部トリガカウントスタートを使用すると、小さいディレイでのワンショットパルス出力が可能です。

外部トリガカウントスタートを使用したワンショットパルス出力(ディレイあり）の例を以下に示します。

16 ビットアップカウンタ(UC)が停止状態(TBxRUN<TBRUN>=0)で、TBxIN 端子の立ち上がりでカウントアップするように設定しておきます(TBxCR[1:0] = "01")。タイマレジスタ(TBxRG0）には、ディレイタイム(d)を設定します。タイマレジスタ(TBxRG1)には TBxRG0 の値とワンショットパルスの幅(p)を加算した値(d+p)を設定します。

TBxFFCR<TBE1T1, TBE0T1>に"11"を設定し、UC と TBxRG0 との一致、および、TBxRG1 との一致より、タイマフリップフロップ(TBxFF0)が反転するようにトリガをイネーブルにします。

TBxRUN<TBRUN>を"1"にセットし、外部トリガパルスの立ち上がりで、カウントアップスタートを有効にします。

TBxIN 端子の立ち上がりでワンショットパルスが出力された後、INTTBx1 の割り込み処理でタイマフリップフロップ(TBxFF0)の反転をディセーブルにするか、TBxRUN<TBRUN>を"0"にクリアし、16 ビットアップカウンタの動作を停止します。

なお、文中の(d)、(p)は図 11-5 の d、p と対応しています。

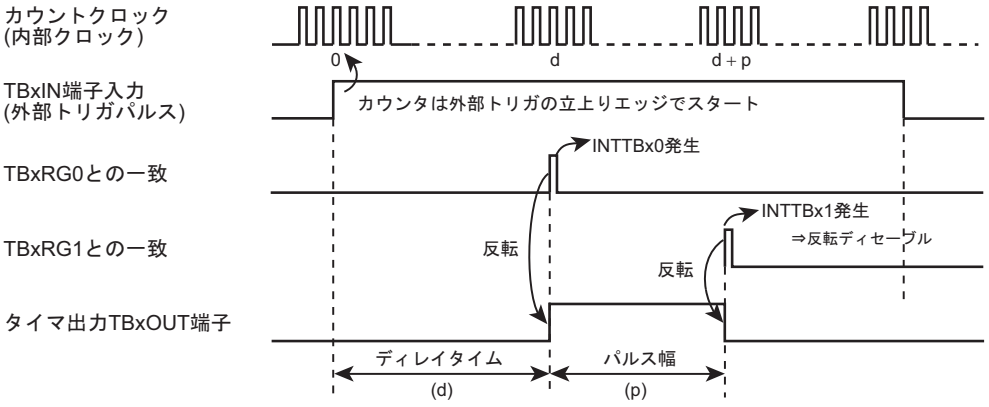


図 11-5 外部トリガカウントスタートを使用したワンショットパルス出力(ディレイあり)

11.6 キャプチャ機能を利用した応用例

キャプチャ機能を利用することにより、次に示す例をはじめ、多くの応用が可能です。

1. 外部トリガパルスからのワンショットパルス出力
2. パルス幅測定

11.6.1 外部トリガパルスからのワンショットパルス出力

外部トリガパルスからのワンショットパルス出力は、次のように行います。

16 ビットアップカウンタ UC をプリスケーラ出力クロックにてフリーランニングでカウントアップさせておきます。TBxIN 端子より外部トリガパルスを入力し、キャプチャ機能を用いて、外部トリガパルスの立ち上がりで、アップカウンタ値をキャプチャレジスタ(TBxCP0)に取り込みます。

外部トリガパルスの立ち上がり時、割り込み INTCAPx0 が発生するように CPU で設定します。この割り込みで、タイマレジスタ(TBxRG0)には、TBxCP0 の値(c)とディレイタイム(d)を加算した値(c + d)を設定します。

タイマレジスタ(TBxRG1)には、TBxRG0 の値とワンショットパルスのパルス幅(p)を加算した値(c + d + p)を設定します。(TBxRG1 の変更は次の一致までに完了してください)

さらに、タイマフリップフロップコントロールレジスタ(TBxFFCR<TBE1T1, TBE0T1>)に "11" を設定し、UC と TBxRG0 との一致、および、TBxRG1 との一致により、タイマフリップフロップ(TBxFF0)が反転するように、トリガイネーブルにします。ワンショットパルス出力後、INTTBx0/INTTBx1 の割り込み処理により、これをディセーブルに戻します。

なお、文中の(c), (d), (p)は、図 11-6 の c, d, p と対応しています。

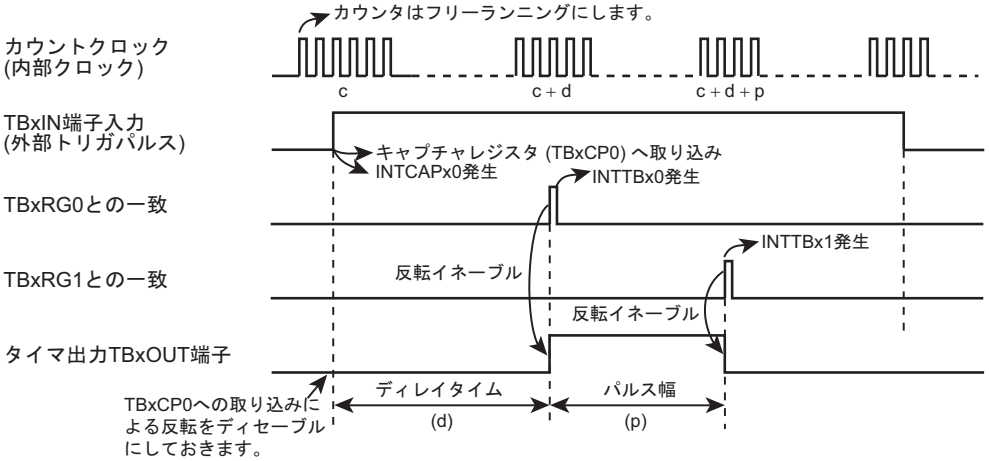


図 11-6 ワンショットパルス出力(ディレイあり)

TBxIN 入力の立ち上がりをトリガとして、3ms 後に 2ms 幅のワンショットパルスを出力する場合の設定例を以下に示します。ここではソースクロックに ΦT1 を使用しています。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
[メイン処理]　TBxIN でのキャプチャ設定										
PORT 関連レジスタ設定										該当ポートを TBxIN になるように設定します。
TBxEN	←	1	X	X	X	X	X	X	X	TMRBx モジュールを起動します。
TBxRUN	←	X	X	X	X	X	0	X	0	TMRBx を停止します
TBxMOD	←	0	1	0	1	0	0	0	1	ソースクロックを ΦT1 にし、TBxIN 立ち上がりで TBxCP0 へカウント値を取り込みます。
TBxFFCR	←	X	X	0	0	0	0	1	0	TBxFF0 反転トリガをクリアし、ディセーブルします。
PORT 関連レジスタ設定										該当ポートを TBxOUT になるように設定します。
割り込みイネーブルセットレジスタ	←	*	*	*	*	*	*	*	*	INTCAPx0 割り込みに対応するビットを"1"にし、割り込みを許可します。
TBxRUN	←	*	*	*	*	*	1	X	1	TMRBx を起動します。
[INTCAPx0 割り込みサービスルーチンでの処理]　パルス出力設定										
TBxRG0	←	*	*	*	*	*	*	*	*	カウント値を設定します。(TBxCAP0 + 3μσ/ΦT1)
	←	*	*	*	*	*	*	*	*	
TBxRG1	←	*	*	*	*	*	*	*	*	カウント値を設定します。(TBxCAP0 + (3+2)ms/ΦT1)
	←	*	*	*	*	*	*	*	*	
TBxFFCR	←	X	X	−	−	1	1	−	−	TBxRG0,TBxRG1 との一致で TBxFF0 を反転します。
TBxIM	←	X	X	X	X	X	1	0	1	TBxRG1 との一致割り込み以外をマスクします。
割り込みイネーブルセットレジスタ	←	*	*	*	*	*	*	*	*	INTTBx1 割り込みに対応するビットを"1"にし、割り込みを許可します。
[INTTBx1 割り込みサービスルーチンでの処理]　出力ディセーブル										
TBxFFCR	←	X	X	−	−	0	0	−	−	TBxFF0 反転トリガ設定をクリアします。
割り込みイネーブルクリアレジスタ	←	*	*	*	*	*	*	*	*	INTTBx 割り込みに対応するビットを"1"にし、割り込みを禁止します。

注)　X; Don't care
　　−; No change

ディレイが不要な場合、TBxCP0 への取り込みによって TBxFF0 を反転させ、割り込み INTCAPx0 で TBxCP0 の値(c) にワンショットパルスの幅(p)を加算した値(c + p)を TBxRG1 に設定します。(TBxRG1 の変更は次の一致までに完了してください。) TBxFF0 は、TBxRG1 と UC の一致によって反転するように、反転イネーブルを選択します。また、INTTBx1 割り込みでこれをディセーブルに戻します。

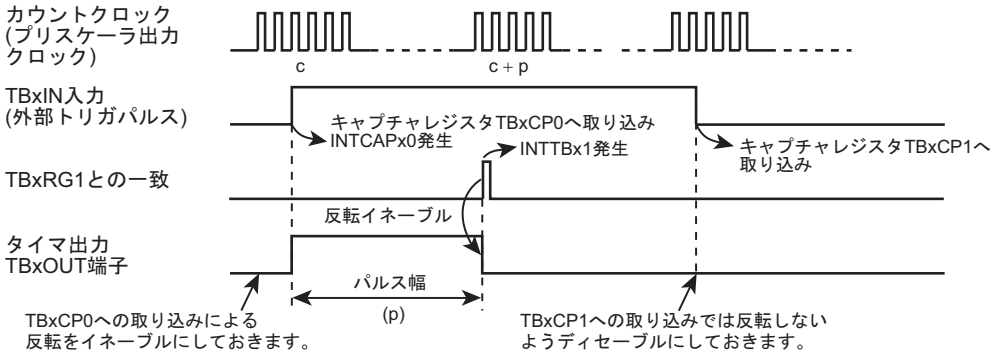


図 11-7 外部トリガパルスのワンショットパルス出力(ディレイなし)

11.6.2 パルス幅測定

キャプチャ機能を用いて、外部パルスの"High"レベル幅を測定することができます。TBxIN 端子より外部パルスを入力し、アップカウンタ (UC) をプリスケーラ出力クロックにてフリーランニングでカウントアップさせておきます。キャプチャ機能を用いて、外部パルスの立ち上がり/立ち下がり、それぞれのエッジでトリガをかけ、このときのアップカウンタ値をキャプチャレジスタ(TBxCP0, TBxCP1)に取り込みます。TBxIN 端子の立ち下がりにより、INTCAPx1 が発生するように CPU で設定します。

"High"レベルパルス幅は、TBxCP0 と TBxCP1 の差を求め、その値に内部クロックの周期をかけることにより、求めることができます。

例えば TBxCP0 と TBxCP1 の差が 100 で、プリスケーラ出力クロックの周期が 0.5 μs であれば、パルス幅は、100 × 0.5 μs = 50 μs となります。

なお、クロックソースにより定まる UC の最大カウント時間を越えるパルス幅の測定を行う場合は、注意が必要です。この場合、ソフトウエアによる処理を行ってください。

また、外部パルスの"Low"レベル幅を測定することもできます。この場合、図 11-8 における、2 回目の INTCAPx0 割り込み処理により、1 回目の C2 と 2 回目の C1 の差に、プリスケーラ出力クロックの周期をかけることにより、求めることができます。

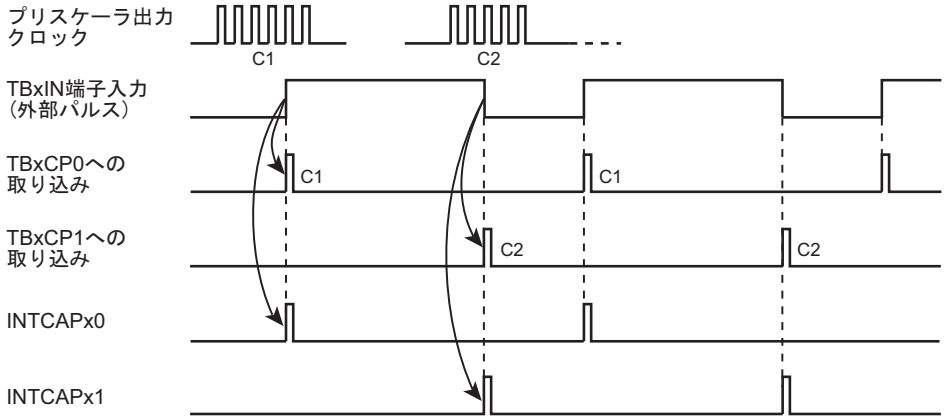


図 11-8 パルス幅測定

第 12 章　4 バイト FIFO 付きシリアルチャネル(SIO/UART)

12.1　概要

シリアルチャネル(SIO/UART)は次の動作モードを持っています。

- 同期通信モード(I/O インタフェースモード)
- 非同期通信モード(UART モード)

特長は以下のとおりです。

- 転送クロック
  - プリスケーラでペリフェラルクロック(φT0)を 1/1、1/2、1/4、1/8、1/16、1/32、1/64、1/128 分周
  - プリスケーラ出力クロックに対し、1~16 分周が可能
  - プリスケーラ出力クロックに対し、N + m/16 (N = 2~15, m = 1~15)分周が可能

    (UART モードのみ)
  - システムクロック(fsys)を使用可能(UART モードのみ)
- バッファ
  - ダブルバッファ構成で使用可能
  - 送信バッファのクリアが可能
- FIFO

  送受信合わせて 4 バイトの FIFO を使用可能
- I/O インタフェースモード
  - 転送モード：半二重(受信/送信)、全二重
  - クロック：立ち上がり/立ち下がりエッジ選択
  - 連続転送時のインタバル時間設定が可能
  - 最終ビット出力後の SCxTXD 端子の状態を下記から選択可能

    "High"保持/"Low"保持/最終ビット保持
  - クロック入力モード時、アンダーランエラーが発生したときの SCxTXD 端子の状態を下記から選択可能

    "High"保持/"Low"保持
  - クロック入力モード時、SCxTXD 端子の最終ビットホールド時間を設定可能
- UART モード
  - データ長：7，8，9 ビット
  - パリティ付加(9 ビット長では不可)
  - シリアルリンクでのウエイクアップ機能
  - $\overline{\text{SCxCTS}}$ 端子を用いたハンドシェイク機能
  - SCxRXD 端子へのノイズキャンセラ付加

以下の説明中、"x"はチャネル番号をあらわします。

12.2　構成

下記にシリアルチャネルとシリアルクロック生成回路のブロック図を示します。

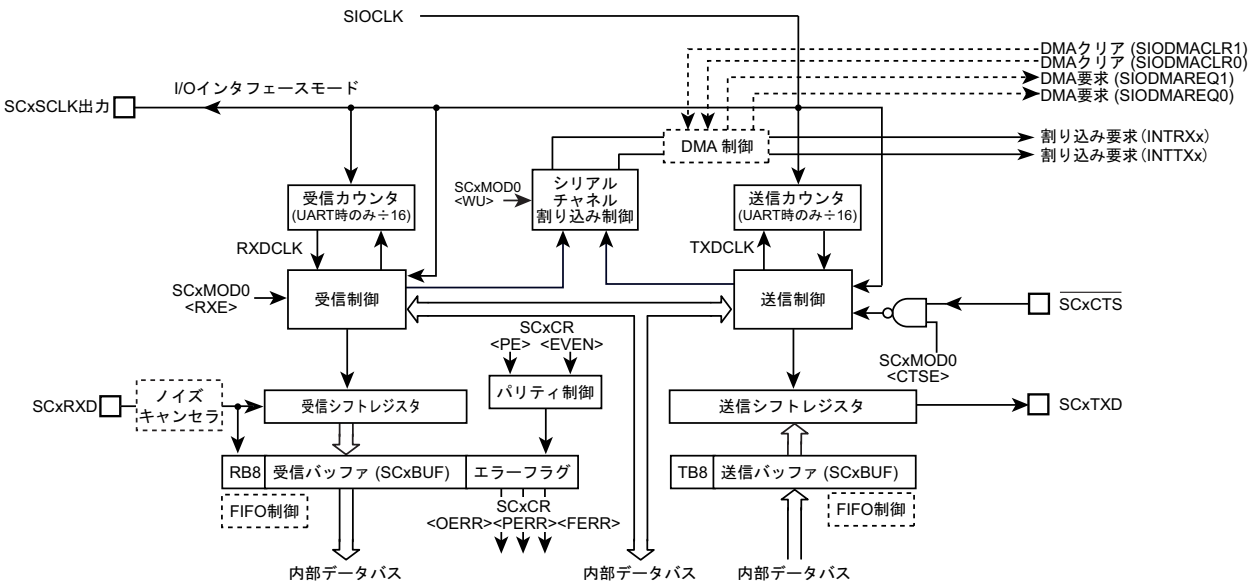


図 12-1 シリアルチャネルブロック図

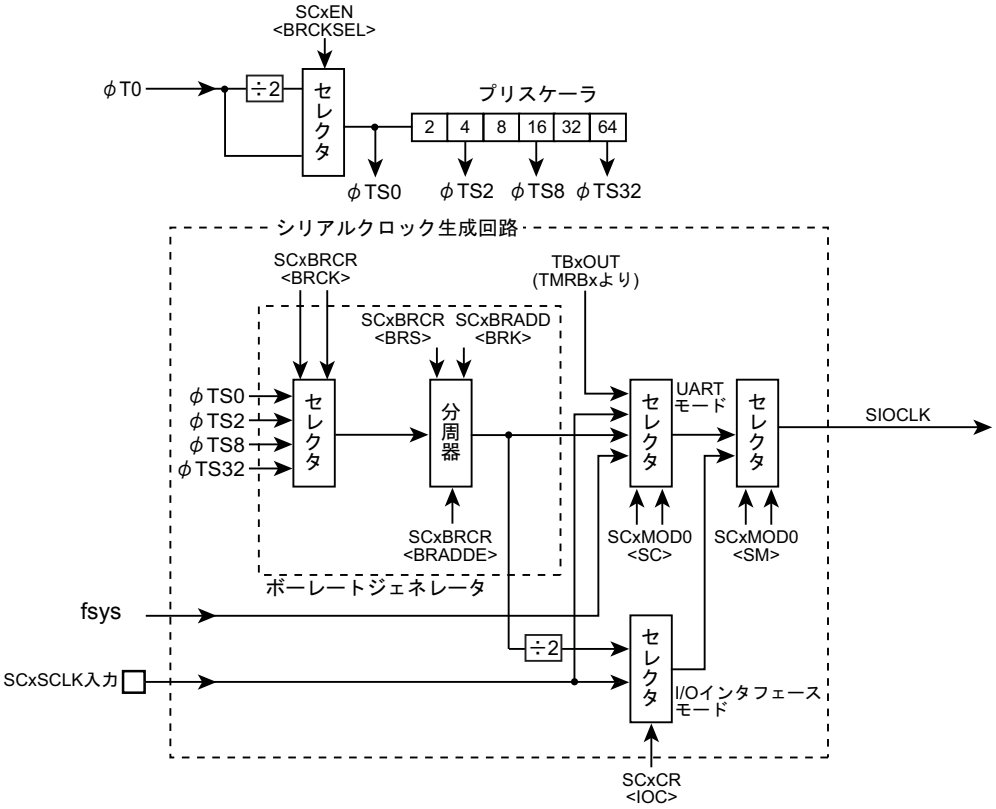


図 12-2 シリアルクロック生成回路ブロック図

12.3 レジスタ説明

12.3.1 レジスター覧

制御レジスタとアドレスは以下の通りです。

ベースアドレスは、「メモリマップ」章の「周辺機能ベースアドレス一覧」を参照ください。

レジスタ名		Address (Base+)
イネーブルレジスタ	SCxEN	0x0000
送受信バッファレジスタ	SCxBUF	0x0004
コントロールレジスタ	SCxCR	0x0008
モードコントロールレジスタ 0	SCxMOD0	0x000C
ボーレートジェネレータコントロールレジスタ	SCxBRCR	0x0010
ボーレートジェネレータコントロールレジスタ 2	SCxBRADD	0x0014
モードコントロールレジスタ 1	SCxMOD1	0x0018
モードコントロールレジスタ 2	SCxMOD2	0x001C
受信 FIFO コンフィグレジスタ	SCxRFC	0x0020
送信 FIFO コンフィグレジスタ	SCxTFC	0x0024
受信 FIFO ステータスレジスタ	SCxRST	0x0028
送信 FIFO ステータスレジスタ	SCxTST	0x002C
FIFO コンフィグレジスタ	SCxFCNF	0x0030

注) 送信中、受信中にコントロールレジスタを書き換えないでください。

12.3.2　SCxEN (イネーブルレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	BRCKSEL	SIOE
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	−	R	リードすると"0"が読めます。
1	BRCKSEL	R/W	プリスケーラの入力クロックを選択します。 0: φT0/2 1: φT0
0	SIOE	R/W	シリアルチャネル動作 0: 禁止 1: 動作 シリアルチャネルの動作を指定します。シリアルチャネルを使用する場合は、まず<SIOE>に"1"をセットしてください。 動作禁止の状態では、イネーブルレジスタを除くシリアルチャネルのすべてのクロックが停止しますので消費電力の低減が可能です。 シリアルチャネルを一旦動作させた後に動作禁止にした場合は、レジスタの設定は保持されます。

12.3.3 SCxBUF (バッファレジスタ)

SCxBUF は、書き込み時は送信バッファまたは FIFO、読み出し時は受信バッファまたは FIFO として機能します。

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TB / RB							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	–	R	リードすると"0"が読めます。
7-0	TB[7:0] / RB [7:0]	R/W	[ライト] TB：送信用バッファまたは FIFO [リード] RB：受信用バッファまたは FIFO

12.3.4　SCxCR (コントロールレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	EHOLD			-	TXDEMP	TIDLE	
リセット後	0	0	0	0	0	1	1	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	RB8	EVEN	PE	OERR	PERR	FERR	SCLKS	IOC
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-15	−	R	リードすると"0"が読めます。
14-12	EHOLD[2:0]	R/W	クロック入力モードの SCxTXD 端子の最終ビットホールド時間の設定(I/O インタフェースモードのみ有効) 最終ビットのホールド時間 ≤ SCLK 周期/2 となるように、最終ビットのホールド時間、SCLK 周期を設定してください。 000: 2/fsys　100: 32/fsys 001: 4/fsys　101: 64/fsys 010: 8/fsys　110: 128/fsys 011: 16/fsys　111: Reserved
11	−	R	リードすると"0"が読めます。
10	TXDEMP	R/W	クロック入力モード時、アンダーランエラーが発生したときの SCxTXD 端子の状態選択(I/O インタフェースモードのみ有効) 0: "Low"出力 1: "High"出力
9-8	TIDLE[1:0]	R/W	最終ビット出力後の SCxTXD 端子の状態選択(I/O インタフェースモードのみ有効) <TIDLE[1:0]>="10"を設定したときには、<EHOLD[2:0]>="000"を設定してください。 00: "Low"出力保持 01: "High"出力保持 10: 最終ビット保持 11: Reserved
7	RB8	R	受信データビット 8 (UART モードのみ有効) 9 ビット UART モード時の 9 ビット目の受信データです。
6	EVEN	R/W	パリティ(UART モードのみ有効) パリティの条件を設定します。パリティは、7 ビット UART モード、8 ビット UART モードで使用可能です。 0: Odd 1: Even
5	PE	R/W	パリティ付加(UART モードのみ有効) 0: 禁止 1: 許可 パリティ許可/禁止を制御するビットです。 パリティは、7 ビット UART モード、8 ビット UART モードで使用可能です。
4	OERR	R	オーバランエラー (注) 0: エラーではない 1: エラー
3	PERR	R	パリティ/アンダーランエラー (注) 0: エラーではない 1: エラー

Bit	Bit Symbol	Type	機能
2	FERR	R	フレーミングエラー (注) 0: エラーではない 1: エラー
1	SCLKS	R/W	クロックエッジ選択(I/O インタフェース用) 0: SCxSCLK 端子の立ち下がりエッジで送信バッファのデータを 1bit ずつ SCxTXD 端子へ出力します。 SCxSCLK 端子の立ち上がりエッジで SCxRXD 端子のデータを 1bit ずつ受信バッファに取り込みます。 この時、SCxSCLK 端子は High レベルからスタートします(立ち上がりモード)。 1: SCxSCLK 端子の立ち上がりエッジで送信バッファのデータを 1bit ずつ SCxTXD 端子へ出力します。 SCxSCLK 端子の立ち下がりエッジで SCxRXD 端子のデータを 1bit ずつ受信バッファに取り込みます。 この時、SCxSCLK 端子は Low レベルからスタートします。(立ち下がりモード)
0	IOC	R/W	クロック選択(I/O インタフェースモード用) 0: クロック出力モード (転送クロックは SCxSCLK 端子から出力されます) 1: クロック入力モード (転送クロックは SCxSCLK 端子から入力されます)

注) <OERR>, <PERR>, <FERR>は読み出すとクリアされます。

12.3.5　SCxMOD0 (モードコントロールレジスタ 0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TB8	CTSE	RXE	WU	SM		SC	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	–	R	リードすると"0"が読めます。
7	TB8	R/W	送信データビット 8 (UART モードのみ) 9 ビット UART モード時の 9 ビット目の送信データをセットします。
6	CTSE	R/W	ハンドシェイク機能制御 (UART モードのみ) 0: CTS ディセーブル 1: CTS イネーブル ハンドシェイク機能の制御を行います。 "1"を設定すると $\overline{\text{SCxCTS}}$ 端子を用いたハンドシェイク機能が使用可能になります。
5	RXE	R/W	受信制御(注 1)(注 2) 0: 禁止 1: 許可
4	WU	R/W	ウェイクアップ機能 (UART モードのみ) 0: ディセーブル 1: イネーブル 9 ビット UART モードの場合のみ有効で、その他のモードでは無視されます。 イネーブルの場合、受信データ 9 ビット目が"1"のときのみ割り込みが発生します。
3-2	SM[1:0]	R/W	シリアル転送モード 00: I/O インタフェースモード 01: 7 ビット UART モード 10: 8 ビット UART モード 11: 9 ビット UART モード
1-0	SC[1:0]	R/W	シリアル転送クロック(UART モードのみ) 00: TMRB 出力 01: ボーレートジェネレータ 10: システムクロック(fsys) 11: 外部クロック(SCxSCLK 端子入力) (I/O インタフェースモード時の転送クロックは、SCxCR<IOC>で選択します。)

注 1)　<RXE>は、すべての設定が終わった後に許可してください。
注 2)　受信中に動作を停止(SCxMOD0<RXE>を"0"にクリア)しないでください。

12.3.6 SCxMOD1 (モードコントロールレジスタ 1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	I2SC	FDPX		TXE	SINT			-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	–	R	リードすると"0"が読めます。
7	I2SC	R/W	IDLE モード時の動作 0: 停止 1: 動作 IDLE モード時の動作を指定します。
6-5	FDPX[1:0]	R/W	転送モード設定 00: 転送禁止 01: 半二重(受信) 10: 半二重(送信) 11: 全二重 I/O インタフェースモード時の転送モードを設定します。 また FIFO が許可されている場合は、FIFO 構成を指定します。UART モードの場合は、FIFO 構成の指定のみ行われます。
4	TXE	R/W	送信制御(注 1) (注 2) 0: 禁止 1: 許可 全転送モードに有効な送信許可ビットです。
3-1	SINT[2:0]	R/W	連続転送時のインタバル時間(I/O インタフェースモード用) 000: なし 001: 1 x SCLK 周期 010: 2 x SCLK 周期 011: 4 x SCLK 周期 100: 8 x SCLK 周期 101: 16 x SCLK 周期 110: 32 x SCLK 周期 111: 64 x SCLK 周期 I/O インタフェースモードでクロック出力モードの場合に有効なビットです。その他のモードでは意味を持ちません。 I/O インタフェースモードで、ダブルバッファまたは FIFO が許可されている時に連続転送のインタバル時間を指定 します。
0	–	R/W	"0"をライトしてください。

注 1) <TXE>ビットは、すべての設定を行った後に許可してください。

注 2) 送信中に動作を停止(SCxMOD1<TXE>を"0"にクリア)しないでください。

12.3.7　SCxMOD2 (モードコントロールレジスタ 2)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TBEMP	RBFLL	TXRUN	SBLEN	DRCHG	WBUF	SWRST	
リセット後	1	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	–	R	リードすると"0"が読めます。
7	TBEMP	R	送信バッファエンプティフラグ 0: Full 1: Empty ダブルバッファ不許可の場合はこのフラグは意味を持ちません。 送信ダブルバッファのデータ empty を示すフラグです。送信ダブルバッファのデータが送信シフトレジスタに移され empty になると"1"になり、送信データが書き込まれると"0"になります。
6	RBFLL	R	受信バッファ full フラグ 0: Empty 1: Full ダブルバッファ不許可の場合はこのフラグは意味を持ちません。 受信ダブルバッファのデータ full を示すフラグです。受信動作が終了して、受信シフトレジスタから受信ダブルバッファへデータが格納されると"1"になり、受信バッファを読み出すと"0"になります。
5	TXRUN	R	送信動作中フラグ 0: 停止 1: 動作 送信シフト動作中を示すステータスフラグです。 <TXRUN>と<TBEMP>ビットで以下のような状態を示します。

<TXRUN>	<TBEMP>	状態
1	–	送信動作中
0	1	送信が完全に終了
	0	送信バッファに次のデータがあり送信待ち

4	SBLEN	R/W	送信 STOP ビット長(UART モード用) 0: 1 ビット 1: 2 ビット UART モード時の送信 STOP ビットの長さを指定します。 受信の場合は設定に関わらず STOP ビット長は 1 ビットであるとして動作します。
3	DRCHG	R/W	転送方向設定 0: LSB first 1: MSB first 転送方向を指定します。 UART モード時は LSB first に設定してください。
2	WBUF	R/W	ダブルバッファの許可 0: 不許可 1: 許可 I/O インタフェースモードの送信(クロック出力/入力モード), 受信(クロック出力モード), UART モードの送信時に、送信、 受信のダブルバッファの許可/不許可を指定します。 I/O インタフェースモードの受信(クロック入力モード), UART モードの受信時は設定に関わらず、常にダブルバッファは許可されます。

<table>
<tr><th>Bit</th><th>Bit Symbol</th><th>Type</th><th>機能</th></tr>
<tr><td>1-0</td><td>SWRST[1:0]</td><td>R/W</td><td>ソフトウエアリセット
"10"→"01" の順に書き込むことでソフトウエアリセットが発生します。
ソフトウエアリセットにより、以下のビットが初期化されます。また、送受信回路と FIFO は初期状態に なります。(注 1) (注 2)
<table>
<tr><th>レジスタ名</th><th>ビット</th></tr>
<tr><td>SCxMOD0</td><td><RXE></td></tr>
<tr><td>SCxMOD1</td><td><TXE></td></tr>
<tr><td>SCxMOD2</td><td><TBEMP>, <RBFLL>, <TXRUN></td></tr>
<tr><td>SCxCR</td><td><OERR>, <PERR>, <FERR></td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

注 1)　転送動作中にソフトウエアリセットを実施する場合は 2 回連続して実行してください。

注 2)　ソフトウエアリセット動作が完了するのに、命令実行後 2 クロック必要です。

12.3.8　SCxBRCR (ボーレートジェネレータコントロールレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	BRADDE	BRCK		BRS			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7	−	R/W	"0"をライトしてください。
6	BRADDE	R/W	N + (16 − K)/16 分周機能(UART モードのときのみ) 0: ディセーブル 1: イネーブル
5-4	BRCK[1:0]	R/W	ボーレートジェネレータ入力クロック選択 00: φTS0 01: φTS2 10: φTS8 11: φTS32
3-0	BRS[3:0]	R/W	分周値"N"の設定 0000 : N = 16 0001 : N = 1 0010 : N = 2 : 1111 : N = 15

注 1)　UART モードで N + (16 − K)/16 分周機能を使用する場合、分周値"N"に 1 分周("0001")と 16 分周("0000")は設定できません。

注 2)　I/O インタフェースモードの場合、分周値"N"に 1 分周("0001")を設定できるのはダブルバッファを使用する場合のみです。

12.3.9 SCxBRADD (ボーレートジェネレータコントロールレジスタ 2)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	BRK			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-4	–	R	リードすると"0"が読めます。
3-0	BRK[3:0]	R/W	N + (16 − K)/16 分周の K 値の設定(UART モード用) 0000: 設定禁止 0001: K = 1 0010: K = 2 : 1111: K = 15

ボーレートジェネレータ分周値の設定方法を表 12-1 にまとめます。

表 12-1 分周値の設定方法

	<BRADDE> = "0"のとき	<BRADDE> = "1"のとき (注 1) (UART モードのみ使用可能)
<BRS>の設定	分周値"N"を設定	
<BRK>の設定	設定不要	"K"値を設定 (注 2)
分周値	N 分周	$N+\frac{(16-K)}{16}$ 分周

注 1) N + (16 − K)/16 分周機能を使用する場合、必ず<BRK>に"K"値を設定後に<BRADDE> = "1"を設定してください。この機能は、UART モードのときのみ使用可能です。

注 2) "K"値に"0"を設定することはできません。

12.3.10　SCxFCNF (FIFO コンフィグレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	RFST	TFIE	RFIE	RXTXCNT	CNFG
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

<table>
<tr><th>Bit</th><th>Bit Symbol</th><th>Type</th><th>機能</th></tr>
<tr><td>31-8</td><td>-</td><td>R</td><td>リードすると"0"が読めます。</td></tr>
<tr><td>7-5</td><td>-</td><td>R/W</td><td>必ず"000"を書き込んでください。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>RFST</td><td>R/W</td><td>受信 FIFO 使用バイト数
0: 最大
1: 受信 FIFO の FILL レベルに同じ
受信 FIFO 使用バイト数の設定ビットです。(注 1)
"0"の場合、構成されている FIFO の最大のバイト数(<CNFG>ビットの説明を参照。)が使用可能です。
"1"の場合、SCxRFC<RIL[1:0]>で指定された FILL レベルのバイト数になります。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>TFIE</td><td>R/W</td><td>送信 FIFO 使用時の送信割り込み許可
0: 禁止
1:許可
送信 FIFO が有効にされている時の送信割り込みの禁止/許可を切り替えます。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>RFIE</td><td>R/W</td><td>受信 FIFO 使用時の受信割り込み許可
0: 禁止
1:許可
受信 FIFO が有効にされている時の受信割り込みの禁止/許可を切り替えます。</td></tr>
<tr><td>1</td><td>RXTXCNT</td><td>R/W</td><td>RXE/TXE の自動禁止
0: なし
1: 自動禁止
送信/受信の自動禁止機能の制御ビットです。
"1"に設定した場合、設定された通信方式により以下のように動作します。
<table>
<tr><td>半二重受信</td><td>受信シフトレジスタ、受信バッファおよび受信 FIFO に指定された有効バイト数分のデータが格納されると自動的に受信許可ビット(SCxMOD0 <RXE>)が"0"となり、受信が禁止される。</td></tr>
<tr><td>半二重送信</td><td>送信 FIFO、送信バッファおよび送信シフトレジスタのすべてのデータ送信が終了すると自動的に送信許可ビット(<TXE>)が"0"となり、送信が禁止される。</td></tr>
<tr><td>全二重</td><td>上記の半二重受信または半二重送信のどちらかの条件が成立すると自動的に送信許可ビット, 受信許可ビットとも"0"となり、送受信が禁止される。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>0</td><td>CNFG</td><td>R/W</td><td>FIFO の許可
0: 禁止
1: 許可
FIFO 使用の許可ビットです。(注 2)
"1"に設定すると FIFO が使用可能となります。設定された通信方式により FIFO の構成は以下のようになります。
<table>
<tr><td>半二重受信</td><td>受信 FIFO 4 バイト</td></tr>
<tr><td>半二重送信</td><td>送信 FIFO 4 バイト</td></tr>
<tr><td>全二重</td><td>受信 FIFO 2 バイト + 送信 FIFO 2 バイト</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

注 1) 送信 FIFO は常に構成されている FIFO の最大バイト数(<CNFG>の説明を参照)を使用できます。

注 2) 9 ビット UART モードでは FIFO は使用できません。

12.3.11　SCxRFC (受信 FIFO コンフィグレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	RFCS	RFIS	-	-	-	-	RIL	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7	RFCS	W	受信 FIFO クリア(注) 1: クリア "1"を書き込むと受信 FIFO がクリアされ、SCxRST<RLVL>="000"となります。また、リードポインタも初期化されます。 リードすると"0"が読めます。
6	RFIS	R/W	割り込み発生条件選択 0: FIFO fill レベル(SCxRST<RLVL[2:0]>) = 割り込み発生 fill レベル(<RIL[1:0]>) のとき 1: FIFO fill レベル(SCxRST<RLVL[2:0]>) ≥ 割り込み発生 fill レベル(<RIL[1:0]>) のとき 割り込み発生タイミングの詳細については、12.13.1.2 を参照してください。
5-2	−	R	リードすると"0"が読めます。
1-0	RIL[1:0]	R/W	受信割り込みが発生する受信 FIFO の fill レベル

	半二重	全二重
00	4 バイト	2 バイト
01	1 バイト	1 バイト
10	2 バイト	2 バイト
11	3 バイト	1 バイト

注)　送信/受信 FIFO 使用時は、SIO の転送モード設定(半二重/全二重)、FIFO 許可(SCxFCNF<CNFG>="1")の後、必ず送信/受信 FIFO のクリアを実行してください。

12.3.12 SCxTFC (送信 FIFO コンフィグレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	TBCLR
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TFCS	TFIS	-	-	-	-	TIL	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-9	–	R	リードすると"0"が読めます。
8	TBCLR	W	送信バッファクリア 0: Don't care 1: クリア "1"を書き込むと送信バッファがクリアされます。 リードすると"0"が読めます。
7	TFCS	W	送信 FIFO クリア(注 1) 0: Don't care 1: クリア "1"を書き込むと送信 FIFO がクリアされ、SCxTST<TLVL>="000"となります。また、ライトポインタも初期化されます。 リードすると"0"が読めます。
6	TFIS	R/W	割り込み発生条件選択 0: FIFO fill レベル(SCxTST<TLVL[2:0]>) = 割り込み発生 fill レベル(<TIL[1:0]>) のとき 1: FIFO fill レベル(SCxTST<TLVL[2:0]>) ≤ 割り込み発生 fill レベル(<TIL[1:0]>) のとき 割り込み発生タイミングの詳細については、12.13.2.2 を参照してください。
5-2	–	R	リードすると"0"が読めます。
1-0	TIL[1:0]	R/W	送信割り込みが発生する FIFO の fill レベル

	半二重	全二重
00	Empty	Empty
01	1 バイト	1 バイト
10	2 バイト	Empty
11	3 バイト	1 バイト

注 1) 送信/受信 FIFO 使用時は、SIO の転送モード設定(半二重/全二重)、FIFO 許可(SCxFCNF<CNFG>="1")の後、必ず送信/受信 FIFO のクリアを実行してください。

注 2) SCxEN<SIOE>=0(SIO/UART 動作禁止)、または SCxMOD1<I2SC>=0 で IDLE モードへの移行(IDLE モード中の動作停止) した場合は、必ず SCxTFC の再設定を行ってください。

12.3.13　SCxRST (受信 FIFO ステータスレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ROR	-	-	-	-	RLVL		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7	ROR	R	受信 FIFO オーバラン(注) 0: オーバランは発生していない 1: オーバラン発生
6-3	−	R	リードすると"0"が読めます。
2-0	RLVL[2:0]	R	受信 FIFO の fill レベル 000: Empty 001: 1 バイト 010: 2 バイト 011: 3 バイト 100: 4 バイト

注)　<ROR>はバッファレジスタ(SCxBUF)を読み出すと"0"にクリアされます。

12.3.14 SCxTST (送信 FIFO ステータスレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TUR	-	-	-	-	TLVL		
リセット後	1	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7	TUR	R	送信 FIFO アンダーラン(注) 0: アンダーランは発生していない 1: アンダーラン発生
6-3	−	R	リードすると"0"が読めます。
2-0	TLVL[2:0]	R	送信 FIFO の fill レベル 000: Empty 001: 1 バイト 010: 2 バイト 011: 3 バイト 100: 4 バイト

注) <TUR>はバッファレジスタ(SCxBUF)に書き込みを行うと"0"にクリアされます。

12.4　動作モード

表 12-2 にモードをまとめます。

表 12-2 モードとデータフォーマット

モード	種類	データ長	転送方向	パリティ付加	STOP ビット長(送信)
モード 0	同期通信モード (I/O インタフェースモード)	8 ビット	LSB first/MSB first	-	-
モード 1	非同期通信モード (UART モード)	7 ビット	LSB first	○	1 ビットまたは 2 ビット
モード 2		8 ビット		○	
モード 3		9 ビット		×	

モード 0 は同期通信モードで、I/O を拡張するために使用できます。SCLK クロックに同期してデータの送受信を行います。SCLK クロックはクロック入力/出力モードのいずれでも使用できます。転送方向は、LSB first と MSB first から選択可能です。パリティ付加機能はなく、STOP ビットも使用しません。

モード 1 からモード 3 は非同期通信モードです。転送方向は LSB first のみ選択できます。

モード 1 とモード 2 はパリティビットの付加が可能です。モード 3 は、マスタコントローラが、シリアルリンク(マルチコントローラシステム)でスレーブコントローラを起動させるためのウエイクアップ機能を有しています。送信時の STOP ビットを 1 ビットまたは 2 ビットから選択できます。受信時の STOP ビット長は 1 ビット固定です。

12.5 データフォーマット

12.5.1 データフォーマット一覧

図 12-3 にデータフォーマットを示します。

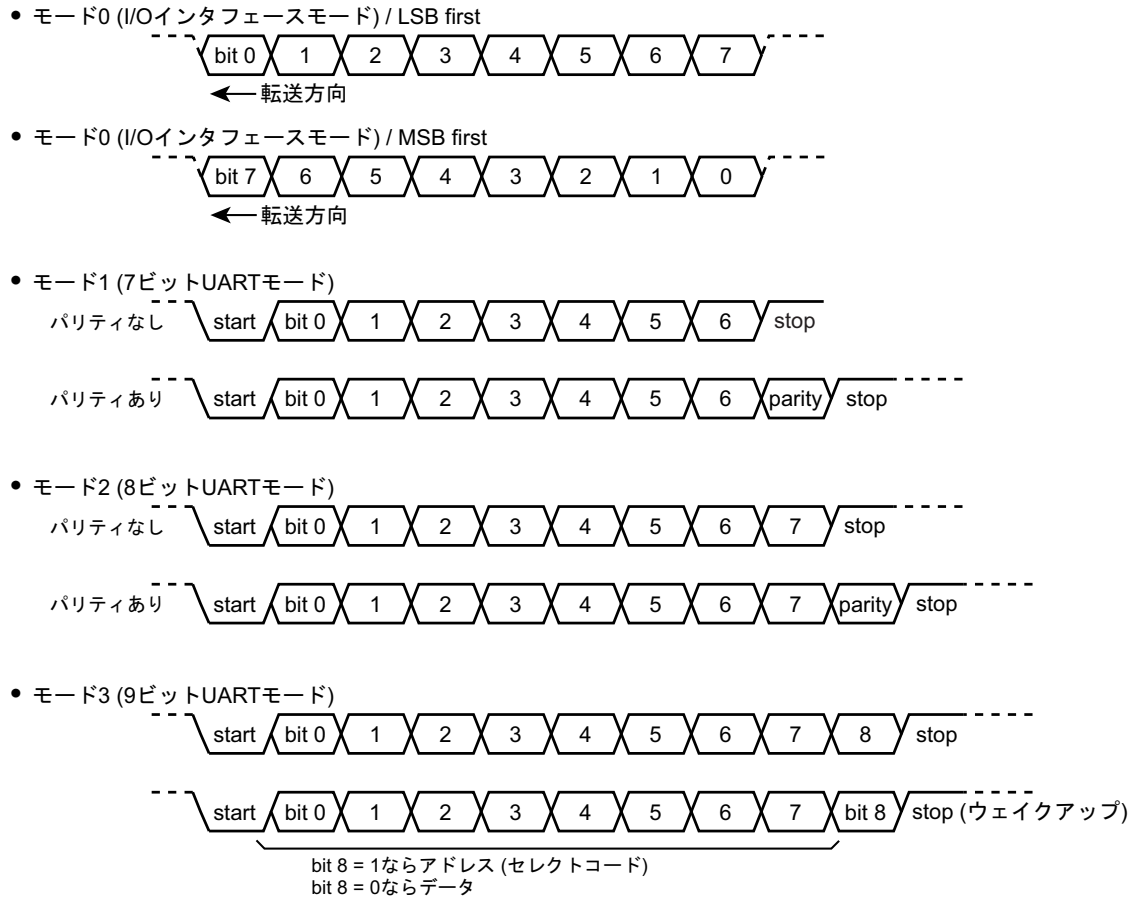


図 12-3 データフォーマット

12.5.2　パリティ制御

7 ビット UART モードまたは 8 ビット UART モードでは送信データにパリティビットを付加することができます。また、受信データに付加されているパリティビットを生成されたパリティビットと比較することができます。

SCxCR<PE>に"1"を設定するとパリティが有効になります。SCxCR<EVEN>で偶数/奇数パリティを選択することができます。

12.5.2.1　送信

送信時、パリティ制御回路は送信バッファのデータに対して自動的にパリティを発生し、7 ビット UART モードのときは SCxBUF<TB7>に、8 ビット UART モードのときは SCxMOD0<TB8>にパリティが格納されます。

なお<PE>と<EVEN>の設定は、送信データをバッファレジスタに書き込む前に行ってください。

12.5.2.2　受信

受信データが受信シフトレジスタから受信バッファに移されるとパリティを自動発生し、7 ビット UART モードのときは SCxBUF<RB7>と、8 ビット UART モードのときは SCxCR<RB8>と生成したパリティを比較します。異なっているとパリティエラーが発生し、SCxCR<PERR>がセットされます。

FIFO を使用する場合、<PERR>は受信したいずれかのデータでパリティエラーが発生したことを示します。

12.5.3　STOP ビット長

SCxMOD2<SBLEN>で、UART 送信モードの STOP ビット長を 1 ビットまたは 2 ビットに設定できます。受信の場合にはこのビットの設定にかかわらず 1 ビットの STOP ビット長として認識します。

12.6 クロック制御

12.6.1 プリスケーラ

7 ビットのプリスケーラを実装しており、φT0 の 1 / 2/ 4 / 8 / 16 / 32/ 64 / 128 分周のクロックを生成します。

プリスケーラの入力クロックは、クロック/モード制御部の CGSYSCR と SCxEN<BRCKSEL>で選択します。

プリスケーラは、SCxMOD0<SC[1:0]>="01"でボーレートジェネレータを転送クロックとして選択した場合に動作します。

12.6.2 シリアルクロック生成回路

送受信クロック(SIOCLK)を生成するブロックで、ボーレートジェネレータとモードによりクロックを選択する回路で構成されています。

12.6.2.1 ボーレートジェネレータ

ボーレートジェネレータは、シリアルチャネルの転送速度を定める送受信クロックを生成するための回路です。

(1) ボーレートジェネレータ入力クロック

ボーレートジェネレータの入力クロックは、プリスケーラ出力の 1 / 4 / 16 / 64 分周から選択します。入力クロックの選択は SCxEN<BRCKSEL>と SCxBRCR<BRCK>で行います。

SCxEN<BRCKSEL>	SCxBRCR<BRCK>	ボーレートジェネレータ入力 φTx
0	00	φT0/2
0	01	φT0/8
0	10	φT0/32
0	11	φT0/128
1	00	φT0
1	01	φT0/4
1	10	φT0/16
1	11	φT0/64

(2) ボーレートジェネレータ出力クロック

ボーレートジェネレータの出力クロック分周値は、SCxBRCR、 SCxBRADD で設定します。

I/O インタフェースモードでは N 分周、UART モードでは N 分周または N + (16-K)/16 分周が使用できます。

以下に設定可能な分周値をまとめます。

モード	分周機能設定 SCxBRCR<BRADDE>	N 分周値 SCxBRCR<BRS[3:0]>	K 値 SCxBRADD<BRK[3:0]>
I/O インタフェース	N 分周	1 ~ 16 (注)	-
UART	N 分周	1 ~ 16	-
	N + (16-K)/16 分周	2 ~ 15	1 ~ 15

注)　1 分周は、ダブルバッファ許可時のみ使用できます。

ボーレートジェネレータ分周機へのクロック入力を φTx とした時、N 分周の場合と N + (16-K)/16 分周の場合のボーレートジェネレータ出力クロックは以下の計算式であらわされます。

・　N 分周

$$\text{ボーレートジェネレータ出力クロック} = \frac{\phi Tx}{N}$$

・　N + (16-K)/16 分周

$$\text{ボーレートジェネレータ出力クロック} = \frac{\phi Tx}{N + \frac{(16 - K)}{16}}$$

12.6.2.2 クロック選択回路

モードとレジスタ設定により、クロックが選択されます。

モードは SCxMOD0<SM[1:0]>で指定します。

I/O インタフェースモード時のクロックは、SCxCR<IOC><SCLKS>で設定します。

UART モード時のクロックは、SCxMOD0<SC[1:0]>で設定します。

(1) I/O インタフェースモードの転送クロック

表 12-3 に I/O インタフェースモードで可能なクロックを示します。

表 12-3 I/O インタフェースモードのクロック選択

モード SCxMOD0<SM[1:0]>	入出力選択 SCxCR<IOC>	クロックエッジ選択 SCxCR<SCLKS>	使用クロック
"00" (I/O インタフェース モード)	"0" (クロック出力 モード)	"0" (送信: 立ち下がり、 受信 : 立ち上がり)	ボーレートジェネレータ出力の 2 分周
		"1" (送信: 立ち上がり、 受信 : 立ち下がり)	ボーレートジェネレータ出力の 2 分周
	"1" (クロック入力 モード)	"0" (送信: 立ち下がり、 受信 : 立ち上がり)	SCxSCLK 端子入力
		"1" (送信: 立ち上がり、 受信 : 立ち下がり)	SCxSCLK 端子入力

SCxSCLK 端子入力を使用する場合、以下の条件を満足する必要があります。

- ダブルバッファ使用の場合

  SCLK 周期 > 6/fsys

- ダブルバッファ未使用の場合

  SCLK 周期 > 8/fsys

(2)　UART モードの転送クロック

表 12-4 に UART モードの場合のクロック選択を示します。UART モードでは、選択されたクロックを受信/送信カウンタでさらに 16 分周して使用します。

表 12-4 UART モードのクロック選択

モード SCxMOD0<SM[1:0]>	クロック選択 SCxMOD0<SC[1:0]>
UART モード ("01", "10", "11")	"00" : タイマ出力
	"01" : ボーレートジェネレータ
	"10" : fsys
	"11" : SCxSCLK 端子入力

SCxSCLK 端子入力を使用する場合、以下の条件を満足する必要があります。

- SCLK 周期 > 2/fsys

タイマの出力を使用する場合、カウンタと TBxRG1 の一致でタイマフリップフロップ出力を反転させる設定とします。SIOCLK クロック周期は「TBxRG1 設定値 × 2」となります。

ボーレートは以下の計算式で求められます。

ボーレートの算出方法

$$\text{転送レート} = \frac{\text{CGSYSCR<PRCK[2:0]>で選択されたクロック周波数}}{(\text{TBxRG1} \times 2) \times 2 \times 16}$$

(タイマプリスケーラクロックϕT1(2分周)を選択した場合)

(タイマフリップフロップ反転2回で1クロック周期となる)

12.7 送信/受信バッファと FIFO

12.7.1 構成

送信/受信バッファと FIFO の構成を図 12-4 に示します。

バッファと FIFO を使用するには設定が必要です。また、モードによっては構成が決まっている場合があります。

図 12-4 バッファと FIFO の構成

12.7.2 送信/受信バッファ

送信および受信バッファはダブルバッファ構造となっています。バッファ構成の設定は、SCxMOD2<WBUF>で行います。

受信の場合、I/O インタフェースモードでクロック入力モードの場合と UART モードでは、<WBUF>の設定によらずダブルバッファ構成になります。

その他のモードでは<WBUF>の設定に従います。

表 12-5 にモードとバッファ構成の関係をまとめます。

表 12-5 モードとバッファ構成

モード		SCxMOD2<WBUF>	
		"0"	"1"
UART モード	送信	シングル	ダブル
	受信	ダブル	ダブル
I/O インタフェースモード (クロック入力モード)	送信	シングル	ダブル
	受信	ダブル	ダブル
I/O インタフェースモード (クロック出力モード)	送信	シングル	ダブル
	受信	シングル	ダブル

12.7.3　送信バッファの初期化

送信バッファにデータが残っている状態で送信を中断した場合、送信バッファに新たにデータを書き込む前に送信バッファの初期化を行う必要があります。

送信バッファの初期化は、送信動作が停止している状態で行ってください。SCxMOD2<TXRUN>を読み出すことで、送信動作が停止しているかを判断できます。送信動作が停止していることが確認できたら、SCxTFC<TBCLR>に"1"を設定し、送信バッファの初期化を行います。

送信 FIFO が有効な場合、送信 FIFO の状態で動作が変わります。送信 FIFO にデータがある場合、送信 FIFO から送信バッファにデータが転送されます。送信 FIFO が空なら、SCxMOD2<TBEMP>が"1"にセットされます。

注)　I/O インタフェースモードのクロック入力モードではクロックが非同期に入力されます。送信動作が停止しているときにクロックを入力しないようにしてください。

12.7.4　FIFO

ダブルバッファに加えて、4byte の FIFO を使用することができます。

FIFO を有効にするには SCxMOD2<WBUF>を"1"としてダブルバッファをイネーブルにし、SCxFCNF<CNFG>に"1"をセットします。FIFO バッファの構成は SCxMOD1<FDPX>で設定します。

注)　送信/受信 FIFO 使用時は、SIO の転送モード設定(半二重/全二重)、FIFO 許可(SCxFCNF<CNFG>="1")の後、必ず送信/受信 FIFO のクリアを実行して下さい。

表 12-6 にモードと FIFO 構成の関係をまとめます。

表 12-6 モードと FIFO 構成

	SCxMOD1<FDPX[1:0]>	受信 FIFO	送信 FIFO
半二重受信	"01"	4byte	-
半二重送信	"10"	-	4byte
全二重	"11"	2byte	2byte

12.8 ステータスフラグ

SCxMOD2 に 2 種類のステータスフラグが準備されています。これらのフラグはダブルバッファ許可の時のみ意味を持ちます。

<RBFLL>は、受信バッファ full を示すフラグです。1 データの受信が終了し、データが受信シフトレジスタから受信バッファに移されると"1"にセットされます。受信バッファを読み出すと"0"にクリアされます。

<TBEMP>は、送信バッファ empty を示すフラグです。送信バッファから送信シフトレジスタ へデータが移されると、"1"がセットされます。送信バッファにデータをセットすると"0"にクリアされます。

12.9 エラーフラグ

SCxCR に 3 種類のエラーフラグが準備されています。フラグによってはモードにより意味が変わります。以下にモードごとのフラグの意味をまとめます。

これらのフラグは、SCxCR を読み出すと"0"にクリアされます。

モード	フラグ		
	<OERR>	<PERR>	<FERR>
UART モード	オーバランエラー	パリティエラー	フレーミングエラー
I/O インタフェースモード (クロック入力モード)	オーバランエラー	アンダーランエラー (ダブルバッファまたは FIFO 使用時)	"0"固定
		"0"固定 (ダブルバッファおよび FIFO 未使用時)	
I/O インタフェースモード (クロック出力モード)	不定	不定	"0"固定

12.9.1 OERR フラグ

UART モード、I/O インタフェースモード共に、受信バッファのデータを読み出す前に次のフレームの受信が終了すると"1"にセットされます。

受信 FIFO を有効にしている場合は、受信 FIFO へデータが自動的に移されるので、受信 FIFO が Full(使用バイト数)になるまではフラグはセットされません。

I/O インタフェースモードのクロック出力モードの設定では、フラグのセットとともにクロック出力が停止します。

注) I/O インタフェースモードのクロック出力モードから他のモードへ切り替える際には、SCxCR を読み出し、オーバランフラグをクリアしてください。

12.9.2　PERR フラグ

UART モードではパリティエラーを、I/O インタフェースモードではアンダーランエラーまたは送信終了を示します。

パリティエラーは UART モードで受信したデータから生成されたパリティと受信したパリティビットが異なる場合に"1"にセットされます。

アンダーランエラーは、I/O インタフェースモードでダブルバッファが有効な場合に以下の条件で"1"にセットされます。

クロック入力モードの場合、送信シフトレジスタのデータを送信終了後、送信バッファにデータがない状態で次の転送クロックが入力されるとセットされます。

クロック出力モードの場合、すべてのデータ送信が終了するとセットされクロック出力を停止します。

注)　I/O インタフェースモードのクロック出力モードから他のモードへ切り替える際には、SCxCR を読み出し、アンダーランフラグをクリアしてください。

12.9.3　FERR フラグ

フレーミングエラーは UART モードの受信データのストップビットを中央付近でサンプリングし、結果が"0"の場合に発生します。SCxMOD2<SBLEN>でのストップビット長設定に関わらず、判定は第 1 ストップビットで行われます。

I/O インタフェースモードではこのビットは"0"固定です。

12.10 受信

12.10.1 受信カウンタ

受信カウンタは 4 ビットのバイナリカウンタで、SIOCLK でカウントアップされます。

UART モードでは、データ 1 ビットの受信に SIOCLK が 16 クロック用いられ、8 クロック目でデータをサンプリングします。

12.10.2 受信制御部

12.10.2.1 I/O インタフェースモードの場合

SCxCR<IOC>="0"のクロック出力モードのときは、SCxCR<SCLKS>の設定に従って、SCxSCLK 端子より出力されるクロックの立ち上がり/立ち下がりで SCxRXD 端子をサンプリングします。

SCxCR <IOC>="1"のクロック入力モードのときは、SCxCR<SCLKS>の設定に従って、SCxSCLK 端子の立ち上がり/立ち下がりエッジでシリアル受信データ SCxRXD 端子をサンプリングします。

12.10.2.2 UART モードの場合

受信制御部はスタートビット検出回路を持ち、正常なスタートビットを判断して受信動作を開始します。

12.10.3 受信動作

12.10.3.1 受信バッファの動作

受信シフトレジスタに受信データが 1 ビットずつ格納され、データがそろうと割り込み INTRXx が発生します

ダブルバッファ設定の場合は、データは受信バッファ(SCxBUF) へ移され受信バッファの full フラグ(SCxMOD2<RBFLL>) が"1"にセットされます。受信バッファ full フラグは、受信バッファを読み出すと"0"にクリアされます。シングルバッファの場合、受信バッファ full フラグは意味を持ちません。

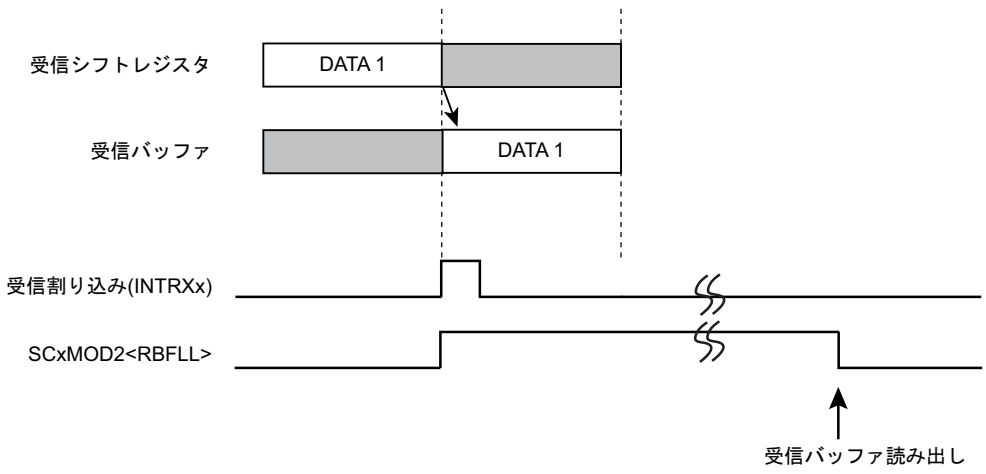


図 12-5 受信バッファの動作

12.10.3.2　受信 FIFO の動作

FIFO が許可されている場合、受信データは受信バッファから受信 FIFO に移され、受信バッファ full フラグはただちにクリアされます。割り込みは SCxRFC<RIL[1:0]>の設定に従って発生します。

注)　UART モードで、FIFO 使用時にパリティビット付きのデータ受信する場合、パリティエラーフラグは受信したいずれかのデータで発生したことを示します。

以下に、半二重受信の設定と動作を示します。

SCxMOD1<FDPX[1:0]> = "01"	: 転送モードを半二重受信に設定
SCxFCNF<RFST><TFIE><RFIE>	: fill レベル到達後の継続受信自動禁止
<RXTCNT><CNFG> = "10111"	受信 FIFO の使用バイト数は割り込み発生 fill レベルに同じ
SCxRFC<RIL[1:0]> = "00"	: 受信割り込みが発生する FIFO の fill レベルを 4 バイトに設定
SCxRFC<RFCS><RFIS> = "11"	: 受信 FIFO のクリアと割り込み発生条件の設定

上記の FIFO 構成の設定後、SCxMOD0<RXE> に 1 を書き込むとデータ受信を開始します。受信シフトレジスタ、受信バッファ、受信 FIFO すべてにデータが格納されると<RXE>を自動クリアして受信を終了します。

上記の設定で、fill レベル到達後の継続受信を許可にしておくと、FIFO のデータを読み出すことにより継続して受信動作を行うことができます。

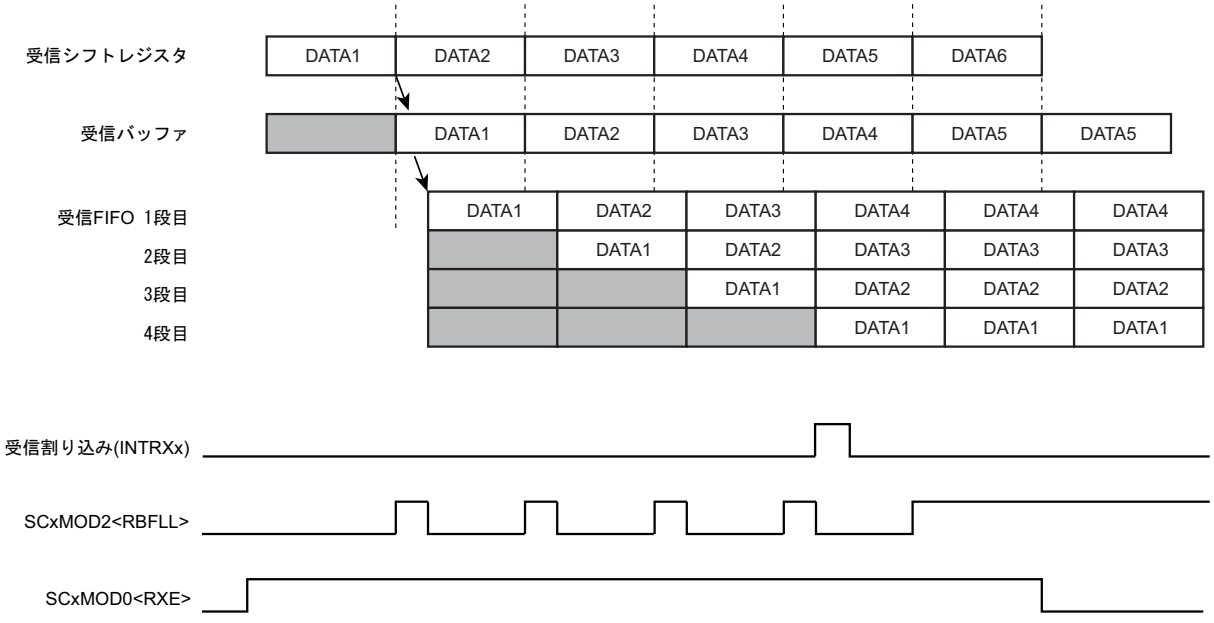


図 12-6 受信 FIFO の動作

12.10.3.3 I/O インタフェースモード、クロック出力モードでの受信

I/O インタフェースモードでクロック出力モード設定の場合、使用可能な受信バッファ/FIFO にすべてデータが格納されるとクロック出力が停止されます。このため、このモードではオーバランエラーフラグは意味を持ちません。

クロック出力の停止/再開のタイミングはバッファ/FIFO の使用状況によって変わります。

(1) シングルバッファの場合

1 データ受信後にクロック出力を停止します。このため、通信相手と 1 データごとのハンドシェイクが可能です。バッファからデータが読み出されるとクロック出力を再開します。

(2) ダブルバッファの場合

受信シフトレジスタ、受信バッファともにデータが格納されると、クロック出力を停止します。1 データが読み出されるとクロック出力を再開します。

(3) FIFO の場合

受信シフトレジスタ、受信バッファ、FIFO すべてにデータが格納されるとクロック出力を停止します。

1 データが読み出されると受信バッファから FIFO へ、受信シフトレジスタから受信バッファへデータが転送され、クロック出力を再開します。

また、SCxFNCF<RXTXCNT>がセットされているとクロック出力停止とともに SCxMOD0<RXE>がクリアされ受信動作を停止します。

12.10.3.4　受信データの読み出し

FIFO の有効/無効にかかわらず、受信バッファ (SCxBUF) からデータを読み出します。

受信 FIFO が有効にされていない場合は、この読み出しにより受信バッファの full フラグ SCxMOD2<RBFLL>は"0"にクリアされます。受信バッファを読み出す前でも、次の受信データは受信シフトレジスタに格納することができます。8 ビット UART モードでパリティ付加の場合と 9 ビット UART モードの場合、最上位ビットは SCxCR <RB8> に格納されます。

受信 FIFO が有効な場合、FIFO に格納できるデータは最大 8 ビットですので、9 ビット UART モードは使用できません。8 ビット UART モードでパリティ付加の場合、パリディビットは失われますがエラー判定は行われ、結果が SCxCR<PERR>に格納されます。

12.10.3.5　ウエイクアップ機能

9 ビット UART モードの場合、ウェイクアップ機能 SCxMOD0<WU> を"1"にすることによって、スレーブコントローラのウェイクアップ動作が可能で、SCxCR<RB8> = "1"のときのみ、割り込み INTRXx を発生させることができます。

12.10.3.6　オーバランエラー

受信 FIFO が有効にされていない場合は、受信シフトレジスタに次のデータが全ビット受信される前に受信バッファ(SCxBUF) を読み出さなければオーバランエラーとなります。オーバランエラーが発生した場合、受信バッファおよび SCxCR <RB8> の内容は保存されていますが、受信シフトレジスタの内容は失われます。

受信 FIFO が有効にされている場合は、受信 FIFO が full になり、受信バッファに次のデータが移される前に受信 FIFO を読み出さないと、受信 FIFO のオーバーランが発生してオーバーランフラグがセットされます。この場合でも、受信 FIFO のデータは保存されます。

I/O インタフェースモードのクロック出力モードの設定では、クロック出力が自動的に停止するためこのフラグは意味を持ちません。

注) I/O インタフェースのクロック出力モードから他のモードへ切り替える際には、SCxCR を読み出し、オーバランフラグをクリアしてください。

12.11 送信

12.11.1 送信カウンタ

送信カウンタは4 ビットのバイナリカウンタで、受信カウンタ同様 SIOCLK でカウントされます。

UART モードでは、16 クロックごとに送信クロック (TXDCLK) を生成します。

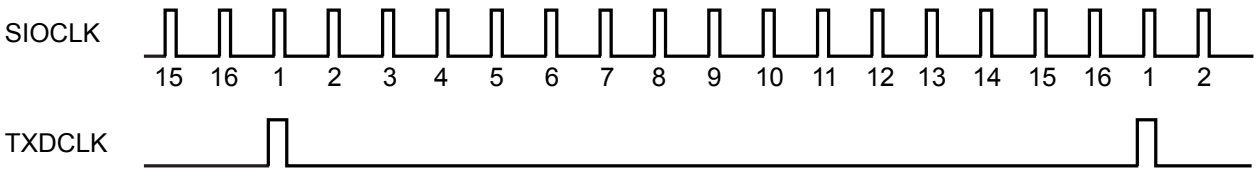


図 12-7 UART モード送信クロックの生成

12.11.2 送信制御部

12.11.2.1 I/O インタフェースモードの場合

SCxCR<IOC> = "0"のクロック出力モードのときは、SCxCR<SCLKS>の設定に従って、SCxSCLK 端子より出力されるクロックの立ち上がり/立ち下がりで送信バッファのデータを 1 ビットずつ SCxTXD 端子へ出力します。

SCxCR<IOC> = "1"のクロック入力モードのときは、SCxCR<SCLKS>の設定に従って、SCxSCLK 端子の立ち上がり/立ち下がりエッジで送信バッファのデータを 1 ビットずつシリアル送信データ SCxTXD 端子へ出力します。

12.11.2.2 UART モードの場合

送信バッファに送信データが書き込まれると、次の TXDCLK の立ち上がりエッジから送信を開始し、送信シフトクロック を生成します。

12.11.3　送信動作

12.11.3.1　送信バッファの動作

ダブルバッファ無効の場合、送信データの書き込みは送信シフトレジスタに対して行われ、送信が終了すると送信割り込み INTTXx が発生します。

ダブルバッファ有効の場合(送信 FIFO が有効な場合も含む)、送信バッファへ書き込まれたデータは SC x MOD1<TXE>に"1"がセットされると送信シフトレジスタに転送されます。同時に送信割り込み INTTXx が発生し、送信バッファエンプティフラグ(SCxMOD2<TBEMP>)がセットされ、次のデータが書き込み可能であることを示します。次のデータを送信バッファに書き込むと<TBEMP>は"0"にクリアされます。

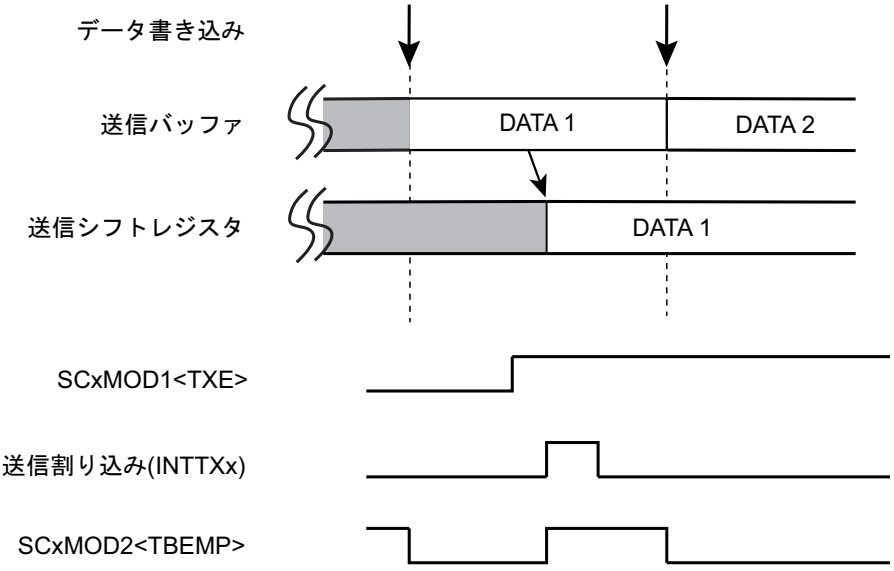


図 12-8 送信バッファの動作(ダブルバッファ有効時)

12.11.3.2 送信 FIFO の動作

FIFO が許可されている場合、送信バッファと FIFO で最大 5 バイトのデータを格納することができます。送信を許可すると、送信バッファから送信シフトレジスタにデータが転送されて送信を開始するとともに、FIFO にデータが存在する場合はただちに送信バッファへ移され、<TBEMP> フラグは"0"にクリアされます。

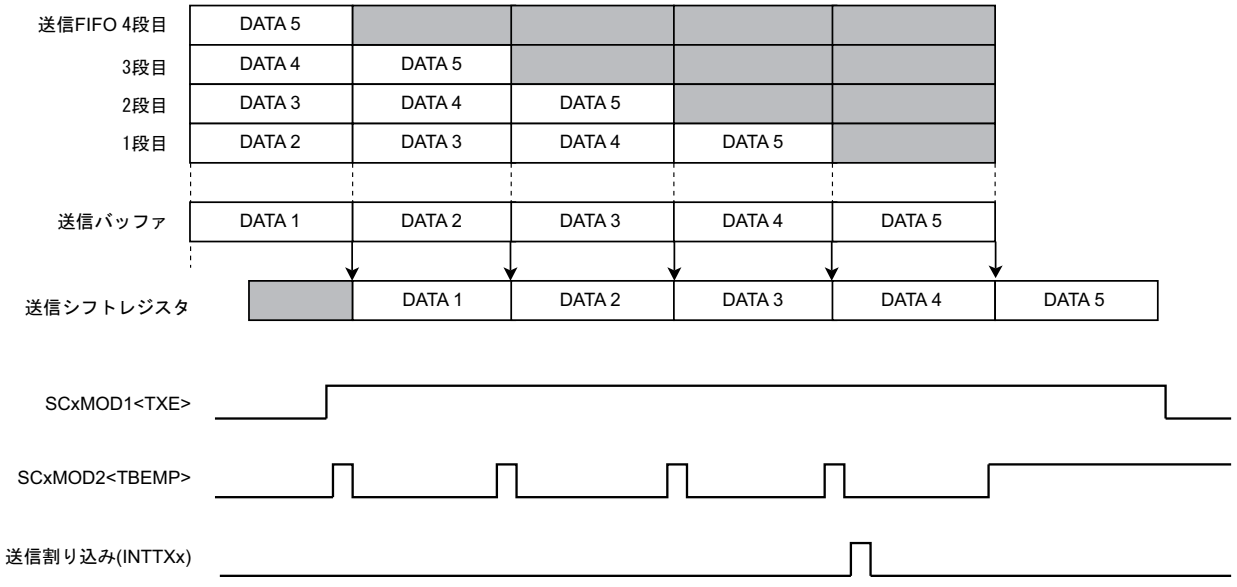
注) 送信 FIFO バッファ使用時は、SIO の転送モード設定(半二重/全二重)、FIFO 許可(SCxFCNF <CNFG>="1")の後、必ず送信 FIFO クリアを実行して下さい。

以下に、5 バイトのデータを半二重送信する場合の設定と動作を示します。

SCxMOD1<FDPX[1:0]> = "10"	: 転送モードを半二重送信に設定
SCxFCNF<RFST><TFIE><RFIE> <RXTXCNT><CNFG> = "11011"	: FIFO が空になると送信を自動的に禁止 受信 FIFO の使用バイト数は割り込み発生 fill レベルに同じ
SCxTFC<TIL[1:0]> = "00"	: 割り込み発生の fill レベル を 0 に設定
SCxTFC<TFCS><TFIS> = "11"	: 送信 FIFO のクリアと割り込み発生条件の設定
SCxFCNF<CNFG> = "1"	: FIFO の許可

上記の設定後、送信バッファ/FIFO に 5 バイト分の送信データを書き込み、SCxMOD1<TXE> ビットを 1 に設定することによりデータ送信を開始します。最後の送信データが送信バッファに移されると送信 FIFO 割り込みが発生して最後のデータの送信が終了すると送信を終了します。

上記の設定で、送信の自動禁止としなければ送信データを書き込むことにより継続して送信を行うことができます。



12.11.3.3　I/O インタフェースモード、クロック出力モードでの送信

I/O インタフェースモードでクロック出力モードの場合、設定されたデータがすべて送信されるとクロック出力は自動的に停止します。このため、このモードではアンダーランエラーは発生しません。

バッファ/FIFO 使用状況によってクロック出力の停止/再開のタイミングが変わります。

(1)　シングルバッファの場合

1 データ送信後にクロック出力を停止します。このため、通信相手と 1 データごとのハンドシェイクが可能です。バッファに次のデータが書き込まれるとクロック出力を再開します。

(2)　ダブルバッファの場合

送信シフトレジスタと送信バッファのデータがすべて送信されるとクロック出力を停止します。バッファに次のデータが書き込まれるとクロック出力を再開します。

(3)　FIFO の場合

送信シフトレジスタ、送信バッファ、FIFO すべてのデータ送信が終了するとクロック出力を停止します。次のデータが書き込まれるとクロック出力を再開します。

また、SCxFCNF<RXTXCNT>がセットされていると、クロック出力停止とともに SCxMOD0<TXE>がクリアされ、送信動作を停止します。

12.11.3.4　I/O インタフェースモード時の最終ビット出力後の SCxTXD 端子の状態

最終ビットを出力し、データのホールド時間が終了した後の SCxTXD 端子の状態を、SCxCR<TIDLE>で指定することができます。

SCxCR<TIDLE>="00"の場合、SCxTXD 端子は"Low"出力を保持します。SCxCR<TIDLE>="01"の場合、SCxTXD 端子は"High"出力を保持します。SCxCR<TIDLE>="10"の場合、SCxTXD 端子は最終ビットを保持します。

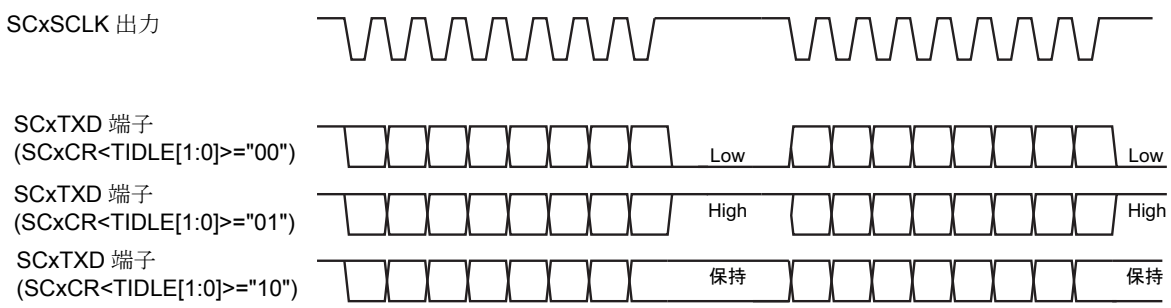


図 12-9 最終ビット出力後の SCxTXD 端子の状態

12.11.3.5 アンダーランエラー

I/O インタフェースモードのクロック入力モード時、送信 FIFO が空で、送信シフトレジスタのデータの送信が終了し、次の転送クロックが入力される前に送信バッファへデータがセットされないときはアンダーランエラーになり、SCxCR<PERR>に"1"がセットされます。

アンダーランエラーが発生したときの SCxTXD 端子の状態を SCxCR<TXDEMP>で指定することができます。SCxCR<TXDEMP>が"0"の場合、SCxTXD 端子はデータ出力期間の間、"Low"出力を保持します。SCxCR<TXDEMP>が"1"の場合、SCxTXD 端子はデータ出力期間の間、"High"出力を保持します。

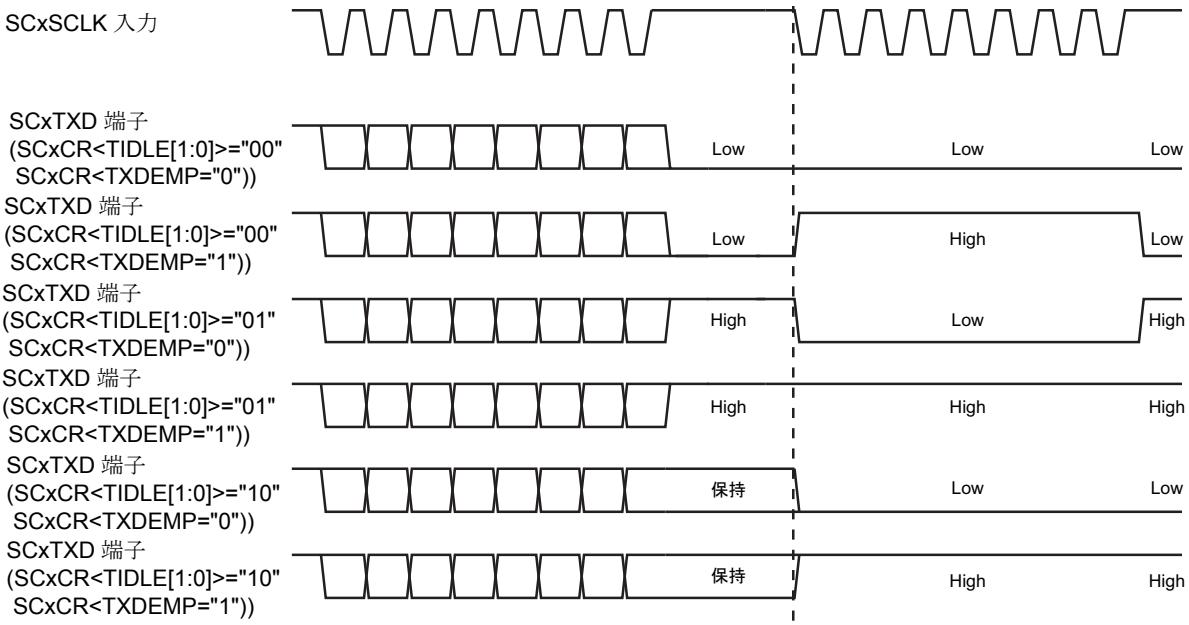


図 12-10 アンダーランが発生したときの SCxTXD 出力

I/O インタフェースモードのクロック出力モードの設定では、クロック出力が自動的に停止するためこのフラグは意味を持ちません。

注) I/O インタフェースのクロック出力モードから他のモードへ切り替える際には、SCxCR を読み出し、アンダーランフラグをクリアしてください。

12.11.3.6 I/O インタフェースモード、クロック入力モードでのデータのホールド時間

I/O インタフェースモードでクロック入力モードの場合、SCxCR<EHOLD[2:0]>で最終ビットのホールド時間を設定できます。

最終ビットのホールド時間≤SCLK 周期/2 を満たすように、最終ビットのホールド時間、SCLK 周期を設定してください。

12.12　ハンドシェイク機能

ハンドシェイク機能は $\overline{\text{SCxCTS}}$ (Clear to send)端子を用いて 1 データ単位での送信を行う機能で、この機能を使うことでオーバランエラーの発生を防ぐことができます。ハンドシェイク機能は SCxMOD0 <CTSE> によってイネーブル/ディセーブルを設定できます。

$\overline{\text{SCxCTS}}$ 端子が "High" レベルになると、現在送信中のデータを送信完了後、$\overline{\text{SCxCTS}}$ 端子が "Low" レベルに戻るまで送信を停止します。ただし、INTTXx 割り込みは通常のタイミングで発生しますので、次の送信データを送信バッファに書き込み、送信待機状態にすることができます。

注 1)　送信中に $\overline{\text{SCxCTS}}$ 信号を立ち上げた場合、送信終了後に停止します。
注 2)　$\overline{\text{SCxCTS}}$ 信号立ち下がり後の最初の TXDCLK クロックから送信を開始します。

なお、$\overline{\text{RTS}}$ 端子はありませんが、任意のポートの 1 ビットを $\overline{\text{RTS}}$ 機能に割り当て、受信終了時に (受信割り込みルーチン内で)このポートを "High" レベルにし、 送信側に送信の一時停止を要求することで容易にハンドシェイク機能を構築できます。

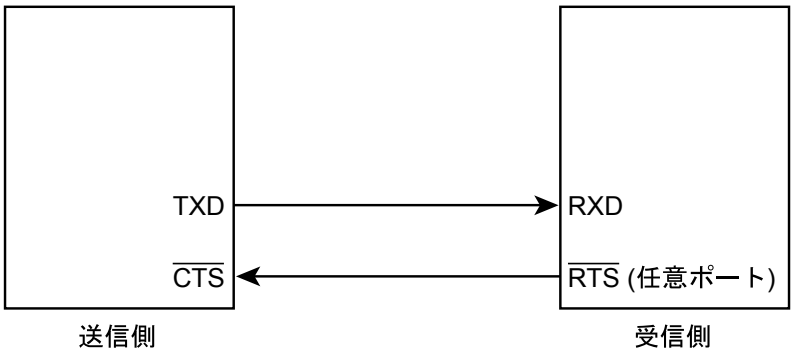


図 12-11 ハンドシェイク機能接続

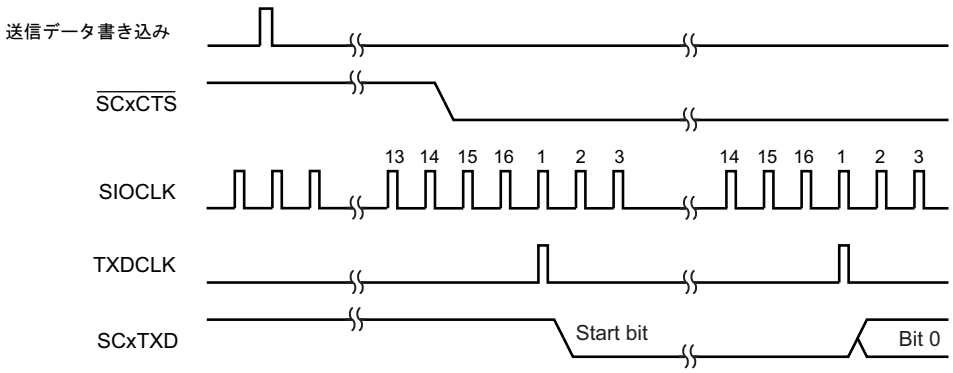


図 12-12 $\overline{\text{SCxCTS}}$ 信号のタイミング

12.13 割り込み/エラー発生タイミング

12.13.1 受信割り込み

受信動作のデータの流れと読み出しの経路を図 12-13 に示します。

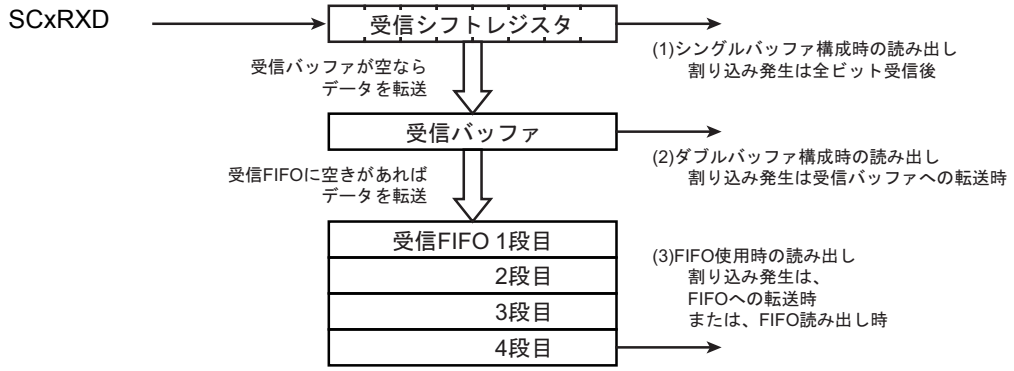


図 12-13 受信バッファ/FIFO 構成図

12.13.1.1 シングルバッファ/ダブルバッファ構成の場合

受信割り込みは、転送モードとバッファ構成により以下のタイミングで発生します。

表 12-7 シングルバッファ/ダブルバッファ構成の場合の受信割り込み発生条件

バッファ構成	UART モード	I/O インタフェースモード
シングルバッファ	–	・最終ビットの SCxSCLK 端子立ち上がり/立ち下がり直後 (立ち上がり/立ち下がりは、SCxCR<SCLKS>設定による)
ダブルバッファ	受信シフトレジスタから受信バッファへ、データの移動が発生するとき。具体的には以下のタイミング。 ・受信バッファにデータがない場合、第 1 ストップビットの中央付近 ・受信シフトレジスタと受信バッファの両方にデータがある場合、バッファのリード時	受信シフトレジスタから受信バッファへ、データの移動が発生するとき。具体的には以下のタイミング。 ・受信バッファにデータがない場合、最終ビットの SCxSCLK 端子立ち上がり/立ち下がり直後 (立ち上がり/立ち下がりは、SCxCR<SCLKS>設定による) ・受信シフトレジスタと受信バッファの両方にデータがある場合、バッファのリード時

注) オーバーランエラー成立時は割り込みは発生しません。

12.13.1.2 FIFO 使用の場合

FIFO 使用の場合の受信割り込みは、表 12-8 の割り込み発生タイミングに記載の動作が発生したときに、SCxRFC<RFIS>の設定で決まる条件を満たしていると発生します。

表 12-8 FIFO 使用時の受信割り込み発生条件

SCxRFC<RFIS>	割り込み発生条件	割り込み発生タイミング
"0"	FIFO fill レベル(SCxRST<RLVL[2:0]>) = 割り込み発生 fill レベル(<RIL[1:0]>) のとき	・受信バッファから受信FIFOへ受信データの転送がおこなわれるとき
"1"	FIFO fill レベル(SCxRST<RLVL[2:0]>) ≥ 割り込み発生 fill レベル(<RIL[1:0]>) のとき	・受信FIFOから受信データをリードしたとき ・受信バッファから受信FIFOへ受信データの転送がおこなわれるとき

12.13.2　送信割り込み

送信動作のデータの流れと書き込みの経路を図 12-14 に示します。

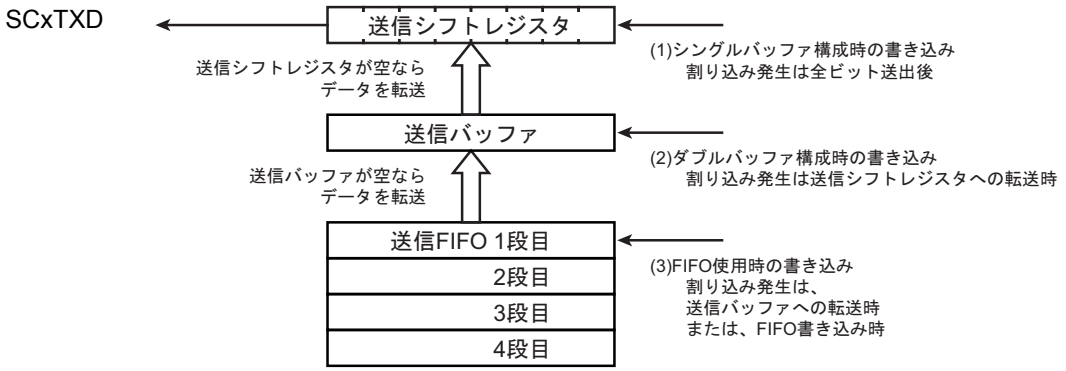


図 12-14 送信バッファ/FIFO 構成図

12.13.2.1　シングルバッファ/ダブルバッファ構成の場合

送信割り込みは、転送モードとバッファ構成により以下のタイミングで発生します。

表 12-9 シングルバッファ/ ダブルバッファ構成の場合の送信割り込み発生条件

バッファ構成	UART モード	I/O インタフェースモード
シングルバッファ	ストップビット送出の直前	最終ビットの SCxSCLK 端子立ち上がり/立ち下がり直後 (立ち上がり/立ち下がりは、SCxCR<SCLKS>設定による)
ダブルバッファ	送信バッファから送信シフトレジスタへのデータ転送時に送信割り込みが発生します。 なお、SCxMOD1<TXE> = "1"で送信シフトレジスタが空の場合、送信バッファにデータを書いた直後に送信バッファから送信シフトレジスタにデータが転送されるため、送信割り込みが発生します。	

12.13.2.2 FIFO 使用の場合

FIFO 使用の場合の送信割り込みは、表 12-10 の割り込み発生タイミングに記載の動作が発生したときに、SCxTFC<TFIS>の設定で決まる条件を満たした場合に発生します。

表 12-10 FIFO 使用時の送信割り込み発生条件

SCxTFC<TFIS>	割り込み発生条件	割り込み発生タイミング
"0"	FIFO fill レベル(SCxTST<TLVL[2:0]>) = 割り込み発生 fill レベル(<TIL[1:0]>) のとき	・送信FIFOから送信バッファへ送信データの転送が行われたとき
"1"	FIFO fill レベル(SCxTST<TLVL[2:0]>) ≤ 割り込み発生 fill レベル(<TIL[1:0]>) のとき	・送信FIFOへ送信データをライトしたとき ・送信FIFOから送信バッファへ送信データの転送が行われたとき

12.13.3 エラー発生

12.13.3.1 UART モード

モード	9 ビット	7 ビット 8 ビット 7 ビット + パリティ 8 ビット + パリティ
フレーミングエラー オーバランエラー	ストップビットの中央付近	
パリティエラー	−	判定： パリティビットの中央付近 フラグ変化： ストップビットの中央付近

12.13.3.2 I/O インタフェースモード

オーバランエラー	最終ビットの SCxSCLK 端子立ち上がり/立ち下がり直後 (立ち上がり/立ち下がりは、SCxCR<SCLKS>設定による)
アンダーランエラー	次回の SCxSCLK 端子の立ち上がり/立ち下がり直後 (立ち上がり/立ち下がりは、SCxCR<SCLKS>設定による)

注) クロック出力モードではオーバランエラー、アンダーランエラーフラグは意味を持ちません。

12.15 ソフトウエアリセット

SCxMOD2<SWRST[1:0]>に"10" → "01"の順でライトすることによりソフトウエアリセットが発生します。

これにより、SCxMOD0<RXE>、SCxMOD1<TXE>、SCxMOD2<TBEMP><RBFLL><TXRUN>、SCxCR<OERR> <PERR> <FERR>が初期化され、送受信回路は初期状態になります。

その他の状態は保持されます。

12.16　モード別動作説明

12.16.1　モード 0 (I/O インタフェースモード)

SCxMOD0 <SM[1: 0]>を"00"にセットすると I/O インタフェースモードになります。

このモードには、同期クロック SCLK を出力するクロック出力モードと、外部より同期クロック SCLK を入力するクロック入力モードがあります。

以下に FIFO の使用が禁止されている状態での各動作の説明を行います。FIFO の動作については、前述の受信 FIFO 動作および送信 FIFO 動作の項を参照してください。

12.16.1.1　送信

(1)　クロック出力モード

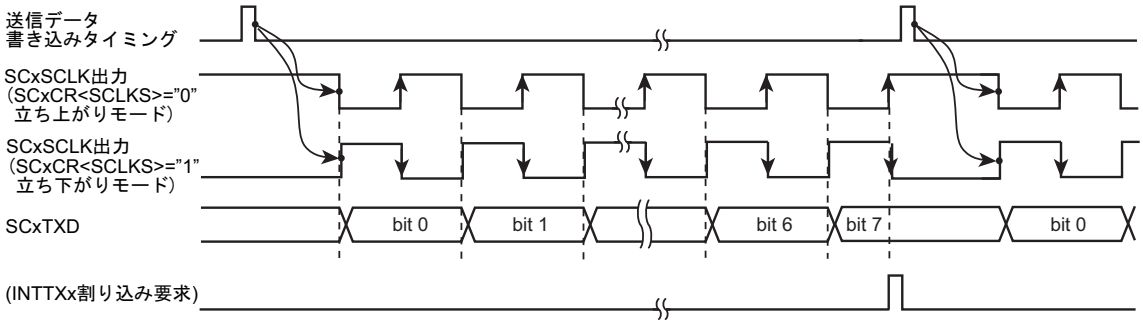
- ダブルバッファ不許可(SCxMOD2<WBUF> = "0")の場合

  送信バッファにデータを書き込むたびに、データが SCxTXD 端子から、クロックが SCxSCLK 端子より出力されます。データがすべて出力されると割り込み(INTTXx)が発生します。

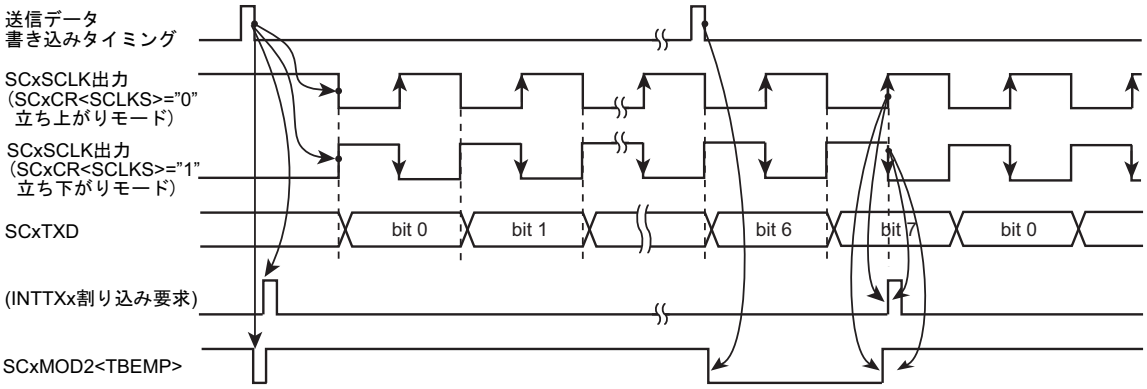
- ダブルバッファ許可(SCxMOD2<WBUF> = "1")の場合

  シフトレジスタが空の状態で送信バッファにデータを書き込んだとき、またはシフトレジスタのデータ送出が終了したときに送信バッファよりシフトレジスタにデータが移されます。これと同時に送信バッファ empty フラグ SCxMOD2 <TBEMP>が"1"にセットされ割り込み(INTTXx)が発生します。

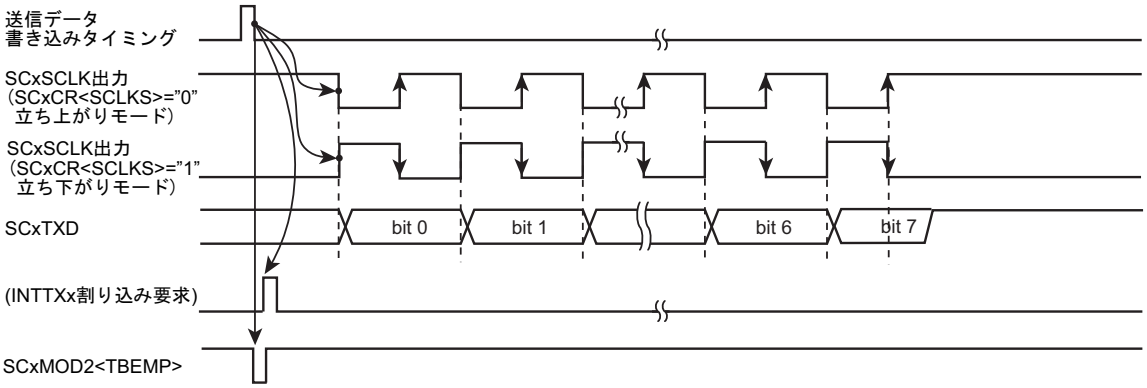
  シフトレジスタのデータ送出終了時に送信バッファにデータが存在しない場合は、割り込み(INTTXx)を発生せず、クロック出力も停止します。



<WBUF> = "0" (ダブルバッファ不許可)の場合 (SCxCR<TIDLE>="10")



<WBUF> = "1" (ダブルバッファ許可)の場合(バッファデータがある場合)



<WBUF> = "1" (ダブルバッファ許可)の場合(バッファにデータがない場合) (SCxCR<TIDLE>="01")

図 12-15 I/O インタフェースモード送信動作(クロック出力モード)

(2)　クロック入力モード

・　ダブルバッファ不許可(SCxMOD2<WBUF> = "0")の場合

送信バッファにデータが書き込まれている状態でクロックが入力されると、8 ビットのデータが SCxTXD 端子より出力されます。データがすべて出力されると割り込み INTTXx が発生します。次の送信データは図 12-16 に示す A 点までに書き込んでください。

・　ダブルバッファ許可(SCxMOD2<WBUF> = "1")の場合

クロックが入力される前に送信バッファにデータを書き込んだとき、または送信シフトレジスタのデータ送出が終了したときに送信バッファのデータがシフトレジスタへ移されます。これと同時に送信バッファ empty フラグ SCxMOD2<TBEMP>が"1"にセットされ、割り込み(INTTXx)が発生します。

送信バッファにデータが書き込まれていない状態で、クロックが入力された場合、内部ビット数カウンタはカウントを開始しますが、アンダーランエラーがセットされ、SCxCR<TXDEMP>で設定したレベルが SCxTXD 端子に出力されます。

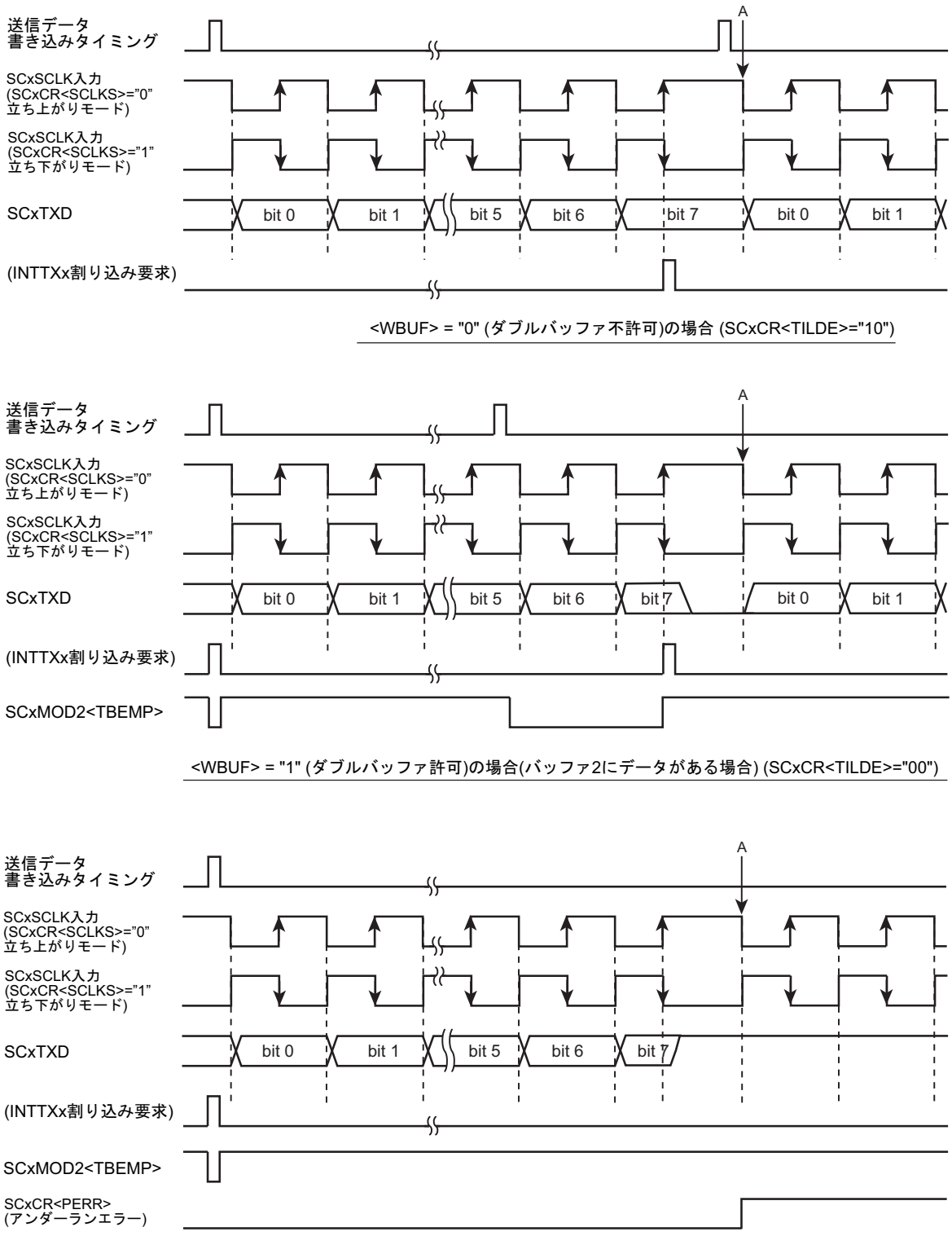


図 12-16 I/O インタフェースモード送信動作(クロック入力モード)

12.16.1.2　受信

(1)　クロック出力モード

受信許可ビット SCxMOD0<RXE>を"1"にセットすることでクロック出力が開始されます。

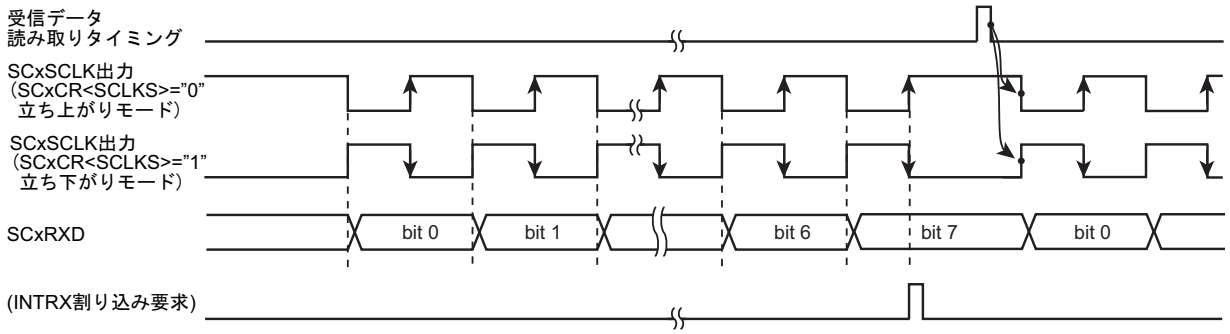
- ダブルバッファ不許可(SCxMOD2<WBUF> = "0")の場合

  受信データが読み出されるごとに、SCxSCLK 端子よりクロックが出力され次のデータがシフトレジスタに格納されます。8 ビットデータが受信されると、割り込み INTRXx が発生します。

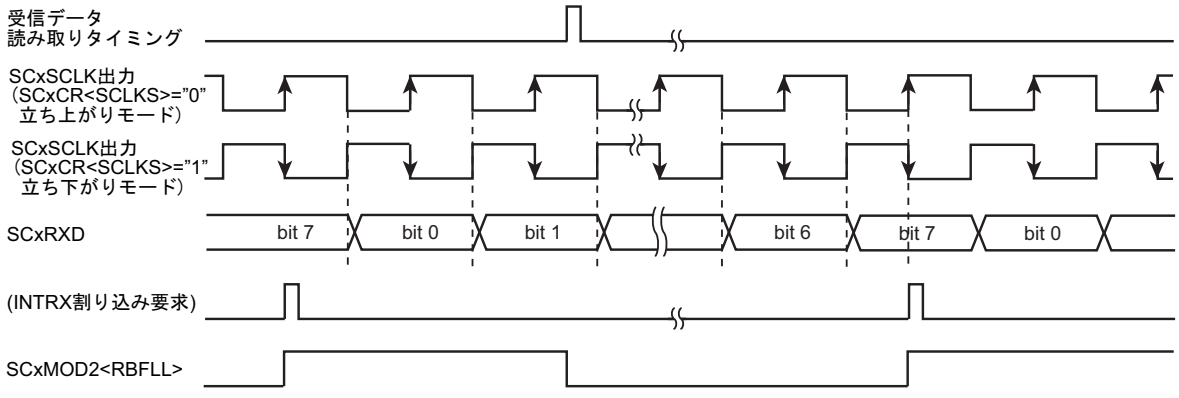
- ダブルバッファ許可(SCxMOD2<WBUF> = "1")の場合

  シフトレジスタに格納されたデータは受信バッファに移され、続けて次のフレームを受信することができます。シフトレジスタから受信バッファにデータが移されると、受信バッファ full フラグ SCxMOD2<RBFLL>が"1"にセットされ、割り込み INTRXx が発生します。

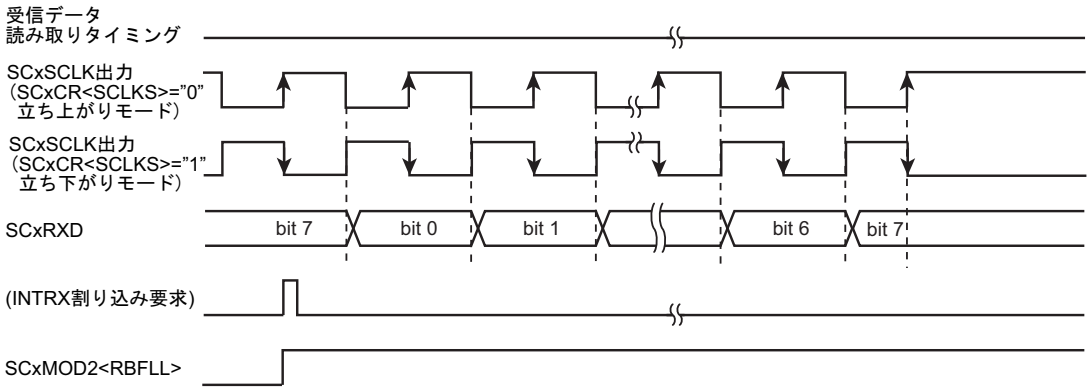
  受信バッファにデータが存在する状態で、次の 8 ビット分のデータを受信完了する前に受信バッファのデータが読み出されない場合、割り込み INTRXx は発生せず、クロック出力は停止します。この状態で受信バッファのデータを読み出すと、シフトレジスタのデータを受信バッファに移し、割り込み INTRXx を発生して受信を再開します。



<WBUF> = "0" (ダブルバッファ不許可)の場合



<WBUF> = "1" (ダブルバッファ許可)の場合(バッファのデータを読み出した場合)



<WBUF> = "1" (ダブルバッファ許可)の場合(バッファのデータが読み出されない場合)

図 12-17 I/O インタフェースモード受信動作(クロック出力モード)

(2)　クロック入力モード

クロック入力モードでは常に受信ダブルバッファが許可されており、受信したデータはシフトレジスタから受信バッファに移され、連続して次のデータを受信することができます。

受信データが受信バッファへ移されるごとに受信割り込み INTRXx が発生します。

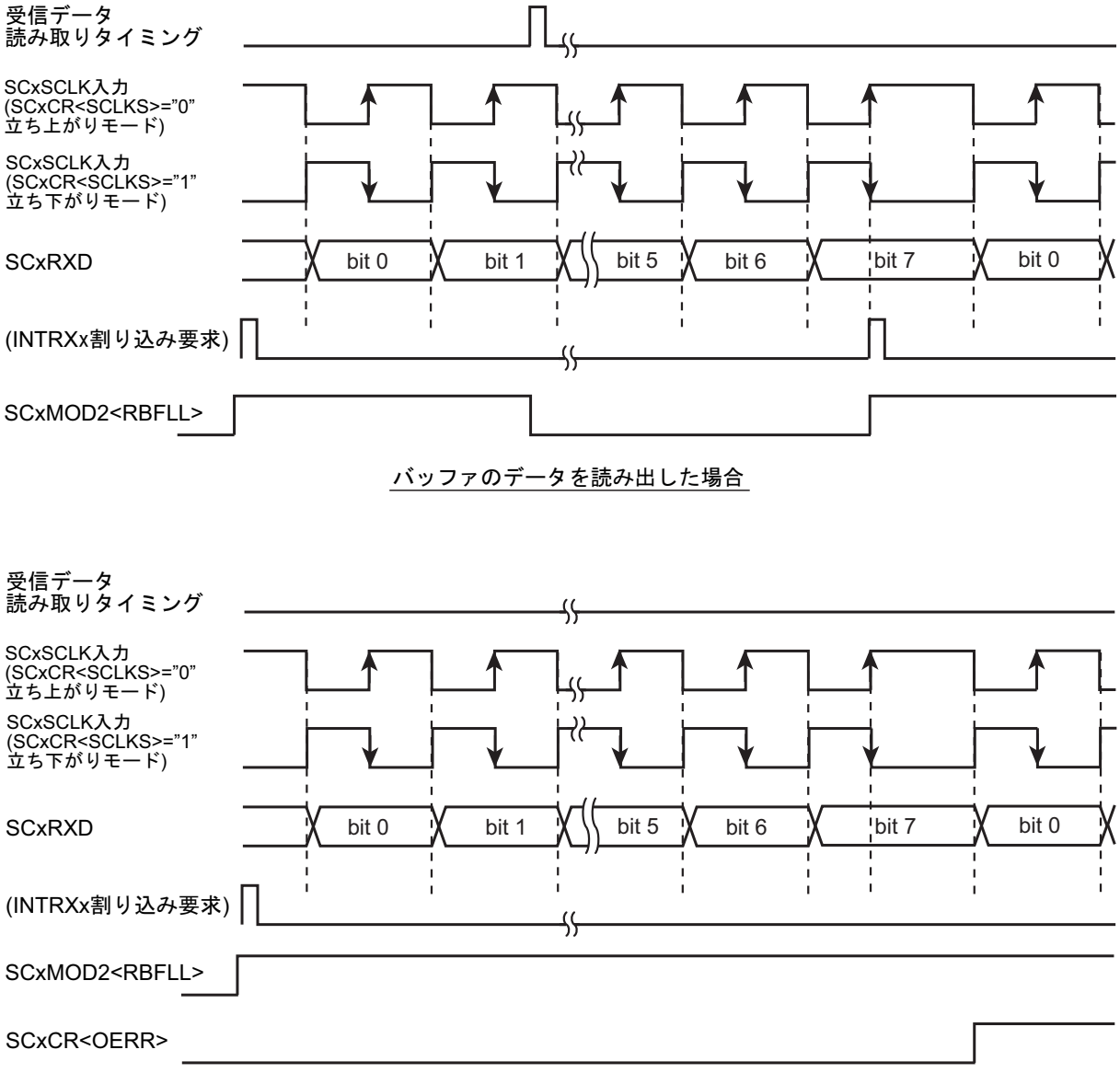


図 12-18 I/O インタフェースモード受信動作(クロック入力モード)

12.16.1.3 送受信(全二重)

(1) クロック出力モード

・ ダブルバッファ不許可(SCxMOD2<WBUF> = "0")の場合

送信バッファにデータを書き込むとクロック出力を開始します。

クロック出力によりデータが受信シフトレジスタにシフトインされ、受信割り込み(INTRXx)が発生します。それと並行して送信バッファに書き込まれたデータが、SCxTXD 端子より出力され、すべてのデータが送信されると送信割り込み(INTTXx)が発生します。この状態でクロック出力は停止します。

受信バッファの読み出しと送信バッファへのデータ書き込みを行うと次の送受信が開始されます。受信バッファの読み出しと送信バッファの書き込み順番は任意です。両方の条件が成立した場合に再開されます。

・ ダブルバッファ許可(SCxMOD2<WBUF> = "1")の場合

送信バッファにデータを書き込むとクロック出力を開始します。

データが受信シフトレジスタにシフトインされるとデータは受信バッファ に移され、割り込み(INTRXx)が発生します。受信と並行してデータが SCxTXD 端子より出力され、データがすべて出力されると割り込み(INTTXx)が発生して次のデータが送信バッファから送信シフトレジスタに移されます。

この時、送信バッファに移すデータが存在しない(SCxMOD2 <TBEMP> = "1")または受信バッファにデータが存在している(SCxMOD2 <RBFLL> = "1") 場合はクロック出力が停止します。その後は受信データの読み出しと送信データの書き込みの両方の条件が成立すると、クロック出力が再開されて次の送受信が始まります。

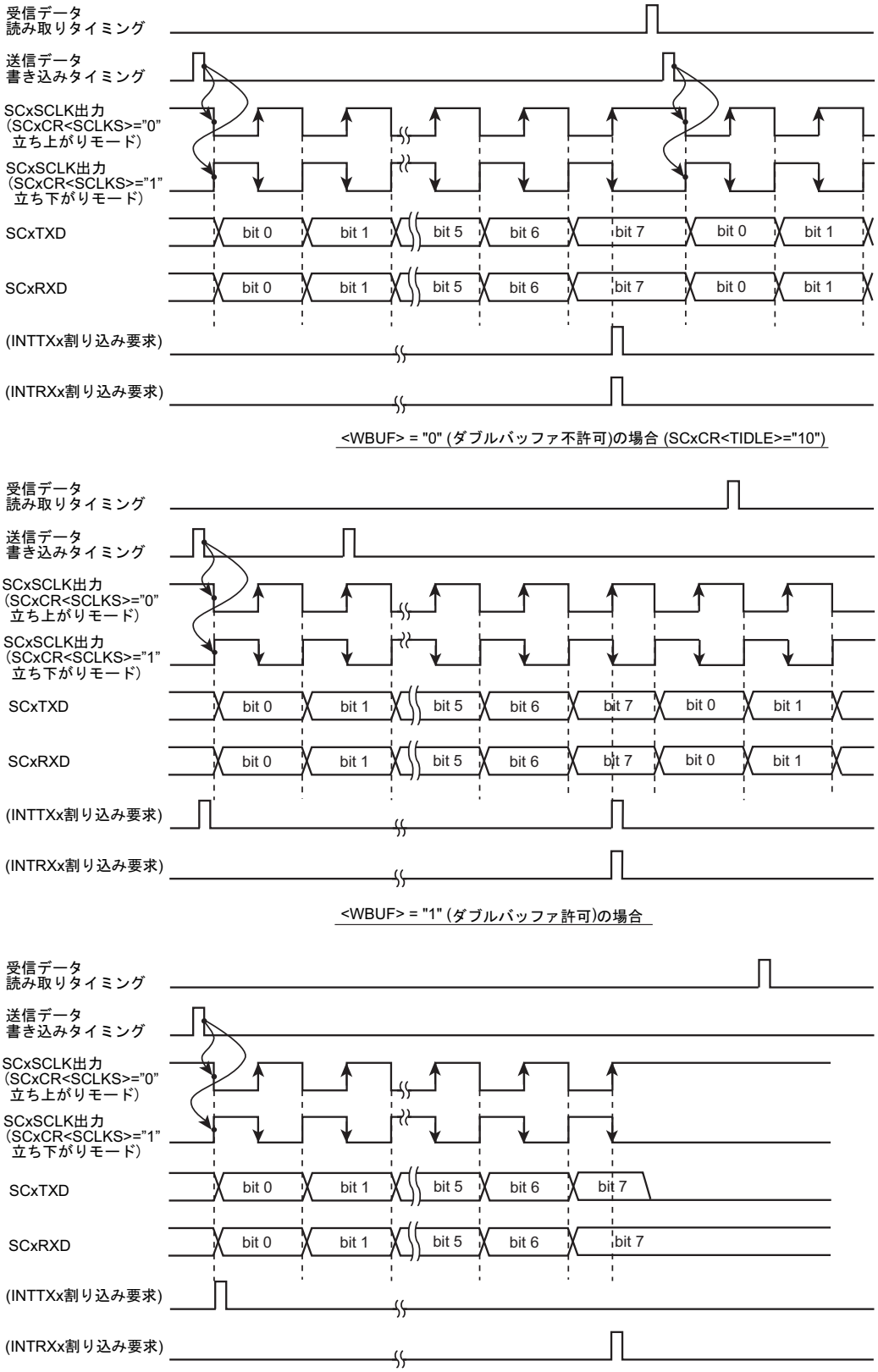


図 12-19 I/O インタフェースモード送受信動作(クロック出力モード)

(2) クロック入力モード

・ 送信ダブルバッファ不許可(SCxMOD2<WBUF> = "0")の場合

受信は SCxMOD2<WBUF>の設定に関わらずダブルバッファが有効になります。

送信バッファにデータが書き込まれている状態でクロックが入力されると、8 ビットのデータが SCxTXD 端子より出力されると同時に 8 ビットのデータが受信バッファへシフトインされます。送信が終了すると割り込み(INTTXx)が発生し、受信が終了すると受信シフトレジスタから受信バッファへデータが移されると同時に割り込み(INTRXx)が発生します。

次のフレームのクロックが入力される前にデータを送信バッファへ書き込むようにしてください。(図 12-20 に示す A 点までに書き込んでください)。受信データは、次のデータの受信が終了する前に読み出してください。

・ ダブルバッファ許可(SCxMOD2<WBUF> = "1")の場合

送信シフトレジスタのデータの送信が終了すると、送信バッファのデータが送信シフトレジスタへ移されると同時に割り込み(INTTXx)が発生します。平行して受信が行われ、シフトレジスタにデータが揃うと受信バッファへ移され、割り込み(INTRXx)が発生します。

次のデータのためのクロックが入力される前に送信データを送信バッファへ書き込むようにしてください。(図 12-20 に示す A 点までに書き込んでください)。受信データは、次のデータの受信が終了する前に読み出してください。

続けて次のデータのためのクロックが入力されると、送信バッファから送信シフトレジスタにデータを移して送信が始まり、並行して受信シフトレジスタでのデータ受信が行なわれます。

データの最終ビットの受信までに受信バッファのデータが読み出されていない場合はオーバランエラーが発生します。

また、次のデータのためのクロック入力までに送信バッファへ転送データが書き込まれていない場合は、アンダーランエラーがセットされ、SCxCR<TXDEMP>で設定したレベルが SCxTXD 端子に出力されます。

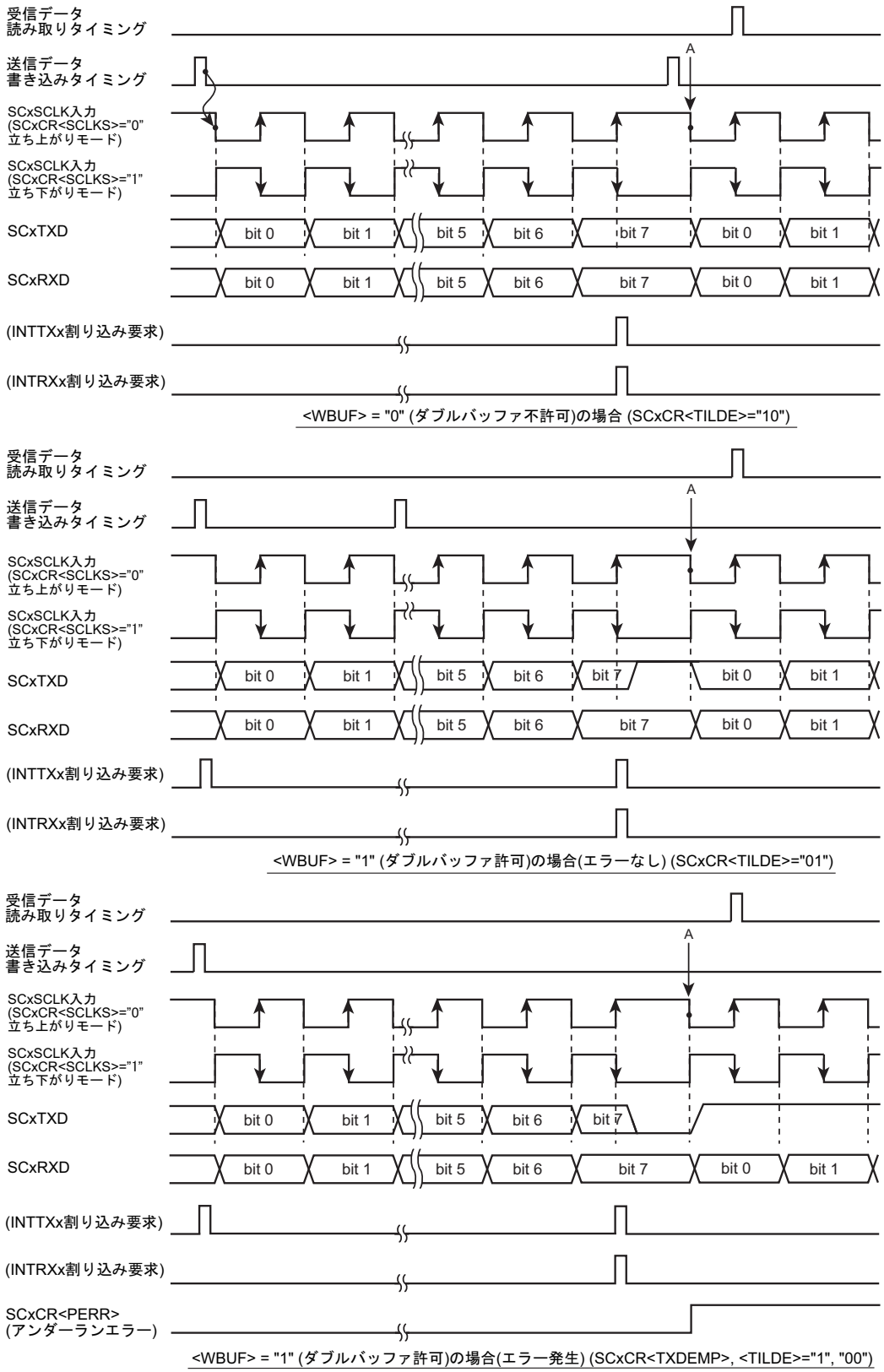


図 12-20 I/O インタフェースモード送受信動作(クロック入力モード)

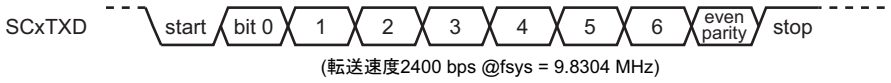
12.16.2 モード 1 (7 ビット UART モード)

SCxMOD0 <SM[1: 0]>を"01"にセットすると 7 ビット UART モードになります。

このモードではパリティビットの付加が可能で、シリアルモードコントロールレジスタ (SCxCR <PE>) でパリティビット付加のイネーブル/ディセーブルを制御しています。

<PE> = "1" (イネーブル)のときは、SCxCR<EVEN>で偶数パリティ/奇数パリティを選択できます。STOP ビットの長さは SCxMOD2<SBLEN>で指定することができます。

下記フォーマットのデータを送信する場合の各コントロールレジスタの設定を示します。



(転送速度2400 bps @fsys = 9.8304 MHz)

クロック条件	システムクロック:	高速 (fc)
	高速クロックギア:	1 倍 (fc)
	プリスケーラクロック:	fperiph/2 (fperiph = fsys)

		7	6	5	4	3	2	1	0	
SCxMOD0	←	x	0	-	0	0	1	0	1	7 ビット UART モードに設定
SCxCR	←	x	1	1	x	x	x	0	0	偶数パリティイネーブルに設定
SCxBRCR	←	0	0	1	0	0	1	0	0	2400bps に設定
SCxBUF	←	*	*	*	*	*	*	*	*	送信データを設定

x : don't care - : no change

12.16.3 モード 2 (8 ビット UART モード)

SCxMOD0 <SM[1:0]> を"10"にセットすると 8 ビット UART モードになります。このモードでは、パリティビットの付加が可能で SCxCR <PE> でパリティビット付加のイネーブル/ディセーブルを制御できます。<PE> = "1" (イネーブル)のとき、SCxCR <EVEN> で偶数パリティ/奇数パリティの選択も可能です。

下記のフォーマットのデータを受信する場合の各コントロールレジスタの設定を示します。

(転送速度9600 bps @fsys = 9.8304 MHz)

クロック条件	システムクロック:	高速 (fc)
	高速クロックギア:	1 倍 (fc)
	プリスケーラクロック:	fperiph/2 (fperiph = fsys)

		7	6	5	4	3	2	1	0	
SCxMOD0	←	x	0	0	0	1	0	0	1	8 ビット UART モードに設定
SCxCR	←	x	0	1	x	x	x	0	0	奇数パリティイネーブルに設定
SCxBRCR	←	0	0	0	1	0	1	0	0	9600bps に設定
SCxMOD0	←	-	-	1	-	-	-	-	-	受信許可

x : don’t care - : no change

12.16.4　モード 3 (9 ビット UART モード)

SCxMOD0 <SM[1:0]> を "11" にセットすると 9 ビット UART モードになります。このモードでは、パリティビットの付加を禁止(SCxCR<PE> = "0")してください。

最上位ビット(9 ビット目)は、送信の場合 SCxMOD0 <TB8> に書き込みます。受信の場合 SCxCR<RB8> に格納されます。また、バッファに対する書き込み、読み出しは必ず最上位ビットの方を先に行い、SCxBUF の方を後にします。STOP ビットの長さは SCxMOD2<SBLEN>で指定することができます。

12.16.4.1　ウェイクアップ機能

9 ビット UART モードでは、ウェイクアップ機能制御ビット SCxMOD0 <WU>を"1"にすることによって、スレーブコントローラのウェイクアップ動作が可能で、SCxCR<RB8> = "1"のときのみ割り込み (INTRXx) が発生します。

注)　スレーブコントローラの SCxTXD 端子は、必ず PxOD を設定してオープンドレイン出力モードにしてください。

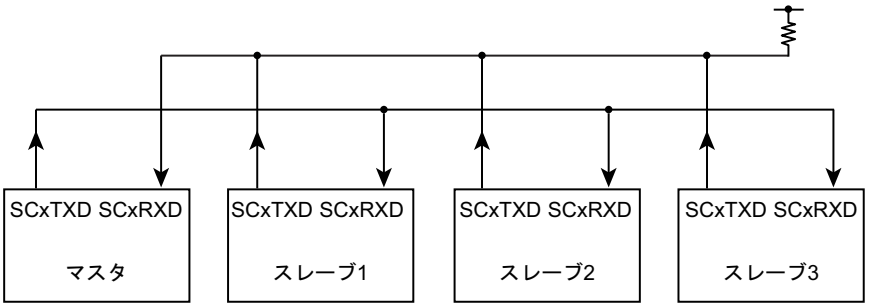
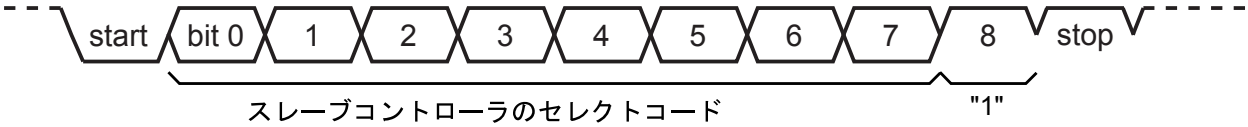


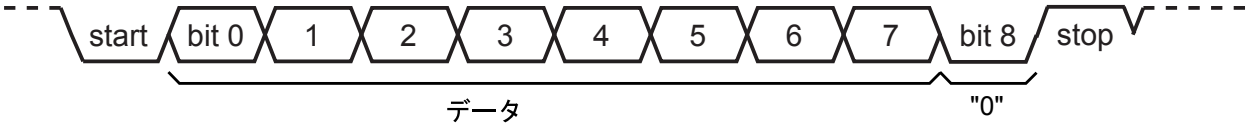
図 12-21 ウェイクアップ機能によるシリアルリンク

12.16.4.2 プロトコル

1. マスタおよびスレーブコントローラは 9 ビット UART モードにします。
2. 各スレーブコントローラは SCxMOD0<WU>を"1"にセットし、受信可能状態とします。
3. マスタコントローラは、スレーブコントローラのセレクトコード(8 ビット)を含む 1 フレームを送信します。このとき最上位ビット(ビット 8) <TB8>は"1"にします。



4. 各スレーブコントローラは、上記フレームを受信し、自分のセレクトコードと一致すれば、<WU>を"0"にクリアします。
5. マスタコントローラは指定したスレーブコントローラ(<WU> = "0"にクリアされたコントローラ)に対しデータを送信します。このとき、最上位ビット(ビット 8) <TB8>は"0"にします。



6. <WU> = "1"のままのスレーブコントローラは、受信データの最上位ビット(ビット 8)の<RB8>が"0"であるため、割り込み(INTRXx)が発生せず、受信データを無視します。また、<WU> = "0"になったスレーブコントローラがマスタコントローラにデータを送信し、この送信データで受信終了をマスタコントローラに知らせることもできます。

第 13 章　シリアルバスインタフェース(I2C/SIO)

シリアルバスインタフェースは、下記の 2 つの動作モードを持っています。

- I2C バスモード(マルチマスタ)
- クロック同期式 8 ビット SIO モード

以下の説明中、"x"はチャネル番号を表します。

13.1　構成

図 13-1 にシリアルバスインタフェースのブロック図を示します。

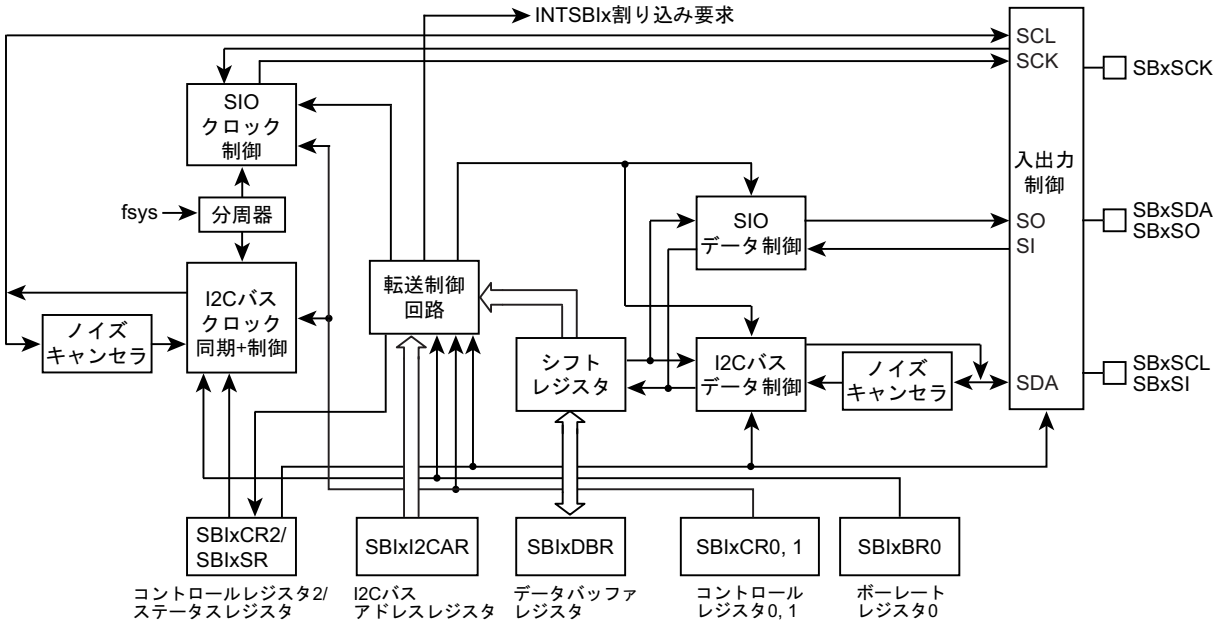


図 13-1 シリアルバスインタフェースブロック図

13.2　レジスタ説明

シリアルバスインタフェースの制御および動作状態のモニタを行うレジスタとアドレスは以下のとおりです。

下記レジスタは使用するモードによって、機能が異なります。詳細は「13.3.1 I2C バスモード時のコントロールレジスタ」および「13.4.1 SIO モード時のコントロールレジスタ」を参照してください。

13.2.1　レジスター覧

制御レジスタとアドレスは以下の通りです。

ベースアドレスは、「メモリマップ」章の「周辺機能ベースアドレス一覧」を参照ください。

レジスタ名		Address(Base+)
コントロールレジスタ 0	SBIxCR0	0x0000
コントロールレジスタ 1	SBIxCR1	0x0004
データバッファレジスタ	SBIxDBR	0x0008
I2C バスアドレスレジスタ	SBIxI2CAR	0x000C
コントロールレジスタ 2	SBIxCR2(ライト時)	0x0010
ステータスレジスタ	SBIxSR(リード時)	
ボーレートレジスタ 0	SBIxBR0	0x0014

13.3 I2C バスモード

13.3.1 I2C バスモード時のコントロールレジスタ

シリアルバスインタフェース を I2C バスモードで使用するときの制御、および動作状態のモニタは以下のレジスタで行います。

13.3.1.1 SBIxCR0(コントロールレジスタ 0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	SBIEN	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	SBIEN	R/W	シリアルバスインタフェース動作 0: 禁止 1: 許可 シリアルバスインタフェースを使用する場合、最初に<SBIEN>に"1"を設定してください。 <SBIEN>を"1"に設定することで SBI に関するレジスタのリード、ライトが可能になります。 動作禁止の場合、SBIxCR0 を除くすべてのクロックが停止しますので消費電力の低減が可能です。 シリアルバスインタフェース回路を一旦動作させた後に動作禁止にした場合、各レジスタの設定は保持されます。
6-0	-	R	リードすると"0"が読めます。

13.3.1.2　SBIxCR1(コントロールレジスタ 1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	BC			ACK	-	SCK2	SCK1	SCK0 / SWRMON
リセット後	0	0	0	0	1	0	0	1(注 3)

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7-5	BC[2:0]	R/W	転送ビット数の選択(注 1)
4	ACK	R/W	マスタモード 0: アクノリッジメントのためのクロックを発生しない 1: アクノリッジメントのためのクロックを発生する スレーブモード 0:アクノリッジメントのためのクロックをカウントしない 1:アクノリッジメントのためのクロックをカウントする
3	-	R	リードすると"1"が読めます。
2-1	SCK[2:1]	R/W	SBxSCL 出力クロックの周波数選択<SCK[2:0]>@ライト　(注 2)
0	SCK[0]	W	
	SWRMON	R	ソフトウエアリセット状態モニタ 0:ソフトウエアリセット中 1:ソフトウエアリセット中ではない

<BC>	<ACK> = 0 のとき		<ACK> = 1 のとき	
	クロック数	データ長	クロック数	データ長
000	8	8	9	8
001	1	1	2	1
010	2	2	3	2
011	3	3	4	3
100	4	4	5	4
101	5	5	6	5
110	6	6	7	6
111	7	7	8	7

000	n = 5
001	n = 6
010	n = 7
011	n = 8
100	n = 9
101	n = 10
110	n = 11
111	reserved

システムクロック: fsys
クロックギア: fc/1
周波数 = $\frac{fsys}{2^n + 72}$ [Hz]

注 1) SIO モードに切り替える前に<BC[2:0]>を"000"にクリアしてください。

注 2) SCL ラインクロックの周波数については、「13.3.2.2 シリアルクロック」を参照してください。

注 3) <SCK[0]/SWRMON>は、リセット後"1"が読み出されますが、SBIxCR2 レジスタにて SIO モードに設定した場合、<SCK[0]>の初期値は"0"になります。

注 4) 読み出しの初期値とは関係なく、周波数選択の初期値は<SCK[2:0]>=000 です。

注 5) マスタモードで<BC[2:0]>="001"で<ACK>="0"のとき、ストップコンディション発生後の SBxSCL の立ち下がりによって、SBxSCL が"L"に固定されることがあり、他のマスタデバイスがバスを使用できなくなります。複数のマスタデバイスがバスに接続されている場合、ストップコンディション発生前に、転送ビット数を"2"以上にしてください。

13.3.1.3　SBIxCR2(コントロールレジスタ 2)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	MST	TRX	BB	PIN	SBIM		SWRST	
リセット後	0	0	0	1	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	MST	W	マスタモード/スレーブモードの選択 0: スレーブモード 1: マスタモード
6	TRX	W	トランスミッタ/レシーバの選択 0: レシーバ 1: トランスミッタ
5	BB	W	スタート/ストップ状態の発生 0: ストップ状態発生 1: スタート状態発生
4	PIN	W	INTSBIx 割り込み要求解除 0: − 1: 割り込み要求の解除
3-2	SBIM[1:0]	W	シリアルバスインタフェースの動作モード選択(注 1) 00: ポートモード(シリアルバスインタフェースの出力禁止) (注 2) 01: SIO モード 10: I2C バスモード (注 3) 11: Reserved
1-0	SWRST[1:0]	W	ソフトウエアリセットの発生 最初に"10"、次に"01"をライトすると、ソフトウエアリセットが発生します。 詳細は、「13.3.2.16 ソフトウエアリセット」を参照してください。

注 1)　通信中はモードを切り替えないでください。

注 2)　ポートモードへの切り替えはバスフリーを確認してから行ってください。

注 3)　ポートモードから I2C バスモードへの切り替えは、SBxSDA 端子/SBxSCL 端子が"High"になっていることを確認してから行ってください

注 4)　SBIxCR2 は SBIxSR と同じアドレスに割り当てられています。従ってリードモディファイライトによる操作はできません。

13.3.1.4 SBIxSR(ステータスレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	MST	TRX	BB	PIN	AL	AAS	AD0	LRB
リセット後	0	0	0	1	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	MST	R	マスタ/スレーブ選択状態モニタ 0: スレーブモード 1: マスタモード
6	TRX	R	トランスミッタ/レシーバ選択状態モニタ 0: レシーバ 1: トランスミッタ
5	BB	R	I2C バス状態モニタ 0: バスフリー 1: バスビジー
4	PIN	R	INTSBIx 割り込み要求状態モニタ 0: 割り込みサービス要求中 1: 割り込みサービス要求解除中
3	AL	R	アービトレーションロスト検出モニタ 0: − 1: 検出
2	AAS	R	スレーブアドレス一致検出モニタ 0: − 1: 検出 (ゼネラルコールアドレス検出時もセットされます。)
1	AD0	R	ゼネラルコール検出モニタ 0: − 1: 検出
0	LRB	R	最終受信ビットモニタ 0:最終受信ビット "0" 1:最終受信ビット "1"

13.3.1.5　SBIxBR0(ボーレートレジスタ 0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	I2SBI	-	-	-	-	-	-
リセット後	1	0	1	1	1	1	1	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	-	R	リードすると"1"が読めます。
6	I2SBI	R/W	IDLE モード時の動作 0: 停止 1: 動作
5-1	-	R	リードすると"1"が読めます。
0	-	R/W	必ず"0"をライトしてください。

13.3.1.6 SBIxDBR(データバッファレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	DB							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7-0	DB[7:0]	R	受信データ
		W	送信データ

注 1) 送信データ書き込み時は、データを MSB(ビット 7)側につめてライトしてください。また、受信データは LSB 側に格納されます。

注 2) SBIxDBR は書き込み用のバッファと読み出し用のバッファを個別に持っているため、書き込んだデータを読み出すことはできません。したがって、リードモディファイライトによる操作はできません。

13.3.1.7　SBIxI2CAR(I2C バスアドレスレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	SA							ALS
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7-1	SA[6:0]	R/W	スレーブデバイスとして動作するときのスレーブアドレスの設定
0	ALS	R/W	アドレス認識モードの指定 0:スレーブアドレスを認識する 1:スレーブアドレスを認識しない(フリーデータフォーマット)

注 1)　<ALS>はフリーデータフォーマット使用時以外は必ず"0"に設定してください。"1"に設定した場合にはフリーデータフォーマットとして動作し、マスタ時は送信に、スレーブ時は受信に転送方向が固定されます。

注 2)　スレーブモード時 SBIxI2CAR を"0x00"に設定しないでください。("0x00"に設定した場合、スレーブモードで I2C バス規格の START バイト("0x01")を受信した時にスレーブアドレスが一致したと判断します。)

13.3.2 制御

13.3.2.1 動作モードの設定

SBIxCR2<SBIM[1:0]>で動作モードを設定します。I2C バスモードで使用するときは、<SBIM[1:0]>を"10"に設定してください。

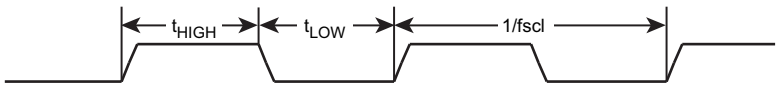
注 1) ポートモードへの切り替えは、SBxSDA 端子/SBxSCL 端子が"High"になっていることを確認してから行ってください。

注 2) ポートモードから I2C バスモードの切り替えは、SBxSDA 端子/SBxSCL 端子が"High"になっていることを確認してから行ってください。

13.3.2.2 シリアルクロック

(1) クロックソース

SBIxCR1 <SCK[2:0]>で、マスタモード時に SBxSCL 端子から出力されるシリアルクロックの最大転送周波数を選択します。



$t_{LOW} = 2^{n-1}/fsys + 58/fsys$
$t_{HIGH} = 2^{n-1}/fsys + 14/fsys$
$fscl = 1/(t_{LOW} + t_{HIGH})$
$= \frac{fsys}{2^n + 72}$

SBIxCR1<SCK[2:0]>	n
000	5
001	6
010	7
011	8
100	9
101	10
110	11

図 13-2 クロックソース

注) 通信規格上、標準モード/高速モードの最高速は 100 kHz/400 kHz です。内部 SCL クロックの周波数の設定は、使用される fsys と上記計算式にて設定されますのでご注意願います。

(2) クロック同期化

I2C バスでは、端子の構造上バスをワイヤードアンドで駆動させるため、クロックラインを最初に"Low"レベルに引いたマスタが、"High"レベルを出力しているマスタのクロックを無効にします。このため、"High"レベルを出力しているマスタは、これを検出し対応する必要があります。

シリアルバスインタフェース回路はクロック同期化機能をもっており、バス上に複数のマスタが存在する場合でも、正常に転送が行われます。

クロック同期の手順を、バス上に 2 つのマスタが同時に存在した場合を例に挙げて以下に示します。

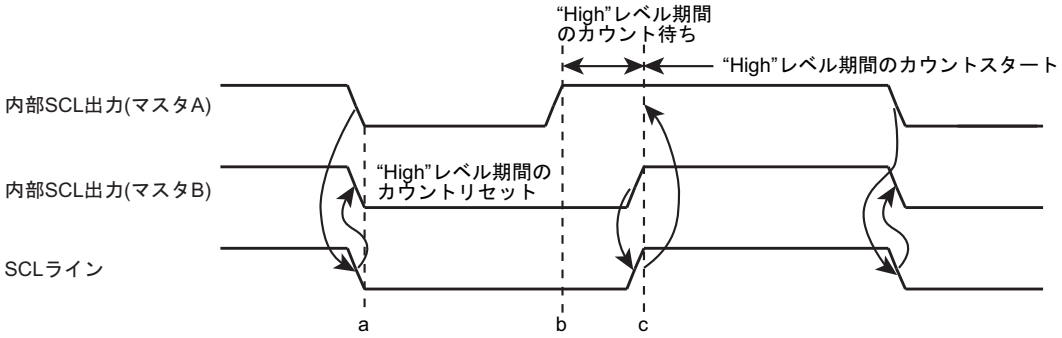


図 13-3 クロック同期化の例

a 点でマスタ A が内部 SCL 出力を"Low"レベルに引くことで、バスの SCL ラインは"Low"レベルになります。マスタ B はこれを検出し、マスタ B の"High"レベル期間のカウントをリセットし、内部 SCL 出力を"Low"レベルに引きます。

b 点でマスタ A は"Low"レベル期間のカウントを終わり、内部 SCL 出力を"High"レベルにします。しかし、マスタ B がバスの SCL ラインを"Low"レベルに保持し続けているので、マスタ A は"High"レベル期間のカウントを止めます。マスタ A は、c 点でマスタ B が内部 SCL 出力を"High"レベルにし、バスの SCL ラインが"High"レベルになったことを検出後、"High"レベル期間のカウントを始めます。その後,"High"レベル期間のカウントを終了したマスタ A が内部 SCL 出力を"Low"に引くことでバスの SCL ラインは"Low"レベルになります。

以上のようにバス上のクロックは、バスに接続されているマスタの中で最も短い"High"レベル期間をもつマスタと最も長い"Low"レベル期間をもつマスタによって決定されます。

13.3.2.3　アクノリッジメントモードの指定

SBIxCR1<ACK>を"1"に設定するとアクノリッジメントモードとして動作します。

マスタモードのときには、アクノリッジ信号のためのクロックを 1 クロック付加します。

スレーブモードのときはアクノリッジ信号のためのクロックをカウントします。

トランスミッタモードのときには、アクノリッジのためのクロック期間中 SBxSDA 端子を開放し、レシーバからのアクノリッジ信号を受信できる状態にします。

レシーバモードのときはクロック期間中 SBxSDA 端子を"Low"レベルに引き、更に、スレーブモードのときにゼネラルコールアドレスを受信した場合にもアクノリッジのためのクロック期間中、SBxSDA 端子を"Low"レベルに引き、アクノリッジ信号を発生します。ゼネラルコールのセカンドバイトは内容によりアクノリッジ信号の発生有無を制御する必要がありますので、ソフトウエアによりアクノリッジ信号の制御を行なってください。

<ACK>を"0"に設定すると、非アクノリッジメントモードとして動作し、マスタモードのときにアクノリッジ信号のためのクロックを発生しません。スレーブモードのときはアクノリッジ信号のためのクロックをカウントしません。

13.3.2.4　転送ビット数の選択

SBIxCR1<BC[2:0]>により、次に送受信するデータのビット数を選択します。

<BC[2:0]>はスタートコンディションにより"000"にクリアされるため、スレーブアドレス、方向ビットの転送は必ず 8 ビットで行われます。それ以外のときは<BC[2:0]>は一度設定された値を保持します。

13.3.2.5 スレーブアドレスとアドレス認識モードの設定

スレーブアドレスを認識するアドレッシングフォーマットで動作させるときは、SBIxI2CAR<ALS>に"0"を設定し、SBIxI2CAR <SA[6:0]>にスレーブアドレスを設定します。

スレーブアドレスを認識しないフリーデータフォーマットで使用するときには<ALS>を"1"に設定します。なお、フリーデータフォーマットで使用した場合、スレーブアドレスと方向ビットの認識は行われず、スタートコンディション直後からデータとして扱われます。

13.3.2.6 マスタ/スレーブの選択

SBIxCR2<MST>を"1"に設定すると、マスタデバイスとして動作します。

<MST>を"0"に設定すると、スレーブデバイスとして動作します。

なお、<MST>はバス上のストップコンディションの検出、またはアービトレーションロストの検出で、ハードウエアにより"0"にクリアされます。

13.3.2.7 トランスミッタ/レシーバの選択

SBIxCR2<TRX> を"1"に設定すると、トランスミッタとして動作します。

SBIxCR2<TRX>を"0"に設定すると、レシーバとして動作します。

フリーデータフォーマットで使用する場合、<TRX>はハードウエアによって変化することはありません。

アドレッシングフォーマットで使用するときには、<TRX>は下記のように設定されます。

(1) マスタモード時

マスタモード時は、スレーブアドレスと方向ビットを送信後、スレーブデバイスからアクノリッジが返ってくると、ハードウエアにより、下記のように<TRX>が設定されます。アクノリッジが返ってこないときは、以前の状態を保ちます。

- 送信した方向ビットが"1"の場合、<TRX>は"0"に設定されます。
- 送信した方向ビットが"0"の場合、<TRX>は"1"に設定されます。

(2) スレーブモード時

スレーブモード時は、アドレッシングフォーマットでデータ転送を行う場合に、下記の条件が成立するとマスタデバイスの送ってくる方向ビットにあわせ、<TRX>が設定されます。

- 受信したスレーブアドレスが SBIxI2CAR にセットした値と同じとき
- ゼネラルコールを受信したとき

<TRX>は下記のように設定されます。

- 受信した方向ビットが"1"の場合、<TRX>は"0"に設定されます。
- 受信した方向ビットが"0"の場合、<TRX>は"1"に設定されます。

13.3.2.8　バスビジーモニタ

SBIxSR<BB>を読み出すことで、バスの状態を知ることができます。

<BB>は、バス上のスタートコンディションを検出すると"1"にセットされ、ストップコンディションを検出すると"0"にクリアされます。

<BB>が"1"のときをバスビジー状態、<BB>が"0"のときをバスフリー状態と呼びます。

マスタデバイスは、バスフリーの状態でのみスタートコンディションを発生することができます。スタートコンディションを発生する前には、必ず<BB>が"0"であることを確認してください。

<BB>が"1"の状態でスタートコンディションを発生すると、スタートコンディションは発生せず、アービトレーションロストが発生します。

13.3.2.9　割り込みサービス要求と解除

割り込み要求(INTSBIx)が発生すると、SBIxCR2<PIN>が"0"にクリアされ、割り込みサービス要求状態になります。<PIN>が"0"の間、SBxSCL 端子を"Low"レベルにします。

<PIN>は SBIxDBR にデータを書き込むか、SBIxDBR からデータを読み出すと"1"にセットされます。プログラムで<PIN>に"1"を書き込むと"1"にセットされますが、"0"を書き込んでも"0"にクリアされません。

<PIN>が"1"にセットされると SBxSCL 端子が開放されます。<PIN>が"1"にセットされてから SBxSCL 端子が開放されるまで t_{LOW} の時間がかかります。

注)　マスタモードでアービトレーションロストが発生した場合、スレーブアドレスが一致しなかった場合は、<PIN>は"0"にクリアされません。(INTSBIx は発生します。)

13.3.2.10　アービトレーションロスト検出モニタ

I2C バスではマルチマスタ(1 つのバス上で同時に 2 つ以上のマスタが存在する)が可能なため、転送されるデータの内容を保証するためにバスのアービトレーション手順が必要となります。

I2C バスではバスのアービトレーションに SDA ラインのデータを使用します。

アービトレーションの手順を、バス上に 2 つのマスタが同時に存在した場合を例に挙げて以下に示します。

a 点のビットまでマスタ A、マスタ B とも同じデータを出力し、a 点でマスタ A が"Low"レベルを出力、マスタ B が"High"レベルを出力すると、バスの SDA ラインはワイヤードアンドで駆動されるためにマスタ A によって"Low"レベルに引かれます。

b 点でバスの SCL ラインが立ち上がると、スレーブデバイスは SDA ラインデータ、すなわち、マスタ A のデータを取り込みます。このとき、マスタ B の出力したデータは無効になります。

マスタ B のこの状態を"アービトレーションロスト"と呼びます。アービトレーションロストが発生したマスタ B は、SDA 端子を開放し、他のマスタの出力するデータに影響を及ぼさないようにします。

もし、複数のマスタが 1 ワード目でまったく等しいデータを送信した場合、アービトレーションの手順は 2 ワード目以降も継続されます。

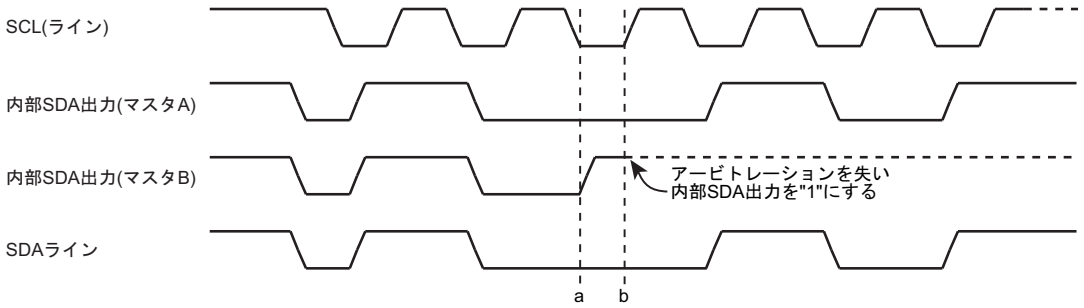


図 13-4 アービトレーションロスト

バスの SDA ラインのレベルと内部 SDA 出力のレベルの比較は、SCL ラインの立ち上がりで行います。この比較結果が不一致の場合アービトレーションロストになり、SBIxSR<AL> が"1"にセットされます。

アービトレーションロストが発生すると、SBIxSR<MST>と< TRX>は"0"にクリアされ、スレーブレシーバモードになり、SCL クロックの出力を停止します。

スレーブアドレス転送中にアービトレーションロストが発生したデバイスは、通常のスレーブデバイスのように、他のマスタが送信するスレーブアドレスを受信します。

受信したスレーブアドレスが SBIxI2CAR<SA>と一致した場合、<PIN>が"0"にクリアされ、INTSBIx が発生します。一致しなかった場合、<PIN>は"1"のままですが、INTSBIx が発生します。

<AL>は、SBIxDBR にデータを書き込むか、SBIxDBR からデータを読み込む、または SBIxCR2 にデータを書き込むと"0"にクリアされます。

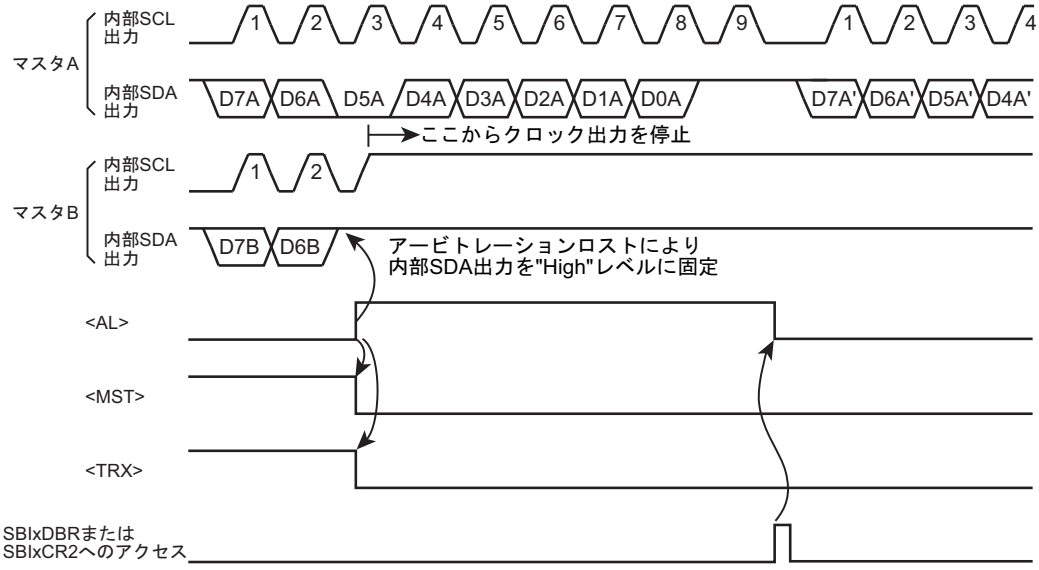


図 13-5 マスタ B の場合の例(D7A=D7B,D6A=D6B)

13.3.2.11 スレーブアドレス一致検出モニタ

SBIxSR<AAS>は、スレーブモード時、アドレス認識モード(SBIxI2CAR<ALS> = "0")のとき、ゼネラルコールアドレスまたは SBIxI2CAR<SA>にセットした値と同じスレーブアドレスを受信すると"1"にセットされます。

フリーデータフォーマット(<ALS> = "1")のときは、最初の 1 ワードが受信されると"1"にセットされます。

<AAS> は SBIxDBR にデータを書き込むか、SBIxDBR からデータを読み出すと"0"にクリアされます。

13.3.2.12　ゼネラルコール検出モニタ

SBIxSR<AD0>は、スレーブモード時、ゼネラルコール(スタートコンディション後の 8 ビットのデータがすべて"0")を受信したとき"1"にセットされます。

バス上のスタートコンディション、またはストップコンディションが検出されると"0"にクリアされます。

13.3.2.13　最終受信ビットモニタ

SBIxSR<LRB>には、SBxSCL 端子の立ち上がりで取り込まれた SBxSDA 端子の値がセットされます。アクノリッジメントモードのとき、INTSBIx 割り込み要求発生直後に SBIxSR<LRB> を読み出すと、ACK 信号が読み出されます。

13.3.2.14　データバッファレジスタ(SBIxDBR)

SBIxDBR をリード/ライトすることで、受信データの読み出し/送信データの書き込みを行います。

また、マスタモード時に、SBIxDBR にスレーブアドレスと方向ビットを設定後、スタートコンディションを発生することで、スレーブデバイスに対し、スレーブアドレスと方向ビットを送信することができます。

13.3.2.15　ボーレートレジスタ(SBIxBR0)

SBIxBR0<I2SBI>は IDLE モードに遷移した際にシリアルバスインタフェース回路の動作の許可/禁止を設定するレジスタです。スタンバイモードに移る命令を実行する前に、あらかじめ設定してください。

13.3.2.16　ソフトウエアリセット

シリアルバスインタフェース回路が、外部からのノイズによりロックした場合、ソフトウエアリセット機能を使い、シリアルバスインタフェース回路を初期化することができます。

I2C モードで SBIxCR2<SWRST[1:0]>へ、最初に"10"、次に"01"をライトすると、ソフトウエアリセットが発生します。ライトの際、SBIxCR2<MST><TRX><BB><PIN> は "0000"、SBIxCR2<SBIM[1:0]> は"10" (I2C バスモード)を指定してください。ソフトウエアリセットが発生すると、シリアルバスインタフェース回路にリセット信号が入力され、回路が初期化されます。このとき、すべてのコントロールレジスタとステータスフラグはリセット直後の値となります。また、<SWRST>は、シリアルバスインタフェースを初期化すると、自動的に"00"にクリアされます。

注)　ソフトウエアリセットをかけると動作モード選択もリセットされ、I2C モードから PORT モードになります。

13.3.3 データ転送手順

13.3.3.1 デバイスの初期化

最初に SBIxCR1<ACK>と<SCK[2:0]>を設定します。SBIxCR1[7:5]には"0"を書き込んでください。

次に SBIxI2CAR にスレーブアドレス<SA[6:0]>と<ALS> (アドレッシングフォーマット時には、<ALS> = "0")を設定します。

それから、シリアルバスインタフェース端子の状態が"High"になっていることを確認し、SBIxCR2<MST>< TRX>< BB>に"0", <PIN>に"1", <SBIM[1:0]>に"10", <SWRST[1:0]> に"00"を書き込み、初期状態をスレーブレシーバモードにします。

注) シリアルバスインタフェース回路の初期化は、バスに接続されているすべてのデバイスが初期化された後、どのデバイスも一定期間スタートコンディションを発生しない期間を設け、その期間内に終了させてください。この制約が守られない場合、シリアルバスインタフェース回路の初期化が終了する前にほかのデバイスが転送を開始することがあり、正常にデータを受信することができません。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
SBIxCR1	←	0	0	0	X	0	X	X	X	ACK および SCL クロックの設定をします。
SBIxI2CAR	←	X	X	X	X	X	X	X	X	スレーブアドレスおよびアドレス認識モードの設定をします。
SBIxCR2	←	0	0	0	1	1	0	0	0	スレーブレシーバモードにします。

注) X; Don't care

13.3.3.2 スタートコンディション, スレーブアドレスの発生

スタートコンディションとスレーブアドレスを、次の手順で発生します。

はじめに、バスフリー状態(<BB> = "0")を確認します。次に、SBIxCR1<ACK>に"1"を書き込んで、アクノリッジメントモードに設定します。また、SBIxDBR に、送信するスレーブアドレスと方向ビットのデータを書き込みます。

<BB> = "0" の状態で、SBIxCR2<MST><TRX><BB><PIN>にそれぞれ"1"を書き込むと、バス上にスタートコンディションが発生します。

スタートコンディションの発生に次いで、SBxSCL 端子から 9 クロックを出力します。

最初の 8 クロックで、SBIxDBR に設定したスレーブアドレスと方向ビットを出力します。

9 クロック目で、SBxSDA 端子を解放し、スレーブデバイスからのアクノリッジ信号を受信します。

9 クロック目の立ち下がりで、INTSBIx 割り込み要求が発生し、<PIN> = "0"にされます。

<PIN> = "0" の間、SBxSCL 端子を"Low"レベルにひきます。また、スレーブデバイスからのアクノリッジ信号が返ってきたときのみ、INTSBIx 割り込み要求の発生により、送信した方向ビットに合わせて <TRX> は変化します。

注) スレーブアドレスを出力するために SBIxDBR に書き込む時は事前にソフトウエアによってバスフリーを検出してから行ってください。この制約が守られない場合、現在出力中のバス上のデータが破壊されることがあります。

メインルーチンでの設定

```
                    7  6  5  4  3  2  1  0
Reg.        ←  SBIxSR
Reg.        ←  Reg.AND 0x20
if Reg.     ≠  0x00                          バスがフリー状態になるまで確認します。
Then
SBIxCR1     ←  X  X  X  1  0  X  X  X       アクノリッジメントモードに設定します。
SBIxDBR     ←  X  X  X  X  X  X  X  X       目的のスレーブのスレーブアドレスと方向をセットします。
SBIxCR2     ←  1  1  1  1  1  0  0  0       スタートコンディションの発生を行います。
```

INTSBIx 割り込みルーチンでの処理例

割り込み要求クリア

処理

割り込み終了

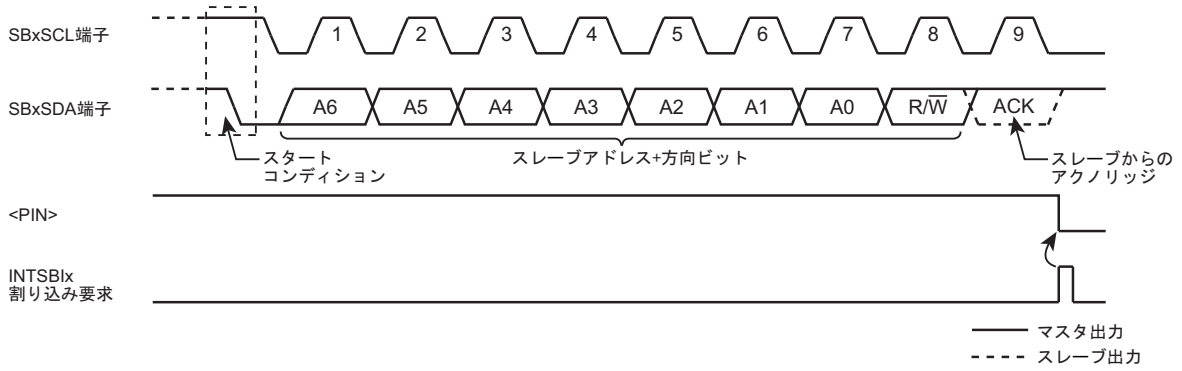


図 13-6 スタートコンディションとスレーブアドレスの発生

13.3.3.3　1 ワードのデータ転送

1 ワード転送終了の INTSBIx 割り込みの処理で<MST>をテストし、マスタモード/スレーブモードの判断をします。

(1)　マスタモードの場合(<MST> = "1")

<TRX>をテストし、トランスミッタ/レシーバの判断をします。

(a)　トランスミッタモードの場合(<TRX> = "1")

<LRB>をテストします。<LRB> = "1"のとき、レシーバはデータを要求していないのでストップコンディションを発生する処理(後記参照)を行ってデータ転送を終了します。

<LRB> = "0"のときレシーバが次のデータを要求しています。

次に転送するデータのビット数が 8 ビットのとき SBIxDBR に転送データを書き込みます。8 ビット以外のときは<BC[2:0]>, <ACK>を設定し、転送データを SBIxDBR に書き込みます。

データを書き込むと<PIN>が"1"になり SBxSCL 端子から次の 1 ワードデータ転送用のシリアルクロックが発生され、SBxSDA 端子から 1 ワードのデータが転送されます。

転送終了後 INTSBIx 割り込み要求が発生し、<PIN>が"0"になり SBxSCL 端子を"Low"レベルに引きます。

複数ワードの転送が必要な場合は上記<LRB>のテストから繰り返します。

INTSBIx 割り込み

```
if MST = 0
Then スレーブモード時の処理へ移行
if TRX = 0
Then レシーバモード時の処理へ移行
if LRB = 0
Then ストップコンディションを発生する処理へ移行
SBIxCR1    ←  X  X  X  X  0  X  X  X     転送ビット数および ACK を設定します。
SBIxDBR    ←  X  X  X  X  X  X  X  X     転送データを書き込みます。
割り込み処理終了
```

注)　X; Don't care

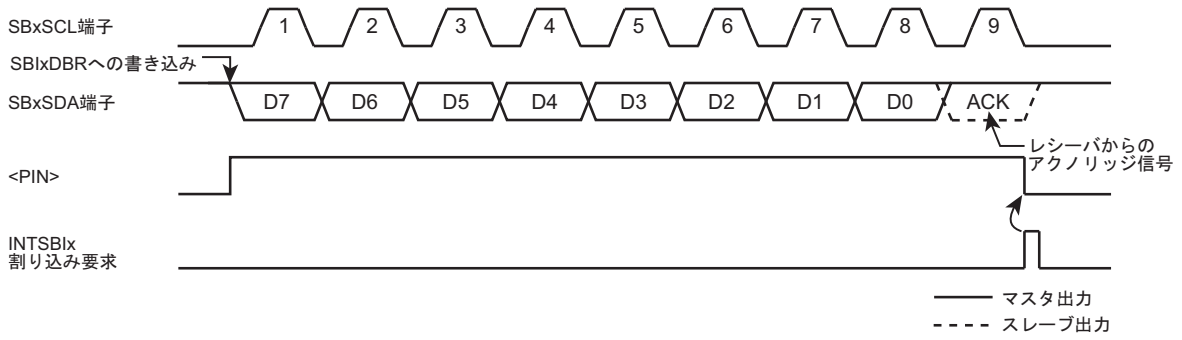


図 13-7 <BC[2:0]>="000",<ACK>="1"の場合（トランスミッタモード）

(b)　レシーバモードの場合(<TRX> = "0")

次に転送するデータのビット数が 8 ビットのときは SBIxDBR に転送データを書き込みます。8 ビット以外のときは<BC[2:0]>を設定し、SBxSCL 端子を解放するために SBIxDBR から受信データを読み出します(スレーブアドレス送信直後のリードデータは不定です)。

データを読み出すと<PIN>は"1"になり、次の 1 ワードデータ転送用の SCL クロックを SBxSCL 端子に出力します。最後のビットでアクノリッジ信号の"Low"レベルのタイミングで"0"を SBxSDA 端子に出力します。

その後、INTSBIx 割り込み要求が発生し、<PIN>が"0"になり SBxSCL 端子を"Low"レベルに引きます。SBIxDBR から受信データを読み出すたびに 1 ワードの転送クロックとアクノリッジを出力します。

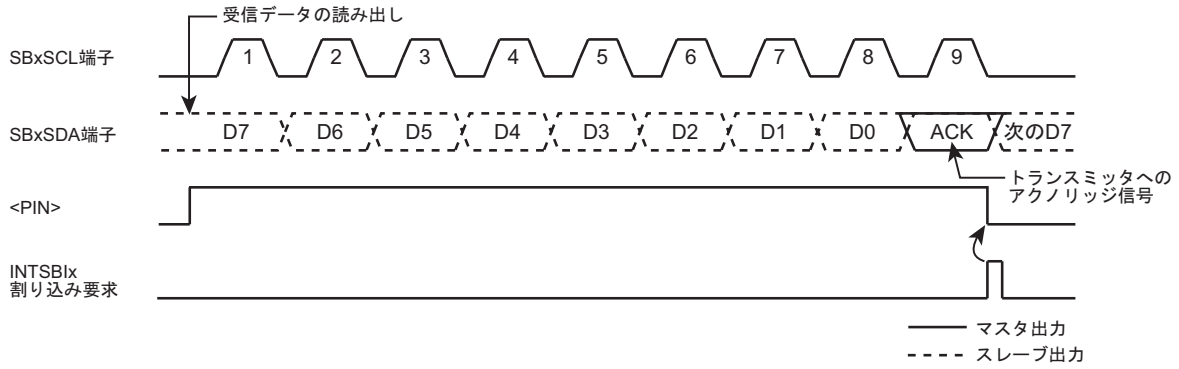


図 13-8 <BC[2:0]>="000",<ACK>="1"のときの例（レーシーバモード）

トランスミッタに対してデータの送信を終了させるときは、最後に受信したいデータの 1 ワード手前のデータを読み出す前に<ACK>を"0"にします。これにより、最終データのアクノリッジのためのクロックは発生されなくなります。転送終了の割り込み要求発生後の処理で、<BC[2:0]> = "001"に設定し、データを読み出すと、1 ビット転送のためのクロックを発生します。このときマスタはレシーバなのでバスの SDA ラインは"High"レベルを保ちます。トランスミッタは ACK 信号としてこの"High"レベルを受信するので、レシーバはトランスミッタへ送信終了を知らせることができます。

この 1 ビット転送の受信終了割り込み要求後の処理で、ストップコンディションを発生させ、データ転送を終了させます。

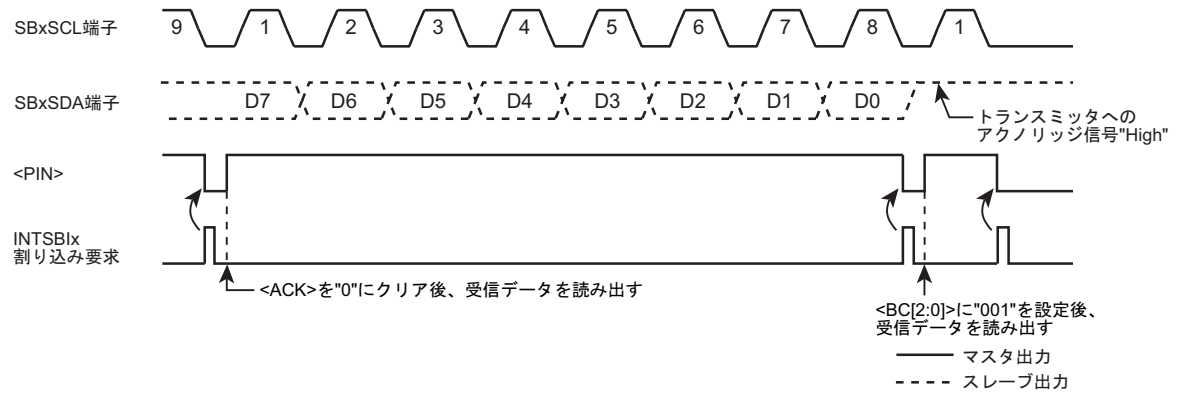


図 13-9 マスタレシーバモード時、データの送信を終了させるときの処理

例:データを N 回受信する場合

INTSBIx 割り込み(データ送信後)

		7	6	5	4	3	2	1	0	
SBIxCR1	←	X	X	X	X	0	X	X	X	受信データのビット数および ACK を設定します。
Reg.	←	SBIxDBR								ダミーデータを取り込みます。
割り込み終了										

INTSBIx 割り込み(データ受信 1~(N − 2)回目)

		7	6	5	4	3	2	1	0	
Reg.	←	SBIxDBR								1~(N − 2)回目のデータを取り込みます。
割り込み終了										

INTSBIx 割り込み(データ受信 (N − 1)回目)

		7	6	5	4	3	2	1	0	
SBIxCR1	←	X	X	X	0	0	X	X	X	アクノリッジ信号のクロックを発生しないようにします。
Reg.	←	SBIxDBR								(N − 1)回目のデータを取り込みます。
割り込み終了										

INTSBIx 割り込み(データ受信 N 回目)

		7	6	5	4	3	2	1	0	
SBIxCR1	←	0	0	1	0	0	X	X	X	1 ビット転送のためのクロックを発生します。
Reg.	←	SBIxDBR								N 回目のデータを取り込みます。
割り込み終了										

INTSBIx 割り込み(データ受信後)

ストップコンディションを発生する処理	データ転送を終了させます。
割り込み終了	

注) X; Don't care

(2) スレーブモードの場合(<MST> = "0")

スレーブモードのとき、マスタが送ったスレーブアドレス、またはゼネラルコールアドレスを受信したとき、もしくは、受信したスレーブアドレスが一致した後、またはゼネラルコールアドレスを受信した後のデータ転送終了時に INTSBIx 割り込み要求が発生します。また、マスタモードのとき、アービトレーションロストを検出するとスレーブモードとして動作し、アービトレーションロストを検出したワード転送の終了時に INTSBIx 割り込み要求が発生します。INTSBIx 割り込み要求が発生すると<PIN>が"0"にされ、SBxSCL 端子を"Low"レベルに引きます。SBIxDBR にデータを書き込む、SBIxDBR からデータを読み出す、または<PIN>に"1"を設定すると SBxSCL 端子が t_{LOW} 後に開放されます。

なお、ゼネラルコールのセカンドバイトは内容によりアクノリッジ信号の発生有無を制御する必要がありますので、ソフトウエアによりアクノリッジ信号の制御を行なってください。

スレーブモード時は、通常のスレーブモードとしての処理、またはアービトレーションロストを検出し、スレーブモードになったときの処理を行います。

SBIxSR<AL>, <TRX>, <AAS>, <AD0>をテストし、場合分けを行います。「表 13-1 スレーブモード時の処理」にスレーブモード時の状態と必要な処理を示します。

例: スレーブレシーバモード時スレーブアドレスが一致し、方向ビットが"1"の場合

INTSBIx 割り込み

```
if TRX = 0
Then その他処理へ移行
if AL = 0
Then その他処理へ移行
if AAS = 0
Then その他処理へ移行
SBIxCR1     ←  X  X  X  1  0  X  X  X     送信ビット数を設定します。
SBIxDBR     ←  X  X  X  X  X  X  X  X     送信データをセットします。
```

注)　X; Don't care

表 13-1 スレーブモード時の処理

<TRX>	<AL>	<AAS>	<AD0>	状態	処理
1	1	1	0	スレーブアドレス送信中にアービトレーションロストを検出し、他のマスタが送った方向ビットが"1"のスレーブアドレスを受信	1 ワードのビット数を<BC[2:0]>にセットし、送信するデータを SBIxDBR に書き込みます。
	0	1	0	スレーブレシーバモード時、マスタが送った方向ビットが"1"のスレーブアドレスを受信	
		0	0	スレーブトランスミッタモード時、1 ワードのデータの送信が終了	<LRB>をテストし、"1"にセットされていた場合、レシーバが次のデータを要求していないので<PIN>に"1"をセット、<TRX>を"0"にリセットしバスを開放します。<LRB>が"0"にリセットされていた場合、レシーバが次のデータを要求しているので 1 ワードのビット数を<BC[2:0]>にセットし、送信するデータを SBIxDBR に書き込みます。
0	1	1	1/0	スレーブアドレス送信中にアービトレーションロストを検出し、他のマスタが送った方向ビットが "0" のスレーブアドレス、またはゼネラルコールを受信	<PIN>を"1"にセットするために SBIxDBR を読み出します。(ダミー読み出し)または<PIN>に"1"を書き込みます。
		0	0	スレーブアドレスを送信中またはデータ送信中にアービトレーションロストを検出し、そのワードの転送が終了	
	0	1	1/0	スレーブレシーバモード時、マスタの送った方向ビットが "0" のスレーブアドレス、またはゼネラルコールを受信	
		0	1/0	スレーブレシーバモード時、1 ワードのデータの受信が終了	1 ワードのビット数を<BC[2:0]>にセットし、受信データを SBIxDBR から読み出します。

13.3.3.4　ストップコンディションの発生

SBIxSR<BB> = "1"のときに、SBIxCR2<MST>、<TRX>、<PIN> に"1" 、<BB>に"0"を書き込むとバス上にストップコンディション出力のシーケンスを開始します。バス上にストップコンディションが発生するまで、<MST>、<TRX>、<BB>、<PIN>の内容を書き替えないでください。

なお、バスの SCL ラインが他のデバイスにより引かれていた場合、SCL ラインが開放されてから、SBxSDA 端子が立ち上がり、ストップコンディションが発生します。

```
                    7   6   5   4   3   2   1   0
SBIxCR2      ←      1   1   0   1   1   0   0   0      ストップコンディションを発生させます。
```

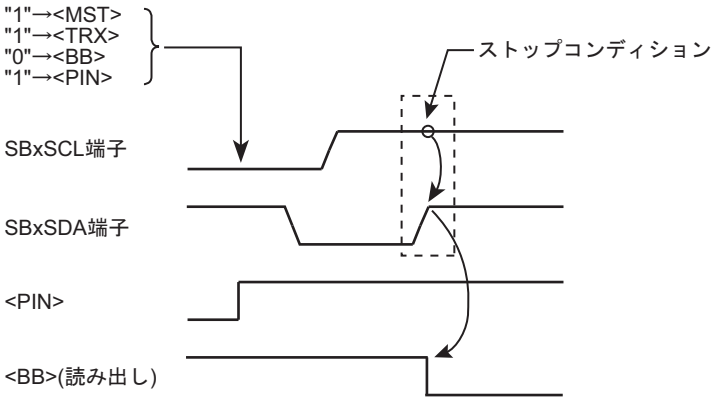


図 13-10 ストップコンディションの発生

13.3.3.5 再スタートの手順

再スタートはマスタデバイスがスレーブデバイスに対して、データ転送を終了させずに転送の方向を変化させるときに使用します。マスタモード時、再スタートを発生する場合の手順を以下に示します。

まず、SBIxCR2<MST>、<TRX>、<BB>に"0"、<PIN>に"1"を書き込み、バスを開放します。このとき SBxSDA 端子は"High"レベルを保ち、SBxSCL 端子が開放され、バス上にストップコンディションが発生されないため、他のデバイスからみるとバスはビジー状態のままです。このあと、SBIxSR<BB>をテストして"0"になるまで待ち、SBxSCL 端子が開放されたことを確認します。次に<LRB>をテストして"1"になるまで待ち、他のデバイスがバスの SCL ラインを"Low"レベルに引いていないことを確認します。以上の手順によってバスがフリー状態になっていることを確認した後に前記「13.3.3.2 スタートコンディション, スレーブアドレスの発生」の手順で、スタートコンディションの発生を行います。

なお、再スタート時のセットアップタイムを満たすために、バスフリーの確認からスタートの発生まで最低 4.7 μs (標準モード時)のソフトウエアによる待ち時間が必要です。

注 1) <MST> = "0"の状態の時に<MST> = "0"をライトしないでください(再スタートできません)。

注 2) マスタデバイスがレシーバのとき、再スタートを発生させる前にトランスミッタとなっているスレーブデバイスからのデータ送信を終了させる必要があります。データ送信を終了させるために、"High"レベルのアクノリッジ信号をスレーブデバイスに受信させます。このため、再スタート発生前の<LBR>は"1"となり、再スタートの手順で<LBR>="1"であることを確認しても、SCL ラインの立ち上がりを確認できません。SCL ラインの状態を確認するにはポートを読み出してください。

```
                    7   6   5   4   3   2   1   0
SBIxCR2      ←      0   0   0   1   1   0   0   0      バスを開放します。
if SBIxSR<BB> ≠ 0                                    SBxSCL 端子の開放を確認します。
Then
if SBIxSR<LRB> ≠ 1                                   他のデバイスの SBxSCL 端子"Low"レベルの確認を行います。
Then
4.7 μs Wait
SBIxCR1      ←      X   X   X   1   0   X   X   X      アクノリッジメントモードに設定します。
```

SBIxDBR	←	X	X	X	X	X	X	X	X	目的のスレーブのスレーブアドレスと方向をセットします。
SBIxCR2	←	1	1	1	1	1	0	0	0	スタートコンディションの発生を行います。

注)　X; Don't care

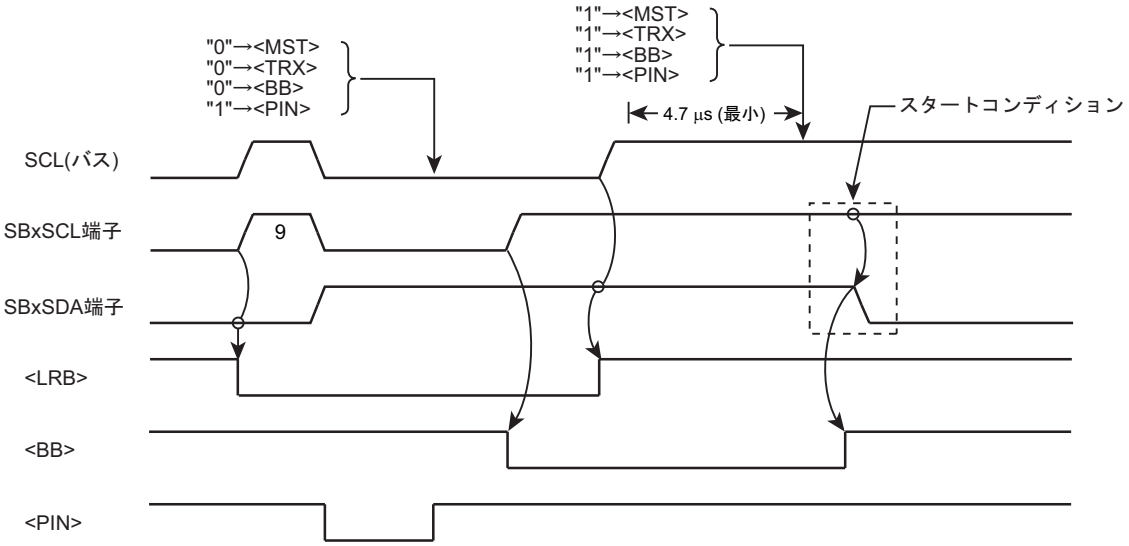
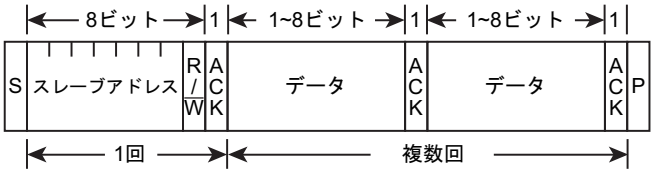


図 13-11 再スタートを発生する場合のタイミングチャート

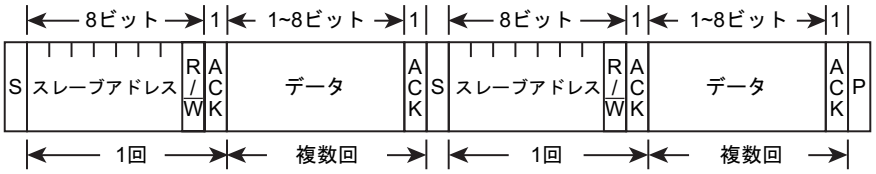
13.3.4 データフォーマット

I2C バスモード時のデータフォーマットを図 13-12 に示します。

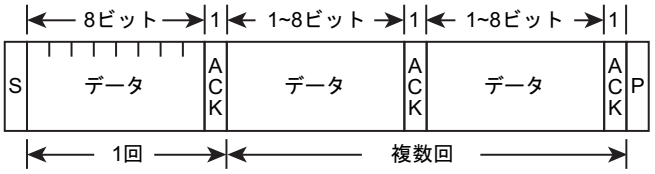
(a) アドレッシングフォーマット



(b) アドレッシングフォーマット (再スタートあり)



(c) フリーデータフォーマット (マスタデバイスからスレーブデバイスへデータを転送する転送フォーマット)



注) S : スタートコンディション
R/W : 方向ビット
ACK : アクノリッジビット
P : ストップコンディション

図 13-12 I2C バスモード時のデータフォーマット

13.3.5 マルチマスタで使用する際の注意点

マルチマスタで使用している際に通信がロックした場合に備え、ソフトウエアによるリカバリ対策を用意願います。

リカバリ処理例

1. 送信開始と共にタイムアウト検知用のタイマカウントを開始
2. 一定時間内にシリアルインタフェース割り込み（INTSBIx）が発生せず、タイムアウトとなった場合、通信がロックしたと判断
3. シリアルバスインタフェースのソフトウエアリセットを実行し通信ロックを解除
4. 送信タイミングの調整処理 (注)
5. 送信データを再送信

注) 再送信タイミングが重ならないよう、デバイス毎に送信タイミングを調整してください。

13.4　SIO モード

13.4.1　SIO モード時のコントロールレジスタ

シリアルバスインタフェースをクロック同期式 8 ビット SIO モードで使用するときの制御、および動作状態のモニタは、以下のレジスタで行います。

13.4.1.1　SBIxCR0(コントロールレジスタ 0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	SBIEN	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	SBIEN	R/W	シリアルバスインタフェース動作 0: 禁止 1: 許可 シリアルバスインタフェースを使用する場合、まずこのビットを許可にしてください。 禁止の場合、SBIxCR0 を除くすべてのクロックが停止しますので消費電力の低減が可能です。 いったん許可した後に禁止にした場合、各レジスタの設定は保持されます。
6-0	-	R	リードすると"0"が読めます。

13.4.1.2 SBIxCR1(コントロールレジスタ 1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	SIOS	SIOINH	SIOM		-	SCK		
リセット後	0	0	0	0	1	0	0	0(注 1)

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	SIOS	R/W	転送の開始/終了 0: 終了 1: 開始
6	SIOINH	R/W	転送の強制停止 0: 転送継続 1: 強制停止
5-4	SIOM[1:0]	R/W	転送モードの設定 00: 送信モード 01: Reserved 10: 送受信モード 11: 受信モード
3	-	R	リードすると"1"が読めます。
2-0	SCK[2:0]	R/W	シリアルクロックの周波数選択<SCK[2:0]>@ライト(注 1)

000	n = 3	システムクロック: fsys クロックギア: fc/1 周波数 = $\frac{fsys/2}{2^n}$ [Hz]
001	n = 4	
010	n = 5	
011	n = 6	
100	n = 7	
101	n = 8	
110	n = 9	
111	–	外部クロック

注 1) <SCK[0]>ビットは、リセット後"1"が読み出されますが、SBIxCR2 レジスタにて SIO モードに設定後は"0"が初期値として読み出されます。ここでは初期状態で SIO モードに設定した後の値を「リセット後」欄に示します。なお、SBIxCR2 レジスタ、SBIxSR レジスタでも同様な記載をしています。

注 2) 転送モード、シリアルクロックの設定時は、<SIOS> = "0"、および、<SIOINH> = "1"に設定してください。

13.4.1.3　SBIxDBR(データバッファレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	DB							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7-0	DB[7:0]	R	受信データ
		W	送信データ

注 1)　送信データを書き込み時には、データを MSB(ビット 7)側につめてライトしてください。また、受信データは LSB 側に格納されます。

注 2)　SBIxDBR は書き込み用のバッファと読み出し用のバッファを個別に持っているため、書き込んだデータを読み出すことはできません。したがって、ビット操作などのリードモディファイライト命令は使用できません。

13.4.1.4 SBIxCR2(コントロールレジスタ 2)

このレジスタをリードすると、SBIxSR レジスタとして機能します。

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	SBIM		-	-
リセット後	1(注 1)	1(注 1)	1(注 1)	1(注 1)	0	0	1(注 1)	1(注 1)

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7-4	-	R	リードすると"1"が読めます。(注 1)
3-2	SBIM[1:0]	W	シリアルバスインタフェースの動作モード選択(注 2) 00:ポートモード 01: SIO モード 10: I2C バスモード 11: Reserved
1-0	-	R	リードすると"1"が読めます。(注 1)

注 1) ここでは SIO モードに設定後の初期値を「リセット後」欄に示します。
注 2) 通信中はモードを切り替えないでください。

13.4.1.5　SBIxSR(ステータスレジスタ)

このレジスタをライトすると、SBIxCR2 として機能します。

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	SIOF	SEF	-	-
リセット後	1(注 1)	1(注 1)	1(注 1)	1(注 1)	0	0	1(注 1)	1(注 1)

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7-4	-	R	リードすると"1"が読めます。(注 1)
3	SIOF	R	シリアル転送動作状態モニタ 0: 転送終了 1: 転送中
2	SEF	R	シフト動作状態モニタ 0: シフト動作終了 1: シフト転送中
1-0	-	R	リードすると"1"が読めます。(注 1)

注)　ここでは SIO モードに設定後の初期値を「リセット後」欄に示します。

13.4.1.6 SBIxBR0(ボーレートレジスタ 0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	I2SBI	-	-	-	-	-	-
リセット後	1	0	1	1	1	1	1	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	-	R	リードすると"1"が読めます。
6	I2SBI	R/W	IDLE モード時の動作 0: 停止 1: 動作
5-1	-	R	リードすると"1"が読めます。
0	-	R/W	必ず"0"をライトしてください。

13.4.2　制御

13.4.2.1　シリアルクロック

(1)　クロックソース

SBIxCR1 <SCK[2:0]> により、次の選択ができます。

(a)　内部クロック

内部クロックモードでは 7 種類の周波数が選択できます。シリアルクロックは SBxSCK 端子より外部に出力されます。なお、転送開始時 SBxSCK 端子出力は"High"レベルになります。

プログラムでデータの書き込み(送信時)またはデータの読み出し(受信時)がこのシリアルクロックレートに追随できないときには、自動的にシリアルクロックを停止し、それらの処理が終了するまで次のシフト動作を待機させる自動ウェイト機能を有しています。

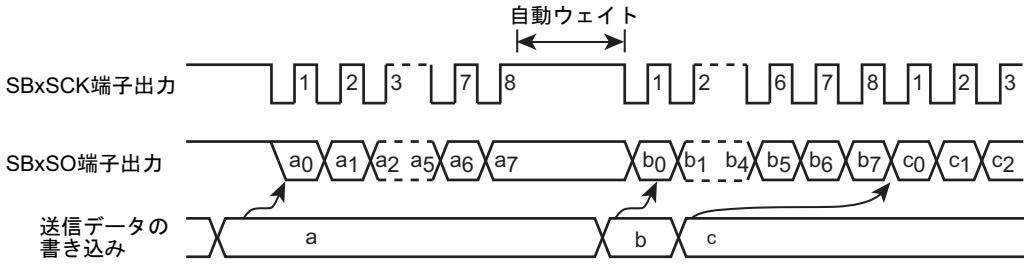
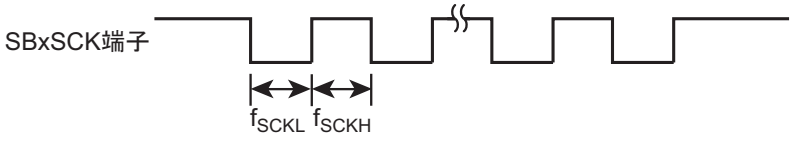


図 13-13 自動ウェイト機能

(b)　外部クロック(<SCK[2:0]> = "111")

外部から SBxSCK 端子に供給されるクロックをシリアルクロックとして用います。なお、シフト動作を確実に行うためには、シリアルクロックの"High"レベル、"Low"レベル幅は下記に示すパルス幅が必要です。



f_{SCKL}, f_{SCKH} > 4/fsys

図 13-14 外部クロック入力時の最大転送周波数

(2) シフトエッジ

送信は前縁シフト、受信は後縁シフトになります。

- 前縁シフト

  シリアルクロックの前縁(SBxSCK 端子入出力の立ち下がりエッジ)でデータをシフトします。

- 後縁シフト

  シリアルクロックの後縁(SBxSCK 端子入出力の立ち上がりエッジ)でデータをシフトします。

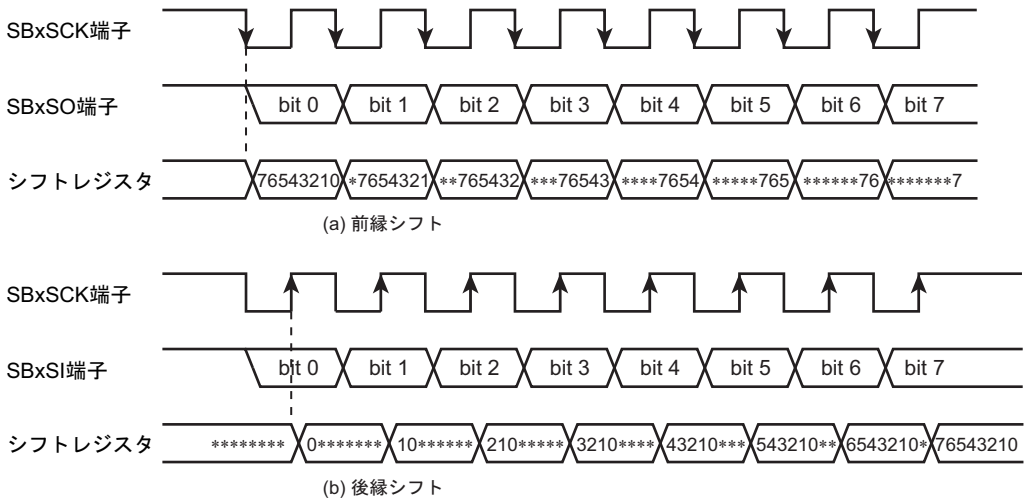


図 13-15 シフトエッジ

13.4.2.2　転送モード

SBIxCR1<SIOM[1:0]>で、送信/受信/送受信モードを選択します。

(1)　8 ビット送信モード

コントロールレジスタに送信モードをセットした後、送信データを SBIxDBR に書き込みます。

送信データの書き込み後、SBIxCR1<SIOS> = "1"を書き込むことにより送信が開始されます。送信データは、SBIxDBR からシフトレジスタに移され、シリアルクロックに同期して最下位ビット(LSB)側から SBxSO 端子に出力されます。送信データがシフトレジスタに移されると、SBIxDBR が空になりますので、 次の送信データを要求する INTSBIx(バッファエンプティ)割り込み要求が発生します。

内部クロック動作の場合、8 ビットのデータをすべて送信したあと、次のデータがセットされていないとシリアルクロックを停止して自動ウェイト動作を行います。次の送信データを書き込むと自動ウェイト動作は解除されます。

外部クロック動作の場合、次のデータのシフト動作に入る前に、SBIxDBR にデータが書き込まれている必要があります。したがって、転送速度は割り込み要求の発生から割り込みサービスプログラムにて、SBIxDBR にデータを書き込むまでの最大遅れ時間により決まります。

送信開始時、SBIxSR<SIOF>が"1"となってから SBxSCK 端子の立ち下がりエッジまでの間、前回送信したデータの最後のビットと同じ値が出力されます。

送信を終了させるには、INTSBIx 割り込みサービスプログラムで<SIOS> = "0"を書き込むか<SIOINH> = "1"を書き込みます。<SIOS>がクリアされると、データがすべて出力された時点で送信終了します。プログラムで送信の終了の確認は SBIxSR<SIOF>で行います。<SIOF>は送信の終了で"0"になります。<SIOINH> = "1"を書き込んだ場合はただちに送信を打ち切り、<SIOF>は"0"になります。

外部クロック動作では、次の送信データのシフト動作に入る前に<SIOS>を"0"にクリアする必要があります。もしシフトアウトする前に<SIOS>が"0"にクリアされなかった場合は、ダミーのデータの送信後、停止します。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
SBIxCR1	←	0	1	0	0	0	X	X	X	送信モードをセットします。
SBIxDBR	←	X	X	X	X	X	X	X	X	送信データを書き込みます。
SBIxCR1	←	1	0	0	0	0	X	X	X	送信を開始します。

INTSBIx 割り込み

SBIxDBR	←	X	X	X	X	X	X	X	X	送信データを書き込みます。

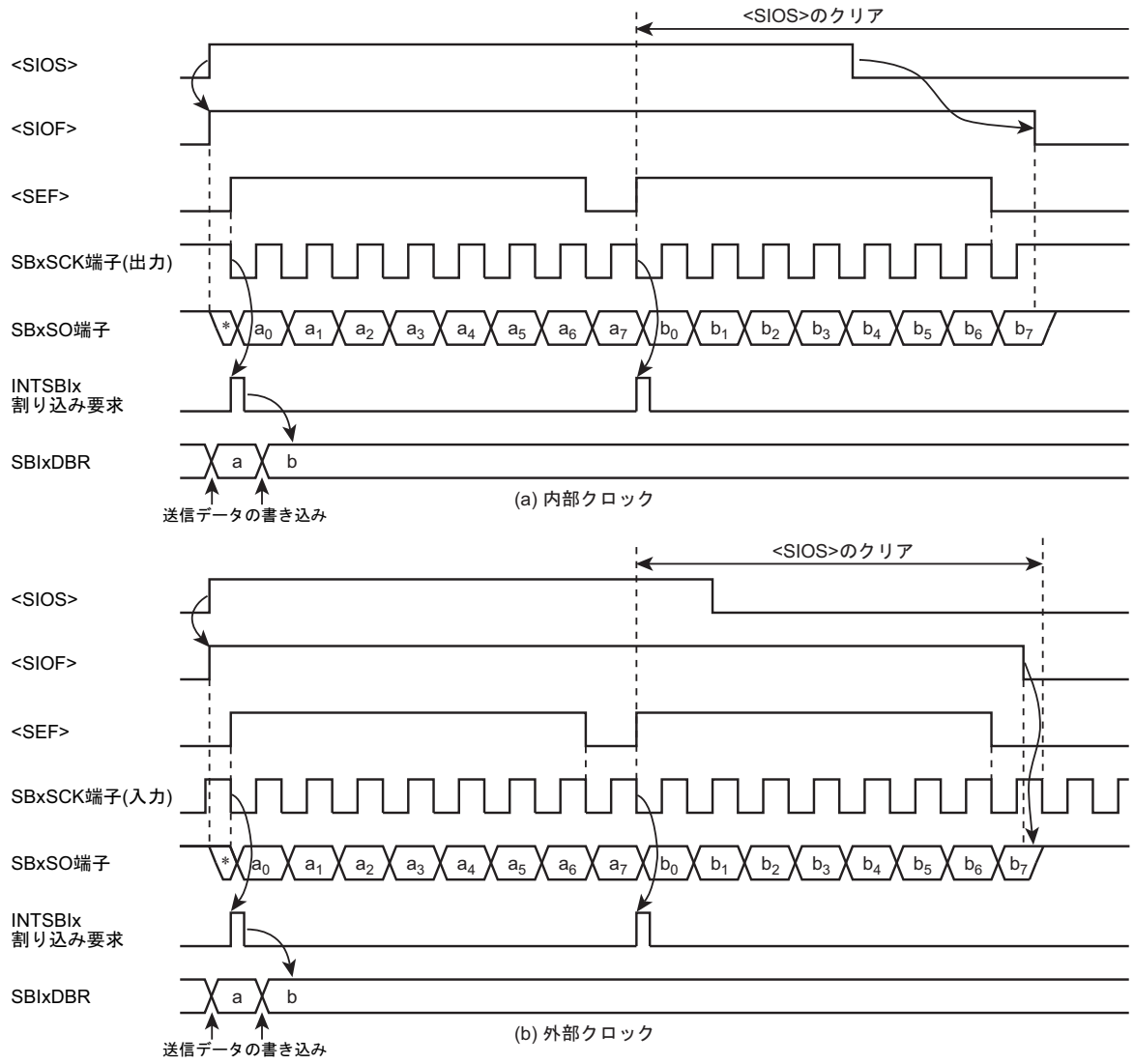


図 13-16 送信モード

例: <SIO> の送信終了指示(外部クロックの場合)のプログラム例

```
                    7  6  5  4  3  2  1  0
if SBIxSR<SIOF> ≠ 0                          転送の終了を確認します。
Then
if SCK ≠ 1                                   ポートをモニタし、SBxSCK 端子が"1"になったことを確
                                             認します。
Then
SBIxCR1      ←      0  0  0  0  0  1  1  1   <SIOS> = 0 を設定し送信を終了します。
```

(2)　8 ビット受信モード

コントロールレジスタに受信モードをセットした後、SBIxCR1<SIOS> = "1" を書き込むことにより受信可能となります。シリアルクロックに同期して、SBxSI 端子より最下位ビット側からシフトレジスタへデータを取り込みます。8 ビットのデータが取り込まれるとシフトレジスタから SBIxDBR に受信データが書き込まれ、受信データの読み出しを要求する INTSBIx (バッファフル)割り込み要求が発生します。受信データは、割り込みサービスプログラムにて SBIxDBR から読み出します。

内部クロック動作の場合、受信データが SBIxDBR から読み出されるまでシリアルクロックを停止する自動ウェイト動作を行います。

外部クロック動作の場合は、シフト動作が外部から供給されるクロックに同期します。外部クロック動作での最大転送速度は、割り込み要求の発生から受信データの読み出しまでの最大遅れ時間により決まります。

受信を終了させるには INTSBIx 割り込みサービスプログラムで<SIOS> = "0"を書き込むか、 <SIOINH> = "1"を書き込みます。<SIOS>がクリアされると、受信データが全ビット揃い、SBIxDBR への書き込みが完了した時点で受信が終了します。プログラムで受信の終了の確認は、SBIxSR<SIOF>で行います。<SIOF>は受信の終了で"0"にされます。 受信終了の確認のあと最終受信データを読み出します。<SIOINH> = "1" を書き込んだ場合は、ただちに受信を打ち切り、<SIOF>は"0"になります (受信データは無効になりますので読み出す必要はありません)。

注)　転送モードを切り替えると SBIxDBR の内容は保持されません。もし、転送モードの切り替えが必要な場合は、受信終了指示(<SIOS> = "0"を書き込む)を行い、最終受信データを読み出したあとで切り替えてください。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
SBIxCR1	←	0	1	1	1	0	X	X	X	受信モードをセットします。
SBIxCR1	←	1	0	1	1	0	X	X	X	受信を開始します。

INTSBIx 割り込み

Reg.	←	SBIxDBR	受信データを取り込みます。

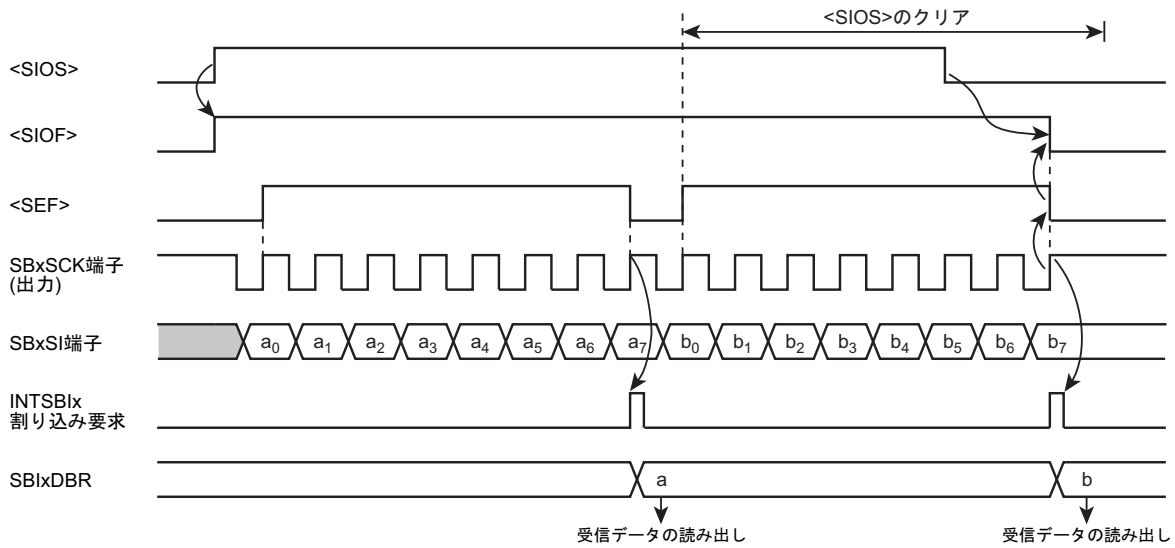


図 13-17 受信モード(例: 内部クロック)

(3)　8 ビット送受信モード

コントロールレジスタに送受信モードをセットした後、送信データを SBIxDBR に書き込みます。その後、SBIxCR1<SIOS>に"1"をセットすることにより送受信可能となります。最下位ビットから、シリアルクロックの立ち下がりで送信データが SBxSO 端子から出力され、立ち上がりで受信データが SBxSI 端子から取り込まれます。8 ビットのデータが取り込まれると、シフトレジスタから SBIxDBR へ受信データが転送され、INTSBIx 割り込み要求が発生します。割り込みサービスプログラムにて受信データをデータバッファレジスタから読み出し、そのあと送信データを書き込みます。SBIxDBR は、送信/受信モードで兼用していますので、送信データは、必ず受信データを読み出してから書き込むようにしてください。

内部クロック動作の場合、受信データを読み出し、次の送信データを書き込むまで自動ウェイト動作を行います。

外部クロック動作の場合は、シフト動作が外部から供給されるシリアルクロックに同期するので、次のシフト動作に入る前に受信データを読み出し、次の送信データを書き込む必要があります。外部クロック動作での最大転送速度は、割り込み要求の発生から受信データを読み出し、送信データを書き込むまでの最大遅れ時間により決まります。

送信開始時、<SIOF>が"1"となってから SBxSCK 端子の立ち下がりエッジまでの間、前回送信したデータの最後のビットと同じ値が出力されます。

送受信を終了させるには、INTSBIx 割り込みサービスプログラムで<SIOS> = "0"を書き込むか SBIxCR1 <SIOINH> = "1"を書き込みます。<SIOS>が"0"にクリアされると、受信データが揃い、SBIxDBR への転送が完了した時点で送受信が終了します。プログラムで送受信の終了の確認は、SBIxSR<SIOF>で行います。<SIOF>は送受信の終了で"0"にクリアされます。<SIOINH>を"1"にセットした場合は、ただちに送受信を打ち切り、<SIOF>は"0"にされます。

注)　転送モードを切り替えると SBIxDBR の内容は保持されません。もし、転送モードの切り替えが必要な場合は、送受信終了指示(<SIOS> = "0"を書き込む)を行い、最終受信データを読み出したあとで切り替えてください。

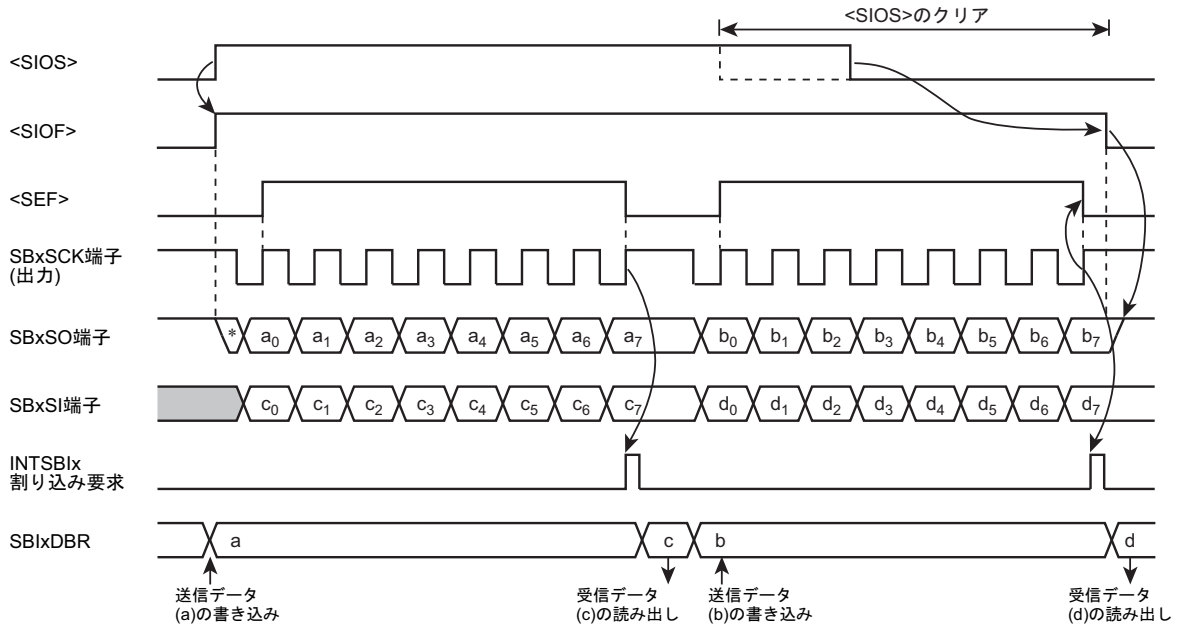


図 13-18 送受信モード(例: 内部クロック)

		7	6	5	4	3	2	1	0	
SBIxCR1	←	0	1	1	0	0	X	X	X	送受信モードをセットします。
SBIxDBR	←	X	X	X	X	X	X	X	X	送信データを書き込みます。
SBIxCR1	←	1	0	1	0	0	X	X	X	送受信を開始します。

INTSBIx 割り込み

Reg.	←	SBIxDBR								受信データを取り込みます。
SBIxDBR	←	X	X	X	X	X	X	X	X	送信データを書き込みます。

(4) 送信終了時の最終ビット保持時間

SBIxCR1<SIOS>="0"の状態では、送信データの最終ビットの SBxSCK 端子の立ち上がりに対するデータ保持時間は以下のようになります。送信モード、送受信モードとも同様です。

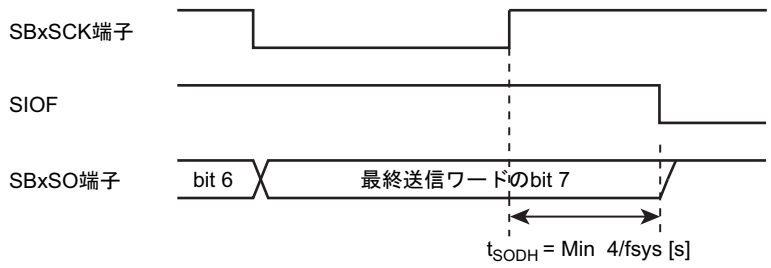


図 13-19 送信終了時の最終ビット保持時間

第 14 章　12 ビットアナログ/デジタルコンバータ

14.1　機能と特徴

1. PMD やタイマからのトリガ信号に同期して任意のアナログ入力を変換することができます。
2. ソフトウエア起動、常時起動において任意のアナログ入力を変換する事ができます。
3. AD 変換値レジスタが 12 個あります。
4. トリガ起動によるプログラム終了時に割り込みを発生できます。
5. ソフトウエア起動によるプログラム終了時に割り込みを発生できます。
6. AD 監視機能があります。有効時に比較条件と一致した場合は割り込みを発生します。

14.2　ブロック図

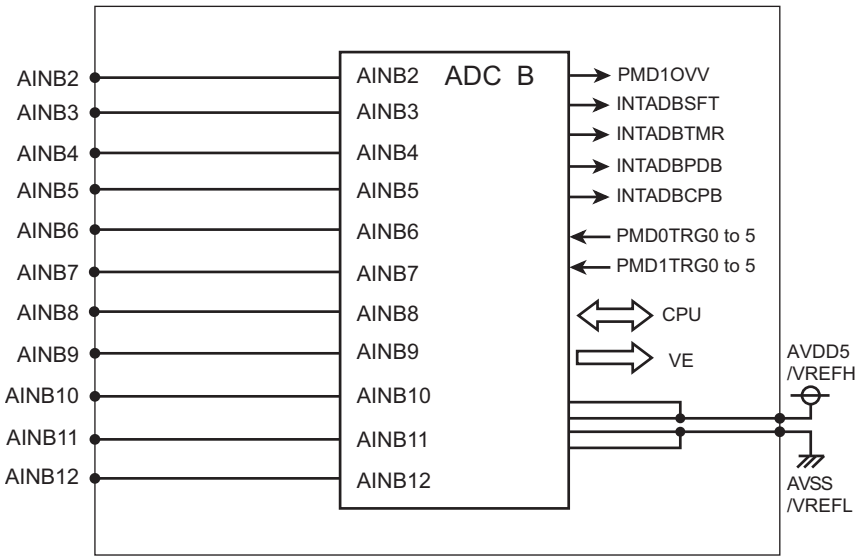


図 14-1 AD コンバータブロック図

14.3　レジスター覧

制御レジスタとアドレスは以下の通りです。

ベースアドレスは、「メモリマップ」章の「周辺機能ベースアドレス一覧」を参照ください。

レジスタ名		Address(Base+)
クロック設定レジスタ	ADBCLK	0x0000
モード設定レジスタ 0	ADBMOD0	0x0004
モード設定レジスタ 1	ADBMOD1	0x0008
モード設定レジスタ 2	ADBMOD2	0x000C
監視割り込み設定レジスタ 0	ADBCMPCR0	0x0010
監視割り込み設定レジスタ 1	ADBCMPCR1	0x0014
変換結果比較レジスタ 0	ADBCMP0	0x0018
変換結果比較レジスタ 1	ADBCMP1	0x001C
変換結果格納レジスタ 0	ADBREG0	0x0020
変換結果格納レジスタ 1	ADBREG1	0x0024
変換結果格納レジスタ 2	ADBREG2	0x0028
変換結果格納レジスタ 3	ADBREG3	0x002C
変換結果格納レジスタ 4	ADBREG4	0x0030
変換結果格納レジスタ 5	ADBREG5	0x0034
変換結果格納レジスタ 6	ADBREG6	0x0038
変換結果格納レジスタ 7	ADBREG7	0x003C
変換結果格納レジスタ 8	ADBREG8	0x0040
変換結果格納レジスタ 9	ADBREG9	0x0044
変換結果格納レジスタ 10	ADBREG10	0x0048
変換結果格納レジスタ 11	ADBREG11	0x004C
PMD トリガ用プログラム番号選択レジスタ 6	ADBPSEL6	0x0068
PMD トリガ用プログラム番号選択レジスタ 7	ADBPSEL7	0x006C
PMD トリガ用プログラム番号選択レジスタ 8	ADBPSEL8	0x0070
PMD トリガ用プログラム番号選択レジスタ 9	ADBPSEL9	0x0074
PMD トリガ用プログラム番号選択レジスタ 10	ADBPSEL10	0x0078
PMD トリガ用プログラム番号選択レジスタ 11	ADBPSEL11	0x007C
PMD トリガ用割り込み選択レジスタ 0	ADBPINTS0	0x0080
PMD トリガ用割り込み選択レジスタ 1	ADBPINTS1	0x0084
PMD トリガ用割り込み選択レジスタ 2	ADBPINTS2	0x0088
PMD トリガ用割り込み選択レジスタ 3	ADBPINTS3	0x008C
PMD トリガ用割り込み選択レジスタ 4	ADBPINTS4	0x0090
PMD トリガ用割り込み選択レジスタ 5	ADBPINTS5	0x0094
PMD トリガ用プログラム選択レジスタ 0	ADBPSET0	0x0098
PMD トリガ用プログラム選択レジスタ 1	ADBPSET1	0x009C
PMD トリガ用プログラム選択レジスタ 2	ADBPSET2	0x00A0
PMD トリガ用プログラム選択レジスタ 3	ADBPSET3	0x00A4
PMD トリガ用プログラム選択レジスタ 4	ADBPSET4	0x00A8
PMD トリガ用プログラム選択レジスタ 5	ADBPSET5	0x00AC
タイマトリガ用プログラムレジスタ 0 ~ 3	ADBTSET03	0x00B0
タイマトリガ用プログラムレジスタ 4 ~ 7	ADBTSET47	0x00B4
タイマトリガ用プログラムレジスタ 8 ~ 11	ADBTSET811	0x00B8
ソフトウエア トリガ用プログラムレジスタ 0 ~ 3	ADBSSET03	0x00BC

レジスタ名		Address(Base+)
ソフトウエア トリガ用プログラムレジスタ 4 ~ 7	ADBSSET47	0x00C0
ソフトウエア トリガ用プログラムレジスタ 8 ~ 11	ADBSSET811	0x00C4
常時変換用プログラムレジスタ 0 ~ 3	ADBASET03	0x00C8
常時変換用プログラムレジスタ 4 ~ 7	ADBASET47	0x00CC
常時変換用プログラムレジスタ 8 ~ 11	ADBASET811	0x00D0
モード設定レジスタ 3	ADBMOD3	0x00D4

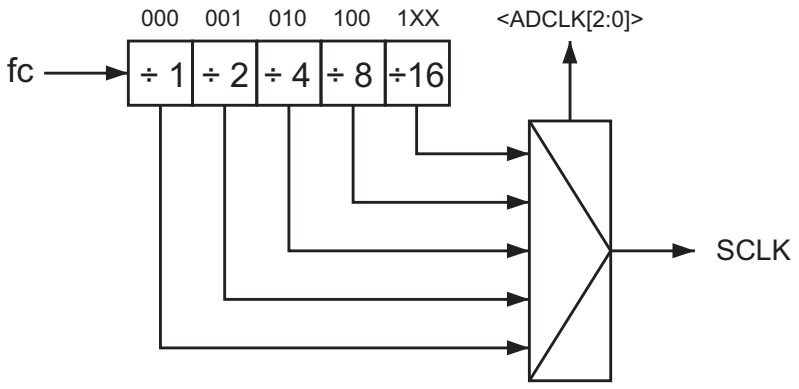
14.4　レジスタ詳細

AD 変換は AD コンバータクロック設定レジスタによって選択されたクロックで実行されます。

14.4.1　ADBCLK (変換クロック設定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	TSH				ADCLK		
リセット後	0	1	0	0	1	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-7	−	R	リードすると"0"が読めます。
6-3	TSH[3:0]	R/W	"1001"をライトしてください。
2-0	ADCLK[2:0]	R/W	AD 変換クロック(SCLK)選択 000: fc (注 1) 001: fc/2 010: fc/4 011: fc/8 1xx: fc/16



注 1)　SCLK は最大 40MHz です。

注 2)　AD 変換は上記レジスタで選択されたクロックで実行されますが、保証精度を満足する様に変換クロックを選択する必要があります。

注 3)　AD 変換中に、AD 変換クロック設定を変更しないで下さい。

14.4.2 ADBMOD0 (モード設定レジスタ 0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	DACON	ADSS
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	−	R	リードすると"0"が読めます。
1	DACON	R/W	DAC 制御 0: OFF 1: ON AD コンバータを使用する時には必ず<DACON>を"1"にセットしてください。
0	ADSS	W	ソフトウエア変換スタート 0: Don't care 1: 変換開始 ADBMOD1<ADEN>を"1"にセットして変換を許可し、<ADSS>を"1"にセットすると AD 変換を開始します。また、PMD トリガ，タイマ割り込み入力でも AD 変換を開始します。PMD トリガのタイミング設定，タイマ割り込みの設定はそれぞれ PMD,タイマの説明をご参照ください。

14.4.3　ADBMOD1 (モード設定レジスタ 1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADEN	-	-	-	-	-	-	ADAS
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7	ADEN	R/W	AD 変換許可/禁止 0: 禁止 1: 許可 <ADEN>のセットで AD を変換許可します。この状態の時に<ADAS>の常時 AD 変換許可のセットで AD 変換を開始します。
6-1	−	R	リードすると"0"が読めます。
0	ADAS	R/W	常時 AD 変換許可 0: 変換禁止 1: 変換許可

14.4.4 ADBMOD2 (モード設定レジスタ 2)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	ADSFN	ADBFN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	−	R	リードすると"0"が読めます。
1	ADSFN	R	ソフトウエア変換フラグ 0: 終了 1: ソフト変換中
0	ADBFN	R	AD 変換 BUSY フラグ 0: 変換停止 1: 変換中 <ADBFN>は AD 変換 Busy フラグで、変換要因(PMD,タイマ,ソフトウエア,常時)に関係なく変換が開始されると、"1"にセットされ、変換が終了するとフラグが"0"にクリアされます。

14.4.5　ADBMOD3 (モード設定レジスタ 3)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	RCUT
リセット後	0	0	0	0	0	1	0	1
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	PMODE			-	-	-
リセット後	0	1	1	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます。
15-11	−	R/W	"0"をライトしてください。
10	−	R/W	"1"をライトしてください。
9	−	R/W	"0"をライトしてください。
8	RCUT	R/W	ADC 動作制御 2 0: 動作 1: 停止 ADC 使用時は"0" を書いてください。ADC 停止時"1" に設定する事で消費電流を削減できます。
7	−	R/W	"0"をライトしてください。
6	−	R/W	"1"をライトしてください。
5-3	PMODE[2:0]	R/W	"100"をライトしてください。
2-0	−	R/W	"0"をライトしてください。

注)　ADBMOD3<PMODE[2:0]>は必ず"100"に設定してください。その他の bit は初期値の値を変更しないでください。

14.4.6 ADBCMPCR0(監視割り込み設定レジスタ 0)

判定が確定すると割り込み(INTADBCPn)を発生します。(n=A, B、 A:監視 0、B:監視 1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	CMPCNT0			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	CMP0EN	-	-	ADBIG0	REGS0			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-12	-	R	リードすると"0"が読めます。
11-8	CMPCNT0[3:0]	R/W	判定確定するまでの比較回数を設定 0: 毎回有効 1: 2 回以上有効 ・ ・ 15: 16 回以上有効
7	CMP0EN	R/W	AD 監視機能 0:禁止 1:許可
6-5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4	ADBIG0	R/W	大小判定設定 0:比較 REG より大 1:比較 REG より小
3-0	REGS0[3:0]	R/W	比較する AD 変換結果格納レジスタ 0000: ADBREG0 / 0001: ADBREG1 / 0010: ADBREG2 / 0011: ADBREG3 0100: ADBREG4 / 0101: ADBREG5 / 0110: ADBREG6 / 0111: ADBREG7 1000: ADBREG8 / 1001: ADBREG9 / 1010: ADBREG10 / 1011: ADBREG11

14.4.7　ADBCMPCR1(監視割り込み設定レジスタ 1)

判定が確定すると割り込み(INTADBCPn)を発生します。(n=A, B、 A:監視 0、B:監視 1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	CMPCNT1			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	CMP1EN	-	-	ADBIG1	REGS1			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-12	-	R	リードすると"0"が読めます。
11-8	CMPCNT1[3:0]	R/W	判定確定するまでの比較回数を設定 0: 毎回有効 1: 2 回以上有効 ・ ・ 15: 16 回以上有効
7	CMP1EN	R/W	AD 監視機能 0:禁止 1:許可
6-5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4	ADBIG1	R/W	大小判定設定 0:比較 REG より大 1:比較 REG より小
3-0	REGS1[3:0]	R/W	比較する AD 変換結果格納レジスタ 0000: ADBREG0　0100: ADBREG4　1000: ADBREG8 0001: ADBREG1　0101: ADBREG5　1001: ADBREG9 0010: ADBREG2　0110: ADBREG6　1010: ADBREG10 0011: ADBREG3　0111: ADBREG7　1011: ADBREG11

14.4.8 ADBCMP0(変換結果比較レジスタ 0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	AD0CMP0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	AD0CMP0				-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15-4	AD0CMP0[11:0]	R/W	AD 変換結果比較値格納 AD 変換結果と比較する値を設定します。
3-0	-	R	リードすると"0"が読めます。

14.4.9 ADBCMP1(変換結果比較レジスタ 1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	AD0CMP1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	AD0CMP1				-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	-	R	リードすると"0"が読めます。
15-4	AD0CMP1[11:0]	R/W	AD 変換結果比較値格納 AD 変換結果と比較する値を設定します。
3-0	-	R	リードすると"0"が読めます。

14.4.10　ADBREG0(変換結果格納レジスタ 0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR00							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR00				-	-	OVR0	ADR0RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	-	R	リードすると"0"が読めます
15-4	ADR00[11:0]	R	AD 変換結果値格納
3-2	-	R	リードすると"0"が読めます
1	OVR0	R	Over Run フラグ 0：発生なし 1：発生あり ADBREG0 レジスタを読み出す前に AD 変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG0 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR0RF	R	AD 変換結果格納フラグ 0：変換結果なし 1：変換結果あり AD 変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG0 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。

14.4.11 ADBREG1(変換結果格納レジスタ 1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR10							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR10				-	-	OVR1	ADR1RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	-	R	リードすると"0"が読めます
15-4	ADR10[11:0]	R	AD 変換結果値格納
3-2	-	R	リードすると"0"が読めます
1	OVR1	R	Over Run フラグ 0：発生なし 1：発生あり ADBREG1 レジスタを読み出す前に AD 変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG1 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR1RF	R	AD 変換結果格納フラグ 0：変換結果なし 1：変換結果あり AD 変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG1 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。

14.4.12　ADBREG2(変換結果格納レジスタ 2)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR20							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR20				-	-	OVR2	ADR2RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	-	R	リードすると"0"が読めます
15-4	ADR20[11:0]	R	AD 変換結果値格納
3-2	-	R	リードすると"0"が読めます
1	OVR2	R	Over Run フラグ 0：発生なし 1：発生あり ADBREG2 レジスタを読み出す前に AD 変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG2 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR2RF	R	AD 変換結果格納フラグ 0：変換結果なし 1：変換結果あり AD 変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG2 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。

14.4.13 ADBREG3(変換結果格納レジスタ 3)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR30							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR30				-	-	OVR3	ADR3RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	-	R	リードすると"0"が読めます
15-4	ADR30[11:0]	R	AD 変換結果値格納
3-2	-	R	リードすると"0"が読めます
1	OVR3	R	Over Run フラグ 0：発生なし 1：発生あり ADBREG3 レジスタを読み出す前に AD 変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG3 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR3RF	R	AD 変換結果格納フラグ 0：変換結果なし 1：変換結果あり AD 変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG3 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。

14.4.14　ADBREG4(変換結果格納レジスタ 4)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR40							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR40				-	-	OVR4	ADR4RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	-	R	リードすると"0"が読めます
15-4	ADR40[11:0]	R	AD 変換結果値格納
3-2	-	R	リードすると"0"が読めます
1	OVR4	R	Over Run フラグ 0：発生なし 1：発生あり ADBREG4 レジスタを読み出す前に AD 変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG4 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR4RF	R	AD 変換結果格納フラグ 0：変換結果なし 1：変換結果あり AD 変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG4 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。

14.4.15 ADBREG5(変換結果格納レジスタ 5)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR50							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR50				-	-	OVR5	ADR5RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	-	R	リードすると"0"が読めます
15-4	ADR50[11:0]	R	AD 変換結果値格納
3-2	-	R	リードすると"0"が読めます
1	OVR5	R	Over Run フラグ 0：発生なし 1：発生あり ADBREG5 レジスタを読み出す前に AD 変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG5 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR5RF	R	AD 変換結果格納フラグ 0：変換結果なし 1：変換結果あり AD 変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG5 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。

14.4.16　ADBREG6(変換結果格納レジスタ 6)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR60							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR60				-	-	OVR6	ADR6RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	-	R	リードすると"0"が読めます
15-4	ADR60[11:0]	R	AD 変換結果値格納
3-2	-	R	リードすると"0"が読めます
1	OVR6	R	Over Run フラグ 0：発生なし 1：発生あり ADBREG6 レジスタを読み出す前に AD 変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG6 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR6RF	R	AD 変換結果格納フラグ 0：変換結果なし 1：変換結果あり AD 変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG6 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。

14.4.17 ADBREG7(変換結果格納レジスタ 7)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR70							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR70				-	-	OVR7	ADR7RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	-	R	リードすると"0"が読めます
15-4	ADR70[11:0]	R	AD 変換結果値格納
3-2	-	R	リードすると"0"が読めます
1	OVR7	R	Over Run フラグ 0：発生なし 1：発生あり ADBREG7 レジスタを読み出す前に AD 変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG7 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR7RF	R	AD 変換結果格納フラグ 0：変換結果なし 1：変換結果あり AD 変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG7 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。

14.4.18　ADBREG8(変換結果格納レジスタ 8)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR80							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR80				-	-	OVR8	ADR8RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	-	R	リードすると"0"が読めます
15-4	ADR80[11:0]	R	AD 変換結果値格納
3-2	-	R	リードすると"0"が読めます
1	OVR8	R	Over Run フラグ 0：発生なし 1：発生あり ADBREG8 レジスタを読み出す前に AD 変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG8 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR8RF	R	AD 変換結果格納フラグ 0：変換結果なし 1：変換結果あり AD 変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG8 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。

14.4.19 ADBREG9(変換結果格納レジスタ 9)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR90							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR90				-	-	OVR9	ADR9RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	-	R	リードすると"0"が読めます
15-4	ADR90[11:0]	R	AD 変換結果値格納
3-2	-	R	リードすると"0"が読めます
1	OVR9	R	Over Run フラグ 0：発生なし 1：発生あり ADBREG9 レジスタを読み出す前に AD 変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG9 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR9RF	R	AD 変換結果格納フラグ 0：変換結果なし 1：変換結果あり AD 変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG9 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。

14.4.20　ADBREG10(変換結果格納レジスタ 10)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR100							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR100				-	-	OVR10	ADR10RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	-	R	リードすると"0"が読めます
15-4	ADR100[11:0]	R	AD 変換結果値格納
3-2	-	R	リードすると"0"が読めます
1	OVR10	R	Over Run フラグ 0：発生なし 1：発生あり ADBREG10 レジスタを読み出す前に AD 変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG10 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR10RF	R	AD 変換結果格納フラグ 0：変換結果なし 1：変換結果あり AD 変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG10 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。

14.4.21 ADBREG11(変換結果格納レジスタ 11)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ADR110							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ADR110				-	-	OVR11	ADR11RF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	-	R	リードすると"0"が読めます
15-4	ADR110[11:0]	R	AD 変換結果値格納
3-2	-	R	リードすると"0"が読めます
1	OVR11	R	Over Run フラグ 0：発生なし 1：発生あり ADBREG11 レジスタを読み出す前に AD 変換結果が上書きされると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG11 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。
0	ADR11RF	R	AD 変換結果格納フラグ 0：変換結果なし 1：変換結果あり AD 変換値が格納されると"1"にセットされます。このフラグは ADBREG11 レジスタをリードすると"0"にクリアされます。

14.4.22　PMD トリガ用プログラムレジスタ

本 AD コンバータは PMD 回路が発生するトリガ信号によって AD 変換を開始する事ができます。

PMD トリガ用プログラムレジスタは PMD が発生する 6 種類のトリガによって起動するプログラム番号の設定、プログラム終了時に発生する割り込みの制御、AD 変換の AIN の設定などを行います。

PMD トリガ用プログラムレジスタは 3 種類のレジスタから構成されます。

・ PMD トリガ用プログラム番号選択レジスタ(ADBPSEL6 ~ ADBPSEL11)

PMD からの 6 本のトリガ信号(PMD1TRG0 ~ 5)に対して、それぞれ起動するプログラム番号(0 ~ 5)を選択するレジスタです。

ADBPSEL6 ~ ADBPSEL11 が PMD1TRG0 ~ 5 に対応しています。

・ PMD トリガ用割り込み選択レジスタ(ADBPINTS0 ~ ADBPINTS5)

それぞれのプログラム番号ごとにプログラム終了時に発生させる割り込みの有無や種類(INTADBPDB)を選択するレジスタです。

ADBPINTS0 がプログラム 0 に対応しており、ADBPINT5(プログラム 5)まであります。

・ PMD トリガ用プログラム選択レジスタ(ADBPSET0 ~ ADBPSET5)

プログラム番号(0 ~ 5)に対して、AD 変換する AIN 番号とベクトルエンジンへの通知用に U/V/W の相を設定します。プログラム番号 1 つに対して PMD トリガ用プログラム選択レジスタは 4 組あり、変換結果は、それぞれ変換結果格納レジスタ 0 ~ 3(ADBREG0 ~ 3)に格納されます。

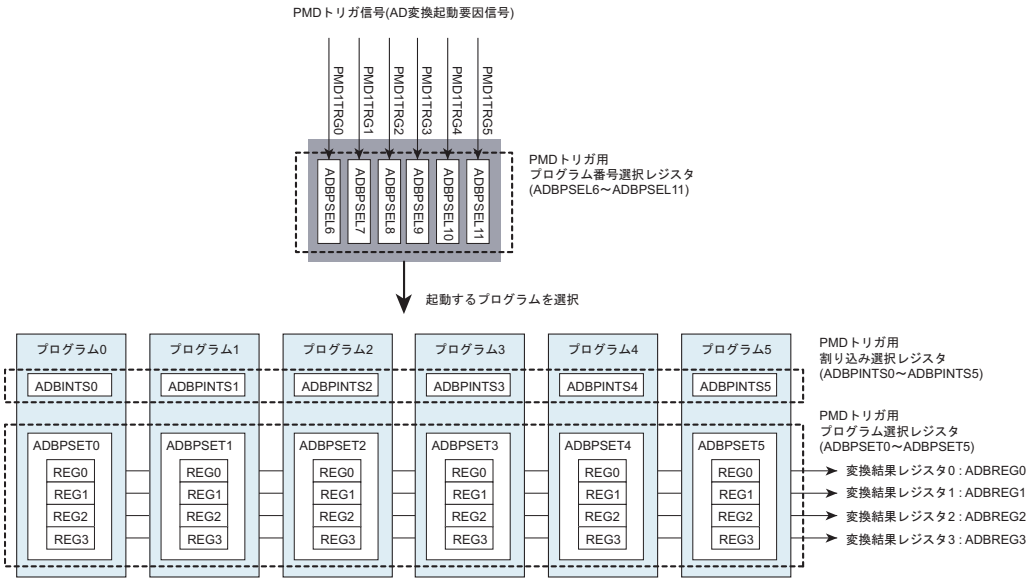


図 14-2 PMD トリガ用プログラムレジスタ

14.4.22.1 ADBPSEL6 ~ ADBPSEL11(PMD トリガ用プログラム番号選択レジスタ 6 ~ 11)

ADBPSEL6：PMD トリガ用プログラム番号選択レジスタ 6

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PENS6	-	-	-	-	PMDS6		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS6	R/W	PMD1TRG0 トリガ制御 0:ディセーブル 1:イネーブル
6-3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2-0	PMDS6[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 14-1 参照)

ADBPSEL7：PMD トリガ用プログラム番号選択レジスタ 7

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PENS7	-	-	-	-	PMDS7		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS7	R/W	PMD1TRG1 トリガ制御 0:ディセーブル 1:イネーブル
6-3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2-0	PMDS7[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 14-1 参照)

ADBPSEL8：PMD トリガ用プログラム番号選択レジスタ 8

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PENS8	-	-	-	-	PMDS8		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS8	R/W	PMD1TRG2 トリガ制御 0:ディセーブル 1:イネーブル
6-3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2-0	PMDS8[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 14-1 参照)

ADBPSEL9：PMD トリガ用プログラム番号選択レジスタ 9

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PENS9	-	-	-	-	PMDS9		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS9	R/W	PMD1TRG3 トリガ制御 0:ディセーブル 1:イネーブル
6-3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2-0	PMDS9[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 14-1 参照)

ADBPSEL10：PMD トリガ用プログラム番号選択レジスタ 10

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PENS10	-	-	-	-	PMDS10		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS10	R/W	PMD1TRG4 トリガ制御 0:ディセーブル 1:イネーブル
6-3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2-0	PMDS10[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 14-1 参照)

ADBPSEL11：PMD トリガ用プログラム番号選択レジスタ 11

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PENS11	-	-	-	-	PMDS11		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	-	R	リードすると"0"が読めます。
7	PENS11	R/W	PMD1TRG5 トリガ制御 0:ディセーブル 1:イネーブル
6-3	-	R	リードすると"0"が読めます。
2-0	PMDS11[2:0]	R/W	プログラム番号選択(表 14-1 参照)

表 14-1 プログラム番号選択

<PMDS6[2:0]>~ <PMDS11[2:0]>	
000	プログラム 0
001	プログラム 1
010	プログラム 2
011	プログラム 3
100	プログラム 4
101	プログラム 5
110	reserved
111	reserved

14.4.22.2 ADBPINTS0 ~ 5(PMD トリガ用割り込み選択レジスタ 0 ~ 5)

ADBPINTS0：PMD トリガ用割り込み選択レジスタ 0

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	INTSEL0	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1-0	INTSEL0[1:0]	R/W	割り込み選択 00:割り込み出力なし 01:Reserved 10:INTADBPDB 11: 割り込み出力なし プログラム 0 に対して、起動する割り込みを選択します。

ADBPINTS1：PMD トリガ用割り込み選択レジスタ 1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	INTSEL1	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1-0	INTSEL1[1:0]	R/W	割り込み選択 00:割り込み出力なし 01:Reserved 10:INTADBPDB 11: 割り込み出力なし プログラム 1 に対して、起動する割り込みを選択します。

ADBPINTS2：PMD トリガ用割り込み選択レジスタ 2

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	INTSEL2	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1-0	INTSEL2[1:0]	R/W	割り込み選択 00:割り込み出力なし 01:Reserved 10:INTADBPDB 11: 割り込み出力なし プログラム 2 に対して、起動する割り込みを選択します。

ADBPINTS3：PMD トリガ用割り込み選択レジスタ 3

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	INTSEL3	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1-0	INTSEL3[1:0]	R/W	割り込み選択 00:割り込み出力なし 01:Reserved 10:INTADBPDB 11: 割り込み出力なし プログラム 3 に対して、起動する割り込みを選択します。

ADBPINTS4：PMD トリガ用割り込み選択レジスタ 4

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	INTSEL4	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1-0	INTSEL4[1:0]	R/W	割り込み選択 00:割り込み出力なし 01:Reserved 10:INTADBPDB 11: 割り込み出力なし プログラム 4 に対して、起動する割り込みを選択します。

ADBPINTS5：PMD トリガ用割り込み選択レジスタ 5

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	INTSEL5	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	-	R	リードすると"0"が読めます。
1-0	INTSEL5[1:0]	R/W	割り込み選択 00:割り込み出力なし 01:Reserved 10:INTADBPDB 11: 割り込み出力なし プログラム 5 に対して、起動する割り込みを選択します。

14.4.22.3 ADBPSET0 ~ 5(PMD トリガ用プログラム選択レジスタ 0 ~ 5)

各 ADBPSETn（n=0 ~ 5：プログラム番号）は、AD 変換入力端子の選択をする<AINSPnm [4:0]>とベクトルエンジンの相選択をする<UVWISnm[1:0]>および<ENSPnm>を 1 組とした 4 つのセットで構成されます。(m=0 ~ 3)

<ENSPnm>を"1"にセットすると<UVWISnm [1:0]>の 相選択、<AINSPnm[4:0]>の AIN 選択で設定された条件で AD 変換を開始し変換結果レジスタへ格納されます。

ADBREGm ADBPSETn	m=0	m=1	m=2	m=3
n=0	<ENSP00> <UVWIS00> <AINSP00>	<ENSP01> <UVWIS01> <AINSP01>	<ENSP02> <UVWIS02> <AINSP02>	<ENSP03> <UVWIS03> <AINSP03>
n=1	<ENSP10> <UVWIS10> <AINSP10>	<ENSP11> <UVWIS11> <AINSP11>	<ENSP12> <UVWIS12> <AINSP12>	<ENSP13> <UVWIS13> <AINSP13>
n=2	<ENSP20> <UVWIS20> <AINSP20>	<ENSP21> <UVWIS21> <AINSP21>	<ENSP22> <UVWIS22> <AINSP22>	<ENSP23> <UVWIS23> <AINSP23>
n=3	<ENSP30> <UVWIS30> <AINSP30>	<ENSP31> <UVWIS31> <AINSP31>	<ENSP32> <UVWIS32> <AINSP32>	<ENSP33> <UVWIS33> <AINSP33>
n=4	<ENSP40> <UVWIS40> <AINSP40>	<ENSP41> <UVWIS41> <AINSP41>	<ENSP42> <UVWIS42> <AINSP42>	<ENSP43> <UVWIS43> <AINSP43>
n=5	<ENSP50> <UVWIS50> <AINSP50>	<ENSP51> <UVWIS51> <AINSP51>	<ENSP52> <UVWIS52> <AINSP52>	<ENSP53> <UVWIS53> <AINSP53>

表 14-2 AD 変換入力端子の選択

<AINSP00 [4:0]> ~ <AINSP53 [4:0]>	AD コンバータ ユニット B
0_0000	:Reserved
0_0001	:Reserved
0_0010	:AINB2
0_0011	:AINB3
0_0100	:AINB4
0_0101	:AINB5
0_0110	:AINB6
0_0111	:AINB7
0_1000	:AINB8
0_1001	:AINB9
0_1010	:AINB10
0_1011	:AINB11
0_1100	:AINB12
0_1101 ~ 1_1111	:Reserved

ADBPSET0：PMD トリガ用プログラム選択レジスタ 0

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSP03	UVWIS03		AINSP03				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSP02	UVWIS02		AINSP02				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSP01	UVWIS01		AINSP01				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSP00	UVWIS00		AINSP00				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSP03	R/W	ADBREG3 イネーブル 0:禁止 1:許可
30-29	UVWIS03[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
28-24	AINSP03[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
23	ENSP02	R/W	ADBREG2 イネーブル 0:禁止 1:許可
22-21	UVWIS02[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
20-16	AINSP02[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
15	ENSP01	R/W	ADBREG1 イネーブル 0:禁止 1:許可
14-13	UVWIS01[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
12-8	AINSP01[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
7	ENSP00	R/W	ADBREG0 イネーブル 0:禁止 1:許可
6-5	UVWIS00[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
4-0	AINSP00[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照

相選択

00	指定なし
01	U 相
10	V 相
11	W 相

ADBPSET1：PMD トリガ用プログラム選択レジスタ 1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSP13	UVWIS13		AINSP13				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSP12	UVWIS12		AINSP12				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSP11	UVWIS11		AINSP11				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSP10	UVWIS10		AINSP10				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSP13	R/W	ADBREG3 イネーブル 0:禁止 1:許可
30-29	UVWIS13[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
28-24	AINSP13[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
23	ENSP12	R/W	ADBREG2 イネーブル 0:禁止 1:許可
22-21	UVWIS12[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
20-16	AINSP12[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
15	ENSP11	R/W	ADBREG1 イネーブル 0:禁止 1:許可
14-13	UVWIS11[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
12-8	AINSP11[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
7	ENSP10	R/W	ADBREG0 イネーブル 0:禁止 1:許可
6-5	UVWIS10[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
4-0	AINSP10[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照

相選択

00	指定なし
01	U 相
10	V 相
11	W 相

ADBPSET2：PMD トリガ用プログラム選択レジスタ 2

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSP23	UVWIS23		AINSP23				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSP22	UVWIS22		AINSP22				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSP21	UVWIS21		AINSP21				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSP20	UVWIS20		AINSP20				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSP23	R/W	ADBREG3 イネーブル 0:禁止 1:許可
30-29	UVWIS23[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
28-24	AINSP23[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
23	ENSP22	R/W	ADBREG2 イネーブル 0:禁止 1:許可
22-21	UVWIS22[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
20-16	AINSP22[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
15	ENSP21	R/W	ADBREG1 イネーブル 0:禁止 1:許可
14-13	UVWIS21[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
12-8	AINSP21[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
7	ENSP20	R/W	ADBREG0 イネーブル 0:禁止 1:許可
6-5	UVWIS20[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
4-0	AINSP20[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照

相選択

00	指定なし
01	U 相
10	V 相
11	W 相

ADBPSET3：PMD トリガ用プログラム選択レジスタ 3

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSP33	UVWIS33		AINSP33				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSP32	UVWIS32		AINSP32				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSP31	UVWIS31		AINSP31				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSP30	UVWIS30		AINSP30				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSP33	R/W	ADBREG3 イネーブル 0:禁止 1:許可
30-29	UVWIS33[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
28-24	AINSP33[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
23	ENSP32	R/W	ADBREG2 イネーブル 0:禁止 1:許可
22-21	UVWIS32[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
20-16	AINSP32[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
15	ENSP31	R/W	ADBREG1 イネーブル 0:禁止 1:許可
14-13	UVWIS31[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
12-8	AINSP31[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
7	ENSP30	R/W	ADBREG0 イネーブル 0:禁止 1:許可
6-5	UVWIS30[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
4-0	AINSP30[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照

相選択

00	指定なし
01	U 相
10	V 相
11	W 相

ADBPSET4：PMD トリガ用プログラム選択レジスタ 4

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSP43	UVWIS43		AINSP43				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSP42	UVWIS42		AINSP42				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSP41	UVWIS41		AINSP41				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSP40	UVWIS40		AINSP40				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSP43	R/W	ADBREG3 イネーブル 0:禁止 1:許可
30-29	UVWIS43[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
28-24	AINSP43[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
23	ENSP42	R/W	ADBREG2 イネーブル 0:禁止 1:許可
22-21	UVWIS42[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
20-16	AINSP42[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
15	ENSP41	R/W	ADBREG1 イネーブル 0:禁止 1:許可
14-13	UVWIS41[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
12-8	AINSP41[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
7	ENSP40	R/W	ADBREG0 イネーブル 0:禁止 1:許可
6-5	UVWIS40[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用） 下表参照
4-0	AINSP40[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照

相選択

00	指定なし
01	U 相
10	V 相
11	W 相

ADBPSET5：PMD トリガ用プログラム選択レジスタ 5

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSP53	UVWIS53		AINSP53				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSP52	UVWIS52		AINSP52				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSP51	UVWIS51		AINSP51				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSP50	UVWIS50		AINSP50				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSP53	R/W	ADBREG3 イネーブル 0:禁止 1:許可
30-29	UVWIS53[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
28-24	AINSP53[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
23	ENSP52	R/W	ADBREG2 イネーブル 0:禁止 1:許可
22-21	UVWIS52[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
20-16	AINSP52[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
15	ENSP51	R/W	ADBREG1 イネーブル 0:禁止 1:許可
14-13	UVWIS51[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
12-8	AINSP51[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照
7	ENSP50	R/W	ADBREG0 イネーブル 0:禁止 1:許可
6-5	UVWIS50[1:0]	R/W	相選択(ベクトルエンジン通知用) 下表参照
4-0	AINSP50[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-2 AD 変換入力端子の選択」を参照

相選択

00	指定なし
01	U 相
10	V 相
11	W 相

14.4.23　ADBTSET03 / ADBTSET47 / ADBTSET811(タイマトリガ用プログラムレジスタ)

本 AD コンバータはタイマ x のコンペア一致割り込みをトリガ信号にして AD 変換を開始する事ができます。

タイマトリガ用プログラムレジスタは 12 個の設定レジスタから構成されます。<ENSTm>を 1 にセットすると ADBTSETm をイネーブルにします。<AINSTm [4:0]>は AIN を選択します。設定レジスタの番号は変換結果レジスタ番号(m=0 ~ 11)にそれぞれ対応しています。 ADBTSET0 は変換結果レジスタ 0 に対応し、ADBTSET11(変換値レジスタ 11)まで全部で 12 個あります。

タイマトリガによる AD 変換が終了すると割り込み(INTADBTMR)を発生します。

表 14-3 AD 変換入力端子の選択

<AINST0 [4:0]> ~ <AINST11 [4:0]>	AD コンバータ ユニット B
0_0000	:Reserved
0_0001	:Reserved
0_0010	:AINB2
0_0011	:AINB3
0_0100	:AINB4
0_0101	:AINB5
0_0110	:AINB6
0_0111	:AINB7
0_1000	:AINB8
0_1001	:AINB9
0_1010	:AINB10
0_1011	:AINB11
0_1100	:AINB12
0_1101 ~ 1_1111	:Reserved

ADBTSET03：タイマトリガ用プログラムレジスタ 03

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENST3	-	-	AINST3				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENST2	-	-	AINST2				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENST1	-	-	AINST1				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENST0	-	-	AINST0				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENST3	R/W	ADBREG3 イネーブル 0:disable 1:enable
30-29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28-24	AINST3[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-3 AD 変換入力端子の選択」を参照
23	ENST2	R/W	ADBREG2 イネーブル 0:disable 1:enable
22-21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20-16	AINST2[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-3 AD 変換入力端子の選択」を参照
15	ENST1	R/W	ADBREG1 イネーブル 0:disable 1:enable
14-13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12-8	AINST1[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-3 AD 変換入力端子の選択」を参照
7	ENST0	R/W	ADBREG0 イネーブル 0:disable 1:enable
6-5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4-0	AINST0[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-3 AD 変換入力端子の選択」を参照

ADBTSET47：タイマトリガ用プログラムレジスタ 47

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENST7	-	-	AINST7				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENST6	-	-	AINST6				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENST5	-	-	AINST5				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENST4	-	-	AINST4				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENST7	R/W	ADBREG7 イネーブル 0:disable 1:enable
30-29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28-24	AINST7[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-3 AD 変換入力端子の選択」を参照
23	ENST6	R/W	ADBREG6 イネーブル 0:disable 1:enable
22-21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20-16	AINST6[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-3 AD 変換入力端子の選択」を参照
15	ENST5	R/W	ADBREG5 イネーブル 0:disable 1:enable
14-13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12-8	AINST5[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-3 AD 変換入力端子の選択」を参照
7	ENST4	R/W	ADBREG4 イネーブル 0:disable 1:enable
6-5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4-0	AINST4[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-3 AD 変換入力端子の選択」を参照

ADBTSET811：タイマトリガ用プログラムレジスタ 811

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENST11	-	-	AINST11				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENST10	-	-	AINST10				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENST9	-	-	AINST9				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENST8	-	-	AINST8				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENST11	R/W	ADBREG11 イネーブル 0:disable 1:enable
30-29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28-24	AINST11[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-3 AD 変換入力端子の選択」を参照
23	ENST10	R/W	ADBREG10 イネーブル 0:disable 1:enable
22-21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20-16	AINST10[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-3 AD 変換入力端子の選択」を参照
15	ENST9	R/W	ADBREG9 イネーブル 0:disable 1:enable
14-13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12-8	AINST9[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-3 AD 変換入力端子の選択」を参照
7	ENST8	R/W	ADBREG8 イネーブル 0:disable 1:enable
6-5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4-0	AINST8[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-3 AD 変換入力端子の選択」を参照

14.4.24　ADBSSET03 / ADBSSET47 / ADBSSET811(ソフトウエアトリガ用プログラムレジスタ)

本 AD コンバータはソフトウエアによって AD 変換を開始する事ができます。ソフトウエアトリガ用のプログラムレジスタは 12 個の設定レジスタから構成されます。

<ENSSm>を 1 にセットすると ADBSSETm をイネーブルにします。<AINSSm 4:0>は AIN を選択します。プログラム設定レジスタの番号(m=0 ~ 11)は変換結果レジスタ番号にそれぞれ対応しており、レジスタは全部で 12 個あります。ソフトウエアトリガによる AD 変換が終了すると割り込み(INTADBSFT)を発生します。

表 14-4 AD 変換入力端子の選択

<AINSS0 [4:0]> ~ <AINSS11 [4:0]>	AD コンバータユニット B
0_0000	:Reserved
0_0001	:Reserved
0_0010	:AINB2
0_0011	:AINB3
0_0100	:AINB4
0_0101	:AINB5
0_0110	:AINB6
0_0111	:AINB7
0_1000	:AINB8
0_1001	:AINB9
0_1010	:AINB10
0_1011	:AINB11
0_1100	:AINB12
0_1101 ~ 1_1111	:Reserved

ADBSSET03：ソフトウエアトリガ用プログラムレジスタ 03

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSS3	-	-	AINSS3				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSS2	-	-	AINSS2				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSS1	-	-	AINSS1				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSS0	-	-	AINSS0				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSS3	R/W	ADBREG3 イネーブル 0:disable 1:enable
30-29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28-24	AINSS3[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-4 AD 変換入力端子の選択」を参照
23	ENSS2	R/W	ADBREG2 イネーブル 0:disable 1:enable
22-21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20-16	AINSS2[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-4 AD 変換入力端子の選択」を参照
15	ENSS1	R/W	ADBREG1 イネーブル 0:disable 1:enable
14-13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12-8	AINSS1[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-4 AD 変換入力端子の選択」を参照
7	ENSS0	R/W	ADBREG0 イネーブル 0:disable 1:enable
6-5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4-0	AINSS0[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-4 AD 変換入力端子の選択」を参照

ADBSSET47：ソフトウエアトリガ用プログラムレジスタ 47

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSS7	-	-	AINSS7				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSS6	-	-	AINSS6				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSS5	-	-	AINSS5				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSS4	-	-	AINSS4				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSS7	R/W	ADBREG7 イネーブル 0:disable 1:enable
30-29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28-24	AINSS7[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-4 AD 変換入力端子の選択」を参照
23	ENSS6	R/W	ADBREG6 イネーブル 0:disable 1:enable
22-21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20-16	AINSS6[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-4 AD 変換入力端子の選択」を参照
15	ENSS5	R/W	ADBREG5 イネーブル 0:disable 1:enable
14-13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12-8	AINSS5[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-4 AD 変換入力端子の選択」を参照
7	ENSS4	R/W	ADBREG4 イネーブル 0:disable 1:enable
6-5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4-0	AINSS4[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-4 AD 変換入力端子の選択」を参照

ADBSSET811：ソフトウエアトリガ用プログラムレジスタ 811

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSS11	-	-	AINSS11				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSS10	-	-	AINSS10				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSS9	-	-	AINSS9				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSS8	-	-	AINSS8				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSS11	R/W	ADBREG11 イネーブル 0:disable 1:enable
30-29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28-24	AINSS11[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-4 AD 変換入力端子の選択」を参照
23	ENSS10	R/W	ADBREG10 イネーブル 0:disable 1:enable
22-21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20-16	AINSS10[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-4 AD 変換入力端子の選択」を参照
15	ENSS9	R/W	ADBREG9 イネーブル 0:disable 1:enable
14-13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12-8	AINSS9[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-4 AD 変換入力端子の選択」を参照
7	ENSS8	R/W	ADBREG8 イネーブル 0:disable 1:enable
6-5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4-0	AINSS8[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-4 AD 変換入力端子の選択」を参照

14.4.25　ADBASET03 / ADBASET47 / ADBASET811(常時変換用プログラムレジスタ)

本 AD コンバータは常時変換状態に設定する事が出来ます。常時変換用のプログラムレジスタは 12 個の設定レジスタから構成されます。

設定レジスタの番号は変換結果レジスタ番号(m=0 ~ 11)にそれぞれ対応しています。常時変換用プログラムレジスタの<ENSAm>を 1 にセットすると ADBPSETm をイネーブルにします。<AINSAm[4:0]>は AIN を選択します。レジスタは全部で 12 個あります。

表 14-5 AD 変換入力端子の選択

<AINSA0[4:0]> ~ <AINSA11[4:0]>	AD コンバータ ユニット B
0_0000	:Reserved
0_0001	:Reserved
0_0010	:AINB2
0_0011	:AINB3
0_0100	:AINB4
0_0101	:AINB5
0_0110	:AINB6
0_0111	:AINB7
0_1000	:AINB8
0_1001	:AINB9
0_1010	:AINB10
0_1011	:AINB11
0_1100	:AINB12
0_1101 ~ 1_1111	:Reserved

ADBASET03：常時トリガ用プログラムレジスタ 03

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSA3	-	-	AINSA3				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSA2	-	-	AINSA2				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSA1	-	-	AINSA1				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSA0	-	-	AINSA0				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSA3	R/W	ADBREG3 イネーブル 0:disable 1:enable
30-29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28-24	AINSA3[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-5 AD 変換入力端子の選択」を参照
23	ENSA2	R/W	ADBREG2 イネーブル 0:disable 1:enable
22-21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20-16	AINSA2[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-5 AD 変換入力端子の選択」を参照
15	ENSA1	R/W	ADBREG1 イネーブル 0:disable 1:enable
14-13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12-8	AINSA1[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-5 AD 変換入力端子の選択」を参照
7	ENSA0	R/W	ADBREG0 イネーブル 0:disable 1:enable
6-5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4-0	AINSA0[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-5 AD 変換入力端子の選択」を参照

ADBASET47：常時変換用プログラムレジスタ 47

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSA7	-	-	AINSA7				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSA6	-	-	AINSA6				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSA5	-	-	AINSA5				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSA4	-	-	AINSA4				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSA7	R/W	ADBREG7 イネーブル 0:disable 1:enable
30-29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28-24	AINSA7[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-5 AD 変換入力端子の選択」を参照
23	ENSA6	R/W	ADBREG6 イネーブル 0:disable 1:enable
22-21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20-16	AINSA6[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-5 AD 変換入力端子の選択」を参照
15	ENSA5	R/W	ADBREG5 イネーブル 0:disable 1:enable
14-13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12-8	AINSA5[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-5 AD 変換入力端子の選択」を参照
7	ENSA4	R/W	ADBREG4 イネーブル 0:disable 1:enable
6-5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4-0	AINSA4[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-5 AD 変換入力端子の選択」を参照

ADBASET811：常時変換用プログラムレジスタ 811

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ENSA11	-	-	AINSA11				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ENSA10	-	-	AINSA10				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ENSA9	-	-	AINSA9				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ENSA8	-	-	AINSA8				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31	ENSA11	R/W	ADBREG11 イネーブル 0:disable 1:enable
30-29	-	R	リードすると"0"が読めます。
28-24	AINSA11[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-5 AD 変換入力端子の選択」を参照
23	ENSA10	R/W	ADBREG10 イネーブル 0:disable 1:enable
22-21	-	R	リードすると"0"が読めます。
20-16	AINSA10[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-5 AD 変換入力端子の選択」を参照
15	ENSA9	R/W	ADBREG9 イネーブル 0:disable 1:enable
14-13	-	R	リードすると"0"が読めます。
12-8	AINSA9[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-5 AD 変換入力端子の選択」を参照
7	ENSA8	R/W	ADBREG8 イネーブル 0:disable 1:enable
6-5	-	R	リードすると"0"が読めます。
4-0	AINSA8[4:0]	R/W	AIN 選択 「表 14-5 AD 変換入力端子の選択」を参照

14.5　動作説明

14.5.1　アナログ基準電圧

アナログ基準電圧は AD コンバータ ユニットB の VREFH、VREFL 端子にそれぞれ High、Lowのレベルを入力します。ADBMOD3<RCUT>に"1"をライトすることによって、VREFH と VREFL間のスイッチオン状態をオフ状態に切り換えることができます。

14.5.2　AD 変換開始

AD コンバータはソフトウエアによる起動（ソフトウエアトリガ）または PMD/タイマからのトリガ信号により任意の AD が変換開始します。

- PMD トリガ （14.4.22 PMD トリガ用プログラムレジスタ参照）
- タイマトリガ（タイマ５）（14.4.23 タイマトリガ用プログラムレジスタ参照）
- ソフトトリガ （14.4.24 ソフトウエアトリガ用プログラムレジスタ参照）

これらの起動要因には優先順位があります。

PMD トリガ 0　>　…・　>　PMD トリガ 5　>　タイマ　>　ソフトウエア　>　常時

なお、AD 変換のプログラム実行中に PMD トリガが発生すると実行中の AD 変換を中止して直ちに PMD トリガのプログラムを実行します。その他の上位要因が発生時は現在の AD 変換終了後に上位のプログラムに移行します。

起動要因発生から実際の AD 変換実行までには遅れがあります。トリガ要因による AD 変換タイミングと遅延時間を以下に示します。

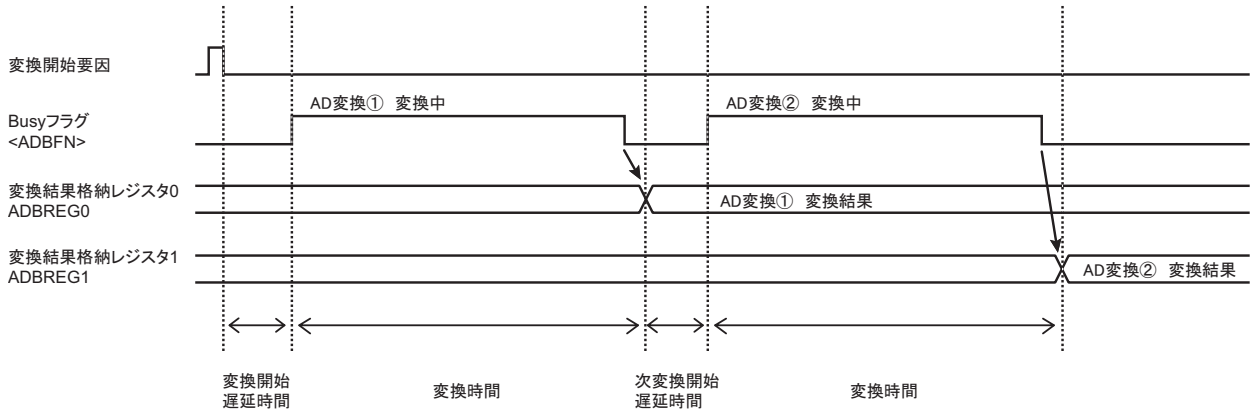


図 14-3 AD 変換開始動作タイミングチャート

表 14-6 AD 変換時間と変換開始遅延時間(SCLK = 40MHz)

		fsys = 80MHz		fsys = 40MHz	
	変換開始要因	MIN	MAX	MIN	MAX
開始遅延時間[μs] (注 1)	PMD	0.125	0.163	0.225	0.3
	TMRB	0.125	0.263	0.225	0.5
	ソフトウエア、常時変換	0.138	0.275	0.25	0.525
AD 変換時間[μs]	−	1.85		1.85	
次変換開始遅延時間 [μs] (注 2)	PMD	0.1	0.125	0.175	0.225
	TMRB、ソフトウエア、常時変換	0.1	0.238	0.175	0.425

注 1) 変換開始要因発生から AD 変換開始までの時間

注 2) 同一変換開始要因で複数の変換を設定する場合の 2 番目以降の開始遅延時間

14.5.3 AD 監視機能

本 AD コンバータには AD 監視機能があり、監視機能有効時に比較条件と一致した場合、割り込みを発生します。

ADBCMPCR0<CMP0EN>または ADBCMPCR1<CMP1EN>を"1"に設定すると AD 監視機能が有効となり、<REGS0>/<REGS1>で指定された変換結果格納レジスタの内容が比較レジスタの値以上または以下になると AD 監視機能割り込みが発生します（<ADBIG0>/<ADBIG1>で以上、以下を指定)

比較動作は監視機能が設定された変換結果格納レジスタに対し、変換結果が格納されるごとにおこなわれ、条件が成立すると割り込みが発生します。

注 1) AD 監視機能による比較動作では AD 変換結果格納フラグ<ADR0RF> ~ <ADR11RF>はクリアされません。

注 2) AD 監視機能は通常の読み出し動作と異なりますので、ソフトによる変換結果読み出しなしに連続して AD 変換がおこなわれる場合は、Over Run フラグ<OVR0> ~ <OVR11>が"1"にセットされます。

14.6　AD 変換タイミングチャート

ソフトウエア AD 変換、常時 AD 変換、PMD トリガ／タイマトリガ受け付け時のタイミングチャートを以下に示します。

14.6.1　ソフトウエア AD 変換

ソフトウエア AD 変換では、ADBSSET03, ADBSSET47, ADBSSET811 でプログラムされた AD 変換が終了時に割り込みが発生します(図 14-4)。

ソフトウエア AD 変換中に ADBMOD1<ADEN> = "0"とした場合、実行中の AD 変換を終了します。このとき、変換途中の結果はレジスタには格納されません(図 14-5)。

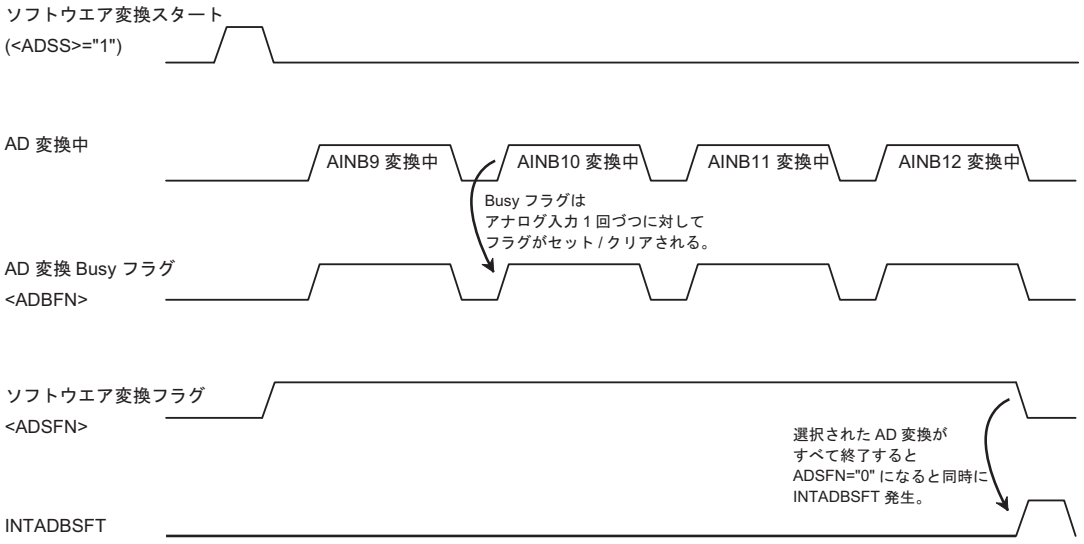


図 14-4 ソフトウエア AD 変換時のタイミングチャート

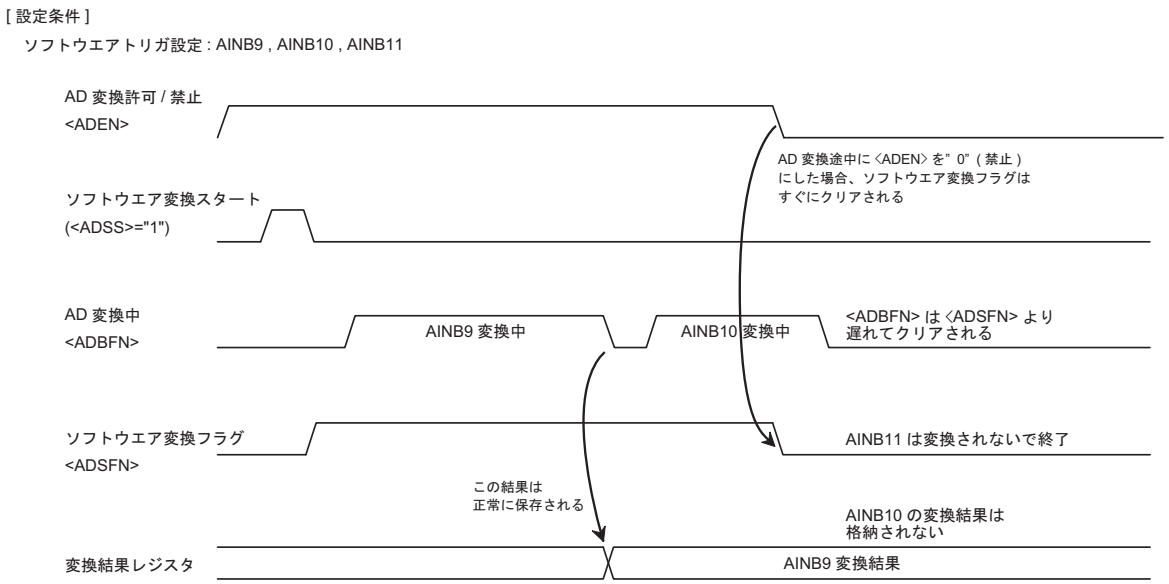


図 14-5 ソフトウエア AD 変換中に<ADEN> = "0"書き込み

14.6.2 常時 AD 変換

常時 AD 変換では、変換結果を読み出す前に次の AD 変換が終了した場合、Over Run フラグが"1"にセットされます。このとき、変換結果レジスタは後続のデータによって上書きされます。OverRun フラグは変換結果を読み出すことにより"0"にクリアされます（図 14-6）。

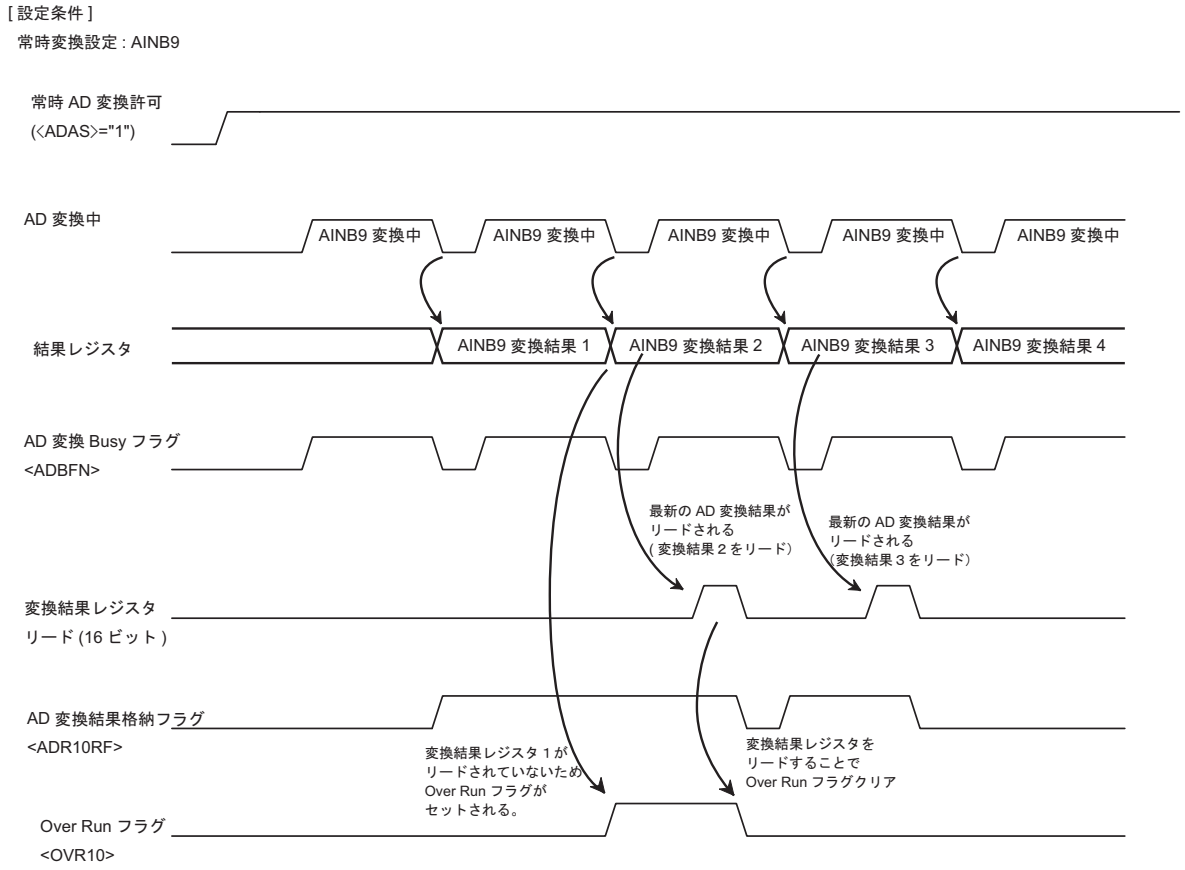


図 14-6 常時 AD 変換時のタイミングチャート

14.6.3　トリガによる AD 変換開始

ソフトウエア AD 変換実行中に PMD トリガが発生した場合、実行中のソフトウエア AD 変換は直ちに中断してPMD トリガによるAD 変換を開始します(図 14-7)。PMD トリガによるAD 変換が終了後、ソフトウエアAD 変換は設定されたプログラムの最初から AD 変換を開始します。タイマトリガが発生した場合も同様です(図 14-8)。

【設定条件】
ソフトウエアトリガ設定：AINB9 , AINB10 , AINB11
PMD トリガ設定：AINB12

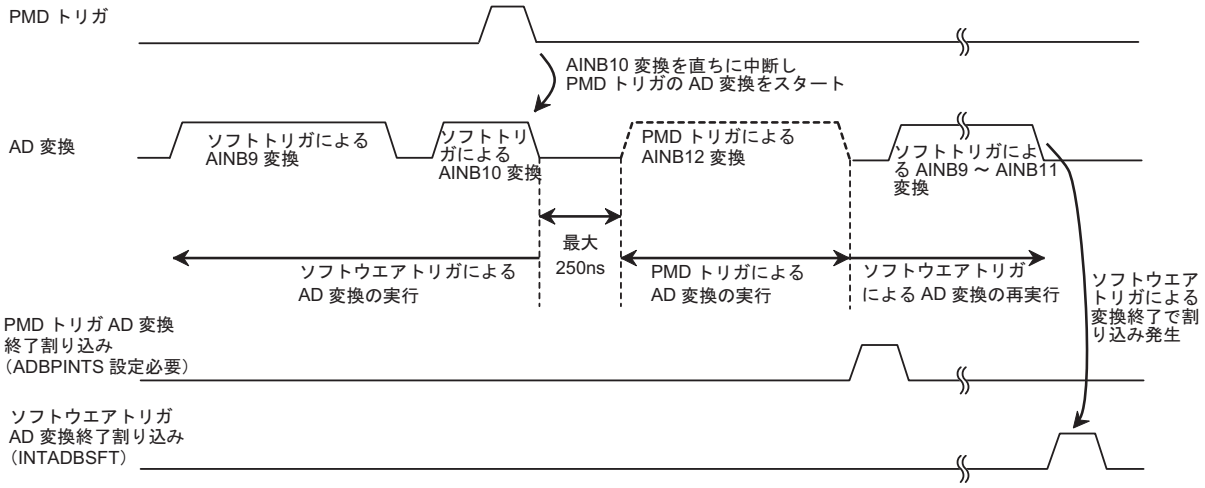


図 14-7 ソフトウエア AD 変換中の PMD トリガ発生

【設定条件】
ソフトウエアトリガ設定：AINB9 , AINB10 , AINB11
タイマトリガ設定：AINB12

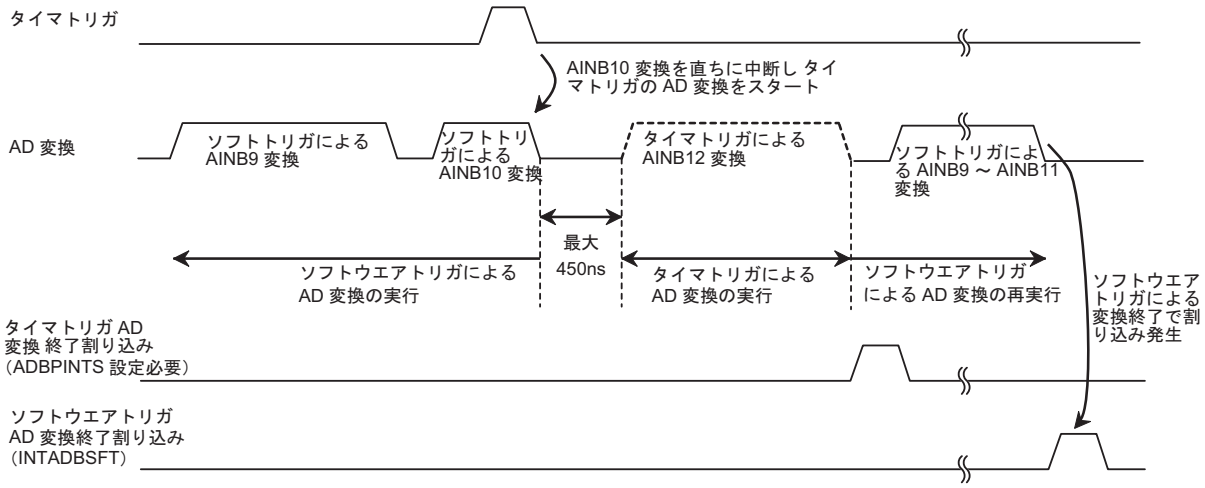


図 14-8 ソフトウエア AD 変換中のタイマ トリガ発生

注)　タイマトリガを使用しない場合は、INTTB51を使用しないでください。TB5IM<TBIM1>="1"に設定してください。

14.7 AD コンバータ使用時の注意

AD 変換精度への影響を避けるために AD 動作(変換)中は出力ポートとして使用しているポート J/K/N の出力データを書き換えないようにしてください。

電源電圧の変動や周囲のノイズの影響によって AD 変換結果がばらつくことがあります。

また、AD 変換中に AD 入力が兼用となっている端子への入力及び出力の変化、出力ポートに設定している他の端子の出力電流が変動すると AD 変換精度が低下することがあります。

プログラムで複数回の変換結果の平均値をとるなどの対策をして下さい。

第 15 章　モータ制御回路(PMD : Programmable Motor Driver)

本製品の PMD はベクトルエンジン(VE+)やアナログ/デジタルコンバータ(ADC)と連携動作してベクトル制御などの 3 相モータ制御を実現します。パルス幅変調回路、通電制御および同期トリガ生成回路は VE からの指令で動作可能で、同期トリガ生成回路は ADC に変換開始指令ができます。

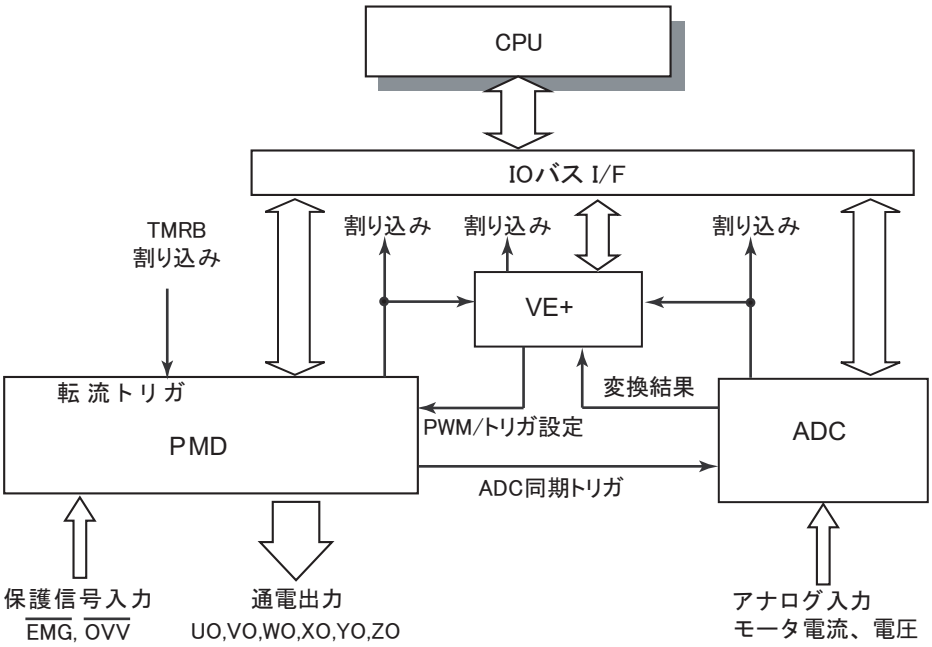


図 15-1 モータ制御関連機能のブロック図

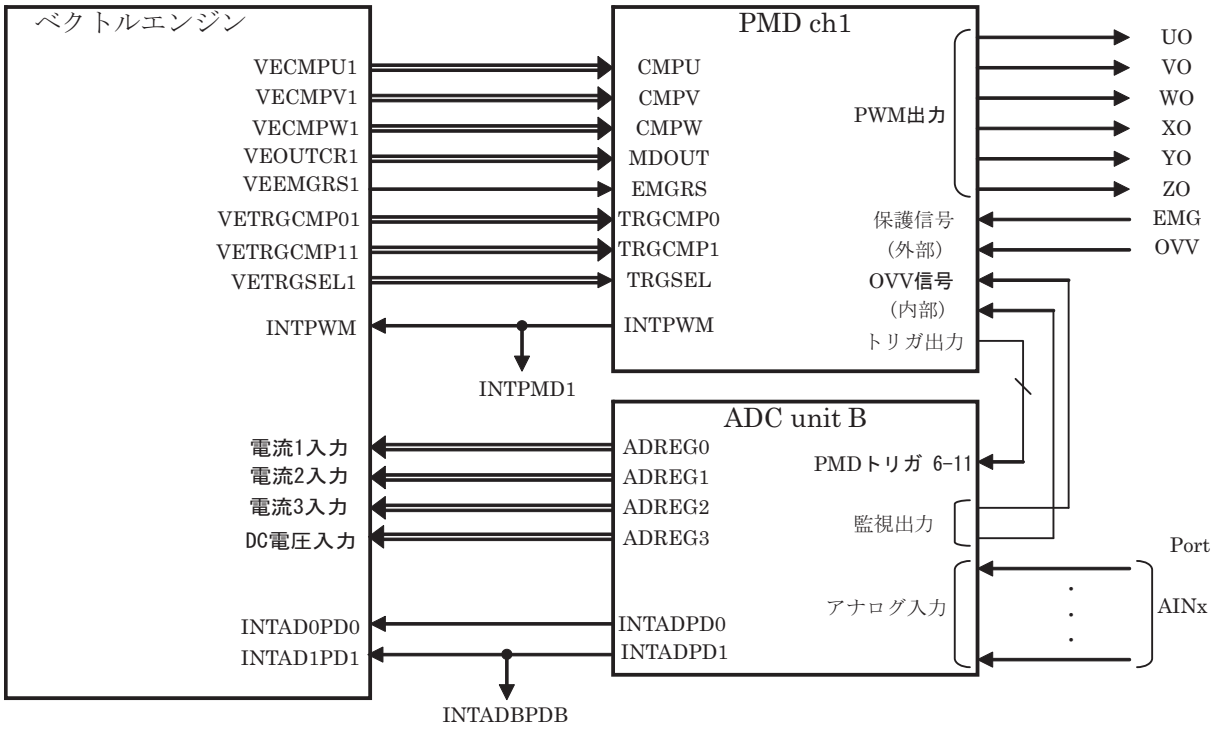


図 15-2 モータ制御回路とベクトルエンジンおよび AD 変換器の関連図

15.1 PMD 回路構成

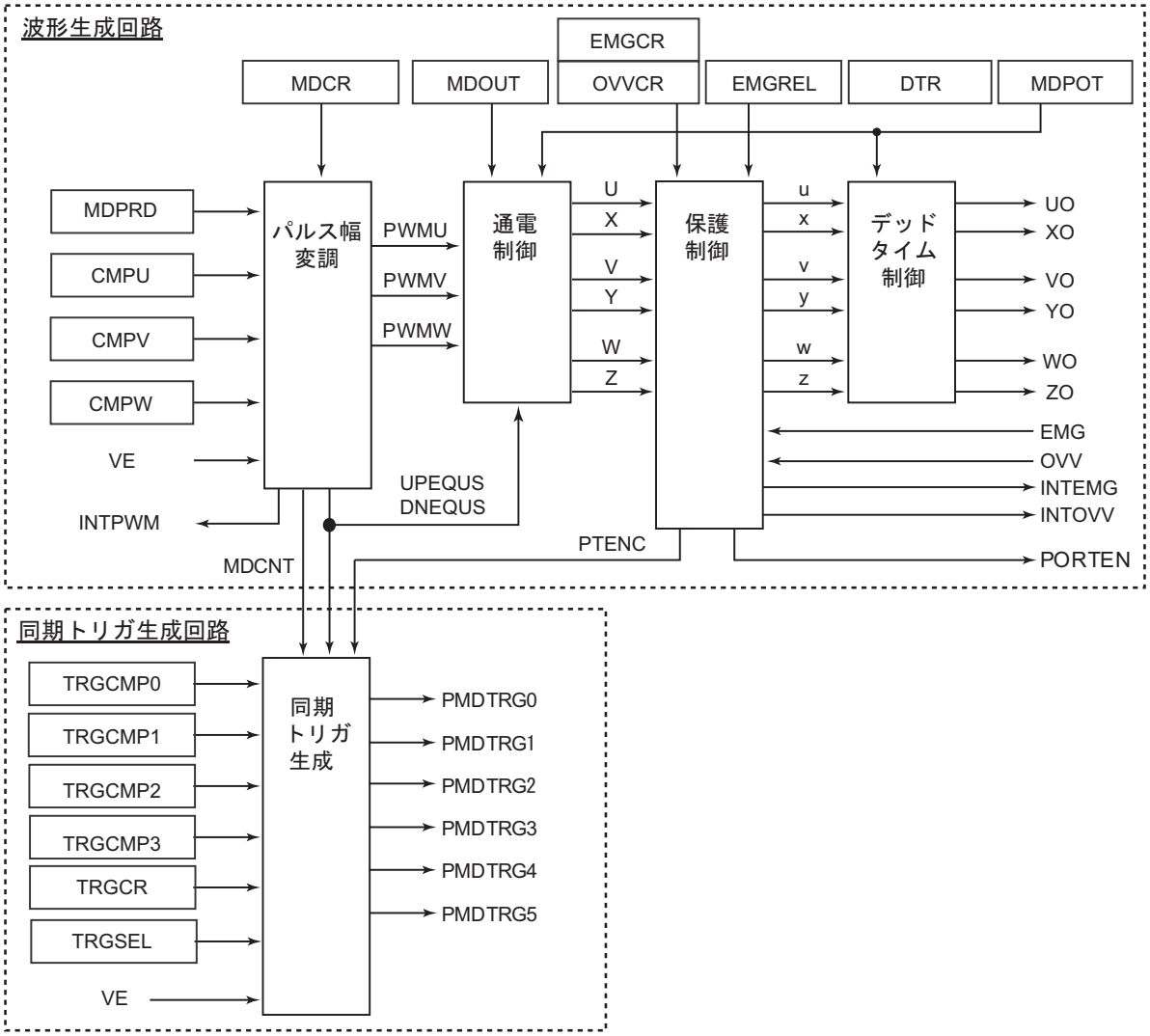


図 15-3 PMD 回路概略図

PMD(プログラマブルモータドライバ)回路は波形生成回路と同期トリガ生成回路の 2 ブロックから成り、波形生成回路はパルス幅変調回路、通電制御回路、保護制御回路、デッドタイム制御回路で構成されています。

- パルス幅変調回路は、PWM キャリアが共通で 3 相の独立した PWM 波形を生成します。
- 通電制御回路は U、V、W 相の各上下相の出力パターンを決定します。
- 保護回路では EMG 入力、OVV 入力による緊急出力停止を行ないます。
- デッドタイム制御回路では上下相の切り替え時の短絡を防止します。
- 同期トリガ生成回路では ADC への同期トリガ信号を生成します。

15.2　PMD レジスター覧

制御レジスタとアドレスは以下の通りです。

ベースアドレスは、「メモリマップ」章の「周辺機能ベースアドレス一覧」を参照ください。

レジスタ名		Address(Base+)
PMD イネーブルレジスタ	PMDxMDEN	0x0000
ポート出力モードレジスタ	PMDxPORTMD	0x0004
PMD コントロールレジスタ	PMDxMDCR	0x0008
PWM カウンタステータスレジスタ	PMDxCNTSTA	0x000C
PWM カウンタレジスタ	PMDxMDCNT	0x0010
PWM 周期レジスタ	PMDxMDPRD	0x0014
PWM コンペア U レジスタ	PMDxCMPU	0x0018
PWM コンペア V レジスタ	PMDxCMPV	0x001C
PWM コンペア W レジスタ	PMDxCMPW	0x0020
モード選択レジスタ	PMDxMODESEL	0x0024
PMD 通電制御レジスタ	PMDxMDOUT	0x0028
PMD 出力設定レジスタ	PMDxMDPOT	0x002C
EMG 解除レジスタ	PMDxEMGREL	0x0030
EMG コントロールレジスタ	PMDxEMGCR	0x0034
EMG ステータスレジスタ	PMDxEMGSTA	0x0038
OVV コントロールレジスタ	PMDxOVVCR	0x003C
OVV ステータスレジスタ	PMDxOVVSTA	0x0040
デッドタイムレジスタ	PMDxDTR	0x0044
トリガコンペア 0 レジスタ	PMDxTRGCMP0	0x0048
トリガコンペア 1 レジスタ	PMDxTRGCMP1	0x004C
トリガコンペア 2 レジスタ	PMDxTRGCMP2	0x0050
トリガコンペア 3 レジスタ	PMDxTRGCMP3	0x0054
トリガコントロールレジスタ	PMDxTRGCR	0x0058
トリガ出力モード設定レジスタ	PMDxTRGMD	0x005C
トリガ出力選択レジスタ	PMDxTRGSEL	0x0060
トリガ更新タイミング設定レジスタ	PMDxTRGSYNCR	0x0064

15.2.1 PMDxMDEN(PMD イネーブルレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	PWMEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-1	-	R	リードすると"0"が読めます
0	PWMEN	R/W	波形合成機能の許可/禁止を制御。 0: 禁止 1: 許可 注)ポートを機能出力(PWM 出力)として設定している場合、<PWMEN> = "0"でポートは出力禁止(ハイインピーダンス)になります。 注)出力ポート極性等、<PWMEN>以外の初期設定を行った後に、<PWMEN> = "1"に設定して下さい。

15.2.2　PMDxPORTMD(ポート出力モードレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	PORTMD	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	−	R	リードすると"0"が読めます
1-0	PORTMD[1:0]	R/W	ツールブレーク時のポート制御の設定 00 : 上相 High-z / 下相 High-z 01 : 上相 High-z / 下相 PMD 出力 10 : 上相 PMD 出力 / 下相 High-z 11 : 上相 PMD 出力 / 下相 PMD 出力 ポートを機能出力(PMW 出力)で使用中にツールブレークが発生した場合の上相(UO/VO/WO)および下相(XO/YO/ZO)のポート出力を設定します。 "High-z"選択時にツールブレークが発生した場合、ポートを出力禁止(ハイインピーダンス)にします。それ以外の場合は PMD 出力に従います。

注 1)　<PWMEN> = "0" 時は PORTMD の設定に関わらず出力禁止(ハイインピーダンス)になります。
注 2)　ポート出力制御は PMDxEMGCR<EMGMD[1:0]> の設定により EMG 入力時にも行なわれます。

15.2.3 PMDxMODESEL (モード選択レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	DCMPEN	-	-	-	MDSEL3	MDSEL2	MDSEL1	MDSEL0
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7	DCMPEN	R/W	VE レジスタと PMD レジスタの自動切り替え許可 0: 2 レジスタ切り替え禁止 (<MDSEL0>設定のレジスタのみ使用) 1: 2 レジスタ切り替え許可 (PWM カウンタのアップ期間とダウン期間で切り替え) (注) <MDSEL0> = "1"の場合に有効 (注) 三角波キャリア選択(PMDxMDCR<PWMMD> = "1")時に有効
6-4	−	R	リードすると"0"が読めます。
3	MDSEL3	R/W	モード選択 3 0: バスモード(PMD レジスタ使用: PMDxTRGSEL) 1: VE モード(VE レジスタ使用: VETRGSEL1)
2	MDSEL2	R/W	モード選択 2 0: バスモード(PMD レジスタ使用: PMDxTRGCMP0 および PMDxTRGCMP1) 1: VE モード(VE レジスタ使用: VETRGCMP01 および VETRGCMP11)
1	MDSEL1	R/W	モード選択 1 0: バスモード(PMD レジスタ使用: PMDxMDOUT) 1: VE モード(VE レジスタ使用: VEOUTCR1)
0	MDSEL0	R/W	モード選択レジスタ 0 0: バスモード(PMD レジスタ使用: PMDxCMPU,PMDxCMPV および PMDxCMPW) 1: VE モード(VE レジスタ使用: VECMPU1,VECMPV1,VECMPW1 レジスタの選択および VEEMGRS1 レジスタ許可設定)

15.2.4　パルス幅変調回路

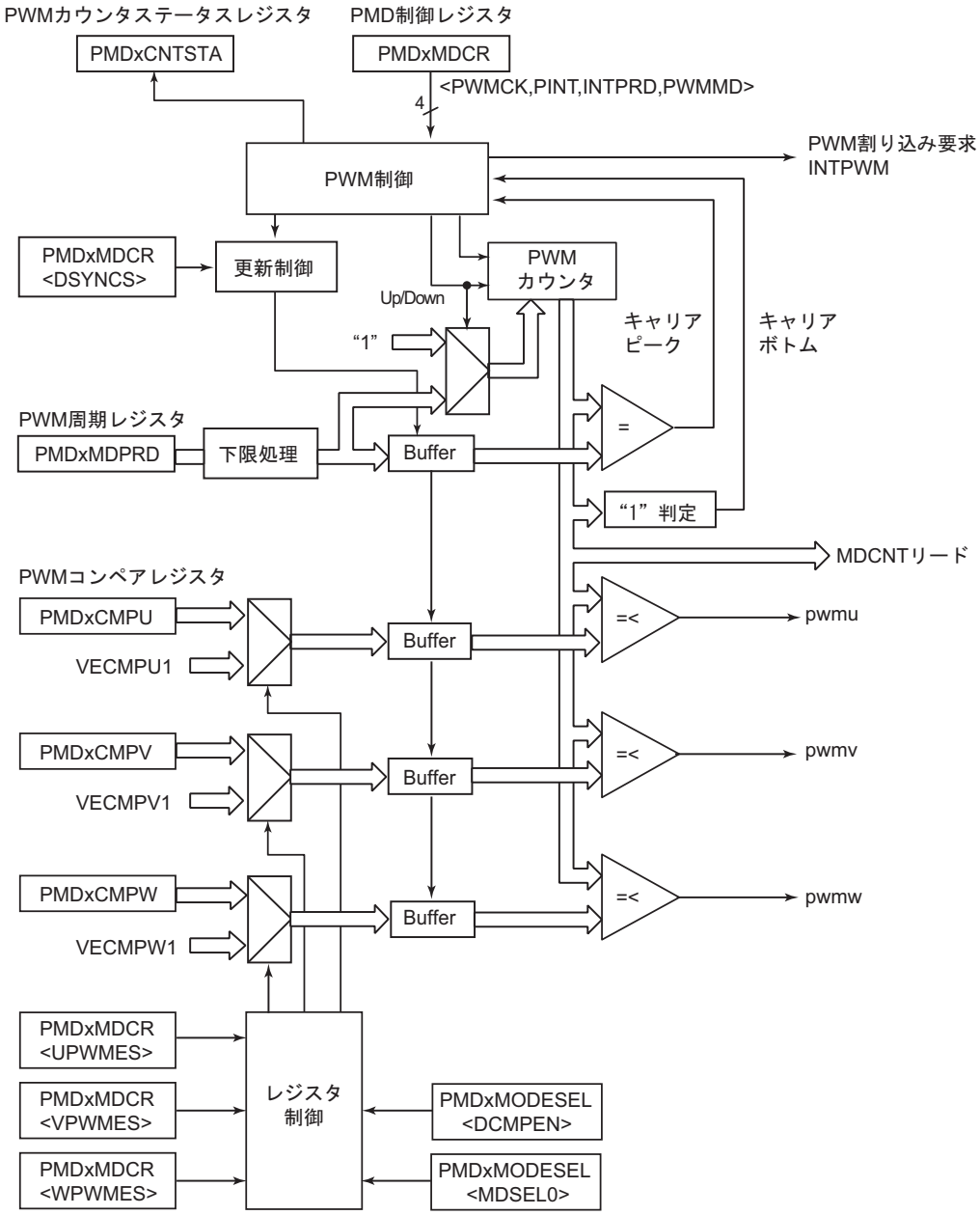


図 15-4 パルス幅変調回路概略図

パルス幅変調回路は、16bit のアップ/ダウンカウンタである PWM カウンタを持ち、1/fsys (25[ns] @40[MHz]) の分解能で PWM キャリアを生成します。PWM 周期延長モード(<PWMCK> = "1")にすることにより、PWM カウンタは 4/fsys (100[ns]@40[MHz])の分解能で PWM キャリアを生成します。

PWM キャリアの波形モードは PWM モード 0 としてエッジ PWM(のこぎり波変調)、モード 1 としてセンタ PWM(三角波変調)を選択可能です(「図 15-5 PWM 波形」参照)。また、三角波変調ではセンタ PWM の他に立ち下がりエッジ固定と立ち上がりエッジ固定の PWM を相別に選択することができます。(「図 15-6 三角波キャリア PWM のエッジ固定波形」参照)。

1. PWM 周期設定

PMDxMDPRD により PWM 周期を決定します。PMDxMDPRD はダブルバッファ構成であり、後段バッファは PWM 周期で更新されます。PWM 半周期毎の更新も選択できます(「表 15-1 PMDxMDPRD, PMDxCMPU/V/W および VECMPU1/V1/W1 バッファ更新制御」参照)。

$$\text{のこぎり波変調PWM：PMDxMDPRDレジスタ設定} = \frac{\text{システムクロックfsys[Hz]}}{\text{PWM周波数[Hz]}}$$

$$\text{三角波変調ＰWM：PMDxMDPRDレジスタ設定値} = \frac{\text{システムクロックfsys[Hz]}}{\text{PWM周波数[Hz]} \times 2}$$

2. コンペア機能

3 相の PWM コンペアレジスタ(PMDxCMPU/V/W)の値と、PWM カウンタ PMDxMDCNT <MDCNT[15:0]>により生成される PWM キャリアをコンパレータで大小比較して所望のデューティの PWM 波形を生成します。

各相の PWM コンペアレジスタはダブルバッファ構成となります。PWM コンペアレジスタの値は PWM 周期に同期して後段バッファにロードされます。PWM 半周期での更新(半周期毎ロード)も選択できます(「表 15-1 PMDxMDPRD, PMDxCMPU/V/W および VECMPU1/V1/W1 バッファ更新制御」参照)。

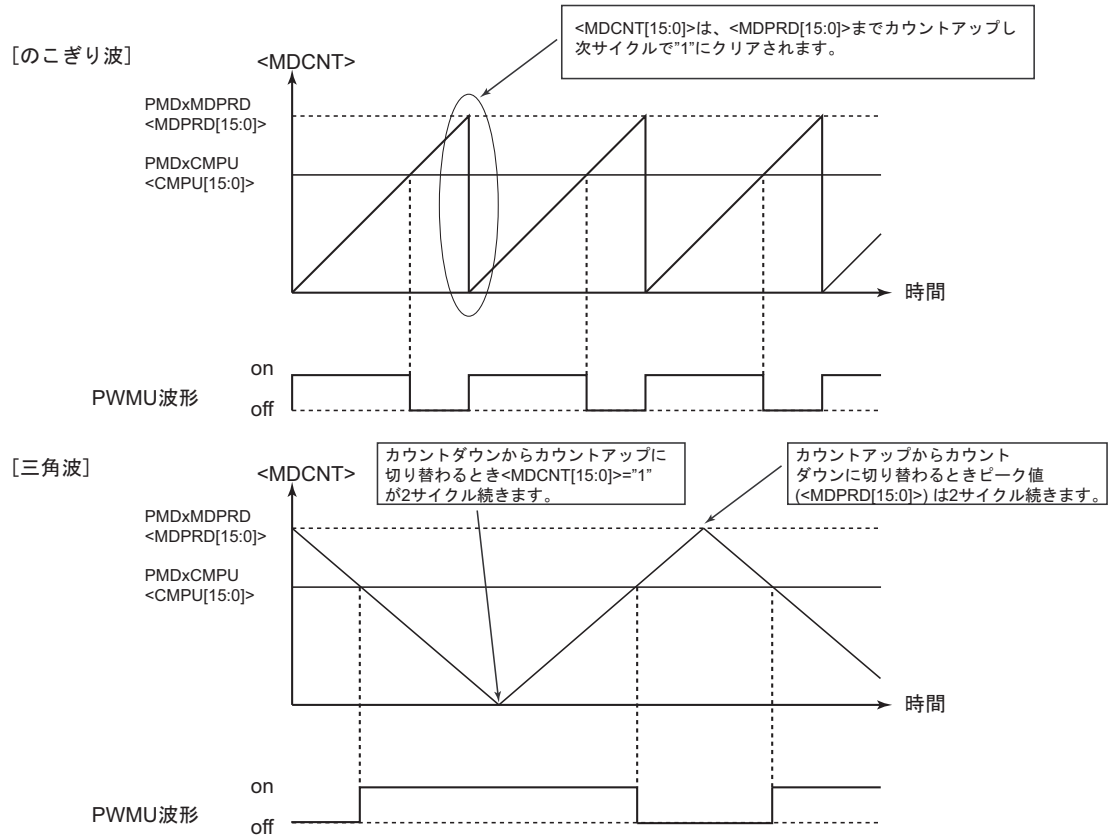


図 15-5 PWM 波形

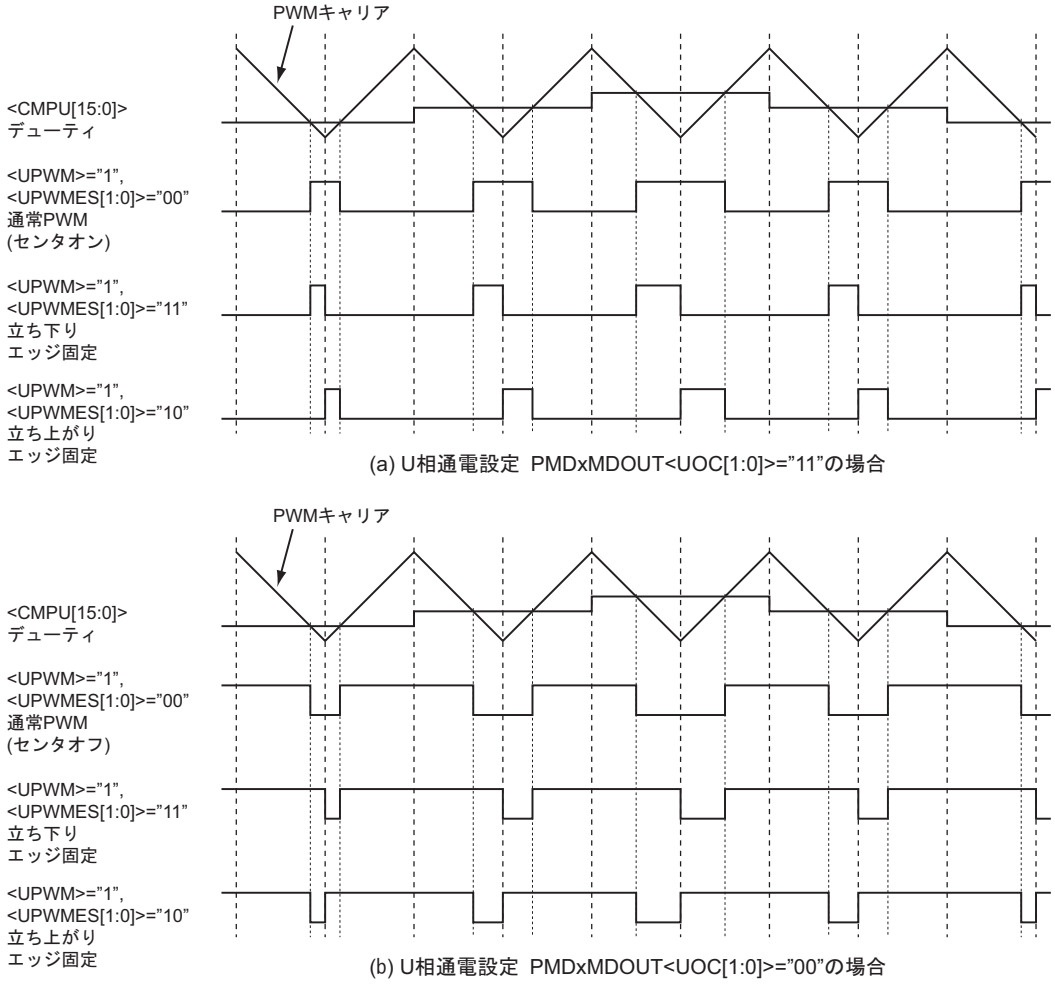


図 15-6 三角波キャリア PWM のエッジ固定波形

3. 波形モード

2 種類の 3 相 PWM の生成方法を選択できます。

1. 3 相独立 Duty モード: 3 相の PWM コンペアレジスタにそれぞれ独立した値を設定して、3 相の独立した PWM 波形を生成します。これは、正弦波等の任意の駆動波形生成に使用します。

2. 3 相共通 Duty モード: U 相の PWM コンペアレジスタだけに設定し、U 相の設定値で 3 相同一の PWM 波形を生成します。これは、DC モータの矩形波駆動に使用します。

4. 割り込み処理

パルス幅変調回路では PWM 波形に同期して PWM 割り込み要求を発生します。割り込み要求の発生タイミングは PWM キャリアピークと PWM キャリアボトムを選択できます。

PWM 割り込みの頻度は PWM 周期半周期に 1 回、1 周期に 1 回、2 周期に 1 回、4 周期に 1 回を選択することができます。

15.2.4.1 PMDxMDCR (PMD コントロールレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	WPWMES		VPWMES		UPWMES		DSYNCS	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	DTCREN	PWMCK	SYNTMD	DTYMD	PINT	INTPRD		PWMMD
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます。
15-14	WPWMES[1:0]	R/W	W 相 PWM エッジ設定 00:エッジ固定なし(センタ PWM) 01: Reserved 10: PWM 立ち上がりエッジ固定(キャリアボトムに固定) 11: PWM 立ち下がりエッジ固定(キャリアボトムに固定) 注) 三角波キャリア選択(<PWMMD> = "1")時に有効
13-12	VPWMES[1:0]	R/W	V 相 PWM エッジ設定 00:エッジ固定なし(センタ PWM) 01: Reserved 10: PWM 立ち上がりエッジ固定(キャリアボトムに固定) 11: PWM 立ち下がりエッジ固定(キャリアボトムに固定) 注) 三角波キャリア選択(<PWMMD> = "1")時に有効
11-10	UPWMES[1:0]	R/W	U 相 PWM エッジ設定 00:エッジ固定なし(センタ PWM) 01: Reserved 10: PWM 立ち上がりエッジ固定(キャリアボトムに固定) 11: PWM 立ち下がりエッジ固定(キャリアボトムに固定) 注) 三角波キャリア選択(<PWMMD> = "1")時に有効
9-8	DSYNCS[1:0]	R/W	Duty コンペアレジスタと PWM 周期レジスタのダブルバッファ更新タイミング 00: 割り込み周期設定(INTPRD)によります。(表 15-1 参照) 0.5 周期割り込み要求選択(<INTPRD> = "00")時はキャリアピークとボトムで更新、それ以外ではキャリアピーク更新 01: PWM キャリアボトムで更新 10: PWM キャリアピークで更新 11: PWM キャリアのピークとボトムで更新 注 1) ノコギリ波キャリア選択(<PWMMD> = "0")時は設定に関わらずキャリアピーク更新になります。 注 2) PMDxMDEN<PWMEN> = "0" 時は設定に関わらず非同期更新になります。
7	DTCREN	R/W	デッドタイム補正許可 0: 禁止 1: 許可
6	PWMCK	R/W	PWM 周期延長モードを指定 0: 通常周期 1: 4 倍周期 PWM カウンタのカウント周期を設定します。 通常周期設定:ノコギリ波 1/fsys (25[ns]@40[MHz]) / 三角波 2/fsys (50[ns]@40[MHz]) 4 倍周期設定:ノコギリ波 4/fsys (100[ns]@40[MHz]) / 三角波 8/fsys (200[ns]@40[MHz])
5	SYNTMD	R/W	ポート出力モード設定 <nOC>,<nPWM>,<SYNTMD>との組み合わせでポート出力を制御します。 (表 15-4)

Bit	Bit Symbol	Type	機能
4	DTYMD	R/W	DUTY モード選択 0: 3 相共通 1: 3 相独立 デューティの設定を PMDxCMPU/V/W の 3 相独立で行うか、PMDxCMPU レジスタの設定を 3 相共通で用いるかの選択を行います。
3	PINT	R/W	PWM 割り込み要求タイミング選択 0: PWM キャリアボトム(PMDxMDCNT<MDCNT[15:0]> = 0x0001)で割り込み要求発生 1: PWM キャリアピーク(PMDxMDCNT<MDCNT[15:0]> = PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>)で割り込み要求発生 注 1) PWM キャリアがノコギリ波(<PWMMD> = "0")の場合はキャリアピークになります。 注 2) 割り込み周期が 0.5 周期(<INTPRD> = "00")の場合はキャリアピークとキャリアボトムの両方になります。
2-1	INTPRD[1:0]	R/W	PWM 割り込み要求周期選択 00: PWM 0.5 周期毎に割り込み要求 注 1) PWM キャリアが三角波(<PWMMD> = "1")の場合のみ設定可能 注 2) コンペアレジスタ(PMDxCMPU/V/W)および周期レジスタ PMDxMDPRD のダブルバッファは PWM キャリアのピークとボトムで更新されます。 01: PWM 1 周期毎に割り込み要求 10: PWM 2 周期毎に割り込み要求 11: PWM 4 周期毎に割り込み要求 PWM 割り込み要求の発生する頻度を PWM 周期の 0.5 周期/1 周期/2 周期/4 周期に 1 回から選択します。
0	PWMMD	R/W	PWM キャリア波形選択 0: PWM モード 0(エッジ PWM、ノコギリ波) 1: PWM モード 1(センタ PWM、三角波)

表 15-1 PMDxMDPRD, PMDxCMPU/V/W および VECMPU1/V1/W1 バッファ更新制御

設定		更新タイミング
<DSYNCS[1:0]>	<INTPRD[1:0]>	
00	1x	PWM キャリアピークで更新
	x1	PWM キャリアピークで更新
	00	PWM キャリアのピークとボトムで更新
01	xx	PWM キャリアボトムで更新
10	xx	PWM キャリアピークで更新
11	xx	PWM キャリアのピークとボトムで更新

x : Don’t care

表 15-2 PMDxCMPU/V/W および VECMPU1/V1/W1 レジスタ切り替え制御

共通設定		相別設定	レジスタ選択信号
<DSYNCS[1:0]>	<INTPRD[1:0]>	<UPWMES[1]> <VPWMES[1]> <WPWMES[1]>	
01	xx	x	VE レジスタ
10	xx	x	VE レジスタ
11	xx	0	アップカウント中:PMD レジスタ ダウンカウント中:VE レジスタ
		1	VE レジスタ
00	00	0	アップカウント中:PMD レジスタ ダウンカウント中:VE レジスタ
		1	VE レジスタ

注) <MDSEL0> = "1", <DCMEN> = "1", <PWMMD> = "1" の場合に有効

x : Don’t care

15.2.4.2　PMDxCNTSTA (PWM カウンタステータスレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	UPDWN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-1	–	R	リードすると"0"が読めます。
0	UPDWN	R	PWM カウンタフラグ 0: アップカウント中 1: ダウンカウント中 PWM カウンタがアップカウント中かダウンカウント中かを示します。 注) ノコギリ波キャリア(PMDxMDCR<PWMMD> = "0")は、常に"0"が読み出されます。

15.2.4.3 PMDxMDCNT(PWM カウンタレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	MDCNT							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	MDCNT							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	MDCNT[15:0]	R	PWM カウンタ PWM キャリア波形となるアップダウンカウンタを読み出せます。 カウンタ値分解能 1/fsys (25[ns]@40[MHz]) 注 1) 4 倍周期モード(PMDxMDCR<PWMCK> = "1")の場合、分解能は 4/fsys (100[ns]@40[MHz]) になります。 注 2) PMD 禁止(PMDxMDEN<PWMEN> = "0")の PWM カウンタ値は PMDxMDCR<PWMMD> 設定(キャリア波形選択)によって、以下のようになります。 <PWMMD> = "0"の場合: 0x0001 <PWMMD> = "1"の場合: PMDxMDPRD<MDPRD[15:0]>レジスタ 値

15.2.4.4　PMDxMDPRD(PWM 周期レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	MDPRD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	MDPRD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	MDPRD[15:0]	R/W	PWM 周期設定。 <MDPRD[15:0]> ≥ 0x010 PWM 周期は PWM 周期延長モード PMDxMDCR<PWMCK>と PWM キャリア波形<PWMMD>の組み合わせで以下の計算式で表されます。 <PWMCK> = "0"の場合、<PWMMD> = "0" : <MDPRD> × 1/fsys <PWMMD> = "1" : <MDPRD> × 2/fsys <PWMCK> = "1"の場合、 <PWMMD> = "0" : <MDPRD> × 4/fsys <PWMMD> = "1" : <MDPRD> × 8/fsys 注) <MDPRD[15:0]>に 0x010 未満の値を設定した場合、自動的に<MDPRD[15:0]> = 0x010 として動作します(レジスタには設定した値が入ります)。

注 1)　このレジスタへのバイト書き込み(上位 8bit([15:8]), 下位 8bit([7:0]を別々に書き込み)はしないでください。バイト書き込みした場合の動作は保証できません。

注 2)　PMDxMDPRD レジスタはダブルバッファ構成のため PWM カウンタ動作中でも変更可能です。

注 3)　後段バッファの更新タイミングは「表 15-1 PMDxMDPRD, PMDxCMPU/V/W および VECMPU1/V1/W1 バッファ更新制御」を参照してください。

注 4)　リード時は前段バッファの値(バスから設定したデータ)をリードします。

15.2.4.5 PMDxCMPU (U 相用 PWM コンペアレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	CMPU							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	CMPU							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	CMPU[15:0]	R/W	U 相 PWM パルス幅の設定。 0x0000 ~ 0xFFFF 注) <CMPU> > <MDPRD>の場合、デューティ 100%になります。 U 相 PWM のパルス幅を決定する比較レジスタで、ダブルバッファ構成となっています。後段のバッファと PWM カウンタとを大小比較しパルス幅を決定します。 パルス幅は PWM 周期延長モード PMDxMDCR<PWMCK>と PWM キャリア波形<PWMMD>の組み合わせで以下の計算式で表されます。 <PWMCK> = "0"の場合、<PWMMD> = "0" : <CMPU> × 1/fsys <PWMMD> = "1" : <CMPU> × 2/fsys <PWMCK> = "1"の場合、 <PWMMD> = "0" : <CMPU> × 4/fsys <PWMMD> = "1" : <CMPU> × 8/fsys

注 1) バスから更新したコンペアレジスタをダブルバッファ後段にロードさせる場合は、PMDxMODESEL<MDSEL0>に"0" を書き込んでバスモード(デフォルト)にしてください。

注 2) このレジスタへのバイト書き込み(上位 8bit([15:8]), 下位 8bit([7:0]を別々に書き込み)はしないでください。バイト書き込みした場合の動作は保証できません。

注 3) PMDxCMPU レジスタはダブルバッファ構成のため PWM カウンタ動作中でも変更可能です。

注 4) 後段バッファの更新タイミングは「表 15-1 PMDxMDPRD, PMDxCMPU/V/W および VECMPU1/V1/W1 バッファ更新制御」を参照してください。

注 5) リード時は前段バッファの値(バスから設定したデータ)をリードします。

15.2.4.6　PMDxCMPV (V 相用 PWM コンペアレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	CMPV							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	CMPV							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	CMPV[15:0]	R/W	V 相 PWM パルス幅の設定。 0x0000 ~ 0xFFFF 注) <CMPV> > <MDPRD>の場合、デューティ 100%になります。 V 相 PWM のパルス幅を決定する比較レジスタで、ダブルバッファ構成となっています。後段のバッファと PWM カウンタとを大小比較しパルス幅を決定します。 パルス幅は PWM 周期延長モード PMDxMDCR<PWMCK>と PWM キャリア波形<PWMMD>の組み合わせで以下の計算式で表されます。 <PWMCK> = "0"の場合、<PWMMD> = "0" : <CMPV> × 1/fsys <PWMMD> = "1" : <CMPV> × 2/fsys <PWMCK> = "1"の場合、 <PWMMD> = "0" : <CMPV> × 4/fsys <PWMMD> = "1" : <CMPV> × 8/fsys

注 1)　バスから更新したコンペアレジスタをダブルバッファ後段にロードさせる場合は、PMDxMODESEL<MDSEL0>に"0" を書き込んでバスモード(デフォルト)にしてください。

注 2)　このレジスタへのバイト書き込み(上位 8bit([15:8]), 下位 8bit([7:0]を別々に書き込み)はしないでください。バイト書き込みした場合の動作は保証できません。

注 3)　PMDxCMPV レジスタはダブルバッファ構成のため PWM カウンタ動作中でも変更可能です。

注 4)　後段バッファの更新タイミングは「表 15-1 PMDxMDPRD, PMDxCMPU/V/W および VECMPU1/V1/W1 バッファ更新制御」を参照してください。

注 5)　リード時は前段バッファの値(バスから設定したデータ)をリードします。

15.2.4.7 PMDxCMPW (W 相用 PWM コンペアレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	CMPW							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	CMPW							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます
15-0	CMPW[15:0]	R/W	W 相 PWM パルス幅の設定。 0x0000 ~ 0xFFFF 注) <CMPW> > <MDPRD>の場合、デューティ 100%になります。 W 相 PWM のパルス幅を決定する比較レジスタで、ダブルバッファ構成となっています。後段のバッファと PWM カウンタとを大小比較しパルス幅を決定します。 パルス幅は PWM 周期延長モード PMDxMDCR<PWMCK>と PWM キャリア波形<PWMMD>の組み合わせで以下の計算式で表されます。 <PWMCK> = "0"の場合、<PWMMD> = "0" : <CMPW> × 1/fsys <PWMMD> = "1" : <CMPW> × 2/fsys <PWMCK> = "1"の場合、 <PWMMD> = "0" : <CMPW> × 4/fsys <PWMMD> = "1" : <CMPW> × 8/fsys

注 1) バスから更新したコンペアレジスタをダブルバッファ後段にロードさせる場合は、PMDxMODESEL<MDSEL0>に"0" を書き込んでバスモード(デフォルト)にしてください。

注 2) このレジスタへのバイト書き込み(上位 8bit([15:8]), 下位 8bit([7:0]を別々に書き込み)はしないでください。バイト書き込みした場合の動作は保証できません。

注 3) PMDxCMPW レジスタはダブルバッファ構成のため PWM カウンタ動作中でも変更可能です。

注 4) 後段バッファの更新タイミングは「表 15-1 PMDxMDPRD, PMDxCMPU/V/W および VECMPU1/V1/W1 バッファ更新制御」を参照してください。

注 5) リード時は前段バッファの値(バスから設定したデータ)をリードします。

15.2.5　通電制御回路

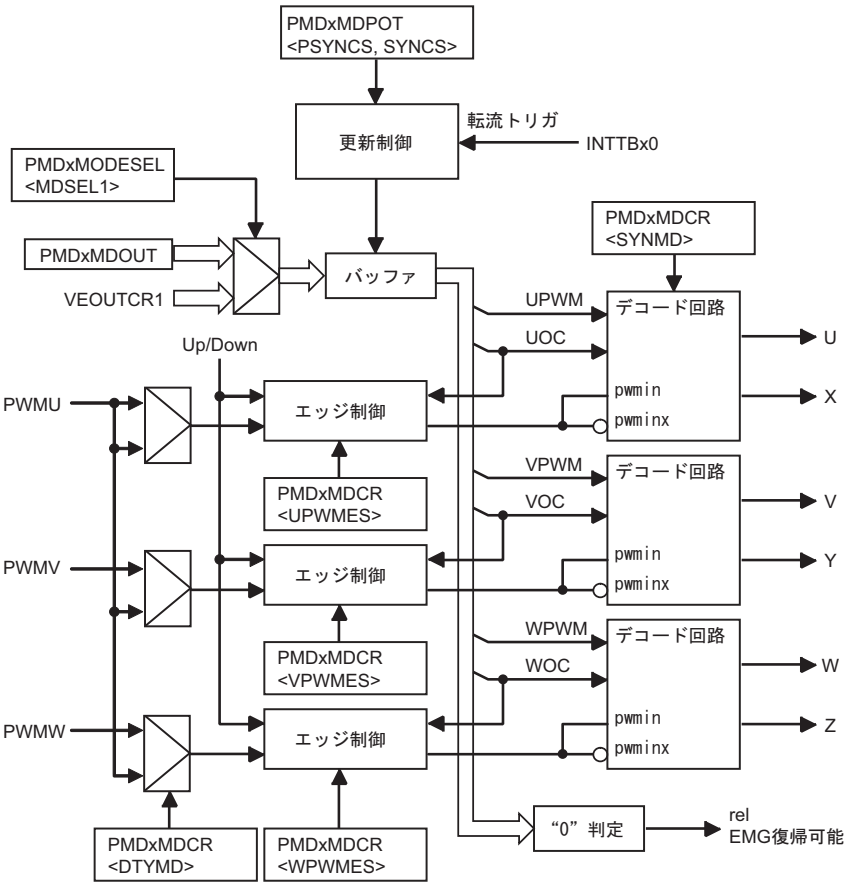


図 15-7 通電制御回路概略図

通電制御レジスタ PMDxMDOUT(VEOUTCR1)と出力設定レジスタ PMDxMDPOT の設定により、出力ポートの制御を行います。PMDxMDOUT(VEOUTCR1)レジスタはダブルバッファ構成であり、更新タイミングは PWM への同期更新と非同期更新を選択できます。また、トリガ入力に同期した更新を選択することも可能です。(更新タイミングは「表 15-3 PMDxMDOUT(VEOUTCR1)バッファの更新タイミング」を参照してください。)

U,V,W それぞれに、PWM 出力と High/Low 出力との選択を PMDxMDOUT(VEOUTCR1)の<WPWM>,<VPWM>,<UPWM>により設定します。PWM 出力を選択すると PWM 波形が、High/Low 出力を選択すると High 固定または Low 固定の出力が得られます。それぞれの出力を High にするか Low にするかは PMDxMDOUT(VEOUTCR1)の<WOC>,<VOC>,<UOC>で選択します。PMDxMDOUT (VEOUTCR1)と PMDxMDPOT によるポート出力設定と PMD 制御レジスタ(PMDxMDCR)のポート出力モード設定によって得られる端子出力の関係については「表 15-4 <UOC>,<VOC>,<WOC>および<UPWM>,<VPWM>,<WPWM>の各ビット設定によるポート出力」を参照してください。

表 15-3 PMDxMDOUT(VEOUTCR1)バッファの更新タイミング

		PSYNCS 設定			
		00	01	10	11
SYNCS 設定	00	常時更新	PWM キャリアボトム	PWM キャリアピーク	PWM キャリアピークと PWM キャリアボトム
	01	–	–	–	–
	10	INTTBx0 発生時	INTTBx0 発生毎に最初の PWM キャリアボトム	INTTBx0 発生毎に最初の PWM キャリアピーク	INTTBx0 発生毎に最初の PWM キャリアピークか PWM キャリアボトム
	11	–	–	–	–

注) PMD 禁止(PMDxMDCR<PMWEN> = "0")にすると保持されているトリガ条件はクリアされます。

15.2.5.1　PMDxMDPOT (PMD 出力設定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	SYNCS	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	PSYNCS	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-10	−	R	リードすると"0"が読めます。
9-8	SYNCS[1:0]	R/W	PMDxMDOUT(VEOUTCR1)設定転送タイミング選択(トリガ同期設定) 00：非同期 01：Reserved 10：INTTBx0 (TMRBx 割り込み要求) 発生時 11：Reserved 通電制御レジスタのバッファ更新タイミングを選択します。 注 1) バッファ更新タイミングは、<PSYNC>設定と<SYNCS>設定の組み合わせで決まります。(「表 15-3 PMDxMDOUT(VEOUTCR1)バッファの更新タイミング」参照) 注 2) PMD 禁止(PMDxMDEN<PWMEN> = "0") 時は設定に関わらず非同期になります。
7-4	−	R	リードすると"0"が読めます。
3	−	R/W	常に"0"を書いてください。
2	−	R/W	常に"0"を書いてください。
1-0	PSYNCS[1:0]	R/W	PMDxMDOUT(VEOUTCR1) 設定転送タイミング選択(PWM 同期設定)。 00: PWM 非同期 PMDxMDOUT/VEOUTCR1 レジスタ更新と同時にポート出力に反映されます。 01: キャリアボトム(<MDCNT[15:0]> = "1"の時) 10: キャリアピーク(<MDCNT[15:0]> = <MDPRD[15:0]>の時) 11: キャリアピークおよびキャリアボトム 通電制御レジスタのバッファ更新タイミングを選択します。 注 1) ノコギリ波キャリア(PMDxMDCR<PWMMD> = "0")の場合、 "00"以外ではキャリアピーク更新になります。 注 2) バッファ更新タイミングは、<PSYNC>設定と<SYNCS>設定の組み合わせで決まります。(「表 15-3 PMDxMDOUT(VEOUTCR1)バッファの更新タイミング」参照) 注 3) PMD 禁止(PMDxMDEN<PWMEN> = "0")時は設定に関わらず PWM 非同期になります。

注)　PMDxMDEN<PWMEN> = "0"の状態で選択を行って下さい。

15.2.5.2 PMDxMDOUT(PMD 通電制御レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	WPWM	VPWM	UPWM
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	WOC		VOC		UOC	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-11	−	R	リードすると"0"が読めます。
10	WPWM	R/W	W 相 PWM 出力設定 0: H/L 出力 1: PWM 出力 <WOC>,<WPWM>,<SYNTMD>との組み合わせでポート出力を制御します。(表 15-4 参照)
9	VPWM	R/W	V 相 PWM 出力設定 0: H/L 出力 1: PWM 出力 <VOC>,<VPWM>,<SYNTMD>との組み合わせでポート出力を制御します。(表 15-4 参照)
8	UPWM	R/W	U 相 PWM 出力設定 0: H/L 出力 1: PWM 出力 <UOC>,<UPWM>,<SYNTMD>との組み合わせでポート出力を制御します。(表 15-4 参照)
7-6	−	R	リードすると"0"が読めます。
5-4	WOC[1:0]	R/W	W 相通電設定 <WOC>,<WPWM>,<SYNTMD>との組み合わせでポート出力を制御します。(表 15-4 参照)
3-2	VOC[1:0]	R/W	V 相通電設定 <VOC>,<VPWM>,<SYNTMD>との組み合わせでポート出力を制御します。(表 15-4 参照)
1-0	UOC[1:0]	R/W	U 相通電設定 <UOC>,<UPWM>,<SYNTMD>との組み合わせでポート出力を制御します。(表 15-4 参照)

注 1) バスから更新した PMDxMDOUT(VEOUTCR1)レジスタをダブルバッファ後段にロードさせる場合は、PMDxMODESEL<MDSEL0>に"0" を書き込んでバスモード(デフォルト)にしてください。

注 2) このレジスタへのバイト書き込み(上位 8bit([15:8]), 下位 8bit([7:0]を別々に書き込み)はしないでください。バイト書き込みした場合の動作は保証できません。

注 3) 通電制御レジスタはダブルバッファ構成のため PWM カウンタ動作中でも変更可能です。

注 4) 後段バッファの更新タイミングは「表 15-3 PMDxMDOUT(VEOUTCR1)バッファの更新タイミング」を参照してください。

注 5) リード時は前段バッファの値(バスから設定したデータ)をリードします。

表 15-4 <UOC>,<VOC>,<WOC>および<UPWM>,<VPWM>,<WPWM>の各ビット設定によるポート出力

PMDxMDCR<SYNTMD> = "0"
ハイサイド：ローアクティブ
ローサイド：ハイアクティブ

PMDxMDOUT 通電制御		<WPWM><VPWM><UPWM> 出力選択			
上相	下相	0:H/L 出力		1: PWM 出力	
<WOC[1]> <VOC[1]> <UOC[1]>	<WOC[0]> <VOC[0]> <UOC[0]>	上相出力	下相出力	上相出力	下相出力
0	0	H	L	PWM	PWM
0	1	H	H	H	PWM
1	0	L	L	$\overline{PWM}$	L
1	1	L	H	$\overline{PWM}$	$\overline{PWM}$

PMDxMDCR<SYNTMD> = "1"
ハイサイド：ローアクティブ
ローサイド：ハイアクティブ

PMDxMDOUT 通電制御		<WPWM><VPWM><UPWM> 出力選択			
上相	下相	0:H/L 出力		1: PWM 出力	
<WOC[1]> <VOC[1]> <UOC[1]>	<WOC[0]> <VOC[0]> <UOC[0]>	上相出力	下相出力	上相出力	下相出力
0	0	H	L	PWM	PWM
0	1	H	H	H	$\overline{PWM}$
1	0	L	L	$\overline{PWM}$	L
1	1	L	H	$\overline{PWM}$	$\overline{PWM}$

15.2.6 保護制御回路

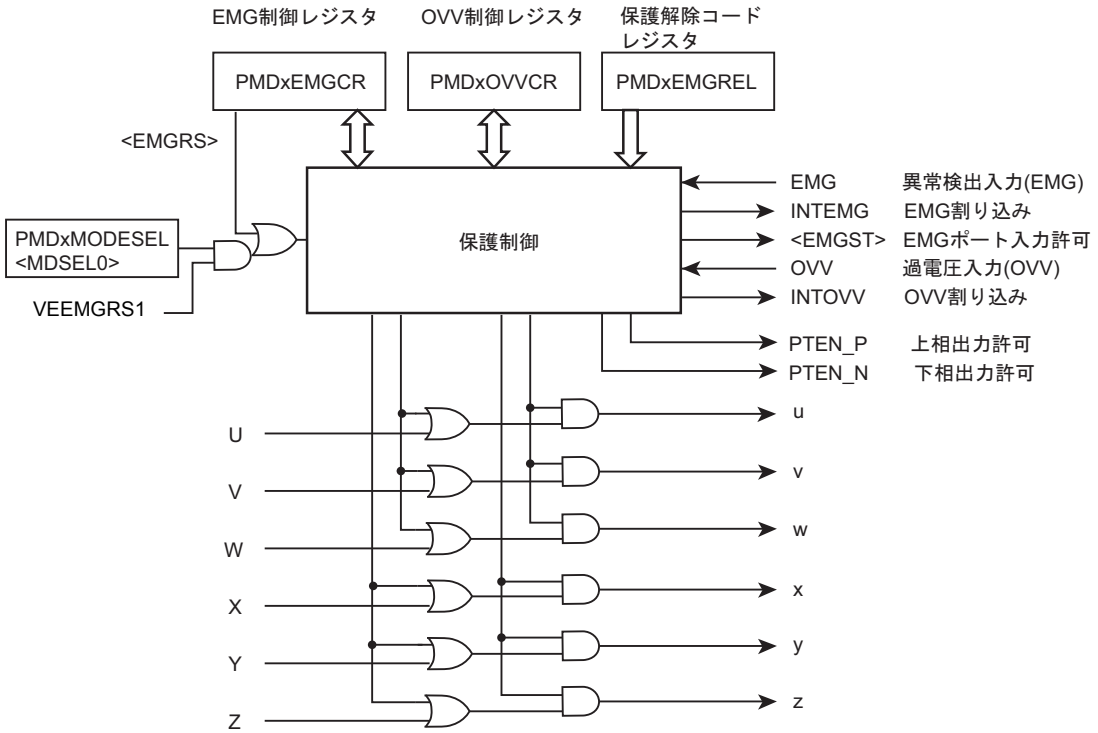


図 15-8 保護制御回路概略図

保護制御回路は、EMG 保護制御部と OVV 保護制御部から構成されます。

15.2.6.1　保護制御回路(EMG 入力部)

保護制御回路は EMG 保護制御とポート出力禁止部から構成され、EMG 入力が Low レベルになると動作します。

EMG 保護回路は緊急停止用の保護回路であり、EMG 入力があった場合(High → Low)、直ちに 6 本の PWM 出力を禁止し(PMDxEMGCR<EMGMD>の設定によります)、EMG 割り込み(INTEMG)を発生します。また<EMGMD>の設定により、外部出力ポートを"Hi-z"に設定する制御信号を出力します。

ツールブレークによる PMD 停止制御時も同様に 6 本の PWM 出力を禁止します、但し PMDxPORTMD<PORTMD>の設定によります。ツールブレーク時は PMDxPORTMD <PORTMD> の設定により、外部出力ポートの"Hi-z"制御を選択することができます。また、PMDxEMGSTA<EMGST>をリードした時、"1"の場合は EMG 保護状態であることを示します。

EMG 保護は EMG 制御レジスタ(PMDxEMGCR)で設定します。

EMG 保護状態の時は、ポート出力を全てインアクティブに設定(PMDxMDOUT(VEOUTCR1)の<UPWM>,<VPWM>,<WPWM>,<UOC>,<VOC>,<WOC> を全て"0") 後 (注 1) 、 PMDxEMGCR (VEEMGRS1)の<EMGRS>に"1"を設定することにより EMG 保護状態から復帰することができます。また、EMG 機能を禁止するには EMG 解除レジスタ(PMDxEMGREL)に 0x5A と 0xA5 を順番に設定後、PMDxEMGCR<EMGEN> に"0"を設定します(3 命令連続して行います)。ただし、EMG 保護入力が Low の期間は、復帰処理を行っても無視されます。PMDxEMGSTA<EMGI> をリードしポート入力が High になったことを確認してから復帰処理をしてください。

EMG 保護回路を禁止するには EMG 解除レジスタに所定のキーコード(0x5A、0xA5) を設定することではじめて可能になり、誤って EMG 保護回路を禁止することを防止します。

注 1)PMDxMDOUT(VEOUTCR1)のダブルバッファまで反映されている必要があります。

注 2)リセット解除後の EMG の解除手順について

EMG 端子と兼用となっているポートは、リセット解除後はポート機能が選択されていますが、EMG 保護回路は初期状態で動作状態(許可)となっており、EMG 保護状態となっている場合がありますので、イニシャルシーケンスにて、以下の手順で EMG 保護状態を解除してください。

1: ポートのファンクションレジスタ(PxFR)にて EMG 機能を選択します。
2: PMDxEMGSTA<EMGI>をリードし、"1"であることを確認します。
3: PMDxMDOUT(VEOUTCR1)の<UPWM>,<VPWM>,<WPWM>,<UOC>,<VOC>,<WOC>を全て"0"に設定し、ポート出力を全てインアクティブ出力にします。
4: PMDxEMGCR(VEEMGRS1)の<EMGRS>を"1"に設定し、EMG 保護状態から復帰させます。

なお、EMG 保護を禁止とする場合は、継続して以下の手順で行ないます。

5: PMDxEMGREL に禁止コードをライトします。(0x5A → 0xA5 の順)
6: PMDxEMGCR<EMGEN>に"0"を設定し、EMG 保護回路を禁止にします。

15.2.6.2 PMDxEMGREL (EMG 解除レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	EMGREL							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます
7-0	EMGREL[7:0]	W	EMG/OVV 禁止コード "0x5A"→"0xA5"に設定することにより EMG 機能と OVV 機能を禁止することができます。 禁止コード書き込み後、続けて PMDxEMGCR<EMGEN> = "0"または PMDxOVVCR<OVVEN> = "0"を設定してください。

注) EMG 禁止時と OVV 禁止時のそれぞれで禁止コードを書き込んでください。

15.2.6.3　PMDxEMGCR (EMG コントロールレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	EMGCNT			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	INHEN	EMGMD		-	EMGRS	EMGEN
リセット後	0	0	1	1	1	0	0	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-12	−	R	リードすると"0"が読めます。
11-8	EMGCNT[3:0]	R/W	EMG 入力検出時間 0x0 ~ 0xF("0"設定時はノイズフィルタをスルーします。) 異常検出入力のノイズ除去時間を設定します。 ノイズ除去時間は以下の計算式で表されます。 <EMGCNT[3:0]> × 16/fsys (分解能 400[ns] @40[MHz])
7-6	−	R	リードすると"0"が読めます。
5	INHEN	R/W	ツールブレークの許可/禁止 0:禁止 1: 許可 ツールからの PMD 停止信号が入力された場合に PMD を停止させるかを選択します。 注) 初期状態で許可となっています。
4-3	EMGMD[1:0]	R/W	EMG 保護モード選択 00: 全相 High-z 01: 全上相オン/全下相 High-z 10: 全上相 High-z/全下相オン 11: 全相 High-z 注)オン: PWM 出力を継続します。 EMG 発生時の上相(UO,VO,WO)および下相(XO,YO,ZO)のポート出力を設定します。
2	−	R/W	常に"0"を書いてください。
1	EMGRS	W	EMG 保護状態からの復帰 0: − 1: 保護状態からの復帰 PMDxMDOUT(VEOUTCR1)レジスタに"0x000"を設定後、<EMGRS>に"1"を設定することにより EMG 保護状態から復帰します。 注)リードすると常に"0"が読めます。 注) PMDxMDOUT(VEOUTCR1)レジスタのダブルバッファが"0x000"に更新されていないと復帰できません。 注) PMDxEMGSTA<EMGI> が"1"になったことを確認後復帰させてください。
0	EMGEN	R/W	EMG 保護回路の許可/禁止を設定 0: 禁止 1: 許可 禁止するときは EMG 解除レジスタ PMDxEMGREL<EMGREL[7:0]>に"0x5A"→"0xA5"を順にライトした後、<EMGEN>に"0"を設定してください。(3 命令を連続して行います) 注)初期状態で許可となっています。

15.2.6.4 PMDxEMGSTA (EMG ステータスレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	EMGI	EMGST
リセット後	0	0	0	0	0	0	不定	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	−	R	リードすると"0"が読めます
1	EMGI	R	EMG 入力 EMG 入力 の状態 リードすることにより、EMG 入力の状態を知ることができます。
0	EMGST	R	EMG 保護状態 0: 通常動作中 1: 保護中 リードすることにより、EMG 保護の状態を知ることができます。

15.2.6.5　保護制御回路(OVV 入力部)

OVV 保護制御とポート出力禁止部から構成されます。OVV 入力ポートがアクティブになることで動作します。

OVV 保護回路は、一定期間(OVV カウントで設定)過電圧信号入力があった場合(High→Low)、通電制御部で 6 本のポート出力を High または Low に固定します。またその時、OVV 割り込み(INTOVV)を発生します。設定により、下相オフ、上相オフ、全相オフを選択することができます。

OVV 保護は OVV 制御レジスタ PMDxOVVCR で設定します。また、PMDxOVVSTA<OVVST>をリードした時、"1"の場合は OVV 保護回路が動作中であることを示します。

PMDxOVVCR<OVVRS> に"1"を設定することにより OVV 保護からの復帰可能状態となり、OVV 保護入力解除後、保護状態からの復帰タイミングで自動的に OVV 保護から復帰します。(OVV 保護入力が Low の期間は、保護状態からの復帰は行われません。ポート入力の状態は PMDxOVVSTA<OVVI> をリードすることで確認することができます。)

OVV から復帰するタイミングは、PWM 周期(PWM カウント PMDxMDCNT と PMDxMDPRD との一致時。ただし PWM0.5 周期割り込み設定時は PWM カウントが、"1"または PMDxMDPRD との一致時)となります。また、OVV 機能を禁止するには EMG 解除レジスタ PMDxEMGREL に 0x5A と 0xA5 を順番に設定後、PMDxOVVCR<OVVEN> に"0"を設定します。(3 命令連続して行ってください)

OVV 保護回路を禁止するには EMG 解除レジスタに所定のキーコード(0x5A、0xA5)を設定することではじめて可能になり、誤って OVV 保護回路を禁止することを防止します。

15.2.6.6 PMDxOVVCR (OVV コントロールレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	OVVCNT			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	ADIN1EN	ADIN0EN	OVVMD		OVVISEL	OVVRS	OVVEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-12	–	R	リードすると"0"が読めます
11-8	OVVCNT[3:0]	R/W	OVV 入力検出時間 1 ~ 15 ("0" 設定時は"1"になります) OVV 入力のノイズ除去時間を設定します。 ノイズ除去時間は以下の計算式で表されます。 <OVVCNT[3:0]> × 16/fsys (分解能 400[ns] @40[MHz]) 注)<OVVCNT[3:0]> はポート入力(<OVVISEL> = "0")時のみ有効になります。
7	–	R	リードすると"0"が読めます
6	ADIN1EN	R/W	ADCx 監視機能 1 入力許可 0 : 入力禁止 1 : 入力許可 ADCx の監視機能 1 からの信号入力の許可/禁止を選択します。許可に設定し、かつ入力に ADC 監視信号(<OVVISEL> = "1")を選択時、ADCx 監視機能 1 の比較結果を OVV 入力として使用できます。(OVV 保護許可設定時) 注)ADCx 監視機能の詳細は、「12 ビットアナログ/デジタルコンバータ」の動作説明の"AD 監視機能"を参照してください。
5	ADIN0EN	R/W	ADCx 監視機能 0 入力許可 0 : 入力禁止 1 : 入力許可 ADCx の監視機能 0 からの信号入力の許可/禁止を選択します。許可に設定し、かつ入力に ADC 監視信号(<OVVISEL> = "1")を選択時、ADCx 監視機能 0 の比較結果を OVV 入力として使用できます。(OVV 保護許可設定時) 注)ADCx 監視機能の詳細は、「12 ビットアナログ/デジタルコンバータ」の動作説明の"AD 監視機能"を参照してください。
4-3	OVVMD	R/W	OVV 保護モード選択 00 : 出力制御なし 01 : 全上相オン、全下相オフ 10 : 全上相オフ、全下相オン 11 : 全相オフ OVV 発生時に、上相(UO,VO,WO)および下相(XO,YO,ZO)の出力をオン/オフさせます。 注)オンはアクティブ出力固定、オフはインアクティブ出力固定になります。 注) OVV、EMG 同時発生時は<EMGMD[1:0]> での保護モード設定が優先されます。
2	OVVISEL	R/W	OVV 入力選択 0 : IDC 入力 1 : ADC 監視信号 保護回路に入力させる OVV 信号を IDC 入力か、ADC からの監視信号かを選択します。 注) ADC 監視信号を選択した場合、OVV 入力検出時間<OVVCNT[3:0]> は無効となります(直接入力)。

Bit	Bit Symbol	Type	機能
1	OVVRS	R/W	OVV 保護状態からの復帰 0 : 保護状態からの自動復帰禁止 1 : 保護状態からの自動復帰許可 異常検出（OVV 入力 H → L)して OVV 保護状態へ移行しても、 自動復帰許可時は OVV 入力が High になった後の PWM 周期レジスタ(PMDxMDPRD)のバッファ更新タイミングで自動的に復帰します。(「表 15-1 PMDxMDPRD, PMDxCMPU/V/W および VECMPU1/V1/W1 バッファ更新制御」参照)
0	OVVEN	R/W	OVV 保護回路の許可/禁止 0: 禁止 1: 許可 注) 禁止に変更する場合、EMG 解除レジスタ(PMDxEMGREL)に"0x5A" → "0xA5"を順に書き込み後、<OVVEN> = "0"に設定してください。(3 命令を連続して行います。)

15.2.6.7 PMDxOVVSTA (OVV ステータスレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	OVVI	OVVST
リセット後	0	0	0	0	0	0	不定	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	−	R	リードすると"0"が読めます
1	OVVI	R	OVVI 入力 OVVI の状態 リードすることにより、OVV 入力の状態(PMDxOVVCR<OVVISEL>)で選択された側)を知ることができます。
0	OVVST	R	OVV 保護状態 0: 通常動作中 1: 保護中 リードすることにより、OVV 保護の状態を知ることができます。

15.2.7　デッドタイム制御回路

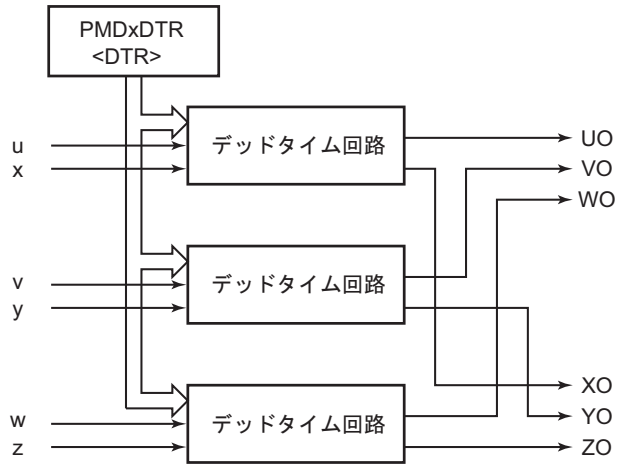


図 15-9 デッドタイム制御回路概略図

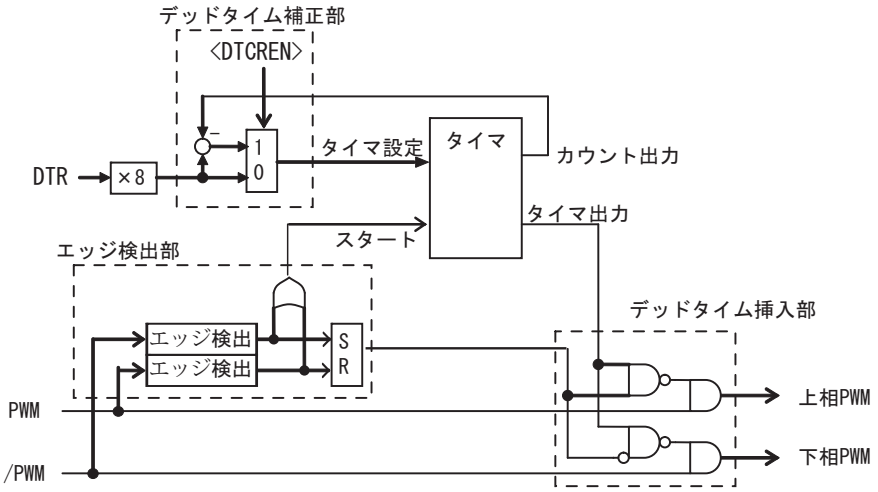


図 15-10 デッドタイム回路構成

デッドタイム制御回路はデッドタイム部と出力極性切替部から構成されます。デッドタイム回路は、エッジ検出部とタイマ部とデッドタイム挿入部およびデッドタイム補正部から構成されます。(「図 15-10 デッドタイム回路構成」参照)

U,V,W のそれぞれの相において、上下相が逆転する場合に上下相が短絡するのを回避するため、デッドタイム回路によりオン時間を遅延させます。遅延時間は、8bit 値により 8/fsys (200[ns]@40 [MHz]) の分解能で設定が可能です。遅延時間はデッドタイムレジスタ(PMDxDTR<DTR[7:0]>)に設定します。

デッドタイム補正部は、PMDxMDCR<DTCREN>を"1"に設定することで、上相 PWM または下相 PWM の一方のオン期間が 0 の場合にもう一方の PWM の遅延時間を短く補正します。補正方法は、デッドタイム期間の途中で PWM がオフに変わった場合に、デッドタイム期間の残り時間（デッドタイムレジスタ設定時間−オン時間）で反対相の遅延時間を短くします。上相 PWM がデッドタイム期間中にオフに変わった場合には下相の遅延時間を短く補正し、下相 PWM がデッドタイム期間中にオフに変わった場合には上相 PWM の遅延時間を短く補正します。遅延時間は「図 15-11 デッドタイム補正」に示すように上相 PWM のデューティ 100%付近と下相 PWM のデューティ 0%付近で補正されます。

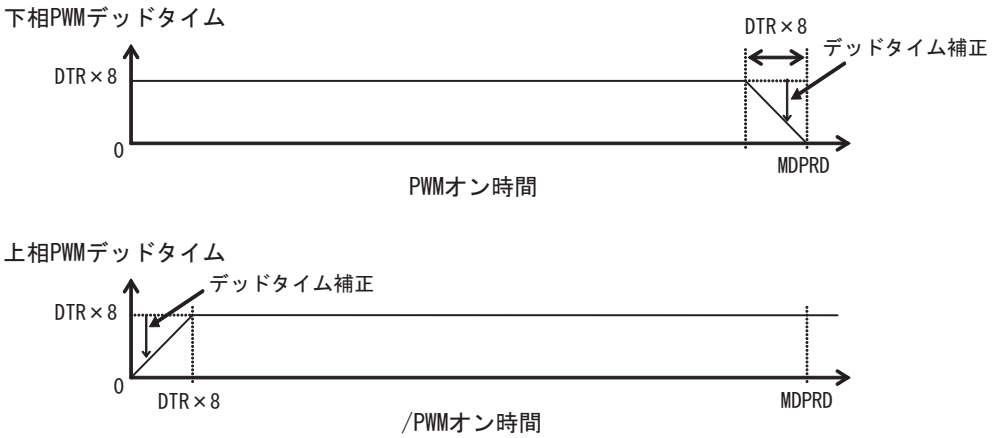


図 15-11 デッドタイム補正

15.2.7.1　PMDxDTR (デッドタイムレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	DTR							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます
7-0	DTR[7:0]	R/W	デッドタイムを設定します。 0x00 ~ 0xFF デッドタイムは以下の計算式で表されます。 DTR 設定値 × 8/fsys (最大 51[μs]@40[MHz])

15.2.8 同期トリガ生成回路

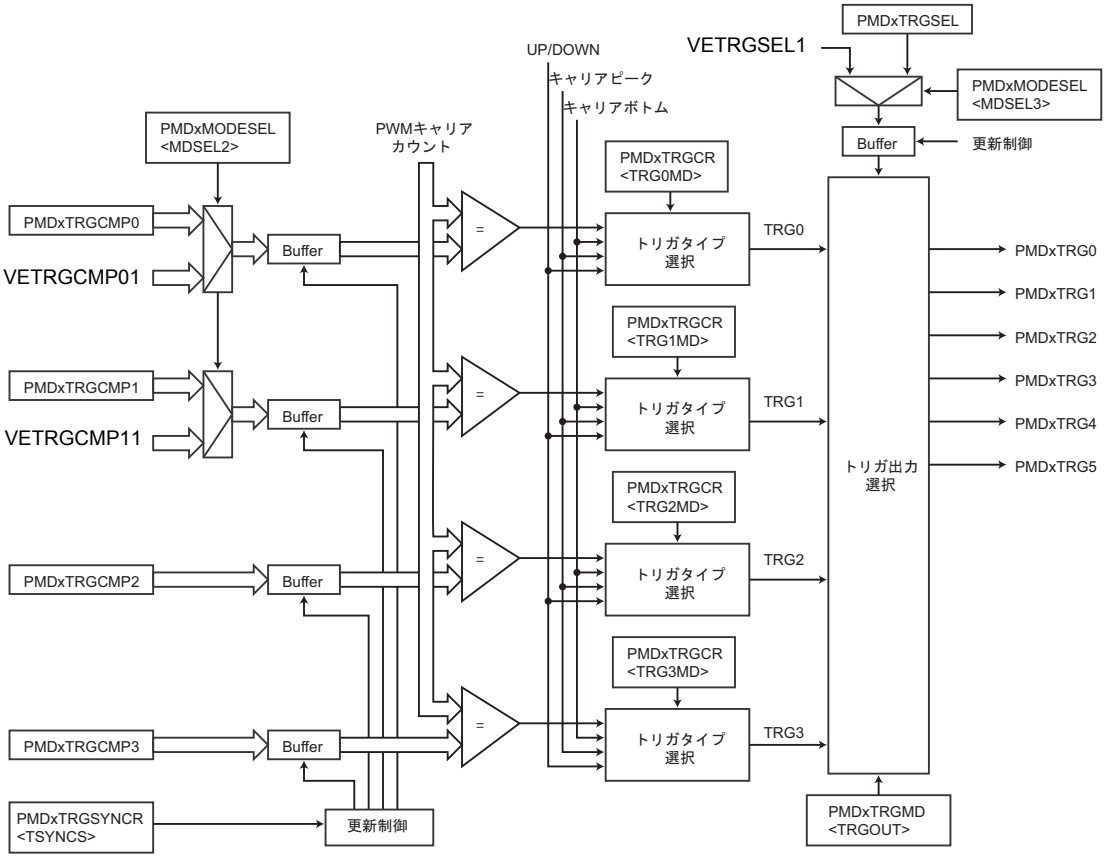


図 15-12 同期トリガ生成回路概略図

同期トリガ生成回路は PWM に同期して ADC のサンプリングを行うための 4 種類(TRG0~TRG3)のトリガ信号を生成します。PMDxMODESEL<MDSEL3>で VE モード選択すると、PMDxTRGCMP0 と PMDxTRGCMP1 は VE レジスタの VETRGCMP01, VETRGCMP11 に切り替わります。

トリガタイミングは以下の 6 種類が選択可能です。

1. アップカウント動作時のコンペア一致(注)
2. ダウンカウント動作時のコンペア一致(注)
3. アップ/ダウンカウント両動作でのコンペア一致(注)
4. PWM キャリアピーク
5. PWM キャリアボトム
6. PWM キャリアピークと PWM キャリアボトム

注) PWM カウンタ PMDxMDCNT<MDCNT[15:0]>と PMDxTRGCMPn<TRGCMPn[15:0]>が一致

トリガ選択出力モード PMDxTRGMD<TRGOUT> = "1" では、TRG0 信号(PMDxTRGCMP0 (VETRGCMP01), PMDxTRGCR<TRG0MD>)がトリガ出力選択レジスタ PMDxTRGSEL (VETRGSEL1) で選択したトリガ(PMDxTRG0~5)信号として出力されます。

なお、エッジモード(ノコギリ波キャリアモード)選択時はコンペア一致はアップカウント時となります。また、EMG 保護動作時もトリガ出力許可する場合は PMDxTRGMD<EMGTGE>に"1"を設定します。

15.2.8.1 PMDxTRGCMP0 (トリガコンペアレジスタ 0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TRGCMP0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TRGCMP0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	TRGCMP0 [15:0]	R/W	トリガ出力用コンペアレジスタ <TRGCMP0[15:0]>コンペアレジスタの設定範囲: 1 ~ [<MDPRD[15:0]>設定値 -1] PWM カウンタ<MDCNT[15:0]> と一致するとトリガ信号(TRG0)を出力します。 注) <TRGCMP0> = "0"および<TRGCMP0> ≥ [<MDPRD[15:0]>設定値] は設定禁止

注 1) バスから更新したコンペアレジスタをダブルバッファ後段にロードさせる場合は、PMDxMODESEL<MDSEL2> に"0" を書き込んでバスモード(デフォルト)にしてください。

注 2) このレジスタへのバイト書き込み(上位 8bit([15:8]), 下位 8bit([7:0]を別々に書き込み)はしないでください。バイト書き込みした場合の動作は保証できません。

注 3) トリガコンペアレジスタはダブルバッファ構成のため PWM カウンタ動作中でも変更可能です。

注 4) 後段バッファの更新タイミングは「表 15-5 トリガコンペアレジスタのバッファ更新タイミング」を参照してください。

注 5) リード時は前段バッファの値(バスから設定したデータ)をリードします。

表 15-5 トリガコンペアレジスタのバッファ更新タイミング

<TSYNCS>設定	<TRGnMD>設定	TRGCMPn レジスタ バッファ更新タイミング
00	000	直ちに更新
	001	PWM キャリアピークで更新
	010	PWM キャリアボトムで更新
	011	PWM キャリアのピークとボトムで更新(注 1)
	1xx	直ちに更新
01	xxx	PWM キャリアボトムで更新
10	xxx	PWM キャリアピークで更新
11	xxx	PWM キャリアのピークとボトムで更新(注 1)

注) x : Don't care

注) PMDxMDEN<PWMEN> = "0"時は設定に関わらず直ちに更新されます。

注 1) PWM キャリアがノコギリ波(PMDxMDCR<PWMMD> = "0")の場合、キャリアピーク更新になります。

15.2.8.2　PMDxTRGCMP1 (トリガコンペアレジスタ 1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TRGCMP1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TRGCMP1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	TRGCMP1 [15:0]	R/W	トリガ出力用コンペアレジスタ コンペアレジスタの設定範囲: 1 ~ [<MDPRD[15:0]> 設定値-1］ PWM カウンタ<MDCNT[15:0]> と一致するとトリガ信号(TRG1)を出力します。 注) <TRGCMP1> = "0"および<TRGCMP1> ≥ [<MDPRD[15:0]>設定値] は設定禁止

注 1)　バスから更新したコンペアレジスタをダブルバッファ後段にロードさせる場合は、PMDxMODESEL<MDSEL2> に"0" を書き込んでバスモード(デフォルト)にしてください。

注 2)　このレジスタへのバイト書き込み(上位 8bit([15:8]), 下位 8bit([7:0]を別々に書き込み)はしないでください。バイト書き込みした場合の動作は保証できません。

注 3)　トリガコンペアレジスタはダブルバッファ構成のため PWM カウンタ動作中でも変更可能です。

注 4)　後段バッファの更新タイミングは「表 15-5 トリガコンペアレジスタのバッファ更新タイミング」を参照してください。

注 5)　リード時は前段バッファの値(バスから設定したデータ)をリードします。

15.2.8.3 PMDxTRGCMP2 (トリガコンペアレジスタ 2)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TRGCMP2							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TRGCMP2							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	TRGCMP2 [15:0]	R/W	トリガ出力用コンペアレジスタ コンペアレジスタの設定範囲: 1 ~ [<MDPRD[15:0]> 設定値-1］ PWM カウンタ<MDCNT[15:0]> と一致するとトリガ信号(TRG2)を出力します。 注) <TRGCMP2> = "0"および<TRGCMP2> ≥ [<MDPRD[15:0]>設定値] は設定禁止

注 1) このレジスタへのバイト書き込み(上位 8bit([15:8]), 下位 8bit([7:0]を別々に書き込み)はしないでください。バイト書き込みした場合の動作は保証できません。

注 2) トリガコンペアレジスタはダブルバッファ構成のため PWM カウンタ動作中でも変更可能です。

注 3) 後段バッファの更新タイミングは「表 15-5 トリガコンペアレジスタのバッファ更新タイミング」を参照してください。

注 4) リード時は前段バッファの値(バスから設定したデータ)をリードします。

15.2.8.4　PMDxTRGCMP3 (トリガコンペアレジスタ 3)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TRGCMP3							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TRGCMP3							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます
15-0	TRGCMP3 [15:0]	R/W	トリガ出力用コンペアレジスタ コンペアレジスタの設定範囲: 1 ~ [<MDPRD[15:0]> 設定値-1］ PWM カウンタ<MDCNT[15:0]> と一致するとトリガ信号(TRG3)を出力します。 注) <TRGCMP3> = "0"および<TRGCMP3> ≥ [<MDPRD[15:0]>設定値] は設定禁止

注 1)　このレジスタへのバイト書き込み(上位 8bit([15:8]), 下位 8bit([7:0]を別々に書き込み)はしないでください。バイト書き込みした場合の動作は保証できません。

注 2)　トリガコンペアレジスタはダブルバッファ構成のため PWM カウンタ動作中でも変更可能です。

注 3)　後段バッファの更新タイミングは「表 15-5 トリガコンペアレジスタのバッファ更新タイミング」を参照してください。

注 4)　リード時は前段バッファの値(バスから設定したデータ)をリードします。

15.2.8.5 PMDxTRGCR (トリガコントロールレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TRG3BE	TRG3MD			TRG2BE	TRG2MD		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TRG1BE	TRG1MD			TRG0BE	TRG0MD		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます
15	TRG3BE	R/W	PMDxTRGCMP3<TRGCMP3[15:0]>バッファの非同期更新許可 後段バッファの非同期更新を許可します。 0 : 同期更新 1 : 非同期更新(書き込み後、直ちに反映されます) 注) 更新タイミングは「表 15-5 トリガコンペアレジスタのバッファ更新タイミング」を参照 注) PMDxMDEN<PWMEN> = "0"時は設定に関わらず非同期更新になります。
14-12	TRG3MD[2:0]	R/W	PMDxTRGCMP3<TRGCMP3[15:0]>のモード設定 <TRGCMP3[15:0]>トリガ出力の一致モードを選択します。 000 : トリガ出力禁止 001 : ダウンカウント時の一致でトリガ出力 010 : アップカウント時の一致でトリガ出力 011 : アップ/ダウンカウント時にトリガ出力 100 : PWM キャリアピークでトリガ出力 101 : PWM キャリアボトムでトリガ出力 110 : PWM キャリアピーク/ボトムでトリガ出力 111 : トリガ出力禁止 注) PMDxMDCR<PWMMD> = "0"(ノコギリ波)時は、"001"選択でもアップカウント一致に、"101"選択でもキャリアピークになります。 注) "011"選択時、PMDxTRGCMP3 = "0x0001" の場合、PMDxMDCR<PWMMD> = "1"(三角波)においてトリガ出力は 1 周期に 1 度となります。
11	TRG2BE	R/W	PMDxTRGCMP2<TRGCMP2[15:0]>バッファの非同期更新許可 後段バッファの非同期更新を許可します。 0 : 同期更新 1 : 非同期更新(書き込み後、直ちに反映されます) 注) 更新タイミングは「表 15-5 トリガコンペアレジスタのバッファ更新タイミング」を参照 注) PMDxMDEN<PWMEN> = "0"時は設定に関わらず非同期更新になります。

Bit	Bit Symbol	Type	機能
10-8	TRG2MD[2:0]	R/W	PMDxTRGCMP2<TRGCMP2[15:0]>のモード設定 <TRGCMP2[15:0]>トリガ出力の一致モードを選択します。 000 : トリガ出力禁止 001 : ダウンカウント時の一致でトリガ出力 010 : アップカウント時の一致でトリガ出力 011 : アップ/ダウンカウント時にトリガ出力 100 : PWM キャリアピークでトリガ出力 101 : PWM キャリアボトムでトリガ出力 110 : PWM キャリアピーク/ボトムでトリガ出力 111 : トリガ出力禁止 注) PMDxMDCR<PWMMD> = "0"(ノコギリ波)時は、"001"選択でもアップカウント一致に、"101"選択でもキャリアピークになります。 注) "011"選択時、PMDxTRGCMP2 = "0x0001" の場合、PMDxMDCR<PWMMD> = "1"(三角波)においてトリガ出力は 1 周期に 1 度となります。
7	TRG1BE	R/W	PMDxTRGCMP1<TRGCMP1[15:0]>バッファの非同期更新許可 後段バッファの非同期更新を許可します。 0 : 同期更新 1 : 非同期更新(書き込み後、直ちに反映されます) 注) 更新タイミングは「表 15-5 トリガコンペアレジスタのバッファ更新タイミング」を参照 注) PMDxMDEN<PWMEN> = "0"時は設定に関わらず非同期更新になります。
6-4	TRG1MD[2:0]	R/W	PMDxTRGCMP1<TRGCMP1[15:0]>のモード設定 <TRGCMP1[15:0]>トリガ出力の一致モードを選択します。 000 : トリガ出力禁止 001 : ダウンカウント時の一致でトリガ出力 010 : アップカウント時の一致でトリガ出力 011 : アップ/ダウンカウント時にトリガ出力 100 : PWM キャリアピークでトリガ出力 101 : PWM キャリアボトムでトリガ出力 110 : PWM キャリアピーク/ボトムでトリガ出力 111 : トリガ出力禁止 注) PMDxMDCR<PWMMD> = "0"(ノコギリ波)時は、"001"選択でもアップカウント一致に、"101"選択でもキャリアピークになります。 注) "011"選択時、PMDxTRGCMP1 = "0x0001" の場合、PMDxMDCR<PWMMD> = "1"(三角波)においてトリガ出力は 1 周期に 1 度となります。
3	TRG0BE	R/W	PMDxTRGCMP0<TRGCMP0[15:0]>バッファの非同期更新許可 後段バッファの非同期更新を許可します。 0 : 同期更新 1 : 非同期更新(書き込み後、直ちに反映されます) 注) 更新タイミングは「表 15-5 トリガコンペアレジスタのバッファ更新タイミング」を参照 注) PMDxMDEN<PWMEN> = "0"時は設定に関わらず非同期更新になります。
2-0	TRG0MD[2:0]	R/W	PMDxTRGCMP0<TRGCMP0[15:0]>のモード設定 <TRGCMP0[15:0]>トリガ出力の一致モードを選択します。 000 : トリガ出力禁止 001 : ダウンカウント時の一致でトリガ出力 010 : アップカウント時の一致でトリガ出力 011 : アップ/ダウンカウント時にトリガ出力 100 : PWM キャリアピークでトリガ出力 101 : PWM キャリアボトムでトリガ出力 110 : PWM キャリアピーク/ボトムでトリガ出力 111 : トリガ出力禁止 注) PMDxMDCR<PWMMD> = "0"(ノコギリ波)時は、"001"選択でもアップカウント一致に、"101"選択でもキャリアピークになります。 注) "011"選択時、PMDxTRGCMP0 = "0x0001" の場合、PMDxMDCR<PWMMD> = "1"(三角波)においてトリガ出力は 1 周期に 1 度となります。

15.2.8.6 PMDxTRGSYNCR (トリガ更新タイミング設定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	TSYNCS	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	−	R	リードすると"0"が読めます。
1-0	TSYNCS	R/W	トリガコンペアレジスタのバッファ更新タイミング設定 00 : トリガ別に PMDxTRGCR<TRGxMD>設定で 直ちに更新、PWM キャリアピークで更新、ＰWMキャリアボトムで更新、または PWM キャリアピークとボトムで更新 01 : PWM キャリアボトムで更新 10 : PWM キャリアピークで更新 11 : PWM キャリアピークとボトムで更新 注)「表 15-5 トリガコンペアレジスタのバッファ更新タイミング」を参照 注) PMDxMDEN<PWMEN> = "0"時は設定に関わらず非同期になります。

15.2.8.7　PMDxTRGMD (トリガ出力モード設定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	TRGOUT	EMGTGE
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	−	R	リードすると"0"が読めます。
1	TRGOUT	R/W	トリガ出力モード 0 :トリガ固定出力 1 :トリガ選択出力 トリガ固定出力では、トリガ出力 PMDxTRG0 ~ PMDxTRG3 はそれぞれ<TRGCMP0[15:0]> ~ <PMDCMP3[15:0]> で一致したトリガ信号を出力します。PMDxTRG4、PMDxTRG5 は出力されません。 トリガ選択出力では、<TRGCMP0[15:0]>の出力信号をトリガ出力 PMDxTRG0 ~ PMDxTRG5 のいづれかに出力します。トリガ出力はトリガ出力選択レジスタで選択します。 注)トリガ選択出力(<TRGOUT> = "1")時のトリガ出力パターンについては表 15-6 を参照してください。
0	EMGTGE	R/W	EMG 保護動作中の出力許可設定 0 : 保護動作時 トリガ出力禁止 1 : 保護動作時 トリガ出力許可 EMG 保護動作中のトリガ出力許可設定を選択します。

表 15-6 トリガ出力パターン

<TRGOUT> 設定	コンペアレジスタ	<TRGSEL[2:0]> 設定	トリガ出力
<TRGOUT> = "0"	PMDxTRGCMP0	×	PMDxTRG0
	PMDxTRGCMP1		PMDxTRG1
	PMDxTRGCMP2		PMDxTRG2
	PMDxTRGCMP3		PMDxTRG3
<TRGOUT> = "1"	PMDxTRGCMP0	0	PMDxTRG0
		1	PMDxTRG1
		2	PMDxTRG2
		3	PMDxTRG3
		4	PMDxTRG4
		5	PMDxTRG5
	PMDxTRGCMP1	×	トリガ出力されない
	PMDxTRGCMP2	×	トリガ出力されない
	PMDxTRGCMP3	×	トリガ出力されない

15.2.8.8 PMDxTRGSEL (トリガ出力選択レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	TRGSEL		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-3	−	R	リードすると"0"が読めます。
2-0	TRGSEL[2:0]	R/W	トリガ出力ポート選択 000 : PMDxTRG0 より出力 001 : PMDxTRG1 より出力 010 : PMDxTRG2 より出力 011 : PMDxTRG3 より出力 100 : PMDxTRG4 より出力 101 : PMDxTRG5 より出力 110 : トリガ出力しない 111 : トリガ出力しない トリガ選択出力(<TRGOUT> = "1")時に有効となり、PMDxTRGCMP0 で設定した出力トリガを選択します。(「表 15-6 トリガ出力パターン」参照)

注 1) バスから更新したコンペアレジスタをダブルバッファ後段にロードさせる場合は、PMDxMODESEL<MDSEL3>に"0"を書き込んでバスモード(デフォルト)にしてください。

注 2) トリガ出力選択レジスタはダブルバッファ構成のため PWM カウンタ動作中でも変更可能です。

注 3) 後段バッファの更新タイミングはコンペアレジスタ(PMDxCMPU/V/W)と同じです。

注 4) PMD 禁止(PMDxMDCR<PWMEN> = "0")時は非同期更新されます。

第 16 章　ベクトルエンジン(VE+)

16.1　概要

16.1.1　特徴

1. ベクトル制御で実行される基本的な処理(座標軸変換,相変換,SIN/COS 演算)の組み込み
   演算処理は固定小数点形式データで行われます。
   →ソフトウエア処理では面倒な小数点位置管理不要

2. モータ制御回路(PMD)と AD 変換器(ADC)を制御する I/F(出力制御,トリガ生成,入力処理)の組み込み
   - 固定小数点形式の演算結果をモータ制御回路設定のデータ形式に変換
   - 連携動作タイミングデータの生成
   - AD 変換結果を固定小数点形式のデータに変換

3. 電流,電圧,回転速度をそれぞれの最大値を基準に正規化した値で演算
   この場合、小数点数は固定小数点形式

4. 電流制御に PI 制御の組み込み

5. 回転速度を積分する位相補間の組み込み

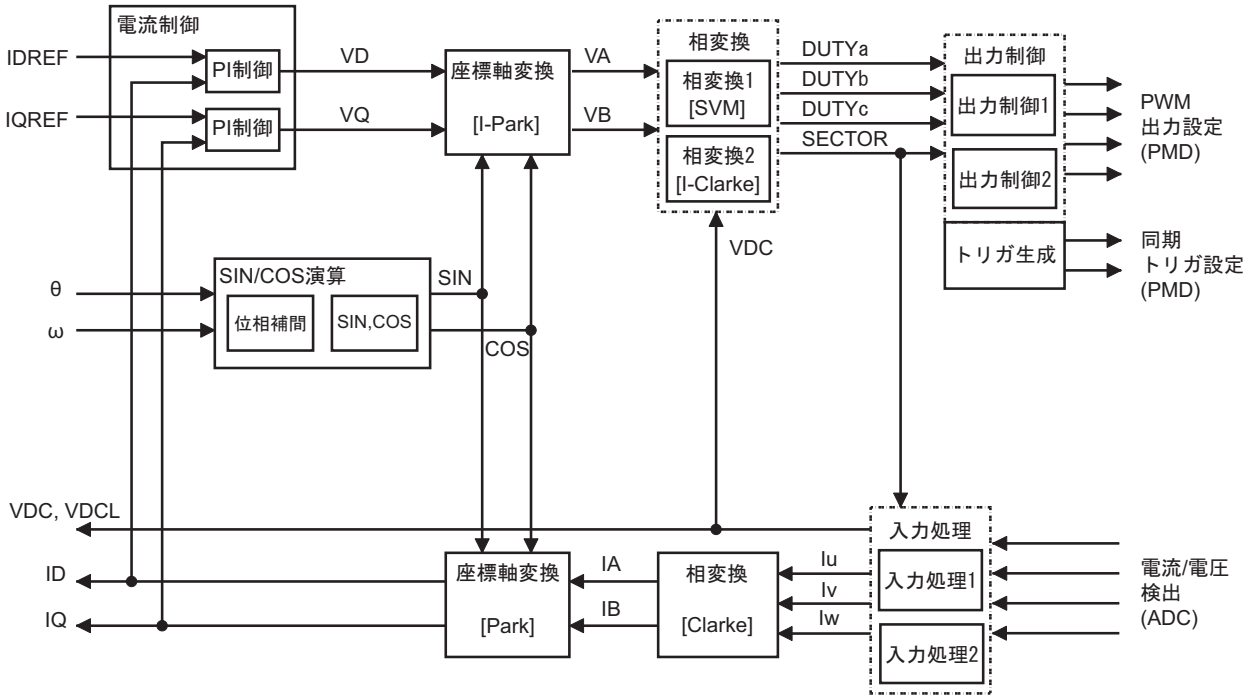


図 16-1 ベクトル制御の構成

16.1.2　主な機能

1. 2 相から 3 相への相変換には、空間ベクトル変換と逆クラーク変換に対応します。空間ベクトル変換は、2 相変調と 3 相変調に対応します。

2. トリガ生成では、センサレス電流検出方式に対応する AD 変換器(ADC)のサンプリングタイミングを生成可能、電流検出は 1 シャント方式,3 シャント方式および 2 センサ方式に対応します。

3. 電流制御には、d 軸と q 軸に独立した PI 制御を採用。電流制御を使用せずに直接電圧指令することも可能です。

4. SIN/COS 演算には、級数展開を使った近似式を採用。 位相指定は直接設定と回転速度から PWM 周期で積分する位相補間が可能です。

注)ベクトルエンジンを使用する場合はモータ制御回路および AD 変換器の設定が必要です。

- モータ制御回路(PMD)はモード選択レジスタ(PMD1MODESEL)で VE モードを選択します。
- AD 変換器(ADC)はモータ制御回路(PMD)からの同期トリガ毎のプログラム(トリガ許可,AIN 選択,結果レジスタ選択)を設定します。

16.2　構成

ベクトルエンジンの構成を図 16-2 に示します。

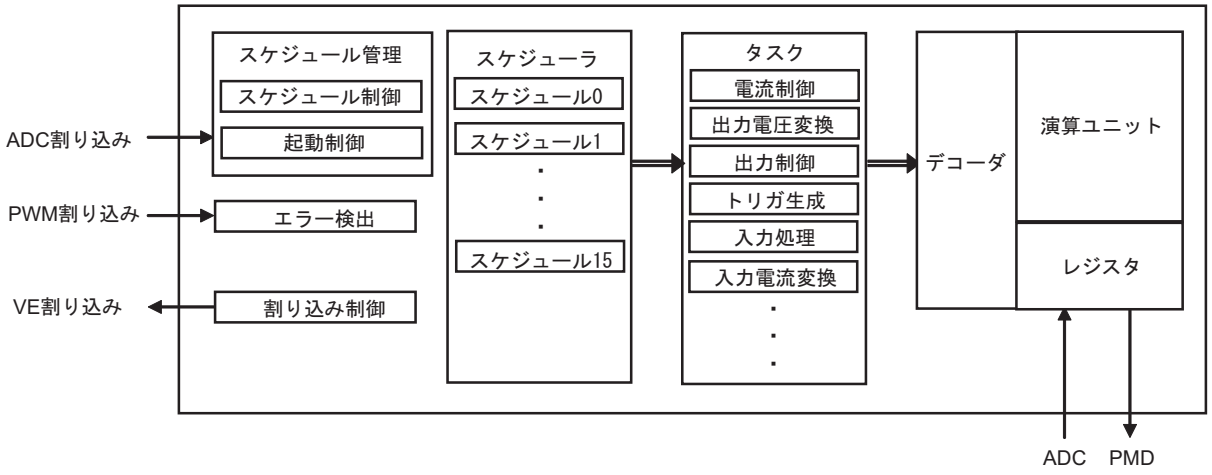


図 16-2 ベクトルエンジン構成

16.2.1 ベクトルエンジンとモータ制御回路および AD 変換器の関連

ベクトルエンジンは図 16-3 に示すようにモータ制御回路(PMD)および AD 変換器(ADC)と直接データの受け渡しができます。

モータ制御回路(PMD)レジスタの PMD1CMPU, PMD1CMPV, PMD1CMPW, PMD1MDOUT, PMD1TRGCMP0, PMD1TRGCMP1, PMD1TRGSEL は PMD1MODESEL レジスタで VE モードに設定するとベクトルエンジンレジスタの VECMPU1, VECMPV1, VECMPW1, VEOUTCR1, VETRGCMP01, VETRGCMP11, VETRGSEL1 に切り替わります。この場合、CPU からモータ制御回路(PMD)の該当レジスタの書き込みによる制御はできず、ベクトルエンジンからの書き込みで制御します。その他の PMD のレジスタについては読み書き制限はありません。

ベクトルエンジンは AD 変換器(ADC)のレジスタの ADREG0, ADREG1, ADREG2, ADREG3, <UVWISn0>, <UVWISn1>, <UVWISn2>, <UVWISn3> を読み込みます。(n=0~5)

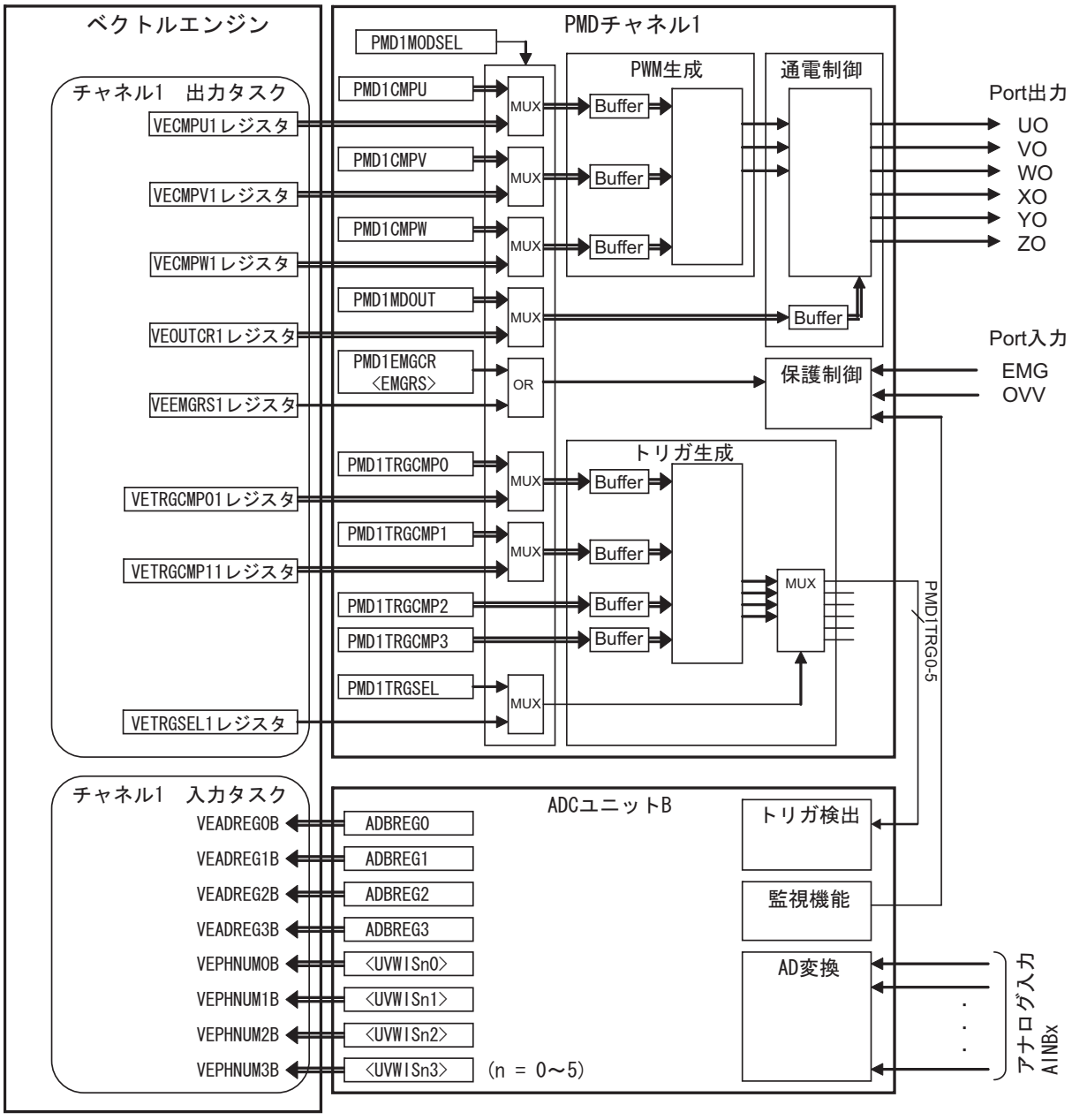


図 16-3 ベクトルエンジンとモータ制御回路および AD 変換器の関連図

16.3　レジスタ説明

ベクトルエンジンは特殊レジスタと専用レジスタが存在します。

- VE 制御レジスタ

  ベクトルエンジン制御用レジスタおよびテンポラリレジスタ
- 共通レジスタ

  チャネルで共通に使用するレジスタ
- 専用レジスタ

  チャネル 1 の演算データおよび演算制御レジスタ

注)　レジスタは必ずワード（32bit）アクセスしてください。

16.3.1　レジスター覧

制御レジスタとアドレスは以下の通りです。

ベースアドレスは、「メモリマップ」章の「周辺機能ベースアドレス一覧」を参照下さい。

周辺機能名:VE(制御レジスタ)

レジスタ名			Address
ベクトルエンジン動作許可/禁止	VEEN	R/W	0x0000
CPU 起動トリガ選択	VECPURUNTRG	W	0x0004
タスク指定	VETASKAPP	R/W	0x0008
動作スケジュール選択	VEACTSCH	R/W	0x000C
動作スケジュール繰り返し回数指定	VEREPTIME	R/W	0x0010
起動トリガモード設定	VETRGMODE	R/W	0x0014
エラー割り込み許可／禁止設定	VEERRINTEN	R/W	0x0018
ベクトルエンジン強制終了	VECOMPEND	W	0x001C
エラー検出	VEERRDET	R	0x0020
スケジュール実行中フラグ／実行中タスク	VESCHTASKRUN	R	0x0024
テンポラリ 0	VETMPREG0	R/W	0x002C
テンポラリ 1	VETMPREG1	R/W	0x0030
テンポラリ 2	VETMPREG2	R/W	0x0034
テンポラリ 3	VETMPREG3	R/W	0x0038
テンポラリ 4	VETMPREG4	R/W	0x003C
テンポラリ 5	VETMPREG5	R/W	0x0040

周辺機能名:VE(共通レジスタ)

レジスタ名			Address
AD 変換開始ウェイト設定	VETADC	R/W	0x0178

周辺機能名:VE(チャネル 1 専用)

レジスタ名			Address
異常/判定結果保持	VEMCTLF1	R/W	0x00DC
タスク制御モード	VEMODE1	R/W	0x00E0
フロー制御	VEFMODE1	R/W	0x00E4

周辺機能名:VE(チャネル 1 専用)

レジスタ名			Address
PWM 周期レート(PWM 周期[s] ×最大速度(注 1) × 2^{16})設定	VETPWM1	R/W	0x00E8
回転速度(速度[Hz] ÷最大速度(注 1) ×2^{15})設定	VEOMEGA1	R/W	0x00EC
モータ位相 (モータ位相 [deg]/360 × 2^{16})設定	VETHETA1	R/W	0x00F0
d 軸基準電流値(電流[A] ÷最大電流(注 2) ×2^{15})設定	VEIDREF1	R/W	0x00F4
q 軸基準電流値(電流[A] ÷最大電流(注 2) ×2^{15})設定	VEIQREF1	R/W	0x00F8
d 軸電圧(電圧[V] ÷最大電圧(注 3) ×2^{31})設定	VEVD1	R/W	0x00FC
q 軸電圧(電圧[V] ÷最大電圧(注 3) ×2^{31})設定	VEVQ1	R/W	0x0100
d 軸電流制御 PI 積分項係数設定	VECIDKI1	R/W	0x0104
d 軸電流制御 PI 比例項係数設定	VECIDKP1	R/W	0x0108
q 軸電流制御 PI 積分項係数設定	VECIQKI1	R/W	0x010C
q 軸電流制御 PI 比例項係数設定	VECIQKP1	R/W	0x0110
d 軸電圧積分成項 保持(VDI の上位 32bit)	VEVDIH1	R/W	0x0114
d 軸電圧積分成項 保持(VDI の下位 32bit)	VEVDILH1	R/W	0x0118
q 軸電圧積分成項 保持(VQI の上位 32bit)	VEVQIH1	R/W	0x011C
q 軸電圧積分成項 保持(VQI の下位 32bit)	VEVQILH1	R/W	0x0120
PWM 切り替え速度設定	VEFPWMCHG1	R/W	0x0124
PWM 周期設定(PMD の PWM 周期設定と同じ値を設定)	VEMDPRD1	R/W	0x0128
最小パルス幅設定	VEMINPLS1	R/W	0x012C
同期トリガ補正量設定	VETRGCRC1	R/W	0x0130
DC 電源電圧(電圧[V] ÷最大電圧(注 3) ×2^{15})	VEVDCL1	R/W	0x0134
THETA での余弦値 出力変換用 (Q15 データ)	VECOS1	R/W	0x0138
THETA での正弦値 出力変換用 (Q15 データ)	VESIN1	R/W	0x013C
前回の余弦値 入力処理用 (Q15 データ)	VECOSM1	R/W	0x0140
前回の正弦値 入力処理用 (Q15 データ)	VESINM1	R/W	0x0144
セクタ情報	VESECTOR1	R/W	0x0148
前回セクタ情報	VESECTORM1	R/W	0x014C
a 相ゼロ電流(注 4)	VEIAO1	R/W	0x0150
b 相ゼロ電流(注 4)	VEIBO1	R/W	0x0154
c 相ゼロ電流(注 4)	VEICO1	R/W	0x0158
a 相電流 ADC 変換結果(注 4)	VEIAADC1	R/W	0x015C
b 相電流 ADC 変換結果(注 4)	VEIBADC1	R/W	0x0160
c 相電流 ADC 変換結果(注 4)	VEICADC1	R/W	0x0164
電源電圧(電圧[V] ÷最大電圧(注 3) ×2^{15})	VEVDC1	R/W	0x0168
d 軸電流(電流[A] ÷最大電流(注 2) ×2^{31})	VEID1	R/W	0x016C
q 軸電流(電流[A] ÷最大電流(注 2) ×2^{31})	VEIQ1	R/W	0x0170
PMD 制御：U 相 PWM パルス幅設定	VECMPU1	R/W	0x019C
PMD 制御：V 相 PWM パルス幅設定	VECMPV1	R/W	0x01A0
PMD 制御：W 相 PWM パルス幅設定	VECMP W 1	R/W	0x01A4
PMD 制御：6 相出力制御	VEOUTCR1	R/W	0x01A8
PMD 制御：トリガタイミング設定(TRGCMP0)	VETRGCMP01	R/W	0x01AC
PMD 制御：トリガタイミング設定(TRGCMP1)	VETRGCMP11	R/W	0x01B0
PMD 制御：同期トリガ指定	VETRGSEL1	R/W	0x01B4
PMD 制御：EMG 復帰設定	VEEMGRS1	W	0x01B8

注 1)　最大速度：制御あるいは動作可能な最大回転数[Hz]

注 2)　最大電流：相電流の AD 変換結果をゼロレベル補正した後に 0x7FF0 になる場合の電流値 [A]

注 3)　最大電圧：電源電圧(VDC)の AD 変換結果が 0xFFF0 になる場合の電圧値 [V]

注 4)　AD 変換結果は 16bit レジスタの上位 12bit に保存されます。

16.3.2　VE 制御レジスタ

16.3.2.1　VEEN(ベクトルエンジン動作許可／禁止レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	VEIDLEN	VEEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	–	R	リードすると"0"が読めます。
1	VEIDLEN	R/W	IDLE モード時のクロック動作制御 0：停止 1：動作
0	VEEN	R/W	ベクトルエンジン動作制御 0：禁止 1：許可

注)　ベクトルエンジン動作禁止(VEEN="0")状態ではベクトルエンジンの他のレジスタにアクセスできません。

16.3.2.2 VECPURUNTRG(CPU 起動トリガ選択レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	VCPURTB	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	−	R	リードすると"0"が読めます。
1	VCPURTB	W	チャネル 1 をソフトウエアで起動 0：− 1：動作開始 VETASKAPP<VTASKB>で設定されたタスクから動作開始します。
0	−	W	"0"をライトしてください。

注 1) "1"を書き込んでも、次のサイクルでクリアされます。リードすると常に 0 が読み出されます。

注 2) 動作開始されるタスクは VETASKAPP と VEACTSCH の設定によります。

注 3) スケジュール実行中に、スケジュールおよびタスクを再起動する場合、VECOMPEND レジスタで対応するチャネルを強制終了してから、再度、VECPURUNTRG レジスタにて動作を開始させてください。

16.3.2.3　VETASKAPP(タスク指定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	VTASKB				-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7-4	VTASKB[3:0]	R/W	チャネル 1 の開始タスクを指定 0x0 : 出力制御 1 (タスク番号 0) 0x1 : トリガ生成 (タスク番号 1) 0x2 : 入力処理 1 (タスク番号 2) 0x3 : 入力相変換 (タスク番号 3) 0x4 : 入力座標軸変換 (タスク番号 14) 0x5 : 電流制御 (タスク番号 5) 0x6 : SIN/COS 演算 (タスク番号 6) 0x7 : 出力座標軸変換 (タスク番号 7) 0x8 : 出力相変換 1[SVM] (タスク番号 8) 0x9 : 出力制御 2 (タスク番号 9) 0xA : 入力処理 2 (タスク番号 10) 0xB : 出力相変換 2[I-Clarke] (タスク番号 11) 0xC : ATAN (タスク番号 12) 0xD : SQRT (タスク番号 13) 0xE : Reserved 0xF : Reserved チャネル 1 をソフトウエアで起動する時の開始タスクを指定します。
3-0	−	R/W	"0"をライトしてください。

注)　動作スケジュールに含まれているタスク以外を指定しないでください。

16.3.2.4 VEACTSCH(動作スケジュール選択レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	VACTB				-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7-4	VACTB[3:0]	R/W	チャネル 1 の個別タスク実行または動作スケジュールを指定 0x0 : 個別タスク実行 0x1 : スケジュール 1 0x2 : スケジュール 2 0x3 : スケジュール 3 0x4 : スケジュール 4 0x5 : スケジュール 5 0x6 : スケジュール 6 0x7 : スケジュール 7 0x8 : スケジュール 8 0x9 : スケジュール 9 0xA : スケジュール 10 0xB : スケジュール 11 0xC : スケジュール 12 0xD : スケジュール 13 0xE : スケジュール 14 0xF : スケジュール 15
3-0	−	R/W	"0"をライトしてください。

注) 詳細は「表 16-4 スケジュール別の実行タスク」を参照。

16.3.2.5　VEREPTIME(動作スケジュール繰り返し回数指定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	VREPB				-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7-4	VREPB[3:0]	R/W	チャネル 1 動作スケジュールの繰り返し回数指定 0：スケジュール実行しない 1-15：設定回数だけスケジュールを繰り返し実行します
3-0	−	R/W	"0"をライトしてください。

注)　"0"設定時はスケジュール動作しないでください。

16.3.2.6 VETRGMODE(起動トリガモード設定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	VTRGB		-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-4	−	R	リードすると"0"が読めます。
3-2	VTRGB[1:0]	R/W	チャネル 1 での AD 変換終了割り込みによる入力処理起動条件選択 00：割り込み無視 01：Reserved 10：INTADBPDB(ADCB PMD1 トリガ同期変換終了)割り込みで起動 11：Reserved
1-0	−	R/W	"0"をライトしてください。

16.3.2.7 VEERRINTEN(エラー割り込み許可／禁止設定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	VERRENB	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	−	R	リードすると"0"が読めます。
1	VERRENB	R/W	チャネル 1 エラー検出時の割り込み制御 0：禁止 1：許可
0	−	R/W	"0"をライトしてください。

注)　動作スケジュールを実行中(起動トリガ待ちを含まない)に PWM 割り込みを検知するとエラーフラグに"1"がセットされます。

16.3.2.8 VECOMPEND(VE 強制終了レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	VCENDB	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	−	R	リードすると"0"が読めます。
1	VCENDB	W	チャネル 1 実行中のスケジュール強制終了 0：− 1：停止
0	−	W	"0"をライトしてください。

注) "1"を書き込んでも次のサイクルでクリアされます。リードすると常に"0"が読み出されます。

16.3.2.9　VEERRDET(エラー検出レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	VERRDB	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	−	R	リードすると"0"が読めます。
1	VERRDB	R	チャネル 1 エラーフラグ 0：エラー未検出 1：エラー検出
0	−	R	リードすると"0"が読めます。

注 1)　動作スケジュールを実行中(起動トリガ待ちを含まない)に PWM 割り込みを検知するとエラーフラグに"1"がセットされます。

注 2)　エラーフラグはレジスタをリードするとクリアされます。

16.3.2.10 VESCHTASKRUN(スケジュール動作状態／実行中タスク番号レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	VRTASKB	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	VRTASKB		VRSCHB	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-10	−	R	リードすると"0"が読めます。
9-6	VRTASKB[3:0]	R	チャネル 1 の実行中タスク番号 0x0：出力制御 1 (タスク番号 0) 0x1：トリガ生成 (タスク番号 1) 0x2：入力処理 1 (タスク番号 2) 0x3：入力相変換 (タスク番号 3) 0x4：入力座標軸変換 (タスク番号 4) 0x5：電流制御 (タスク番号 5) 0x6：SIN/COS 演算 (タスク番号 6) 0x7：出力座標軸変換 (タスク番号 7) 0x8：出力相変換 1 [SVM] (タスク番号 8) 0x9： 出力制御 2 (タスク番号 9) 0xA：入力処理 2 (タスク番号 10) 0xB：出力相変換 2[I-Clarke] (タスク番号 11) 0xC：ATAN (タスク番号 12) 0xD：SQRT (タスク番号 13) 0xE：Reserved 0xF：Reserved
5	VRSCHB	R	チャネル 1 スケジュール動作状態 0：停止 1：実行中
4-0	−	R	リードすると"0"が読めます。

16.3.2.11　VETMPREG0(テンポラリレジスタ 0)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	TMPREG0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	TMPREG0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TMPREG0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TMPREG0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-0	TMPREG0[31:0]	R/W	テンポラリレジスタ 0

16.3.2.12　VETMPREG1(テンポラリレジスタ 1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	TMPREG1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	TMPREG1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TMPREG1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TMPREG1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-0	TMPREG1[31:0]	R/W	テンポラリレジスタ 1

16.3.2.13 VETMPREG2(テンポラリレジスタ 2)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	TMPREG2							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	TMPREG2							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TMPREG2							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TMPREG2							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-0	TMPREG2[31:0]	R/W	テンポラリレジスタ 2

16.3.2.14 VETMPREG3(テンポラリレジスタ 3)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	TMPREG3							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	TMPREG3							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TMPREG3							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TMPREG3							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-0	TMPREG3[31:0]	R/W	テンポラリレジスタ 3

16.3.2.15　VETMPREG4(テンポラリレジスタ 4)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	TMPREG4							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	TMPREG4							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TMPREG4							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TMPREG4							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-0	TMPREG4[31:0]	R/W	テンポラリレジスタ 4

16.3.2.16　VETMPREG5(テンポラリレジスタ 5)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	TMPREG5							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	TMPREG5							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TMPREG5							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TMPREG5							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-0	TMPREG5[31:0]	R/W	テンポラリレジスタ 5

16.3.3 共通レジスタ

16.3.3.1 VETADC(ADC 変換開始ウェイト設定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TADC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TADC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます
15-0	TADC[15:0]	R/W	ADC 変換開始ウェイト時間の設定(図 16-4 参照) 0x0000~0xFFFF : (ADC 変換時間[s]÷PWM カウンタクロック周期[s] を設定)

注 1) 1 シャント電流検出モード、PWM シフト許可およびシフト 1 選択時に有効となります。
注 2) タスク 0 で使用されます。

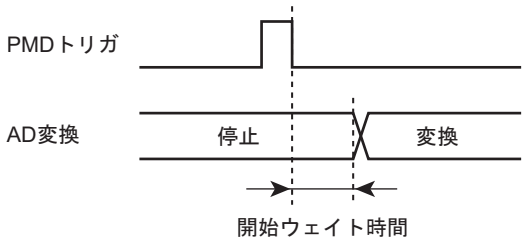


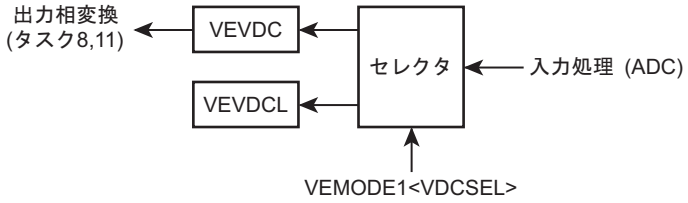
図 16-4 ADC 変換開始ウェイト

16.3.4　専用レジスタ

16.3.4.1　VEMODE1(タスク制御モードレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	T7SQRTEN	T4ATANEN	-	VDCSEL	OCRMD		ZIEN	PVIEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7	T7SQRTEN	R/W	タスク 7 と連動した電圧スカラ: 演算制御(SQRT 演算) 0 : 禁止 1 : 許可 「16.4.2.3 出力電圧変換(座標軸変換/相変換)」参照
6	T4ATANEN	R/W	タスク 4 と連動した電流ベクトル(dq): 位相演算制御(ATAN 演算) 0 : 禁止 1 : 許可 「16.4.2.7 入力電流変換(相変換/座標軸変換)」参照
5	−	R/W	"0"をライトしてください。
4	VDCSEL	R/W	タスク 2、タスク 10 の電源電圧保存レジスタ選択 0 : VEVDC 保存 1 : VEVDCL 保存
3-2	OCRMD[1:0]	R/W	タスク 0、タスク 9 出力制御 00 : 出力オフ 01 : 出力許可 10 : 短絡ブレーキ(出力は上相オフ、下相オン) 11 : EMG 復帰(出力オフ)
1	ZIEN	R/W	タスク 2 のゼロ電流検出制御 0 : 通常電流検出 1 : ゼロ電流検出
0	PVIEN	R/W	タスク 6 の位相補間制御 0 : 禁止 1 : 許可



注) VEVDCレジスタで制御される電源電圧に補正した値を使用する場合、保存先にVEVDCLを選択し、補正値をVEVDCレジスタにセットしてください。

図 16-5 VEVDC/VEVDCL 保存レジスタ

16.3.4.2　VEFMODE1(フロー制御レジスタ)

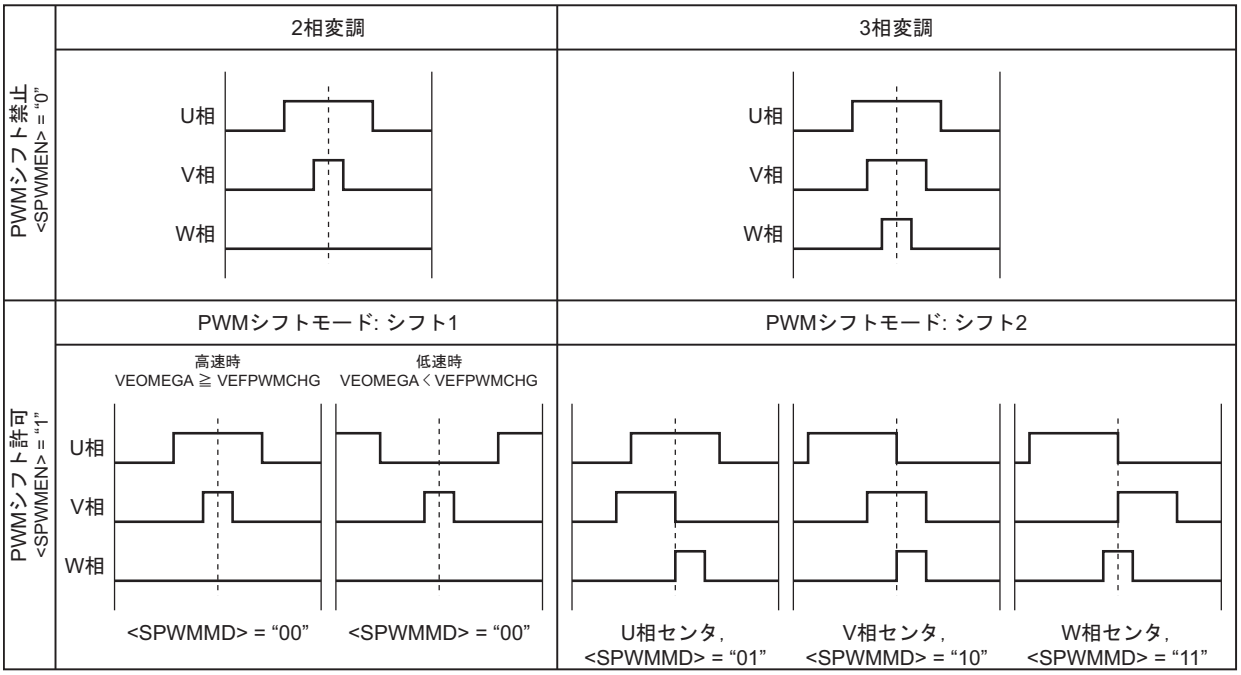
	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	SPWMMD		-	PHCVDIS	PIGSEL	-	MREGDIS	CRCEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	IDPLMD	-	IDMODE		SPWMEN	C2PEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます。
15-14	SPWMMD	R/W	PWM シフトモード選択 00 : シフト 1 01 : シフト 2 (U 相センタ) 10 : シフト 2 (V 相センタ) 11 : シフト 2 (W 相センタ) 詳細は「図 16-6 シフト設定と PWM 波形の関係」を参照。 注) 出力制御 1(タスク 0)実行時は、シフト 2 は選択できません(無効)
13	−	R/W	"0"をライトしてください。
12	PHCVDIS	R/W	相変換禁止 0 : 2-3 相変換許可 (3 相交流出力) 1 : 2-3 相変換禁止 (2 相交流出力) 注) 空間ベクトル変換(タスク 8)実行時は禁止できません(無効)
11	PIGSEL	R/W	電流制御ゲイン切り替え 0 : PI ゲインとして各 PI 係数レジスタ値を使用 1 : PI ゲインとして各 PI 係数レジスタ値の 1/256 倍を使用
10	−	R/W	"0"をライトしてください。
9	MREGDIS	R/W	SIN/COS/SECTOR 前回値保持選択 0 : 有効 1 : 無効 無効時は、VESINM1=VESIN1、VECOSM1=VECOS1、VESECTORM1=VESECTOR1
8	CRCEN	R/W	トリガ補正許可 0 : 禁止 1 : 許可 注) トリガ生成(タスク 1)実行時、1 シャント電流検出モードでシフト禁止、またはシフト 1 選択時のみ有効
7-6	−	R/W	"01"をライトしてください
5	IDPLMD	R/W	電流検出極性 0 : シャントモード(電流入力極性反転) 1 : センサモード(電流入力極性非反転) 注) 入力処理 2(タスク 10)実行時のみ有効
4	−	R/W	"1"をライトしてください

Bit	Bit Symbol	Type	機能
3-2	IDMODE[1:0]	R/W	電流検出モード 00 : 3 シャント(注 1) 01 : 2 センサ(注 2) 10 : 1 シャント(PMD TRG アップカウンタ(注 3、注 4)) 11 : 1 シャント(PMD TRG ダウンカウンタ(注 3、注 4)) 注 1) 入力処理 2(タスク 10)では 3 相電流検出になります。 注 2) 入力処理 2(タスク 10)では 2 相電流検出になります。 注 4) 出力制御 2(タスク 9)および入力処理 2(タスク 10)を実行する場合は、PWM シフト 2 に設定してください。
1	SPWMEN	R/W	PWM シフト許可 0 : 禁止 1 : 制御 注)出力制御 1(タスク 0)および入力処理 1(タスク 2)はシフト 1 のみ対応。出力制御 2(タスク 9)および入力処理 2(タスク 10)はシフト 2 のみ対応。
0	C2PEN	R/W	変調モード選択 0 : 3 相変調 1 : 2 相変調

注 3) 1 シャントモード使用時の PMDTRG の設定

VEFMODE1 <IDMODE[1:0]>	PMD1TRGCR <TRG0MD[2:0]>	PMD1TRGCR <TRG1MD[2:0]>
10	010 (up-count)	010 (up-count)
10	101 (carrier bottom)	010 (up-count)
11	001 (down-count)	001 (down-count)
11	001 (down-count)	101 (carrier bottom)



注1) シフト1は2相変調時のみ選択可能です。
注2) シフト2は3相変調時のみ選択可能です。
注3) シフト2はPMDの設定が必要です。

図 16-6 シフト設定と PWM 波形の関係

16.3.4.3 VETPWM1(PWM 周期レート設定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TPWM							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TPWM							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	TPWM[15:0]	R/W	PWM 周期レート設定、位相補間時の積分単位を設定、16 ビット固定小数点データ 0.0 ~ 1.0 0x0000 ~ 0xFFFF : PWM 周期[s] × Max_Hz × 2^{16} ※PWM 周波数と最大回転数との比を表します。 (Max_Hz : 最大回転数)

注) SIN/COS 演算(タスク 6)で位相補間許可時に使用されます。

16.3.4.4　VEOMEGA1(回転速度設定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	OMEGA							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	OMEGA							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	OMEGA[15:0]	R/W	回転速度設定、16 ビット固定小数点データ-1.0 ~ 1.0 0x8000 ~ 0x7FFF : 回転速度[Hz] ÷ Max_Hz × 2^{15} (Max_Hz : 最大回転数)

注 1)　SIN/COS 演算(タスク 6)で位相補間許可時に使用されます。
注 2)　出力制御 1(タスク 0)で 1 シャント電流検出の PWM シフト 1 選択時に使用されます。

16.3.4.5 VETHETA1(モータ位相設定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	THETA							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	THETA							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	THETA[15:0]	R/W	位相設定、16 ビット固定小数点データ 0.0 ~ 1.0 計算式 : 位相[deg] ÷ 360 × 2^{16}

注 1) SIN/COS 演算(タスク 6)で使用されます。

注 2) 位相補間許可で SIN/COS 演算(タスク 6)実行時に更新されます。

16.3.4.6　VECOS1/VESIN1/VECOSM1/VESINM1(SIN/COS レジスタ)

VECOS1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	COS							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	COS							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます
15-0	COS[15:0]	R/W	THETA 値での余弦値、16bit 固定小数点データ　-1.0 ~ 1.0 0x8000 ~ 0x7FFF

注 1)　SIN/COS 演算(タスク 6)実行時に更新されます。
注 2)　出力座標軸変換(タスク 7)で使用されます。

VESIN1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	SIN							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	SIN							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます
15-0	SIN[15:0]	R/W	THETA 値での正弦値、16bit 固定小数点データ　-1.0 ~ 1.0 0x8000 ~ 0x7FFF

注 1)　SIN/COS 演算(タスク 6)実行時に更新されます。

注 2)　出力座標軸変換(タスク 7)で使用されます。

VECOSM1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	COSM							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	COSM							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます
15-0	COSM[15:0]	R/W	VECOS1 レジスタの前回値保存 0x8000 ~ 0x7FFF

注 1)　SIN/COS 演算(タスク 6)実行時に更新されます。
注 2)　入力座標軸変換(タスク 4)で使用されます。

VESINM1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	SINM							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	SINM							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます
15-0	SINM[15:0]	R/W	VESIN1 レジスタの前回値保存 0x8000 ~ 0x7FFF

注 1)　SIN/COS 演算(タスク 6)実行時に更新されます。

注 2)　入力座標軸変換(タスク 4)で使用されます。

16.3.4.7　VEIDREF1/VEIQREF1(d 軸/q 軸基準電流値設定レジスタ)

VEIDREF1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	IDREF							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	IDREF							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます
15-0	IDREF[15:0]	R/W	d 軸電流指令値　16bit 固定小数点データ　-1.0 ~ 1.0 0x8000 ~ 0x7FFF(d 軸電流指令[A]÷Max_I×2^{15} を設定する) Max_I : (AD 変換が 1LSB 変化する相電流の変化量[A])×2^{11}

注)　電流制御(タスク 5)で使用されます。

VEIQREF1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	IQREF							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	IQREF							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます
15-0	IQREF[15:0]	R/W	q 軸電流指令値　16bit 固定小数点データ　-1.0 ~ 1.0 0x8000 ~ 0x7FFF(q 軸電流指令[A]÷Max_I×2^{15} を設定する) Max_I : (AD 変換が 1LSB 変化する相電流の変化量[A])×2^{11}

注)　電流制御(タスク 5)で使用されます。

16.3.4.8　VEVD1/VEVQ1(d 軸/q 軸電圧設定レジスタ)

VEVD1x

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	VD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	VD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	VD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	VD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-0	VD[31:0]	R/W	d 軸電圧、32bit 固定小数点データ　-1.0 ~ 1.0 0x8000_0000 ~ 0x7FFF_FFFF(d 軸電圧÷Max_V×2^{31} を設定する) Max_V : (AD 変換が 1LSB 変化する電源電圧の変化量[V])×2^{12}

注 1)　電流制御(タスク 5)実行時に更新されます。
注 2)　出力座標軸変換(タスク 7)で使用されます。

VEVQ1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	VQ							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	VQ							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	VQ							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	VQ							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-0	VQ[31:0]	R/W	q 軸電圧、32bit 固定小数点データ　-1.0 ~ 1.0 0x8000_0000 ~ 0x7FFF_FFFF(q 軸電圧÷Max_V×2^{31} を設定する) Max_V : (AD 変換が 1LSB 変化する電源電圧の変化量[V])×2^{12}

注 1)　電流制御(タスク 5)実行時に更新されます。

注 2)　出力座標軸変換(タスク 7)で使用されます。

16.3.4.9　VECIDKI1/VECIDKP1/VEVCIQKI1/VECIQKP1(PI 制御係数レジスタ)

VECIDKI1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	CIDKI							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	CIDKI							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます
15-0	CIDKI[15:0]	R/W	d 軸 PI 制御積分係数　0x8000 ~ 0x7FFF

VECIDKP1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	CIDKP							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	CIDKP							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます
15-0	CIDKP[15:0]	R/W	d 軸 PI 制御比例係数　0x8000 ~ 0x7FFF

VEVCIQKI1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	CIQKI							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	CIQKI							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます
15-0	CIQKI[15:0]	R/W	q 軸 PI 制御積分係数　0x8000 ~ 0x7FFF

VECIQKP1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	CIQKP							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	CIQKP							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます
15-0	CIQKP[15:0]	R/W	q 軸 PI 制御比例係数　0x8000 ~ 0x7FFF

16.3.4.10　VEVDIH1/VEVDILH1/VEVQIH1/VEVQILH1(PI 制御積分項保持レジスタ)

VEVDIH1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	VDIH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	VDIH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	VDIH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	VDIHI							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-0	VDIH[31:0]	R/W	d 軸 PI 制御の積分項(VDI)の上位 32bit

VEVDILH1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	VDILH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	VDILH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	VDILH[15:0]	R/W	d 軸 PI 制御の積分項(VDI)の下位 16bit
15-0	−	R	リードすると"0"が読めます。

注 1)　VDI は 64bit 固定小数点データ(小数 63bit　-1.0 ~ 1.0)
注 2)　VDI データは 48bit で構成されます。

VEVQIH1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	VQIH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	VQIH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	VQIH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	VQIH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-0	VQIH[31:0]	R/W	q 軸 PI 制御の積分項(VQI)の上位 32bit

VEVQILH1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	VQILH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	VQILH							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	VQILH[15:0]	R/W	q 軸 PI 制御の積分項(VQI)の下位 16bit
15-0	−	R	リードすると"0"が読めます。

注 1)　VQI は 64bit 固定小数点データ(小数 63bit　-1.0 ~ 1.0)

注 2)　VQI データは 48bit で構成されます。

16.3.4.11　VEMCTLF1(異常/判定結果保持レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	PLSLFM	PLSLF	-	LVTF	LAVFM	LAVF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7-6	−	R/W	"0"をライトしてください。
5	PLSLFM	R/W	<PLSLF>の前回値 注) 出力制御(タスク 0, 9)実行時に更新されます。
4	PLSLF	R/W	PWM デューティチェックフラグ 注) 出力制御(タスク 0, 9)実行時に更新されます。
			出力制御 1(タスク 0)実行時、1 シャント電流検出設定の場合 最小パルス幅差　<　VEMINPLS1<MINPLS>の場合に"1"をセット 注) 低速検出(<LAVF>="1")の場合は無効です。
			出力制御 2(タスク 9)実行時、 最小オン幅または 最小オフ幅　<　VEMINPLS1<MINPLS>の場合に"1"をセット
3	−	R/W	"0"をライトしてください。
2	LVTF	R/W	電源電圧低下フラグ VEVDC1<VDC>　≥　1/128 の場合"0" VEVDC1<VDC>　<　1/128 の場合"1" 注) 出力相変換(タスク 8, 11)実行時に更新されます。
1	LAVFM	R/W	<LAVF>の前回値 注) 出力制御（タスク 0, 9）実行時に更新されます。
0	LAVF	R/W	低速度フラグ 注) 出力制御（タスク 0, 9）実行時に更新されます。 0 : 高速 1 : 低速 VEOMEGA1<OMEGA>　≥　VEFPWMCHG1<FPWMCHG>の場合"0" VEOMEGA1<OMEGA>　<　VEFPWMCHG1<FPWMCHG>の場合"1" 注 1) PWM シフト 1 許可（FMODE[3]=FMODE[1]=FMODE[0]="1"）で出力制御 1（タスク 0） 実行時に低速検出されます。 注 2) 出力制御 2（タスク 9） 実行時は常に "0" になります。

16.3.4.12 VEFPWMCHG1(PWM 切り替え速度設定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	FPWMCHG							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	FPWMCHG							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます
15-0	FPWMCHG[15:0]	R/W	PWM シフト許可時の PWM 切り替え速度設定 切り替え速度[Hz] ÷ Max_Hz × 2^{15} を設定 (Max_Hz : 最大回転数[Hz])

注) タスク 0 で、1 シャント電流検出で PWM シフト許可でシフト 1 選択時に使用されます。

16.3.4.13　VEMDPRD1(PWM 周期設定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	VMDPRD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	VMDPRD							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	VMDPRD[15:0]	R/W	PWM 周期設定 PMD 機能の PMD1MDPRD レジスタ値を設定します。

注)　出力制御(タスク 0、9)およびトリガ生成(タスク 1)で使用されます。

16.3.4.14 VEMINPLS1(最小パルス幅差設定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	MINPLS							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	MINPLS							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	MINPLS[15:0]	R/W	MCTLF<PLSLF> の判定基準を設定します。
			出力制御 1(タスク 0)実行時、1 シャント電流検出で PWM シフト許可時の最小パルス幅差(3 相 PWM (VECMPU1,VECMPV1,VECMPW1)の Duty 差の最小値)基準値を設定します。 設定値は以下の計算式となります。 パルス幅差[s] ÷ PWM カウンタクロック周期[s]
			出力制御 2(タスク 9)実行時、最小パルス幅(3 相 PWM(VECMPU1,VECMPV1,VECMPW1)の Duty の最小値)基準値を設定します。 設定値は以下の計算式となります。 パルス幅[s] ÷ PWM カウンタクロック周期[s]

16.3.4.15　VESECTOR1/VESECTORM1(セクタ情報レジスタ)

VESECTOR1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	SECTOR			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-4	–	R	リードすると"0"が読めます
3-0	SECTOR[3:0]	R/W	セクタ情報 設定値 : 0x0 ~ 0xB 出力時の回転位置を 30 度毎の 12 エリアに分けてセクタで表します。

注 1)　出力相変換(タスク 8、11)の実行時に更新されます。
注 2)　出力制御 1(タスク 0)で使用されます。

VESECTOR M 1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	SECTOR M			
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-4	−	R	リードすると"0"が読めます
3-0	SECTORM[3:0]	R/W	前回のセクタ情報 設定値 : 0x0 ~ 0xB 入力処理で使用。

注 1)　出力相変換(タスク 8、11)の実行時に更新されます。

注 2)　入力処理 1(タスク 2)で使用されます。

16.3.4.16　VEIAO1/VEIBO1/VEICO1(ゼロ電流レジスタ)

VEIAO1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	IAO							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	IAO							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	IAO[15:0]	R/W	a 相ゼロ電流時 ADC 変換結果保存(停止時の a 相電流の ADC 変換結果を保存)

注 1)　ゼロ電流検出モード選択時、入力処理 1(タスク 2)で更新されます。
注 2)　ADC 変換結果取り込み時は <IAO[15:4]> に保存され、<IAO[3:0]>は "0"が保存されます。

VEIBO1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	IBO							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	IBO							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	IBO[15:0]	R/W	b 相ゼロ電流時 ADC 変換結果保存(停止時の b 相電流の ADC 変換結果を保存)

注 1)　ゼロ電流検出モード選択時、入力処理 1(タスク 2)で更新されます。

注 2)　ADC 変換結果取り込み時は <IBO[15:4]> に保存され、<IBO[3:0]>は "0"が保存されます。

VEICO1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ICO							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ICO							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます
15-0	ICO[15:0]	R/W	c 相ゼロ電流時 ADC 変換結果保存(停止時の c 相電流の ADC 変換結果を保存)

注 1)　ゼロ電流検出モード選択時、入力処理 1(タスク 2)で更新されます。
注 2)　ADC 変換結果取り込み時は <ICO[15:4]> に保存され、<ICO[3:0]>は "0"が保存されます。

16.3.4.17 VEIAADC1/VEIBADC1/VEICADC1(電流 ADC 結果レジスタ)

VEIAADC1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	IAADC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	IAADC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	IAADC[15:0]	R/W	a 相電流 ADC 変換結果保存　0x0000 ~ 0xFFFF

注 1)　入力処理(タスク 2、10)実行時に更新されます。

注 2)　ADC 変換結果は<IAADC[15:4]> に保存され、<IAADC[3:0]>は "0"が保存されます。

VEIBADC1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	IBADC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	IBADC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます
15-0	IBADC[15:0]	R/W	b 相電流 ADC 変換結果保存　0x0000 ~ 0xFFFF

注 1)　入力処理(タスク 2、10)実行時に更新されます。
注 2)　ADC 変換結果は<IBADC[15:4]> に保存され、<IBADC[3:0]>は "0"が保存されます。

VEICADC1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ICADC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ICADC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます
15-0	ICADC[15:0]	R/W	c 相電流 ADC 変換結果保存　0x0000 ~ 0xFFFF

注 1)　入力処理(タスク 2、10)実行時に更新されます。

注 2)　ADC 変換結果は<ICADC[15:4]> に保存され、<ICADC[3:0]>は "0"が保存されます。

16.3.4.18　VEVDC1/VEVDCL1(電源電圧レジスタ)

VEVDC1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	VDC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	VDC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます
15-0	VDC[15:0]	R/W	電源電圧,16bit 固定小数点データ: 0 ~ 1.0 設定値 : 0x0000 ~ 0x7FFF 実電圧値に変換するには、VDC 値× Max_V 値 ÷2^{15} (Max_V : (AD 変換が 1LSB 変化する電源電圧の変化量[V]) × 2^{12})

注 1)　VEMODE1 レジスタで保存先に VDC が選択させている時、入力処理(タスク 2、10)実行時に更新されます。
注 2)　出力相変換(タスク 8、11)で使用されます。

VEVDCL1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	VDCL							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	VDCL							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます
15-0	VDCL[15:0]	R/W	電源電圧,16bit 固定小数点データ: 0 ~ 1.0 設定値 : 0x0000 ~ 0x7FFF 実電圧値に変換するには、VDCL 値 × Max_V 値 ÷ 2^{15} (Max_V : (AD 変換が 1LSB 変化する電源電圧の変化量[V]) × 2^{12})

注) VEMODE1 レジスタで保存先に VDCL が選択させている時、入力処理(タスク 2、10)実行時に更新されます。

16.3.4.19　VEID1/VEIQ1(d 軸/q 軸電流レジスタ)

VEID1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	ID							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	ID							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	ID							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	ID							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-0	ID[31:0]	R/W	d 軸電流、32bit 固定小数点データ: -1.0 ~ 1.0 設定値 : 0x8000_0000 ~ 0x7FFF_FFFF 実電流値に変換するには、 ID 値 × Max_I 値 ÷ 2^{31} (Max_I : (AD 変換が 1LSB 変化する相電流の変化量[A]) × 2^{11})

注 1)　入力座標軸変換(タスク 4)実行時に更新されます。
注 2)　電流制御(タスク 5)で使用されます。

VEIQ1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	IQ							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	IQ							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	IQ							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	IQ							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-0	IQ[31:0]	R/W	q 軸電流、32bit 固定小数点データ　-1.0 ~ 1.0 設定値 : 0x8000_0000 ~ 0x7FFF_FFFF 実電流値に変換するには、 IQ 値× Max_I 値÷ 2^{31} (Max_I : (AD 変換が 1LSB 変化する相電流の変化量[A]) × 2^{11})

注 1)　入力座標軸変換(タスク 4)実行時に更新されます。

注 2)　電流制御(タスク 5)で使用されます。

16.3.4.20　VECMPU1/ VECMPV1/ VECMPW1(PWM DUTY レジスタ)

VECMPU1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	VCMPU							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	VCMPU							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	VCMPU[15:0]	R/W	U 相 PWM パルス幅設定 設定値 : 0x0000 ~ 0xFFFF

注 1)　出力制御(タスク 0、9)実行時に更新されます。
注 2)　トリガ生成(タスク 1)で使用されます。

VECMPV1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	VCMPV							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	VCMPV							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	VCMPV[15:0]	R/W	V 相 PWM パルス幅設定 設定値 : 0x0000 ~ 0xFFFF

注 1)　出力制御(タスク 0、9)実行時に更新されます。

注 2)　トリガ生成(タスク 1)で使用されます。

VECMPW1

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	VCMPW							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	VCMPW							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	VCMPW[15:0]	R/W	W 相 PWM パルス幅設定 設定値 : 0x0000 ~ 0xFFFF

注 1)　出力制御(タスク 0、9)実行時に更新されます。
注 2)　トリガ生成(タスク 1)で使用されます。

16.3.4.21 VEOUTCR1(6 相出力制御レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	WPWM
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	VPWM	UPWM	WOC		VOC		UOC	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-9	–	R	リードすると"0"が読めます
8	WPWM	R/W	W 相 PWM 0 : オン/オフ出力 1 : PWM 出力
7	VPWM	R/W	V 相 PWM 0 : オン/オフ出力 1 : PWM 出力
6	UPWM	R/W	U 相 PWM 0 : オン/オフ出力 1 : PWM 出力
5-4	WOC[1:0]	R/W	W 相出力制御 00 : WO オフ,ZO オフ(注) 01 : WO オン,ZO オフ 10 : WO オフ,ZO オン 11 : WO オン,ZO オン (注)<WPWM>=1 時は両方オン
3-2	VOC[1:0]	R/W	V 相出力制御 00 : VO オフ,YO オフ(注) 01 : VO オン,YO オフ 10 : VO オフ,YO オン 11 : VO オン,YO オン (注)<VPWM>=1 時は両方オン
1-0	UOC[1:0]	R/W	U 相出力制御 00 : UO オフ,XO オフ(注) 01 : UO オン,XO オフ 10 : UO オフ,XO オン 11 : UO オン,XO オン (注)<UPWM>=1 時は両方オン

注) 出力制御(タスク 0、9)実行時に更新されます。

PMD の U,V,W 相の出力制御を以下に示します。(VE で使用する組み合わせのみ表示)

表 16-1 <UPWM>,<UOC> PMD 設定：U 相(UO,XO) の出力制御

設定		出力	
<UPWM>	<UOC>	UO	XO
0	00	オフ出力	オフ出力
1	00	PWMU 反転出力	PWMU 出力
1	11	PWMU 出力	PWMU 反転出力

表 16-2 <VPWM>,<VOC> PMD 設定：V 相(VO,YO) の出力制御

設定		出力	
<VPWM>	<VOC>	VO	YO
0	00	オフ出力	オフ出力
1	00	PWMV 反転出力	PWMV 出力
1	11	PWMV 出力	PWMV 反転出力

表 16-3 <WPWM>,<WOC> PMD 設定：W 相(WO,ZO) の出力制御

設定		出力	
<WPWM>	<WOC>	WO	ZO
0	00	オフ出力	オフ出力
1	00	PWMW 反転出力	PWMW 出力
1	11	PWMW 出力	PWMW 反転出力

16.3.4.22 VETRGCRC1(同期トリガ補正量設定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	TRGCRC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	TRGCRC							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます
15-0	TRGCRC[15:0]	R/W	同期トリガタイミングを補正 設定値 : 補正時間[s] ÷ PWM カウンタクロック周期[s]

注 1) トリガ生成(タスク 1)で使用されます。

注 2) 1 シャント電流検出で PWM シフト禁止またはシフト 1 選択時のみ有効です。

16.3.4.23　VETRGCMP01/VETRGCMP11(トリガタイミング設定レジスタ)

VETRGCMP01

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	VTRGCMP0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	VTRGCMP0							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	–	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	VTRGCMP0[15:0]	R/W	ADC を PMD と同期させてサンプリングさせるトリガタイミングの設定(PMD 設定) 0x0000 : 設定禁止 0x0001 ~ (<MDPRD[15:0]>値-1) : トリガタイミング <MDPRD[15:0]>値 ~ 0xFFFF : 設定禁止

注 1)　PMD のトリガモードを次の何れかを選択時に有効。ダウンカウント時の一致、アップカウント時の一致、アップおよびダウンカウント時の一致

注 2)　トリガ生成(タスク 1)実行時、1 シャント電流検出で PWM シフト禁止またはシフト 1 選択時に更新されます。

VETRGCMP11

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	VTRGCMP1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	VTRGCMP1							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-16	−	R	リードすると"0"が読めます。
15-0	VTRGCMP1[15:0]	R/W	ADC を PMD と同期させてサンプリングさせるトリガタイミングの設定(PMD 設定) 0x0000 : 設定禁止 0x0001 ~ (<MDPRD[15:0]>値-1) : トリガタイミング <MDPRD[15:0]>値 ~ 0xFFFF : 設定禁止

注 1) PMD のトリガモードを次の何れかを選択時に有効。ダウンカウント時の一致、アップカウント時の一致、アップおよびダウンカウント時の一致

注 2) PMD のトリガ出力モードにトリガ選択出力(PMD1TRGMD<TRGOUT>="1")を選択時は無効

注 3) トリガ生成(タスク 1)実行時、1 シャント電流検出で PWM シフト禁止またはシフト 1 選択時に更新されます。

16.3.4.24　VETRGSEL1(同期トリガ指定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	VTRGSEL		
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-3	–	R	リードすると"0"が読めます。
2-0	VTRGSEL[2:0]	R/W	<VTRGCMP0[15:0]>設定タイミングで出力する同期トリガ番号の指定(PMD 設定) 0 ~ 5 : 出力トリガ番号 6 ~ 7 : 使用禁止

注 1)　PMD のトリガ出力モードにトリガ選択出力(PMD1TRGMD<TRGOUT>="1")を選択時に有効
注 2)　トリガ生成(タスク 1)実行時に更新されます。

16.3.4.25 VEEMGRS1(EMG 復帰設定レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	EMGRS
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-1	–	R	リードすると"0"が読めます
0	EMGRS	W	EMG 復帰コマンド(PMD 設定) 0：- 1：EMG 復帰コマンド

注 1) "1"を書き込んでも次のサイクルでクリアされます。リードすると常に"0"が読み出されます。

注 2) EMG 復帰モードで出力制御(タスク 0、9)実行時に "1" がセットされます。

16.4　動作説明

16.4.1　スケジュール管理

モータ制御は 図 16-7 のようなフローで実行されます。ベクトルエンジンは各動作状態をスケジュール設定と MODE 設定を切り替えることで遷移させます。

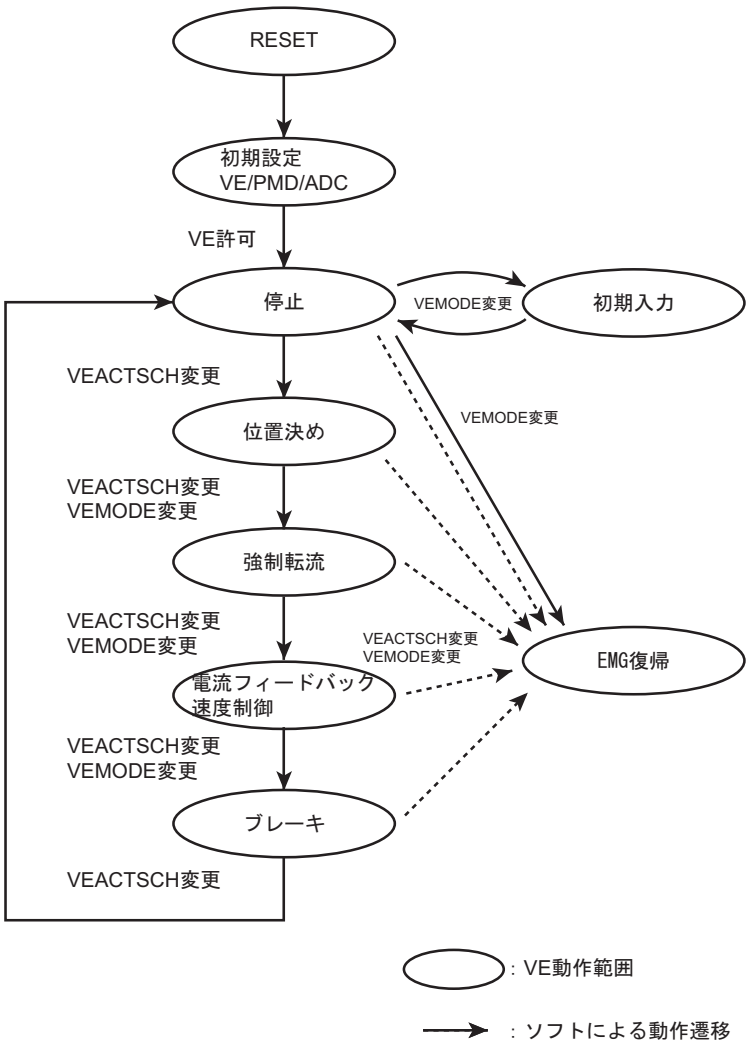


図 16-7 モータ制御の動作状態フロー例

RESET	:マイコンリセット
初期設定	:ユーザソフトによる初期設定
停止	:モータ停止
初期入力	:停止時のゼロ電流をサンプリングして保存
位置決め	:モータ起動時の位置決め制御
強制転流	:モータ起動 所定時間はフィードバック制御せずに設定速度で回転させる
電流フィードバック速度制御	:電流フィードバックによる制御
ブレーキ	:減速制御
EMG 復帰	: EMG 保護状態から復帰する

16.4.1.1 スケジュール制御

動作スケジュールは VEACTSCH レジスタで選択します。

スケジュールは出力処理を行う出力スケジュールと入力処理を行う入力スケジュールで構成されます。出力スケジュールは出力関連のタスク、入力スケジュールは入力関連のタスクで構成されます。スケジュールと動作するタスクの関連を 表 16-4 に示します。

また、モータ制御フローに応じて、VEMODE1 レジスタで位相補間許可／出力制御動作／ゼロ電流検出などを選択してください。

表 16-4 スケジュール別の実行タスク

スケジュール指定 VEACTSCH <VACTB[3:0]>	出力スケジュール実行タスク								入力スケジュール実行タスク			
	電流制御	SIN/COS 演算 (注 2)	出力座標軸変換 (注 3)	出力相変換 1	出力相変換 2	出力制御 1 (注 4)	出力制御 2 (注 4)	トリガ生成	入力処理 1 (注 5)	入力処理 2	入力相変換	入力座標軸変換 (注 6)
	T5	T6	T7	T8	T11	T0	T9	T1	T2	T10	T3	T4
0 : タスク実行	(注 1)	(注 1)	(注 1)	(注 1)	(注 1)	(注 1)	(注 1)	(注 1)	(注 1)	(注 1)	(注 1)	(注 1)
1 : スケジュール 1	o	o	o	o	-	o	-	o	o	-	o	o
2 : スケジュール 2	o	o	o	o	-	-	o	o	-	o	o	o
3 : スケジュール 3	o	o	o	-	o	-	o	o	-	o	o	o
4 : スケジュール 4	-	o	o	o	-	o	-	o	o	-	o	o
5 : スケジュール 5	-	o	o	o	-	-	o	o	-	o	o	o
6 : スケジュール 6	-	o	o	-	o	-	o	o	-	o	o	o
7 : スケジュール 7	-	o	o	-	o	o	-	o	o	-	o	o
8 : スケジュール 8	o	o	o	-	o	o	-	o	o	-	o	o
9 : スケジュール 9	-	-	-	-	-	o	-	o	o	-	-	-
10 : スケジュール 10	o	o	o	o	-	o	-	-	-	-	-	-
11 : スケジュール 11	o	o	o	o	-	-	o	-	-	-	-	-
12 : スケジュール 12	o	o	o	-	o	-	o	-	-	-	-	-
13 : スケジュール 13	o	o	o	-	o	o	-	-	-	-	-	-
14 : スケジュール 14	-	-	-	-	-	-	-	o	o	-	o	o
15 :スケジュール 15	-	-	-	-	-	-	-	o	-	o	o	o

注 1) VETASKAPP で指定したタスクのみ実行されます。
注 2) 位相補間設定
注 3) VEMODE1<T7QRTEN>="1"の場合、電圧スカラ演算(SQRT 演算)も同時に実行されます。
注 4) 出力オフ設定: <EMGRS>
注 5) ゼロ電流検出でタスク動作を切り替え
注 6) VEMODE1<T4ATANEN>="1"の場合、電流ベクトル(dq)位相演算(ATAN 演算)も同時に実行されます。

表 16-5 代表動作フローでの設定例

設定 モータ制御フロー	スケジュール設定 VEACTSCH <VACTB[3:0]>	タスク指定 VETASKAPP <VTASKB[3:0]>	位相補間許可 VEMODE1 <PVIEN>	出力制御動作 VEMODE1 <OCRMD[1:0]>	ゼロ電流検出 VEMODE1 <ZIEN>
停止	9	0	x	00	0
初期入力	9	0	x	00	1
位置決め	1	5	0	01	0
強制転流	1	5	1	01	0
電流フィードバック 速度制御	1	5	1	01	0
ブレーキ	4	6	0	01	0
EMG 復帰	9	0	x	11	0
短絡ブレーキ	4	6	x	10	0

出力スケジュールはコマンド(VECPURUNTRG)で動作開始し、出力関連タスクが全て終了するとベクトルエンジンは待機状態に移行して起動トリガを待ちます。

入力スケジュールは起動トリガで動作開始し、入力関連タスクが全て終了すると CPU に割り込みを発生してベクトルエンジンは休止状態に移行します。ただし、スケジュールの繰り返し回数(VEREPTIME)を 2 回以上に設定している場合は、設定回数に達するまでは割り込みを発生せずに出力スケジュールを起動します。

注)　スケジュール 10 ~ 15 はリピートに対応してません。(VEREPTTIME ≥ 2 でも 1 回で終了します。)

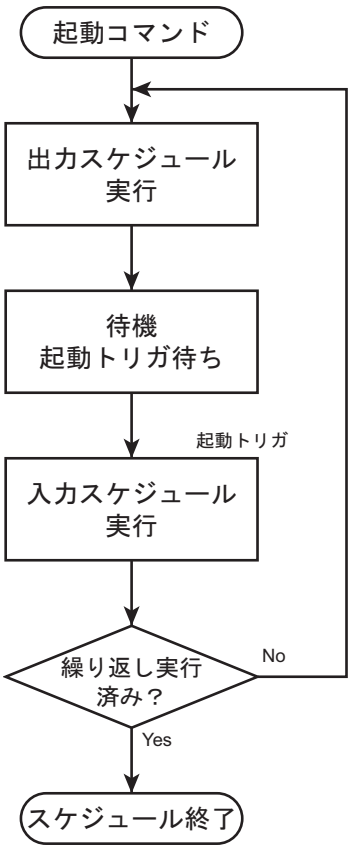


図 16-8 動作スケジュールの動作遷移

16.4.1.2 起動制御

初めに、ベクトルエンジン許可(<VEEN> ="1")して、動作スケジュール選択レジスタ(VEACTSCH)、タスク指定レジスタ(VETASKAPP)、および動作スケジュール繰り返し回数指定レジスタ(VEREPTIME)を設定後、下記の手順でスケジュールを実行してください。

ベクトルエンジンの動作スケジュールは出力スケジュールと入力スケジュールに分かれており、基本的に出力スケジュール実行後の待機状態で起動トリガが発生すると入力スケジュールが実行されます。

出力スケジュールと入力スケジュールはそれぞれ次の条件で起動します。

- 出力スケジュールの起動

  1. コマンドスタート(VECPURUNTRG)で指定タスク(VETASKAPP)の開始
  2. 入力スケジュール終了後の繰り返しスタート(VEREPTIME ≥ 2)

- 入力スケジュールの起動

  1. 出力スケジュール終了後の起動トリガ(VETRGMODE で選択したトリガ入力)による入力処理タスクの開始
  2. コマンドスタート(VECPURUNTRG)で指定タスク(VETASKAPP)の開始

16.4.2 タスク概要

スケジュールで動作する各タスクの概要を示します。

個別実行タスクや起動タスクの指定には表 16-6 のタスク番号を使用します。

表 16-6 タスク一覧

タスク		タスク機能	タスク番号
出力スケジュール	電流制御	dq 電流制御	5
	SIN/COS 演算	正弦/余弦演算,位相補間	6
	出力座標軸変換	電圧スカラ演算	7
	出力相変換 1	2 相から 3 相に変換[SVM]	8
	出力相変換 2	2 相から 3 相に変換[I-Clarke]	11
	出力制御 1	PMD 設定形式へのデータ変換 PWM シフト切り替え	0
	出力制御 2	PMD 設定形式へのデータ変換 PWM シフト切り替え	9
	トリガ生成	同期トリガタイミング生成	1
入力スケジュール	入力処理 1	ADC 変換結果取り込み 固定小数点数へのデータ変換	2
	入力処理 2	ADC 変換結果取り込み 固定小数点数へのデータ変換	10
	入力相変換	3 相から 2 相に変換	3
	入力座標軸変換	電流ベクトル(dq)位相演算	4
ATAN 演算		逆正接を算出	12
SQRT 演算		平方根を算出	13

16.4.2.1　電流制御(タスク 5)

電流制御タスクは、d 軸電流、q 軸電流それぞれに PI 制御演算を行います。

本電流制御で d 軸、q 軸電圧を算出します。

電流制御ゲイン切り替え(VEFMODE1<PIGSEL>)を "1" に設定すると比例係数、積分係数は 1/256 倍にされます。

1. d 軸電流 PI 制御

<演算式>

Δ ID = VEIDREF1 − VEID1	:電流指令値と電流フィードバックの差分
VEVDI1 = VECIDKI1 × Δ ID + VEVDI1	:積分項演算
VEVD1 = VECIDKP1 × Δ ID + VEVDI1	:比例項をあわせて電圧算出

	レジスタ名	機能	
入力	VEID1	d 軸電流	32bit 固定小数点データ(小数点以下 31bit)
	VEIDREF1	d 軸電流基準値	16bit 固定小数点データ(小数点以下 15bit)
	VECIDKP1	比例係数	16bit データ
	VECIDKI1	積分係数	16bit データ
	VEFMODE1	電流制御ゲイン切り替え	<PIGSEL>
出力	VEVD1	d 軸電圧	32bit 固定小数点データ(小数点以下 31bit)
内部	VEVDI1	d 軸電圧積分項保持	64bit 固定小数点データ(小数点以下 63bit)

注) VEVDI1 は 64 ビットデータで、上位が VEVDIH1 レジスタ、下位が VEVDILH1 レジスタの構成です。

2. q 軸電流 PI 制御

<演算式>

Δ IQ = VEIQREF1 − VEIQ1	:電流指令値と電流フィードバックの差分
VEVQI1 = VECIQKI1 × Δ IQ + VEVQI1	:積分項演算
VEVQ1 = VECIQKP1 × Δ IQ + VEVQI1	:比例項をあわせて電圧算出

	レジスタ名	機能	
入力	VEIQ1	q 軸電流	32bit 固定小数点データ(小数点以下 31bit)
	VEIQREF1	q 軸電流基準値	16bit 固定小数点データ(小数点以下 15bit)
	VECIQKP1	比例係数	16bit データ
	VECIQKI1	積分係数	16bit データ
	VEFMODE1	電流制御ゲイン切り替え	<PIGSEL>
出力	VEVQ1	q 軸電圧	32bit 固定小数点データ(小数点以下 31bit)
内部	VEVQI1	q 軸電圧積分項保持	64bit 固定小数点データ(小数点以下 63bit)

注) VEVQI1 は 64 ビットデータで、上位が VEVQIH1 レジスタ、下位が VEVQILH1 レジスタの構成です。

16.4.2.2 SIN/COS 演算(タスク 6)

SIN/COS 演算タスクは、位相補間演算と SIN/COS 演算を実行します。

位相補間は回転速度を PWM 周期で積分して計算し、位相補間許可時(VEMODE1<PVIEN> ="1") のみ実行します。

1. 位相補間

<演算式>

VETHETA1 = VEOMEGA1 × VETPWM1 + VETHETA1 :速度積分、位相補間許可時のみ

	レジスタ名	機能	
入力	VETHETA1	位相 θ	16bit 固定小数点データ(0.0 ~ 1.0、小数点以下 16bit)
	VEOMEGA1	回転速度	16bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 15bit)
	VETPWM	PWM 周期レート	16bit データ
	VEMODE1	位相補間許可	<PVIEN>
出力	VETHETA1	位相 θ	16bit 固定小数点データ(0.0 ~ 1.0、小数点以下 16bit)

2. SIN/COS 演算

<演算式>

VESINM1 = VESIN1 :前回値保存(入力処理用)

VECOSM1 = VECOS1 :前回値保存(入力処理用)

VESIN1 = sin (VETHETA1 × π) : SIN/COS 演算

VECOS1 = sin ((VETHETA1 + 1/4) × π) : SIN/COS 演算

	レジスタ名	機能	
入力	VETHETA1	位相 θ	16bit 固定小数点データ(0.0 ~ 1.0、小数点以下 16bit)
出力	VESIN1	θ での正弦値	16bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 15bit)
	VECOS1	θ での余弦値	
	VESINM1	前回の正弦値	
	VECOSM1	前回の余弦値	

16.4.2.3　出力電圧変換(座標軸変換/相変換)

出力電圧変換は座標軸変換と相変換の 2 段階で変換します。

相変換タスクには空間ベクトル変換と逆クラークの 2 種類あります。

1. 出力座標軸変換(タスク 7)

   出力座標軸タスクは d 軸電圧、q 軸電圧、sinθ、cosθ から α 軸電圧、β 軸電圧を算出します。

   出力座標軸タスクは座標軸変換と電圧スカラ演算を行います。

   a. 座標軸変換

      <演算式>

      VETMPREG3 = VECOS1 × VEVD1 − VESIN1 × VEVQ1　　:Vα 算出

      VETMPREG4 = VESIN1 × VEVD1 + VECOS1 × VEVQ1　　:Vβ 算出

   b. 電圧スカラ演算

      <T7SQRTEN>="1"の場合、電圧スカラを演算します。

      <演算式>

      $VETMPREG5 = SQRT ((VETMPREG3)^2 + (VETMPREG4)^2)$

	レジスタ名	機能	
入力	VEVD1	d 軸電圧	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VEVQ1	q 軸電圧	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VESIN1	θ での正弦値	16bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 15bit)
	VECOS1	θ での余弦値	16bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 15bit)
	VEMODE1	SQRT 実行制御	<T7SQRTEN>
出力	VETMPREG3	α 軸電圧	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG4	β 軸電圧	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG5	電圧スカラ	32bit 固定小数点データ(0 ~ 2.0、小数点以下 15bit)

注)　電圧スカラ演算の結果を格納するレジスタ<VETMPREG5>は、複数のタスクで使用しています。電圧スカラ演算結果を読みだす前に、他のタスクの演算結果が上書きされる場合があります。このため、電圧スカラ演算を有効にする場合は、個別タスク実行（<VACTB[3:0]>=0x0）で使用してください。

2. 出力相変換 1(空間ベクトル変換)(タスク 8)

出力相変換 1 は α 軸電圧、β 軸電圧からセクタ判定し、セクタ別に空間ベクトル変換で a 相電圧、b 相電圧、c 相電圧の Duty を算出します。このタスクは変換方式に 2 相変調か 3 相変調かを選択できます。

a. セクタ判定

<演算式>

```
VESECTORM1 = VESECTOR1                                          : 前回セクタを保存
if (Vα ≧ 0 & Vβ ≧ 0)                                           : V β 算出
    if (|Vα| ≧ |Vβ| ÷ √ 3)
        if (|Vα| ÷ √ 3 ≧ |Vβ|)                                  SECTOR=0
        else                                                    SECTOR=1
    else                                                        SECTOR=2
else if (Vα ＜ 0 & Vβ ≧ 0)
    if (|Vα| ＜ |Vβ| ÷ √ 3)                                     SECTOR=3
    else if (|Vα| ÷ √ 3 ＜ |Vβ|)                                SECTOR=4
        else                                                    SECTOR=5
else if (Vα ＜ 0 & Vβ ＜ 0)
    if (|Vα| ≧ |Vβ| ÷ √ 3)
        if (|Vα| ÷ √ 3 ≧ |Vβ|)                                  SECTOR=6
        else                                                    SECTOR=7
    else                                                        SECTOR=8
else if (Vα ≧ 0 & Vβ ＜ 0)
    if (|Vα| ＜ |Vβ| ÷ √ 3)                                     SECTOR=9
    else if (|Vα| ÷ √ 3 ＜ |Vβ|)                                SECTOR=10
        else                                                    SECTOR=11
```

	レジスタ名	機能	
入力	VETMPREG3	α 軸電圧	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG4	β 軸電圧	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
出力	VESECTOR1	セクタ	4bit データ
	VESECTORM1	前回のセクタ	4bit データ

b.　空間ベクトル変換(<SECTOR[3:0]> = "0"の場合のみ記載)

<演算式>

```
if (VESECTOR1<SECTOR[3:0]> = 0)

  t1 = (√3) ÷ (VEVDC1) × ((√3) ÷ 2 × Vα - 1 ÷ 2 × Vβ)      : V1 期間算出
  t2 = (√3) ÷ (VEVDC1) × (Vβ)                               : V2 期間算出
  t3 = 1 - t1 - t2                                          : V0 + V7 期間算出

 if (VEFMODE1<C2PEN> = 0)                                   : 3相変調

  VETMPREG0 =  t1 +  t2 +  t3 ÷ 2                           : Va 算出
  VETMPREG1 =  t2 +  t3 ÷ 2                                 : Vb 算出
  VETMPREG2 =  t3 ÷ 2                                       : Vc 算出

else                                                        : 2相変調

  VETMPREG0 =  t1 +  t2                                     : Va 算出
  VETMPREG1 =  t2                                           : Vb 算出
  VETMPREG2 =  0                                            : Vc 算出
```

	レジスタ名	機能	
入力	VETMPREG3	α 軸電圧	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG4	β 軸電圧	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VEVDC1	電源電圧	16bit 固定小数点データ(0.0 ~ 1.0、小数点以下 15bit)
	VESECTOR1	セクタ	4bit データ
	VEFMODE1	変調モード SECTORM 保存設定	<C2PEN> <MREGDIS>
出力	VETMPREG0	a 相電圧 Duty	32bit 固定小数点データ(0..0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG1	b 相電圧 Duty	32bit 固定小数点データ(0..0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG2	c 相電圧 Duty	32bit 固定小数点データ(0..0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)

3. 出力相変換 2(逆クラーク変換)(タスク 11)

出力相変換 2 は α 軸電圧、β 軸電圧からセクタ判定し、逆クラーク変換で a 相電圧、b 相電圧、c 相電圧のデューティを算出するタスクです。このタスクは変換方式として 3 相変調だけに対応します。

また、このタスクは VEFMODE1<PHCVDIS> を"1"に設定することで 2 相電圧の Duty を算出します。

a. セクタ判定

<演算式>

```
VESECTORM1 = VESECTOR1                                  : 前回セクタを保存
if (Vα ≥ 0 & Vβ ≥ 0)
    if (|Vα| ≥ |Vβ| ÷ SQRT(3))
        if (|Vα| ÷ SQRT(3) ≥ |Vβ|)                      SECTOR=0
        else                                            SECTOR=1
    else                                                SECTOR=2
else if (Vα < 0 & Vβ ≥ 0)
    if (|Vα| < |Vβ| ÷ SQRT(3))                          SECTOR=3
    else if (|Vα| ÷ SQRT(3) < |Vβ|)                     SECTOR=4
        else                                            SECTOR=5
else if (Vα < 0 & Vβ < 0)
    if (|Vα| ≥ |Vβ| ÷ SQRT(3))
        if (|Vα| ÷ SQRT(3) ≥ |Vβ|)                      SECTOR=6
        else                                            SECTOR=7
    else                                                SECTOR=8
else if (Vα ≥ 0 & Vβ < 0)
    if (|Vα| < |Vβ| ÷ SQRT(3))                          SECTOR=9
    else if (|Vα| ÷ SQRT(3) < |Vβ|)                     SECTOR=10
        else                                            SECTOR=11
```

	レジスタ名	機能	
入力	VETMPREG3	α 軸電圧	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG4	β 軸電圧	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
出力	VESECTOR1	セクタ	4bit データ
	VESECTORM1	前回のセクタ	4bit データ

b. 逆クラーク変換

<演算式>

(VEFMODE1<PHCVDIS> = "0"の場合)

VETMPREG0 = 1 ÷ VEVDC1 × Vα + 1 ÷ 2 : Va Duty

VETMPREG1 = 1 ÷ VEVDC1 × (−1 ÷ 2 × Vα + SQRT(3) ÷ 2 × Vβ) + 1 ÷ 2 : Vb Duty

VETMPREG2 = 1 ÷ VEVDC1 × (−1 ÷ 2 × Vα − SQRT(3) ÷ 2 × Vβ) + 1 ÷ 2 : Vc Duty

(VEFMODE1<PHCVDIS> = "1"の場合)

VETMPREG0 = 1 ÷ VEVDC1 × Vα + 1 ÷ 2 : Vα

VETMPREG1 = 1 ÷ VEVDC1 × Vβ + 1 ÷ 2 : Vβ

	レジスタ名	機能	
入力	VETMPREG3	α 軸電圧	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG4	β 軸電圧	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VEVDC1	電源電圧	16bit 固定小数点データ(0.0 ~ 1.0、小数点以下 15bit)
	VESECTOR1	セクタ	4bit データ
	VEFMODE1	前回値保存選定 相変換禁止	<MREGDIS> <PHCVDIS>
出力	VETMPREG0	a 相電圧 Duty	32bit 固定小数点データ(0..0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG1	b 相電圧 Duty	32bit 固定小数点データ(0..0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG2	c 相電圧 Duty	32bit 固定小数点データ(0..0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)

16.4.2.4 出力制御

出力制御部は、3 相電圧デューティを PMD 設定形式に変換します。変換した結果を VECMPU1、VECMPV1、VECMPW1 に設定し、出力制御動作設定に応じて VEOUTCR1 を設定します。

出力制御には出力制御 1 タスクと出力制御 2 タスクの 2 種類があり、それぞれ対応できる PWM 出力が違います。

1. 出力制御 1(タスク 0)

出力制御 1 タスクは通常 PWM 出力と PWM シフト 1 モードの PWM 出力に対応しています。

PWM シフト許可の設定中、回転速度(VEOMEGA1)が PWM シフト切り替え基準(VEFPWMCHG1)より小さい場合に PWM 出力が PWM シフトに切り替わります。

注)PWM シフトは 1 シャント電流検出モード時のみ選択できます。

	レジスタ名	機能	
入力	VETMPREG0	a 相電圧	32bit 固定小数点データ(0.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG1	b 相電圧	32bit 固定小数点データ(0.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG2	c 相電圧	32bit 固定小数点データ(0.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VEMDPRD1	PWM 周期設定	16bit データ(PMD PWM 周期設定値)
	VESECTOR1	セクタ	4bit データ
	VEOMEGA1	回転速度	16bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 15bit)
	VEFPWMCHG1	PWM シフト切り替え基準	16bit 固定小数点データ(0.0 ~ 1.0、小数点以下 15bit)
	VEMODE1	出力制御動作	<OCRMD[1:0]>
	VEMINPLS1	最小パルス幅差	16bit データ
	VEFMODE1	変調モード PWM シフト許可 電流検出モード	<C2PEN> <SPWMEN> <IDMODE[1:0]>
出力	VECMPU1	PMD U 相 PWM 設定	16bit データ(0 ~ MDPRD 値)
	VECMPV1	PMD V 相 PWM 設定	16bit データ(0 ~ MDPRD 値)
	VECMPW1	PMD W相 PWM 設定	16bit データ(0 ~ MDPRD 値)
	VEOUTCR1	PMD 出力制御設定	9bit 設定
	VEEMGRS1	PMD EMG 復帰	1bit 設定
	VEMCTLF1	低速度フラグ パルス微小フラグ	<LAVF> <PLSLF>

2. 出力制御 2(タスク 9)

出力制御 2 タスクは通常 PWM 出力と PWM シフト 2 モードの PWM 出力に対応しています。

PWM シフト許可 (VEFMODE1<SPWMEN>="1") かつ PWM シフトモード選択 (VEFMODE1<SPWMMD>)を "00"以外に設定することで PWM シフト 2 の PWM 出力になります。

注)PWM シフトは 1 シャント電流検出モード時のみ選択できます。

	レジスタ名	機能	
入力	VETMPREG0	a 相電圧	32bit 固定小数点データ(0.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG1	b 相電圧	32bit 固定小数点データ(0.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG2	c 相電圧	32bit 固定小数点データ(0.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VEMDPRD1	PWM 周期設定	16bit データ(PMD PWM 周期設定値)
	VEFPWMCHG1	PWM レベルシフト	16bit 固定小数点データ(0.0 ~ 1.0、小数点以下 15bit)
	VEMODE1	出力制御動作	<OCRMD[1:0]>
	VEMINPLS1	最小パルス幅	16bit データ
	VEFMODE1	PWM シフト許可 電流検出モード PWM シフトモード	<SPWMEN> <IDMODE[1:0]> <SPWMMD>
出力	VECMPU1	PMD U 相 PWM 設定	16bit データ(0 ~ MDPRD 値)
	VECMPV1	PMD V 相 PWM 設定	16bit データ(0 ~ MDPRD 値)
	VECMPW1	PMD W相 PWM 設定	16bit データ(0 ~ MDPRD 値)
	VEOUTCR1	PMD 出力制御設定	9bit 設定
	VEEMGRS1	PMD EMG 復帰	1bit 設定
	VEMCTLF1	低速度フラグ パルス微小フラグ	<LAVF> <PLSLF>

16.4.2.5 トリガ生成(タスク 1)

トリガ生成部は、PWM 設定値 VECMPU1、VECMPV1、VECMPW1 から電流検出方式に応じたトリガタイミングを算出して VETRGCMP01、VETRGCMP11 に設定します。

注) 1 シャント電流検出以外では VETRGCMP01、VETRGCMP11 は更新されません。

注) PWM シフト 2 モード選択時は VETRGCMP01、VETRGCMP11 は更新されません。

	レジスタ名	機能	
入力	VECMPU1	PMD U 相 PWM 設定	16bit データ(0 ~ MDPRD 値)
	VECMPV1	PMD V 相 PWM 設定	16bit データ(0 ~ MDPRD 値)
	VECMPW1	PMD W 相 PWM 設定	16bit データ(0 ~ MDPRD 値)
	VEMDPRD1	PWM 周期設定	16bit データ(PMD PWM 周期設定値)
	VETADC	AD 変換時間	16bit データ(0 ~ MDPRD 値)
	VETRGCRC1	トリガ補正値	16bit データ(0 ~ MDPRD 値)
	VESECTOR1	セクタ	4bit データ
	VEMODE1	零電流検出 1 出力制御動作	<ZIEN> <OCRMD[1:0]>
	VEFMODE1	変調モード PWM シフト許可 電流検出モード トリガ補正許可 PWM シフトモード	<C2PEN> <SPWMEN> <IDMODE[1:0]> <CRCEN> <SPWMMD>
	VEMCTLF1	低速度フラグ	<LAVF>
出力	VETRGCMP01	PMD トリガ 0 タイミング設定	16bit データ(0 ~ MDPRD 値)
	VETRGCMP11	PMD トリガ 1 タイミング設定	16bit データ(0 ~ MDPRD 値)
	VETRGSEL1	PMD トリガ選択	3bit データ

16.4.2.6　入力処理

入力処理では AD 変換器から変換結果と相情報を読み込みます。電流検出方式や PWM シフトモードなどの設定に応じて 3 相電流、電圧の変換結果を固定小数点データ変換して保存します。また、ゼロ電流検出モード時は電流検出結果をゼロ電流レジスタに保存します。

入力処理には入力処理 1 タスクと入力処理 2 タスクの 2 種類があり、それぞれ対応できる電流検出方式が違います。

1. 入力処理 1(タスク 2)

   入力処理 1 タスクは 3 シャント(2 相検出のみ(注 1))および 1 シャントの電流検出に対応します。ただし、PWM シフト 2 モードの PWM 出力時の 1 シャントには対応しません(注 2)。

   (注 1)電流検出結果は 2 相のみ使用します。残りの 1 相は計算で求めます。

   (注 2)PWM シフトは 1 シャント電流検出モード時のみ選択できます。

	レジスタ名	機能	
入力	VEADREG0B	ADC ユニット B 変換結果 0	16bit データ(上位 12bit に結果保持)
	VEADREG1B	ADC ユニット B 変換結果 1	
	VEADREG2B	ADC ユニット B 変換結果 2	
	VEADREG3B	ADC ユニット B 変換結果 3	
	VEPHNUM0B	ADREG0B 検出相情報	2bit データ
	VEPHNUM1B	ADREG1B 検出相情報	
	VEPHNUM2B	ADREG2B 検出相情報	
	VEPHNUM3B	ADREG3B 検出相情報	
	VESECTORM1	セクタ情報	4bit データ
	VEMODE1	ゼロ電流検出 VDC 保存レジスタ	<ZIEN> <VDCSEL>
	VEFMODE1	電流検出モード	<IDMODE[1:0]>
	VEMCTLF1	低速度フラグ	<LAVFM>
出力	VEVDC1	DC 電源電圧	16bit 固定小数点データ(0.0 ~ 1.0、小数点以下 15bit)
	VEVDCL1	DC 電源電圧	16bit 固定小数点データ(0.0 ~ 1.0、小数点以下 15bit)
	VETMPREG0	a 相電流	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG1	b 相電流	
	VETMPREG2	c 相電流	
内部	VEIAO1	a 相ゼロ電流変換結果	16bit データ(上位 12bit に結果保持)
	VEIBO1	b 相ゼロ電流変換結果	
	VEICO1	c 相ゼロ電流変換結果	
	VEIAADC1	a 相電流変換結果	16bit データ(上位 12bit に結果保持)
	VEIBADC1	b 相電流変換結果	
	VEICADC1	c 相電流変換結果	

2. 入力処理 2(タスク 10)

入力処理 2 タスクは 3 シャント(3 相検出、2 相検出)、2 センサの電流検出に対応します。また、PWM シフト 2 モードの PWM 出力時の 1 シャント電流検出に対応します(注)。入力処理 2 タスクはゼロ電流検出モードには対応していません。

(注)PWM シフトは 1 シャント電流検出モード時のみ選択できます。

	レジスタ名	機能	
入力	VEADREG0B	ADC ユニット B 変換結果 0	16bit データ(上位 12bit に結果保持)
	VEADREG1B	ADC ユニット B 変換結果 1	
	VEADREG2B	ADC ユニット B 変換結果 2	
	VEADREG3B	ADC ユニット B 変換結果 3	
	VEPHNUM0B	ADREG0B 検出相情報	2bit データ
	VEPHNUM1B	ADREG1B 検出相情報	
	VEPHNUM2B	ADREG2B 検出相情報	
	VEPHNUM3B	ADREG3B 検出相情報	
	VEMODE1	VDC 保存レジスタ	<VDCSEL>
	VEFMODE1	電流検出モード 電流検出極性	<IDMODE[1:0]> <IDPLMD>
出力	VEVDC1	DC 電源電圧	16bit 固定小数点データ(0.0 ~ 1.0、小数点以下 15bit)
	VEVDCL1	DC 電源電圧	16bit 固定小数点データ(0.0 ~ 1.0、小数点以下 15bit)
	VETMPREG0	a 相電流	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG1	b 相電流	
	VETMPREG2	c 相電流	
内部	VEIAADC1	a 相電流変換結果	16bit データ(上位 12bit に結果保持)
	VEIBADC1	b 相電流変換結果	
	VEICADC1	c 相電流変換結果	

16.4.2.7　入力電流変換(相変換/座標軸変換)

入力電流変換は、相変換と座標軸変換の 2 つのタスクに分かれています。

1. 入力相変換(タスク 3)

入力相変換タスクは、Ia, Ib, Ic から Iα, Iβ を算出します。

<演算式>

VETMPREG3 = VETMPREG0　　: Iα 算出

VETMPREG4 = 1 ÷ SQRT(3) × VETMPREG1 − 1 ÷ SQRT(3) × VETMPREG2　　: Iβ 算出

	レジスタ名	機能	
入力	VETMPREG0	a 相電流	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG1	b 相電流	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG2	c 相電流	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VEFMODE1	相変換禁止	<PHCVDIS>
出力	VETMPREG3	α 軸電流	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG4	β 軸電流	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)

2. 入力座標軸変換(タスク 4)

入力座標軸変換タスクは Iα、Iβ、VESINM1、VECOSM1 から Id、Iq を算出します。

a. 座標軸変換

<演算式>

VEID1 = VECOSM1 × VETMPREG3 + VESINM1 × VETMPREG4　　: Id 算出

VEIQ1 = − VESINM1 × VETMPREG3 + VECOSM1 × VETMPREG4　　: Iq 算出

b. 電流ベクトル位相演算

<T4ATANEN>="1"の場合に位相演算します。

<演算式>

VETMPRG5 = ATAN(VEID1 / VEIQ1)

	レジスタ名	機能	
入力	VETMPREG3	α 軸電流	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VETMPREG4	β 軸電流	
	VESINM1	θ での正弦値	16bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 15bit)
	VECOSM1	θ での余弦値	
	VEMODE1	ATAN 実行許可	<T4ATANEN>
	VEMCTLF1	微小パルスフラグ	<PLSLFM>
出力	VEID1	d 軸電流	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
	VEIQ1	q 軸電流	
	VETMPREG5	ATAN 結果	32bit データ(0xFFFFE000 ~ 0x00002000)

16.4.2.8 その他タスク

1. ATAN(逆正接関数)(タスク 12)

   ATAN タスクは-1.0～1.0 の入力値から逆正接演算を計算して -45°～45°の位相を出力します。

   <演算式>

VETMPREG5 = ATAN(VETMPREG5) : ATAN 算出

	レジスタ名	機能	
入力	VETMPREG5	入力値	32bit 固定小数点データ(-1.0 ~ 1.0、小数点以下 31bit)
出力	VETMPREG5	位相値	32bit データ(0xFFFFE000 ~ 0x00002000 (−45° ~ 45°))

2. SQRT(平方根関数)(タスク 13)

   SQRT タスクは 0.0～4.0 の入力値から平方根を計算して 0.0～2.0 を出力します。

   <演算式>

VETMPREG5 = SQRT(VETMPREG5) : 平方根算出

	レジスタ名	機能	
入力	VETMPREG5	入力値	32bit 固定小数点データ(0.0 ~ 4.0、小数点以下 15bit)
出力	VETMPREG5	平方根	32bit 固定小数点データ(0.0 ~ 2.0、小数点以下 15bit)

16.5　VE チャネルと PMD および ADC の組み合わせ

ベクトルエンジンの使用チャネルにより、使用できる PMD および ADC の組み合わせに制限があります。

また、電流検出選択と使用 ADC ユニット選択によっても使用する組み合わせは変わります。

表 16-7 ベクトルエンジンと PMD の組み合わせ

ベクトルエンジン	PMD
チャネル 1	チャネル 1

表 16-8 ベクトルエンジンと ADC の組み合わせ

ベクトルエンジン		ADC ユニット B			
チャネル	電流検出 VEMODE1 <IDMODE[1:0]>	ADREG0	ADREG1	ADREG2	ADREG3
1	0x	電流検出 1	電流検出 2	電流検出 3	VDC 検出
	1x	電流検出 1	電流検出 2	電流検出 3 (注)	VDC 検出

注)　電流検出 3 は PWM シフト 2 の場合のみ使用します。

第 17 章　オペアンプ(AMP)

TMPM37AFSQG は、1 チャネルのオペアンプを内蔵しており、ポート入力電圧を増幅して 12 ビット逐次変換方式アナログ/デジタルコンバータ (AD コンバータ) に出力しています。これは、モータ電流を検出するシャント抵抗の電圧を増幅するために使用します。

17.1　Configuration

図 17-1 に、オペアンプ、アナログコンパレータのブロック図を示します。

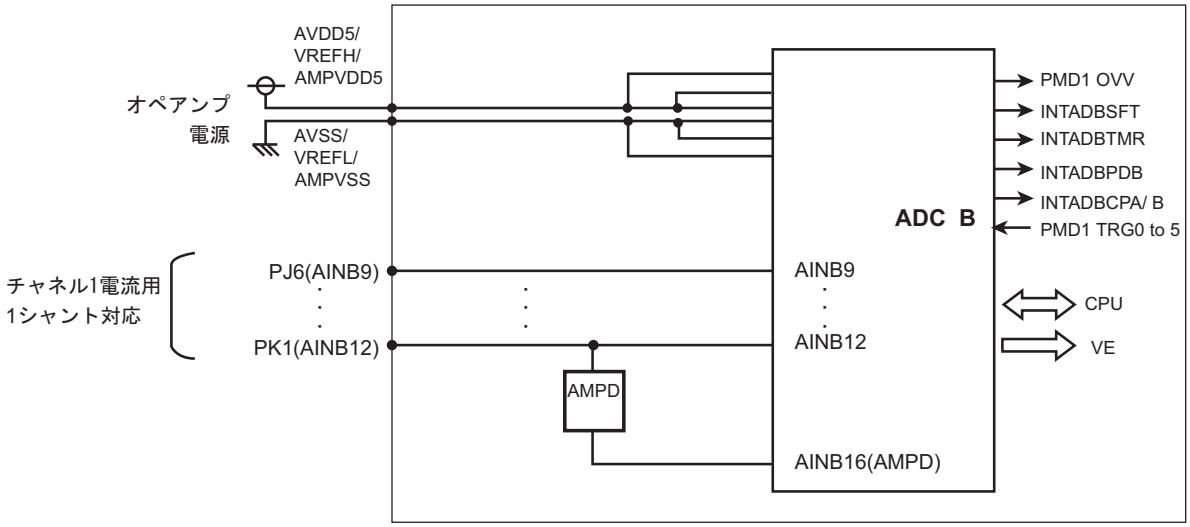


図 17-1 オペアンプ、アナログコンパレータ接続図

17.2　レジスター覧

オペアンプは、AMPCTLD により制御されています。イネーブル/ディセーブルの他に 8 種類のゲインが選択できます。

外部にオペアンプを接続し、内蔵オペアンプを使用しない場合は、オペアンプディセーブル(<AMPEN>=0)に設定してください。

オペアンプの制御レジスタとアドレスは以下のとおりです。

17.2.1　オペアンプ

Base Address = 0x4003_0400

レジスタ名		Address(Base+)
アンプ D コントロールレジスタ	AMPCTLD	0x0018

17.2.1.1　AMPCTLD(アンプ D コントロールレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
After reset	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
After reset	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
After reset	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	AMPGLIN			AMPEN
After reset	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	Function
31-4	−	R	Read as 0.
3-1	AMPGLIN[2:0]	R/W	ゲイン設定 000: 1.5 倍　100: 4.0 倍 001: 2.5 倍　101: 6.0 倍 010: 3.0 倍　110: 8.0 倍 011: 3.5 倍　111: 10.0 倍
0	AMPEN	R/W	AMP 許可 0: ディセーブル 1: イネーブル

注)　AMP をイネーブルにした場合、回路が安定するまで約 10μs かかります。

17.3 動作

17.3.1 Basic Operation

オペアンプ D は、1 シャント電流検出を想定しており、増幅された電圧は 1 つの AD コンバータユニット (AINB16）に出力されます。

図 17-2 に、オペアンプの構成図を示します。

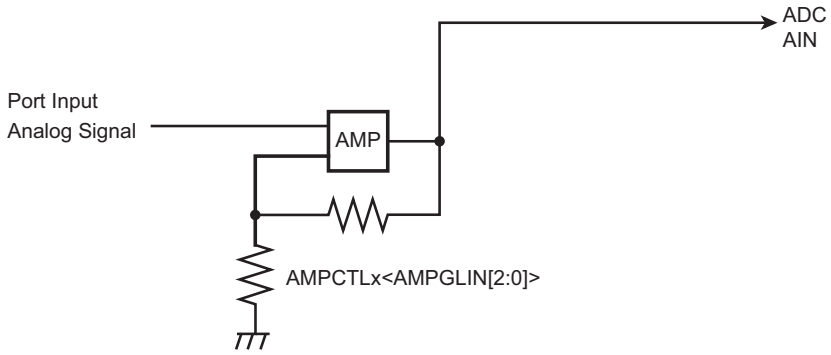


図 17-2 オペアンプ構成

第 18 章　プリドライバ(MCD)

ファンモータ用３相全波プリドライバ

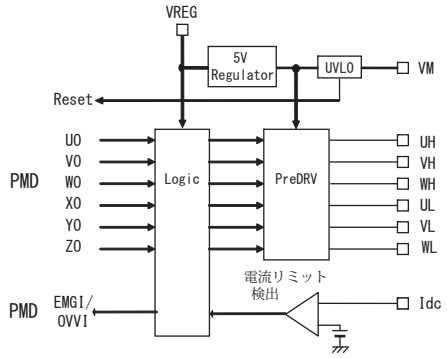


図 18-1 MCD ブロック図

18.1　端子説明

端子名	入出力	端子説明
VM	-	モータ電源電圧端子 VM= 6 ~ 32V
IDC	入力	電流リミット検出端子
VREG	-	5V 電圧端子 VREG と GND 間に 4.7μF のコンデンサを挿入してください。
UL	出力	U 相下相出力端子
UH	出力	U 相上相出力端子
VL	出力	V 相下相出力端子
VH	出力	V 相上相出力端子
WL	出力	W 相下相出力端子
WH	出力	W 相上相出力端子

18.2　機能説明

18.2.1　プリドライバ

上側出力はローアクティブ出力で、定電流駆動です。

下側出力はハイアクティブ出力で、プッシュプル駆動です。

上下出力端子が短絡モードは入力回路で禁止しています。この場合、全相の出力をオフとします。

18.2.2　低電圧誤動作防止機能(UVLO)

VM 電源電圧を常に監視し、3.9V(typ.)以下になる場合低電圧として検出しプリドライバを OFF します。VM 電源電圧が 4.2V(typ.)以上に戻ると自動復帰できます。 低電圧検出中、MCU は RESET されます。

18.2.3　5V レギュレータ(5V REG)

12V モータ駆動時は MCU に電源供給可能です。この場合、VM 電圧が 15V を超えないようにしてください。

18.2.4　電流リミット検出回路

IDC 端子電圧が検知電圧（0.15V (typ.)）以上になると動作します。

保護動作は 3 相 PWM タイマ（PMD）の保護機能（EMG,OVV）で設定します。

第 19 章　パワーオンリセット回路(POR)

パワーオンリセット回路(POR)は、電源投入時にパワーオンリセット信号を発生します。

電源電圧とは、DVDD5 を指しています。

19.1　構成

パワーオンリセット回路は、基準電圧発生回路、コンパレータ、VLTD リセット回路およびパワーオンカウンタから構成されます。

電源電圧をラダー抵抗によって分圧した電圧を基準電圧発生回路が発生した基準電圧とコンパレータで比較します。

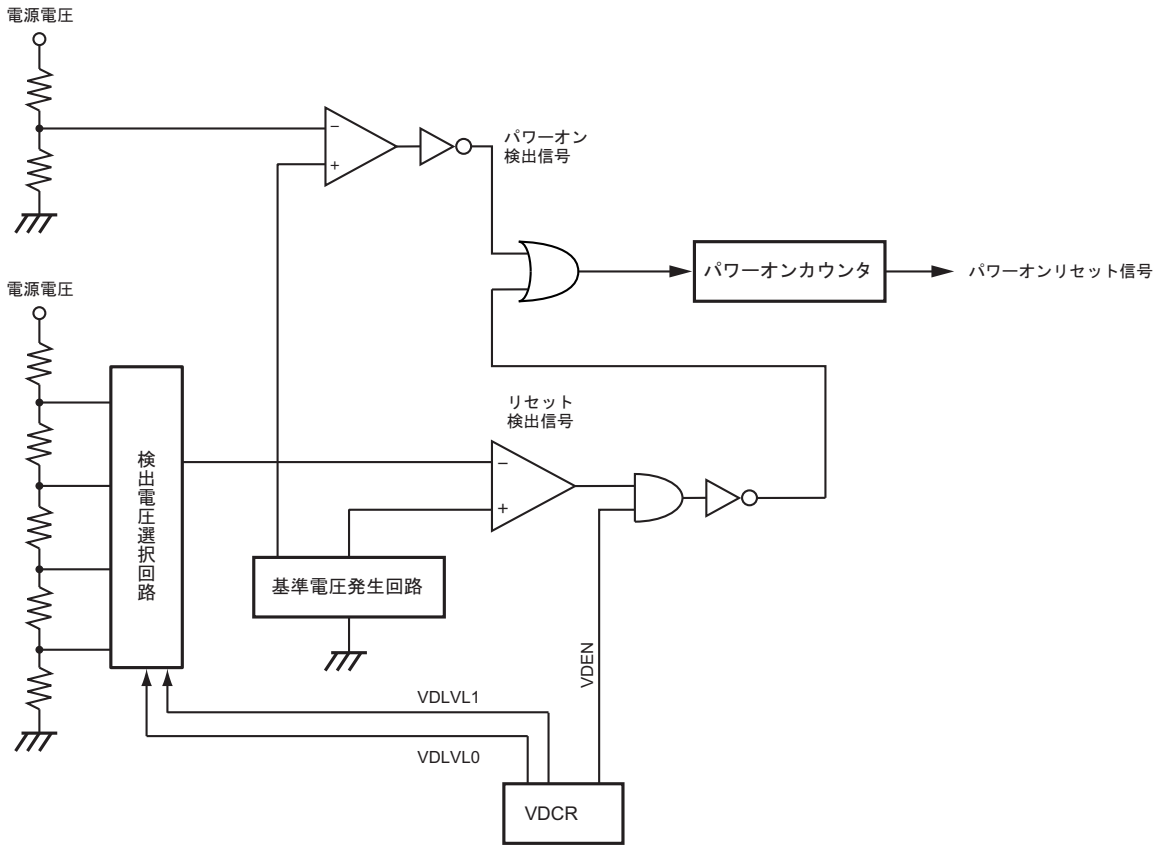


図 19-1 パワーオンリセット回路

VLTD リセット回路のレジスタ VDCR は、電圧検出回路(VLTD)の章を参照願います。

19.2　機能

電源投入時、電源電圧が解除電圧以下の間、パワーオン検出信号が発生されます。パワーオン検出信号が解除されるのは、DVDD5 が 3.0 ± 0.2 V を超えるタイミングです。

パワーオン検出信号が解除され、さらにリセット検出信号も解除されるとパワーオンカウンタ回路が動作し待機時間(約 3．2 ms)後にパワーオンリセット信号が解除されます。

パワーオンリセット信号が発生している間、CPU および周辺機能はリセットされます。

リセット端子入力を使用しない場合、パワーオンリセット信号解除までに電源電圧を推奨動作範囲まで上昇させてください。電源電圧が推奨動作範囲に到達しない場合、TMPM37AFSQG は正常に動作することができません。

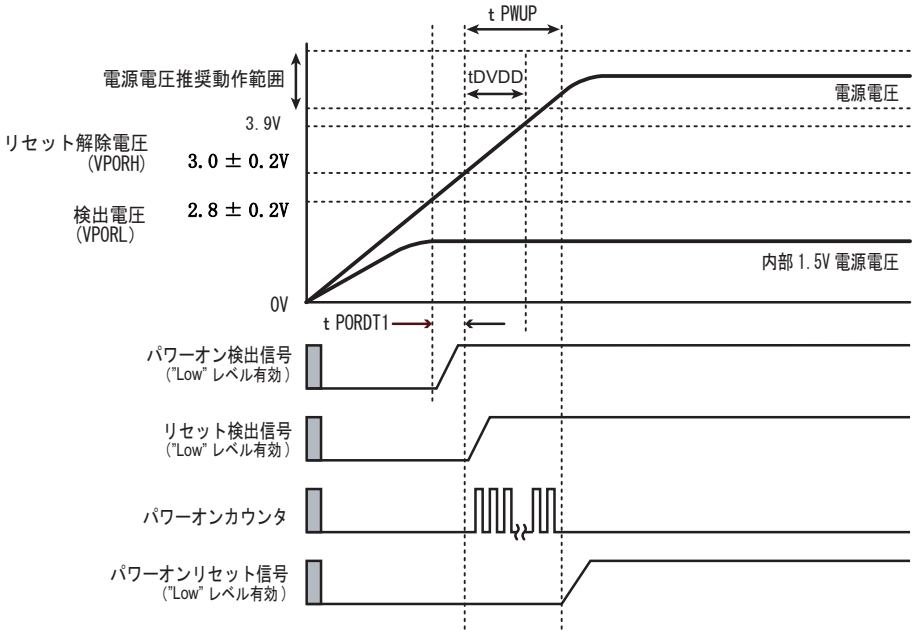


図 19-2 パワーオンリセット動作タイミング

記号	項目	Min	Typ	Max	単位
t PWUP	パワーオンリセット解除時間	-	$2^{15}/f_{OSC2}$	-	s
tDVDD	電源立ち上がり時間	-	-	3	ms
VPORH	パワーオンリセット解除電圧	2.8	3	3.2	V
VPORL	パワーオンリセット検出電圧	2.6	2.8	3.0	V
tPORDT1	パワーオンリセット解除応答時間		30		μS

注)　パワーオンリセット解除電圧(VPORH)とパワーオンリセット検出電圧(VPORL）は、相対的に変動するため検出電圧が逆転することはありません。

注)　電源電圧の変動によりパワーオンリセット回路が完全な動作をしないことがあります。機器設計的には電気的特性を参照の上十分な考慮をしてください。

第 20 章　電圧検出回路(VLTD)

電圧検出回路は、電源電圧の低下を検出し、リセット信号を発生します。

注)　電源電圧の変動によっては電圧検出回路が完全な動作をしないことがありますので、機器設計時には電気的特性を参照の上、十分な考慮が必要です。

20.1　構成

電圧検出回路は、基準電圧発生回路、検出電圧レベル選択回路、コンパレータ、制御レジスタから構成されます。

電源電圧(DVDD5) はラダー抵抗で分圧され、検出電圧選択回路に入力されます。検出電圧選択回路で検出電圧 (VDLVL) に応じた電圧が選択され、コンパレータで基準電圧と比較されます。電源電圧(DVDD5)が検出電圧 (VDLVL) を下回ると、リセット信号を発生します。

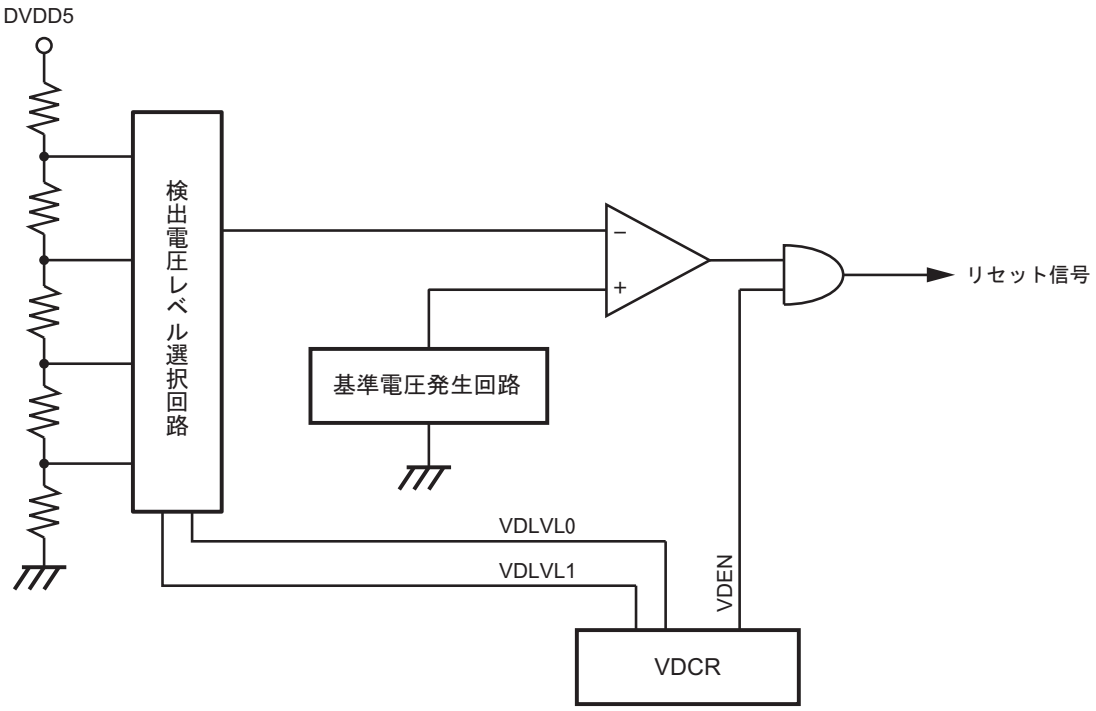


図 20-1 電圧検出回路

20.2　レジスタ説明

20.2.1　レジスター覧

Base Address = 0x4004_0900

レジスタ名		Address(Base+)
電圧検出制御レジスタ	VDCR	0x0000

20.2.2　VDCR (電圧検出制御レジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	−	−	−	−	−	−	−	−
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	−	−	−	−	−	−	−	−
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	−	−	−	−	−	−	-	−
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	−	−	−	−	−	VDLVL		VDEN
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-3	−	R	リードすると"0"が読めます。
2-1	VDLVL[1:0]	R/W	検出電圧レベル選択 00: Reserved 01: 4.1 ± 0.2V 10: 4.4 ± 0.2V 11: 4.6 ± 0.2V
0	VDEN	R/W	電圧検出の許可／禁止 0: 禁止 1: 許可

注)　VDCR はパワーオンリセット、外部リセット入力で初期化されます。

20.3 動作説明

20.3.1 制御

電圧検出回路は、電圧検出制御レジスタで制御されます。

20.3.2 機能

電圧検出回路は、検出電圧レベル選択ビット VDCR<VDLVL[1:0]> 、電圧検出の許可／禁止 VDCR<VDEN>で設定します。電圧検出の許可／禁止を設定し、電源電圧 (DVDD5) が検出電圧 (VDLVL[1:0]) を下回ったとき、リセット信号を発生します。

20.3.2.1 電圧検出動作の許可／禁止

VDCR<VDEN> はパワーオンリセット、外部リセット解除後 、"0" にクリアされ禁止されます。"1" にセットすると電圧検出動作が許可されます。

注) 電源電圧 (DVDD5) < 検出電圧 VDCR<VDLVL[1:0]>の状態で、VDCR<VDEN> = "0" (禁止) から"1" (許可) に設定すると、設定した時点でリセット信号が発生します。

20.3.2.2 検出電圧レベル選択

VDCR<VDLVL[1:0]> で検出電圧を選択します。

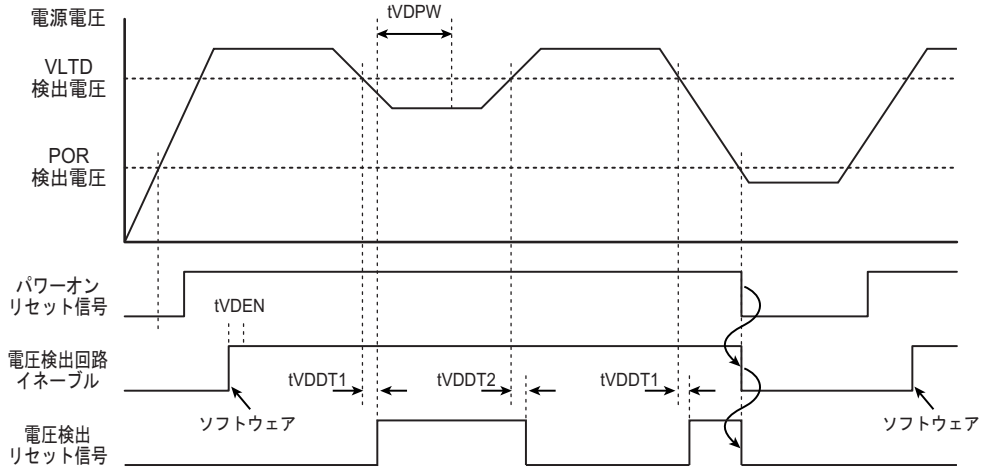


図 20-2 電圧検出タイミング

記号	項目	Min	Typ	Max	単位
tVDEN	電圧検出回路が有効になる時間	-	40	-	μs
tVDDT1	電圧検出回路検出応答時間	-	40	-	
tVDDT2	電圧検出回路検出解除時間	-	40	-	
tVDPW	電圧検出回路検出最小パルス幅	45	-	-	

第 21 章　周波数検知回路(OFD)

周波数検知回路(Oscillation Frequency Detector)は、CPU クロック用外部高周波の周波数が検知周波数設定レジスタによって設定された周波数範囲を超えた場合にリセットを発生する回路です。

検知する周波数の上限と下限は OFDMXPLLOFF と OFDMNPLLOFF レジスタで設定します。TMPM37AFSQG の検出周波数の初期値は図 21-3 を参照してください。OFDMXPLLOFF, 、OFDMXPLLON、OFDMNPLLOFF 及び OFDMNPLLON レジスタは周波数検知動作中は書き換えできませんので、検知周波数を変更する場合は周波数検知が停止中に行なってください。また、OFDMXPLLOFF、OFDMXPLLON、OFDMNPLLOFF 及び OFDMNPLLON レジスタに書き込みを行なうためには、周波数検知回路制御レジスタ 1(OFDCR1)に書き込み許可コード"0xF9"を設定する必要があります。周波数検知回路は RESET 端子への外部リセット入力、パワーオンリセットおよび VLTD リセットによりディセーブルとなります。検知動作をイネーブルにするためには、OFDCR1 に書き込み許可コード"0xF9"を書き込んだ後、周波数検知回路制御レジスタ 2(OFDCR2)に"0xE4"を設定します。

OFDMNPLLOFF、OFDMNPLLON、OFDMXPLLOFF 及び OFDMXPLLON レジスタで設定した周波数範囲を超えた場合、TMPM37AFSQG は周波数検知リセットを発生し、電源端子、RESET 端子、MODE 端子を除く全ての入出力ポートはハイインピーダンス状態となり、CPU などの内部回路が初期化されます。CG レジスタが初期化されることによりシステムクロックは PLL ディセーブル、内部高速発振器 fosc2 に切り替わって動作します。

周波数検知回路の全てのレジスタ(OFDCR1、OFDCR2、OFDMNPLLOFF、OFDMNPLLON、OFDMXPLLOFF、OFDMXPLLON) は、周波数検知リセットでは初期化されず、システムクロックが内部 fosc2 に切り替わるため、検知対象クロックと基準クロックが同じになり、結果として周波数範囲が設定値以内に納まるために周波数検知リセットは解除されます。

したがって、周波数検知リセットが発生すると、システムクロックが内部 IOSC に切り替わり、周波数検知イネーブル状態でリセットシーケンスを実行します。

注) いかなる異常も検知できるわけではありません。また、クロックの誤差を測定するための回路ではありません。

注) 周波数検知回路は NORMAL モードおよび IDLE モードのときのみ有効となります。STOP モードのときは、周波数検知回路は自動的にディセーブルとなります。

注) CGPLLSEL レジスタにて PLL を設定する場合、および CGOSCCR<OSCSEL>レジスタで内部 fosc2 または外部 fosc1 にシステムクロックを切り替える場合、周波数検知回路(OFD)は必ずディセーブルの状態で行なってください。なお、PLL オンの状態で OFD リセットが発生した場合、検知周波数設定レジスタは、OFDMNPLLON/OFDMXPLLON から OFDMNPLLOFF/OFDMXPLLOFF に自動的に切り替わります。

21.1　構成

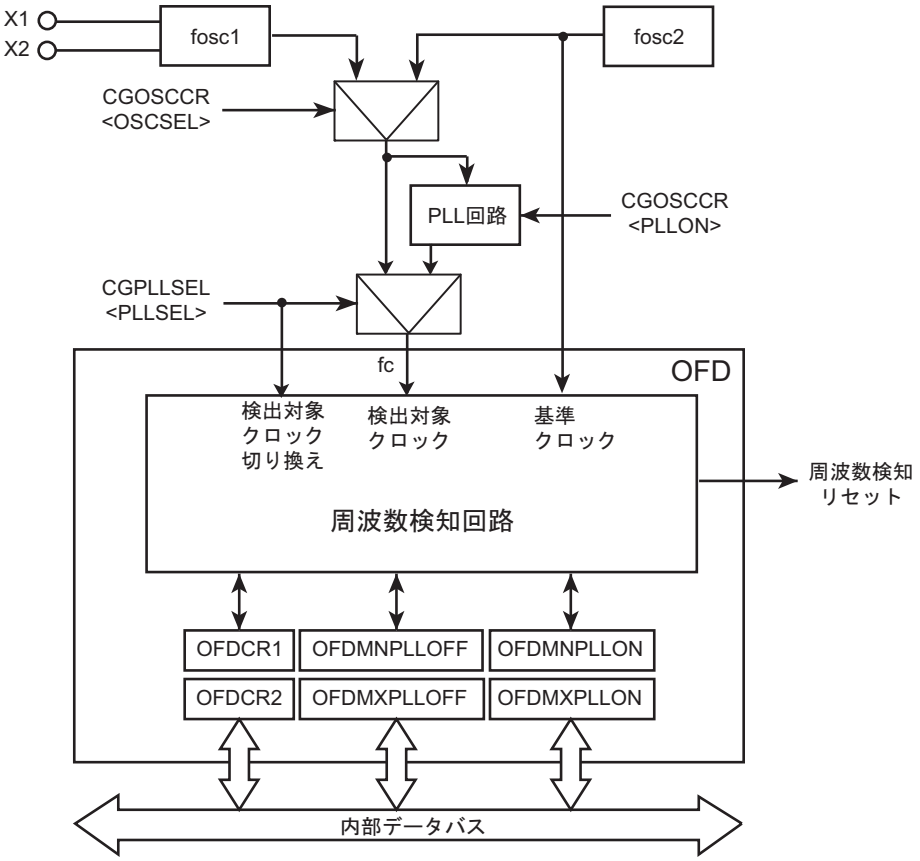


図 21-1 周波数検知回路ブロック図

21.2 レジスタ説明

21.2.1 レジスター覧

Base Address = 0x4004_0800

レジスタ名		Address(Base+)
周波数検知回路制御レジスタ 1	OFDCR1	0x0000
周波数検知回路制御レジスタ 2	OFDCR2	0x0004
検知周波数下限値レジスタ（PLL OFF 時）	OFDMNPLLOFF	0x0008
検知周波数下限値レジスタ（PLL ON 時）	OFDMNPLLON	0x000C
検知周波数上限値レジスタ（PLL OFF 時）	OFDMXPLLOFF	0x0010
検知周波数上限値レジスタ（PLL ON 時）	OFDMXPLLON	0x0014

注) "Reserved"表記のアドレスにはアクセスしないでください。

21.2.1.1 OFDCR1(周波数検知回路制御レジスタ 1)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	OFDWEN							
リセット後	0	0	0	0	0	1	1	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7-0	OFDWEN[7:0]	R/W	レジスタ書き込み制御 0x06: 禁止 0xF9: 許可 0xF9 を設定すると、OFDCR1 以外のレジスタへの書き込みができるようになります。 0x06、0xF9 以外の値を書いた場合、0x06 が書かれます。 書き込みが禁止されていても、各レジスタを読み出すことは可能です。

注) OFDCR1 は外部リセット($\overline{\text{RESET}}$ 端子への"L"入力)、パワーオンリセット、または VLTD リセットで初期化されます。

21.2.1.2　OFDCR2(周波数検知回路制御レジスタ 2)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	OFDEN							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7-0	OFDEN[7:0]	R/W	周波数検知動作制御 0x00: 禁止 0xE4: 許可 0x00、0xE4 以外の値の書き込みは無効で値は変化しません。

注)　OFDCR2 は外部リセット($\overline{\text{RESET}}$ 端子への"L"入力)、パワーオンリセット、または VLTD リセットで初期化されます。

21.2.1.3 OFDMNPLLOFF (検知周波数下限値設定レジスタ(PLL OFF 時))

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	OFDMNPLLOFF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	OFDMNPLLOFF							
リセット後	0	0	0	1	1	1	0	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-9	−	R	リードすると"0"が読めます。
8-0	OFDMNPLLOFF[8:0]	R/W	検知周波数の下限値を設定します。 リセット後の値は、基準クロック: 9.7MHz ± 5%、検出対象クロック: 10MHz ± 5% 時の設定値です。

注) 本レジスタは、周波数検知動作が許可されているときは書き込みできません。

注) OFDMNPLLOFF は外部リセット($\overline{\text{RESET}}$ 端子への"L"入力)、パワーオンリセット、または VLTD リセットで初期化されます。

21.2.1.4　OFDMNPLLON (検知周波数下限値設定レジスタ(PLL ON 時))

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	OFDMNPLLON
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	OFDMNPLLON							
リセット後	0	1	1	1	0	1	1	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-9	−	R	リードすると"0"が読めます。
8-0	OFDMNPLLON [8:0]	R/W	検知周波数の下限値を設定します。 リセット後の値は、基準クロック: 9.7MHz ± 5%、検出対象クロック: 40MHz ± 5% 時の設定値です。

注)　本レジスタは、周波数検知動作が許可されているときは書き込みできません。

注)　OFDMNPLLON は外部リセット($\overline{\text{RESET}}$ 端子への"L"入力)、パワーオンリセット、または VLTD リセットで初期化されます。

21.2.1.5 OFDMXPLLOFF (検知周波数上限値設定レジスタ(PLL OFF 時))

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	OFDMXPLLOFF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	OFDMXPLLOFF							
リセット後	0	0	1	0	0	1	0	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-9	−	R	リードすると"0"が読めます。
8-0	OFDMXPLLOFF[8:0]	R/W	検知周波数の上限値を設定します。 リセット後の値は、基準クロック: 9.7MHz ± 5%、検出対象クロック: 10MHz ± 5% 時の設定値です。

注) 本レジスタは、周波数検知動作が許可されているときは書き込みできません。

注) OFDMXPLLOFF は外部リセット($\overline{\text{RESET}}$ 端子への"L"入力)、パワーオンリセット、または VLTD リセットで初期化されます。

21.2.1.6　OFDMXPLLON (検知周波数上限値設定レジスタ(PLL ON 時))

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	OFDMXPLLON
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	OFDMXPLLON							
リセット後	1	0	0	0	1	1	1	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-9	−	R	リードすると"0"が読めます。
8-0	OFDMXPLLON [8:0]	R/W	検知周波数の上限値を設定します。 リセット後の値は、基準クロック: 9.7MHz ± 5%、検出対象クロック: 41MHz の設定値です。

注)　本レジスタは、周波数検知動作が許可されているときは書き込みできません。

注)　OFDMXPLLON は外部リセット($\overline{\text{RESET}}$ 端子への"L"入力)、パワーオンリセット、または VLTD リセットで初期化されます。

21.3 動作説明

21.3.1 設定

外部リセット入力(RESET 端子への"L"入力) 、パワーオンリセットまたは VLTD リセットにより OFD の制御レジスタは初期化され、OFDCR1 以外のレジスタには書き込みができない状態になります。OFDCR1 に"0xF9"を書き込むことにより、OFDCR1 以外のレジスタに書き込みができるようになります。

検知する周波数の範囲は、対象クロックごとに OFDMNPLLON または OFDMNPLLOFF と OFDMXPLLON または OFDMXPLLOFF で設定します。OFDCR1 に書き込み許可コード "0xF9" が設定された状態で OFDCR2 に "0xE4" を書き込むと周波数検知回路はイネーブルとなり動作します。

誤書き込み防止のため、すべてのレジスタの設定後、OFDCR1 に"0x06"を設定し書込み禁止にしてください。また、設定の変更は動作が停止した状態で行ってください。

OFDMNPLLOFF/OFDMXPLLOFF と OFDMNPLLON/OFDMXPLLON は CGPLLSEL<PLLSEL>設定により自動的に切り替わります。

周波数検知動作がイネーブル状態(OFDCR2 = "0xE4")で STOP モードを起動した場合、周波数検知回路は自動的にディセーブルとなります。この状態で STOP モードが解除されると周波数検知回路は STOP モード解除後のウォーミングアップ期間が終了してからイネーブルとなります。

周波数検知回路は NORMAL モードと IDLE モードのときのみ使用可能です。詳細は表 21-1 を参照してください。

表 21-1 各動作モードにおける周波数検知回路の状態

動作モードまたは状態	周波数検知回路動作 (OFDCR2 = "0xE4" 設定時)	周波数検知リセットによる端子状態 (電源、RESET、MODE 端子を除く)
NORMAL	動作	ハイインピーダンス
IDLE	動作	ハイインピーダンス
STOP (ウォーミングアップ期間含む)	周波数検知回路は自動的にディセーブルとなります。	
周波数検知によるリセット	動作	ハイインピーダンス
ウォッチドッグタイマリセット SYSRESETREQ リセット	動作	ハイインピーダンス
外部リセット入力 (RESET 端子への"L"入力) パワーオンリセット VLTD リセット	停止	-

21.3.2　動作

動作開始から検知開始まで検知周期 2 周期分の時間が必要で、検知周期は 128/基準クロック周波数です。

検出対象クロックが OFDMNPLLON、OFDMNPLLOFF と OFDMXPLLON、OFDMXPLLOFF で設定した周波数範囲を超えると周波数検知回路 OFD はリセットを発生します。OFD が異常を検知してからリセットを発生するまで検知周期 1 周期分の時間が必要です。周波数検知回路 OFD が発生するリセットでは周波数検知回路 OFD 自身はリセットされず検知動作を継続します。

周波数検知回路が発生するリセットにより fosc は内部高速発振クロック fosc2 に初期化され、検知対象クロック fc は PLL OFF 時の fosc2 の検知動作を継続します。

注)　リセットの要因は複数あります。クロックジェネレータレジスタの CGRSTFLG で要因を確認することができます。CGRSTFLG については例外の章を参照してください。

注)　検出対象クロックの設定値（OFDMNPLLOFF、OFDMXPLLOFF）を 10MHz 以外、例えば 8MHz の設定値にして検知回路を動作させ周波数検知リセットが掛かった場合、対象クロックが異常と判断し、周波数検知リセットを発生し続ける場合があります。

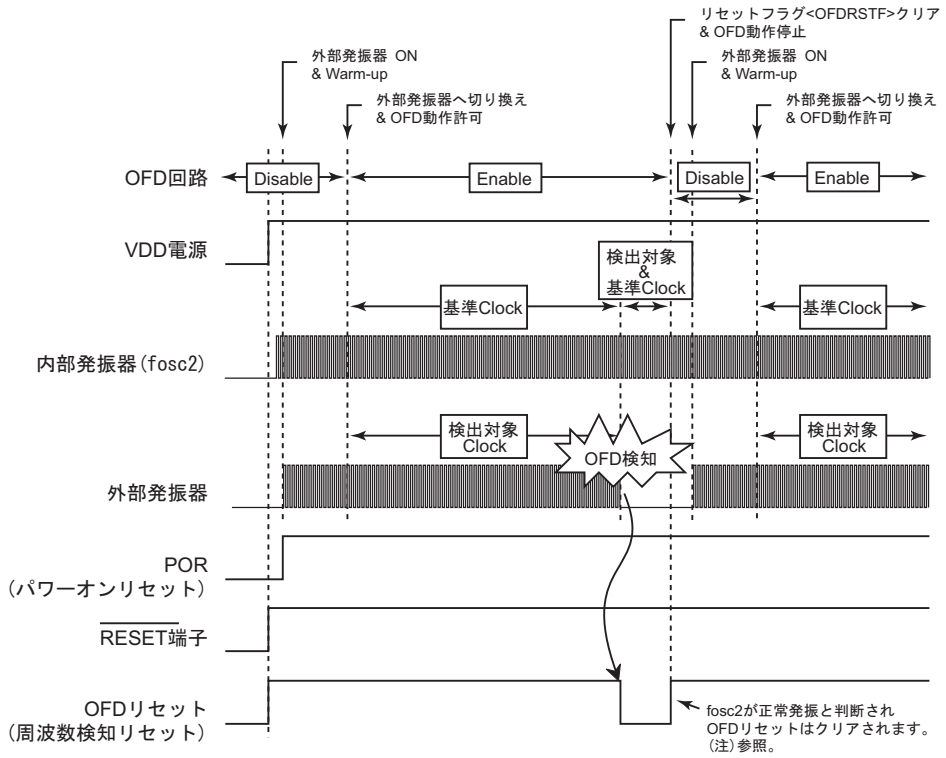


図 21-2 周波数検知回路動作例

21.3.3 検知周波数

検知周波数には、基準クロックの発振精度によって、検出範囲と非検出範囲が存在します。検出範囲と非検出範囲の間の周波数では、検出されるかどうかは未確定です。

検知周波数上限値、下限値は、検出対象クロックと基準クロックの最大誤差より計算します。

OFDMNPLLON、OFDMNPLLOFF と OFDMXPLLON、OFDMXPLLOFF を決める時の計算結果の丸め方により、検出範囲と非検出範囲の上限値、下限値が下記のように変わります。検出対象となるクロックのばらつきに応じて選択してください。

- OFDMXPLLON/OFDMXPLLOFF を切上げ、OFDMNPLLON/OFDMNPLLOFF を切捨てた場合

  検出対象クロックに対して、非検出範囲の上限が高くなり、非検出範囲の下限が低くなります。
- OFDMXPLLON/OFDMXPLLOFF を切捨て、OFDMNPLLON/OFDMNPLLOFF を切上げた場合

  検出対象クロックに対して、非検出範囲の上限が低くなり、非検出範囲の下限が高くなります。

基準クロック誤差を±5%、検出対象クロック誤差±5%(非検出範囲)を許容する場合の OFDMXPLLOFF/OFDMNPLLOFF の設定値の算出方法を以下に示します。この例では、OFDMXPLLOFF を切上げ、OFDMNPLLOFF を切り捨てます。(①～⑧は、「図 21-3 検出周波数範囲例(10MHz の場合)」に対応)

検出対象クロック	10MHz ± 5%	Max.10.5MHz	-------- ③
		Min. 9.5MHz	-------- ②
基準クロック	9.7MHz ± 5%	Max.10.185MHz	-------- ⑥
		Min. 9.215MHz	-------- ⑤

OFDMXPLLOFF = ③ ÷ ⑤ × 32 = 36.46...= 37 (小数点以下切上げ) = 0x25

OFDMNPLLOFF = ② ÷ ⑥ × 32 = 29.85... = 29 (小数点以下切捨て) = 0x1D

このときの検出範囲は以下のように求められます。

① = ⑤ × OFDMNPLLOFF ÷ 32 = 8.35

④ = ⑥ × OFDMXPLLOFF ÷ 32 = 11.78

また、このときの非検出範囲は以下のようになります。

⑦ = ⑤ × OFDMXPLLOFF ÷ 32 = 10.65

⑧ = ⑥ × OFDMNPLLOFF ÷ 32 = 9.23

よって、レジスタ OFDMXPLLOFF に 0x25、OFDMNPLLOFF に 0x1D を設定すると、11.78MHz 以上と 8.35MHz 以下の発振周波数を検知した場合、周波数検知リセットを発生します。

また、9.23MHz から 10.65MHz の発振周波数を検知した場合、周波数検知リセットは発生しません。

図 21-3 に、このときの検出範囲/非検出範囲を示します。

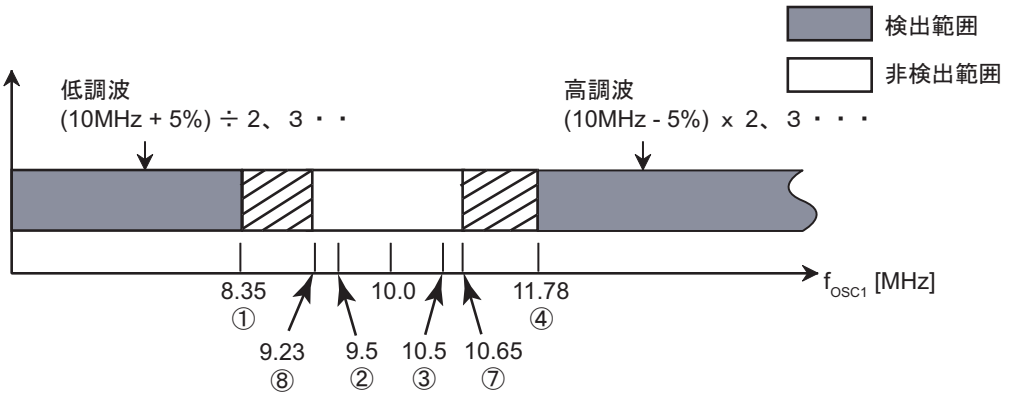


図 21-3 検出周波数範囲例(10MHz の場合)

21.3.4　使用可能な動作モード

周波数検知回路は NORMAL モードと IDLE モード時の外部高周波発振のみ使用可能です。他のモード、および内部高周波発振に遷移する際は、周波数検知回路を停止させてください。

21.3.5　動作手順例

周波数検知回路を使用する場合の動作手順例を示します。

リセット発生後、CGRSTFLG でリセットの要因を確認します。要因が周波数検知リセットでなければ、外部発振を有効にし、周波数検知回路を使用するためのレジスタ設定を行い動作を許可します。

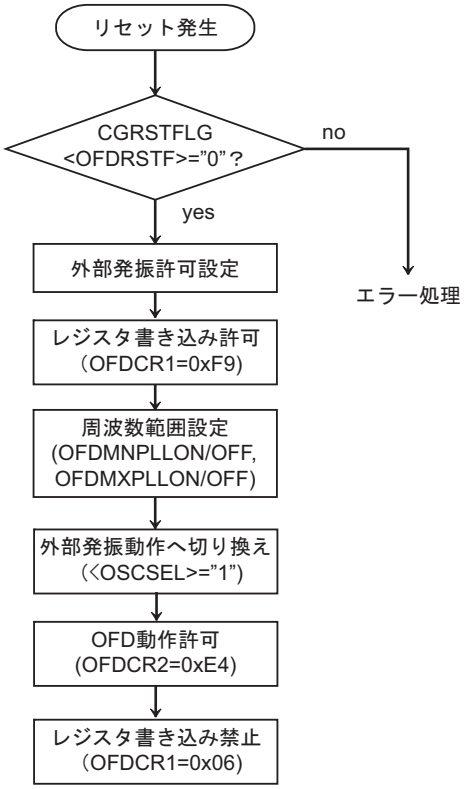


図 21-4 動作手順例

第 22 章　ウォッチドッグタイマ(WDT)

ウォッチドッグタイマは、ノイズなどの原因により CPU が誤動作(暴走)を始めた場合、これを検出し正常な状態に戻すことを目的としています。

暴走を検出した場合、INTWDT 割り込みを発生またはマイコンをリセットします。

注)　INTWDT 割り込みはマスク不能割り込み(NMI)要因のひとつです。

また、外部周辺装置に対しては、ウォッチドッグタイマアウト端子($\overline{\text{WDTOUT}}$)より"Low"を出力して暴走の検出を知らせます。

注)　本製品にはウォッチドッグタイマアウト端子($\overline{\text{WDTOUT}}$)はありません。

22.1　構成

図 22-1 にウォッチドッグタイマのブロック図を示します。

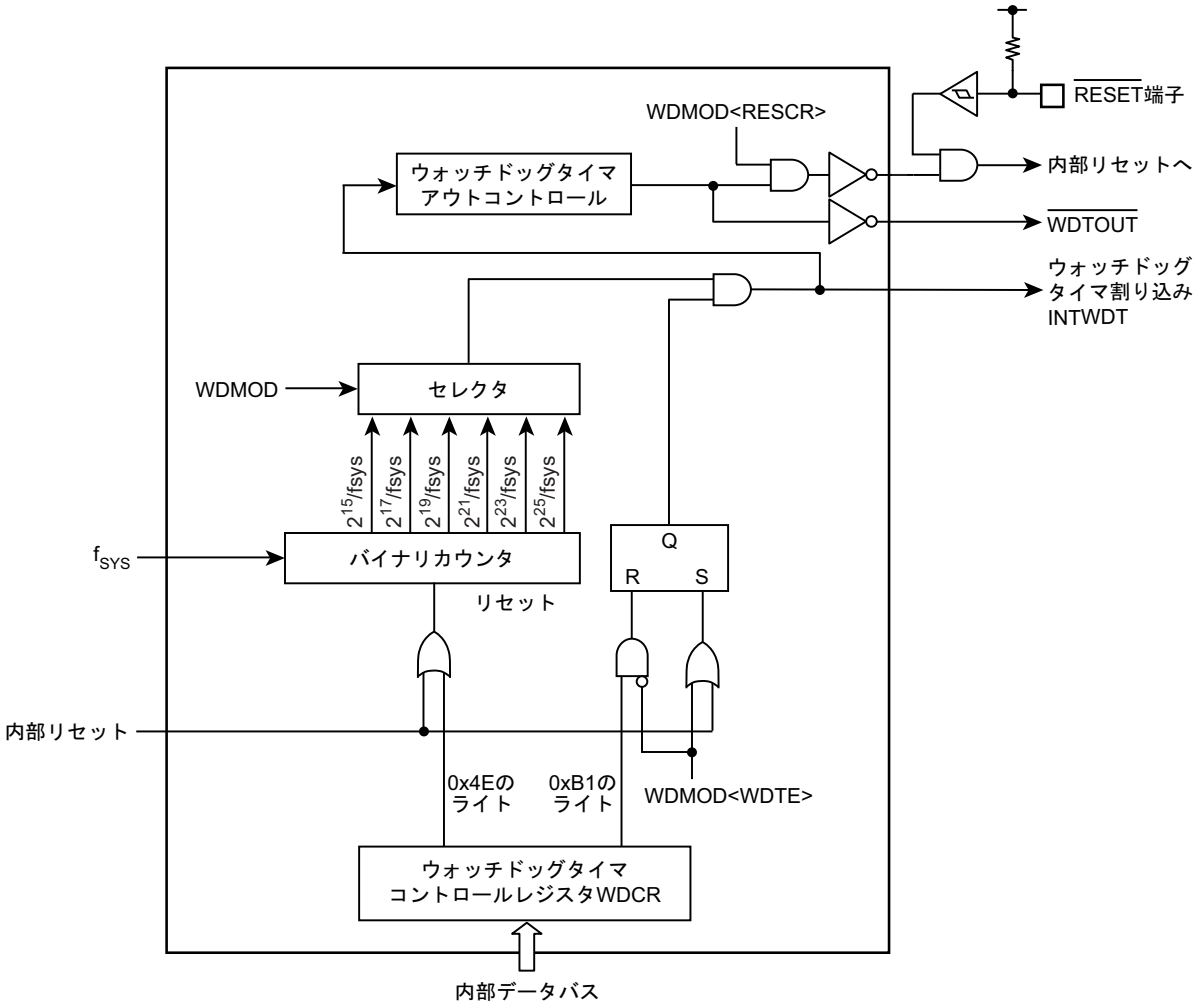


図 22-1 ウォッチドッグタイマのブロック図

22.2　レジスター覧

ウォッチドッグタイマの制御レジスタとアドレスは以下の通りです。

Base Address = 0x4004_0000

レジスタ名		Address(Base+)
ウォッチドッグタイマモードレジスタ	WDMOD	0x0000
ウォッチドッグタイマコントロールレジスタ	WDCR	0x0004

22.2.1　WDMOD(ウォッチドッグタイマモードレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	WDTE	WDTP			-	I2WDT	RESCR	-
リセット後	1	0	0	0	0	0	1	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	−	R	リードすると"0"が読めます。
7	WDTE	R/W	許可/禁止制御 0:禁止 1: 許可
6-4	WDTP[2:0]	R/W	検出時間の選択(表 22-1 を参照) 000: $2^{15}/f_{SYS}$　100: $2^{23}/f_{SYS}$ 001: $2^{17}/f_{SYS}$　101: $2^{25}/f_{SYS}$ 010: $2^{19}/f_{SYS}$　110: 設定禁止 011: $2^{21}/f_{SYS}$　111: 設定禁止
3	−	R	リードすると"0"が読めます。
2	I2WDT	R/W	IDLE 時の動作 0: 停止 1: 動作
1	RESCR	R/W	暴走検出後の動作 0: INTWDT 割り込み要求を発生します。(注) 1: マイコンをリセットします。
0	−	R/W	"0"をライトしてください。

注)　INTWDT 割り込みはマスク不能割り込み(NMI)要因のひとつです。

表 22-1 ウォッチドッグタイマの検出時間 (fc = 40MHz)

クロックギア値 CGSYSCR<GEAR[2:0]>	WDMOD<WDTP[2:0]>					
	000	001	010	011	100	101
000 (fc)	0.82 ms	3.28 ms	13.11 ms	52.43 ms	209.72 ms	838.86 ms
100 (fc/2)	1.63 ms	6.55 ms	26.21 ms	104.86 ms	419.43 ms	1.68 s
101 (fc/4)	3.28 ms	13.11 ms	52.43 ms	209.72 ms	838.86 ms	3.36 s
110 (fc/8)	6.55 ms	26.21 ms	104.86 ms	419.43 ms	1.68 s	6.71 s
111 (fc/16)	13.12 ms	52.43 ms	209.72 ms	838.86 ms	3.36 s	13.42 s

22.2.2 WDCR(ウォッチドッグタイマコントロールレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	WDCR							
リセット後	-	-	-	-	-	-	-	-

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-8	–	R	リードすると"0"が読めます。
7-0	WDCR	W	ディセーブル/クリアコード 0xB1: ディセーブルコード 0x4E: クリアコード 上記以外:Reserved

22.3　動作説明

22.3.1　基本動作

ウォッチドッグタイマは、システムクロック f_{sys} を入力クロックとするバイナリカウンタで構成されています。検出時間は WDMOD<WDTP[2:0]>によって 2^{15}, 2^{17}, 2^{19} , 2^{21}, 2^{23} および 2^{25} から選択します。検出時間経過後にウォッチドッグタイマ割り込み(INTWDT)が発生し、ウォッチドッグタイマアウト端子($\overline{\text{WDTOUT}}$)より"Low"が出力されます。

ノイズなどの原因による CPU の暴走を検出するために、ソフトウエア(命令)でウォッチドッグタイマ用のバイナリカウンタを INTWDT 割り込みが発生する前にクリアするように設定しておきます。クリアが行われなかった場合、INTWDT によってマスク不能割り込みが発生しますので、CPU は暴走を検知し、暴走対策プログラムにより正常な状態に戻すことができます。

また、ウォッチドッグタイマアウト端子を外部周辺装置のリセットなどへ接続することにより、CPU の誤動作(暴走)に対処することができます。

注)　本製品にはウォッチドッグタイマアウト端子($\overline{\text{WDTOUT}}$)はありません。

22.3.2　動作モードと動作状態

ウォッチドッグタイマは、リセット解除後ただちに動作を開始します。使用しない場合はディセーブルの処理を行ってください。

ウォッチドッグタイマは高速クロックが停止するモードでは使用できません。以下に示すモードに遷移する前にディセーブルしてください。IDLE モード中は WDMOD<I2WDT>の設定に従います。

- STOP mode

また、デバッグモード中は自動的にバイナリカウンタが停止します。

22.4 暴走検出時の動作

22.4.1 INTWDT 割り込み発生の場合

図 22-2 に INTWDT 割り込み発生(WDMOD<RESCR>="0")の場合の動作を示します。

バイナリカウンタのオーバフローにより INTWDT 割り込みが発生します。INTWDT 割り込みはマスク不能割り込み(NMI)の要因であるため、CPU はマスク不能割り込みを検出し処理を行います。

マスク不能割り込み要因は複数あり、CGNMIFLG レジスタでマスク不能割り込み要因を識別できます。INTWDT 割り込みの場合、CGNMIFLG<NMIFLG0>がセットされます。

INTWDT 割り込み発生と同時にウォッチドッグタイマアウト($\overline{\text{WDTOUT}}$)より"Low"を出力します。$\overline{\text{WDTOUT}}$ は、ウォッチドッグタイマのクリア(WDCR レジスタにクリアコード 0x4E をライト)により"High"に戻ります。

注) 本製品にはウォッチドッグタイマアウトの外部出力端子はありません。

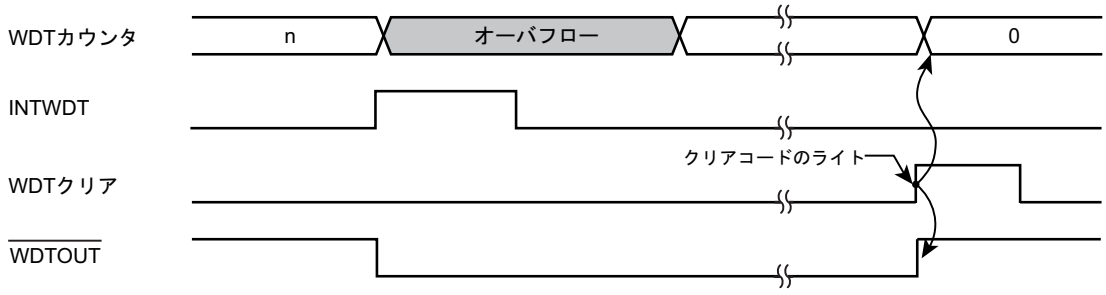


図 22-2 INTWDT 割り込み発生

22.4.2　内部リセット発生の場合

図 22-3 に内部リセット発生(WDMOD<RESCR>="1")の場合の動作を示します。

バイナリカウンタのオーバフローによりマイコンをリセットします。この場合、32 ステートの期間、リセットを行います。クロックの設定も初期化され、入力クロック f_{SYS} と内蔵高速発振器のクロック f_{OSC} の関係は、$f_{SYS} = f_{OSC}$ となります。

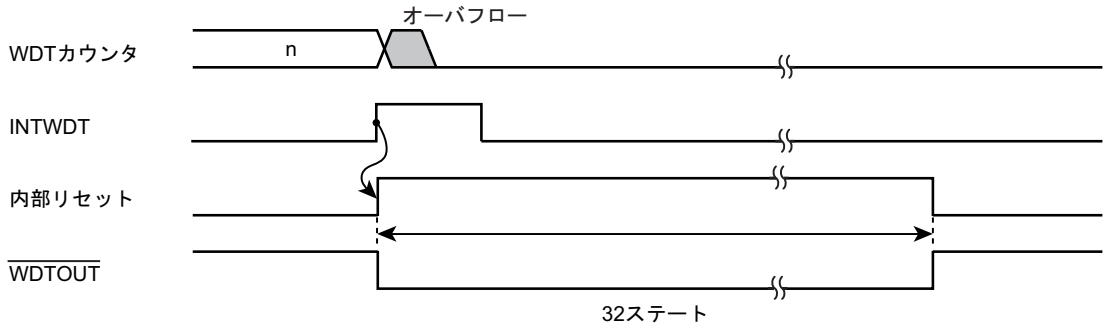


図 22-3 内部リセット発生

22.5 コントロールレジスタ

ウォッチドッグタイマ(WDT)は、2 つのコントロールレジスタ(WDMOD, WDCR)によって制御されています。

22.5.1 ウォッチドッグタイマモードレジスタ(WDMOD)

1. ウォッチドッグタイマ検出時間の設定<WDTP[2:0]>

   ウォッチドッグタイマ検出時間を設定します。リセット時 WDMOD<WDTP[2:0]> = "000" に初期化されます。

2. ウォッチドッグタイマのイネーブル/ディセーブル制御<WDTE>

   リセット時 WDMOD<WDTE> = "1" に初期化されますので、ウォッチドッグタイマはイネーブルになっています。

   暴走による誤書き込みを防止するため、ディセーブルにするには、このビットを"0"にした後で、WDCR にディセーブルコード(0xB1)を書き込む必要があります。

   ディセーブル状態からイネーブル状態に戻す場合は、WDMOD<WDTE>を"1"に設定します。

3. ウォッチドッグタイマアウトのリセット接続<RESCR>

   WDTOUT を内部リセットとして使用するか割り込みとして使用するかを設定するレジスタです。リセット時 WDMOD<RESCR> = "1"に初期化されますので、バイナリカウンタのオーバフローにより内部リセットが発生します。

22.5.2 ウォッチドッグタイマコントロールレジスタ(WDCR)

ウォッチドッグタイマ機能のディセーブルおよびバイナリカウンタのクリアを制御するレジスタです。

22.5.3　設定例

22.5.3.1　ディセーブル制御

WDMOD<WDTE>に"0"を設定したあと、WDCR レジスタにディセーブルコード(0xB1)を書き込むとウォッチドッグタイマはディセーブルになり、バイナリカウンタはクリアされます。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
WDMOD	←	0	−	−	−	−	−	−	−	<WDTE>に"0"を設定します。
WDCR	←	1	0	1	1	0	0	0	1	ディセーブルコード(0xB1)を書き込みます。

22.5.3.2　イネーブル制御

WDMOD<WDTE>に"1"を設定します。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
WDMOD	←	1	−	−	−	−	−	−	−	<WDTE>に"1"を設定します。

22.5.3.3　ウォッチドッグタイマのクリア制御

WDCR レジスタにクリア コード (0x4E) を書き込むと、バイナリカウンタはクリアされ、再カウントします。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
WDCR	←	0	1	0	0	1	1	1	0	クリアコード(0x4E)を書き込みます。

22.5.3.4　ウォッチドッグタイマ検出時間の設定

検出時間を $2^{21}/f_{SYS}$ に設定する場合、WDMOD<WDTP[2:0]>に"011"を設定します。

		7	6	5	4	3	2	1	0
WDMOD	←	1	0	1	1	−	−	−	−

第 23 章　フラッシュメモリ動作説明

フラッシュメモリについて、構成およびその動作を説明します。本文中の「1 ワード」は、32 ビットをあらわします。

23.1　フラッシュメモリの特長

23.1.1　メモリ容量と構成

TMPM37AFSQG の内蔵するフラッシュメモリの容量と構成は、表 23-1 および図 23-1 のとおりです。

表 23-1 メモリ容量と構成

メモリ容量	ブロック構成				1 ページのワード数	ページ数	書き込み時間		消去時間	
	128 KB	64 KB	32 KB	16 KB			1 ページ	全エリア	ブロック消去	チップ消去
64KB	–	–	2	–	32	512	1.25ms	0.64 s	0.1 s	0.2 s

注)　上記の値は理論時間を表しており、データ転送時間などは含まれていません。 チップ当たりの時間はユーザの書き替え方法により異なります。

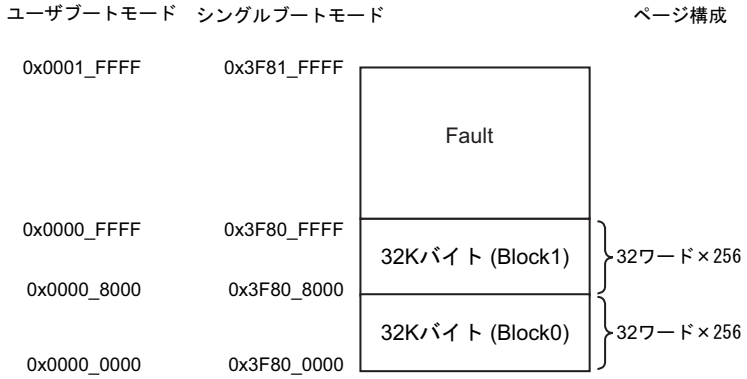


図 23-1 ブロック構成

フラッシュメモリ構成の単位として、「ブロック」と「ページ」があります。

・　ページ

1 ページは 32 ワードで、アドレス[31:7]が同じで、先頭アドレス[6:0] = 0 、最後のアドレス[6:0] = 0x7F のグループです。

・　ブロック

1 ブロックは 32KB で、2 ブロックで構成されます。

書き込みはページ単位で行います。1 ページあたりの書き込み時間は 1.25ms (Typ.)です。

消去はブロック単位(自動ブロック消去コマンド使用)またはフラッシュメモリ全体(自動チップ消去コマンド使用)で行います。消去時間は使用するコマンドによって異なり、自動ブロック消去コマンドを使用した場合は 1 ブロックあたり 0.1 s (Typ.)、自動チップ消去コマンドを使用して全領域を消去した場合は 0.2 s (Typ.)です。

また、ブロック単位でプロテクト機能を使用することができます。プロテクト機能については「23.1.5 プロテクト/セキュリティ機能」を参照してください

23.1.2　機能

本製品内蔵のフラッシュメモリは、一部の機能を除き JEDEC 標準機能に準拠しています。このため、外部メモリとしてフラッシュメモリをご使用になられている場合でも、本製品への移行が容易です。また、フラッシュメモリ内に書き込み、 チップ消去など自動で行う回路を内蔵していますので、書き込み、 消去動作を容易に実現できます。

JEDEC 準拠の機能	変更, 追加, 削除した機能
・自動プログラム ・自動チップ消去 ・自動ブロック消去 ・データポーリング/トグルビット	<変更>ブロック単位でのライト/消去プロテクト(ソフトウエアプロテクトのみサポート) <削除>消去レジューム/サスペンド機能

23.1.3　動作モード

23.1.3.1　モードの説明

本製品には、シングルチップモードとシングルブートモードがあり、シングルチップモードにはノーマルモードとユーザブートモードがあります。モード遷移図を図 23-2 に示します。

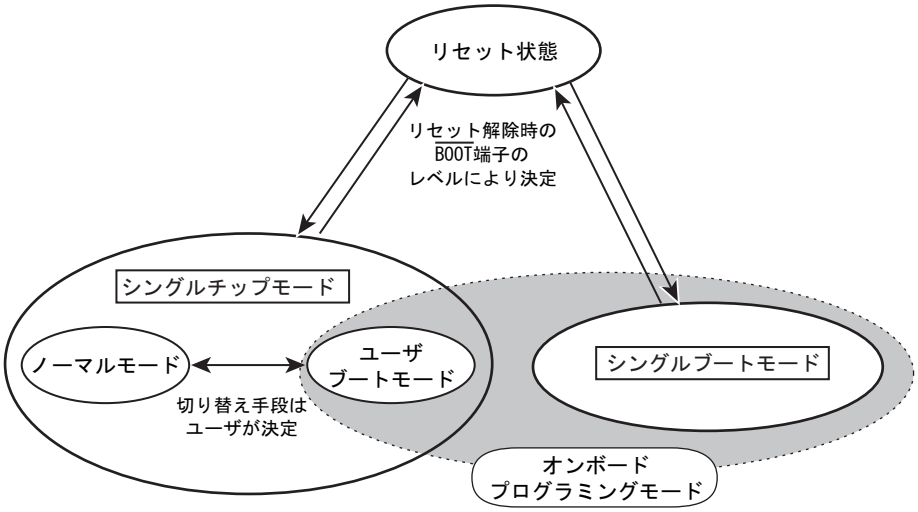


図 23-2 モード遷移図

(1) シングルチップモード

リセット解除後、フラッシュメモリから起動するモードで、以下の 2 つのモードがあります。

- ノーマルモード

  ユーザのアプリケーションプログラムを実行するモードです。
- ユーザブートモード

  ユーザのセット上でフラッシュメモリの書き替えを実行するモードです。

ノーマルモードとユーザブートモードの切り替えはユーザが独自に設定できます。例えばポート A の PA0 が"1" のときノーマルモード、"0" のときにユーザブートモードというように自由に設計することが可能です。ユーザはアプリケーションプログラムの一部に切り替えを判定するためのルーチンを準備してください。

(2) シングルブートモード

リセット解除後、内蔵する BOOT ROM (Mask ROM) から起動するモードです。

BOOT ROM には、本デバイスのシリアルポートを経由してユーザのセット上で書き替えを行うことができるアルゴリズムがプログラムされています。 シリアルポートにより外部ホストと接続し、規定されたプロトコルでデータの転送を行うことでフラッシュメモリの書き替えが実行できます。

(3) オンボードプログラミングモード

ユーザのセット上でフラッシュメモリの書き替えが可能なモードは、ユーザブートモードとシングルブートモードです。この 2 つをオンボードプログラミングモードと定義します。

23.1.3.2 モードの決定

シングルチップ、シングルブートの各動作モードは、リセットを解除するときの $\overline{\text{BOOT}}$ 端子の状態により決定されます。

表 23-2 動作モード設定表

動作モード	端子	
	$\overline{\text{RESET}}$	$\overline{\text{BOOT}}$
シングルチップモード	0 → 1	1
シングルブートモード	0 → 1	0

23.1.4 メモリマップ

図 23-3 にシングルチップモードとシングルブートモードのメモリマップの比較を示します。図のように、シングルブートモードでは、フラッシュメモリは 0x3F80_0000 番地からマッピングされます。また、0x0000_0000 番地から 0x0000_0FFF 番地には BOOT ROM がマッピングされます。

フラッシュメモリと RAM のマッピングは以下のとおりです。

FLASH サイズ	RAM サイズ	FLASH アドレス	RAM アドレス
64K	4KB	0x0000_0000 ~ 0x0000_FFFF(シングルチップモード) 0x3F80_0000 ~ 0x3F80_FFFF(シングルブートモード)	0x2000_0000 ~ 0x2000_0FFF

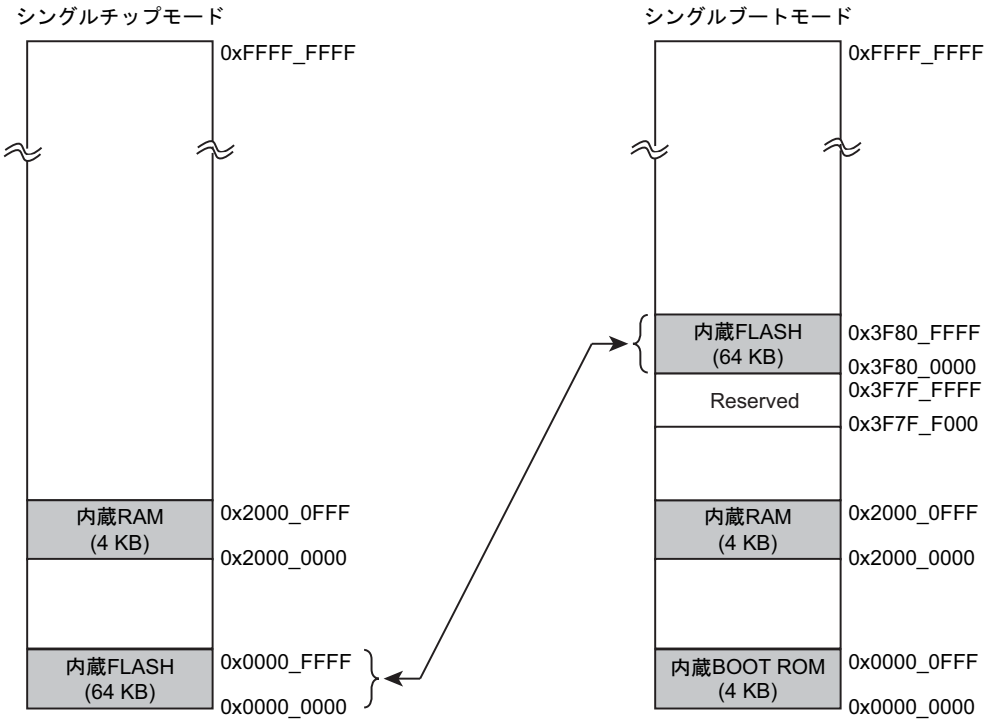


図 23-3 メモリマップの比較

23.1.5　プロテクト/セキュリティ機能

本製品は、フラッシュメモリに対して、プロテクトとセキュリティの 2 つの機能を持っています。

1. プロテクト機能
   フラッシュメモリへの書き込み、消去をブロック単位で禁止
2. セキュリティ機能
   フラッシュライタによるフラッシュメモリの読み出しの禁止
   デバッグ機能の使用制限

23.1.5.1　プロテクト機能

ブロック単位で書き込みと消去の動作を禁止することができます。

プロテクト機能を有効にするためには、プロテクトビットプログラムコマンドを用いて対応するプロテクトビットを"1"にします。プロテクトビット消去コマンドによりプロテクトビットを"0"にすることでブロックプロテクトは解除されます。プロテクトビットは、FCPSRA <BLK [1:0]>でモニタすることができます。

プロテクトビットのプログラムは 1 ビット単位、消去は 2 ビット単位で行います。プロテクトビットのプログラムと消去の方法については、「23.2.5 コマンド説明」の章を参照してください。

23.1.5.2 セキュリティ機能

セキュリティ機能が有効な場合の動作を、表 23-3 に示します。

表 23-3 セキュリティ機能が有効な場合の動作

項目	内容
フラッシュメモリの読み出し	CPU からの読み出しは可能です。
デバッグポート	JTAG、シリアルワイヤ、トレースの通信ができなくなります。
フラッシュメモリに対するコマンドの実行	フラッシュに対してのコマンドライトが受け付けられません。またプロテクトビットを消去しようとすると、チップ消去が行われ、すべてのプロテクトビットも消去されます。

セキュリティ機能が有効になる条件は以下のとおりです。

1. FCSECBIT<SECBIT>が"1"にセットされている。
2. すべてのプロテクトビット(FCPSRA<BLK>)が"1"にセットされている。

FCSECBIT<SECBIT>はパワーオンリセットで"1"にセットされます。

FCSECBIT<SECBIT>の書き替えは以下の手順で行います。

注) 以下の 1., 2.の書き込みは 32bit 転送命令で行ってください。

1. FCSECBIT に対して特定のコード(0xa74a9d23)を書き込む。
2. 1.の書き込みから 16 クロック以内にデータを書き込む。

23.1.6　レジスタ

23.1.6.1　レジスター覧

Base Address = 0x41FF_F000

レジスタ名		Address(Base+)
セキュリティビットレジスタ	FCSECBIT	0x0010
フラッシュ IF コントロールレジスタ	FCCR	0x001C
フラッシュスタータスレジスタ	FCSR	0x0020
フラッシュプロテクトスタータスレジスタ	FCPSRA	0x0030

23.1.6.2　FCCR(フラッシュ IF コントロールレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	FLBOFF
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-1	−	R	リードすると"0"が読めます。
0	FLBOFF	R/W	Flash IF の分岐バッファの制御 (注 1) 0: 分岐バッファ Enabale 1: 分岐バッファ Disable(バッファクリア) 本ビットは Flash IF のバッファを制御するための機能ビットです。 分岐バッファを使用する場合は、"0"を、使用しない場合は、"1"を設定します。 TMPM37AFSQG で、Flash をアクセスする場合は必ず、"0"を設定して下さい。

注 1)　TMPM37AFSQG で Flash 書き換えや消去実行後には、必ず本ビットを使用して分岐バッファをクリアするか、端子リセットを入れて下さい。

バッファクリア操作は下記の通り

RAM 上で、FCCR<FLBOFF>="1"を実行後、FCCR<FLBOFF>="0"へ書き戻す。

23.1.6.3 FCSR(フラッシュスタータスレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	RDY/BSY
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-1	−	R	リードすると"0"が読めます。
0	RDY/BSY	R	Ready/Busy (注 1) 0: Busy(自動動作中) 1: Ready(自動動作終了) 本ビットはフラッシュメモリの状態を CPU からモニタするための機能ビットです。フラッシュメモリが自動動作中は "0" を出力し、ビジー状態であることを示します。自動動作が終了するとレディ状態となり "1" を出力し、次のコマンドを受け付けます。 自動動作の結果が不良であった場合、本ビットは "0" 出力を継続します。ハードウエアリセットにより "1" に復帰します。

注 1) コマンド発行は、必ずレディ状態であることを確認してから発行してください。ビジー中にコマンド発行を行なった場合、正常なコマンドが送られないだけでなく、それ以降のコマンドを入力できなくなる可能性があります。その際は、ハードウエアリセットで復帰してください。ハードウエアリセットを行う場合は、システムクロックによらず 0.5 μs 以上のリセット期間が必要となります。またこの場合、リセット解除後読み出しが可能になるまで 2 ms 程度の時間がかかります。

23.1.6.4　FCSECBIT(セキュリティビットレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	SECBIT
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	1

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-1	−	R	リードすると"0"が読めます。
0	SECBIT	R/W	セキュリティビット 0:セキュリティ機能設定不可 1:セキュリティ機能設定可能

注)　本レジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

23.1.6.5　FCPSRA(フラッシュプロテクトスタータスレジスタ)

	31	30	29	28	27	26	25	24
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	22	21	20	19	18	17	16
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit symbol	-	-	-	-	-	-	-	-
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	-	-	-	-	-	-	BLK1	BLK0
リセット後	0	0	0	0	0	0	(注 1)	(注 1)

Bit	Bit Symbol	Type	機能
31-2	−	R	リードすると"0"が読めます。
1-0	BLK1- BLK0	R	Block1 ~ 0 のプロテクト状態 0: プロテクト状態ではない 1: プロテクト状態 プロテクトビット値は各ブロックのプロテクト状態に対応します。該当ビットが"1"の時は対応するブロックがプロテクト状態であることを示します。プロテクト状態のブロックは書き換えはできません。

注 1)　プロテクト状態に応じた値になります。

23.2 フラッシュメモリ詳細

オンボードプログラミングモードでは、制御プログラム中でコマンドを実行することで、フラッシュメモリの書き込み/消去を行います。この書き込み/消去の制御プログラムはユーザがあらかじめ用意しておきます。フラッシュメモリの書き込み/消去を行っている間、フラッシュメモリ上のプログラムは実行できませんので、書き込み/消去制御プログラムは RAM 上で実行してください。 また、リセットを除く割り込み/フォールトは、処理が正しく終了しない可能性があるため発生させないようにしてください。

23.2.1 機能

一部の機能を除き、フラッシュメモリの書き込みおよび消去などは JEDEC 標準コマンドに準拠していますが、動作コマンドのアドレス指定が標準コマンドとは異なります。

書き込み, 消去を行う場合、32 ビット(1 ワード)のストア命令を用いてフラッシュメモリへコマンドを入力します。コマンド入力後、書き込みおよび消去は内部で自動的に行われます。

表 23-4 フラッシュメモリの機能

主な機能	説明
自動ページプログラム	データ書き込みを自動で行います。
自動チップ消去	フラッシュメモリの全エリアの一括消去を自動で行います。
自動ブロック消去	ブロック単位での消去を自動で行います。
ライト/消去プロテクト	ブロック単位ごとに書き込みおよび消去を禁止することができます。

注) TMPM37AFSQG で、書き込み、消去を実施した後は、必ず分岐バッファのクリアを行って下さい。クリアの方法については、「23.1.6.2 FCCR(フラッシュ IF コントロールレジスタ)」を参照下さい。

注) フラッシュメモリへの書き込み、消去、プロテクトビットプログラム、プロテクトビット消去の各コマンドシーケンスの処理終了を FCSR<RDY/BSY> で確認した後、フラッシュメモリからのデータ読み出し、または命令フェッチを開始するまで 200μs 以上のウェイト時間を確保してください。

23.2.2 フラッシュメモリの動作モード

フラッシュメモリには、大きく分けて以下の 2 種類の動作モードがあります。

- メモリデータを読み出すモード(リードモード)
- メモリデータを自動的に消去/書き替えるモード(自動動作)

電源投入後、リセット解除後、および自動動作の正常終了時にフラッシュメモリはリードモードになります。フラッシュメモリに書かれた命令の実行、およびデータの読み出しはリードモードで行います。

リードモード中にコマンドを入力すると自動動作へ移り、コマンドの処理が正常に終了するとリードモードに戻ります(ID-Read コマンドを除く)。自動動作中は、フラッシュメモリデータの読み出しとフラッシュメモリ上の命令の実行ができません。

コマンドが正常に終了しないなど、強制的にリードモードに復帰させる場合には、後述する Read コマンド、Read/リセットコマンドもしくはハードウエアリセットを用います。

23.2.3 ハードウエアリセット

ハードウエアリセットとはパワーオンリセットおよびウォームリセットを指しており、自動プログラム/消去動作の強制的な実行中止や、自動動作が異常終了した場合のリードモードへの復帰のために使用します。

自動動作中にハードウエアリセットが発生すると、フラッシュメモリは自動動作を中止しリードモードに戻ります。フラッシュメモリの自動プログラム/消去動作中にハードウエアリセットを行う場

合は、システムクロックによらず 0.5μs 以上のリセット期間が必要となります。またこの場合、リセット解除後読み出しが可能になるまで 2 ms 程度の時間がかかります。なお、自動動作の実行中にハードウエアリセットが入った場合は、データの書き替えが正常に行えませんので注意が必要です。再度、書き替えを行う処置をしてください。

本製品のリセット動作については、「リセット動作」の章を参照してください。所定のリセット入力後、CPU はフラッシュメモリよりリセットベクタデータをリードし、リセット解除後の動作を開始します。

23.2.4　コマンド実行方法

コマンド実行は、ストア命令を用いてフラッシュメモリに対してコマンドシーケンスを書き込むことで行います。フラッシュメモリは、入力されたアドレスとデータの組み合わせによって各自動動作コマンドを実行します。コマンド実行の詳細は、「23.2.5 コマンド説明」を参照してください。

フラッシュメモリに対するストア命令の実行を"バスライトサイクル"と呼びます。各コマンドはいくつかのバスライトサイクルで構成されています。フラッシュメモリは、バスライトサイクルのアドレスとデータが規定の順番で実行された時はコマンドの自動動作を実施します。規定の順番で実行されなかった場合、フラッシュメモリはコマンドの実行を中止してリードモードになります。

コマンドシーケンスの途中でキャンセルしたい場合や、間違ったコマンドシーケンスを入力した場合は、Read コマンドまたは Read/リセットコマンドを実行します。フラッシュメモリはコマンド実行を中止してリードモードになります。Read コマンドおよび Read/リセットコマンドをソフトウエアリセットと呼びます。

コマンドシーケンスの書き込みが終了すると自動動作を開始し、FCSR<RDY/BSY>が"0"になります。自動動作が正常終了した時に FCSR<RDY/BSY> = "1" となり、リードモードに復帰します。

自動動作中は、新たなコマンドシーケンスを受け付けません。動作を中止する場合はハードウエアリセットを用います。また、自動動作が正常終了しない場合(FCSR<RDY/BSY>が"0"のままの場合)、フラッシュメモリはこのモードのままロックされリードモードには復帰しません。リードモードに復帰させるにはハードウエアリセットを行う必要があります。ハードウエアリセットで動作を中止させた場合は、コマンドは正常に実行されません。

コマンドを実行する際には以下の事項に留意してください。

1. コマンドシーケンサがコマンドを認識するために、コマンド開始前の状態がリードモードである必要があります。各コマンドシーケンスの第 1 バスライトサイクル前に FCSR<RDY/BSY> = 1 であることを確認してください。続いて Read コマンドを実行することを推奨します。

2. 各コマンドシーケンスは、フラッシュメモリ外のエリアから実行します。

3. 各バスライトサイクルは連続して、1 ワード(32 ビット)のデータ転送命令で行って下さい。

4. 各コマンドシーケンスの実行中に、フラッシュメモリへのアクセスはしないで下さい。また、リセットを除く割り込み/フォールトは発生させないようにしてください。

5. コマンド発行時、誤ったアドレスやデータをライトした場合は、必ずソフトウエアリセットを発行して、リードモードに戻して下さい。

23.2.5　コマンド説明

各コマンドの内容について説明します。具体的なコマンドシーケンスは「23.2.6 コマンドシーケンス」を参照してください。

23.2.5.1 自動ページプログラム

(1) 動作内容

自動ページプログラムは、ページごとにデータを書き込みます。複数のページに対してデータの書き込みを行うときは、ページごとにページプログラムコマンドを実行する必要があります。ページを跨ってデータを書き込むことはできません。

フラッシュメモリへの書き込みは、"1" データセルを "0" データにすることです。"0" データセルを "1" データにすることはできません。"0" データセルを "1" データにするには消去動作を行う必要があります。

自動ページプログラムは消去後のページに対して 1 回のみ可能で、"1"データセルであっても"0"データセルであっても 2 回以上の実行はできません。一度書き込み動作を行ったページに対して再度書き込みを行う場合は、自動ブロック消去または自動チップ消去コマンドを行った後に自動ページプログラムを実行しなおす必要があります

注 1) 消去動作を伴わない同一ページへの 2 回以上ページプログラム実施はデバイス破損の可能性があります。

注 2) プロテクトされたブロックへの書き込みはできません。

(2) 実行方法

第 1～第 3 バスライトサイクルが自動ページプログラムのコマンドシーケンスです。

第 4 バスライトサイクルでページの先頭アドレスとデータを書き込みます。第 5 バスライトサイクル以降、連続して 1 ページ分のデータを書き込みます。データは 1 ワード(32 ビット)単位で書き込んでください。

ページの一部に書き込みを行う場合、書き込みが不要なアドレスのデータを"0xFFFFFFFF"として 1 ページ分の書き込みを行ってください。

本デバイス内部で自動的なベリファイ動作は行いませんので、正常に書き込みができたか、実行後に読み出しをして確認してください。

自動プログラム動作が正常終了しなかった場合、このページへの書き込みが不良になっていますので、デバイスの使用を停止するか、以後このアドレスを含むブロックを使用しないことを推奨します。

23.2.5.2 自動チップ消去

(1) 動作内容

自動チップ消去は、全アドレスのメモリセルに対して消去動作を行います。プロテクトされているブロックがある場合、そのブロックの消去は行いません。すべてのブロックがプロテクトされている場合は自動チップ消去を実行せず、コマンドシーケンスの入力後にリードモードに戻ります。

(2) 実行方法

第 1～第 6 バスライトサイクルが自動チップ消去のコマンドシーケンスです。コマンドシーケンス入力後、自動チップ消去動作を行います。

本デバイス内部で自動的なベリファイ動作は行いませんので、正常に消去ができたか、実行後に読み出しをして確認してください。

23.2.5.3　自動ブロック消去

(1)　動作内容

自動ブロック消去コマンドは、指定されたブロックに対する消去動作を行います。指定されたブロックがプロテクトされている場合、消去を行いません。

(2)　実行方法

第 1～第 5 バスライトサイクルが自動ブロック消去のコマンドシーケンスです。第 6 バスライトサイクルで消去するブロックを指定します。コマンドシーケンス入力後、自動ブロック消去動作を行います。

本デバイス内部で自動的なベリファイ動作は行いませんので、正常に消去ができたか、実行後に読み出しをして確認してください。

23.2.5.4　自動プロテクトビットプログラム

(1)　動作内容

自動プロテクトビットプログラムは、プロテクトビットにビット単位で"1"を書き込みます。プロテクトビットを"0"にするためには自動プロテクトビット消去コマンドを使用します。

プロテクトの機能については「23.1.5 プロテクト/セキュリティ機能」を参照してください。

(2)　実行方法

第 1～第 6 バスライトサイクルが自動プロテクトビットプログラムのコマンドシーケンスになります。第 7 バスライトサイクルで書き込むプロテクトビットを指定します。コマンドシーケンス入力後、自動プロテクトビットプログラム動作を行います。正しく書き込みができたかどうか、FCPSRA<BLK>で確認してください。

23.2.5.5　自動プロテクトビット消去

(1)　動作内容

自動プロテクトビット消去コマンドは、実行する際のセキュリティの状態によって動作内容が異なります。セキュリティ状態については、「23.1.5 プロテクト/セキュリティ機能」を参照してください。

- セキュリティ状態でない場合

  指定されたプロテクトビットを"0"にクリアします。プロテクトビットの消去は 2 ビット単位で行われます。
- セキュリティ状態の場合

  フラッシュメモリの全アドレスのデータを消去した後、すべてのプロテクトビットを消去します。

(2) 実行方法

第 1 ~ 第 6 バスライトサイクルが自動プロテクトビット消去のコマンドシーケンスになります。第 7 バスライトサイクルで消去するプロテクトビットを指定します。コマンドシーケンス入力後、自動動作を行います。

セキュリティ状態でない場合、指定されたプロテクトビットが消去されます。正常に消去が行われたか、FCPSRA<BLK>で確認してください。

セキュリティ状態の場合、フラッシュメモリの全アドレスのデータ消去およびすべてのプロテクトビットが消去されます。データの消去およびプロテクトビットの消去が正常に行われたか読み出して確認し、必要に応じて再度自動プロテクトビット消去、自動チップ消去あるいは自動ブロック消去を実行してください。

いずれの場合も他のコマンドと同様、自動動作中は FCSR<RDY/BSY>が"0"となり、終了後"1"となりリードモードに戻ります。自動動作を中断するためにはハードウエアリセットが必要です。

23.2.5.6 ID-Read

(1) 動作内容

ID-Read コマンドは、フラッシュメモリのタイプ等の情報を読み出すことができます。読み出せる内容は、メーカーコード、デバイスコード、マクロコードの 3 種類です。

(2) 実行方法

第 1 ~ 第 3 バスライトサイクルが ID-Read のコマンドシーケンスになります。第 4 バスサイクルで読み出すコードを指定します。第 4 バスライトサイクル以降、任意のフラッシュ領域からのリード動作でコードが得られます。

ID-Read コマンドは連続実行が可能です。第 4 バスライトサイクルと ID の値の読み出しは繰り返し実行できます。

ID-Read コマンドは自動的にリードモードに戻りません。リードモードへの復帰は Read コマンド、Read/リセットコマンドまたはハードウエアリセットで行います。

23.2.5.7 Read コマンド、Read/リセットコマンド (ソフトウエアリセット)

(1) 動作内容

フラッシュメモリをリードモードに戻すコマンドです。

ID-Read コマンドを実行した場合、マクロは自動的にはリードモードに復帰せず、その状態で停止します。このような状態からリードモードに復帰させるために、Read コマンドまたは Read/リセットコマンドを使用します。また、途中まで入力したコマンドをキャンセルする場合にも使用します。

(2) 実行方法

Read コマンドでは第 1 バスサイクルが、Read/リセットコマンドでは第 1 ~ 3 バスライトサイクルがコマンドシーケンスになります。コマンドシーケンス実行後、フラッシュメモリはリードモードになります。

23.2.6　コマンドシーケンス

23.2.6.1　コマンドシーケンス一覧

表 23-5 に各コマンドのバスライトサイクルのアドレスとデータを示します。

ID-Read コマンドの第 5 バスサイクル以外はすべて"「バスライトサイクル」です。バスライトサイクルは 32 ビット(1 ワード) のデータ転送命令で実施します(表では、データの下位 8 ビットのデータのみ示しています)。

アドレスの詳細は、表 23-6 を参照してください。表 23-6 で「コマンド」と記載された、Addr [15:9]に下記の値を使用します。

注 1)　アドレスビット[1:0]へは常に"0"を設定してください。

注 2)　アドレスビット[19]はフラッシュメモリサイズにより以下の値を設定してください。
メモリサイズが 1MB 以下：常に"0"
メモリサイズが 1MB を超える：1MB 以下の領域へのバスライトサイクルでは"0"
1MB を超える領域へのバスライトサイクルでは"1"

表 23-5 コマンドシーケンス

コマンド	第 1 バスサイクル	第 2 バスサイクル	第 3 バスサイクル	第 4 バスサイクル	第 5 バスサイクル	第 6 バスサイクル	第 7 バスサイクル
	Addr.	Addr.	Addr.	Addr.	Addr.	Addr.	Addr.
	Data	Data	Data	Data	Data	Data	Data
Read	0xXX	–	–	–	–	–	–
	0xF0	–	–	–	–	–	–
Read/リセット	0xX55X	0xXAAX	0xX55X	–	–	–	–
	0xAA	0x55	0xF0	–	–	–	–
ID-Read	0xX55X	0xXAAX	0xX55X	IA	0xXX	–	–
	0xAA	0x55	0x90	0x00	ID	–	–
自動ページプログラム	0xX55X	0xXAAX	0xX55X	PA	PA	PA	PA
	0xAA	0x55	0xA0	PD0	PD1	PD2	PD3
自動チップ消去	0xX55X	0xXAAX	0xX55X	0xX55X	0xXAAX	0xX55X	–
	0xAA	0x55	0x80	0xAA	0x55	0x10	–
自動ブロック消去	0xX55X	0xXAAX	0xX55X	0xX55X	0xXAAX	BA	–
	0xAA	0x55	0x80	0xAA	0x55	0x30	–
自動プロテクトビットプログラム	0xX55X	0xXAAX	0xX55X	0xX55X	0xXAAX	0xX55X	PBA
	0xAA	0x55	0x9A	0xAA	0x55	0x9A	0x9A
自動プロテクトビット消去	0xX55X	0xXAAX	0xX55X	0xX55X	0xXAAX	0xX55X	0xXX
	0xAA	0x55	0x6A	0xAA	0x55	0x6A	0x6A

補足説明

- IA: ID アドレス
- ID: ID データ
- PA: プログラム ページアドレス
- PD: プログラムデータ(32 ビットデータ)
  第 4 バスサイクル以降 1 ページ分をアドレス順にデータ入力
- BA: ブロックアドレス(表 23-7 参照)
- PBA: プロテクトビットアドレス(表 23-8 参照)

23.2.6.2 バスライトサイクル時のアドレスビット構成

表 23-6 は「表 23-5 コマンドシーケンス」と併せてご使用願います。

第 1 バスサイクルから「通常のバスライトサイクルアドレス設定」に従い、アドレス設定を行ってください。

表 23-6 バスライトサイクル時のアドレスビット構成

アドレス	Addr [31:15]	Addr [14]	Addr [13:12]	Addr [11:9]	Addr [8:7]	Addr [6:4]	Addr [3:0]

通常コマンド	通常のバスライトサイクルアドレス設定				
	フラッシュ領域	"0"推奨		コマンド	Addr[1:0] = "0"固定、他ビットは"0"推奨
ID-READ	IA: ID アドレス(ID-READ の第 4 バスライトサイクルアドレス設定)				
	フラッシュ領域	"0"推奨	ID アドレス	Addr[1:0] = "0"固定、他ビットは"0"推奨	
ブロック消去	BA: ブロックアドレス(ブロック消去の第 6 バスライトサイクルアドレス設定)				
	ブロックアドレス(表 23-7)	Addr[1:0] = "0"固定、他ビットは"0"推奨			
Auto ページプログラム	PA: プログラムページアドレス(ページプログラムの第 4 バスライトサイクルアドレス設定)				
	ページアドレス				Addr[1:0] = "0"固定、他ビットは"0"推奨
プロテクトビットプログラム	PBA: プロテクトビットアドレス(プロテクトビットプログラムの第 7 バスライトサイクルアドレス設定)				
	フラッシュ領域	"0"固定		プロテクトビット選択 (表 23-8)	Addr[1:0] = "0"固定、他ビットは"0"推奨

23.2.6.3 ブロックアドレス(BA)

表 23-7 にブロックアドレスを示します。自動ブロック消去コマンドの第 6 バスライトサイクルで、消去するブロックに含まれる任意のアドレスを指定します。

表 23-7 ブロックアドレス表

Block	アドレス (ユーザブートモード)	アドレス (シングルブートモード)	サイズ (Kbyte)
1	0x0000_8000 ~ 0x0000_FFFF	0x3F80_8000 ~ 0x3F80_FFFF	32
0	0x0000_0000 ~ 0x0000_7FFF	0x3F80_0000 ~ 0x3F80_7FFF	32

23.2.6.4 プロテクトビットの指定(PBA)

プロテクトビットは、プログラム時は 1 ビット単位、消去時は 4 ビット単位の操作になります。

自動プロテクトビットプログラムのプロテクトビット選択表を表 23-8 に示します。アドレス例の、上段はユーザブートモード時のアドレス、下段はシングルブートモード時のアドレスです。

消去は、自動プロテクトビット消去コマンドを実行することで 4 ビットのプロテクトビットがまとめて消去されます。

表 23-8 プロテクトビットプログラムアドレス表

Block	プロテクトビット	第 7 バスライトサイクルのアドレス			アドレス例 [31:0]
		アドレス [14:9]	アドレス [8]	アドレス [7]	
Block0	<BLK[0]>	"0"固定	0	0	0x0000_0000 0x3F80_0000
Block1	<BLK[1]>		0	1	0x0000_0080 0x3F80_0080

23.2.6.5　ID-Read のコード(IA, ID)

ID-Read コマンドでのコード指定方法と読み出される内容を表 23-9 に示します。

下表のアドレス例の、上段はユーザブートモード時のアドレス、下段はシングルブートモード時のアドレスです。

表 23-9 IID-Read コマンドのコード指定とコードの内容

Code	ID[7:0]	IA[13:12]	アドレス例[31:0]
メーカーコード	0x98	0b00	0x0000_0000 0x3F80_0000
デバイスコード	0x5A	0b01	0x0000_1000 0x3F80_1000
−	Reserved	0b10	−
マクロコード	0x33	0b11	0x0000_3000 0x3F80_3000

23.2.6.6 コマンドシーケンス例

(1) ユーザブートモード

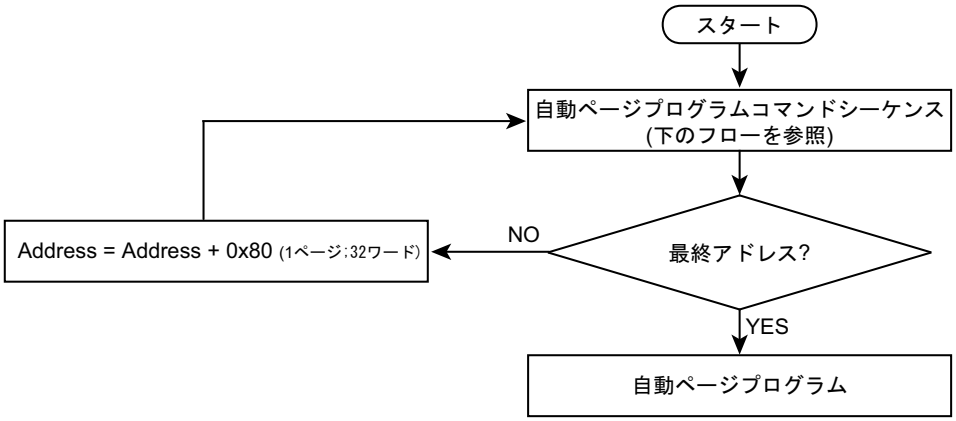
コマンド		バスサイクル						
		1	2	3	4	5	6	7
Read	アドレス	0x0000_0000	–	–	–	–	–	–
	データ	0x0000_00F0	–	–	–	–	–	–
Read/リセット	アドレス	0x0000_0550	0x0000_0AA0	0x0000_0550	–	–	–	–
	データ	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_00F0	–	–	–	–
ID-Read	アドレス	0x0000_0550	0x0000_0AA0	0x0000_0550	IA	0x0000_0000	–	–
	データ	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_0090	0x0000_0000	ID	–	–
自動ページプログラム	アドレス	0x0000_0550	0x0000_0AA0	0x0000_0550	PA	以降、連続して 1 ページ分のアドレスとデータを書き込み		
	データ	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_00A0	PD			
自動チップ消去	アドレス	0x0000_0550	0x0000_0AA0	0x0000_0550	0x0000_0550	0x0000_0AA0	0x0000_0550	–
	データ	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_0080	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_0010	–
自動ブロック消去	アドレス	0x0000_0550	0x0000_0AA0	0x0000_0550	0x0000_0550	0x0000_0AA0	BA	–
	データ	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_0080	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_0030	–
自動プロテクトビットプログラム	アドレス	0x0000_0550	0x0000_0AA0	0x0000_0550	0x0000_0550	0x0000_0AA0	0x0000_0550	PBA
	データ	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_009A	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_009A	0x0000_009A
自動プロテクトビット消去	アドレス	0x0000_0550	0x0000_0AA0	0x0000_0550	0x0000_0550	0x0000_0AA0	0x0000_0550	0x0000_0550
	データ	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_006A	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_006A	0x0000_006A

(2) シングルブートモード

コマンド		バスサイクル						
		1	2	3	4	5	6	7
Read	アドレス	0x3F80_0000	–	–	–	–	–	–
	データ	0x0000_00F0	–	–	–	–	–	–
Read/リセット	アドレス	0x3F80_0550	0x3F80_0AA0	0x3F80_0550	–	–	–	–
	データ	0x0000_00AA	0x3F80_0055	0x3F80_00F0	–	–	–	–
ID-Read	アドレス	0x3F80_0550	0x3F80_0AA0	0x3F80_0550	IA	0x0000_0000	–	–
	データ	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_0090	0x0000_0000	ID	–	–
自動ページプログラム	アドレス	0x3F80_0550	0x3F80_0AA0	0x3F80_0550	PA	以降、連続して 1 ページ分のアドレスとデータを書き込み		
	データ	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_00A0	PD			
自動チップ消去	アドレス	0x3F80_0550	0x3F80_0AA0	0x3F80_0550	0x3F80_0550	0x3F80_0AA0	0x3F80_0550	–
	データ	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_0080	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_0010	–
自動ブロック消去	アドレス	0x3F80_0550	0x3F80_0AA0	0x3F80_0550	0x3F80_0550	0x3F80_0AA0	BA	–
	データ	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_0080	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_0030	–
自動プロテクトビットプログラム	アドレス	0x3F80_0550	0x3F80_0AA0	0x3F80_0550	0x3F80_0550	0x3F80_0AA0	0x3F80_0550	PBA
	データ	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_009A	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_009A	0x0000_009A
自動プロテクトビット消去	アドレス	0x3F80_0550	0x3F80_0AA0	0x3F80_0550	0x3F80_0550	0x3F80_0AA0	0x3F80_0550	0x3F80_0550
	データ	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_006A	0x0000_00AA	0x0000_0055	0x0000_006A	0x0000_006A

23.2.7　フローチャート

23.2.7.1　自動プログラム



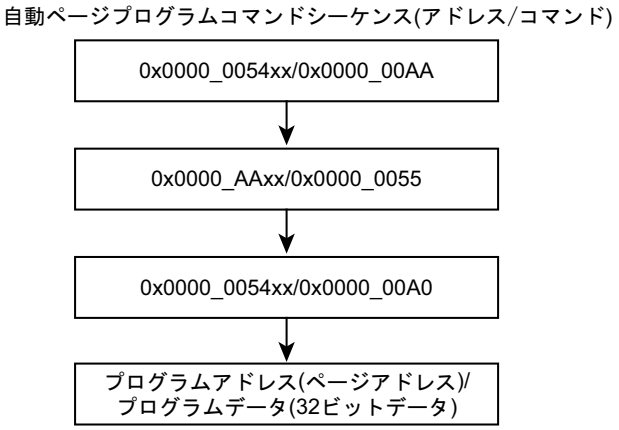


図 23-4 自動プログラムフローチャート

23.2.7.2 自動消去

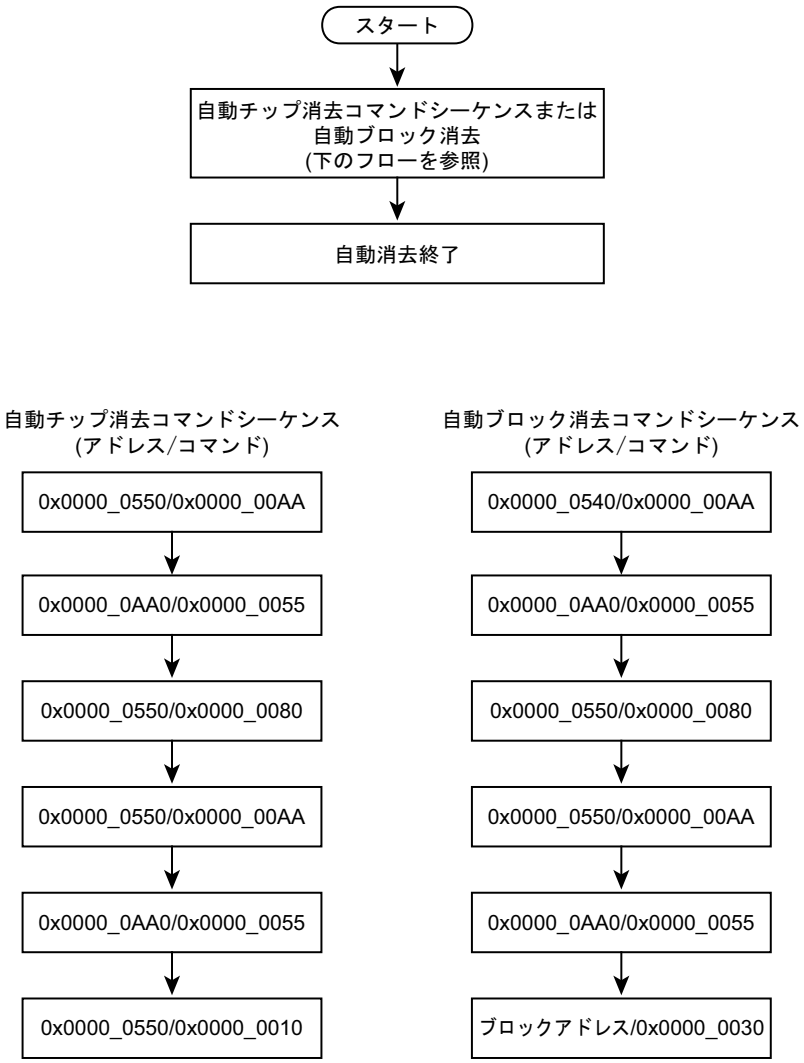


図 23-5 自動消去フローチャート

23.3　シングルブートモードによる書き替え方法

内蔵 BOOT ROM のプログラムを利用してフラッシュメモリを書き替える方法です。このモードでは、BOOT ROM が割り込みベクタテーブルを含む領域にマッピングされ、フラッシュメモリは BOOT ROM 領域とは別のアドレス空間にマッピングされます。

シングルブートモードでは、コマンドおよびデータをシリアル転送してフラッシュメモリの書き替えを行います。本デバイスのシリアルチャネル(SIO/UART) と外部ホストを接続し、外部ホスト側から内蔵 RAM に書き替えプログラムをコピーし、RAM 上の書き替えルーチンを実行してフラッシュメモリの書き替えを行います。ホスト側との通信の詳細は後述のプロトコルに従ってください。

シングルブートモードでも、リセットを除く割り込み/フォールトは、処理が正しく終了しない可能性があるため発生させないようにしてください。

シングルチップモード (通常動作モード) 中に誤ってフラッシュメモリの内容を書き替えないよう、書き替え処理が完了したら必要なブロックにライト/消去プロテクトをかけておくことを推奨します。

23.3.1　モード設定

オンボードプログラミングを実行するためには、本デバイスをシングルブートモードで立ち上げます。シングルブートモードで立ち上がるための設定を以下に示します。

$\overline{\text{BOOT}}$ = 0
$\overline{\text{RESET}}$ = 0 → 1

$\overline{\text{RESET}}$ 入力端子を"0"の状態にして、$\overline{\text{BOOT}}$ 端子をあらかじめ上記条件に設定します。その後 RESET 解除を行うとシングルブートモードで起動します。

23.3.2　インタフェース仕様

シングルブートモードでの SIO/UART 通信フォーマットを以下に示します。シリアル動作のモードは、UART (非同期通信) に対応しています。オンボードプログラミングを実行するためには、書き込みコントローラ側の通信フォーマットも同様に設定する必要があります。

- UART で通信する場合

  通信チャネル: チャネル 0

  シリアル転送モード: UART (非同期通信) モード, 半二重通信, LSB ファスト

  データ長: 8 ビット

  パリティビット: なし

  STOP ビット: 1 ビット

  ボーレート: 任意のボーレート

ブートプログラムは、クロック/モード制御ブロックの設定は初期状態のままで動作します。クロック設定の初期状態は、「クロック/モード制御」の章を参照してください。

ボーレートは、「23.3.5.1 シリアル動作モード判定」で説明しているように 16 ビットタイマ(TMRB) を用いて判定します。判定時のボーレートは所望のボーレートの 1/16 で通信するため、このボーレートがタイマで計測可能な範囲である必要があります。タイマのカウントクロックは ΦT1(fc/2)で動作します。

ブートプログラムで使用する端子を表 23-10 にまとめます。これ以外の端子はブートプログラムでは操作しません。

表 23-10 端子の接続

端子		インタフェース
		UART
モード設定端子	$\overline{\text{BOOT}}$	o
リセット端子	$\overline{\text{RESET}}$	o
通信端子	TXD0 (PE0)	o
	RXD0 (PE1)	o

o;必要、×;不要

23.3.3 メモリの制約について

シングルブートモードでは、内蔵 RAM, 内蔵フラッシュメモリに対して表 23-11 のような制約がありますのでご注意ください。

表 23-11 シングルブート時のメモリの制約

メモリ	制約内容
内蔵 RAM	0x2000_0000 ~ 0x2000_03FF 番地は BOOT プログラムのワークエリアになります。 プログラムは 0x2000_0400 から RAM の最終番地に格納してください。 プログラムの開始アドレスは偶数アドレスでなければいけません。
内蔵フラッシュメモリ	以下の番地はソフトなどの ID 情報やパスワードの格納エリアとなりますので、なるべくプログラムエリアとしての使用はさけてください。 0x3F80_FFF0 ~ 0x3F80_FFFF

注) パスワードが消去データ(0xFF)の場合、容易にパスワードの照合が可能になり、セキュリティの確保が難しくなります。シングルブートモードを使用しない場合も固有の値を置くことを推奨します。

23.3.4 動作コマンド

ブートプログラムには、以下の動作コマンドが準備されています。

表 23-12 動作コマンドデータ

動作コマンドデータ	動作モード
0x10	RAM 転送
0x40	フラッシュメモリチップ消去およびプロテクトビット消去

23.3.4.1 RAM 転送

RAM 転送は、コントローラから送られてくるデータを内蔵 RAM へ格納します。転送が正常に終了するとユーザプログラムの実行を開始します。ユーザプログラム領域として、ブートプログラムで使用する領域(0x2000_0000 ~ 0x2000_03FF)を除く、0x2000_0400 以降を使用可能です。実行開始アドレスは、RAM 格納開始アドレスになります。実行開始アドレスは偶数アドレスでなければいけません。

この RAM 転送機能により、ユーザ独自のオンボードプログラミング制御を行うことができます。ユーザプログラムでオンボードプログラミングを実行するためには、「23.2.6 コマンドシーケンス」で説明するフラッシュメモリコマンドシーケンスを使う必要があります。

23.3.4.2　フラッシュメモリチップ消去および プロテクトビット消去

このコマンドはすべてのブロックのフラッシュメモリを消去します。ライト/消去プロテクトおよび、セキュリティ状態にかかわらず、メモリセルのすべてのブロックを消去し、すべてのブロックのライト/消去プロテクトを消去します。

23.3.5　コマンドによらず共通の動作

ブートプログラム実行において、共通に行われる動作について説明します。

23.3.5.1　シリアル動作モード判定

コントローラは、UART で通信したい場合、所望のボーレートで 1 バイト目を 0x86 にし送信してください。図 23-6 に波形を示します。

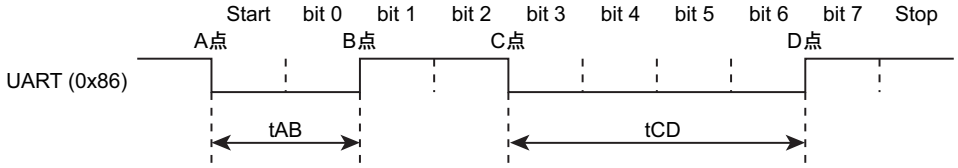


図 23-6 シリアル動作モード判定データ

ブートプログラムは図 23-7 に示すフローチャートで、リセット解除後の 1 バイト目のシリアル動作モード判定データ(0x86)を、16 ビットタイマ(TMRB)を用いて図 23-6 の tAB, tAC と、tAD の時間から求めています。図 23-7 のフローチャートに示すように、CPU が受信端子のレベルをモニタしてレベルの変化があると、そのときのタイマ値を取り込みます。このため、tAB, tAC と、tAD のタイマ値には誤差が生じます。また、ボーレートが速いときには、CPU は受信端子のレベルの変化を判断できない場合がありますので注意してください。

図 23-8 のフローチャートに示すように、シリアル動作モードの判定は、受信端子が"L"レベルのときの時間幅の大小関係で判定しています。tAB ≤ tCD の場合 UART と判定し、ボーレートの自動設定が可能かどうかを tAD の時間から判定します。なお、先に述べたように、tAB, tAC, tAD のタイマ値には誤差が生じているため、ボーレートが速く、動作周波数が低い場合、各タイマ値が小さくなり、意図しない判断を行うことがありますので注意してください(書き換えルーチン内で UART の再設定を行ってください)。

例えば、コントローラが UART で通信したい場合、1 バイト目のデータを送信後、タイムアウト時間内にデータ 0x86 を正常受信できなければ通信不可能と判断してください。

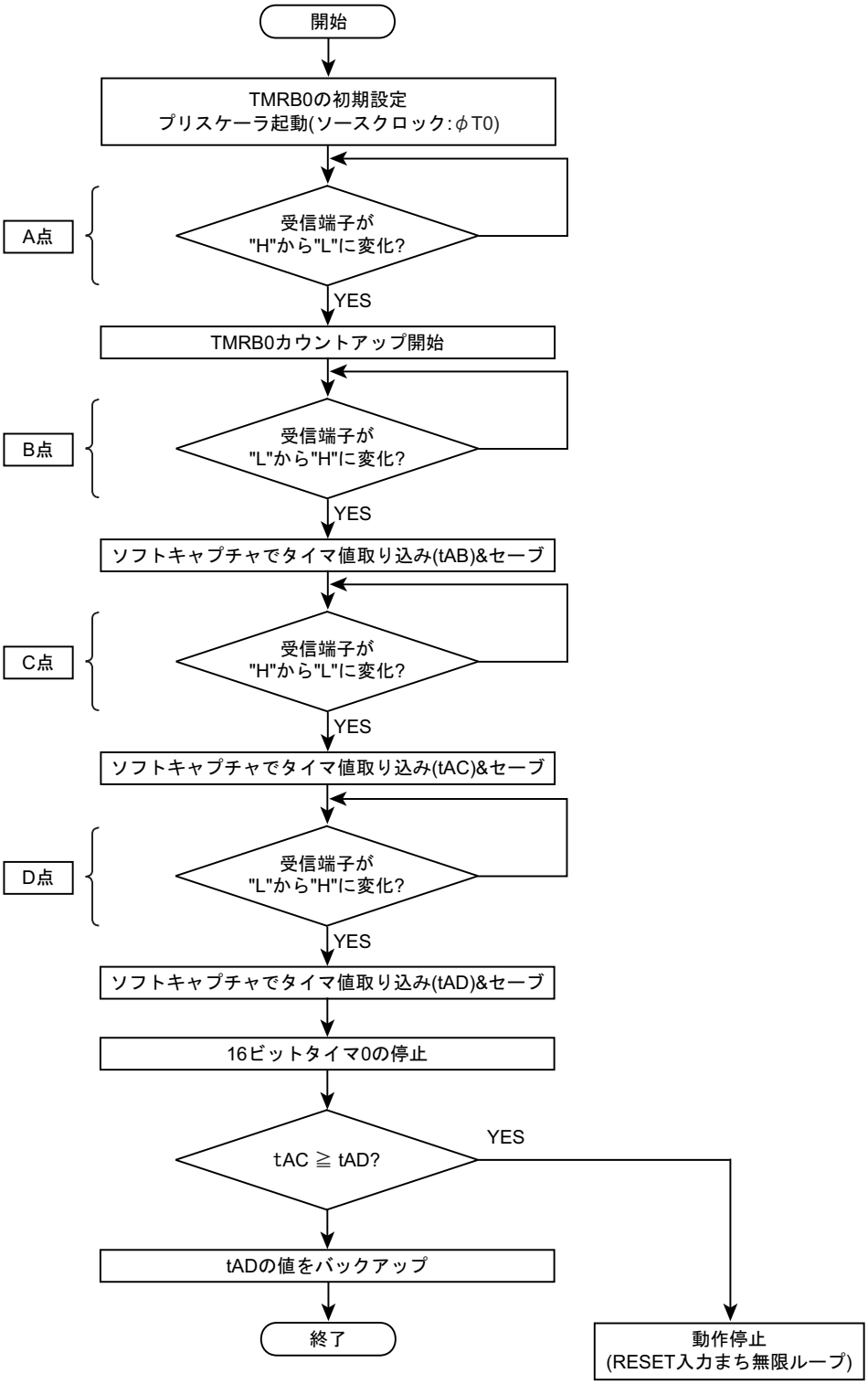


図 23-7 シリアル動作モード受信フローチャート

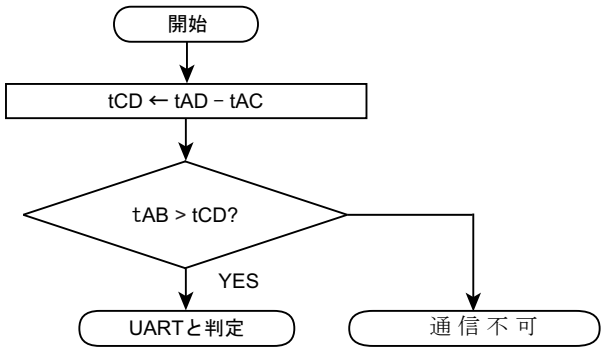


図 23-8 シリアル動作モード判定フローチャート

23.3.5.2　ACK 応答データ

ブートプログラムは処理状況を各種コードによってコントローラに送信します。表 23-13 から表 23-16 に各受信データに対する ACK 応答データを示します。

表 23-14 から表 23-16 に示す ACK 応答データの上位 4 ビットは、動作コマンドデータの上位 4 ビットになります。また 3 ビット目は受信エラーを表し、0 ビット目は動作コマンドエラー, CHECK SUM エラー, パスワードエラーの状態を表します。1 ビット目と 2 ビット目は常に 0 になります。

表 23-13 シリアル動作判定データに対する ACK 応答データ

送信データ	送信データの意味
0x86	UART での通信が可能と判定した。(注)

注)　UART の場合、ボーレートの設定が不可能と判定したら、何も送信しないで動作を停止します。

表 23-14 動作コマンドデータに対する ACK 応答データ

送信データ	送信データの意味
0xN8 (注)	動作コマンドデータに受信エラーが発生した。
0xN1 (注)	未定義の動作コマンドデータを正常受信した。
0x10	RAM 転送コマンドと判定した。
0x40	フラッシュメモリチップ消去コマンドと判定した。

注)　上位 4 ビットは、直前の動作コマンドデータの上位 4 ビットになります。

表 23-15 CHECK SUM データに対する ACK 応答データ

送信データ	送信データの意味
0xN8 (注)	受信エラーが発生していた。
0xN1 (注)	CHECK SUM エラーが発生した。あるいは、パスワードエラーが発生した。
0xN0 (注)	CHECK SUM 値は正常な値と判定した。

注)　上位 4 ビットは動作コマンドデータの上位 4 ビットになります。

表 23-16 フラッシュメモリチップ消去およびプロテクトビット消去動作に対する ACK 対応データ

送信データ	送信データの意味
0x54	消去イネーブルコマンドと判定した。
0x4F	消去コマンド終了
0x4C	消去コマンドが不正に終了した。

注) 消去コマンドが正常に行われた場合でも、ACK 応答で以上を返す場合があります。FCSR<RDY/BSY>でコマンド終了を確認した後、200μs 以上待って消去の再確認を行って下さい。

23.3.5.3 パスワード判定

ブートプログラムでは、以下の領域をパスワード要否判定データおよびパスワードとして使用します。

領域	アドレス
パスワード要否判定	0x3F80_FFF0 (1byte)
パスワード領域	0x3F80_FFF4 ~ 0x3F80_FFFF (12byte)

RAM 転送コマンドでは、要否判定データにかかわらずパスワード判定を行い、フラッシュメモリチップ消去およびプロテクトビット消去コマンドでは要否判定データが「要」の場合のみパスワード判定を行います。

パスワード要否選択	データ
パスワード要	0xFF 以外
パスワード否	0xFF

パスワードが消去データ(0xFF)の場合、容易にパスワードの照合が可能になり、セキュリティの確保が難しくなります。シングルブートモードを使用しない場合も固有の値を置くことを推奨します。

(1) RAM 転送コマンドでのパスワード判定

図 23-9 に示すようにパスワードエリアのデータが、0xFF 以外の同一データになっていた場合、パスワードエリアエラーと判定します。パスワードエリアエラーと判定された場合、パスワードデータの照合結果に関わらず、17 バイト目の CHECK SUM 値に対する ACK 対応は 0x11 を送信します。

次に、5 バイト目 ~ 16 バイト目の受信データ(パスワードデータ)の照合を行います。12 バイト分すべてが一致しないと、パスワードエラーになります。パスワードエラーと判定された場合、17 バイト目の CHECK SUM 値に対する ACK 応答は、パスワードエラーとなります。

セキュリティ機能が有効な状態でもパスワードの参照は行います。

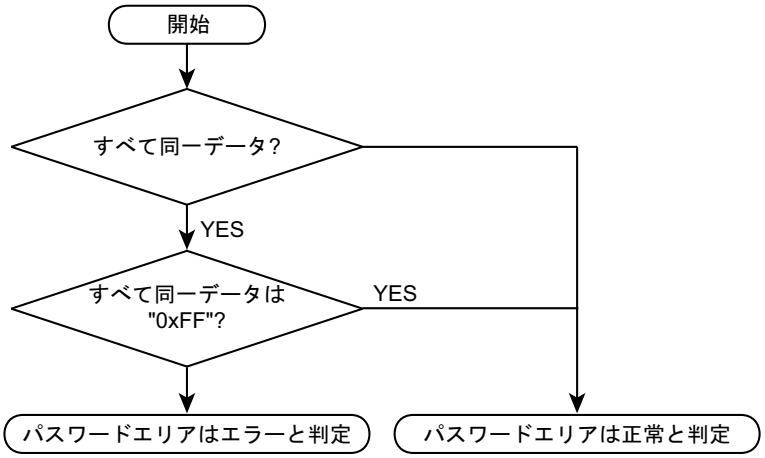


図 23-9 パスワードエリアチェックフローチャート

(2)　フラッシュメモリチップ消去およびプロテクトビット消去コマンドでのパスワード判定

図 23-10 に示すように、消去パスワード要否の選択エリアがパスワード有効の場合は、パスワードエリアのデータが同一データになっていた場合、パスワードエリアエラーと判定します。パスワードエリアエラーと判定された場合、パスワードデータの照合結果に関わらず、17 バイト目の CHECK SUM 値に対する ACK 対応は 0x41 を送信します。

次に、5 バイト目 ~ 16 バイト目の受信データ (パスワードデータ) の照合を行います。12 バイト分すべてが一致しないと、パスワードエラーになります。パスワードエラーと判定された場合、17 バイト目の CHECK SUM 値に対する ACK 応答は、パスワードエラーとなります。セキュリティ機能が有効な状態でもパスワードの参照は行います。

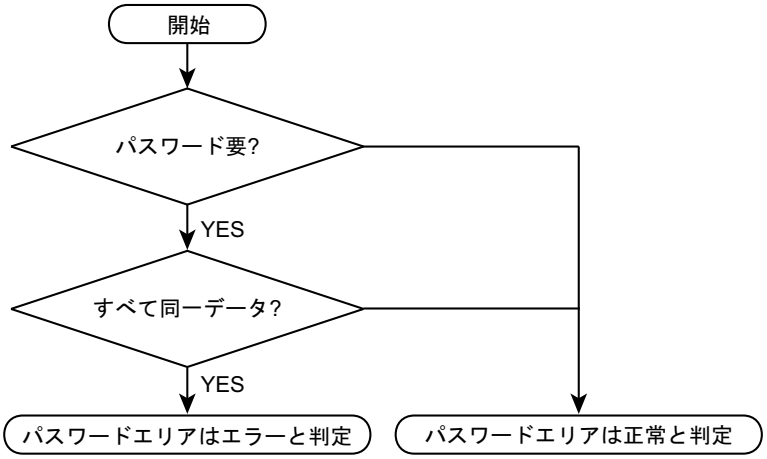


図 23-10 パスワードエリアチェックフローチャート

23.3.5.4　CHECK SUM の計算方法

CHECK SUM の計算方法は、送信データを符号なし 8 ビット加算(オーバフローを無視)して得られた下位 8 ビット値の 2 の補数値を求めています。コントローラは CHECK SUM 値を送信するときは、本計算方法を使用してください。

例)CHECK SUM 計算例

2 バイトのデータ 0xE5、0xF6 の CHECK SUM 値を求める場合、まず符号なし 8 ビット加算を行います。

0xE5 + 0xF6 = 0x1DB

この値の下位 8 ビットに対しての 2 の補数をとると以下のようになり、この値が CHECK SUM 値になります。従って、コントローラには 0x25 を送信します。

0 − 0xDB = 0x25

23.3.6　RAM 転送の転送フォーマット

RAM 転送コマンドの転送フォーマットを示します。表中の転送方向の表記が示す意味は以下のとおりです。

転送方向「C→T」: コントローラから TMPM37AFSQG へ

転送方向「C←T」: TMPM37AFSQG からコントローラへ

転送 バイト数	転送 方向	転送データ	内容
1	C→T	シリアル動作モード 、 ボーレート設定	シリアル動作モードを判定するデータを送信します。モード判定の詳細は「23.3.5.1 シリアル動作モード判定」を参照してください。
		[UART モード] 0x86	0x86 を送信してください。UART モードと判定した場合、ボーレートの設定が可能かどうかを判定します。設定が不可能と判断した場合は動作を停止するため、通信が行えなくなります。
2	C←T	シリアル動作モードに対する ACK 応答	2 バイト目の送信データは、1 バイト目のシリアル動作モード設定データに対する ACK 応答データになります。設定が可能と判定した場合、SIO/UART の設定を行います。受信を許可するタイミングは、送信バッファにデータを書き込む前に行っています。
		[UART モード] 正常の場合: 0x86	設定が可能と判定した場合 0x86 を送信し、設定が不可能と判定した場合、動作を停止するため何も送信しません。 コントローラは、1 バイト目のデータの送信が終了した後、タイムアウト時間(5 秒)を設けます。タイムアウト時間内に、データ(0x86)を正常受信できなければ、通信不能と判断してください。
3	C→T	動作コマンドデータ(0x10)	RAM 転送コマンドデータ(0x10)を送信してください。
4	C←T	動作コマンドに対する ACK 応答 正常の場合: 0x10 異常の場合: 0xX1 通信異常の場合: 0xX8	動作コマンドデータに対する ACK 応答データになります。 最初に、3 バイト目の受信データに受信エラーがあるかをチェックします(UART モードのみ)。受信エラーがある場合、通信異常の ACK 応答データ 0xX8 を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。送信データの上位 4 ビットは、不定値になります。(直前の動作コマンドデータの上位 4 ビットになります)。 次に、3 バイト目の受信データが、表 23-12 の動作コマンドデータのいずれかに該当する場合は、受信データをエコーバック送信します。RAM 転送の場合、0x10 をエコーバック送信して RAM 転送処理ルーチンに分岐します。 該当しない場合は、動作コマンドエラーの ACK 応答データ 0xX1 を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。送信データの上位 4 ビットは、不定値になります(直前の動作コマンドデータの上位 4 ビットになります)。
5~16	C→T	パスワードデータ(12 バイト)	パスワードエリアのデータをチェックします。パスワードエリアのデータのチェック方法は「23.3.5.3 パスワード判定」を参照してください。 5 バイト目の受信データから順に、フラッシュメモリの 0x3F80_FFF4~ 0x3F80_FFFF のデータと照合します。一致していない場合、パスワードエラーフラグをセットします。
17	C→T	5 ~ 16 バイト目の CHECK SUM 値	5 バイト目から 16 バイト目の CHECK SUM 値を送信してください。 CHECK SUM の計算方法は 23.3.5.4 を参照してください

転送 バイト数	転送 方向	転送データ	内容
18	C←T	CHECK SUM 値に対する ACK 応答 正常の場合: 0x10 異常の場合: 0x11 通信異常の場合: 0x18	最初に、5 バイト目 ~ 17 バイト目の受信データに受信エラーがあるかをチェックします(UART モードのみ)。受信エラーがある場合、通信異常の ACK 応答データ 0x18 を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。 次に、17 バイト目の CHECK SUM データをチェックします。エラーの場合、 0x11 を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。 最後に、パスワードの照合結果をチェックします。パスワードエラーの場合、パスワードエラーの ACK 応答データ 0x11 を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。 上記のチェックを終えて、すべて正常なら、正常 ACK 応答データ 0x10 を送信します。
19	C→T	RAM 格納開始アドレス 31 ~ 24	ブロック転送における格納先の RAM の開始アドレスを送信してください。19 バイト目がアドレスの 31 ビット ~ 24 ビットに対応し、22 バイト目が 7 ビット ~ 0 ビットに対応します。RAM のアドレス 0x2000_0400 から RAM の最終番地の範囲で指定してください。RAM の開始アドレスは偶数アドレスでなければいけません。
20	C→T	RAM 格納開始アドレス 23 ~ 16	
21	C→T	RAM 格納開始アドレス 15 ~ 8	
22	C→T	RAM 格納開始アドレス 7 ~ 0	
23	C→T	RAM 格納バイト数 15 ~ 8	ブロック転送するバイト数を送信してください。23 バイト目が転送バイト数の 15 ビット ~ 8 ビット目に対応し、24 バイト目が 7 ビット ~ 0 ビット目に対応します。RAM のアドレス 0x2000_0400 から RAM の最終番地に収まるように指定してください
24	C→T	RAM 格納バイト数 7 ~ 0	
25	C→T	19 ~ 24 バイト目の CHECK SUM 値	19 バイト目から 24 バイト目の CHECK SUM 値を送信してください。
26	C←T	CHECK SUM 値に対する ACK 応答 正常の場合: 0x10 異常の場合: 0x11 通信異常の場合: 0x18	最初に、19 バイト目 ~ 25 バイト目の受信データに受信エラーがあるかどうかをチェックします(UART モードのみ)。受信エラーがある場合、通信異常の ACK 応答データ 0x18 を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。 次に、25 バイト目の CHECK SUM データをチェックします。エラーの場合、0x11 を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。 上記のチェックを終えてすべて正常なら、正常 ACK 応答データ 0x10 を送信します。
27~m	C→T	RAM 格納データ	RAM に格納するデータを、23 バイト目から 24 バイト目に指定されたバイト数分送信してください。
m+1	C→T	27 ~ m バイト値の CHECK SUM 値	27 バイト目 ~ m バイト目の CHECK SUM 値を送信してください。
m+2	C←T	CHECK SUM 値に対する ACK 応答 正常の場合:0x10 異常の場合: 0x11 通信異常の場合: 0x18	最初に 27 バイト目 ~ m + 1 バイト目の受信データに受信エラーがあるかどうかをチェックします(UART モードのみ)。受信エラーがある場合、通信異常の ACK 応答データ 0x18 を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。 次に、m + 1 バイト目の CHECK SUM データをチェックします。エラーの場合、0x11 を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。 上記のチェックを終えてすべて正常なら、正常 ACK 応答データ 0x10 を送信します。
–	–	–	m + 2 バイト目の ACK 応答データが正常 ACK 応答データの場合、19 バイト目 ~ 22 バイト目で指定されたアドレスに分岐します。

23.3.7　フラッシュメモリチップ消去およびプロテクトビット消去の転送フォーマット

フラッシュメモリチップ消去およびプロテクトビット消去コマンドの転送フォーマットを示します。表中の転送方向の表記が示す意味は以下のとおりです。

転送方向「C→T」: コントローラ→TMPM37AFSQG

転送方向「C←T」: コントローラ←TMPM37AFSQG

転送 バイト数	転送 方向	転送データ	内容
1	C→T	シリアル動作モード 、 ボーレート設定	シリアル動作モードを判定するデータを送信します。モード判定の詳細は「23.3.5.1 シリアル動作モード判定」を参照してください。
		[UART モード] 0x86	0x86 を送信してください。UART モードと判定した場合、ボーレートの設定が可能かどうかを判定します。設定が不可能と判断した場合は動作を停止するため、通信が行えなくなります。
2	C←T	シリアル動作モードに対する ACK 応答	2 バイト目の送信データは、1 バイト目のシリアル動作モード設定データに対する ACK 応答データになります。設定が可能と判定した場合、SIO/UART の設定を行います。受信を許可するタイミングは、送信バッファにデータを書き込む前に行っています。
		[UART モード] 正常の場合: 0x86	設定が可能と判定した場合 0x86 を送信し、設定が不可能と判定した場合、動作を停止するため何も送信しません。 コントローラは、1 バイト目のデータの送信が終了した後、タイムアウト時間(5 秒)を設けます。タイムアウト時間内に、データ(0x86)を正常受信できなければ、通信不能と判断してください。
3	C→T	動作コマンドデータ(0x40)	フラッシュメモリチップ消去およびプロテクトビット消去コマンドデータ(0x40)を送信してください。
4	C←T	動作コマンドに対する ACK 応答 正常の場合: 0x40 異常の場合: 0xX1 通信異常の場合: 0xX8	動作コマンドデータに対する ACK 応答データになります。 最初に、3 バイト目の受信データに受信エラーがあるかをチェックします(UART モードのみ)。受信エラーがある場合、通信異常の ACK 応答データ 0xX8 を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。送信データの上位 4 ビットは、不定値になります。(直前の動作コマンドデータの上位 4 ビットになります)。 次に、3 バイト目の受信データが、表 23-12 の動作コマンドデータのいずれかに該当する場合は、受信データをエコーバック送信します。フラッシュメモリチップ消去およびプロテクトビット消去の場合、0x40 をエコーバック送信します。 該当しない場合は、動作コマンドエラーの ACK 応答データ 0xX1 を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。送信データの上位 4 ビットは、不定値になります。(直前の動作コマンドデータの上位 4 ビットになります。
5~16	C→T	パスワードデータ(12 バイト)	パスワード要否選択が「否」の場合、ダミーデータです。 パスワード要否選択が「要」の場合、パスワードエリアのデータをチェックします。パスワードエリアのデータのチェック方法は「23.3.5.3 パスワード判定」を参照してください。 5 バイト目の受信データから順に、フラッシュメモリの 0x3F80_FFF4~ 0x3F80_FFFF のデータと照合します。一致していない場合、パスワードエラーフラグをセットします。
17	C→T	5 ~ 16 バイト目の CHECK SUM 値	5 バイト目から 16 バイト目の CHECK SUM 値を送信してください。 CHECK SUM の計算方法は「23.3.5.4 CHECK SUM の計算方法」を参照してください

転送 バイト数	転送 方向	転送データ	内容
18	C←T	CHECK SUM 値に対する ACK 応答 正常の場合: 0x40 異常の場合: 0x41 通信異常の場合: 0x48	パスワード要否選択が「否」の場合、正常 ACK 応答データ 0x40 を送信します。 パスワード要否選択が「要」の場合、最初に 5 バイト目 ~ 17 バイト目の受信データに受信エラーがあるかをチェックします(UART モードのみ)。受信エラーがある場合、通信異常の ACK 応答データ 0x48 を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。 次に、17 バイト目の CHECK SUM データをチェックします。エラーの場合、 0x41 を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。 最後に、パスワードの照合結果をチェックします。パスワードエラーの場合、パスワードエラーの ACK 応答データ 0x41 を送信して、次の動作コマンド(3 バイト目)データ待ちになります。 上記のチェックを終えて、すべて正常なら、正常 ACK 応答データ 0x40 を送信します。
19	C→T	消去イネーブルコマンドデータ(0x54)	消去イネーブルコマンドデータ(0x54)を送信してください。
20	C←T	消去イネーブルコマンドに対する ACK 応答 正常の場合: 0x54 異常の場合: 0xX1 通信異常の場合: 0x58	最初に、19 バイト目の受信データに受信エラーがあるかどうかをチェックします。受信エラーがある場合、通信異常の ACK 応答データ (bit 3) 0x58 を送信して、次の動作コマンド (3 バイト目) データ待ちになります。 次に、19 バイト目の受信データが、消去イネーブルコマンドに該当する場合は、受信データをエコーバック送信 (正常 ACK 応答データ) します。この場合、0x54 をエコーバック送信して、フラッシュメモリチップ消去処理ルーチンに分岐します。 該当しない場合は、動作コマンドエラーの ACK 応答データ (bit 0) 0xX1 を送信して、次の動作コマンド (3 バイト目) データ待ちになります。送信データの上位 4 ビットは不定値になります(直前の動作コマンドデータの上位 4 ビットになります)。
21	C→T	消去コマンドに対する ACK 応答(注 1) 正常の場合: 0x4F 異常の場合: 0x4C	正常に終了した時は、終了コード(0x4F)を返します。 消去 Error が起きた場合は、エラーコード(0x4C)を返します。
–	–	–	次の動作コマンドデータ待ち状態になります。

注 1) 消去コマンドが正常に行われた場合でも、ACK 応答で異常を返す場合があります。FCSR<RDY/BSY>でコマンド終了を確認した後、200μs 以上待って消去の再確認を行って下さい。

23.3.8　ブートプログラム全体フローチャート

ブートプログラム全体フローチャートを示します。

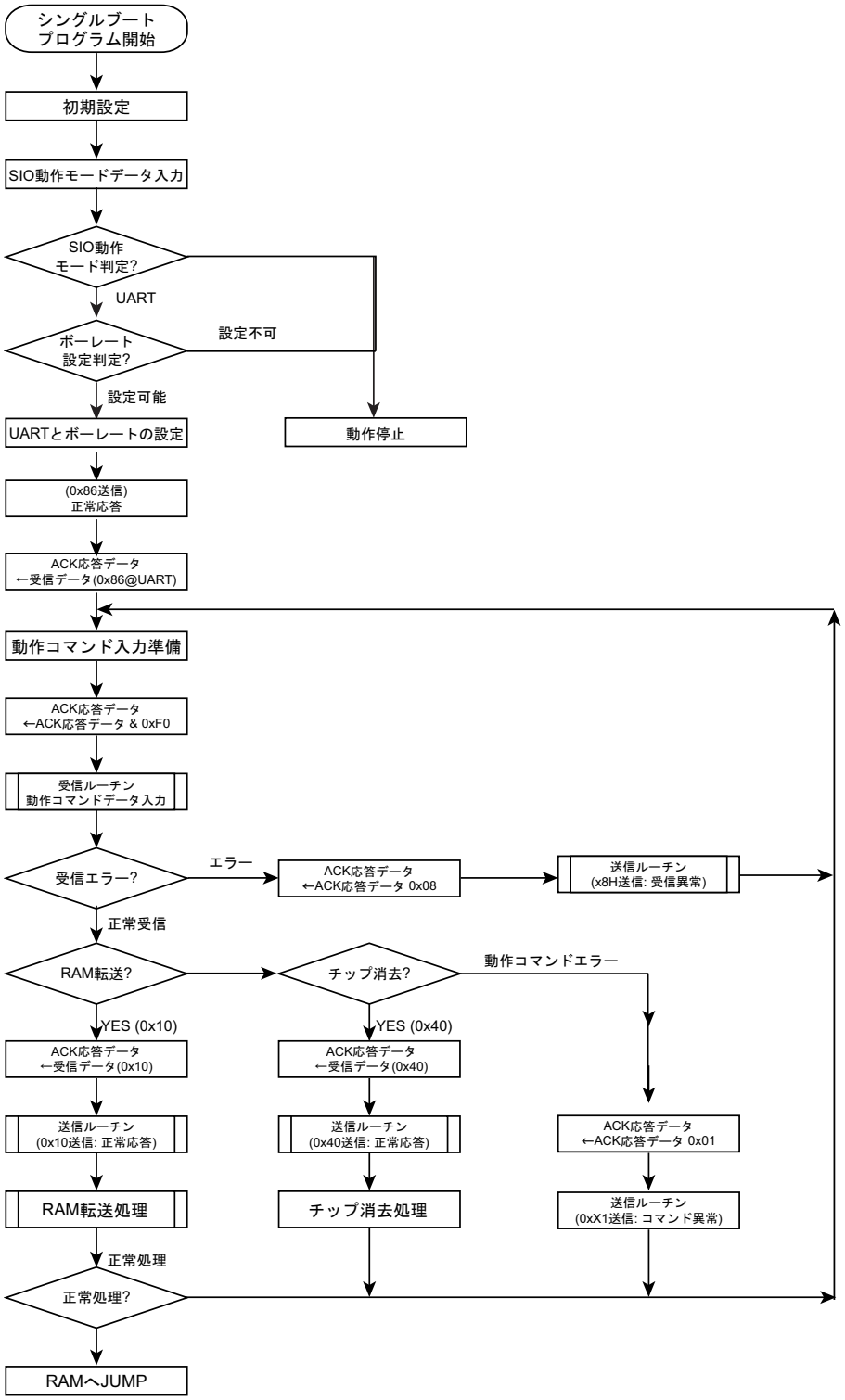


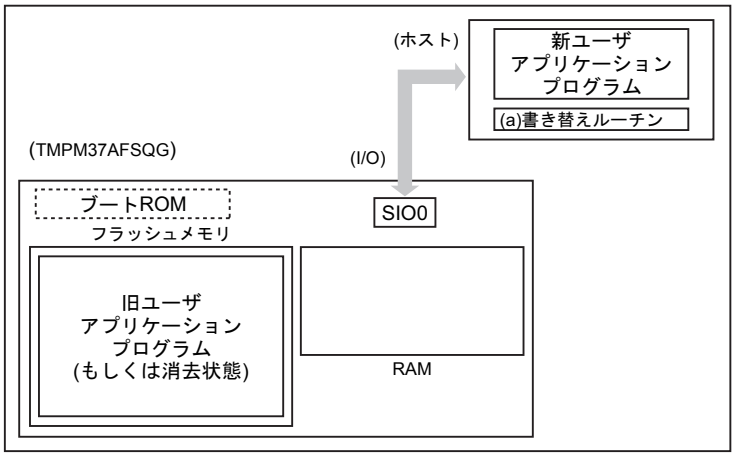
図 23-11 ブートプログラム全体フローチャート

23.3.9 内蔵 BOOT ROM の書き替えアルゴリズムを利用した書き替え手順

内蔵ブートプログラムを利用した書き替え手順を示します。

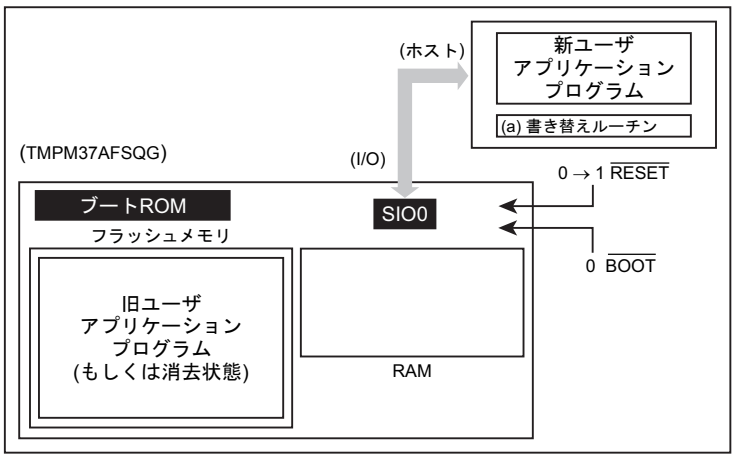
23.3.9.1 Step-1

フラッシュメモリの状態は旧バージョンのユーザプログラムが書かれた状態でも、消去されている状態でも構いません。書き替えルーチン、書き替えデータなどの転送は SIO (SIO0)を経由して行いますので、ボード上で本デバイスの SIO (SIO0)と外部ホストとをつなげます。書き替えを行うための(a)書き替えルーチンはホスト上に用意します。



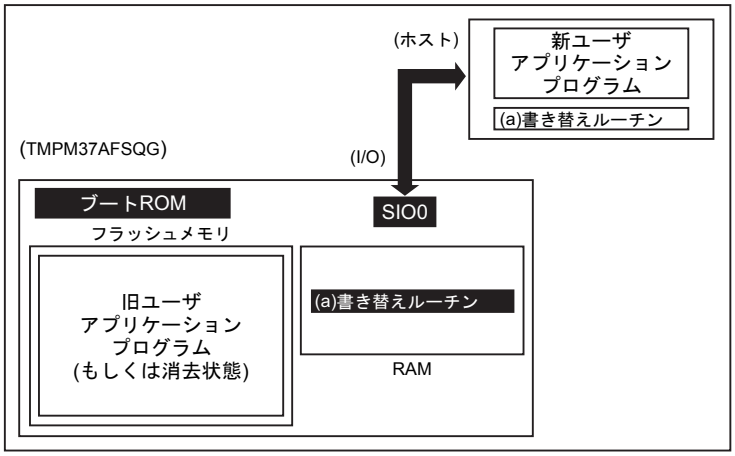
23.3.9.2 Step-2

シングルブートモードの端子条件設定でリセットを解除し、BOOT ROM で起動します。シングルブートモードの手順に従い、SIO0 を経由して転送元(ホスト)より(a)書き替えルーチンの転送を行いますが、最初にユーザアプリケーションプログラム上に記録されているパスワードとの照合を行います。(フラッシュメモリが消去されている状態でも、消去データ(0xFF)をパスワードとして照合を行います。)



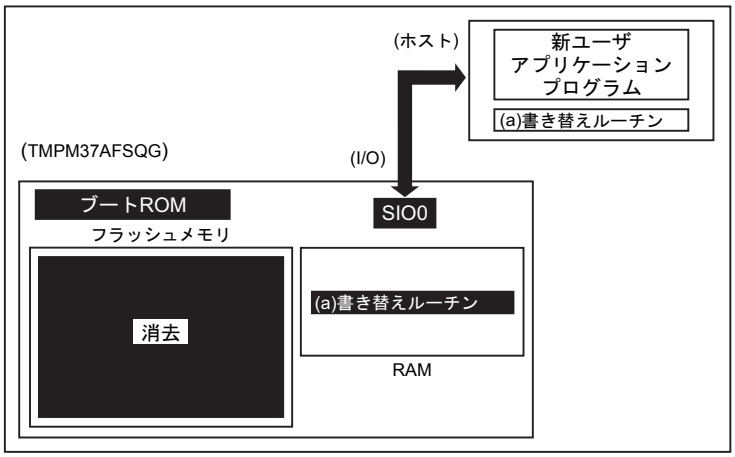
23.3.9.3　Step-3

パスワードの照合が終了すると、転送元(ホスト)から(a)書き替えルーチンを転送します。BOOT ROM はそのルーチンを内部 RAM にロードします。ただし、RAM 上のアドレス 0x2000_0400 から RAM の最終番地の範囲に格納してください。



23.3.9.4　Step-4

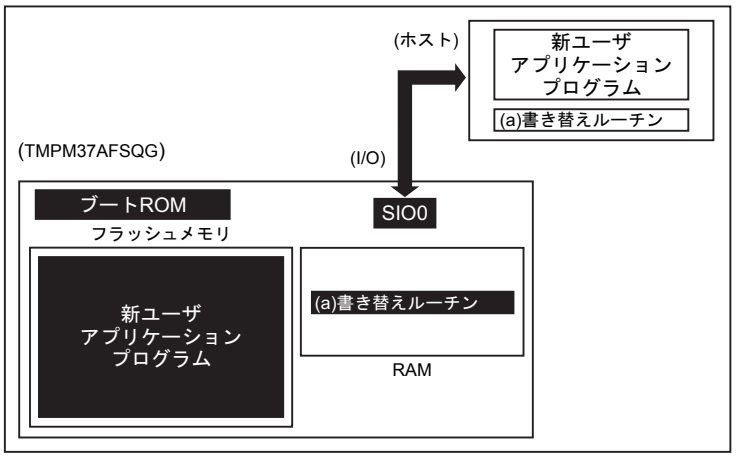
RAM 上の(a)書き替えルーチンへジャンプし、旧ユーザアプリケーションプログラムエリアの消去を行います。(ブロック単位もしくは一括)



23.3.9.5 Step-5

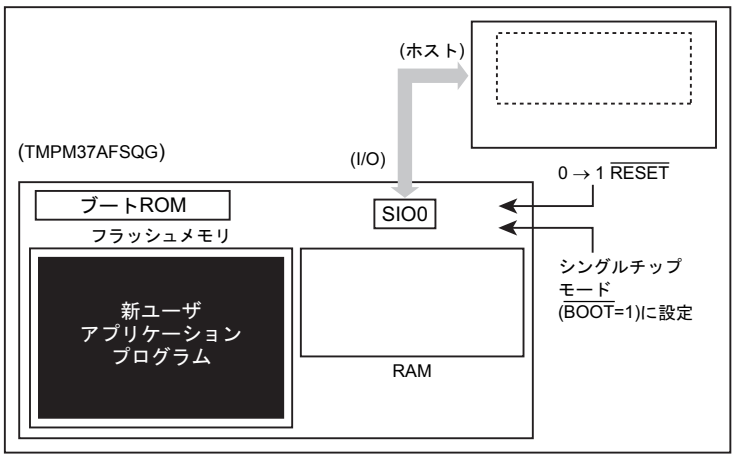
さらに、RAM 上の(a)書き替えルーチンを実行して、転送元(ホスト)より新ユーザアプリケーションプログラムのデータをロードし、フラッシュメモリの消去したエリアに書き込みを行います。書き込みが完了したら、ユーザプログラムエリアのライト/消去プロテクトをオンにします。

下の例の場合、書き替えルーチンを転送したときと同じホストおよび SIO0 経由で書き替えデータも転送されていますが、RAM 上で動作を開始した以降では、ユーザ独自にデータバスおよび転送元を設定することもできます。方法に応じて、ボードのハードおよび書き替えルーチンを組み立ててください。



23.3.9.6 Step-6

書き込みが完了したら、一度ボードの電源を落とし、ホストと接続していたケーブルをはずします。この後、再度電源を入れ直し、シングルチップモード (ノーマルモード) 起動し、新しいユーザアプリケーションプログラムを実行します。



23.4　ユーザブートモードによる書き替え方法

ユーザブートモードは、ユーザ独自のフラッシュメモリ書き替えルーチンを使う方法です。ユーザアプリケーション上で用意されているフラッシュメモリ書き替え用のプログラムで用いるデータ転送バスが、シリアル I/O と異なる場合に使用します。 動作はシングルチップモード上で行います。このため、シングルチップモードにおいて通常のユーザアプリケーションプログラムが動作しているノーマルモードから、フラッシュを書き替えるためのユーザブートモードに移行する必要があります。従って、条件判定を行うプログラムをユーザアプリケーションの中で、リセット処理プログラムの中に組み込んでください。

このモード切り替えの条件設定は、ユーザのシステムセット条件 に合わせて独自に構築してください。また、ユーザブートモード移行後に使用するユーザ独自のフラッシュメモリ書き替えルーチンも同様にユーザアプリケーションの中にあらかじめ組み込んでおき、ユーザブートモード移行後にこれらのルーチンを使用して書き替えを行ってください。なお、フラッシュメモリは消去/書き込み動作モード中はフラッシュのデータを読み出せません。このため、書き替えルーチンはフラッシュメモリエリア外に格納して実行させる必要があります。また、シングルチップモード（通常動作モード）中に誤ってフラッシュの内容を書き替えないよう、書き替え処理が完了した後、必要なブロックにライト/消去プロテクトをかけておくことを推奨します。ユーザブートモードでも、リセットを除く割り込み/フォールトは、処理が正しく終了しない可能性があるため発生させないようにしてください。

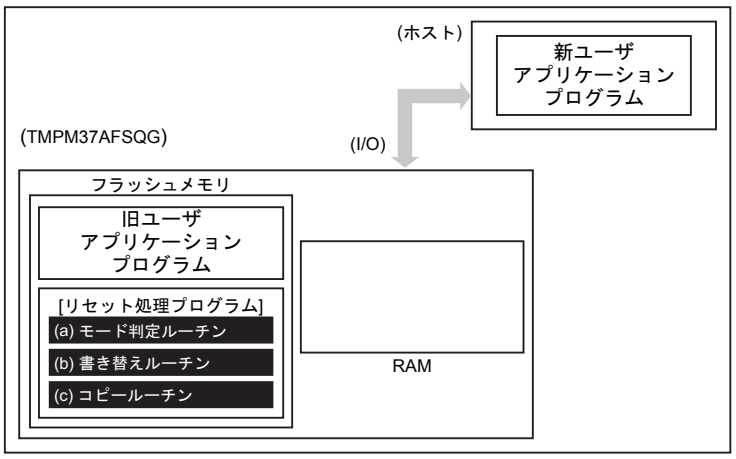
書き替えルーチンをフラッシュメモリに置く場合と、外部から転送する場合の 2 ケースを例に、以下(1-A), (1-B)にその手順を説明します。フラッシュメモリへの書き込み/消去 方法の詳細は、「23.2 フラッシュメモリ詳細」を参照してください。

23.4.1　(1-A)書き替えルーチンをフラッシュメモリに内蔵する場合の手順例

23.4.1.1　Step-1

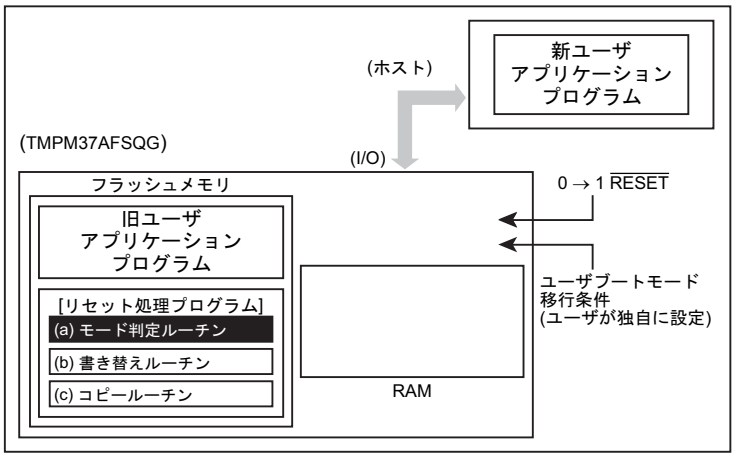
ユーザは、あらかじめ どのような条件 (例えば端子状態) に設定されたらユーザブートモードに移行するか、どの I/O バスを使用してデータ転送を行うかを決め、それに合った回路の設計、プログラムの作成を行います。ユーザは本デバイスをボードに組み込む前に、あらかじめフラッシュメモリ上の任意のブロックにライタなどを使用して以下に示す 3 つのプログラムを書き込んでおきます。

(a) モード判定ルーチン:	書き替え動作に移るためのプログラム
(b) フラッシュ書き替えルーチン:	書き替えデータを外部から取り込み、フラッシュメモリを書き替えるためのプログラム
(c) コピールーチン:	上記(b)を内蔵 RAM または外部メモリにコピーするためのプログラム



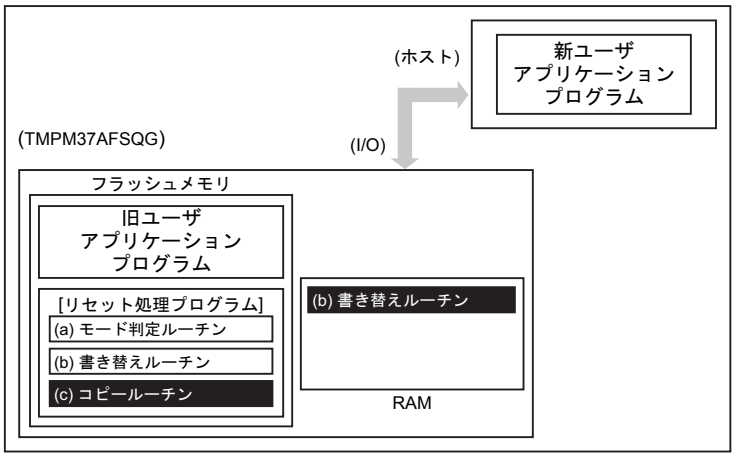
23.4.1.2 Step-2

以下リセット処理プログラム内にこれらのルーチンを組み込んだ場合について説明します。まず、リセット処理プログラムにおいてユーザブートモードへの移行を判定します。このとき、移行条件が整っていれば、プログラムは書き替えのためのユーザブートモードに移ります。



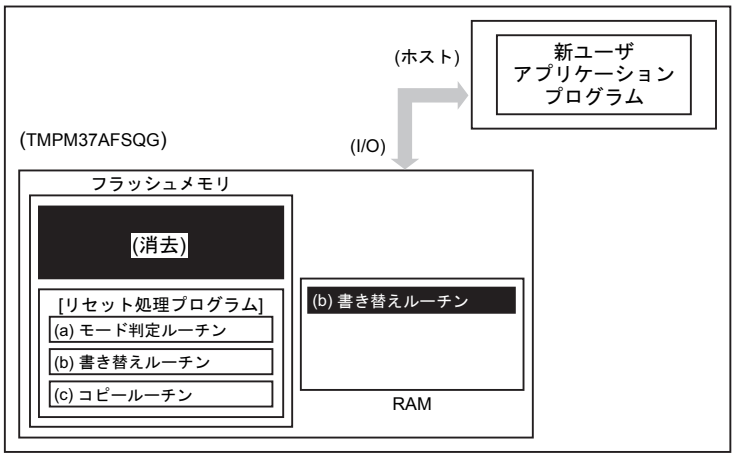
23.4.1.3 Step-3

ユーザブートモードに移ると、(c)コピールーチンを使用して、(b)書き替えルーチンを内蔵 RAM にコピーします。



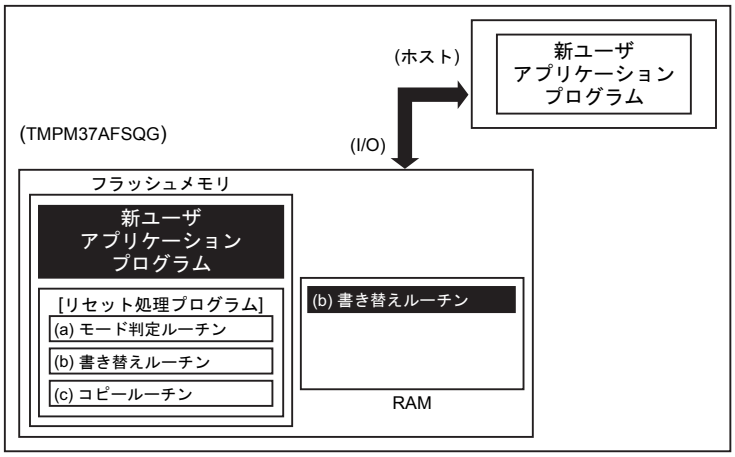
23.4.1.4　Step-4

RAM 上の書き替えルーチンへジャンプし、旧ユーザプログラムエリアのライト/消去プロテクトを解除して、消去(ブロック単位)を行います。



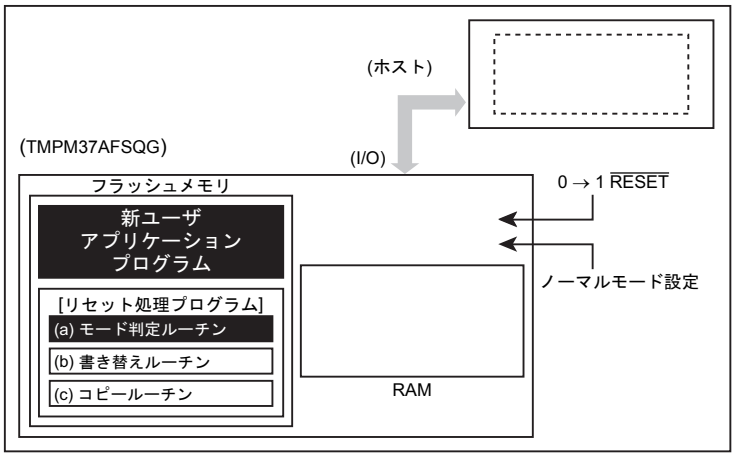
23.4.1.5　Step-5

さらに、RAM 上の書き替えルーチンを実行して、転送元 (ホスト) より新ユーザアプリケーションプログラムのデータをロードし、フラッシュメモリの消去したエリアに書き込みを行います。書き込みが完了したら、ユーザプログラムエリアのライト/消去プロテクトをオンにします。



23.4.1.6 Step-6

$\overline{\text{RESET}}$ 入力端子を"0"にしてリセットを行い、設定条件をノーマルモードの設定にします。リセット解除後、新ユーザアプリケーションプログラムで動作を開始します。



23.4.2　(1-B)書き替えルーチンを外部から転送する手順例

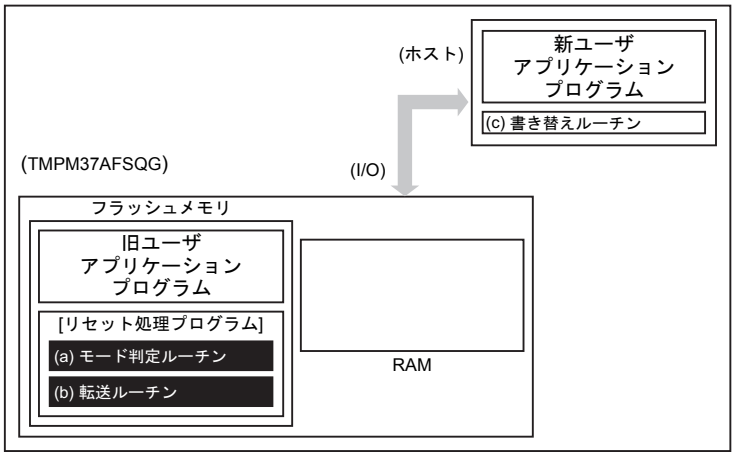
23.4.2.1　Step-1

ユーザは、あらかじめ どのような条件(例えば端子状態)に設定されたらユーザブートモードに移行するか、どの I/O バスを使用してデータ転送を行うかを決め、それに合った回路の設計、プログラムの作成を行います。ユーザは本デバイスをボードに組み込む前に、あらかじめフラッシュメモリ上の任意のブロックにライタなどを使用して以下に示す 2 つのプログラムを書き込んでおきます。

(a) モード判定ルーチン:　　書き替え動作に移るためのプログラム
(b) 転送ルーチン:　　書き替えプログラムを外部から取り込むためのプログラム

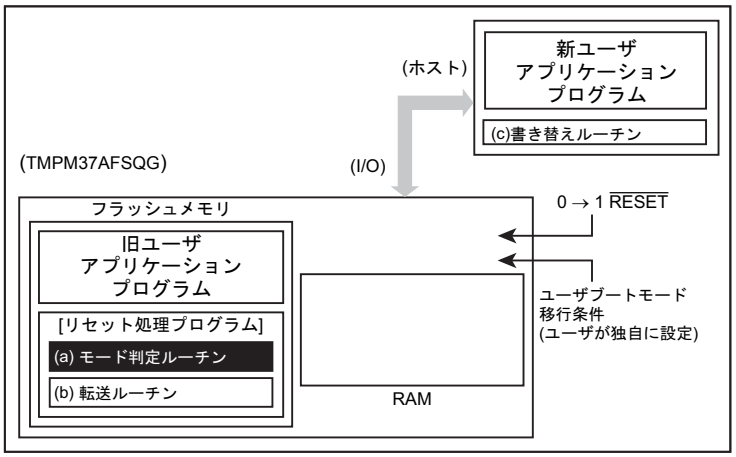
また、下記に示すプログラムはホスト上に用意します。

(c) 書き替えルーチン:　　書き替えを行うためのプログラム



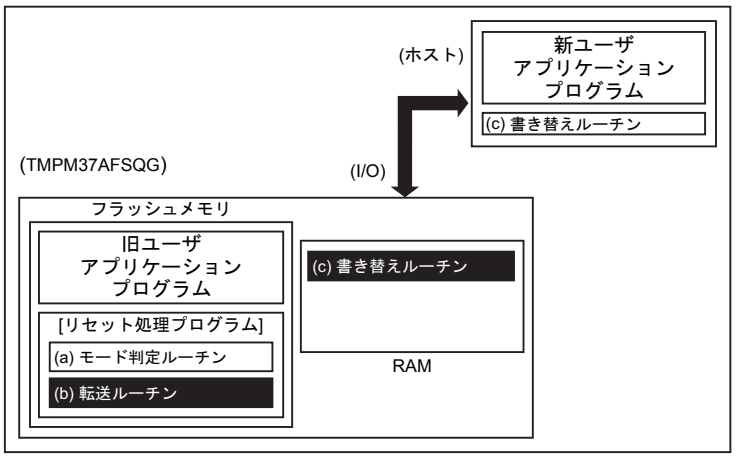
23.4.2.2 Step-2

以下、リセット処理プログラム内にこれらのルーチンを組み込んだ場合について説明します。まず、リセット解除後のリセット処理プログラムにおいてユーザブートモードへの移行を判定します。このとき、移行条件が整っていれば、プログラムは書き替えのためのユーザブートモードに移ります。



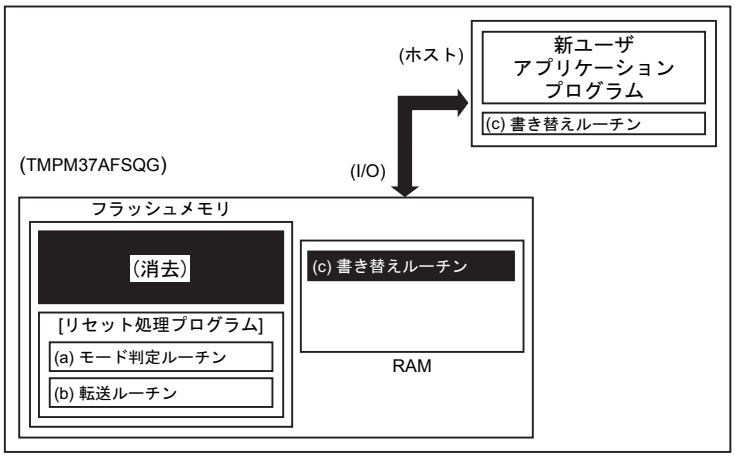
23.4.2.3 Step-3

ユーザブートモードに移ると、(b)転送ルーチンを使用して、転送元(ホスト)より(c)書き替えルーチンを内蔵 RAM にロードします。



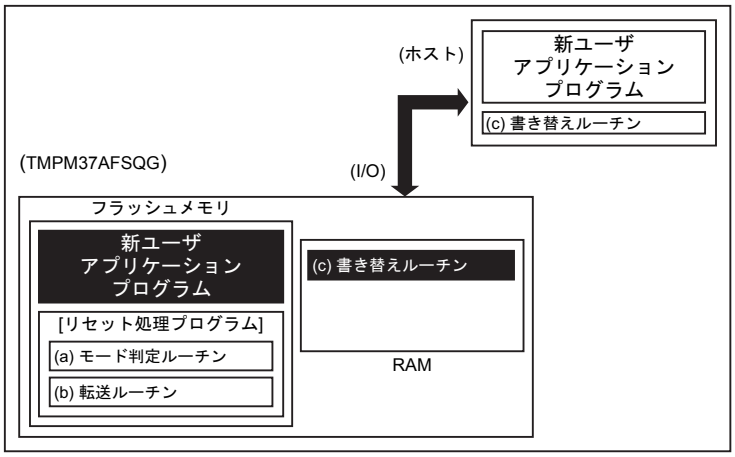
23.4.2.4　Step-4

RAM 上の書き替えルーチンへジャンプし、旧ユーザプログラムエリアのライト/消去プロテクトを解除して、消去(ブロック単位)を行います。



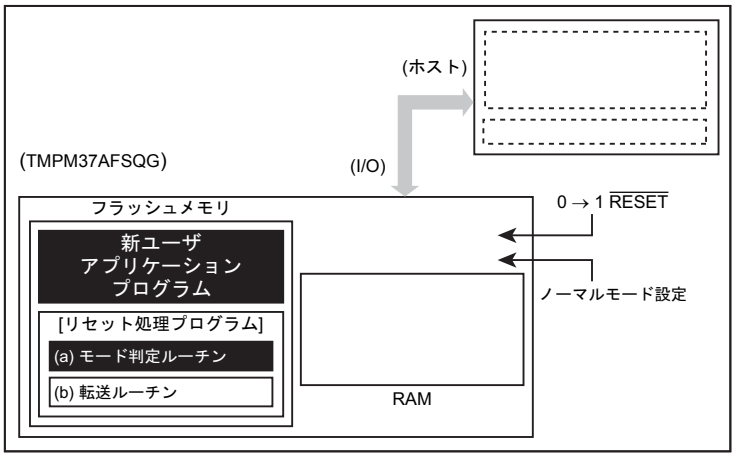
23.4.2.5　Step-5

さらに、RAM 上の(c)書き替えルーチンを実行して、転送元(ホスト)より新ユーザアプリケーションプログラムのデータをロードし、消去したエリアに書き込みを行います。書き込みが完了したら、ユーザプログラムエリアのライト/消去プロテクトをオンにします。



23.4.2.6 Step-6

$\overline{\text{RESET}}$ 入力端子を"0"にしてリセットを行い、設定条件をノーマルモードに設定します。リセット解除後、新ユーザアプリケーションプログラムで動作を開始します。



第 24 章　デバッグインタフェース

24.1　仕様概要

TMPM37AFSQG は、デバッグツールと接続するためのデバッグインタフェースとして SWJ-DP(Serial Wire JTAG Debug Port)ユニットを搭載しています。SWJ-DP の詳細に関しましては ARM 社からリリースされる”ARM ドキュメンテーションセット Cortex-M3 用”を参照してください。

24.2　SWJ-DP の特長

シリアルワイヤデバッグポート(SWCLK,SWDIO)をサポートしています。

24.3　端子情報

デバッグインタフェース端子は汎用ポートと兼用しています。

表 24-1 SWJ-DP デバッグ機能

SWJ-DP 端子名	汎用ポート名	SW デバッグ機能	
		I/O	説明
SWDIO	PB3	入出力	Serial Wire Data Input/Output
SWCLK	PB4	入力	Serial Wire Clock

リセット解除後、PB3/PB4 はデバッグインタフェース端子となりますが、その他のデバッグインタフェース端子は汎用ポート設定です。必要に応じてデバッグインタフェースを使用する設定をおこなってください。また、使用しないデバッグインタフェース端子は汎用ポートとして使用可能です。

表 24-2 にデバッグインタフェースの端子情報とリセット解除後のポート設定を示します。

表 24-2 デバッグインタフェース/汎用ポート兼用端子のリセット解除後設定値

初期設定	ポート (ビット名)	デバッグ機能	ポート制御レジスタの設定値					
			機能 (PBFR)	入力 (PBIE)	出力 (PBCR)	オープンドレイン (PBOD)	プルアップ (PBPUP)	プルダウン (PBPDN)
デバッグ	PB3	SWDIO	1	1	1	0	1	0
デバッグ	PB4	SWCLK	1	1	0	0	0	1

低消費電力モードを使用する場合には、以下の注意事項に留意してください。

注 1)　PB3 がデバッグインタフェース設定の場合、CGSTBYCR<DRVE>の設定によらず、STOP モード中も出力が有効な状態で保持されます。

注 2)　PB4 がデバッグインタフェース設定の場合、STOP モードで十分な低消費電力効果が得られません。デバッグインタフェースとして使用しない場合は、PB4 をポート設定にしてください。

24.4 デバッグツールとの接続

24.4.1 接続方法

デバッグツールとの接続方法については、お使いになるツールメーカーが推奨する接続方法を参照してください。また、デバッグインタフェース端子はプルアップ/プルダウン抵抗を内蔵していますので、外部にプルアップ/プルダウン抵抗を接続する場合には注意してください。

24.4.2 デバッグインタフェース端子を汎用ポートとして使用する場合

デバッグ時に、リセット解除後ユーザプログラムでデバッグインタフェース端子を汎用ポートに設定すると、それ以降はデバッグツールからの制御が受け付けられず、デバッグツールを使用してデバッグできなくなる場合があります。デバッグインタフェース端子の使用状況に合わせて、設定を変える場合は注意してください。

表 24-3 デバッグインタフェース端子の使用例

デバッグインタフェースの組み合わせ(例)	使用するデバッグインタフェース端子	
	SWCLK	SWDIO
SW	○	○

注 1) ○;イネーブル、×;ディセーブル(汎用ポートとして使用)

24.5 ホールトモード中の周辺機能（プログラム実行の一時停止時）

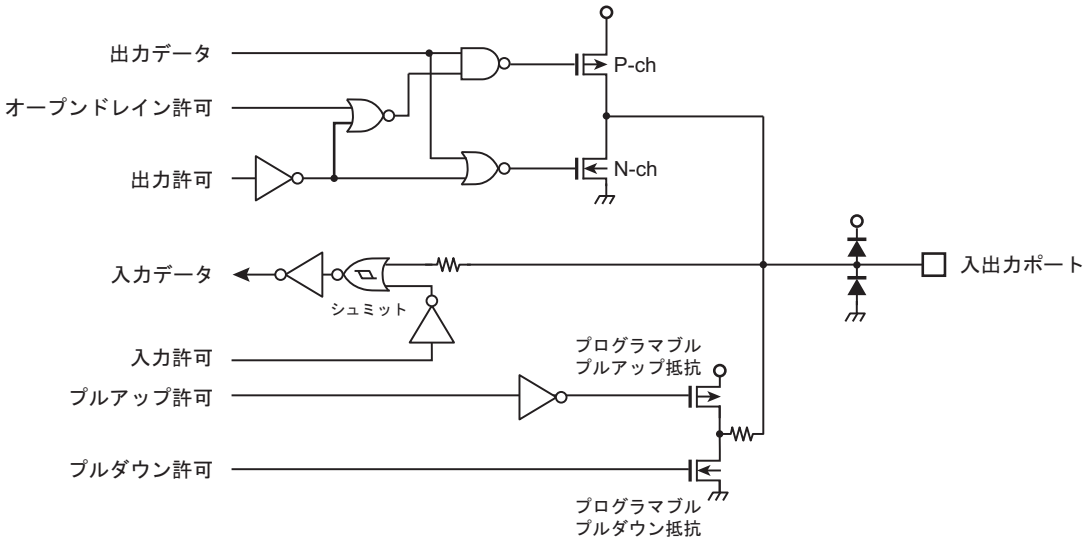
Cortex-M3 コアがホールトモードに入ると、ウォッチドッグタイマ(WDT)のカウントが自動的に停止します。また、16 ビットタイマ(TMRB)はホールトモード時に動作するかどうか指定することができます。その他の周辺機能は動作を続けます。

第 25 章　ポート部等価回路図

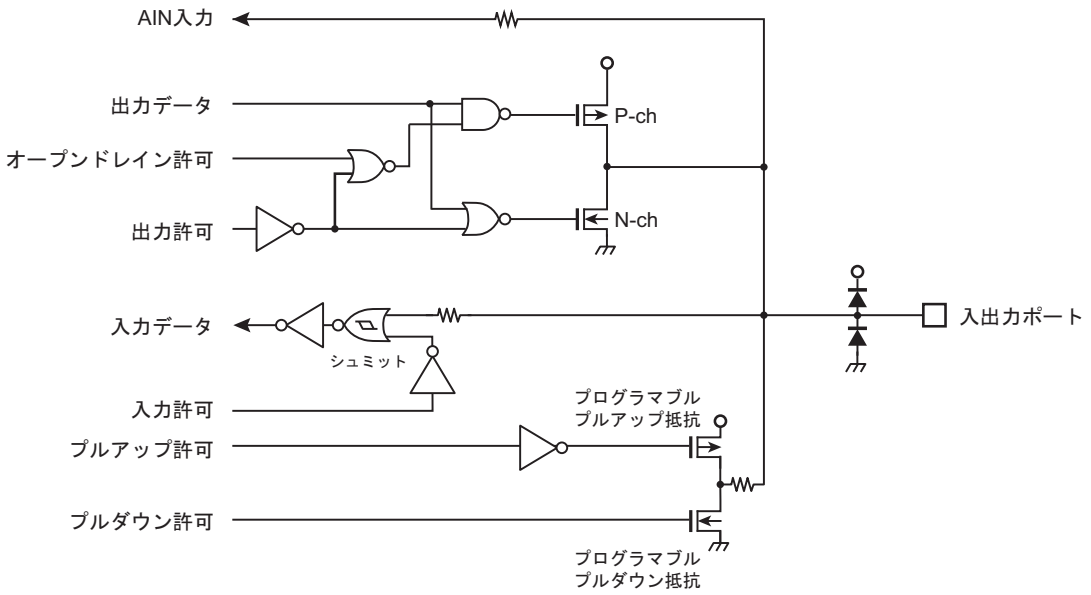
基本的に標準 CMOS ロジック IC「74HCxx」シリーズと同じゲート記号を使って書かれています。

入力保護抵抗は、数十 Ω～数百 Ω 程度です。X2 のダンピング抵抗値は、図中に typ.値を記入しています。

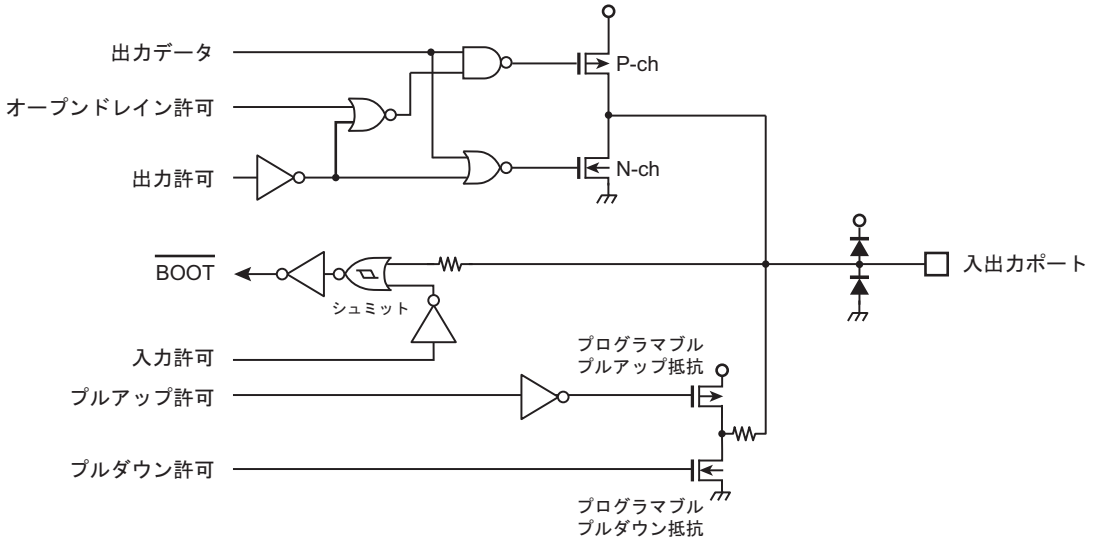
25.1　PB3~4, PE0~2



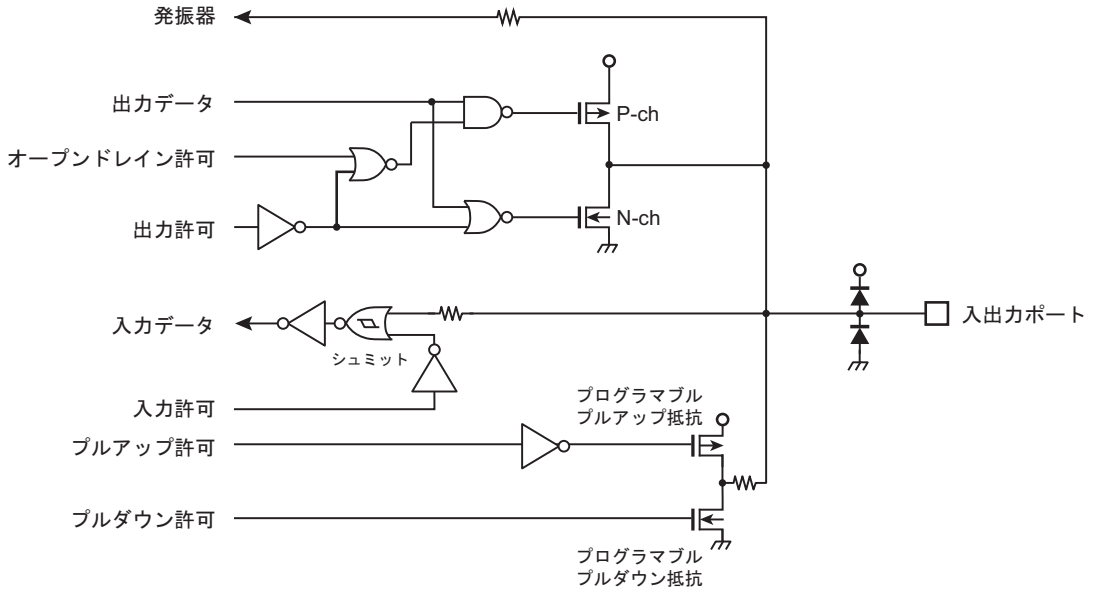
25.2　PJ5~7, PK0~1



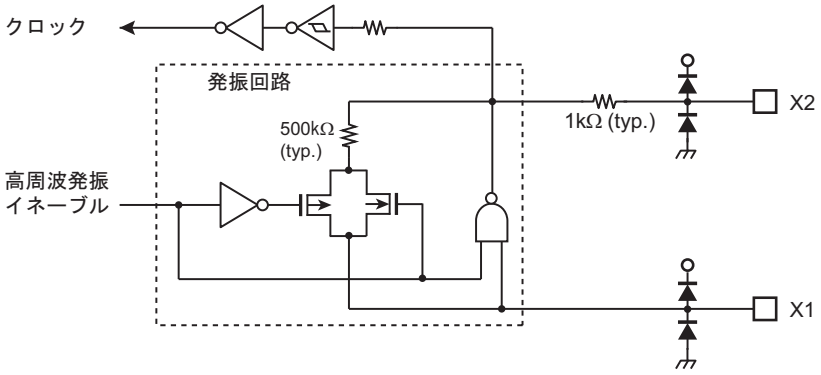
25.3　PF0



25.4　PM0~1



25.5 X1, X2

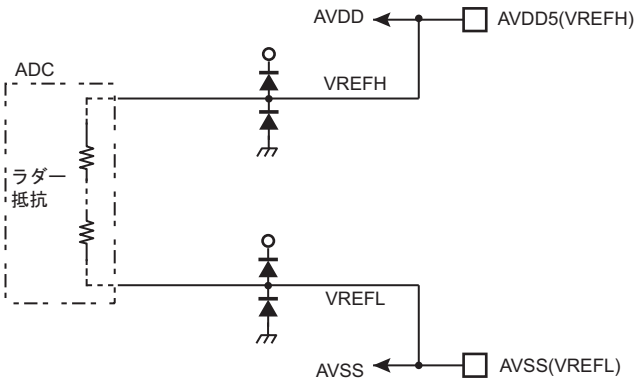


25.6 $\overline{\text{RESET}}$

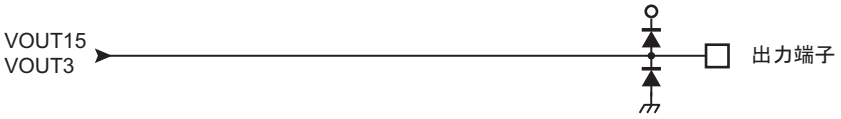
25.7 MODE

(注)本端子は必ずGNDへ接続してください。

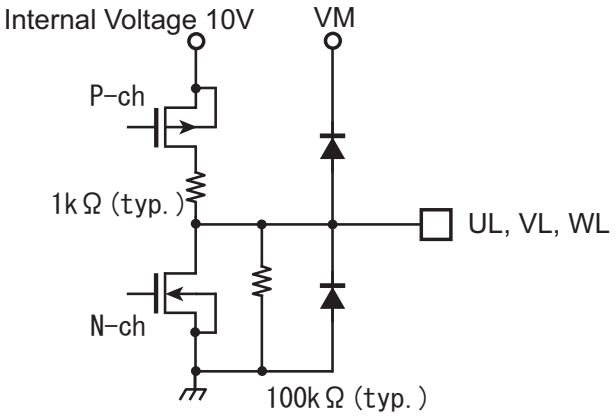
25.8 VREFH, VREFL



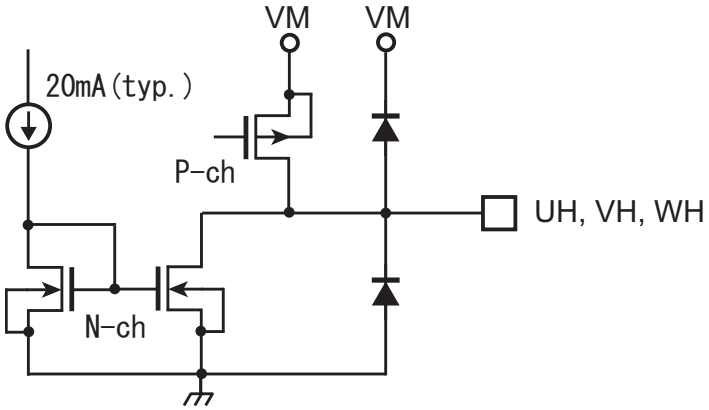
25.9　VOUT15, VOUT3



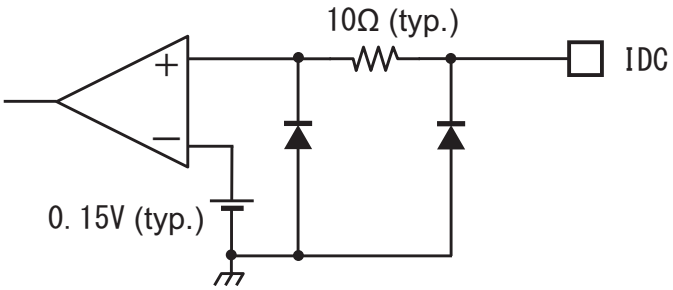
25.10　UL, VL, WL



25.11　UH, VH, WH



25.12 IDC



25.13 VREG

第 26 章　電気的特性

26.1　絶対最大定格

項目		記号	定格	単位
電源電圧		DVDD5 / AVDD5 / AMPVDD5	−0.3 ~ 6	V
		VM	40	
電圧保持用キャパシタ端子電圧		VOUT15	−0.3 ~ 3	V
		VOUT3	−0.3 ~ 3.9	
入力電圧		V_{IN}	−0.3 ~ VDD + 0.3 (注 2)	V
出力電圧	UH,VH,WH	V_{OUT}	40	V
	UL,VL,WL		15	
出力電流	UH,VH,WH	I_{OUT}	30	mA
	UL,VL,WL		−30	
低レベル出力電流	1 端子	I_{OL}	5	mA
	合計	ΣI_{OL}	50	
高レベル出力電流	1 端子	I_{OH}	−5	
	合計	ΣI_{OH}	-50	
消費電力		PD	350	mW
はんだ付け温度(10 s)		T_{SOLDER}	260	°C
保存温度		T_{STG}	−55 ~ 125	°C
動作温度	Flash W/E 時を除く	T_{OPR}	−40 ~ 85	°C
	Flash W/E 時		0 ~ 70	

注) **絶対最大定格とは、瞬時たりとも超えてはならない規格であり、どの 1 つの項目も超えることができない規格です。絶対最大定格(電流, 電圧, 消費電力, 温度)を超えると破壊や劣化の原因となり、破裂・燃焼による障害を負うことがあります。従って必ず絶対最大定格を超えないように、応用機器の設計を行ってください。**

注) **VDD = DVDD5 / AVDD5 / AMPVDD5**

26.2　DC 電気的特性 (1/2)

DVSS = AVSS = 0V, Ta = −40 ~ 85 °C

項目		記号	条件		Min	Typ. (注 1)	Max	単位
電源電圧 (注 2)	DVDD5 AVDD5 AMPVDD5	VDD	f_{OSC} = 8, 10 MHz fsys = 1 ~ 40 MHz		4.5	−	5.5	V
電源電圧 (FLASH W/E 時) (注 2)	DVDD5 AVDD5 AMPVDD5	VDD	f_{OSC} = 8, 10 MHz fsys = 1 ~ 40 MHz (Ta (°C) = 0 ~ 70)		4.5	−	5.5	V
電源電圧 (電源上昇、下降時) (注 5)	DVDD5 AVDD5 AMPVDD5	VDD	f_{OSC} = 8, 10 MHz fsys = 1 ~ 40 MHz		3.9	−	5.5	V
低レベル入力電圧	シュミット入力	V_{IL1}	VDD = 4.5V ~ 5.5V (注 4)		−0.3	−	0.25 VDD	V
高レベル入力電圧	シュミット入力	V_{IH1}	VDD = 4.5V ~ 5.5V (注 4)		0.75VDD		VDD+0.3	V
電圧保持用キャパシタ容量(注 3)		C_{out}	VOUT15, VOUT3		3.3	−	4.7	μF
低レベル出力電圧		V_{OL}	I_{OL} = 1.6 mA	VDD ≥ 4.5V (注 4)	−	−	0.4	V
高レベル出力電圧		V_{OH}	I_{OH} = −1.6 mA	VDD ≥ 4.5V (注 4)	4.1	−	−	V
入力リーク電流		I_{LI1}	0.0 ≤ V_{IN} ≤ VDD (注 4)		−	0.02	±5	μA
出力リーク電流		I_{LO}	0.2 ≤ V_{IN} ≤ VDD −0.2 (注 4)		−	0.05	±10	
リセットプルアップ抵抗		R_{RST}	4.5 ≤ VDD ≤ 5.5 (注 4)		−	50	150	kΩ
プログラマブルプルアップ/ダウン抵抗		P_{KH}	4.5 ≤ VDD ≤ 5.5 (注 4)		−	50	150	kΩ
シュミット入力幅		VTH1	4.5 ≤ VDD ≤ 5.5 (注 4)		0.3	0.6	−	V
Pin 容量 (電源端子を除く)	デジタル端子	C_{IO1}	fc = 1 MHz		−	−	10	pF
	アナログ兼用端子 PJ5−7, PK0, PK1	C_{IO2}			−	−	30	

注 1)　Typ 値は特に指定のない限り Ta = 25 °C, DVDD5 = AVDD5 = 5V の値です。

注 2)　DVDD5、AVDD5 は同電位で使用してください。

注 3)　VOUT15 端子と VOUT3 端子は同値の保持用キャパシタを介して GND に接続してください。VOUT15 端子と VOUT3 端子から IC 外部への電源供給はできません。

注 4)　VDD = DVDD5 = AVDD5

注 5)　電源上昇時(パワーオン時)と電圧検出回路(VLTD)イネーブルでの電源電圧下降時における電圧範囲となります。なお、3.9V ≤ VDD < 4.5V の範囲では 12 ビット AD コンバータ変換特性および AC 電気的特性は保証外となります。

26.3　DC 電気的特性 (2/2)

DVDD5 = AVDD5 = 4.5 V ~ 5.5 V, Ta = −40 ~ 85 °C

項目	記号	条件	Min	Typ. (注 1)	Max	単位
NORMAL (注 2) ギア比 1/1	I_{DD}	fsys = 40 MHz	−	20	35	mA
IDLE (注 3) ギア比 1/1			−	4	11	
STOP		−	−	0.2	2	

注 1)　Typ 値は特に指定のない限り Ta = 25 °C, DVDD5 = AVDD5 = 5V の値です。

注 2)　I_{DD} NORMAL の測定条件: AD コンバータ／オペアンプを除く内蔵周辺機能はすべて動作

注 3)　I_{DD} IDLE の測定条件: 内蔵周辺機能はすべて停止

26.4 12 ビット AD コンバータ変換特性

DVDD5 = AVDD5 / VREFH = 4.5 V ~ 5.5 V
DVSS = AVSS / VREFL = 0V, Ta = −40 ~ 85 °C

項目	記号	条件	Min	Typ.	Max	単位
アナログ基準電圧(+)	VREFH	−	−	AVDD	−	V
アナログ入力電圧	VAIN	−	AVSS	−	AVDD	V
消費電流 AD 変換時	−	IREF を含む	−	8.0	11.0	mA
積分非直線性誤差	−	AIN 負荷抵抗 ≤ 600 Ω AIN 負荷容量 ≥ 0.1 μF 変換時間 ≥ 2 μs	−	−	−6 ~ +10	LSB
微分非直線性誤差			−	−	± 5	
オフセット誤差			−	−	± 5	
フルスケール誤差			−	−	± 6	
総合誤差			−	−	−7 ~ +11	

注) 1LSB = (AVDD − AVSS)/4096 [V]

注) AVDD = AVDD5、AVSS = AVSS

注) AD コンバータのみ動作時の特性です。

26.5 オペアンプ特性

DVDD5 = AVDD5 / VREFH = 4.5 V ~ 5.5 V
DVSS = AVSS / VREFL = 0V, Ta = −40 ~ 85 °C

項目	記号	条件	Min	Typ.	Max	単位
ゲイン(倍率) (注 1)	VGAIN	−	1.5	−	10	倍
アンプ入力電圧範囲	VAMPIN	−	(AVDD×0.1)/ VGAIN	−	(AVDD×0.9)/ VGAIN	V
総合出力誤差	VAMP	−	−6 × VGAIN	−	+6 × VGAIN	mV
スルーレート	Vthr (注 2)	5pF、VGAIN = 2.5 倍時	2	−	−	V /μs
	Vthf		1	−	−	
消費電流:オペアンプ使用時	−	−	−	4	6	mA

注) AVDD = 4.5 ~ 5.5V、AVSS = 0V
注 1) レジスタ設定により、2.5 倍、3 倍、3.5 倍、4 倍、6 倍、8 倍の選択可。
注 2) アンプの出力が AVDD−0.001×AVDD に到達するまでの傾き。

26.6　プリドライバ特性

VM = 12 V
DVDD5 = AVDD5 / VREFH = 4.5 V ~ 5.5 V
DVSS = AVSS / VREFL = 0V, Ta = −40 ~ 85 °C

項目	記号	条件	Min	Typ.	Max	単位
VM 電源電圧	V_{M12}	fsys=1 ~ 40MHz,fosc=8 ~ 10MHz VREG から VINREG5,DVDD5 および AVDD5/VREFH に電源供給	6	12	15	V
	V_{M24}	fsys=1 ~ 40MHz,fosc=8 ~ 10MHz	6	12,24	32	
VM 電源電流	I_{VM12}	V_M=12V, V_{REG}=open,出力 Open	−	2.8	4	mA
	I_{VM24}	V_M=24V, V_{REG}=open,出力 Open	−	2.8	4	
VREG 端子電圧	V_{REG}	I_{VREG}=50mA,、 V_M= 6 ~ 15V	4.5	5	5.5	V
VREG 立ち上がり時間	Tr VREG	C_{VREG}= 4.7μF、I_{VREG}= 50mA	10	−	−	μs
上側出力電流	$I_{OUTP(L)}$	V_{OUTP}=12V	18.4	23	27.6	mA
上側出力リーク電流	$I_{OUTP(H)}$	V_{OUTP}=32V, V_M=32V	−1	−	1	μA
下側出力高レベル電圧	$V_{OUTN(H)}$	I_{OUTN}=1mA, 1kΩ + オン抵抗	9	10	11	V
下側出力低レベル電圧	$VO_{UTN(L)}$	I_{OUTN}=1mA, 50 ~ 100Ω	−	0.05	0.1	V
Idc 端子過電流検出電圧	V_{Idc}	−	135	150	165	mV

26.7 AC 電気的特性

26.7.1 AC 測定条件

本章に記載されている AC 特性は、特に指定のない限り以下の条件での測定結果です。

- 出力レベル: High = 0.8 × VDD、Low = 0.2 × VDD
- 入力レベル: DC 電気的特性の"低レベル入力電圧/高レベル入力電圧"参照
- 負荷容量: CL=30pF

注) VDD = DVDD5 = AVDD5

26.7.2 シリアルチャネル (SIO/UART)

26.7.2.1 I/O インタフェースモード

表中の x は SIO の動作クロックの周期を表します。SIO の動作クロックは、システムクロック fsys と同じ周期です。この周期は、クロックギアの設定に依存します。

(1) SCLK 入力モード

[データ入力]

項目	記号	計算式		40 MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	
SCLK クロック High 幅(入力)	t_{SCH}	4x	−	100	−	ns
SCLK クロック Low 幅(入力)	t_{SCL}	4x	−	100	−	
SCLK 周期	t_{SCY}	8x	−	200	−	
有効 Data 入力 ← SCLK 立ち上がり/立ち下がり (注 1)	t_{SRD}	30	−	30	−	
SCLK 立ち上がり/立ち下がり→ Input Data 保持(注 1)	t_{HSR}	x + 30	−	55	−	

[データ出力]

項目	記号	計算式		40 MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	
SCLK クロック High 幅(入力)	t_{SCH}	4x	−	120 (注 3)	−	ns
SCLK クロック Low 幅(入力)	t_{SCL}	4x	−	120 (注 3)	−	
SCLK 周期	t_{SCY}	8x	−	240	−	
Output Data ← SCLK 立ち上がり/立ち下がり(注1)	t_{OSS}	$t_{SCY}/2 - 3x - 45$	−	0 (注 2)	−	
SCLK 立ち上がり/立ち下がり(注1) → OutputData 保持	t_{OHS}	$t_{SCY}/2$	−	120	−	

注 1) SCLK 立ち上がり/立ち下がり SCLK 立ち上がりモードの場合は SCLK 立ち上がり、SCLK 立ち下がりモードの場合は SCLK 立ち下がりのタイミングです。

注 2) 計算値がマイナスにならない範囲の SCLK 周期で使用して下さい。

注 3) t_{OSS} がマイナスにならない最小値を示しています。

(2)　SCLK 出力モード

項目	記号	計算式		40 MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	
SCLK 周期(プログラマブル)	t_{SCY}	2x	−	100	−	ns
Output Data ← SCLK 立ち上がり	t_{OSS}	t_{SCY}/2 − 30	−	20	−	
SCLK 立ち上がり→ Output Data 保持	t_{OHS}	t_{SCY}/2 − 30	−	20	−	
有効 Data 入力 ← SCLK 立ち上がり	t_{SRD}	45	−	45	−	
SCLK 立ち上がり→ Input Data 保持	t_{HSR}	0	−	0	−	

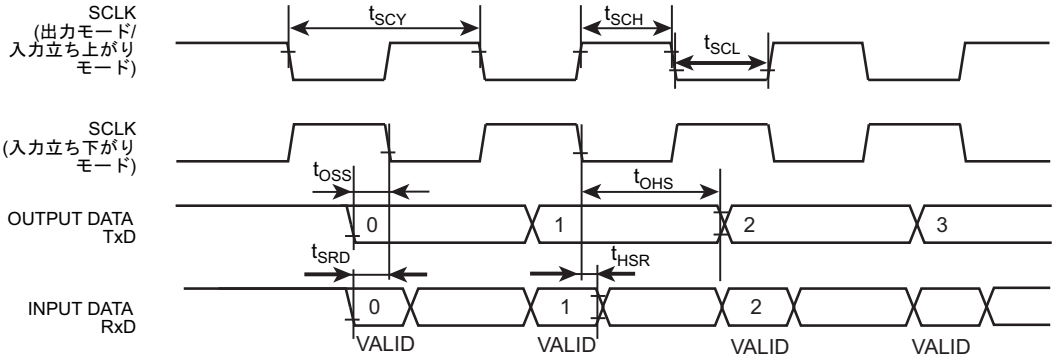


図 26-1 シリアルチャネルタイミング(SIO)

26.7.3　シリアルバスインタフェース (I2C/SIO)

26.7.3.1　I2C モード

表中の x は I2C の動作クロックの周期を表します。I2C の動作クロックは、システムクロック fsys と同じ周期です。この周期は、クロックギアの設定に依存します。

n は SBIxCR<SCK>で指定した SCL 出力クロックの周波数選択値です。

項目	記号	計算式		標準モード		ファーストモード		単位
		Min	Max	Min	Max	Min	Max	
SCL クロック周波数	t_{SCL}	0	−	0	100	0	400	kHz
スタートコンディション保持	$t_{HD;\ STA}$	−	−	4.0	−	0.6	−	μs
SCL クロック Low 幅(入力) (注 1)	t_{LOW}	−	−	4.7	−	1.3	−	μs
SCL クロック High 幅(入力) (注 2)	t_{HIGH}	−	−	4.0	−	0.6	−	μs
再スタートコンディション セットアップ時間	$t_{SU;\ STA}$	(注 5)	−	4.7	−	0.6	−	μs
データ保持時間(入力) (注 3, 4)	$t_{HD;\ DAT}$	−	−	0.0	−	0.0	−	μs
データセットアップ時間	$t_{SU;\ DAT}$	−	−	250	−	100	−	ns
ストップコンディションセットアップ時間	$t_{SU;\ STO}$	−	−	4.0	−	0.6	−	μs
ストップコンディションとスタート コンディション間のバスフリー時間	t_{BUF}	(注 5)	−	4.7	−	1.3	−	μs

注 1)　SCL クロック LOW 幅(出力): $(2^{n-1} + 58)/x$

注 2)　SCL クロック HIGH 幅(出力): $(2^{n-1} + 14)/x$

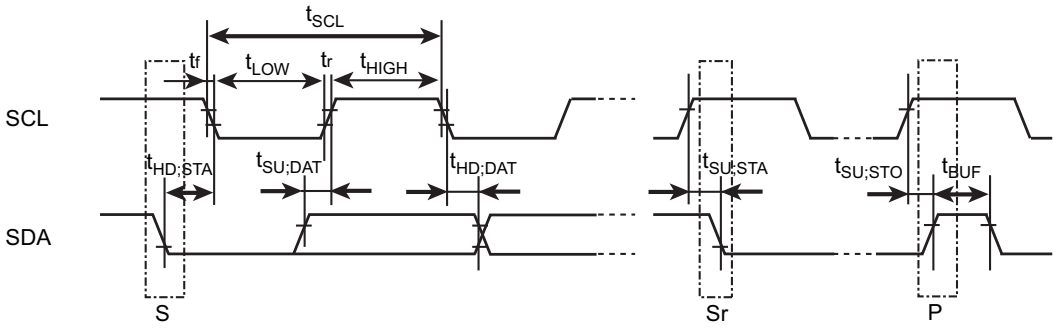
通信規格上、標準モード/高速モードの最高速は 100 kHz/400 kHz です。内部 SCL クロックの周波数の設定は、使用される fsys と上記注 1,注 2 の計算式にて設定されますのでご注意願います。

注 3) データ保持時間(出力)は内部 SCL から 4x の時間です。

注 4) フィリップススペックでは内部で、SDA 入力時にデータホールド300ns を確保して SCL 立ち下がり時の不安定状態を回避することになっていますが、本製品では対応していません。また SCL のエッジスロープコントロール機能を持っていません。従って、SCL／SDA の tr/tf を含めて BUS 上で上表のデータ保持時間(入力)を守るように設計してください。

注 5) ソフトウエアに依存します。

注 6) フィリップススペックでは、ファーストモードデバイスへの電源供給が切れた場合、バスラインを妨げることがないように SDA および SCL 信号の I/O ピンと電源との接続が外れるようにする必要がありますが、本デバイスでは対応していません。



S: スタートコンディション
Sr: 再スタートコンディション
P: ストップコンディション

図 26-2 シリアルバスのタイミング(I2C)

26.7.4　イベントカウンタ

x は TMRB の動作クロックの周期を表します。TMRB の動作クロックは、システムクロック fsys と同じ周期です。この周期は、クロックギアの設定に依存します。

項目	記号	計算式		40 MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	
クロック低レベルパルス幅	t_{VCKL}	2x + 100	−	150	−	ns
クロック高レベルパルス幅	t_{VCKH}	2x + 100	−	150	−	ns

26.7.5　キャプチャ

x は TMRB の動作クロックの周期を表します。TMRB の動作クロックは、システムクロック fsys と同じ周期です。この周期は、クロックギアの設定に依存します。

項目	記号	計算式		40 MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	
低レベルパルス幅	t_{CPL}	2x + 100	−	150	−	ns
高レベルパルス幅	t_{CPH}	2x + 100	−	150	−	ns

26.7.6　外部割り込み

表中の x はシステムクロック fsys の周期を表します。

1. STOP 解除割り込み以外

項目	記号	計算式		40 MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	
INT6,7,C 低レベルパルス幅	t_{INTAL}	x + 100	−	125	−	ns
INT6,7,C 高レベルパルス幅	t_{INTAH}	x + 100	−	125	−	ns

2. STOP 解除割り込み

項目	記号	計算式		40 MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	
INT6,7,C 低レベルパルス幅	t_{INTBL}	100	−	100	−	ns
INT6,7,C 高レベルパルス幅	t_{INTBH}	100	−	100	−	ns

26.7.7 デバッグ通信

26.7.7.1 AC 測定条件

- 出力レベル: High = 0.7 × DVDD5, Low = 0.3 × DVDD5
- 負荷容量: TRACECLK CL = 25pF、TRACEDATA CL = 20pF

26.7.7.2 SWD インタフェース

項目	記号	Min	Max	単位
CLK 周期	T_{dck}	100	−	ns
CLK 立ち上がり → 出力データ保持	T_{d1}	4	−	
CLK 立ち上がり → 出力データ有効	T_{d2}	−	45	
入力データ有効 → CLK 立上がり	T_{ds}	20	−	
CLK 立ち上がり → 入力データ保持	T_{dh}	15	−	

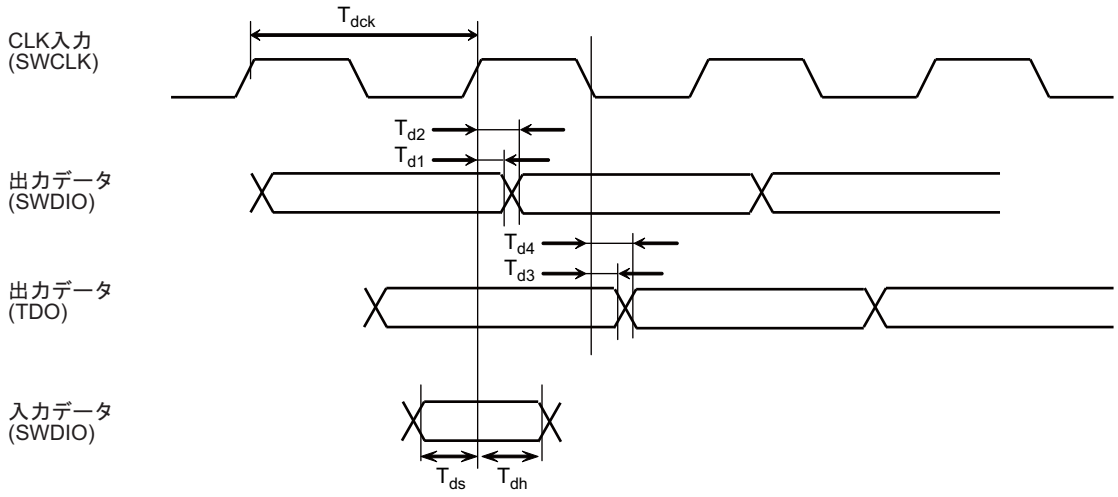


図 26-3 SWDインターフェイスのタイミング

26.7.8　Flash 特性

項目	条件	Min	Typ.	Max	単位
フラッシュメモリ 書き換え保証回数	Ta = 0 ~ 70°C VDD5 = AVDD5 = 4.5 ~ 5.0	−	−	100	回

26.7.9　内蔵発振回路特性

項目	記号	条件	Min	Typ.	Max	単位
発振周波数	fosc2	Ta = −40 ~ 85°C	9.4	9.7	10	MHz

注)　工場出荷時の値です。

26.7.10　外部発振子

項目	記号	条件	PLL 逓倍	Min	Typ.	Max	単位
高周波発振	fosc1	Ta = −40 ~ 85°C	4	9.9	10	10.1	MHz

26.8 発振回路

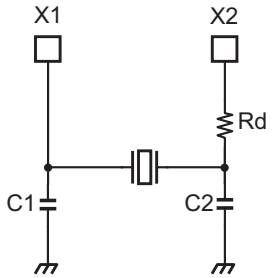


図 26-4 高周波発振回路例

注) 発振の安定には、発振子の位置、負荷容量を適切にする必要があります。これらは基板パターンにより大きな影響を受けます。安定した発振を得るため、ご使用される基板での評価をされるようお願いいたします。

本製品は、下記のメーカーの発振子を用いて評価しています。発振回路設計時に発振子の選択に活用願います。

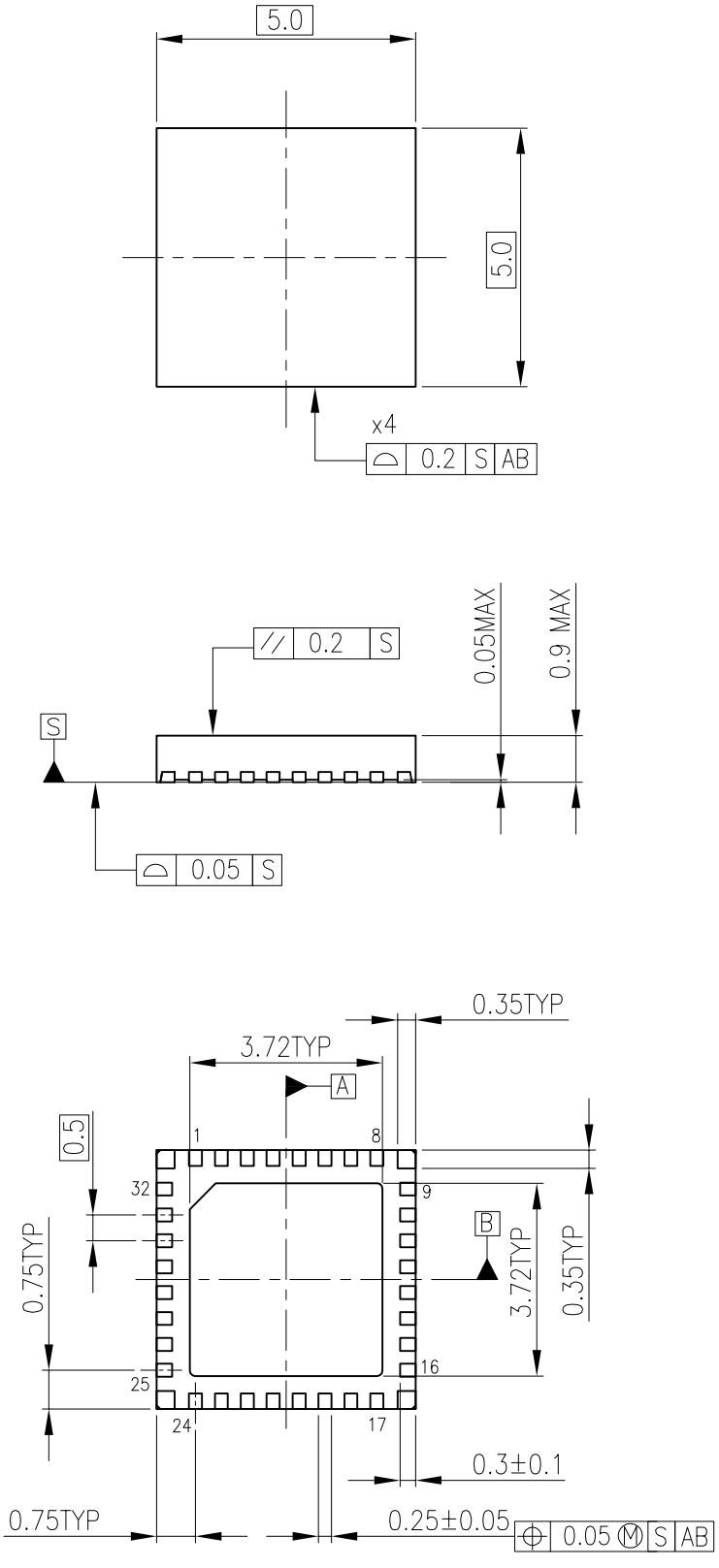
26.8.1 セラミック発振子

本製品は(株)村田製作所製セラミック発振子を用いて評価しています。

(株)村田製作所の製品詳細につきましては、同社ホームページを参照してください。

第 27 章　パッケージ寸法図

P-VQFN32-0505-0.50-003 "Unit:mm"



使用上のご注意およびお願い事項

使用上の注意事項

(1) 絶対最大定格は複数の定格の、どの一つの値も瞬時たりとも超えてはならない規格です。
複数の定格のいずれに対しても超えることができません。
絶対最大定格を超えると破壊、損傷および劣化の原因となり、破裂・燃焼による傷害を負うことがあります。

(2) 過電流の発生やIC の故障の場合に大電流が流れ続けないように、適切な電源ヒューズを使用してください。
IC は絶対最大定格を超えた使い方、誤った配線、および配線や負荷から誘起される異常パルスノイズなどが原因で破壊することがあり、この結果、IC に大電流が流れ続けることで、発煙・発火に至ることがあります。破壊における大電流の流出入を想定し、影響を最小限にするため、ヒューズの容量や溶断時間、挿入回路位置などの適切な設定が必要となります。

(3) モータの駆動など、コイルのような誘導性負荷がある場合、ON 時の突入電流やOFF 時の逆起電力による負極性の電流に起因するデバイスの誤動作あるいは破壊を防止するための保護回路を接続してください。
IC が破壊した場合、傷害を負ったり発煙・発火に至ることがあります。
保護機能が内蔵されているIC には、安定した電源を使用してください。電源が不安定な場合、保護機能が動作せず、IC が破壊することがあります。IC の破壊により、傷害を負ったり発煙・発火に至ることがあります。

(4) デバイスの逆差し、差し違い、または電源のプラスとマイナスの逆接続はしないでください。

電流や消費電力が絶対最大定格を超え、破壊、損傷および劣化の原因になるだけでなく、破裂・燃焼により傷害を負うことがあります。なお、逆差しおよび差し違いのままで通電したデバイスは使用しないでください。
また、出力間ショートおよび、出力の天絡、地絡、隣接ピンショート時にIC の破壊、発煙、発火しますので、端子間がショートしないように基板のレイアウト設計は注意してください。特に、高電圧、高電流となる、VM, VINREG5, DVDD5, AVDD5, UH, UL, VH, VL, WH, WL, VREG, VOUT3, VOUT15, DVSS, AVSS および GND ラインの設計は十分注意してください。

製品取り扱い上のお願い

株式会社東芝およびその子会社ならびに関係会社を以下「当社」といいます。
本資料に掲載されているハードウエア、ソフトウエアおよびシステムを以下「本製品」といいます。

- 本製品に関する情報等、本資料の掲載内容は、技術の進歩などにより予告なしに変更されることがあります。
- 文書による当社の事前の承諾なしに本資料の転載複製を禁じます。また、文書による当社の事前の承諾を得て本資料を転載複製する場合でも、記載内容に一切変更を加えたり、削除したりしないでください。
- 当社は品質、信頼性の向上に努めていますが、半導体・ストレージ製品は一般に誤作動または故障する場合があります。本製品をご使用頂く場合は、本製品の誤作動や故障により生命・身体・財産が侵害されることのないように、お客様の責任において、お客様のハードウエア・ソフトウエア・システムに必要な安全設計を行うことをお願いします。なお、設計および使用に際しては、本製品に関する最新の情報（本資料、仕様書、データシート、アプリケーションノート、半導体信頼性ハンドブックなど）および本製品が使用される機器の取扱説明書、操作説明書などをご確認の上、これに従ってください。また、上記資料などに記載の製品データ、図、表などに示す技術的な内容、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例などの情報を使用する場合は、お客様の製品単独およびシステム全体で十分に評価し、お客様の責任において適用可否を判断してください。
- 本製品は、特別に高い品質・信頼性が要求され、またはその故障や誤作動が生命・身体に危害を及ぼす恐れ、膨大な財産損害を引き起こす恐れ、もしくは社会に深刻な影響を及ぼす恐れのある機器（以下“特定用途”という）に使用されることは意図されていませんし、保証もされていません。特定用途には原子力関連機器、航空・宇宙機器、医療機器（ヘルスケア除く）、車載・輸送機器、列車・船舶機器、交通信号機器、燃焼・爆発制御機器、各種安全関連機器、昇降機器、発電関連機器などが含まれますが、本資料に個別に記載する用途は除きます。特定用途に使用された場合には、当社は一切の責任を負いません。なお、詳細は当社営業窓口まで、または当社Webサイトのお問い合わせフォームからお問い合わせください。
- 本製品を分解、解析、リバースエンジニアリング、改造、改変、翻案、複製等しないでください。
- 本製品を、国内外の法令、規則及び命令により、製造、使用、販売を禁止されている製品に使用することはできません。
- 本資料に掲載してある技術情報は、製品の代表的動作・応用を説明するためのもので、その使用に際して当社及び第三者の知的財産権その他の権利に対する保証または実施権の許諾を行うものではありません。
- 別途、書面による契約またはお客様と当社が合意した仕様書がない限り、当社は、本製品および技術情報に関して、明示的にも黙示的にも一切の保証（機能動作の保証、商品性の保証、特定目的への合致の保証、情報の正確性の保証、第三者の権利の非侵害保証を含むがこれに限らない。）をしておりません。
- 本製品、または本資料に掲載されている技術情報を、大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的、あるいはその他軍事用途の目的で使用しないでください。また、輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」、「米国輸出管理規則」等、適用ある輸出関連法令を遵守し、それらの定めるところにより必要な手続を行ってください。
- 本製品のRoHS適合性など、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問い合わせください。本製品のご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制するRoHS指令等、適用ある環境関連法令を十分調査の上、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いかねます。